社会言語科学会
第 42 回大会発表論文集

2018 年 9 月 22 日(土)･23 日(日)

広島大学

2018

社会言語科学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SOCIOLINGUISTIC SCIENCES

目　次

【Ⅰ】研究発表（口頭発表），招待発表 2

【Ⅱ】研究発表（ポスター発表） 129

【Ⅲ】ワークショップ

ワークショップ 1 227

会話データ分析の教育者・研究者による語りから広げる研究と実践の視野

―グループ・ディスカッションを通して―

ワークショップ 2 236

省略現象から見えてくること

―「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語―

ワークショップ 3 246

相互行為における指さしの多様性

―会話分析の視点から―

ワークショップ 4 256

会話分析をどう学ぶか

【Ⅳ】招待講演

招待講演 264

言語行為への言語学的接近

―権利・きもち・非流ちょう性・面白さをめぐって―

【Ⅴ】JASS カフェ

JASS カフェ 266

【Ⅵ】付録

学会誌『社会言語科学』特集論文募集のお知らせ 267

学会誌『社会言語科学』投稿規定・執筆要項（日本語・英語） 269

企業広告

岩波書店

公益財団法人　博報児童教育振興会

ひつじ書房

1. 本発表論文集（電子版）に掲載された論文等は，本学会が電子化，または複製の形態などで公開・配布することについて，著作者から承諾を得ています．
2. 本発表論文集（電子版）の掲載は，2018 年 8 月 24 日現在のプログラムを反映しています．実際のプログラム（キャンセル情報を含む）については学会ホームページ（http://www.jass.ne.jp/）をご覧ください．

日常会話にみられる類像化作用

－自己の否定的側面に関するスタンス表出の語りから－

合﨑　京子（立教大学/日本学術振興会）

1. はじめに

本研究は，他者と共有し難い経験を持つ人が，日常会話で自己の否定的な経験を語るときの形式に注目し，その中で「類像化作用（iconization）」（Silverstein, 1993）がどのように機能しているか，考察を行うものである．我々のコミュニケーションを取り囲むコンテクストは無限にあるものの，実際日常会話を解釈するために参照するコンテクストにはある程度まとまりやつながりがあり，そのまとまりやつながりを生み出している原理が類像化作用であると言われている（小山，2008）．その形式の代表例が反復であるが，言語や非言語行為の反復を用いることによって，出来事が起こっている「今ここ」の場に近接していない不在の事物やコンテクストをも指示しうる（ibid.）．この作用は「詩的機能（poetic function）」（Jakobson, 1960）とほぼ同義であることからも示唆されるとおり，詩などの韻文に顕著であるが，日常会話においても，会話分析の隣接ペア概念[1]のように，会話の社会行為的な性格の形成に寄与する効果がある．本研究では，語り手が会話で自らの否定的側面及び，その側面に対峙する自らのスタンスをいかに他者に表現するか，その描写をとおし，そこに立ち現れる日常会話上の類像化作用について分析を行う．

2. 事例分析

分析対象とするのは，3 人の異なる初対面の定型発達者に，自閉症スペクトラムを持つ成人（以下，ASD 者）の C が幼少期の辛い経験を語る場面である．自閉症スペクトラムの症状は先天的なものであるが，知的遅れのない成人が症状当事者であった場合，直截的には可視化されにくく，家族であってもその症状特性の理解に支障をきたすことがままある．以上から示唆されるとおり，ASD 者が，自身の属性や社会的背景に関する情報をほとんど共有しない初対面の相手に，その症状及び症状に対峙する自らのスタンスを描写することは容易ではない．

本発表では，ASD 者が自らの症状特性を描写した箇所の音韻，イントネーション，語彙といった言語・パラ言語に焦点を当て，①詩的機能の特徴である反復構造，② i)過去の自己感情の述定と ii）現在のそれについての述定，i)と ii)との間にみられる対照ペア[2]，そして③各々の語りで用いられた引用形式，以上に着目し日常会話において C が自己特性に対する自らのスタンスを呈示する際，いかに類像化作用が機能しているか分析を行った．尚，行頭の数字は各会話全体をとおし，1 から振った番号である．

2.1　社会文化的に流布したフレーズを利用した反復構造

1 回目の収録会話は，同じ就労支援作業所に通所するものの面識はほぼない T（男性）との会話である[3]．以下で両者は「会社の上司や同僚に対する不満」についてのやりとりを交わしている．以下，すべての断片においてトランスクリプト赤字箇所が，分析対象とする，C による自己の生きづらさについての語りの部分である．

＜断片 1＞
119 C: あの>誰かできないこととか困ったこととかあって<も: ， それ(.)をその:あい(.)てに責任を転嫁するというか， こう:(1.5)
そういうことが>ちょっと<に↑がて:えなんです< なの[でちょっと悪口というのは，ちょっとあまり
あの(.)>いえ!とい-いわれてちょ-ちょっとすぐ出てこないんです． (0.7)
120 T: はい.=
121 C: =>はいすいませんはい<(hhhhh)((鼻息))
122 T: (.)うん責任感が強いんですね
123 C: せ↑きにん感が強い， う:んそう.nn いう言い方もあるのかもしれないんです>けれども<，
: なんか#-こうとにかくあの::たとえて言うとあの
⇒124 **>電信柱が高いのも: 郵便ポストが赤いのも**
みんな私が悪いと． <そう[(.)いう刷り)込みを受けているので(0.6)
125 C: あの(1.0) <(s)たぶんあの(0.8)↑定型の発達の人<だったら:¿>[なに-なにかそこで>そ-そ-そ->外の世界に:<影響を受けて:¿，
: 別にその:みんな私が悪いというわけではないと.いう風な(.)° この° 考えに修正がしやすかったと思うんですが<
126 T: (.)((咳をする))はい.=
127 C: =その:発達に障害があるので:¿あの:，<そう(.)いう思い込みからどうものがれられない>ところが<ある， え:>あ り↑ます< (0.6)
128 T: う:ん
129 C: はい↑

---

[1] 隣接ペアとは，例えば「挨拶ー挨拶」といった定型・同型の反復である．

[2] 対照ペアとは，例えば「昔々あるところにおじいさんとおばあさんがいました．おじいさんは山へ芝刈りに，おばあさんは川へ洗濯に行きました」といった文章における，「おじいさん／おばあさん」や「山／川」，「芝刈り／洗濯」などの対照関係，すなわち排他的対立を特徴とするペアのことである．

[3] 1 回目の収録は 2013 年 11 月に行った．

130 T: (.)う:ん
131 C: はい
: (hhhhhh) (4.0)
132 T: う:ん
133 C: はい
⇒ 134 T: まあ二次障害という[か <Cのスタンスに対する理解>
135 C: [二次障害的なはいとこです

ここでCが用いた「電信柱が高いのも郵便ポストが赤いのもみんな私が悪い」というフレーズは落語家である4代目柳亭痴楽の「綴り方狂室」という落語の都々逸（どどいつ）が元ネタだと思われ，その後も企業の不祥事における責任者の謝罪会見や，テレビのお笑いのネタなど様々な場面で使用される一節である．

このフレーズの反復構造をみていくと，「電信柱」という普通名詞に続き，主格を示す助詞の「が」，そして形容詞「高い」と，取り立て詞の「のも」という連なりが確認できるが，この文法構造は続く「郵便ポストが赤いのも」でも同じ形態を成しており，（文法的に）同一形式の節が繰り返されている．後半部分では，前半のくだりの名詞及び形容詞は他の語彙に置換されているものの，助詞部分においては同一の語彙が用いられており，各節間の形式にも繰り返しがみられる．音韻面に目を向けると，同一助詞が用いられていることに加え，「い」で終わる形容詞の反復されることにより脚韻が複数回踏まれている．加えてパラ言語的にもこの語り部分のみ，前後の発話よりも速度が上がっており，言い淀みの多いCの発話の中で，より明瞭な輪郭を持つものとなっていることがうかがえる．

1回目の会話から約5か月後，Cと大学院生M（女性）との会話収録を行った．以下でCは，自らの幼少期には発達障害の認知度が低かったため，自分の特性に対する周囲の理解が得られなかったことを話している．

<断片2-1>
372 C: はい知見-知能の低い子にしか，出ないものとされてい↑た:ので::で-，そういうしょ-あの::明らかに発達障害だろっていう症状，があって↑も
それをス↑ルーされて::え::いたんです．
373 M: あ::ほんとに
374 C: はい，↑で，まあそのすごいそのこだ-<こだわりが強い>であるとかそのそういったことは全部↑わがままという言葉で処理をされて:(0.9)
⇒ 375 C: なんでしょうこう::す-あの::すごいこう::抑圧的という↑か:あの::自罰内罰的というか，
あの↑とにかくその私がわがままで私がみんな悪いので::あの::私が↑我慢をすれば
それで済むん-あの::>それであの:<まああの場が↑済むんだと，↑いうような:>育ち方をしました．<
376 M:° なるほど°
377 C: はい
378 M: 結構(0.7)つらいというか
379 C: ま↑そう，ですね::
380 M: （・・・）ですよね
381 C: あはい，その::，何もかもこの世の全ての(こと)は自分が悪いと，思っていたとき↑は::，まあ，つら(.)かっ(.)たようなえ::記憶↑>がありますく．
382 M:° あそうなんですね <Cのスタンスに対する共感>

375行目からのCの語りは，その前に述べた，幼少期に周囲から自分の生得的特性について理解を得られなかったことに対する具体的説明である．この語りで選択された語彙をみてみると，冒頭では「こう」という，言葉で描写し難い事柄の代替表現の繰り返しが起きている．本題に入る以前の前置き部分上でのこのような語り難さを示す語の反復により，これから語られる内容が深刻なものであることが強調され，ここまでの話題とは一線を画したものであることが前景化される．これに続いて本題が語られるのであるが，ここで選択された一連の語彙は「こだわりの強さ／抑圧的／自罰内罰的／わがまま」といういずれも否定的様態表現である．否定的な言及指示的意味を持つ語彙が4回も連なることによって，語彙間に結束性・一貫性が伴うこととなり，それぞれの語彙が持つ言及指示的意味以上の悲壮感が創出されている．

次に「私が」というC自身を指す一人称代名詞が3回反復される．こういった省略可能な代名詞が繰り返されることによって，「私」という代名詞が指し示す人物，すなわちCが，その前に語った否定的様態の根幹となる人物であることがより鮮明になる．このようなCの自虐的自己認識は「それで済む」という自分が責めを負うことで物事が円滑に進むさまを表す語彙が反復されることによって，一層際立ちをみせる．

また，前の断片同様，音韻的にも「〜的」という接尾辞や，接続詞のように用いられている「というか」「抑圧，自罰，内罰」という脚韻を踏んでいることに注意されたい．この脚韻の踏みには（破裂音の強い）子音が連なっており，聴覚的な反復効果においてもこの語りの印象を強化していることが示唆される．

<断片2-2>
（断片2-1の後，Cの幼少期の否定的な自己感情を語る．その中で話題の中で徐々に現在の心境に触れる言葉が出始めた場面が以下である）
461 M: ↑今は何か変わりましたか？
462 C: ↑え:(0.5)ま↑さっき言ったようにま考え方を変えるようにしたの↑で:
463 M: はい
464 C: その:: (2.0)
⇒465 C: 私がその:: ごはん，を求めるのも::あの，↑呼吸をするのも，あの:: ↑排泄物を出すのも::
あの>みんな私が生きているせいで私が悪い<，と↑いう考え方をやめ↑て：
あの私のせいではないの↑で:あの:あまり↑気にならないようにしようと．

466 M: うん
467 C: うん,それはまああの,私を作った人（たち）の責任↑である,というふうに,あの::考えるようにしたの↑で:, ↑まあ,そういうとこではまあ気が,楽というか,↑あまりこう何もかもあの責任を:>自分に求めないようになりました<.
468 M:↑するとやっぱり周りの人との関係なんかもかわりますか？(0.6)
469 C:↑そうです↑ね:

断片 2-1 では，自らの自虐的局面を述定していたＣであるが，やりとりの最後では「辛かったような記憶がある」と述べ，今・ここの自分は，自虐的感情を過去のものと捉えていることもほのめかす．それに続けて現在の心境を語るのが上の断片 2-2 である．この語り冒頭の文法構造に目を向けると＜名詞＋を＞＋＜動詞＋のも＞の反復が３回続く．助詞「のも」の繰り返しによって並列構造を形成する形式は，前の２つの語りと断片と類似している．また，ここでも前断片同様，省略可能な「私が」という一人称代名詞と，主格を示す助詞の「が」を反復し，次に来る語彙の責任主体が自らにあることを強調した上で「みんな私が悪い」を後続しており，この形式もまた，全断片の語りの形式を繰り返しであることがうかがえる．加えてあらゆる世の中の否定的事象の要素を立て続けに並置するさまは「私が悪い」ことに該当する事態の多さを暗示，森羅万象，世の中のあらゆることは自分のせいであるという認識を前面に押しており，以上の点において前断片の構造を，（談話という単位の時空を超越し）反復していると言えるだろう．

だが，これまでの断片では，自虐的表現で完結していたにも関わらず，本断片はそれにとどまっていないことに注目したい．続けてＣは，「という考え方をやめて」と，それまで述べてきた心情が今とは異なることを呈示したうえで，話題展開の切り替えを図り，（一人称代名詞の「私」を使用しているものの）今度は責任の所在は自分にないことを「せいではない」と過去の心情と異なるものであることも併せて明示しているのである．これらを踏まえ，以下の３回目の収録断片をみてみたい．

３回目の収録会話は２回目の収録と同日に行った．対話者Ｋは社会人１年目の女性である．以下は両者ともに人付き合いが苦手であるという認識を共有したあと，その苦手さがどのようなものであるかを，ＣがＫに語る場面である．

＜断片 3＞
267 C:で今はその:: ↑人:(0.3)付き合いが苦手であるという事実を踏まえ↑て, まひと-ひ-他の人と,コミュニケーションを,とるように,え::なりました.
268 K:あ::(1.1)あじゃそれ↑は:まだちょ-ちょっとはこう心が落ち着いたって言えるのかもしれない
269 C:↑そう,ですねはい.
270 K:うん(1.4)
271 C:それた-たとえて言うと:あの::(1.9)う::ん(.)た-↑たとえとしてはあまりよくないと思うんですが:
⇒272 C:たとえば足と手がない(0.4)ことに:気づかなく↑て:
↑なんで私は早く走れないんだろう:, ↑あれが掴めないんだろう:,みたいなことをずっと:(0.3)思ってい↑て:
↑で>大人になってその原因↑がその:物理的にないもののせいだと,いう:ことに↑気がついて::
んで,その::(1.2)車いすに乗ろうとか,ま義手,や義足を使おうとか,なっているようなそういう感じです.
273 K:↑あ:(1.2)
274 C:hs-そう,多分て-手足がないよりはｎみ↑耳が聞こえない人,でたとえた方がよりわかりやすいかな:と,え::思います
⇒275 K:じゃその自分がちょっと苦手だったもの↑をい-,なんだ,ちょっとこう別のもので補っていく[とか <Ｃのスタンスに対する理解>
276 C: [↑あはい,そう,そういう感じです.

断片 2-2 では，語られる内容の後半部分に変化がみられた．だがやはり（断片 2-2 の）会話直後に収録したこの会話でも，前半では否定的なＣの幼少期の心情は変わらず語られ続けた．具体的には，これまでの語りと同じく，否定的要素を繰り返し（「走れないんだろう」，「掴めないんだろう」），それらが自分に起因することを（この断片では反復こそないものの）一人称代名詞で呈示している．だが，後半では，断片 2-2 と同様，過去の心境と現在の自分との差異化を図る，といった内容に変化している．そのことは「（それ）で大人になって」という時制の転移を明示的に示していることに裏付けられる．これ以降の語りでは＜手足が不自由な人が用いる道具＋～しよう＞という形式が反復されているのだが，ここで注目したいのは，今の心境についての述定においては「何らかの試みを実行しよう」という前向きな表現の繰り返しに置き換えられており，断片１とは異なった語りの様相へと変化がみられる点である．

2.2 対照ペアに具現化するあのとき・あの場所 vs. 今・ここ

ここまでＣの語りで反復構造がどのように用いられているかみてきた．特に２回目の会話までは，否定的様態を示す語彙の連鎖，そしてそれらの帰属するものがＣ自身であることを明瞭に指し示す形式が，繰り返し産出されていた．だが，２回目の後半の断片以降，その構造を一程度保ちつつも，それに付与するかたちで，Ｃの現在の心境までをもが語られている．このような過去の自分の心境に対する語りと，現在の自分の心境の語りとの間にどのような関係性がみられるか，本節でより詳しく述べていく．

今一度，断片 2-1 を想起されたい．この断片のＣの語りの前半，幼少期の自分の心情を語る箇所でＣは「（私が）悪い」という自己責任を追及する語彙を選択していた．一方後半では「（私の）せいではない」という，自己責任の放棄を示す語彙を使用している．つまり，両者の言及指示的意味は＜悪い vs. せいではない＞という対照ペアを成している．さらに

この対照性がより明瞭になるのが，断片3である．ここでは，幼少期の感情を語る上で，ほとんどの人々に生得的に備わっている「手・足」が不自由であったことを比喩的に語っているが，後半部，今の心情についての語りでは「義手・義足」という人工物に置き換わっている．ここには＜生得的 vs. 人工的＞という対照ペアが浮かび上がる．また，過去のCの心境は，「なぜ自分にはできないのか」という悲観を如実に示すものであったが，＜今＞の自分の心境を語る場面では「～しよう」という前向きな表現が使用されており，＜否定的 vs. 前向き＞という対照ペアもみられる．以上に述べてきた各対照ペアからは，Cの過去のスタンスと現在のスタンスとの間の対照ペア，すなわちC自らの，生きづらさに対する＜過去＞のスタンスが否定的であった一方，＜現在＞のスタンスは（できないことは認めながらも）前向きなスタンスになっているという，＜過去vs. 現在＞のスタンス間における対照ペアまでをもが明瞭に浮かび上がるのである．

2.3 「引用」類像構造の変容にみられるCのスタンス

ここで，Cが各会話で用いていた引用表現に注目したい．断片1でCは，世間に流布し，一般的に耳馴染みのあるフレーズを「生きづらさ」を表現するために利用していた．Bakhtin（1981）は，（自分の発話は）自分の所属するコミュニティの過去の他者がその文化の中で口にした言葉の繰り返しであるというマクロレヴェルの「引用」を論じたが，この断片におけるCの語りはこの思想が具現化されたものとも言えるだろう．一方，今回取り上げた事例会話内という，よりミクロなレヴェルにおける引用については以下のことが指摘できる．断片1の「刷り込みを受けているので」，断片2-1の「というような育ち方をした」という表現からは（その前に述べたことが）＜自分以外の他者（おそらく保護者）＞による発話・行為の引用であったことを示している．さらに断片2-2の「という考え方をやめて」，断片3の「思っていて」は，＜過去の自らの声＞の引用であり，過去のCという，現在とは別人格を持った他者の言葉であることを明示している．こういった言葉による呈示以外にも，引用箇所の開始部・終結部では若干のポーズが入ったり，引用部の発話速度が速くなったりしており，以上のようなパラ言語的な側面も，これらの引用部分とその前後の発話との差異化に貢献している．こういった引用も含め，上述してきた反復，対照ペアによる類像化作用が，Cの，過去の自分のスタンスと，現在のそれと明確に分けることに貢献したことは，後続するやりとりで3人の対話者いずれもが，Cの生きづらさについて一定の理解を示していること（トランスクリプト内緑字部分）にも示唆される．

3. 考察

本研究で取り上げたASD者は，自己の否定的な経験を語る際，1回目の会話では，自らの生きる社会文化に根付いたフレーズをほぼそのまま引用する形で，自らの症状に対する過去のスタンスを示していた．また2回目，3回目以降の語りにおいても，初回の語りの脚韻などの音の反復や句の反復などと，部分的に同様の形式を用いており，以上からは，1回の会話という単位を超越した，複数の会話にまたがる形式的類像性も観察された．さらに，この会話収録語，各対話者にフォローアップインタビューを行ったが，そのコメント[4]において（当該のCの語りの部分に）それまでの会話とは異なった独特の雰囲気を感じていたことを示唆する内容が述べられたことからは，他の会話場面からこの語りを浮き立たせる異化作用も働いている可能性も認められた．本研究からは，Cが意識的・無意識的に用いた類像化作用は，初対面の他者にも社会文化的に認知可能なスタンスを示すことを可能にしていることが示唆される．加えてこの類像化作用は「今・ここ」の自分と「あのとき・あの場所」の自分のスタンスの差異を鮮明に浮かび上がらせることにも寄与していることにも留意されたい．

本研究で取り上げたCの会話は研究者がデータ収録した少数の会話でしかないが，これらの語りからは，類像化作用が言語化しにくい事象に対する話者のスタンスを示すことに，また聞き手の理解を促進することに貢献していることが考察される．

謝辞：本研究はJSPS KAKENHI Grant Number 18J12417の助成を受けて行われました．心より御礼申し上げます．

4. 参考文献

Bakhtin, M. M (1981). Discourse in the Novel. In M. Holquist (Ed.), *The dialogic imagination* (pp. 259-422). Austin, TX: University of Texas Press.

Jakobson, R. (1960). Linguistics and poetics. In T. A. Sebeok (Ed.), *Style in language*, (pp. 350-377). Cambridge, MA: MIT Press.

小山亘 (2008). 『記号の系譜：社会記号論系言語人類学の射程』三元社.

Silverstein, M. (1993). Metapragmatic discourse and metapragmatic function. In J. A. Lucy (Ed.), *Reflexive language: Reported speech and metapragmatics*, (pp. 33-58). Cambridge, UK: Cambridge University press.

連絡先：aizaki@rikkyo.ac.jp

[4] 紙幅の都合上，インタビューの詳細は割愛するが，一例としてはMが「フォローアップインタビューで対話者たちが「他のやりとりと (C) のモードが違うことを感じた」と述べたことが挙げられる．

自閉症スペクトラムの青年の相互行為
－療育者からの極性疑問文に対する応答能力－

細田由利(神奈川大学)　亀井恵里子(神奈川大学)　デビッド・アリン(神奈川大学)

1．はじめに

これまでの研究で相互行為的な視点から自閉症スペクトラムの人のコミュニケーションを検証することの重要性が立証されている．Maynard (2005) は自閉症の人に向けられた質問のデザインの検証を通して自閉症の人の視点を理解することの必要性を強調した.Dickerson, Rae, Stribling, and Dautenhahn (2005, p. 36) は自閉症の子供の具体的な発話を検証することは、療育者が自閉症の子供が積極的に参加できるような相互行為をデザインする際の支援となるとしている．また、Ramey and Ray (2015) は療育者側からの分析を行って療育者が自閉症の子供と会話を共同構築する際に駆使する相互行為的資源の分析の必要性を示している(Ramey & Ray, 2015)．これらの研究は療育者の質問のデザイン、自閉症の子供の応答、相互行為の進行性の相互関係を検証することの重要性を論じている。

自閉症を持つ人のコミュニケーションの特徴の一つに、エコラリアがあり、自閉症を持つ人はよく他人の直前の発話を繰り返したり（即時エコラリア）自分が以前に発話したことを繰り返したり（遅延エコラリア）する．近年多くの会話分析の手法を用いた研究が即時エコラリアと遅延エコラリアを検証しており（e.g., Gails & Knoetz, 2008; Stribling, Rae, & Dickerson, 2007; Local & Wootton, 1995; Sterponi & Shankey, 2014; Tarplee & Barrow, 1999; Wootton, 1999)、エコラリアが意味のない単なる繰り返しでなく相互行為上意味のある発話であることを立証している．しかしながら現在までに、著者が知る限りでは、日本語会話におけるエコラリアを会話分析の手法を用いて観察した研究はほとんど見当たらない．日本語は英語と文構造が大きく異なるため、エコラリア、特に他者の直前の発話の繰り返しを見る際に、英語での研究結果をそのまま参照するのでなく、日本語の文構造を考慮して検証する必要がある．

日本語は動詞や形容詞などの述部が文や句で構成された順番構成単位（TCU）の最後に来る言語であるが、さらにその後に助詞などの細かい文法的要素が付け加えられ、疑問、引用、否定などが表される (e.g., Hayashi, 2003; Tanaka, 1999)．例えば極性疑問文は英語ではたいていの場合 TCU の開始部分で文法上明らかであるが、日本語では例 (1) に見られるように TCU の最後の部分に「か」や「の」などの助詞が加えられることによって明らかになる.

(0) [作例]
ケンちゃんは今おうちにいるの？

上記例では発話順番の最後の「の」および上昇イントネーションによって疑問文であることが示されている．このような極性疑問文に対しての無標の応答は「はい（うん)」、「いいえ（ううん)」であるが、質問の述部の部分を繰り返して「いる」（またはその逆の意である「いない」）と言うことも可能である．今回のデータでは、自閉症を持つ青年、天、が極性疑問文に対して通常後者、つまり質問の述部の部分の繰り返しによって返答している様子が観察された．これらの繰り返しは他者の直前の発話の単なる繰り返しのようにも見えるが、述部の後にくる助詞を除いたりイントネーションを変えたりなどの操作が巧みにされていることがわかった.

本研究では自閉症を持つ青年が母親からの極性の質問にどのように返答するかを探究し、一見すると母親の質問の一部の単なるオウム返しのように見える応答にはその青年の巧みな相互行為能力が顕われていることを示す.

2．データ

本研究で使用したデータは合計約 230 分の 17 歳の自閉症を持つ青年「天」とその母親の自然発生的な会話である。会話は主に居間にて母親自身によって 46 回録音録画されたものである。母親はこれらの会話を録画する前に、本研究の目的への理解を示し、参加に同意した。

3．分析

分析の結果、母親は天に質問にする際に、多くの場合極性疑問文を使用して質問をしていることがわかった。極性の質問に対しては通常「はい（うん)」と「いいえ（ううん)」がタイプに合った応答とされる（Raymond, 2003)．それに対し、今回検証されたデータでは、天は母親の極性の質問に対して、母親の質問の一部を繰り返すか、決まり文句の応答を行っていることが観察された．この研究では、前者の質問の一部を繰り返す応答に焦点を当てる．しかしながら、天の応答は母親の質問の一部をそのまま繰り返したものではなく、終助詞を除いたり、語形を変化させたり、プロソディーを変えたりしたものであった。下記に例を挙げる。

(1) [ねこ公園]
01->母： あっ、ねこ公園ってあるの?
02=>天： あ- ある．
03->母： ねこ? (.) ねこ公園¿
04=>天： ねこ公園．
05 母： ふ::ん ↑えっ ↑どこにあるの?
06 (3.0)
07->母： ねんきんどうさんの近く::?
08=>天： 近く．
09 母： ふ::ん (1.8) はじめて聞いた ねこ公園．ふ::ん そうなんだ
10 (2.0)
11->母： すべり台とかある::?
12 (.)
13=>天： ある．

この断片の前に、天は母親にその日にねこ公園に行ったことを伝えた．それに対し、1行目で母親は「あっ」と言って驚きを示し、「ねこ公園ってあるの?」と言って確認要求をする．それに対し天は「うん（はい)」という無標の答でなく「ある.」と母親の質問の最後の述部の部分を繰り返して応答する．この「ある.」という答は母親の質問の繰り返しではあるが、母親の質問の最後の述部の部分「あるの?」から「の」という助詞を除き、上昇イントネーションを下降イントネーションに変化させたものである．すると母親は3行目で確認要求を繰り返すことによりさらに驚きを示す.天が「ねこ公園.」と公園の名前を再び言って確認すると、母親は「ふ::ん」と発して情報を受け止める．1.8秒の間の後、母親は「えっ」に続いて補足質問をする．Hayashi (2009)によれば、「えっ」は驚きが表されている会話環境でその前の順番で伝えられた予想外の情報を受け取ったことを示す．よってここで母親は再び驚きを示しているのである．補足質問をするにあたり、母親はここでは「どこ」という疑問詞を使用した質問形式を使用する．しかしながら6行目の沈黙で見られるように、今回検証したデータ内では、疑問詞を使った質問に対しての返答は天にとって困難であるようであった．母親は沈黙に続いて7行目で、5行目の自らの質問をデザインし直して、極性疑問文に変え「ねんきんどうさんの近く::?」と答の候補を含む確認要求の質問をする．すると天は母親の質問の最後の述部の部分の繰り返しではあるものの最後の音「く::」の延びを短くしてイントネーションも下降イントネーションに変化させて「近く.」と応答する．9行目で母親がこの情報を受け止めてこの連鎖は終了可能な点に達する．しかし母親は2秒の沈黙の後、再びこの話題に関する質問を行う．ここでも母親は「すべり台とかある::?」と極性の質問で確認要求を行い、それに対して天は「ある.」と再び質問の最後の述部の部分をプロソディーを変えた形で繰り返して応答する．

母親が質問して応答を得ることに成功した質問（1行目、3行目、7行目、11行目）は全て答の候補を質問に含んだ確認要求の形を取っていることに注目してほしい．これらは極性の質問であることから、「うん（はい)」「ううん（いいえ)」という答えが無標ではあるが、質問文の最後に位置する述部の部分を繰り返して答えることも可能であり、天の返答はすべて後者の形をとっている（2行目、4行目、8行目、13行目)．質問を確認要求の形にデザインすることにより、母親は天から応答を得やすくしていると言えるだろう．また、天は母親の質問の述部の部分をそのまま繰り返すのでなく、最後の助詞を除いたりプロソディーを変化させたりなどしている．ここから、天は質問の理解をしているだけでなく、返答というものはいかにして形づけられるべきであるかを把握していることがわかる．このことは下の例(2)で見られるように、質問が否定疑問文の形を取っていても上記と同じことが観察される．

(2) [寒くない]
01 母： 天ちゃん↑寒くな::い?
02 天： ↑寒くない.

母親は 1 行目で「天ちゃん↑寒くな::い?」と天が寒くないかどうか否定の極性疑問文で質問する．その質問に天は「↑寒くない.」と母親の質問の述部の部分をそのまま否定形で繰り返して返答する．この例だけを見ると、天は質問の述部の部分が肯定形であろうが否定形であろうが、そのまま繰り返して返答しているかのようにも思える．しかしながら次の例(3)では、天は肯定の極性質問に否定の返答をしている．

(3) [疲れてない]
01 母: 天ちゃん ちょっと疲れた::?
02 天: 疲れてない.

2 行目で天は母親の質問「天ちゃんちょっと疲れた::?」に対してこれまで観察してきた例と同様に述部を繰り返す形で返答してはいるが、この例では述部の極性を変えて「疲れてない.」と言っている．つまり天は母親の質問に含まれた述語を使用してはいるものの、その極性を肯定から否定に変化させることで返答を組み立てている．ここからわかるように、天は質問に応答する際に質問の最後に位置する述部の部分をただ自動的に繰り返すのでなく、答として適切である形に変化させて返答しているのである．

ここまでは天が極性の質問に答える際に質問の最後の部分を繰り返す例を紹介してきた．しかしながら、次の例(4)で見られるように天は時として返答に繰り返しを用いずに決まり文句を用いることもある．この抜粋では母親が天にその日に学校でやったことを尋ねている．

(4) [ランチのレシピ]
01 母: う::ん(1.0)給食の:(0.5)レシピ紹介を読む::¿
02 検索 [したの]
03 天: [がんばった]

1 行目で母親は「給食の:(0.5)レシピ紹介を読む::¿」と語尾を上げて発し、ここでこの順番は完結可能な点に至る．しかしながら母親はすぐに「検索したの」と発話を再開する．これは「読む」から「検索した」への自己修復と考えられる．母親がまだ自己修復を行っている間に天は返答を始める．このタイミングでの返答は母親の 1 行目の発話への受け答えとも 2 行目の初めの部分「検索」への受け答えともとることが可能であるが、天の受け答えのペースを考慮すると、前者であろう．ここでの天の返答は他の例に見られるような質問の一部の繰り返しではなく「がんばった」という決まり文句である．しかしながらもしここで天が 1 行目の母親の質問の最後の述部の部分を繰り返すと「読む」という妥当な答とは言えないものになってしまうことを考慮すると、このような決まり文句を使用して返答したことも納得がいく．この例から天はただ自動的に質問の一部を繰り返して返答しているのでなく、質問を随時精査し、質問文の最後の部分の繰り返しが適切な返答となりえるのかどうか判断していることがわかる．もし繰り返しによる返答が可能でないと判断した場合には、決まり文句を答として発するのであろう．

4. おわりに

本研究では自閉症を持つ青年「天」とその母親の相互行為を分析した．その相互行為の中で、天は母親の極性の質問に対して、質問の最後の述部の部分を繰り返す形で返答することが多いことがわかった．この繰り返しは質問の述部の部分のそのままの繰り返しでなく文法的にもプロソディー的にも返答として適切な形に変換されたものであることが判明した．さらに、質問の述部の部分の繰り返しが返答として適切でない場合には、繰り返しでなく決まり文句を答として発する行為も観察された．このような天の返答の仕方は、天のある一定の相互行為能力を示していると言えるだろう．このように、本研究では自閉症を持つ人の質問への返答を詳細にわたって検証することにより、その人の持つ相互行為能力を明らかにすることができることを示した．一方、今回のデータ内では母親が天の返答をスムーズに引き出すように質問をデ

ザインしていることも観察できた．母親は多くの場合、質問を答の候補を質問文の最後に含んだ極性疑問文の形にして、天が自分の質問の一部を繰り返すことで容易に返答できるようにデザインしていた．母親はおそらく、息子との長年の相互行為の中で、いかなる質問のデザインが相互行為の進行を促進するのか、自然に理解しているのであろう．よって、本研究により療育者による自閉症を持つ人への質問のデザインの重要性ということも示された．

参考文献

Dickerson, P., Rae, J., Stribling, P., & Dautenhahn, K. (2005). Autistic children's co-ordination of gaze and talk: Re-examining the 'asocial' autist. In K. Richards & P. Seedhouse (Eds.), *Applying conversation analysis* (pp. 19-37). Basingstoke: Palgrave.

Geils, C., & Knoetze, J. (2008). Conversations with Barney: A conversation analysis of interactions with a child with autism. *South African Journal of Psychology, 38*(1), 200-224.

Hayashi, M. (2009). Making a 'noticing of departure' in talk in talk: Eh-prefaced turns in Japanese conversation. *Journal of Pragmatics, 41*(10), 2100-2129.

Local, J., & Wootton, A.J. (1995). Interactional and phonetic aspects of immediate echolalia in autism: A case study. *Clinical Linguistics & Phonetics, 9*(2), 155-194.

Maynard, D. (2005). Social actions, gestalt coherence, and designations of disability: Lessons from and about autism. *Social Problems, 52*(4), 499-524.

Ramey, M., & Rae, J. (2015). Parents'resources for facilitating the activities of children with autism. In M. O'Reilly & J. N. Lester (Eds.), *The Palgrave handbook of child mental health* (pp. 459-479). UK: Palgrave Macmillan.

Raymond, G. (2003). Grammar and social organization: Yes/No interrogatives and the structure of responding. *American Sociological Review, 68*(6), 939-967.

Sterponi, L., & Shankey, J. (2014). Rethinking echolalia: repetition as interactional resource in the communication of a child with autism. *Journal of Child Language, 41*(2), 275-304.

Stribling, P., Rae, J., & Dickerson, P. (2007). Two forms of spoken repetition in a girl with autism. *Interactional Journal of Language and Communication Disorders, 42*(4), 427-444.

Tanaka, H. (1999). *Turn-taking in Japanese conversation: A study in grammar and interaction.* Amsterdam/Philadelphia, PA: John Benjamins.

Tarplee, C., & Barrow, E. (1999). Delayed echoing as an interactional resource: A case study of a three year old child on the autistic spectrum. *Clinical Linguistics and Phonetics, 13*, 449-482.

Wootton, A. J. (1999). Delayed echoing in a child with autism. *First Language, 19*, 359-381.

高齢者にできることに関する知識はいかに更新されるか

―認知症高齢者施設における利用者と職員の相互行為―

細馬宏通(滋賀県立大学)

1. はじめに

1-1. 相手には何ができるかをどう予測するか

本文中での参考文献の引用は，以下を参考に行なう．認知症高齢者施設において，職員は意識するしないにかかわらず，利用者に何ができるかを予測しながら相互行為を行っている（細馬 2016, 2017）．たとえば，「○○さん，お盆もってきて下さい」と依頼するとき，その職員は「○○さんは自分で食事の盆を洗い場まで運ぶことができる」という予測を行っていることになる（細馬他, 2010）．もし利用者が一定の環境において常に同じ能力を発揮できるのだとしたら，このやり方になんら問題はない．しかし実際には，利用者にできることは環境によって異なり，時間とともに変化していく．ある環境で立ち上がることのできなかった利用者が別の環境では立ち上がることができるようになったり，あるときには何かにつかまって歩くことができた利用者が時間の経過とともに歩けなくなる，ということが施設ではしばしば起こる．したがって，職員は利用者に対する知識を相互行為の中で更新し，予測を立て直していく必要がある．

では，利用者に対する知識は実際にどのような過程によって更新されていくのだろうか．本発表では，この問題を考えるべく，職員と高齢者の共同作業場面に注目する．共同作業では，しばしば職員と利用者とが作業役割を分担し，異なる作業を通じて一つのゴールを達成する．このような作業において，職員がどのように作業役割を組織化しようと試みるか，そしてその試みが停滞するときにどのような修復が起こるか．こうした問題を考えるために，本研究では，吊し柿の紐結びという，施設で自然に観察されるやりとりを事例分析し，高齢者と職員との相互行為を通して役割分担が更新される過程を記述する．

1-2. 短い時間の中で発話と身体動作はどう調整されるか

本発表の補助線として、コンマ秒単位で起こる発話と動作の相互行為（0.1-0.5 秒程度の単位で起こる発語と動作による相互関係），すなわちマイクロインタラクションについて記しておこう．

対象を知覚したあとそれに対してすばやい動作を行うにはおよそ 150ms かかり，意識的な気づきには 500ms かかる（Libet 2004）．さらにそれを的確に名指すにはおよそ 600ms かかり，文で説明するには 1200ms かかる（Levelt 1989）．したがって，相互行為において，相手の動作や発話が完了してから自分の動作を組み立てたのではとうてい間に合わない．このため，相互行為の当事者は相手の行為の最中にも刻々と予測を行い，相手の行為の進行とともに予測を更新していると考えられる（Levinson 2013）．しかし，実際の緊密な相互行為では，的確な発話に必要な 600ms よりも早いタイミングで相互行為の更新が行われていると思われる事例がある．では，そのようにすばやいマイクロインタラクションにおいて，当事者はどのようにお互いの行為を更新しているのあろうか．本研究では，職員と高齢者の共同作業の中でも，こうしたすばやいマイクロインタラクションに注目する．

2. 事例分析「吊し柿づくり」

【事例1：柿a】

利用者Mは台所にいる別の職員Bと干し柿の味について雑談をしているが，吊し柿の作り方については直接話していない．一方，職員 A は利用者の目の前に柿の一つをかざし，ちょっと持ち上げることで保持を誇張する動作をする．これは無言で相手の注意を惹いたり確認をとるときに典型的な動作である(Clark & Krych 2004)．M はおしゃべりを続けたままその柿を左手で受け取り，一瞬視線を向けるが、すぐに背後の職員 B の方を向き話を続けた．A は M が胸元下で保持し続けたその柿のヘタにビニル紐を結びつけた．これらの動作によって，結果的に M は保持する役割を，A は紐を結ぶ役を担ったこ

図 1　事例 1 で職員 A が柿を手渡したところ．M の視線は柿に向いていない．

とになる.

【事例2：柿b】

職員Aは第二の柿を「これももってってくれはる？」と尋ねながらMに渡した. Mはそれ以前から続いていた会話を継続しており，渡された柿については言及しないが，事例1と違い，左手で柿を受け取りながらしばらく視線を柿に向け続けた. 職員は事例1同様，ヘタに紐を結びつけたが，この間もMは視線を柿に向け続けた. また，紐結びの終了近くに「やっぱ：まあもう#ちょっと前へこう#（柿を指さす）見せてた××××」と，結ばれた柿に対して言及を行っている. このように事例2では，A:柿をかざす→M:柿を受け取る→A:保持された柿のヘタにビニル紐を結ぶ，という行程自体は事例1と同じだったものの，Mとの間で柿に対する共同注視と指さしがなされており，事例1と質的に異なっていた.

図2. 事例2でAがMに手渡した直後. Mは柿に視線を向け続けている.

【事例3：柿c】

職員Aは第3の柿をやはり「これもってってくれはる？」と差し出した. トランスクリプトを以下に示す.

01A：　Mさんこれもってって[くれはる？]
02M：　[はい，はい]#はい#　(#M:柿を左手で受け取る)
03A：　はいはい（A：紐を両手にとる）

事例1，2と違い，Mは柿を受け取るまさにそのタイミングで「はい，はいはい」（2行目）と応答しており，さらにこのあとも「じょうずじょうず」とAの紐結びに合わせて発話を行っている. また，柿を保持する位置も事例1，2より，さらに相手に近い位置になっている. このように，職員Aと利用者Mの役割分担は，事例1から3まで一貫している一方で，Mの作業に対する注意の度合いは発話，視線，姿勢のレベルで変化している.

図3. 事例3. Mが柿をかざす位置が1，2よりも上がっている.

【事例4：柿d】

事例4では，職員Aと利用者Mとの間で役割交替が生じた. そのトランスクリプトを以下に示す.

01M：　はい
02A：　はい、Mさんありがとう
03M：　[あい]　(M：垂れ下がったビニル紐を左手に取る)
04A：　[これ]もってくれはる？（A：第3の柿のT字部分を右手でぶらさげてかざす）
05　(0.6)　(M：右手で握り始めた紐を左手でたぐる)
06M：　よっしゃ（M:両手で紐を構える）
07A：　よっしゃよっしゃ（M:柿を左掌でくるみつつ、右手で紐をへたに絡ませ始める）
08　(0.3)
09A：　ほいでここやな：(A：柿から手を離す)
10M：　うん
11　(0.3)
12A：　わたしもってようか（A：Mの左手の柿を触る）
13　(0.3)
14M：　はい

図4. 事例4.　14行目. Mが紐を結びはじめ，Aが保持している.

職員の最初の発語「これもってくれはる？」と動作（柿のT字部分を右手でぶらさげてかざす）の組み合わせは、事例1，2，3とほぼ同じである. しかし，それに続く利用者Mの動作が異なっている. 事例1，2，3では，利用者は左手を出して柿

を握った．それに対し，事例４では，Ｍは右手で握り始めた紐を左手でたぐり、「よっしゃ」といいながら職員Ａがかざした柿を左掌でくるみつつ、右手でへたに紐を絡ませ始める。この後，職員Ａは Ｍの新しい動作に対して「よっしゃよっしゃ」という発話を行うとともに，柿からいったん手を離し，後に柿を持ってＭの紐結び動作に協力する動作（紐を結ぶ／保持する）を行った．

事例４の発話のトランスクリプトを見る限り，利用者Ｍの側からは新しい動作を提案するための発話はない．4-5 行目で，Ｍは無言のままであり，6 行目で「よっしゃ」と掛け声をかけている．一方，動作のレベルでは，明らかにこれまでの事例とは異なることが起こっている．職員Ａは事例 1，2，3 と同じように，おそらく相手の注意を惹くためにＭの目の前に柿をかざし、少し誇張して手を動かしてから保持しながら「もってくれはる？」（4 行目）と発話しているのだが，Ｍはこの４行目の依頼発話には答えず，Ａの保持に対して両手で紐を構える（5-6 行目）．いわば相手の保持を，相手から自分への柿の手渡しの動作としてではなく，自分の紐結びのための動作として読み替えているのである。

おそらくこの利用者Ｍの動作はＡにとって予想外のできごとであり，彼女がこれまで想定していた「Ｍにできること」の範囲外のことである．しかし，Ａが柿を保持し続けることで，結果的にＭはその動作を利用することが可能となった．また，Ｍの発話「よっしゃ」(6 行目)を真似るように「よっしゃよっしゃ」（7 行目）と発話することで， Ｍの「よっしゃ」に随伴する動作をＡは追認したかのようにきこえる．

Ａが本格的にＭに協調的な動作を取り始めるのは９行目以降で，ここでＡは柿から手を離すことによって，いったんＭの動作を観察し，そのあと，Ｍの左掌の柿を右手で譲り受け，Ｍの紐結び／Ａの保持，という関係を実現した．

3. 考察

事例 1-4 のＭの発話，視線，動作の変化から，事例４における役割交替は突然のできごとではなく，繰り返し行われる吊し柿づくりの過程で，Ｍの注意が徐々に作業に対して組織化されてきた結果であることがわかる．その一方で，Ｍの役割交替は，あらかじめ話し合いによって行われたものでなく，職員Ａの動作をＭが転用する形で行われており，しかも交替は短時間で行われている．このような役割交替は，即座に発話によって具体的に言語化されるのではなく，まず「よっしゃ」「よっしゃよっしゃ」という掛け声の応答によって事後的に承認される形をとっている．そのあと改めて，職員Ａが「わたしもってようか」と発話によって役割交替を表現し（12 行目）ようやく言語上明示的な承認がなされる．このように，予想外の動作と役割の更新は，まず動作と掛け声によってすばやく構成され，そこから遅れて発話と追加動作によって新たな役割が相互に承認されることが，これらの事例からわかる．掛け声は，名指す発声に比べて簡便に行うことができ，300ms の短時間で実現することができる（細馬 準備中)。相互行為の質をお互いにすばやく変化させるためには，「よっしゃ」のような掛け声と動作の組み合わせは，有効なものと考えられる．

介護施設では，高齢者の予想外の動作にすばやく対応し，相互行為を更新していくことで，職員は高齢者の急激な状態の変化に対応できるだけでなく，高齢者に何ができるかを見極め，予想外の動作が可能であることをいちはやく捉えることができる．高齢者の動作に対して言語的に反応するだけでなく，掛け声と動作によって起こりつつある新たな行為を認めることは，職員の重要な活動の一つであろう．

4. 参考文献

Clark, H. H., & Krych, M. A. (2004). Speaking while monitoring addressees for understanding. *Journal of Memory and Language* 50(1): 62-81.

Libet, B. (2004). Mind Time. Harvard University Press. （ベンジャミン・リベット『マインドタイム』下條信輔訳　岩波書店）.

Levelt, Willem, J. M. (1989). Speaking: From Intention to Articulation. Cambridge: The MIT Press.

Levinson, Stephen C. (2013). Action formation and ascription. In T. Stivers, & J. Sidnell (Eds.), The handbook of conversation analysis (pp. 103-130). Malden, MA: Wiley-Blackwell.

細馬宏通（2016）. 介護するからだ　医学書院

細馬宏通（2017）. 身体コミュニケーションに埋め込まれている「知」 : 認知症高齢者の食事介助を例に（特集 心を開くコミュニケーション）月刊保団連（1240), 25-30.

細馬宏通・中村好孝・城綾実・吉村雅樹（2010）. 認知症高齢者はいかに立つことを了解するか：介護施設における立ち上がり行動の会話とジェスチャー 社会言語科学会第 25 回大会論文集, 142-144.

三味線の稽古場面における師匠と習い手の相互行為

―マルチモーダルな指導における発話形式の使い分け―

名塩　征史（静岡大学）

1. はじめに

近年ではダンス（Keevallik, 2010），格闘技（Råman, 2018），楽器演奏（Stevanovic, 2017；山本・古山, 2018）といった特定の身体的技術の教授・練習場面を取り上げた研究が盛んに行われている．その中で，こうした身体的技術や身体知の一部は言語化が難しく，その教授には言語だけでなく，非言語的，環境的資源の利用やそれらに特定的な認知的枠組みが必要であることも明らかになってきた．本研究は，こうした潮流に同調し，師匠と習い手が一対一で向かい合って行う三味線の稽古場面を会話分析的手法を用いて分析するものである．本発表では特に，師匠によるマルチモーダルな指導を構成する発話形式の多様性とその継時的・場当たり的な組織化に焦点を当てた記述を試みる．またそうした師匠による指導から学ぶ習い手の認知的手続きについても一考を加え，当該の活動を習い手による能動的で探索的な参与を前提とする相互行為として捉え直す．

2. データの概要

分析対象となった三味線の稽古は，静岡市内の某マンションの一室で月に２度行われるものである．毎回の稽古は，８畳ほどの広さの部屋で，師匠Ｓと習い手Ｌ（いずれも成人女性）が小さなテーブルを間に向かい合って正座し，互いの演奏が観察可能な状況で行われる（図１）．Ｌは稽古を始めて 10 ヶ月未満の初心者で，一回の稽古時間は 30 分程度である．本研究では 2017 年 12 月から 2018 年４月までに収録された６回分（約３時間）のデータのうち，３回目の稽古から２分前後の場面を２つ選定し，分析の対象とした．

基本的には，習い手は自宅で課題曲を練習してくることになっており，ここでの稽古は師匠の前でその練習の成果を披露する場として捉えることができる．本発表で取り上げる稽古場面での課題曲は「末廣がり」と呼ばれる比較的難易度の低い初心者向けの楽曲であり，Ｌにとっては二曲目の課題曲となる．

本研究では，Elan を用いて当該の稽古場面における発話と身体動作を分析し，トランスクリプトを作成した．ただし，本稿で取り上げる演奏中の場面でＬが発話を行うことはない．また，Ｌの視線は常にＳに向けられており，目立った身体動作も観察されなかった．したがって，本稿のトランスクリプト†では，Ｓによる発話と身体動作を中心に書き起こされている．

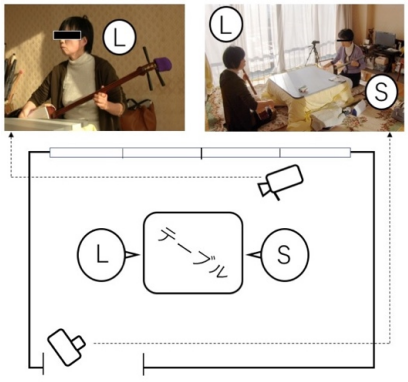


図１：稽古中の配置

3. 分析

3.1 師匠Ｓの指導を構成する多様な発話と身振り

まず稽古全体の様相からは，次のような特徴が指摘できる．Ｌは譜面を見ず，見聞きできるＳの演奏と指導だけを頼りに課題曲を弾くことが求められており，Ｓもまた，Ｌの奏でる音，演奏する手指の動きを資源に指導を行っている．しかも，ＬはＳの模範演奏なしに単独で演奏することがなく，Ｌに対するＳからの評価や指導も演奏と並行して継時的・場当たり的に行われる．つまり，ピアノレッスンでも観察される同時演奏（山本・古山，2018）が終始継続するような様相となり，そうした同時演奏の中で互いに奏でる細かな音の一致／不一致を逐一評価，修正しながら，不格好でも演奏を継続することに志向して稽古が進められている．

特に注目すべきなのは，Ｓによる指導行為の様相である．まず断片(1)からもわかる通り，稽古中のＳの発話は，①曲に合わせて歌う長唄（♪*斜字*♪），②習い手に向けた言語による指導，③三味線の音（調子）を声で表現する「口三味線」（<カタカナ>）の三つに分けられる．本来，当該の課題曲は長唄の伴奏であるため，Ｓは長唄を歌うことで曲の進行や展開を示唆しながら稽古を進めることになる．その他の発話については，習い手の演奏に指導が必要と判断さ

† トランスクリプト内の表記について，“[” が重なった発話の開始時点，“#” が聞き取れない発話，“：” が伸ばす音，[ ]内の数字が沈黙した秒数を表す．また，( )内にその他の振る舞いに関するメモを記す．

れたタイミングで，その指導に適切な発話形式を選択しつつ行うことになる．しかし，L がまだ初心者であるということもあり，ここでの S の発話は，その多くが指導と口三味線で占められている．

曲としての体裁を崩さない程度に同時演奏を継続するためにも，S の指導はその演奏のわずかな隙間を縫うように常に端的な発話によって行われているような印象を受ける．しかし，S による場当たり的な判断によるシンプルな発話は，幾分の曖昧さを伴うことにもなる．例えば，断片(1)では，15 行目と 19 行目で同じ「戻って」という発話がなされているが，これらはそれぞれ異なる意味を持っている．15 行目の「戻って」は，直前で演奏された 14 行目のメロディーに戻ってもう一度弾き直すことを指示する発話であるが，19 行目の「戻って」は，長唄の一つ前の節（-06 行目：「(声) 張上げて」）から次の節へと移行した直後の音（08 行目冒頭：〈チン〉）と同じ音を弾くこと（20 行目）を指示している．しかし，この両者の違いをこの場で観察可能な要素から判断するのは難しい．

また，音程の修正を行おうとする S の指導は「上下」，すなわち，三味線の棹に張られた糸を押さえる左手指の位置を誘導することで行われている．しかし，他の場面でも頻繁に観察されることであるが，この「上下」を用いた誘導は，時に L を混乱に陥れることがある．例えば，断片(1)の 26 行目では，「もうちょっと下」と S から指導がなされるが，この「下」は棹の下部（三味線の胴に近い位置）を押さえるように指示するものである．しかし，この指示が実際に意味するところは，「音程を上げる（高い音を出す）」ということになるため，初心者の L にとっては混乱の種になりかねない．実際に 26-27 行目では，L の左手指が思うように動かず，S が繰り返し同じ指示を出しているのがわかる（28 行目）．しかも 26 行目の発話に伴い，S は自身の右方向に首を捻り（図 3），さらに 28 行目では「下，下」と繰り返しながら左手人差指で自身の右斜め下を指し示している（図 4）．しかし，L が奏でる音の音程を修正するならば，左下方向（L にとっての右下方向）を示すべきであると考えられる．これでは，本来なら L の理解を補完するはずの身振りが，L に対してさらなる認知的負担を強いることにもなりかねない．この他にも，S は音程の修正に際して「6 番」などの稽古本に記載された数字を言う場合や，「真ん中／元（最初）の位置」などの相対的な位置を言う場合，さらには身振りをもって直接ある範囲を指し示す場合（09 行目／図 2）もあるが，これらの形式の選択に特に決まりはなく，同時演奏の継続に伴う場当たり的な指導の実践を可能にするために，咄嗟の判断で指示形式を選択しているものと見るべきだろう．断片(1)からは，こうした形式での指導を十分に他者（習い手）本位の相互行為として組織化することが，熟練者の技術をもってしても困難なことであり，実際には指導者の自己志向的で主観的な側面が見え隠れする様相となるということが窺える．

断片（1）：複数の発話形式によって構成される指導の様相

01	<テ　レ>
02	二の糸. まんなk
03	<テ　レン　ツ　トン>
04	♪*はり：：：：：*♪
05	<ツ>
06	♪*あ：：げ：：て*♪
07	<ヨーイ>
08	<チン　ツン>
09	ね, こっから, こっこしか使いませんよ
10	<チン　ツン>
11	もうちょっと下, うん
12	<ツン　トツ　ツン>
13	ちょちょちょん
14	<チチチン　チン　ツン>
15	戻って
16	<チチチン　チン　ツン>
17	もうちょっと
18	<ツン　ツン　トツツン　ツン>
19	戻って
20	<チン>
21	♪*たろ：：：か：：じゃ：：*♪
22	♪*ある：：：か：*♪
23	<ヨー>
24	そこで三入れて：
25	<チ>
26	もうちょっと下
27	<チ>
28	下, 下
29	<チ>
30	よ, 4 回
31	<チリ　チリ [1.0] チリ>
32	<ト　ツ　ツン　ツン>
33	上がって：
34	<ツン>
35	♪*おん：：：ま：：：え：：*♪
36	二の糸
37	♪*に：[0.5] に：：*♪
38	んで, 二の糸から：：
39	<トチチリ　チン>
40	<イーヤー>
41	<トチチリ　テン>

図 2：(1)-09 行目

図 3：(1)-26 行目

図 4：(1)-28 行目

3.2 稽古全体の構成

一対一で常に向かい合ったまま移動しない三味線の稽古では，ダンスや格闘技の練習とは異なり，参与者間の配置（陣形）の組み替え等によって境界づけられるような練習段階の移行や，観察する側／される側の交代といった変化がない（cf. Keevallik, 2010; Råman, 2018）．約 30 分に及ぶ稽古の構成は，断片(1)のような同時演奏と，その同時演奏の終了から次の同時演奏が開始されるまでの 5 分弱のインターバルといった大きく二つの局面に分けることができる．インターバルの局面では，先行する L の演奏に対する S の簡単な総評や助言，次に行う同時演奏（主に演奏する範囲）に関する提案等が行われるが，同時演奏が一旦始まると，断片(1)に見られるような様相が終始継続する．そこでは常に互いに演奏し，互いに観察し合う関係性が保たれ，特に同時に演奏するという形式が崩されることは極め

て稀である. また, Stevanovic (2017) は, ヴァイオリンのレッスンで指導者が二人称単数主語の命令口調 (second-person singular imperatives) と一人称複数主語の勧告口調 (first-person plural hortatives) を使い分け, 習い手が各練習活動に抱く義務感 (deontic authority) を正当化したり, 逆にごまかしたりしながら, 習い手の意識を管理し, レッスンを巧みにリードしていることを示唆した. 本稽古では, インターバルの際に, 次の同時演奏に関する提案として勧告 (「後半だけ演奏してみましょうか」) や問いかけ (「同じところもう一度引いてみますか」) の発話が観察されるが, 同時演奏中の発話については, その多くが二人称単数主語の命令口調である. またこうした発話の特徴からも分かる通り, 本稽古においては, 「習い手が師匠の演奏に追従して演奏する」というのが活動の軸であり, 習い手の義務感は, 同時演奏の継続に強く志向するという前提のもとに一定に保たれていると考えられる. その中で, 習い手が奏でる音が師匠の奏でる音に一致すれば演奏が続き, 一致しなければ一致するまで弾き直すという繰り返しによって稽古は進行していくのである.

3.3 模範演奏の挿入

ただし, 初心者であるLの稽古場面においては, この様相が常に一定して保てるわけではない. 断片(2)は, 課題曲のある局面において, L が同じ間違いを繰り返してしまうことにSが気づき, L の演奏を一旦止めて, S 単独での模範演奏を含むまとまった指導が挿入される場面である. S は 04 行目の発話と同時に視線を上空に上げ, 演奏を止めて自分の三味線を少し体に引き寄せる (図 5). 続く 05 行目で「あ, これ二回あるのね」と言いながら, 三味線の棹を完全に手放した左手を何かを軽く叩くように前に差し出す (図 6). つまり, 同時演奏での指導において欠かすことのできない参照点であったLからも目を離し, 自らの演奏からも一旦完全に離れてしまうことで, 先行する同時演奏とは異なる指導フェーズの開始を境界づけているのがわかる. また, ここを境に始まった指導は, 同時演奏の再開をもって終了することになるが, この終了を境界づける過程はより相互行為的である. S は 12 行目で当該の問題の解決に役立つ助言を言い切った直後, 問題の一音 (03, 08 行目で言及されている<チン>) へと続くメロディー (06 行目) を再び弾き始める (13 行目). この時まで演奏をやめてSの指導に傾聴していたLは, この 13 行目の演奏と口三味線が同時演奏の再開であることにやや遅れて気づき, すかさず演奏を再開する. しかし, この同時演奏再開の口火を切るのは一の糸 (一番上の糸) で奏でる音であるにも関わらず, L は, 慌てていたのか, 二の糸から弾き始めてしまう (14 行目). その遅れと音の不一致に気づいた S は弾き始めたメロディーの冒頭部分<トツツ>で演奏を一旦止め (13 行目), 15 行目で同じ音を繰り返し, L の右手を見つめ直すように軽く頷く仕草を見せる (図 7). それでもLが再び二の糸から弾き始めてしまったため, 最終的にはSが「一の糸ひいて」と口頭で修正し (17 行目), 一時的な混乱を治めて同時演奏の再開を達成している. ただ, ここでの S の振る舞いにも, 幾分の主観的・自己中心的な側面が認められる. S は 12 行目の発話を一つの区切りとし, 13 行目から同時演奏が再開されることを期待していたように見受けられるが, この 12-13 行目で観察可能なSの振る舞いからその意図を咄嗟に読み取るのは困難である. 14, 16 行目のL の振る舞いには, そうした困難さに起因すると思われる一時的な混乱が見受けられた. 結果的にこの認識の齟齬は, そうしたL の混乱に対するS の気づきと言語発話による修正, さらにその発話に基づくL の振る舞いの修正といったプロセス (15-18 行目) によって, 相互行為的に, 漸次的に解消されている. 当該の稽古は, こうしたS による積極的で緻密な, しかしどこか主観的で自己中心的な指導が, L による積極的で従順な学びに支えられ, 利用されることで相互行為的に進められる活動であると捉えることができるだろう.

断片 (2) : S 単独での模範演奏を含む指導の挿入

01	<リン　リン>	12	一回目と二回目の区別がつく
02	最初は中指で：	13	<トツ[ツ>
03	<チン>	14	[(L: 遅れて二の糸を弾く)
04	<テチチン>	15	<[トツ>
05	あ, これ二回あるのね, て	16	[(L: 二の糸から弾き始める)
06	<トツツルツツテチ　チン　リン　リン>	17	一の糸ひいて
07	あとの時は：	18	<トツツ>
08	<チン>	19	<トツツル>
09	て, 動くの	20	<ツツテチ>
10	最初は動かないで長い #	21	<チン　リン>
11	そう覚えると：	22	最初中指で：

図5：(2)-04 行目

図6：(2)-05 行目

図7：(2)-15 行目

4. 考察：習い手Lの立場からの捉え直し

ここまでの分析では, 主にS の指導行為に焦点を当て, その多様な発話形式と非言語行動との協調によるマルチモ

ーダルな側面を明らかにした．しかし，そうしたマルチモーダルな指導が，学習効率を高めていると言えるかどうかについては疑問が残る．実際に，断片(1)の分析からは，発話による指示の曖昧さを助長するような身振りも観察された．本稿では，こうした問題点を自ずと解消し，当該の活動を概ね円滑な相互行為へと治める要素として，習い手Lの参与にも注目したい．

先述の通り，当該の稽古場面においてLはほとんど発話することなく，身振りについてもSの指導に何度か軽く頷く程度である．しかし，そうした観察可能な様相の認知的背景には，Sから発信される種々雑多な情報群から自己の演奏を修正するのに必要なものを取捨選択し，利用し，学び取るという能動的／探索的な手続きを想定することができる．そもそもLにとってこの活動の主軸は「Sの演奏に追従して演奏すること」であり，自分が奏でる音をSの音と一致させることを目指して行われる．また，岡田・柳町（2008）やKeevallik(2010)などでも指摘されるように，身体的技術の教授場面における習い手の振る舞いには指導への理解を示すものが観察されるが，本稽古における同時演奏場面ではLが（Sの求める）望ましい音を奏でることこそが，指導への理解を示すことに当たると考えられる．つまり，一見，同時演奏と呼ぶにはやや不恰好な活動は，原則として互いの演奏そのものが，それぞれ指導と指導への理解を示す行為を兼ね，互いに奏でる音の一致／不一致について共有し，共に修正しようとする試行錯誤の過程としても捉えることができる．そしてこの過程において，Lにとって最も重要な情報は，聴覚的には「Sが奏でる三味線の音」であり，視覚的には「Sの右手の撥さばきと左手指の動き」である．もちろん，そのほかの発話や身振りも，補足的な情報としては常に利用可能でたいていは有効なものであるが，積極的なコミュニケーションは，時に情報過多で冗長なものになりがちである．そのため，当該の稽古場面でも，Sの指導者としての意図とその積極的な発信とは裏腹に，多種多様な情報の共起が常にLにとって有意に機能しているとは限らない．そうした中で，習い手であるLの学びが効率よく達成されるためには，指導する身体としてのSが繰り出す様々な情報群から必要な情報を抽出し，必要のない情報を要領よく無視することであると考えられる．LがS との同時演奏に強く志向し，それを通して音の一致／不一致を探る活動に従順であれば，他の曖昧な情報に惑わされることなく，上記断片(1)(2)で確認されたような稽古中のさまざまな歪みや混乱を解消することもできる．当該の稽古場面の組織化には，観察可能な相互行為からわかること以上に，（認知的に）複雑な相互作用が関連しているものと想定される．

5. 今後の課題

本稿での分析と考察は，あくまである特定の三味線稽古場面のみを取り上げた事例研究に過ぎない．今後は習い手の熟練度や曲調の違いなどによって稽古の様相がどのように変容するのかなど，異なる条件下にある複数の稽古場面を比較する方向性が考えられる．また，指導に用いられる各発話形式が担う役割については，さらに詳細な議論が必要である．特に口三味線は，基本的には実際の三味線の音と同じ意味を持つ聴覚的な記号でありながら，演奏と同時に発信されても競合することなく聞き取ることができるという特徴を持つ．この点は，同時演奏を基調とする三味線の稽古において重要な役割を果たすものと考えられる．

さらに，Sの指導行為に見られる曖昧さや情報の過不足，それに対する習い手の適切な情報の取捨選択については，稽古場面に限らず，他の様々なコミュニケーションや相互行為にも少なからず見受けられるものである．特に「観察可能だが利用されない情報」に焦点を当てた議論は今後の課題の一つとして挙げておきたい．

謝辞　本研究は科学研究費助成事業 基盤研究(A)「日常場面と特定場面の日本語会話コーパスの構築と言語・相互行為研究の新展開」（17H00914・研究代表者：傳康晴）の助成を受けている．

参考文献

Keevallik, L. (2010). Bodily Quoting in Dance Correction. *Research on Language and Social Interaction,* **43**, 401-426.

岡田みさを・柳町智治 (2008). インストラクションの組織化−マルチモダリティと「共同注意」の観点から−. 社会言語科学, **11**(1), 139-150.

Råman, J. (2018). The Organization of Transitions between Observing and Teaching in the Budo Class. *Forum Qualitative Social Research*, **19**(1).

Stevanovic, M. (2017). Managing Compliance in Violin Instruction: The Case of the Finnish Clitic Particles -pA and -pAs in Imperatives and Hortatives. In Sorjonen, M-L., Raevaara, L. & Couper-Kuhlen, E. (eds), *Imperative Turns at Talk: The Design of Directives in Action*. John Benjamins, pp. 357-380.

山本敦・古山宣洋 (2018). ピアノレッスンにおける演奏表現の共同的達成−相互行為構造の反復に着目して−. 社会言語科学会第41回大会発表論文集, 210-213.

言語変化と社会的ネットワーク分析の重要性

平野　圭子 (北九州市立大学)

1. はじめに

本研究では方言接触 (Britain 2017; Trudgill 1986, 2004)の結果，話者の言語行動に起こり得る変化を説明するうえで，個々の話者の社会的ネットワーク (Milroy 1980)が言語行動に与える影響を分析することの重要性を提示する．日本在住英語母語話者コミュニティ内の英語方言接触によって誘発される文法バリエーションと変化を調査した，「義務を表す英語表現」(MUST, HAVE GOT TO, HAVE TO, GOT TO) (例(1)a-d) (Hirano and Britain 2016)と「所有を表す英語表現」(HAVE GOT, HAVE, GOT)) (例(2)a-c) (Hirano 2016)の 2 つの研究を取り上げ，その分析結果を言語的アコモデーション (Giles and Powesland 1975)と社会的ネットワークの観点から考察する．

(1) a. we ***must*** do it like every three or four months (NZ2 K&S 113)
b. I ***'ve got to*** go to school (UK1 R&N 116)
c. you ***have to*** have a steady hand (UK1 I&A 1402)
d. you ***got to*** start from somewhere (US2 G&C 88)

(2) a. I ***'ve got*** an elder sister (UK2 A&I 1206)
b. I ***have*** an apartment (US2 P&M 509)
c. you ***got*** the west coast beaches for surfing (NZ1 G&K 674)

本発表は来日直後と 1 年後に収集した自然談話に表れる二つの文法項目を比較し，バリエーション分布変化を顕著に示したイングランド人による調査結果に焦点を当てる．両調査とも来日 1 年後には，アメリカ英語で典型的に使用される HAVE TO や HAVE からのダイバージェンスがイングランド人の英語に見られ，逆にイギリス英語やオーストラレーシア英語に特徴的な HAVE GOT TO や HAVE GOT の使用増加が観察された．話者の言語行動に与え得る社会的ネットワークの影響力の観点からこれらの結果を論じる．

2. 日本在住英語母語話者コミュニティ

本研究が調査するコミュニティは，世界各地の英語圏より英語教師等の在留資格で来日し，1 年から数年間日本に滞在する英語母語話者の集団で構成されている．その多くは JET プログラム参加者で，2017－2018 年の参加者は世界 40 ヶ国から約 5000 人に上る (CLAIR 2017)．彼らの滞在期間は 1 年から数年と短いため，絶えず新しい来日者と入れ替わりながらコミュニティを形成している．従って彼らのネットワークは比較的短期間の人間関係の上に成り立っているものの，英語母語話者コミュニティ内での付き合いの中で多種多様な英語変種の話者と社会的ネットワークを築いてゆく．

3. 方法論

3.1 インフォーマントと言語データ

本調査のインフォーマントは日本在住で JET プログラム参加の外国語指導助手 36 名と語学学校の英会話講師 3 名，計 39 名の英語母語話者である．福岡県，佐賀県，熊本県在住のイングランド人 15 名 (男 5/女 10)，アメリカ人 11 名 (男 7/女 4)，ニュージーランド人 13 名 (男 3/女 10)で構成されている．調査時のインフォーマントの年齢は 21 歳から 34 歳で，平均年齢は 24 歳である．全員ほぼ同レベルの学歴 (大学卒以上) を持つ．インフォーマントが来日した直後 (第 1 データ) と来日 1 年後 (第 2 データ) の二度にわたって，同一話者からそれぞれ 45 分間の自然談話を収録した．会話は同じ出身国話者とのペアで行われ，合計 34 時間，約 40 万語分の会話データを本調査のために用いた．

3.2 分析対象

本発表は肯定文に表れる「義務を表わす英語表現」'MUST'，'HAVE GOT TO'，'HAVE TO'，'GOT TO'と「所有を表わす英語表現」'HAVE GOT'，'HAVE'，'GOT'を分析対象とする．「義務を表わす英語表現」は 481 個，「所有を表わす英語表現」は 994 個の使用例を言語データより抽出した (表 1)．「義務を表わす英語表現」のひとつ HAVE TO は北アメリカ英語やオーストラレーシア英語で最もよく使用されている一方，HAVE GOT TO はイギリス英語で使用率が急増している (Collins 2005; Tagliamonte 2013a, 2013b)．「所有を表わす英語表現」のひとつ HAVE GOT はイギリス英語，オーストラレー

シア英語で最も頻繁に用いられ，HAVE やGOT は北アメリカ英語に特徴的な表現である (Jankowski 2005; Kroch 1989; Quinn 2004; Tagliamonte 2013a, 2013b; Tagliamonte, D'Arcy and Jankowski 2010).

表1：「義務を表す英語表現」と「所有を表す英語表現」の出現回数

出身国	「義務を表す英語表現」			「所有を表す英語表現」		
	第1データ	第2データ	計	第1データ	第2データ	計
イングランド	82	116	198	233	228	461
アメリカ	63	60	123	113	131	244
ニュージーランド	82	78	160	146	143	289
計	227	254	**481**	492	502	**994**

(Hirano 2016; Hirano and Britain 2016)

3.3 インフォーマントの社会的ネットワーク数値化

本発表は個々の話者の社会的ネットワークが言語行動の変化に与える影響力を検証する．コミュニティ内で強い社会的ネットワークを持つ人々の言語行動に関してはMilroy (1980) らによって研究され, 話者の言語行動と強い関係があることを例証している．また高密度な社会的ネットワークは言語の規範強化のメカニズムとして機能し，低密度な社会的ネットワークは言語変化を誘発しやすいという傾向が観察されている (Milroy and Milroy 1985). Milroy (1980) による北アイルランド・ベルファストの研究は高密度で多層的，緊密なネットワークを持つコミュニティが調査対象で，密度と多層性でネットワークの強度を測定した.

一方，日本の英語母語話者コミュニティのメンバーは流動的で多言語・多方言との接触環境にあり，滞在期間も限定的で頻繁にメンバーの入れ替えが起こっている．従って多様で密度の低いネットワークを形成している．本研究では来日 1 年後の第 2 データ収集時に社会的ネットワークの情報を得るため，個々のインフォーマントから日本での交友関係について聴き取り調査を行った. 定期的に会う親しい友人のリスト, 彼らの社会的属性 (性や出身地など), 彼らと会う頻度, 電話の頻度, 彼らとの親密度などの情報をもとに各インフォーマントの社会的ネットワークを記述した．その中でタイプの異なるネットワークごとに強度を測り，各インフォーマントのネットワークをスコア化[1]した．ネットワーク構成員との親密度順位，面会や電話による接触頻度等を数値化した上で，＜個別の人間関係スコア = 親密度順位スコア × 接触頻度スコア＞の計算式で個別の人間関係スコアを算出した.

本発表ではインフォーマントのネットワークメンバーをまず「英語母語話者」と「非英語母語話者」に分け，さらに前者を「ブリティッシュネットワーク (イギリス人・アイルランド人)」，「北アメリカネットワーク (アメリカ人・カナダ人)」，「オーストラレーシアネットワーク (オーストラリア人・ニュージーランド人)」に分類した．各社会的ネットワーク強度は該当する個別の人間関係スコアを合計したものである．算出された各インフォーマントのそれぞれの社会的ネットワークスコアを利用して言語使用と変化の要因を探る.

4. 結果

4.1 「義務を表す英語表現」のバリエーション分布

まず 3 ヶ国のインフォーマントから収集した第 1 データと第 2 データの「義務を表す英語表現」のバリエーション分布を表 2 に提示する．3 ヶ国ともHAVE TO の使用率が最も高く，MUST の使用率は低い．イングランドとニュージーランドグループはHAVE GOT TO の使用率が 2 番目に高いが，GOT TO は低い．アメリカグループはGOT TO の使用率が 2 番目に高い一方，HAVE GOT TO の使用率は低い．三か国のバリエーション分布は先行研究の調査結果とほぼ一致する (Collins 2005; Quinn 2004; Tagliamonte 2013a, 2013b). イングランドグループの第 1 データ（来日直後）から第 2 データ（1 年後）にかけての変化に着目すると，アメリカ英語の特徴から遠ざかるダイバージェンスの傾向が見られた．1 年後にHAVE TO の使用率を減少させ，かわりにHAVE GOT TO の使用率を有意な差[2]で増加させている．HAVE GOT TO はイギリス・オーストラレーシア英語に特徴的な表現で，アメリカ英語ではほとんど使われることのない表現である (Tagliamonte 2013a, 2013b). 一方HAVE TO は特にアメリカ英語で頻繁に使用される変異形で，イングランドグループに見られる変化はイギリス英語をより特徴づける現象である.

1 ネットワーク強度の詳しい計算方法はHirano(2013)を参照されたい.

2 統計分析にはSPSS Version 22 を利用した.

表2：「義務を表す英語表現」のバリエーション分布[3]

出身国	表現	MUST		HAVE GOT TO		HAVE TO		GOT TO	
	データ	第1	第2	第1	第2	第1	第2	第1	第2
イング	N	8	2	20	52	51	56	3	6
ランド	%	9.8%	1.7%*	24.4%	44.8%**	62.2%	48.3%	3.7%	5.2%
アメリカ	N	2	1	0	3	51	43	10	13
	%	3.2%	1.7%	0%	5.0%	81.0%	71.1%	15.9%	21.7%
ニュージー	N	4	4	27	22	43	50	8	2
ランド	%	4.9%	5.1%	32.9%	28.2%	52.4%	64.1%	9.8%	2.6%

Pearson Chi-Square (2-sided): **significant at $P < .01$. (Hirano and Britain 2016)

表3：「所有を表す英語表現」のバリエーション分布

出身国	表現	HAVE GOT		HAVE		GOT	
	データ	第1	第2	第1	第2	第1	第2
イング	N	129	143	97	78	7	7
ランド	%	55.4%	62.7%	41.6%	34.2%	3.0%	3.1%
アメリカ	N	13	15	85	111	15	5
	%	11.5%	11.5%	75.2%	84.7%	13.3%	3.8%**
ニュージー	N	97	85	44	50	5	8
ランド	%	66.4%	59.4%	30.1%	35.0%	3.4%	5.6%

Pearson Chi-Square (2-sided): **significant at $P < .01$. (Hirano 2016)

4.2 「所有を表す英語表現」のバリエーション分布

「所有を表す英語表現」の第1データと第2データのバリエーション分布を表3に提示する．イングランドとニュージーランドグループはHAVE GOTの使用率が最も高く，HAVEは2番目に高い．GOTの使用率は極端に低い．アメリカグループはHAVEの使用率が圧倒的に高く，HAVE GOTとGOTの使用率は低い．三か国のバリエーション分布は先行研究の調査結果とほぼ一致する (Quinn 2004; Tagliamonte 2013a, 2013b)．イングランドグループの第1データ (来日直後) から第2データ (1年後) にかけての変化に着目すると，アメリカ英語からのダイバージェンスが観察された．1年後にアメリカ英語で頻繁に使用されるHAVEの使用率を減少させ，かわりにイギリス・オーストラレーシア英語に特徴的な表現HAVE GOTの使用率を増加させている．HAVE GOTはアメリカ英語ではあまり使われることのない表現である (Tagliamonte 2013a, 2013b).

4.3 社会的ネットワークの影響

前述のイングランドグループに見られる変化はともにイギリス英語をより特徴づける現象であり，アメリカ英語からのダイバージェンスと言える．ところが個々の話者が示す「義務と所有を表す英語表現」の変化の方向や増減の幅は一様ではなく，国別の結果と必ずしも一致するものではない．このセクションでは変異形選択を各インフォーマントの社会的ネットワークの観点から検証する．4.1と4.2では国別の各変異形使用率を統計に利用したが，ここでは各インフォーマントのスコアを使用する．各インフォーマントの変異形選択と社会的ネットワークの相関関係の強さを測定したピアソン相関で有意な結果が得られた関係については，さらに重回帰分析を行った．この分析でどの社会的ネットワークがどの変異形選択に最も強い影響を与えているかを特定することが出来る．

4.3.1「義務を表す英語表現」と社会的ネットワーク

「義務を表す英語表現」と社会的ネットワークの重回帰分析により，イングランド人の1年後のデータに有意な相関関係が2つ見られた（表4）．第一に，「北アメリカネットワーク」は1年後データのHAVE GOT TO使用率にマイナスの影響力がある．つまり「北アメリカネットワーク」強度が高い話者ほど来日1年後のHAVE GOT TOの使用率が低い．HAVE GOT TOはイギリス・オーストラレーシア英語に特徴的な変異形で，北アメリカ英語ではほぼ使用されないことが影響していると推測できる．第二に，「英語母語話者ネットワーク」は1年後データのHAVE TO使用率にプラスの影響を及ぼす．すなわち，あらゆる英語圏出身の母語話者とのネットワーク強度が高い程，1年後のHAVE TOの使用率が高い．「英語母語話者ネットワーク」はブリティッシュ，北アメリカ，オーストラレーシアネットワークスコアの合計で，各ネットワークスコアの比率はインフォーマントによって異なる．HAVE TOは本調査の英語母語話者に最も多く用いられる変異形であり（表2），イングランド人は彼らとの接触が多いほどHAVE TOの使用増加を促されると推測できる．

表4: イングランド人の「義務を表す英語表現」とネットワークの重回帰分析

Variant	Predictor Variable	Beta	*p*	Adjusted R^2; F; Sig.
HAVE GOT TO 1年後データ	北アメリカネットワーク	**–.568**	**.027**	Adjusted R^2=.271; $F_{1,13}$=6.199; p=.027
HAVE TO 1年後データ	英語母語話者ネットワーク	**.572**	**.016**	Adjusted R^2=.275; $F_{1,13}$=6.323; p=.026

(Hirano and Britain 2016)

表5：イングランド人の「所有を表す英語表現」とネットワークの重回帰分析

Variant	Predictor Variable	Beta	*p*	Adjusted R^2; F; Sig.
HAVE GOT 1年後の使用率変化	英語母語話者ネットワーク	**–.326**	**.046**	Adjusted R2=.216; F1,13=4.859; p=.046
HAVE 1年後の使用率変化	英語母語話者ネットワーク	**.321**	**.034**	Adjusted R2=.247; F1,13=5.09; p=.034

(Hirano 2016)

[3] *印はカイ二乗検定で1年間の変化に有意の差がある.

4.3.2 「所有を表す英語表現」と社会的ネットワーク

「所有を表す英語表現」と社会的ネットワークの重回帰分析の結果，イングランド人の 1 年間の使用率変化に有意な相関関係が 2 つ見られた (表 5)．第一に，「英語母語話者ネットワーク」は来日直後から 1 年後の HAVE GOT 使用率変化にマイナスの影響力がある．つまり「英語母語話者ネットワーク」強度が高い話者ほど来日 1 年後の HAVE GOT の使用率が低下し，強度が低い話者ほど使用率が上昇する傾向にある．HAVE GOT はイギリス・オーストラレーシア英語に特徴的な変異形で，北アメリカ英語ではあまり使用されない．第二に，「英語母語話者ネットワーク」は来日直後から 1 年後の HAVE 使用率変化にプラスの影響を及ぼす．すなわち英語母語話者とのネットワーク強度が高い程，1 年後の HAVE の使用率が増加し，強度が低いほど使用率が低下する傾向にある．イングランド人は，全ての英語圏出身の英語母語話者との接触が多いほど，HAVE GOT の使用減少と HAVE の使用増加を促される傾向にあると言える．

5. 結論

イングランドグループにおける「義務と所有を表す英語表現」の来日直後と 1 年後のバリエーション分布を見ると，アメリカ英語に典型的な HAVE TO や HAVE の使用を 1 年後に減少させたことで，アメリカ英語から距離を置くダイバージェンスの傾向を示した一方，イギリス英語やオーストラレーシア英語に特徴的な HAVE GOT TO や HAVE GOT を増加させた．ところが個々の話者の言語行動を社会的ネットワークの観点から調べると，個々の話者の言語行動の変化は一様ではなく，グループ全体の結果と必ずしも一致しない言語的傾向が観察された．北アメリカや英語母語話者ネットワーク強度が高い話者にはアメリカ英語に対するコンバージェンスが，低い話者にはダイバージェンスが見られた．本発表は，個々の話者の社会的ネットワークがその話者の言語行動に与える影響力を明らかにし，方言接触によって誘発される言語行動の変化を説明する上で社会的ネットワークアプローチが有効であることを提示した．

参考文献

Britain, D. (2017). Dialect contact and new dialect formation. In J. Nerbonne, D. Watt and C. Boberg (eds.), *Handbook of dialectology*. Oxford: Wiley. 143–158.

CLAIR (一般財団法人自治体国際化協会). (2017). *JET Programme, Participating Countries*. <http://jetprogramme.org/en/countries/> (2018.6.17 閲覧).

Collins, P. C. (2005). The modals and quasi-modals of obligation and necessity in Australian English and other Englishes. *English World-Wide* 26: 249–73.

Giles, H., and Powesland, P. F. (1975). *Speech style and social evaluation*. London: Academic Press.

Hirano, K. (2013) *Dialect contact and social networks: Language change in an Anglophone community in Japan*. Frankfurt: Peter Lang.

Hirano, K. (2016). Convergence or divergence?: Social network and grammatical variation in a community of expatriate English speakers. Paper presented at *the 21st Sociolinguistics Symposium*. University of Murcia, Spain.

Hirano, K., and Britain, D. (2016). Accommodation, dialect contact and grammatical variation: Verbs of obligation in the Anglophone community in Japan. In O. Timofeeva, A. Gardner, A. Honkapohja and S. Chevalier (eds.), *New approaches to English linguistics: Building bridges*. Amsterdam: John Benjamins. 13–33.

Kroch, A. S. (1989). Reflexes of grammar in patterns of language change. *Language Variation and Change* 1: 199–244.

Milroy, J. and Milroy, L. (1985). Linguistic change, social network and speaker innovation. *Journal of Linguistics* 21: 339–84.

Milroy, L. (1980). *Language and social networks*. Oxford: Blackwell.

Quinn, H. (2004). Possessive *have* and *(have) got* in New Zealand English. Paper presented at *NWAV 33*. University of Michigan.

Tagliamonte, S. (2004). Have to, gotta, must: Grammaticalisation, variation and specialization in English deontic modality. In H. Lindquist and C. Mair (eds.), *Corpus approaches to grammaticalization in English*. Amsterdam: John Benjamins. 33–55.

Tagliamonte, S. (2013a). *Roots of English: Exploring the history of dialects*. Cambridge: Cambridge University Press.

Tagliamonte, S. (2013b). The verb phrase in contemporary Canadian English. In B. Aarts, J. Close, G. Leech and S. Wallis (eds.), *The verb phrase in English: Investigating recent language change with corpora*. Cambridge: Cambridge University Press. 133–154.

Tagliamonte, S., D'Arcy, A., and Jankowski, B. (2010). Social work and linguistic systems: Marking possession in Canadian English. *Language Variation and Change* 22: 149–173.

Trudgill, P. (1986). *Dialects in contact*. Oxford: Blackwell.

Trudgill, P. (2004). *New dialect formation: The inevitability of colonial Englishes*. Edinburgh: Edinburgh University Press.

EFL グループ相互行為内での Academic Discourse Socialization
－大学グローバル教育プログラムにおける言語学的エスノグラフィー研究から－

抽冬紘和（関西大学大学院生）

1. はじめに

本研究は、大学グローバル教育プログラムにおける、留学生、日本人学生からなるクラスルーム、グループ内での言語社会化（e.g., Ochs and Schieffelin, 2012）に関するエスノグラフィー研究より、異文化間 EFL グループ相互行為内での、学習者の academic discourse socialization (Kobayashi, Zappa-Hollman, and Duff, 2017)の過程、学習者に必要とされるグループディスカッション参加に必要な communicative competence (Hymes, 1972)としての能力習得に関するエスノグラフィック的観察、分析をおこなった。

2. アカデミック社会化（Academic discourse socialization）

アカデミック社会化(Academic discourse socialization)は学習者がどのようにアカデミックコンテクストにおいて有能な参加者となるかを研究する分野である。Kobayashi, Zappa-hollman & Duff よるとアカデミック社会化は “the social, cognitive, and cultural processes , ideologies, and practice involved in higher education ”に特に焦点をあてると述べている。(p. 239). おもに海外の英語を第一言語とする圏内の大学教育において、留学生の第二言語習得と合わせて、アカデミックコンテクストにいかに社会化されるかの研究がオーラルコミュニケーション、プレゼンテーション能力に焦点を当て、おこなわれている(Morita, 2000, 2004). また、Zappa-Hollman (2007)によると 英語非母語話者のオーラルコミュニケーションでの成功は“not only that students possess high levels of language proficiency but also that they have a good understanding of the rules and specific behaviours valued by each discipline and each institutional context” (p. 456)とされている。 しかし、発表者の知る限りでは、グループディスカッションでの事例、また、国内でのこのような枠組みでの研究は多く見られない。

3. エスノグラフィックフィールドワーク

3.1 フィールド

発表者は 2014 年に国内の私立大学におけるグローバル・異文化教育プログラムにおいて、エスノグラフィックフィールドワークを行った。このプログラムは留学生、日本人学生が参加するプログラムで、グローバル社会で活躍する人材を育成するためのものである。授業の進行方法は原則的に英語使用のみで行われた。授業内で 6 つのグループにプレテストの成績順で分けられ、上級レベル２グループ、中級２グループ、初級２グループとなる。上級２グループと中級１グループにはアメリカ人の留学生はグループアシスタント(TA)として参加し、他の３グループには、日本人、中国人の大学院生がグループアシスタントとして参加した。また、発表者も TA として参加し、研究観察も行った。

3.2 フィードワーク参加者

観察研究対象にしたグループの構成は、上級レベルグループで、Andrew（アメリカ人留学生アシスタント）、Ohzora（日本人学生）、Rachmad（インドネシア人留学生）、Charlee（タイ人留学生）である。Ozoraはこのプログラムが行われていた大学の学生である。このグループはもっとも、英語でのコミュニケーションが出来、また、インタラクティブブな特徴があった。

3.3 データ・分析

本研究発表で使用するデータは、プログラムの概要、参加者のインタビュー、そして、グループディスカッションの音声データである。プログラムの概要は、このプログラムの計画、達成目標が述べられており、参加者のインタビューでは参加者の経験を調査し、また、グループディスカッションでは実際のグループ内での英語、コミュニケーション学習の実践を分析した。エスノグラフィーの手法に従い、Agar が述べる”rich point”(1996)、調査観察者にとって未経験の事象、予期せぬ発見、をもとに分析ポイントを設定し、データ分析を行った。本研究発表では、コース概要内で、学習者に求められている事項、日本人学生Ozoraのインタビュー時の発言、また、グループディスカッションでの参加者たちのTranslanguaging (García & Li Wei. 2014)を分析した。

4. 結果と分析

次のスキルが本研究のアカデミックディスコース参加には求められ、コミュニケーション能力とされることが分かった。1) グループに参加する(Participating in the group), 2)グループ内の出来事を観察する(Observing the group events), 3) グループで何をするべきかを知る(Knowing what to do for the group), 4) グループ中心となる(Being centered in the group), 5) グループ内で共通の言語レパートリーを状況に応じて使い分ける(Ability to use their linguistic repertoires according to the situation). これらの能力 1)から 4)は段階的に習得され、学習者のアカデミック社会化の過程が 見られた。しかし、5)言語レパートリーの使用に関しては、段階的発達としてではなく、1)から4)とコミュニケーション能力が発達していく過程でのコミュニケーション能力であるということがわかった。Extract 1は、グローバル教育のカリキュラムの概要からの引用である。

Extract 1. Curriculum: Overall Introduction

> Starting in 2014-2015, xxxx University has launched a new curriculum for international students and Japanese students who wish to develop their intercultural competence.

Extract 1 ではこのカリキュラムの学生の目標の一つとして、異文化相互行為のための能力(intercultural competence)を高める必要性を述べている。また以下のExtract 2は特に、学生たちの学習目標として、その異文化相互行為のための能力の詳細が述べられている。

Extract 2. Program Aim (Intercultural Competence)

> The xxxx curriculum aims to nurture a combination of attitudes, knowledge, understanding and skills necessary for students to understand and respect people from different cultural backgrounds, and how to respond appropriately and effectively when interacting and communicating with them. Good communication skills in a foreign language (e.g., English) is vital for such competency, and this is an important focus of the curriculum on offer.

Extract 2　では、異文化間相互行為に必要な能力の具体的な定義が述べられ、その能力を持って異文化間相互行為を成すためには外国語、英語技術、能力の必要性が求められている。このように、授業内での学生の学習目標、学生が習得を目指すコミュニケーション能力が記されている。またこれらの学習目標の要素は、この授業内、特にグループディスカッションに参与するための、学生にとっての習得を目指す必須能力といえる。

本稿のスペースの都合上、学生の語用論的能力の発達段階を示すExtractは本稿では省略するが、Extract 6において、学生たちの、Academic competenceの一つである言語レパートリーの使用と、それによるグループ内相互行為の達成を見てみる。学生たちは遺伝子組み換えのペットへの意見を話し合っている。

Extract 6

22. Ozora: Maybe yes↓
23. Andrew: Maybe yes↑ Maybe yes↓ Why maybe yes↑
24. Ozora: Ah (…) it's interesting but ah (…)
25. Charlee: You want to eat it↑
26. Andrew: xxx
27. Ozora: It's (…) not (…) not too (…) *dotoku* (…)
[Ethical (…)]
28. Andrew: *Dotoku*↑
[Ethical ↑]
29. Ozora: *Dotoku (…) dotoku tte nante iun desu ka*↑ ((To the lecturer beside the group))
Ethical (…) What do you say in English↑]
30. Rachmad: *Wakaran(…)*
[I don't know]
31. Ozora: *Dotoku tte(…)*
[Ethical (…) what↑]
32. Lecturer: Ethically::: you find that↑ Ethically:::xxx
33. Andrew: O:::K::: *Dotoku (…)*
34. Ozora: *Dotoku*↓
35. Andrew: Ethical (…) Yes↑

Extract 6は グループ内での、translanguagingによって、グループ内相互行為、つまり、グループアイデアの構築が達成されている場面である。行23でAndrewはOzoraの意見(遺伝子組み換えの魚への賛同)　の理由をのべるように促している。行24でOzoraは理由を探そうとするが、アイデアをはっきりと英語で表現することができない。その内容を行27で，“It's (…) not (…) not too (…)　dotoku (…)”と答え、道徳”を英語で表現できないことを伝えている。Andrewはこの日本語の意味を英語では理解できないようで、行 38 では日本語で聞き返している。 このためOzora

は日本語で講義担当者に質問している(行 29、31)。その間、Rachmad も道徳の意味を知らないと表している(行 30)。講義担当者の返答のあと、グループ全体は “道徳”の英語 “ethical” 学ぶと同時に、グループでのアイデアとして、遺伝子組み換えは道徳的に問題であると、完結している。

5. 結論

グルーバル教育のプログラムにおいて、異文化間相互行為能力と英語(を含む言語レパートリーの)使用が学習者の習得目標とされている。学生たちは、アカデミックコミュニティーへの社会化を、グループ相互行為での実践的学習を通してそれらの目標事項を習得する。

謝辞 本稿のための研究、執筆にあたって Fred E. Anderson 氏, Meryl Siegal 氏から有益な指導、コメントを頂いた. ここに感謝する. また、フィールドワークの機会を与えてくださった、授業担当者、観察に協力してくれた学生たちにも感謝したい

参考文献

Agar, M. (1996). *The Professional stranger. 2nd Edition.* US: Academic Press.

García, O., & Li Wei. (2014). *Translanguaging: Language, bilingualism, and education.* New York: Palgrave Macmillan.

Hymes, D.H. (1972). On communicative competence. In J.B. Pride & J. Holmes (Eds.), Sociolinguistics (pp. 269-293). London: Penguin.

Kobayashi, M., Zappa-Hollman, S., & Duff, P. A. (2017). Academic discourse socialization. In P. A. Duff & S. May (Ed.), *Language socialization 3rd edition (pp. 239-254).*

Morita, N. (2000). Discourse socialization through oral classroom activities in a TESL graduate program. *TESOL Quarterly, 34* (2), 279- 310.

Morita, N. (2004). Negotiating participation and identity in second language academic communities. *TESOL Quarterly, 38* (4), 573- 603.

Ochs, E. & Schieffelin, B. B. (2012). The theory of language socialization. In Duranti, Alessandro, Ochs, Elinor & Schieffelin, Bambi (Eds.), *The Handbook of language socialization* (pp.1-21). Chichester: Wiley-Blackwell.

Zappa-Hollman, S. (2007). Academic presentations across post-secondary contexts: The discourse socialization of non-native English speakers. *Canadian Modern Language Review, 63* (4), 455-485.

多数言語話者高校生の言語認識と「戦略的 CS」
――「場」の期待と逸脱――

佐藤　美奈子（京都大学大学院）

１．はじめに

本研究は，複数言語話者のメタ言語認識と自身を取り巻く環境や会話の「場」に対する認識が，複数言語話者の言語行動としてどのように具現化されるかの解明を目的とする．日本の外国人受け入れ校に在籍する 5 人の複数言語話者高校生を対象におこなった言語意識調査と言語使用調査からは，日本語が圧倒的に優勢な日本社会で，それぞれ異なる言語背景をもつ複数言語話者である高校生が，居住地域や学校社会から発せられる規範や期待――どこでどの言語を用いるべきかの「言語 TPO」――を鋭敏に読み取りながら自身の複数言語能力を能動的に利用するさまが浮かび上がる．言語の機能のひとつに「互いの関係構築」(Tradgill, 1983) がある．単一言語話者が対話者との関係から相手との間合いを取り，単一言語内でスピーチレベルを調整するように，複数言語話者は，複数の言語にわたり「最適の関連性」 (Sperber & Wilsson, 1995) を模索し，特定言語を選択する．それを可能にするのが「言語 TPO」を嗅ぎ取る，複数言語話者の鋭敏なコミュニケーション感受性であり，「場」の認識である．本研究は，生活言語と学校言語 (Cummins, 2000) の使い分けを求める学校や地域社会の「期待」のもとで，あえてそれから逸脱することで繰り広げられる CS を「戦略的 CS」と捉え，複数言語話者の「場」との積極的な交渉の在り方として解釈を試みる．

2.1　ドメインによる使い分けと CS

郭 (2005) は，「コードスイッチング」を【二つ以上の言語を状況や場面に応じて使い分けたり，一つの発話の中でも言語を混ぜて使うこと】 (郭, 2005) と定義する．本研究では，郭（2005）の定義の前半，つまり「状況や場面に応じて使い分け」ることを言語使用領域（ドメイン）による使い分けとし，後半，つまり「一つの発話の中」での使い分けをコードスイッチング（CS）として 2 段階に分けて考える．

2.2　本研究のアプローチと着眼点

本研究では，言語の接触とそれに伴う一言語から他方の言語への移行を，複数言語話者の言語認識と会話の「場」との交渉という視点から捉え、「場」において交錯し，拮抗する 2 つの力の存在と，その方向性に着目する．2 つの力とは，1 つに「対談上の制約 (interlocutory constraint)」，「干渉 (interference)」 (Weinreich, 1974) という概念で示される，「場」の状況から発せられる力であり，「場」の磁力といってもいい．もうひとつは，発話者を，「意図する意味を伝え，目的を達するために意識的に文のスタイルを選択する」(三宅, 2015) 能動的な行為者として捉える視点によるもので，発話者から「場」へ向けて発せられる力である．そしてこの 2 つの力が具体的な形を取り，行動化されたのが CS であると考える．CS とは，すなわち，「場」の磁力と，それを感じ取る発話者の感受性，さらにその「場」の期待（言語 TPO）に準じて，あるいはあえて逸脱して，特定の言語が選択されることで生み出される現象であるとする考えである．本研究では，そうした複数言語状況にも関わらずコミュニケーションが成立していること，そればかりか「多言語状況の**管理**という形をとって成立している」（Calvet, 2001, 原文強調）ことに着目し，それを可能にするものとして，複数言語話者のメタ言語意識，コミュニケーションの感受性および特定言語の選択機序を取り上げる．

３．　調査――言語意識・使用調査

3.1 インフォーマント

インフォーマントは，東海地方 T 市の外国人受け入れ指定校である公立高校に通う 3 年生 5 人である．年齢は 17 歳から 18 歳，男子 2 名と女子 3 名である．当校は外国にルーツをもつ生徒を受け入れる学校であるが日本人の高校生も通う普通校である．当調査のインフォーマントは，そのなかの「外国人クラス」に 1 年生から在籍している．いずれも学校言語と社会の言語 (英語と日本語) とは別に，第 3，第 4 の言語をもつ複数言語話者である．

3.2 調査 I～V と実施方法

調査は，2016 年 5 月から 10 月までの 6 か月間にわたり，言語意識と言語使用に関する 5 つの調査――**調査 I　総合的母語・ドメイン別「期待」認識調査**，**調査 II　言語位相（ドメイン）別言語使用調査**，**調査 III　CS 意識調査**，**調査 IV　CS**

実態調査，調査Ⅴ　フィードバック・ディスカッション——をおこなった。調査は，個別ではなく，意見を引き出しやすいよう質問紙を囲みながらグループディスカッションという形式をとった. そのためこのディスカッション自体が, 英語を「媒介言語」とするインフォーマントの「相互行為能力」や we-code”・“they-code”（Gumperz，1982），グループダイナミクスを知る貴重な資料となった.

3.3　居住環境——T 市外国人集中居住区

T 市の外国人居住状況の特徴のひとつとして，同じ国出身の人たちが集中して居住し，出身別のコミュニティを形成しているということがある．たとえば「外国人集住地区」と呼ばれる H 地区の外国人比率は 45.59%を占め，全国的にも高い集住率となっており，そのうちブラジル人が 88.2%を占めている．同様の状況は，他の公営住宅においても別の国籍の集住という形で起こっている．たとえば，H 地区同様に外国人の比率が高い K 地区では，人口に対する外国人比率は 14.73%，そのうち中国人の比率は 67.20%を占め，中国人集住地区となっている．

3.4　「場」の「期待」——「学校言語」と「生活言語」 (Cummins，2000)

本研究のインフォーマントの言語環境について特筆すべきことは，家庭語と学校言語をわけることを「期待」されているということ，特に学校においてインフォーマント自身の家庭言語を「混ぜる」ことが否定的評価をもって受け止められているということがある．その第 1 の理由は，CS を一方の言語の能力不足と捉える見方（Reyes，2004）が L2 学習の教室環境では根強く，CS が否定的に評価されてきたということがある．第 2 の理由は，カミンズ（Cummins 2000） の BICS と CALP の概念および「相互依存仮説」を理論的根拠とする，母語の重要性を説く立場から，家庭と学校の言語をしっかと分けるよう地域の言語支援組織などを通じて勧められてきたということがある．第 3 の理由は，インフォーマントが在籍する学校は，一定数の外国人入学枠をもつ受け入れ校ではあるが，日本人学生も在籍しており，特に人数が多いブラジル人の学生が校内で集まってポルトガル語で話すことに対して必ずしも好意的ではないということがある．外国人学生自身，そうした周りの「期待」（抑制）を自覚し，それが先述の 2 つの力のひとつである「場」の力となっている．以下，調査Ⅰ〜Ⅴでは，こうした「場」の力（期待）を感じ取るインフォーマントの意識と，その力に準じて，あるいは拮抗する形でとられた行為である CS と，それに対する意識をインフォーマント自身によるフィードバックも含めて考察する.

4．調査Ⅰ　言語意識と総合的母語認識・調査Ⅱ　言語位相（ドメイン）別言語使用調査

調査Ⅰは，インフォーマントの複数の言語について Skutnabb-Kangas (1981)の多角的な母語基準——1 習得順序，2 能力，3 使用頻度，4 価値（広域性・専門性・威信性），5 自動性（独言・計算），6 情緒的絆——から判断し，自身の母語と認識するものを「総合的母語認識」として回答を求めた．さらに「場」の期待と言語「TPO」について，学校，社会，居住地域，家庭の各ドメインにおける認識を尋ねた．調査Ⅲ，Ⅳで示される実際の言語行動と比較することで「用いるべきと認識する」言語と実際の言語行為における選択とのズレを検証し，意識的・無意識的な選択の経緯を振り返る考察材料にする.

調査Ⅱは，ドメイン調査である．インフォーマントが，自分が置かれている状況——家庭と学校で言語を切り替え，学習言語と生活言語を明確に区分するよう「期待」されている状況——をどのように意識し，実践しているかを明らかにするためにドメイン別の言語の使い分けを調査した.

4.1 調査Ⅰ・調査Ⅱ　結果と考察

5 人のインフォーマントのうち第 1 習得言語と総合的母語認識でズレがあったのは，SAM と GAB であり，HIT もポルトガル語に英語が加わる形となった。SAM と GAB は，外国人居住地域在住ではないことや日本での家族環境の変化から家庭言語が日本語になっている．にもかかわらず英語を新しい母語と認識し，その選択基準を英語の国際語としての威信性に置いている．このことは CS に対する認識にも影響し，CS は「良くない」が，英語は国際語であることから、それぞれの「場」の使い分けを超越するものとして英語への CS は例外的に許容されるという考えを導いている．逆に自身の言語 (SAM : ネパール語，GAB : タガログ語）は少数言語であり、威信性が低いため，日本社会での使用を認められないという、ある種の言語ヒエラルキー観を生んでいる．KIM は，ブラジル人地域に住むペルー人家族出身である．「日本社会から日本語，地域からポルトガル語が家族の言語（スペイン語）を圧迫しつつある」ことを懸念している．家族の言語として母語に対する情緒的絆が強い．INN は，家族というよりも祖国（中国）への情緒的絆から中国語を母語と認識する．中国人居住区に住み，中国人社会へのアイデンティティを強くもつ．中国語能力の保持を強く希求する．KIM と INN は家庭が日本への永住を希望しており，日本社会に溶け込むことを家庭の躾としていることもあり，CS に対しても周囲の日本人との調和を配慮することを CS の基準と考えている．一方，HIT はブラジル人地域在住で，学校でもブラジル人が多い環境にある．母親が日本に馴染めず，兄はブラジルへ帰国してしまったこともあり，日本社会に対して全般的に懐疑的である．CS に対しては，互いに通じる相手なら通じる言語で話すのが「自然」である（よって学校でも社会でもブラジル人が相手ならポルトガル語を使ってよい）という考えをもつ．インフォーマントの言語観は、その生育環境を色濃く反映している。

表 1　**調査Ⅰ**　総合的母語認識・ドメイン別「期待」

英：英語，日：日本語，中：中国語，ス：スペイン語，ペ：ペルー語，タ：タガログ語，ポ：ポルトガル語，　ネ：ネパール語（以下，同様）

(性別・年齢)		SAM　(F，18)	HIT　(F，17)	KIM　(F，17)	INN (M，17)	GAB (M，17)
出身国・来日年齢		ネパール・13	ブラジル・13	ペルー・5	中国・13	フィリピン・13
現在の日常的使用言語		英/ネ/日	ポ/日/英	ス/日/ポ/英	中/日/英	英/タ/フィリピン語
総合的母語認識と認識の基準		英・価値 (威信性)	ポ/英・価値 (広域性)	ス/日・感情 (家族)	中・感情 (祖国)	英・価値 (威信性)
期待されていると認識する言語	学校	英/日	英/日	日	英/日	日
	社会	日	日	日	日	日
	居住地	日/ネ	ポ	ポ/ス	中	日
	家庭	日	ポ	ス	中	日

5.　調査 III　CS 意識調査

5.1　質問１　CS を促進する状況と抑制する状況

HIT：取り出し授業[1]では，何語とかじゃなくて，**わかる言葉でつないでいっていい**時間って感じ．

SAM：HIT は，授業中，隣の席の Chris や KIM[2]と話すときポルトガル語になるだろう．（略）**こそこそ話**ならいいってわけ？

HIT：何となく，ポルトガル語はみんなや先生にわかんないから，**しゃべってるけど，しゃべってないって**いうことになるっていうか．

SAM：カタカナ語は，**日本語っぽく話せば日本語**になるから使ってもいいんじゃない．［ tʃɒklɪt］　じゃなくて，チョ・コ・レート．

GAB：わざわざ下手に発音すればいいって，それ変だよ．International language　なのに．

INN：「国際語」って．GAB はいつもそう言う．**そういうの浮くよ**，（略）**ここでは**ごちゃまぜが共通語だけど，**普通クラスでは**日本語が共通語なんだよ．

CS を促進する状況は，取り出し授業など外国人生徒のみの状況や自分の持てる「言語リソース」（Young，1999）を総動員して意味を伝えようとするとき，外国人同士で「わからない」状態を受け入れてもらえる状況．話題が言語に結びついているとき，内緒話ということであった．逆に CS を抑制・自粛する状況は、日本人と日本語が主流の環境，言語を混ぜることが歓迎されない，きちんと話さないといけないと意識するときで，伝えること自体を諦めてしまうこともあるという．

5.2　CS に対する意識――**CS は「悪い・・・けど」**

SAM：混ぜるのは良くない．**文法的に間違っている**から．

HIT：文法，っていうか，学校は，英語と日本語を話すのが**きまりだから**，（略）　**相手がポルトガル語**を話せるのならポルトガル語でもいいんじゃない？

KIM：**「チャンポン」**はダメだって，ちゃんと話しなさい，って．**言葉はマナー**だからって，家で言われている．

INN：混ぜるのは恥ずかしいから，ぼくはやめるね．**語彙不足や能力不足を証明**しちゃうから．

GAB：**タガログ語**は，混ぜちゃいけない，・・・でも，**英語は，国際語なんだから**，わからないほうが悪いよ．

5 人のインフォーマントはいずれも CS および言語の混用を「悪い」もしくは「仕方ない」と評価するが，その後，「悪いけど・・・でも」と続け，然るべき理由，許容される範囲，場合によっては納得し得る効果さえあることも自覚している．特に「言語による微妙なズレ」による CS の「必要性」については全員から聞かれた．Weinreich (1974)　は，バイリンガルの CS・借用語の理由として「弁別の不十分さ (insufficient differentiated)」を挙げている．また，バイリンガルは，どの状況でどの言語で話すべきかに自覚的であり，いつ言語を切り替えたらいいかの手がかりと合図に鋭敏である．それが，バイリンガルの「コミュニケーションに対する感受性」であり，一言語内でのスピーチレベルによる調整を越えて複数の言語に跨って「最適な言語 (コード)」を模索して CS を導く要因となる．

6.　調査 IV　CS 実態調査・調査 V　フィードバック

調査 IV では，20 分ほどの自由な会話を数回にわけて採取し，2 つの特徴的なパターンが見出した．パターン I は，CS に後続する形で「Ah，」「Oh，sorry…」，あるいは舌を出してごまかす，苦笑い (本研究ではこれを「取り繕い反応」と呼ぶ)，

[1] インフォーマントたちが在籍する外国人受け入れ校では外国籍の生徒だけでなく，日本人の生徒も混在している．外国人生徒は，外国人特別枠で入学した生徒と普通試験で入学した生徒がいる．外国人選抜で入学した生徒を対象に，国語，社会，数学，理科などで「取り出し授業」と「放課後の日本語教室」をおこなっている．

[2] Chris はブラジル人，KIM は，インフォーマントのひとりでペルー人だがポルトガル語も理解可能．

他人のCSに対する「ほら～」，「Wait, wait…」といった制止や注意の反応が見られるものである．一方，パターンIIは，そうした反応がみられず，意図的にCSをおこなうもので，本研究ではこれを「戦略的ＣＳ」と呼ぶ．その後，調査Vでは，CSがおこなわれた箇所についてインフォーマント自身に振り返ってもらい，ディスカッション形式で意見を求めた．

パターンⅠ　「独り言」

SAM: Why, umbrella? INN, you have an umbrella?

HIT: Yes, fine, it's fine today, so, why, INN, you always hold an umbrella, don't you ?

INN: *就是（だから：中国語）*, ah, because it was rainy, *我就（それで：中国語）*, ah, so, brought an umbrella.

フィードバック： INN：頭のなかで話を組み立てていると，前のことについて「だから」とか，「それで」とか，独り言で言葉に出ちゃんだけど，そのときどっちの言語で考えていたかによるのかな，（略） この前，*就是（だから：中国語）* って言って，「あ，間違えた」って思ったら，*错误（間違えた：中国語）*って，それも中国語で言っちゃった．

パターンII「仲間言葉」

（INNが，GABの前に手を差し出し，尋ねる）

INN: GAB, where is my *CHARI KEY*?

GAB: Oh, sorry, here.

HIT: Why do you have INN's *CHARI KEY*?

INN: GAB used my *CHARI* this morning after *ASATORE*.

フィードバック：INN：こういう言葉はすぐ覚えた．*CHARI, KETTA, KETTA MACHINE*・・・．日能検[3]には出てこないけどね．

GAB：Joannaは，絶対使わない，って．間違った日本語だって．

INN：だから，Joannaの日本語は日能検１級受かっても，外国人の日本語だってすぐわかるって言われるんだよ．

GAB：日本人が使っているのが間違ってる日本語で，Joannaの日本語が正しい日本語・・・？

7．1．3　「媒介言語」としての英語と「相互行為能力」

本研究のディスカッションからは，複数言語を背景とするインフォーマントが英語を「媒介言語」（泉，2009）とし、各々の「相互行為能力（interactional competence）」（Hall，1993；Kramsch，1986；Young，1999）を駆使してコミュニケーションを「協働構築（co-construction）」（Jacoby & Ochs，1995）していく場面が多々見られた。複数の話者が各々知っている語彙で補い合う「持ち寄り型」や、誰かが語彙に詰まれば誰かが補う「助っ人型」の会話展開でコミュニケーションが構築される。

8.　結論

複数言語話者の複数言語能力とは，複数の言語を話す言語的能力のみを意味するのではなく，会話の場を構成する力学を鋭敏に読み取るとととともに，それに能動的に働きかけていく双方的な行為を可能にする能力である．そしてCSとは，コンテクストが会話者に要求するものであると同じくらい，行為者からのコンテクストへの積極的な働きかけでもある．本研究のインフォーマントである複数言語話者高校生らは，ともすると単一言語状況に近い日本の学校・社会・家庭の強力な「期待」下にありながらも，ときには逸脱し，「戦略的なCS」を打ち出す能動的な言語行為者といえるのである．

参考文献

Calvet, L. (2001).『社会言語学』萩尾生訳　白水社.

Cummins, J. (2000). Language, power, and pedagogy : Bilingual children in the crossfire - books. google. com.

Hall, J. K.(1995). (Re)creating our worlds with words: A sociohistorical perspective of face-to-face interaction, Applied Linguistics, 16, pp.206-232.

泉邦寿 (2009).「複数言語使用における媒介」『媒介言語論を学ぶ人のために』木村護郎クリストフ・渡辺克義　編，世界思想社. pp. 42-63.

Jacoby, S. & Oches, E. (1990). Co-construction：An introduction, Research on Language and Social Interaction, 28 (3), pp.171-183.

郭銀心 (2005).「帰国子女のコード・スイッチングの特徴」『在日コリアンの言語相』生越直樹・真田信治・任榮哲　編，和泉書房、pp.159-193.

Kramsch, C. (1986). From language proficiency to interactional competence, , Modern Language Journal, 70, pp.366-372.

Reyes, I. (2004). Functions of Code Switching in Schoolchildren's Conversations. *Bilingual Research Journal, 28: 1 Spring*. pp.77-98.

Skutnabb-Kangas, T. (1981). Bilingualism or Not：The Education of Minorities Mutilingual Matters LTD.

Sperber, D. & Wilson, D. (1986). *Relevance : Communication and cognition*. Oxford： Basil Blackwell. Second Edition.

Trudgill, P. (1983). Sociolinguistics： An Introduction to Language and Society (2nd Edition). Penguin Books.

Young, R. (1999). Sociolinguistic approaches to SAL Annual Review of Applied Linguistics, 19, pp.105-132.

Weinreich, U. (1974). *Language in Contact Findings and Problems*, Mouton de Gruyter.

[3] 日本語能力検定．本研究のインフォーマントらは，高校入学後３級（N3）から受験を始め，３年間でほぼ全員が１級（N3）に合格する．

米国大統領ドナルド・トランプ氏の演説における、非正規若者移民に対する差別的な談話ストラテジーの分析

―メキシコのペニャ・ニエト大統領の移民に対する談話ストラテジーと比較して―

廣瀬由奈（大阪大学大学院生）

1. 研究背景

今日世界ではイギリスのEU離脱やアメリカのトランプ大統領当選，フランスのマクロン大統領当選などポピュリズムが席巻しており，欧米諸国などでは移民に対する排外主義的動きも顕著になっている．2016年に当選した第45代米国大統領ドナルド・トランプ氏は，子供時代に米国に入国した不法移民の在留を認めるDACA (Deferred Action for Childhood Arrivals)プログラムの廃止を決定するなど，移民に対して強硬な姿勢を取っている．また，メキシコのペニャ・ニエト大統領はアメリカに自国民の保護を訴える一方で，中米諸国から入国する移民の取り締まりを強化しており，メキシコでもポピュリズム政権が誕生しようとしている．

2. 研究目的とリサーチクエスチョン

2.1. 研究目的

米国大統領ドナルド・トランプ氏の演説・ツイッターにおける移民やメキシコの人々に対する談話ストラテジーを分析することで，移民がどのようなラベル付けがされるのかを分析する．またメキシコのペニャ・ニエト大統領の談話ストラテジーとの比較により，移民に対する談話ストラテジーが各国の指導者によってどのように異なるのか分析を行う．今まさに移民問題に悩む両国の指導者のことばを分析することは，これから外国人受け入れの大幅な増加が行われる日本の未来を占う上でも意義のあるものと考える．

2.2. リサーチクエスション

現代社会で台頭する移民排斥主義、ポピュリズムの様相を明らかにするため、以下をリサーチクエスチョンとする。

1. トランプ大統領は移民やメキシコ人に対してどのようなラベルを付けているのか
2. 米墨の指導者は移民に対してどのような談話ストラテジーを用いているか

3. 先行研究

先行研究ではいずれも選挙の勝ち負けにおいて効果的だったレトリックを記述する研究が多く，移民に対する談話ストラテジーという切り口で詳細に分析した研究は管見の限りあまり例を見ない(Mohammad and Javad,

2017)．また，大統領選における他の候補者との比較分析を行う研究は見られるが (Savoy, 2017)，異なる国の指導者の談話を共時的に比較分析する研究は非常に少ない．最後に，トランプ大統領はツイッターを効果的に用いて認知度・共感度を上げることで有名だが，これまでの研究ではトランプの発言に反応する人々も含めた研究はほとんど見られない． 本研究では先行研究では取り上げられなかったこれらの点に着目し分析を行う．

4. 理論的枠組みと分析手法

4.1. 理論的枠組み

本研究で理論的枠組みとして用いる批判的談話研究では，権力的および差別的な価値観がどのように伝えられ，(再)生産されるのかを分析する．ここでは言語は社会において他に還元できない基本的な要素であるため，社会あるいは社会におけるイデオロギーを研究するには言語を重視しなければならないという前提がある (Fairclough, 2003). 批判的談話研究では，談話とは社会的実践，つまり時間的・空間的な社会のつながりの中に生きる人間の実践的な社会的行為と考えられている．つまりそれ以前の談話との歴史的関係性の中で，また，他者から発せられる談話との関係性の中で自分を主張するものとして理解される（野呂, 2009）．国の指導者やメディアなど，権力を持つ者は，説得や操作を通じて人々をコントロトールしており，そのような権力の行使こそが，現代では大きな力を持っている．それ故に緻密な言語表現の談話分析が意義を持つとされている(Van Dijk, 1993)．以上のような批判的談話研究の考え方は，本研究のように特定の言語使用が何らかの差別的なイデオロギーを反映している様を呈示する際に非常に有用であると考える。

4.2. データ

本稿の分析対象となるのは下記の通りである

トランプ大統領の演説約 350 点：2015 年 6 月～2017 年 9 月　839,461tokens 15,330 types

ペニャ・ニエト大統領の演説約 450 点：2015 年 6 月～2017 年 9 月 820,937 tokens 21,341 types

トランプ以前の歴代米国大統領の演説の公開コーパス 3,784,934 tokens 34,564 types

4.3. 分析手法

4.3.1. コロケーション分析

コロケーションとはある単語と別の語もしくは語以外の要素が結合する現象をいう．Stubbs (2001)は，ある語が特定の語と頻繁に共起することから，語には評価的な意味があるとしており，これを談話的韻律 (discourse prosody)(Stubbs 2001)と呼んでいる．つまり語や句が否定的または肯定的意味を持つ言語単位と典型的に共起する場合，それらの語や句は否定的または肯定的な談話的韻律を持つとされる．コロケーション内での 2 語の結び付きの強さを示す共起強度の指標 MI スコア(語 *x* の出現頻度と語 *y* の出現頻度を語 *x* と語 *y* 共に出現する頻度と比べる指標)を用い(Church, 1991)，その語を用いた国の指導者が移民に対してどのような評価を課しているのかを分析する．

4.3.2. 相互行為の談話分析

相互行為の談話分析については，オバマ前大統領が支持者を効果的に組み入れ 2008 年の大統領選の勝利に繋げたことは報告されているが(片岡, 2017)，トランプ大統領の場合は批判的な反応が多いためか，彼に対する反応も射程に入れた分析はほとんど行われていない．しかし，ツイッターではトランプ大統領に反対する立場であっても，彼のツイートをお気に入り・リツイート，リプライすることで差別的な価値観を意図せずとも共に構築・拡散してしまう構図がある．本研究ではこのような現象をトランプ大統領と一般の人々とのある種の「共謀関係」と定義し，分析する．

5. 分析

5.1. コロケーション分析

コロケーション分析により，トランプ大統領が移民に対してどのような評価を課しているのかを分析する．表 1 は，トランプ大統領がその演説において「移民」という言葉をどのような言葉と共起させたのかをまとめ，CoPS と比較したものである．

表 1 トランプ大統領の移民に対する談話ストラテジー

Trump			CoPS		
IMMIGTANT			IMMIGRANT		
語	MI	頻度	語	MI	頻度
serial	11.17	3	undocumented	10.25	6
rapist	10.75	3	undesirable	9.19	4
perpetrators	10.32	4	arriving	8.38	3
deported	9.94	18	illegal	8.10	10
previously	9.72	7	daughters	7.89	3
applied	9.71	4	striving	7.17	3
convicted	9.24	5	sons	6.88	3
arrested	9.17	4	admission	6.84	6
illegal	8.74	83	strengthened	6.28	3

表 1 のように，トランプ大統領の演説では *immigrant*，*immigrants* が *serial*，*rapist*，*perpetrator*，*illegal* といった犯罪と関わる語と強く結びついているのに対し，CoPS では他に *striving* や *welcome* など比較的肯定的な語との結びつきが多く見られたており，歴代大統領と比較してもトランプ大統領の談話では「移民」という言葉が非常に否定的な評価を持っていることが示唆される．

5.2. 相互行為の談話分析

トランプ大統領はわかりやすい過激発言を繰り返すことで人々の関心を集める炎上商法で有名である.過激なヘイトスピーチはあからさまに反対する動きを作り出すため，逆に差別をなくす動きも生み出すと言われている．しかしトランプ大統領のように炎上を引き起こし，世間に注目されることで知名度を上げようとする戦略では，彼の考えに賛同しない人も無意識のうちに彼の炎上商法に一役買っているという構図があると考えられる．片岡(2017)は，演説では演説者と聴衆は相互行為的に演説を共創するのにも関わらず，これまでの研究では聴衆の存在なども含めた，包括的なパフォーマンスとしての演説を捉える意識は希薄に感じられると述べている.そこで本研究ではトランプが効果的に用いるツイッターにおける，彼のツイートとそれに対するリプライで構成されるある種の「共謀関係」を分析する．

[データ 1]

トランプのツイート@realDonaldTrump　2.2 万リツイート　8.8 万いいね　3.8 万リプライ

2017/09/06 9:38　Congress now has 6 months to legalize DACA (something the Obama Administration was unable to do). If they can't, I will revisit this issue!

ツイッターのリツイート機能については Murthy(2012)が Goffman の埋め込み(embedding)という概念を用いて説明をしている．Murthy(2012)は Goffman の「発話を所有する人は絶えず変化する」という考えをツイッターでのコミュニケーションに応用し，「ツイートがリツイートによって別の使用者のツイートに（人工的に）再度埋め込まれることによって，そのツイートがリツイートした人によるものだと考える新しいオーディエンスを生み出す」としている．支持者であれ，反対者であれリツイートをすることでトランプの言葉を好意的でなくとも拡散しており，その言葉がトランプの手から離れ，一人歩きを始めて拡大されてしまうと考えられる．本研究では Murthy (2012)の Goffman の理論を用いたツイッターにおけるコミュニケーションの分析を参考にトランプのツイッターにおける共謀関係の談話分析を進めていく．

5.3. メキシコ大統領との比較

ここではコロケーション分析により，ペニャ・ニエトの指導者が移民に対してどのような評価を課しているのかを分析する．表 4 はペニャ・ニエト大統領の演説において移民という言葉がどのような言葉と共起しているのかをまとめたものである．

表 2 ペニャ・ニエト大統領の移民に対する談話ストラテジー

MIGRANTE		
語	MI	頻度
retorno	10.55	3
refugiados	9.75	6
agentes	7.91	3
tránsito	7.84	4
derechos	6.06	16
humanos	5.55	6
destino	5.42	4
primeros	5.02	3
protección	4.23	3

ペニャ・ニエト大統領の演説では移民は移民の権利・保護に関わる語と共起する傾向にあったが，しかし 2015 年 9 月 2 日のペニャ・ニエトの演説では移民への次に述べるような政策を正当化する様子が観察される．彼は中米から多くの移民が入国する南の国境について言及する際には，「自分の政策のおかげで人権を尊重した上での，管理され秩序だった入国が可能になり，移民の扱いが改善した」とし，「移民政策はあくまで人道的で移民のためになるものである」と主張している．コロケーション分析では彼の演説はメキシコ政府が移民に寛容で人道的であるというイメージを国民に与えていることが示唆されたが，同時にそのような言葉遣いによって巧みに移民政策を正当化していることが示唆される．

6. まとめ

トランプ大統領の談話では移民やメキシコ人が繰り返しあからさまな形で否定的なコンテクストに現れており，それによって移民，メキシコ人=不法，犯罪者というイメージが浸透していき，そのような彼の価値観はツイッターでの一般の人々との相互行為的な「共謀」によって宣伝されていった．メキシコのペニャ・ニエトの演説では人権，尊重，威厳といった言葉を巧みに使いながらニエト大統領の政策の肯定的な自己呈示を国民に行うことで移民政策が正当化されていると考えられる．

参考文献

Church, K.W., Gale, W., Hanks, P., & Hindle, D. (1991). Using statistics in lexical analysis. Uri Zernik (ed.). *Lexical Acquisition: Exploiting On-Line Resources to Build a Lexicon*. New Jersey: Lawrence Erlbaum, 115–164.

Fairclough, Norman (2003) *Analyzing Discourse: Textual Analysis for Social Research*. London: Routledge

Mohammadi, M & Javadi, J (2017). A Critical Discourse Analysis of Donald Trump's Language Use in US Presidential Campaign 2016. *International Journal of Applied Linguistics& English Literature*. **6** (5).

Murthy, Dhiraj. (2012). Towards a Sociological Understanding of Social Media: Theorizing Twitter. *Sociology*. **46** (6), 1059–1073.

Savoy, Jacques (2017). Trump's and Clinton's Style and Rhetoric During the 2016 Presidential Election. *Journal of Quantitative Linguistics*. **25** (2), 168–189.

Stubbs, Michel. (2001) *Words and Phrases Corpus Studies of Lexical Semantics*. Blackwell.

Van Dijk, T.A. (1993) Principles of Critical Discourse Analysis. *Discourse and Society*. **4**. 249–283.

片岡邦好 (2017). 言語/身体表象とメディアの共謀的実戦について―バラクオバマ上院議員による 2008 年民主党党員集会演説を題材に― 社会言語科学, **20**(1), 84–99

野呂香代子 (2009). 正しさへの問い―批判的社会言語学の試み― 三元社

災害時に必要となる語彙に関する研究

―「平成 28 年熊本地震」後 1 か月の新聞一面データの語彙調査―

津田智史(宮城教育大学)

1. はじめに

本研究は，災害時にどのような語彙が使用されているのか，また必要となるのかについて，「平成 28 年熊本地震」後 1 か月の熊本日日新聞の一面の語彙データをもとに述べるものである．近年，相次ぐ自然災害の影響から防災・減災の意識は高まっているものの，訪日外国人や在留外国人などに対して十分な措置がとられているのかについては疑問が残る．平易に言い換えた表現でわかりやすく伝えるにはどうすればよいかという観点から，「やさしい日本語」を活用する自治体も徐々に増加傾向にあるものの，実際にどのような語彙が災害時に必要となるのかについての研究は少ない．

そこで本研究では，「平成 28 年熊本地震」後 1 か月の新聞一面のデータから，どのような語彙が実際に使用され，どういった時期にそれらの語が重要となるのかについて考察する．

2. 「平成 28 年熊本地震」と資料について

ここではまず，「平成 28 年度熊本地震」の概要と，「平成 28 年度熊本地震」に関する 2 つのマスメディアによる災害語彙データの詳細について示しておく．ここで示す 2 つのデータについては，いずれも熊本日日新聞社 HP <https://kumanichi.com/>より，2016 年 4 月 14 日以降に収集したものである．

2.1 「平成 28 年熊本地震」の概要

まず，本稿であつかう事例災害として「平成 28 年度熊本地震」に関する概要について触れておく．

- 2016 年 4 月 14 日 21 時半ごろ　熊本県熊本地方を震央とする M6.5 の地震発生
  熊本県益城町で震度 7 を観測
- 同年 4 月 16 日 1 時半ごろ　熊本県熊本地方を震央とする M7.3 の地震発生
  熊本県西原村および益城町で震度 7 を観測
- 以降，熊本県，大分県で震度 6 を超える余震が相次ぐ(震度 6 強を 2 度，6 弱を 3 度，観測)
- 「平成 28 年度熊本地震」と命名(4 月 15 日)
  (後に気象庁は 14 日の地震が前震，16 日の地震が本震とする見解を発表)

「平成 28 年度熊本地震」に関する前震・本震の流れは以上のとおりである．被害の詳細については，内閣府公開の「平成 28 年(2016 年)熊本県熊本地方を震源とする地震に係る被害状況等について」<http://www.bousai.go.jp/updates/h280414jishin/pdf/h280414jishin_40.pdf>などを参照されたい．

2.2 マスメディアにみる 2 つの語彙データ

本研究においては，以下の 2 つをデータとして収集した．なお，概要で確認したとおり，当初は 4 月 14 日の地震が本震と思われたが，その後 16 日のものが本震，14 日のものが前震とされた．本研究では，14 日の前震以降に収集したデータを用いることとする．

a) 前震後 1 週間のインターネットニュースデータ
b) 前震後 1 ヶ月の新聞の PDF データ

いずれのデータについても収集・整理したのち，テキストデータ化し，その上で使用される語彙の数やその傾向について調査・検討をおこなった．なお，a)については津田(2018)で言及・考察しているので参照されたい．

データの収集に際しては，a)については，「地震」というキーワードがみられるもの，もしくは内容的に「平成 28 年度熊本地震」に関わるものを収集した．収集したデータには，ほぼすべて「地震」というワードが含まれる．b)については，熊本日日新聞社 HP で公開された PDF 版の熊本日日新聞の朝刊について収集した(夕刊がアップされた日には，夕刊データも収集している)．

3. データと分析方法

前節で示した資料の内，本発表ではb)のデータを用いて，災害後1か月間(2016年4月16日～同年5月14日，計28日間)における朝刊一面の語彙の動態や，どういった語彙がどういった時期に頻出するのかについてみていくことにする．データの分析には国立国語研究所公開の「Web 茶まめ」を利用し，テキスト化した1か月分の新聞一面データを形態素に分け，形態素ごとに集計した[1]．

また，災害後3日，1週間，半月，1か月というように災害後の時期を区分し把握することで，新聞一面に現れる各語の数や割合を確認し，それらがどのように推移しているのかについて考察をおこなう．本研究では，文章内容を理解するうえでより重要になると思われる自立語に絞って言及する．それにより，どういった語が頻出であるのか，どういった語がどの時期に必要であるのか，それらの語の難易度はどのレベルなのか，などの内容について総合的に明らかにする．

4. 分析結果

それでは，実際に朝刊一面の語彙データはどのような動態をみせるのか，調査結果からみていくことにする．

まずは，語彙量の推移を確認する．図1は災害後3日間，1週目，2週目，3週目，4週目にどのくらいの語彙が朝刊一面にみられるのか，その推移を示したものである．本研究であつかった1か月間の合計語彙量は28,674語であった．緊急時であり，見出しの大きさなど，フォントサイズなどの影響もあってか，多少の変動をみせる．各週の平均語彙量は，約7,170語であった．以下では，災害後3日間(2,068語)，1週間(5,882語)，半月(12,658語)，1か月(28,674語)の語彙量と，そこにみられる災害関連語彙の出現頻度や推移について，特徴的なものを取り上げてみていくことにする．なお，各時期の出現上位語と語数については，表1として示す．

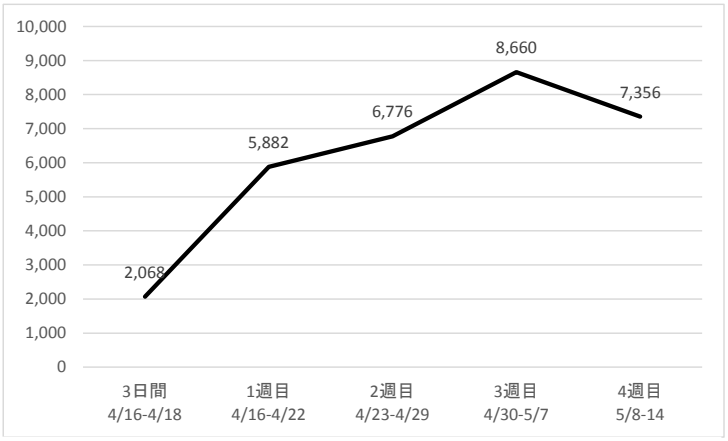


図1 朝刊一面の語彙量推移

表1 時期区分毎の出現上位語彙

	3日間			1週間			半月			1か月		
	表層形	語彙素	数	表層形	語彙素	数	表層形	語彙素	数	表層形	語彙素	数
1	さ・し・する・せ	為る	85	さ・し・する・せ	為る	236	さ・し・する・せ・し	為る	487	さ・し・する・せ	為る	1,154
2	熊本	クマモト	52	熊本	クマモト	144	熊本	クマモト	325	熊本	クマモト	623
3	地震	地震	51	いる・い・おら・おり	居る	124	いる・い・おら・おり	居る	292	いる・い・いよう	居る	587
4	いる・い・おら・おり	居る	39	地震	地震	116	市	市	234	市	市	418
5	時	時	34	市	市	92	地震	地震	198	地震	地震	397
6	県	県	29	日	日	81	日	日	196	日	日	336
7	震度	震度	25	県	県	71	県	県	154	県	県	308
8	午後	午後	24	避難	避難	68	避難	避難	147	避難	避難	268
9	日	日	22	時	時	60	時	時	103	ある・あり・あれ・あ	有る	222
10	年	年	20	震度	震度	60	村	村	99	なる・なら・なれ・な	成る	206
11	余震	余震	20	午後	午後	53	ある・あり・あっ・あ	有る	95	被災	被災	182
12	よる	因る	19	町	町	50	なる・なら・なり・な	成る	94	町	町	171
13	市	市	19	村	村	48	午後	午後	91	時	時	159
14	避難	避難	18	よる・よっ	因る	43	町	町	87	南阿蘇	ミナミアソ	152
15	以上	以上	15	ある・あり・あっ	有る	41	震度	震度	85	よる・よっ	因る	138
16	ある・あり・あっ	有る	15	益城	マシキ	40	被災	被災	84	午後	午後	137
17	益城	マシキ	14	なる・なら・なり・な	成る	40	南阿蘇	ミナミアソ	83	益城	マシキ	136
18	なる・なら・なり・な	成る	14	南阿蘇	ミナミアソ	36	よる・よっ	因る	82	いう・言わ・言い・い	言う	134
19	南阿蘇	ミナミアソ	13	町	町	36	町	町	70	震度	震度	133
20	気象	気象	13	万	万	34	万	万	70	こと・事	事	126

[1] なお，語彙データは形態素に分けたのち，次のものは除外して集計をおこなった．除外したのは，「記号，助詞，助動詞，接頭辞，接尾辞」など，基本的に自立しないものである．動詞などにも非自立形式もみられるが，それらについては考察の対象としている．

まずは，**① 常に出現割合の高い語**についてみていく．表1を見てもわかるように，これらは常に上位に現れる語である．表1に現れるものとしては，「熊本，地震，避難，震度」などがある[2](表1において白黒反転で指示されるもの)．多少順位と出現数が落ちるものの，ほかにも「震災，災害」などがみられる．これらの語は，地震そのものや災害に関わる語であることが窺える．このような語は，災害後に目にする機会が恒常的にあるものである．地名など固有名詞はともかくとしても，それぞれの意味を適切に把握できるようにしなければならない．さらに，かなり数は少ないまま推移するものの，恒常的にみられる語もみられる(「甚大，激甚」など)．災害のはなはだしい程度を示す語である．これらの語についても理解される必要がある．

また，朝刊一面に現れる語には，**② 災害後3日では多くみられたものの，その後1週間，半月と経るごとに出現割合が減少する語**がある．表1には現れていないものの，そういった語は少なくない数みられる．例えば，「観測，倒壊，警戒，揺れ」などである．大規模な地震災害の後では，その震度の大きさやマグニチュードなど，気象庁やテレビなどから情報が発信されるたびに取り上げられる．また，地震による被害やそれに対する注意喚起もおこなわれる．そういった語がここに含まれていると考えられる．これらの語は，緊急時直後に必要となるため，あらかじめ知識を備えていないと，理解できないまま，気づいたときには出現が減ってくるものである．重要な情報を伝えるためのものであるので，こういった語には特に気を配らなければならない．

次に，②とは逆に，**③ 災害後3日では少ないにもかかわらず，その後時間を経るごとに出現割合が増す語**もみられる．これも全体数を示す表1には現れないが，徐々に出現数を増していく．これら語には，「被災，被害，復旧，再開」などがある．災害時に，それがどのくらいの影響をもって生活を脅かしたのかの把握には，多少の時間を要する．また，そこから日常への回復，もしくはよりよい環境整備をおこなうためには，それなりの時間が必要である．ここに含まれる語は，そういった内容を表す語のようである．これらは，現状の正確な把握，また今後の計画・見通し把握のために正確に伝わるべき情報であろう．

なお，調査では③と同じ推移をみせるものとして「前震」も確認できた．ただし，これは2節の地震概要でも示したが，当初は4月14日の地震が本震とみられていたが，その後，それが前震であったと訂正されたことによるものであろう．

ほかにも，**④ 災害後すぐ(3日)ではなく，1週間・半月程度で出現割合が急増する語**がみられた．ここに含まれる語には，少なくとも2種類あるようである．ひとつ目は「断水，仮設，住宅」のように，災害直後3日間ではほぼみられず1週間や半月で急激に出現数を増やしたものの，その後再び出現が減っていくものである．これは，より一時的な情報にみられるものではなかろうか．被害状況の2次的な結果であったり，被害への対策・処置であったり，③と異なるのは，より具体的な内容を表す点であろう．ふたつ目は「復興，断層」のように災害後すぐには出現が認められないが，時間の経過とともに次第に現れ，継続的にみられる語である．ひとつ目とは，出現が急増する時期とその後の推移について違いがみられる．また，③のものとも異なるのは，たとえば「復旧，再開」などが状況回復であるのに対し，こちらは明確な回復時点を持たない点である．

以上，みてきたように，集計した朝刊一面1か月分の語彙データをみると，災害後の時期区分で使用語彙の動態にいくつかの傾向と語彙の特徴がみてとれる．上記に示したもの以外のものも含め，表2のようにまとめられる．これはつまり，災害時に必要な語彙についてみていく際には，このような時期区分が有用であり，それらを基準として語彙の多寡を分析したり，災害時における必要語彙の頻出時期を見極めたりと，今後の災害時の語彙研究への可能性を示すものといえる．

表2 時期区分と出現語彙の推移の特徴

	時期区分と出現語彙の特徴	語の例
	① 常に出現割合の高い語	熊本，地震，震度，災害，避難，震災，甚大，激甚 など
	② 災害後3日では多くみられたものの，その後1週間，半月と経るごとに出現割合が減少する語	観測，倒壊，警戒，揺れ，家屋，土砂，対策，捜索 など
	③ 災害後3日では少ないにも関わらず，その後時間を経るごとに出現割合が増す語	被災，被害，復旧，再開，支援，危険(，前震) など
	④ 災害後すぐ（3日）ではなく，1週間・半月程度で出現割合が急増する語	断水，仮設，住宅，耐震，復興，断層 など

加えて，本研究では災害後1か月の語彙量や割合を算出しているが，半月のデ

[2] ここでは基本的に災害時に必要となる災害関連語彙をあつかうものとするため，「南阿蘇，益城」といった地名などの固有名詞は取り上げていない．ただし，「熊本」については，「平成28年熊本地震」の名についたことから，関連語彙として，ここでは取りあつかった．

ータをほぼ倍増させた程度の数値を示すものが多く，日数が増えた分だけ数や割合が増加したととらえられるものが多かった．その中でも，②の特徴を示す語が多くみられたことが，災害時の語彙のひとつの特徴といえよう．

5. 「やさしい日本語」と語彙難易度

すでに，山下(2012)や中西(2013)が述べるように，現状「やさしい日本語」として示されるものは旧日本語能力試験3級程度のものであるが，実際の在留外国人のわかりやすい日本語の基準としては4級程度が望ましいようである．その理解向上のためのツールや方法論については本発表とは別に述べるとしても，4 節でみたような語については，災害時に必要になることが明確であるため，あらかじめ円滑な理解，運用，またコミュニケーションの際に利用できる状況を整備しなければならない．ひとまず，ここでは日本語読解学習支援システム「リーディングチュウ太」〈http://language.tiu.ac.jp/〉を利用し，4節で確認した語彙の難易度判定をおこなう．

4節でみた語の難易度をみてみると，4級「地震，揺れ(る)」，2・3級「観測，被害，住宅，断水」，1級「避難，災害，警戒，復興，復旧」という様相であり，そのほかは級外の語であった．時期に関係なく，多くの語が在留外国人にとって難易度が高いことがわかる．もちろん，本調査の対象が地元住民(主に日本語が理解できる前提)のための新聞という媒体であり，在留外国人だけのためのものではない．ただ、災害時にみられる語は在留外国人にとって，単純な級数の判断だけでは難易度が高いものも多く，情報が正確に伝わらないことが想像に難くない．

それらの語は，時期的な差や一時的・継続的のように期間に差はみられるものの，災害時を想定した際に頻出するものであろう．そして，重要な情報を伝えるものであることが日本語母語話者には当然の語であるが，在留外国人には決してやさしいものではないことが窺える．近年では自治体等が早急に「やさしい日本語」での対応を図る場面も見受けられる．ただ，こういった語をあらかじめ把握しておくことで，災害時また防災時にどのような語が必要であるのか，もしくはないのか，理解しやすいのか，もしくはしにくいのか，などといった点が明確になり，より円滑な情報伝達の助けとなるであろう．

6. おわりに

本研究では，「平成28年熊本地震」後の地元新聞の朝刊一面データをもとに，どのような災害関連語彙が災害後に使用され，いかなる時期にどのような推移をみせるのかについてみてきた．その結果，時期区分と語彙の推移にはいくつかの傾向がみられた．また，そこに現れた語の難易度をみていくと，多くの語が在留外国人にとって理解の難しい語であることが窺えた．災害時のより円滑な情報伝達・共有のためには，それらの必要語彙についての理解を深める必要があるだろう．これについては，防災を促す自治体，備えをする在留外国人だけでなく，災害時に円滑にコミュニケーションを図るため，私たち住民ひとりひとりの意識的な備えが必要であろう．

もちろん，本研究で示した語については語彙総数のほんの数%にすぎない．しかし，限られた紙面・紙幅において，これらの語が理解できるかどうかで，在留外国人の情報理解・伝達，また行動が左右される恐れがある．加えて，本研究で扱ったデータは，「平成28年熊本地震」後1か月の被災地の地元新聞を対象とする，ひとつのケーススタディである．ほかの事例や，またほかの自然災害についても同様に検討を重ねることで，災害関連語彙の出現時期や傾向についてさらに理解を深めることができるであろう．その点においても，本研究のデータは，今後の自然災害時，特に地震による災害時における貴重なデータとなるはずである．

付記　本研究はJSPS科研費15K02672の研究成果の一部である．

参考文献

津田智史（2018）．「平成 28 年熊本地震」後のマスメディアにみる災害語彙の分析 多文化共生社会に向けての災害時コミュニケーションに関する総合的研究 科研費成果報告書，20-29

中西太郎（2013）．外国人が言い換えた「やさしい日本語」―茨城県・千葉県におけるインタビューを通して― 命綱としての日本語―緊急時コミュニケーションの社会言語学的研究― 科研費成果報告書，69-82

弘前大学人文学部社会言語学研究室（2013）．増補版・災害が起こった時に外国人を助けるマニュアル(弘前版)

山下暁美（2012）．災害時の「やさしい日本語」再考 東吳大學日本語文學系創系40周年記念2012年日本語教學國際會議大会手冊，1-13

わかりやすさを目的とした文章における句読点と改行の多寡
―「ステージ」レイアウトリニューアル前後の比較分析から―

岩崎拓也(一橋大学大学院生)

1. はじめに

知的障害者にとってのわかりやすい文章，見やすい文章とは何かを考察することは，「ことばのユニバーサルデザイン」(古賀,2006)を構築する上で必要不可欠である．古賀(2006)では，情報へのアクセスを制限された状態である知的障害児・者にまで広げた「ことばのユニバーサルデザイン」を考慮するとき，発信側のユニバーサルデザインを意識的に考えていく必要があることを指摘している．

知的障害者にとってわかりやすい文章構造や言語表現については，すでに工藤・大塚・打浪(古賀)(2013)が一般的な文章と比較している．その一方で，どのようにわかりやすく書き直しているか，どのようにすればわかりやすくなるかといった書き手の意識については，分析が行われていない．たとえば，「健常者」が知的障害者向けにわかりやすく文章を書き直した文章と，知的障害をもつ当事者が自らわかりやすく書き直した文章とでは，おそらくその方策は異なるであろう．つまり，発信側のユニバーサルデザインについては，まだ考察する必要があると言える．

そこで，本研究では，その最初の試みとして，知的障害者への情報提供を目的とした機関誌「ステージ」を対象とし，テキスト内の句読点と改行を取り上げた．

句読点と改行を取り上げた理由は，従来の「わかりやすさ」を重視した文章の書き換えは，「見やすさ」を重視しているかが不明であるためである．一般に可読性と呼ばれるものには，2種類の方向性が存在する．1つは，文章難易度とも呼ばれるリーダビリティ(Readability)，もう1つは，レジビリティ(Legibility)と呼ばれるものである．これまでの書き換えに関する分析と考察は，語彙や文法，文章構造といったリーダビリティに関する分析が多く行われている．しかし，文章の読みやすさは，周辺的なレイアウト，つまり，レジビリティを含めて考慮した上で，判断されるべきではないだろうか．この，レジビリティに関わるものには，文字の大きさやフォント，下線や斜体，文字装飾も含まれうるものである．実際に，あべ(2013)では，わかりやすい表現は文章表現だけの問題ではないことを指摘しており，フォントや文字の大きさ，改行といった，その他の要素を工夫することで文章は「やさしく」なると述べている．しかしながら，この「見やすい」日本語を考察するにあたって，これらの変数を同時に考察することは難しい．そのため，本研究では言語的な見やすさに関わると考えられるものに対象を限定した．

2. 分析対象の詳細と先行研究

2.1 「ステージ」とは

「ステージ」は，主に簡単な文字情報やことばによるコミュニケーションが可能である軽度(または中度)の知的障害を持つ人々のために作成された新聞である．知的障害者の親たちが中心となって組織している社会福祉法人「全日本手をつなぐ育成会」(東京都港区)が発行元となり，1996年9月に創刊され，タブロイド判8ページで年4回季刊誌として発行されていた(野沢,2006a)．企画・運営の時点から知的障害者が編集委員を務めているという点で当事者主体性があったと言われている(打浪(古賀),2014；打浪・岩田ほか,2017)．「ステージ」作成における「わかりやすさ」への工夫は，2つに大別されている．1つは，わかりやすい文章への配慮，もう1つは，視覚的な見やすさへの配慮である．視覚的な配慮として，以下の点が挙げられる．

(1)視線の移動ができる限り，少なく済むように配置されていること
(2)文章の中で重要な単語は，赤または太字で表示されており，その部分だけ拾い読みしても概略が理解できるように工夫されていること

(3)改行は句読点や意味の切れ目に合わせて行われていること
(4)紙面ごとに配色が統一され，ふりがなの色まで合わせてあること

2.2 先行研究

知的障害者にとっての「わかりやすさ」とは，どのようなものなのか．この問題について，当事者の視点から研究を行っているものは少ない．実践の中からまとめられた研究は，散見されるものの(野沢, 2006a, b, 藤澤・河西, 2012)，多くはなく，本研究と同様の計量的な分析は，羽山(2010)や打浪・岩田ほか (2017)，打浪・熊野ほか(2018)に留まっている．

実践的な経験からの知見をまとめている先行研究を見てみると，野沢(2006a, b)では，句点を増やして一文を短くすること，主語と述語の関係を明確にすること，接続詞は使わないこと，比喩や擬人法を使わないこと，かぎかっこ(「 」)を使わないことを挙げている．藤澤・河西(2012)も野沢(2006a, b)と同様に知的障害者にとってわかりやすいテキストにするためのリライトのポイントについて，実践の中から得た知見をまとめている．それらの中には，ルビを振る，わかりやすい言葉に替える，1文には1つの内容，1項目には1つの内容にし，複数ある場合は分けるといったルールを挙げている．また，レジビリティに関わるレイアウトについては，ページの行数を制限すること，1つの文がまとまって見られるように改行するといったことを挙げているものの，詳細については言及されていない．計量的な視点から分析しているもとしては，羽山(2010)がステージと毎日新聞の比較を行っており，ステージの文章は，毎日新聞の文章に比べて，1文数が少なく，4文字以上の漢字列が少ないことを明らかにしている．打浪・熊野ほか(2018)では，「ステージ」全69号分のテキストを対象として，経年変化を検討している．その結果，文長に関しては，数を重ねるごとに1文の平均文長(平均形態素数)が四文字程度短くなっていることを明らかにした．その一方で語種と形態素の品詞，語彙の難易度については，経年変化がないことを分析から明らかにしている．

図1　ステージ66号(2013年夏号)

3. 本研究の視座

知的障害児・者といった当事者にとってわかりやすい表現とは何かを追究することは，「ことばのユニバーサルデザイン」(古賀, 2006) を考える上で，これから不可欠な観点であると考える．また，知的障害の特性として視覚優位であると言われているが(坂井, 2015)，ことば自体のわかりやすさ，見やすさについての分析は多くない．そのため，本発表では，当事者にとってわかりやすい表現そのものは日本語の多様な表現の形態の1つだとみなす立場から，分析を行うことにする．先行研究でも概観したが，知的障害者向けのわかりやすい情報提供を目的として作成されていたステージは，54号(2011年6月号)以降，大幅なレイアウトリニューアルが行われている(打浪(古賀), 2014, 打浪・岩田ほか, 2017)．特に，打浪・熊野ほか(2018)では，54号以降は記事作成時にレイアウトにあわせて文長がかなり意識されており，文長の減少に影響を与えている可能性を示唆している．

これらを踏まえ，本研究では句読点と改行の経年変化を調査した．ステージのレイアウトリニューアルが行われた54号を境目に2つに分け，句読点の使用の異なりと改行の位置の違いから，文章のわかりやすさと見やすさの一端を明らかにすることを試みた．

4. 分析方法と結果

4.1 データの概要と分析方法

ここでは，分析に使用したデータの概要と分析方法について説明する．

本研究では，言語資源協会(http://www.gsk.or.jp/)で公開，配布されている「知的障害者向け新聞『ステージ』テキストデータ (GSK2017-E)」を使用した．このデータには，原文改行テキストデータと句点改行テキストデータが存在す

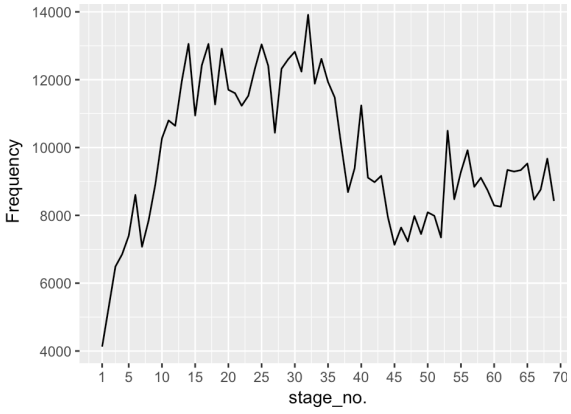


図2　形態素数の経年変化

るが，今回は，見やすさに関わる分析を行うため，原文改行テキストデータを使用した．

分析にあたって，見出しを削除した上で，ステージの 1 号ごとに句読点の数と改行の数，改行の直前の形態素の品詞を抽出した．なお，形態素解析には MeCab(0.996)を，辞書には，unidic-cwj-2.2.0 を使用している．句読点は，unix 上で，「補助記号-句点」と「補助記号-読点」をそれぞれ grep して抽出，データセットとした．改行は，n-gram を作成した上で，改行箇所とその前の形態素を抽出して，データセットとした．そして，これらのデータセットをリニューアルの前後(54 号以前と以後)で分割した．その後の分析は全て R(version 3.4.3)を使用した．図 2 に各号の形態素数の経年変化を示す．

4.2 分析結果：句読点と改行の多寡

リニューアル前後の句読点使用の頻度を調査した結果，句点の平均は，リニューアル後の方が少なかった(前 323 個，後 272 個)．分散も，リニューアル後の方が小さかった(前 81.2，後 24.4)．また，読点も同様の結果であった(平均：前 374 個，後 284 個，分散：前 111，後 40.4)．改行についてもリニューアル前後でどのような違いがあるかを確認した．その結果，句読点と同様に改行もリニューアル後の方が多く使用されていること，分散が小さいことがわかった(平均：前 699 個，後 912 個，分散：前 161，後 49.8)．

句読点と改行の使用頻度を見てみると，リニューアル後は句読点の使用が減っている一方で，改行の使用頻度が増えていることがわかる．この結果は，リニューアル後の記事は，句点の数が少なくなっていることから，一文が長くなっていると考えられる．しかし，適切な改行を試みることで読みやすさと見やすさを考慮していると考えられる．また，改行することで読点を使用しなくても切れ目がわかるために読点の数が少なくなったとも考えられる．

4.3 分析結果：句読点と改行の経年変化

次に，号を重ねるごとに，どのように句読点と改行の使用頻度が変わっていったのかを調べた．以下，図 3 から図 5 は，句読点と改行の経年変化を示したものである．いずれも 20 号から 40 号付近の使用が多いことがわかる．リニューアル後の句読点と改行を見ると，句読点は減っているが，改行は増えていることがわかる．

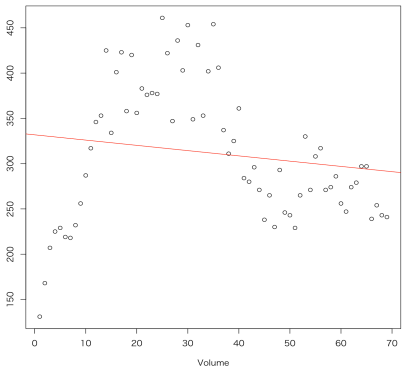


図 3　句点の多寡の経年変化

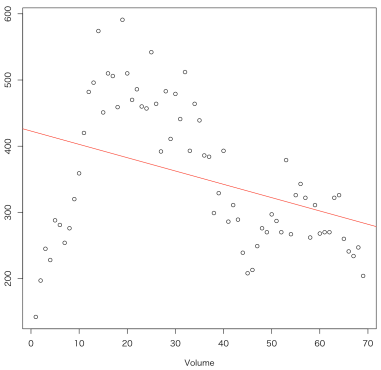


図 4　読点の多寡の経年変化

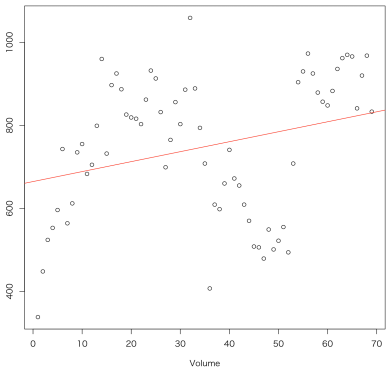


図 5　改行の多寡の経年変化

4.4 分析結果：改行する直前の品詞

改行直前の品詞を全 69 号から抽出し，その頻度と割合を比較した．助詞と補助記号は，リニューアル後の方が多いことがわかった．また，リニューアル前は，名詞の後で改行されることが多かったが(26.18%)，リニューアル後では，8.09%にまで減少している．そのほかにも，リニューアル後は，接頭辞と代名詞の直後の改行が 1 例も見られなかった．助動詞と動詞，名詞以外の直後の改行は 1%以下であることから，リニューアル後は，改行位置に気を配っていたことがうかがえる．

各号がどのような関係にあるかを確認するために，対応分析を行った．図 6 は対応分析の結果である．図 6 を見てみると，助詞と補助記号というクラスタとそれ以外の品詞と対応があるクラスタの存在が確認できる．助詞と補助記号に対応しているクラスタ内の号数は，いずれも 54 号以降であった．

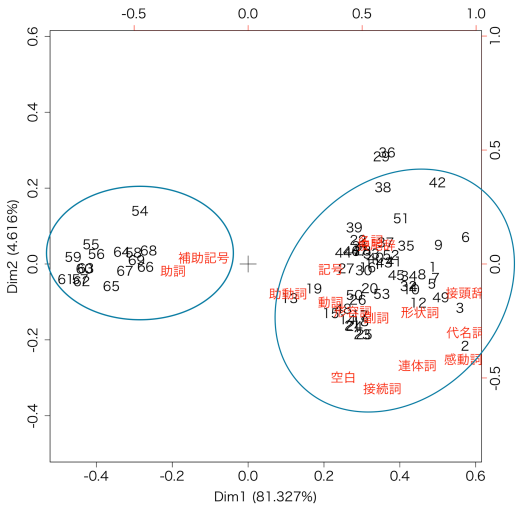


図 6　対応分析の結果

4.5 リニューアル後の助詞と補助記号について

リニューアル後の助詞と補助記号の詳細とその頻度を調べた．表 1 と表 2 はその結果である（括弧内の数字は%を示している）．その結果，助詞はリニューアル後に格助詞と係助詞の直後での改行が少なくなり，終助詞と接続助詞，副助詞の直後での改行が増えていることがわかった．また，補助記号の内訳とリニューアル前後の関係を比べると，読点の直後の改行は減っているが，それ以外の一般（「！」「・」など），括弧閉，句点の直後での改行は増えていた．

表 1　助詞の内訳

レイアウト	格助詞		係助詞		終助詞		準体助詞		接続助詞		副助詞		総計
new	3203	(67.04)	811	(16.97)	32	(0.67)	0	(0.00)	489	(10.23)	243	(5.09)	4778
old	3423	(53.19)	737	(11.45)	1084	(16.84)	1	(0.02)	813	(12.63)	378	(5.87)	6436
総計	6626	(59.09)	1548	(13.80)	1116	(9.95)	1	(0.01)	1302	(11.61)	621	(5.54)	11214

表 2　補助記号の内訳

レイアウト	一般		括弧閉		句点		読点		総計
new	80	(1.09)	378	(5.13)	4201	(57.05)	2705	(36.73)	7364
old	374	(3.03)	1766	(14.29)	8200	(66.37)	2015	(16.31)	12355
総計	454	(2.30)	2144	(10.87)	12401	(62.89)	4720	(23.94)	19719

5. まとめと今後の課題

以上，本発表では，知的障害者への情報提供を目的とした機関誌「ステージ」を分析の対象に，テキスト内における句読点と改行の異なりを分析した．その結果，句読点は号を重ねるごとにその使用が少なくなるが，改行は使用が多くなっていることが明らかになった．また，計量的な観点からもレイアウトリニューアル後は，句読点と改行が重要視された上で記事が作成されていることが確認された．さらに，改行は，助詞と句読点といった補助記号の直後で行われることが多いことが明らかになった．

今後の課題としては，以下のことが挙げられる．今回は，形態素の数を分析の基準としたが，1 文あたりの文字数との関係も考える必要がある．また，分析で使用したデータはプレインテキストであったために取り扱えなかった．さらに，縦書きで書かれているか，横書きで書かれているかかといった問題も見やすさに関係がある可能性がある．読点については，リニューアル後は，改行直前に多いことが明らかになったが，その前（2 文字前）にどのような品詞が多いのか，文中において読点はどの品詞の後でうたれているのかといったことも分析する必要がある．

謝辞　執筆にあたり，淑徳大学短期大学部の打浪文子先生から有益なコメントを頂いた．ここに感謝する．

参考文献

あべ・やすし（2013）．情報保障と「やさしい日本語」　庵功雄・イ ヨンスク・森篤嗣(編)「やさしい日本語」は何を目指すか，279-298，　ココ出版
羽山慎亮（2010）．活字情報バリアフリーにおける漢字の関わり　メディア学―文化とコミュニケーション―，**25**，10-34.
藤澤和子・川西聖子（2012）．知的障害者の図書館利用を進めるためのLL（やさしく読める）図書館利用案内　図書館界，**64**（4），268-276.
工藤瑞香・大塚裕子・打浪(古賀)文子（2013）．知的障がい者のコミュニケーション支援に向けたテキスト分析　言語処理学会第19回年次大会発表論文集，280-283.
古賀文子（2006）．「ことばのユニバーサルデザイン」序説―知的障害児・者の言語的諸問題の様相から―　社会言語学，**6**，1-17.
坂井聡（2015）「4-2 わかるように伝えるために ～自閉症スペクトラム･知的障害のある人に～」　映像情報メディア学会誌，**69**，7 543-547.
野沢和弘（2006a）．わかりやすさの本質　NHK出版
野沢和弘（2006b）．知的障害者のための新聞「ステージ」　月刊言語，**35**（7），60-67.
打浪(古賀)文子（2014）．知的障害者への「わかりやすい」情報提供に関する検討 ―「ステージ」の実践と調査を中心に―　社会言語科学，**17**（1），85-97.
打浪文子・岩田一成・熊野正・後藤功雄・田中英輝・大塚裕子（2017）．知的障害者向け「わかりやすい」情報提供と外国人向け「やさしい日本語」の相違 ―「ステージ」と「NEWSWEB EASY」の語彙に着目した比較分析から―　社会言語科学，**20**（1），29-41.
打浪文子・熊野正・田中英輝・後藤功雄・美野秀也・岩田一成（2018）．知的障害者向けのわかりやすい情報提供のテキストの傾向―「ステージ」の経年変化の分析から―　言語処理学会 第24回年次大会発表論文集，168-71.

創造的慣習性，あるいは慣習的創造性

— 誤表記にみる慣習とせめぎ合う文法の姿 —

吉川 正人 (慶應義塾大学)

1. はじめに

とある講演 (von Petzinger, 2015) の書き起こしに，以下のような 1 文が登場する:

(1) The funny this is that at most sites the geometric signs far outnumber the animal and human images.

冒頭の “The funny this is . . . ” というフレーズは文法的には明らかに破格であり，音声を聞くと，“The funny [thing] is . . . ” と発しているように聞こえるため，「this は thing の誤表記である」と結論付けることができそうである．しかしながら，ここには 2 つの問題がある:

(2) a. なぜ書き起こした人物は this と表記したのか
b. 破格な表記が他の「正当」と考えられる表記 (. . . thing . . .) になぜ優先されたのか

音声的には thing と発しているように聞こえ，母語話者であれば誤表記するとは考えにくい上に，仮に音声的には this に聞こえたのだとしても，書き起こし作業にあたっては，フレーズ全体の文法性や表現の慣習性に影響され，トップダウンに thing を用いた表現が採用されると考えるのが自然である．さらに，当該フレーズ the funny this is や，funny を他の形容に置換した類例 the interesting this is 等をウェブ検索してみると，相当数のヒットがあり，一回限りのミスではない，ある種のパターンとして認定できる可能性が示唆される．

本発表では，この [the ADJ this is] 表記についての考察を通して，慣習性とせめぎ合う文法の姿を素描することを試みる．具体的には，以下の点を論じる:

(3) a. 当該表記は [the ADJ thing is] の thing 部分が音韻的な縮約により音変化したことで生じた表記である
b. thing が this と表記されるのは，音韻縮約によって「thing ではない」と判断され，同時に，類似の音を持ち一定以上の頻度で生起する慣習化されたフレーズである this is . . . が想起されたためである
c. a，b が正しいとすれば，音声の認識 (とそれに基づく表記) はより大きな単位のフレーズが優先され (Cf. イディオム原則: Sinclair, 1991)，合致するフレーズが存在しないとみなされた場合は，部分を構成するより小さい単位での照合が行われる，ということを示唆する
d. c の帰結として，ヒトは単語を合成して表現を生成しているというよりは，適切な表現全体を選択し，必要に応じて最小限の分析を行い部分をつなぎ合わせることで表現生成を行っている (Cf. 「必要な時だけ」解析: Wray, 2007) ということが示唆される

2. [the ADJ this is] の実態

2.1 ウェブ上の実例

1 つの可能性として，[the ADJ this is] という表記が生じたのは，(1) の書き起こしを行った人物による単なるミスであるということも考えられる [1]．しかしながら，上に述べた様に，ウェブ上には当該表記の実例が数多く存在しており，また，ADJ 部分の実現値は funny だけでなく，例えば interesting などに置換した the interesting this is といった表記も散見される．(4) に実例を提示する．

(4) a. **Mal’s got a very princess-y look in the beginning. What inspired her look?**
Kara Saun: The funny this is, I call Dove my little princess. [2]
b. “The interesting this is that Gov. Romney has been running around talking about his five-point plan,” he said. [3]

(下線は筆者による．ボールドはオリジナル．)

[1] ただし，それでも，「なぜほかならぬ this が表記として選ばれたのか」という (2) に挙げた問題は残り，「偶然」として処理するほかない
[2] https://hollywoodlife.com/2017/07/18/descendants-2-costumes-mal-evie-sequel-interview/
[3] https://www.washingtontimes.com/news/2012/oct/17/obama-starting-get-hang-debating-jabs-romney-binde/

(4a) はインタビューの書き起こしであり，また，(4b) は直接引用部分で当該表記が登場している．このように，全てではないにせよ，[the ADJ this is] という表記は音声を書き起こした際に生じていると考えられるケースが非常に多い．

[the ADJ this is] という表記が実際どの程度頻繁に見られるものなのか，あるいは ADJ 部分の実現値にどのようなものがありうるか，という点に関しては，検索サイトを用いた純粋なウェブ検索では検証が難しい．ウェブ検索では品詞を指定したワイルドカード検索は行えないため，ADJ というスロットが指定できない上，前者に関しては検索のヒット数が一つの基準にはなるものの，同一内容のページが複数ヒットしていたり，ソースとしての信頼性に疑問の余地があるものも含まれてしまうためである．そこで，約 20 億語規模の巨大なウェブコーパスである *Corpus of Global Web-Based English* (以下 GloWbE: Davies, 2013-) を用いて実態調査を行った．また，補助的に，GloWbE と共に Brigham Young University の Mark Davies 氏が開発・運営するウェブコーパスである *iWeb: The 14 Billion Word Web Corpus* (以下 iWeb: Davies, 2018-) も使用した[4]．品詞タグを用いて [the ADJ this is] を検索した結果の一部を表 1 に示す．総ヒット数は 148，異なりは 81 であった．この中には，

(5) None are braver than the other this is just my opinion though.[5]

のように実際は当該表記の実現になっていないものも含まれているが，interesting (1) や amaizing (5)，strange (9)，important (12)，そして funny (14) が現れているものに関しては全て当該表記の実現例となっていた．また，iWeb で [the funny this is] および GloWbe で最頻出であった [the interesting this is] を検索したところ，それぞれ 20 例，18 例のヒットがあり，全て当該表記の実現例であった．

表 **1**: GloWbe (Davies, 2013-) 上の [the ADJ this is] における ADJ の実現値 [頻度 3 以上]

	ADJ	freq.		ADJ	freq.
1	interesting	11	8	outside	4
2	other	11	9	strange	3
3	special	6	10	sad	3
4	main	6	11	poor	3
5	amazing	5	12	important	3
6	above	5	13	left	3
7	original	4	14	funny	3

この検索結果をどうとらえるかは難しいところであるが，一定のバリエーションを持ち一定の頻度で生起している表記であることは確認できたと言えよう．従って，当該表記は，単なる一過性のミスではなく，何らかの規則性を持ったパターンであると結論付ける．

2.2 [the ADJ this is] の由来

先に述べたように，[the ADJ this is] は [the ADJ thing is] の誤表記であると考えられるが，その妥当性は (1) の音源における発音と，上に挙げた複数の実例を観察した上での意味上の類似性に依存しており，もう少し客観的な指標で確かめる必要性もあるように思える．そこで，GloWbe (Davies, 2013-) を用い，[the ADJ this is] の ADJ 部分の実現値として現れる形容詞が，[the ADJ thing is] の ADJ 部分の実現値としても高い頻度で現れていることを確認する．データを表 2 に示す．ボールドで示したものが両者に共通する形容詞であるが，[the ADJ this is] 側においてアスタリスクを付与したもの (other* など) は，実例がほぼ全て当該表記の実現になっていない形容詞であり，実質リストから除外して差し支えないと思われるものである．従って，アスタリスクのついていない形容詞に関しては，全て [the ADJ thing is] における ADJ の実現値として高頻度で出現していることが伺え，当該表記が [the ADJ thing is] の誤表記である可能性が強く示唆される．

2.3 thing の音韻縮約の可能性

本節の最後に，(3a) に提示した，[the ADJ thing is] における音韻縮約の可能性についての議論を提示する．結論から言えば，thing 部分の音韻縮約を示す客観的な証拠は得られていないのであるが，(1) における音源の音響的な解析を通して，その可能性を示すことを試みる．図 1 に，von Petzinger (2015) において，“the funny this is” という書き起こしがなされている部分を抽出した音源を解析したスペクトログラムを提示する．赤枠で囲った部分が “this” と表記

[4] iWeb は 140 億語規模であり GloWbe の数倍のサイズである上に，データ整備も入念に行われているため信頼も高いのであるが，本稿執筆時点では検索・閲覧用のウェブインターフェイスで品詞タグを用いた検索がうまく動作しなかったため，主用途での使用を断念した．

[5] http://kirstie-2ndchanceatlife.blogspot.com/2012/10/did-you-know-i-never-used-to-want.html

表 2: GloWbe (Davies, 2013-) 上の [the ADJ thing is] と [the ADJ this is] における ADJ の実現値 [上位のみ]

	the ADJ thing is	freq.	the ADJ this is	freq.
1	**important**	3010	**interesting**	11
2	**whole**	2288	**other***	11
3	**funny**	1817	special*	6
4	**sad**	1396	**main***	6
5	good	1355	**amazing**	6
6	**main**	1352	above*	5
7	best	1342	original*	4
8	**other**	1121	outside*	4
9	only	952	**strange**	3
10	**interesting**	676	**sad**	3
11	worst	572	**poor***	3
12	great	541	**important**	3
13	key	442	left*	3
14	**strange**	384	**funny**	3
15	**amazing**	317		

されている部分に相当する．詳細な音響的な分析は未実施であるが，当該部分の各周波数帯 (特に F2-F4) が周囲と比較して弱化していることが確認できる．この事実がすなわち音韻縮約を意味するわけではないが，少なくとも音声的な弱化の可能性を見て取ることはできる．詳細は分析は今後の課題としたい．

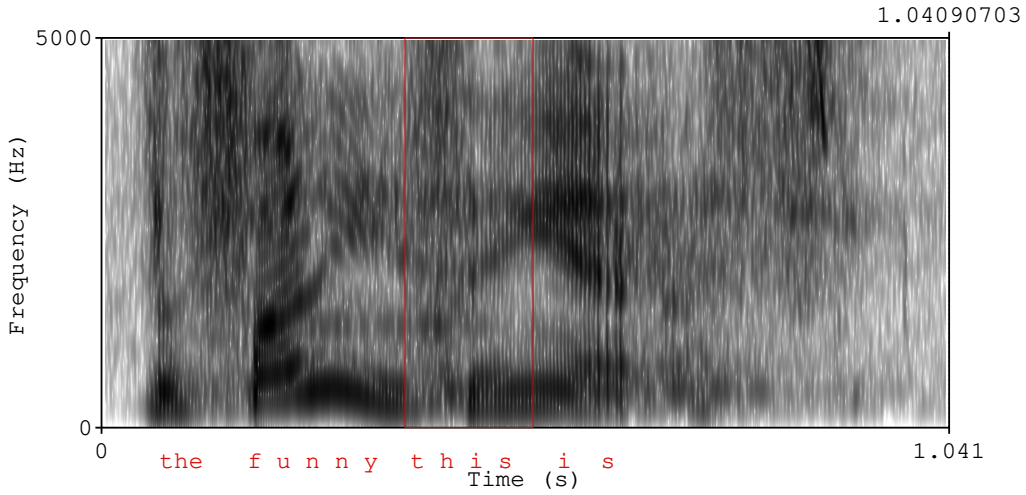


図 1: von Petzinger (2015) における “the funny this is” 部分のスペクトログラム (Praat [ver. 6.0.39] で作成)

3. 慣習とせめぎ合う文法の姿

ここで，[the ADJ this is] という表記が生じた要因を，創造的な言語使用を生み出す文法の働きと，定型的な言語使用を優先させる慣習との競合・拮抗に求める，ある種の文法観を提示する．具体的に言えば，(3b) に提示した通り，当該表記において this が選択されたのは，this is ... という極めて慣習性の高いフレーズの存在が故である，と考える．もちろんこれは，this 以外の表記が選択されうる可能性を全て排除するものではなく，this が選択される可能性が非常に高いことを示す程度であるが，目下のところ，これ以外に this が表記として選択された可能性が考えらえないのも事実である．これが正しければ，(3c) に示したように，ヒトは，少なくとも耳から入ってきた音声がどのような言語表現の実現になっているかを判断する際には，文法的にあり得るかどうかということよりも，部分的であれ慣習的な定型表現の実現になっているかどうかを優先的に判断し，合致する (と思しき) 定型表現あればトップダウ

ンにその表現を認識対象として選択することがある，ということが帰結される．これこそが，慣習とせめぎ合う文法の姿である (3d).

この考えは，「他の条件が等しければ全体的な解釈が優先される」という，いわゆる「イディオム原則」(the idiom principle: Sinclair, 1991) の議論と類似するが，大きな差異もある．Sinclair (1991) は，イディオム原則の対極に「自由選択原則」(the open choice principle) を挙げており，全体が優先されないような状況 (e.g., プライミング) においては，自由な語彙の選択が行われると考えている．しかしながら，[the ADJ this is] 表記が示唆するのは，“the funny thing is” という全体が (恐らくは音韻縮約によって) 認識されなかった際に移行するのは，自由な選択ではなく，this is ... という，「次に大きなサイズの全体」であり，規模が縮小しただけで，「全体優先」であることに変化はない，という可能性である．

また，類似の議論として，Wray (2007) の提示する，「必要な時だけ」解析 (‘needs only’ analysis) という文法モデルが挙げられる．Wray (2007) は，車の整備などを例に挙げ，通常の言語使用では表現の内部構造を気にすることなく，定型的に，表現全体を選択して使用しているが，何かトラブル (e.g., 相手にうまく意図が伝わらなかった) が生じた際には，ニーズに応じて表現を分析し，創造的に組み替える必要が生じる，と論じており，文法というのはそのような場合に活躍するもので，日常の言語使用にとってはそこまで大きな役割は果たしていないという，定型表現中心の言語観を提示している．[the ADJ this is] も，このようなモデルで記述・説明することが可能であると考えらえるが，Wray (2007) は，定型的言語使用でうまくいかなかった場合は「分析モード」に移行する，という考えを提示しており，この点で Sinclair (1991) の議論と同様に，[the ADJ this is] 表記の実態を説明しきることができるとは言い難い．

本節の最後に，[the ADJ this is] が this is ... という「次に大きい全体」を選択した結果生じたものであることを示す一つの証左となるデータを提示する．ウェブ検索をしてみると，[the ADJ thing is] の誤表記とみられる，[the ADJ think is] という表記も存在していることが確認できる．thing と音声的に酷似した think が誤表記に現れるということは極めて自然であり，仮に文法的な破格性が生じるとしても，「音声的類似性に基づくエラー」として説明がつく．一方で，この事実は，[the ADJ this is] という表記の存在を改めて先鋭化するものでもある．即ち，[the ADJ this is] という表記は，純粋な音声的類似性に基づくエラーでは説明がつかず (そうであれば this ではなく think が選択されるだろう)，何らかの他のトップダウンな処理を想定しなければならない，ということである．さらに，iWeb (Davies, 2018-) で [the funny think is] を検索してみると，そのヒット数は 13 例であり，[the ADJ this is] のヒット数 20 を大きく下回る．これらの事実から，実際に起きているのは，think と this という単語単位での競合ではなく，this ... という，より大きな定型句単位での選択であるという可能性が強く示唆される．

4. 結語

以上，本稿では，講演 (von Petzinger, 2015) の書き起こしデータにみられた [the ADJ this is] という破格的な表記を分析することを通して，定型的な慣習性ベースの言語使用が，創造的な文法ベースの言語使用と拮抗する姿を描き出すことを試みた．

締めくくりに，類似の誤表記との比較を提示し，[the ADJ this is] を分析することの意義を再提示しておく．文法的には破格的であるが高頻度で観察される誤表記としては，would have などの [法助動詞+have] の連鎖を would of などと表記するパターンが挙げられる．しかしながら，would of 表記は，1) 弱化した have の発音が実質的に of と同一になること，2) 置換が起きているのが単語単位であると考えられることから，[the ADJ this is] とは同質のものとは考えられず，その意味でも [the ADJ this is] という表記の異質性が浮き彫りになろう．

参考文献

Davies, M. (2013-). *Corpus of global web-based english: 1.9 billion words from speakers in 20 countries (glowbe).* available online at https://corpus.byu.edu/glowbe/.

Davies, M. (2018-). *The 14 billion word iweb corpus.* available online at https://corpus.byu.edu/iweb/.

Sinclair, J. (1991). *Corpus, concordance, collocation.* Oxford: Oxford University Press.

von Petzinger, G. (2015). Why are these 32 symbols found in ancient caves all over Europe? Available online at `https://www.ted.com/talks/genevieve_von_petzinger_why_are_these_32_symbols_found_in_ancient_caves_all_over_europe`.

Wray, A. (2007). ‘Needs only’ analysis in linguistic ontogeny and phylogeny. In C. Lyon, C. L. Nehaniv, & A. Cangelosi (Eds.), *Emergence of communication and language* (pp. 53–70). London: Springer.

言語文化的視点から見た花の詩的表現についての考察
―花ことばのレトリックを中心に―

段 静宜(関西外国語大学大学院生)

1. はじめに

長い歴史の中で、花は人間に影響を与え続け、今日でも我々の日常生活を彩るかけがえのない存在である。人間の文化は、様々な面において花の文化によって特徴づけられている。言葉は文化を反映するものであり、花の文化とのふれあいは我々の言葉の世界に深く浸透している。「花言葉」とは「象徴的な意味を持たせるため植物に与えられる言葉」のことで、アジアにせよ、ヨーロッパにせよ、植物それぞれに特別な意味を与えるのは世界共通である。例えば、ヨーロッパ文化に見られる「深紅のバラは恋人に対する愛」、「カーネーションは母親に対する愛」などの表現は、世界中で認知度が非常に高い花言葉である。

主体が外界を知覚し、外界を理解していく認知プロセスには、外界に対する主体の主観的なパースペクティヴ、主体の身体性にかかわる視点が反映されている。我々は花に対する視覚や触覚など基本的な身体経験に基づいて、「赤いバラ」、「白いユリ」、「桜が散る」など、花の成長過程や変化を描写する言語表現を、比喩的な意味で人間の世界の意味づけに取り入れてきている。

2. 問題提起

花ことばについて、中国において孫(2011)はメタファーの視点から、中英両言語における花ことばの対照研究を行い、花の色、容態に基づいて分析した。そして、劉(2005)は、文化的視点から、中国とヨーロッパにおける花の文化的意味について研究した。日本では、樋口(2004)が、花ことばの起源と歴史を詳しく説明した。現時点では、花ことばについての考察は主に歴史、文化的面から行われており、花ことばのメタファー表現、そして背後にある人間の認知プロセスについての研究はまだ不足である。本発表では、言語文化的な視点から、バラなどのヨーロッパの代表的な花ことばを具体的に考察する。さらに、中国、日本と西洋の花ことばの対照研究を通して、花に関する文化の比較を試みる。

3. 花ことばのレトリック

3.1「恋は花」のメタファー

花は「恋」のメタファーとして使われることが常にみられる。段(2018)は、「花が咲く」ことを「恋をする」ことに喩えるのは「人間は植物」の概念メタファーに基づいて、人間の身体経験に大いに関係があると論じている。

(1) Our love is flowering.
(2) 恋の花咲く。
(3) 桃花运(桃の花の運：女運、恋愛の運のこと)

「恋は花」のメタファーは、花と四季の関係が合わさったものである。中国語には、例(3)のような表現があり、桃の花の運は特に恋愛の運を表し、桃の花は恋のメタファー表現として使われる。「仲春，令会男女，奔着不禁。」[1]、「桃之有华，正婚姻之时也。」[2] の記述により、桃の花が咲いている春は、青年男女が恋愛、結婚する時期だと考えられる。段（2016）は、これは生物学の面で「春は交配の季節」という自然界における一般的な規律に関わり、人間の基本的な身体経験の一つと言えると分析している。中国語における桃の花は恋のメタファーを例として、このようなメタファーが成り立つのは、図1のような認知プロセスを介したと考えられる。

〈提喩による隠喩の再解釈〉

桃の花 ⟶ 春の花[類の提喩(一般化)] ⟶ 春[(一般化)] ⟶ [種の提喩(特殊化)]

春の行事 ⟶ [種の提喩(特殊化)]恋愛

図1．シネクドキによるメタファーの再解釈(段2016を参考)

3.2 花ことばについて

次は「花」という上位レベルの概念に基づいて、下位レベルのバラやキキョウなど、「花ことば」を通して、花が持つ意味について具体的に考察を試みる。

表1．愛に関する花ことば(一部)

花名	色	花言葉
バラ	赤	愛、あなたを愛します、熱烈な恋
キキョウ	紫	永遠の愛
ナデシコ	ピンク	純愛
ツバキ	ピンク、赤、白	完全な愛
チューリップ	赤	愛の告白
サクラソウ	ピンク、紅紫	初恋
アネモネ	赤	君を愛する

花ことばは、種とするバラ、キキョウ、サクラソウ、ナデシコなど下位類の花に与える特別な意味で

[1] 「仲春之月，令会男女，奔着不禁。」：春は男女交歓の季節である。（『周禮·地官·媒氏』）

[2] 「桃之有华，正婚姻之时也。」：桃の花が咲く時期は婚約を結ぶ時期である。（宋·朱熹『诗集伝』）

あるが、それは、前述したような類である「花」という上位に当たる概念と大いに関連する。

表 1 から分かるように、ヨーロッパでは、花ことばは人間の感情に大いに関係がある。一方、中国や日本では、花は人間の感情を表すうえに、人間の性格、さらに人間自身に喩えられる傾向がみられる。中国では、蓮の花を「君子」に喩え、日本では、桜は武士の象徴である。

(4) 莲，花之君子者也。[3]
(5) 花は桜木、人は武士

靳、段(2017：371)はこのような花の比喩について、「古代中国の文人たちは自分の道徳観念、人生への追求を花に寄せ、“花十友”、“花十二客”、“花王花相”という別称を花に与え、花は人間と同じ性格を持つように擬人化されている。」と分析を行った。日中両国における花の擬人化は花ことばとは言えないが、このようなレトリックは更に抽象的、創造的であり、かつて中国の「儒家思想」、日本の「武家社会」の文化を反映することができる。

3.3 ケーススタディ

花ことばは、ギリシャ神話と宗教に大いに関わっている。バラを例として、ギリシャ神話では、美の女神アフロディテが海の泡から生まれた時にバラも一緒に生まれたものとされていた。バラに関するギリシャ神話や伝説が数多く、その中には、女神のアフロディテは恋人のアドニスを救うため足に怪我をし、流した血が白色のバラの花を赤く染めたというのが有名である。中世になってから、バラとキリスト教の関係が密接になってきて、受難や殉教の血の象徴となってきた。「この受難の意味はしだいに薄れてゆき、キリストとしてこの世に姿を現した愛の象徴となった。」（樋口 2004:78）ことにより、近代に至って、バラは美人、情熱への連想を起こす。バラの花ことばは、「神様の愛」から「人間の愛」に移っていき、恋人同士の愛は前景として拡張される。

(6) My love is a red rose.

例(6)には、「愛は赤いバラだ」というメタファー表現があり、赤いバラは恋の気持ちを伝える媒介で、世界中に広がっている。愛が赤色のバラであるのは、赤色が引き起こす「情熱」、「犠牲」などの身体感覚と大いに関連する。それに従って、赤いバラは恋人に対する「真実の愛」のメタファーになったようである。

花ことばは人間が感情を表す表現の一種である。花の色や形状、咲く時期さらに地域や文化に基づく身体経験が違うため、花に与えられる意味は多様である。花の意味がこのように創造的に拡張されるのは、メタファー、メトニミー、連想のプロセス等と密接に関連しているからである。花を含む自然界を通して世界を解釈し、意味づけしていく人間の修辞的な認識により、日常言語の豊かな意味が可能になっている。

[3] 「莲，花之君子者也。」：蓮ハ花ノ君子タル者也。(宋•周敦頤「愛蓮ノ説」)

4. まとめ

花ことばは単なる一種の言語表現ではなく、その背後に人間の認知機能が働いている。その認知プロセスは、厳密には歴史や文化、各時代の宗教や政治と深く結びついている。花に関しては、日本とアジア諸国、そして西洋諸国との交流に長い歴史があり、海外の花は日本に伝わった後、日本独自の文化的意義が付与され、日本文化に定着することとなった。花に関する言語表現は、その国の民族や社会、風習、歴史などと深い関係を持っている。花ことばは、社会文化的な背景や民族文化の心理などの特徴を反映している。文化背景や自然環境の相違によって、各地域や国の花の文化に多様性が認められる。このような差異を理解することは、各地域や国の社会文化と民族心理をより深く理解することに通じる。以上の考察に基づいて、異文化コミュニケーション及び外国語教育に関する新たな考察を試みる。

参考文献

段 静宜（2016）. 認知言語学に基づく花の慣用表現に関する日中対照研究―蓮、桃、梅を中心に― 修士論文 関西外国語大学大学院

段 静宜（2018）. 身体性に基づく「人間は植物」の概念メタファーに関する認知言語学的研究―植物に関わる慣用表現を中心に― 学会口頭発表論文 日本語用論学会メタファー研究会シンポジウム「身体性」

樋口康夫（2004）. 花ことば―起原と歴史を探る― 八坂書房

靳 衛衛·段 静宜（2017）. 日中両言語における蓮、桃に関する慣用表現の対照研究 杉村博文教授退休記念中国語学論文集 白帝社 pp.367-390.

Lakoff, G., & Johnson, M.（1980）. *Metaphors We Live By*. Chicago, IL: University of.（ G.レイコフ & M.ジョンソン(1986). レトリックと人生 渡部昇一ほか(訳) 大修館書店）

刘 俊（2005）. 汉英花卉植物词的文化诠释 绥化学院学报, 25(3), 104-106.

二宮孝嗣（2015）. 美しい花言葉·花図鑑 彩りと物語を楽しむ 株式会社ナツメ社

孙 华燕（2011）. 隐喻视角下中西方花语的对比 黑龙江教育学院学报, 30(5), 150-152.

王 运璇（2013）. 隐喻视角下的中日花语意义对比分析 山西青年(理论研究), 8, 126-127.

山梨正明（1988）. 比喩と理解 東京大学出版会

山梨正明（2000）. 認知言語学原理 くろしお出版

気づきにくい学習者／母語話者間のミスコミュニケーション
―*V-テミル*と韓国語 *V-boda*，タイ語 *lɔ ɔ ŋ -V- duu*，クメール語 *saː k -V- màː l* との対照を通じて―

金谷由美子（大阪大学）POONVONGPRASERT Thanit（大阪大学大学院生）
BANGSAEN Pichamon（大阪大学大学院生） KUY Siemkiang（大阪大学大学院生）

1. はじめに

本発表は試行を表す形式 *V-テミル*の使用場面における学習者／母語話者間のミスコミュニケーションの存在を指摘し，それが *V-テミル*形式の持つ含意が学習者に共有されていないことによって引き起こされていることを主張するものである．*V-テミル*は単に試行を表すだけでなく，指示・依頼・提案における緩衝表現としての役割，控えめな意志表示，空想的な願望表示，婉曲的な断り，会話の展開ストラテジーとしての前置き等の様々な談話機能を持つ．このような *V-テミル*の運用面での談話機能が母語の試行形式のそれと異なる場合に母語の負の転移が原因と見られる誤用や非用が起きるという実態があるが，これまでわずかな対照研究（生越，1991；山崎，2017）を除き，あまり問題にされてこなかった．本発表では，*V-テミル*同様，視覚動詞を含む試行形式である韓国語 *V-boda*，タイ語 *lɔɔŋ-V-duu*，クメール語 *saːk-V-màːl* と *V-テミル*を対照させることによって，これらの形式の持つ相違点を明らかにし，問題の背景を浮き彫りにする．

2. *V-テミル*による試行形式の概観

*V-テミル*による試行形式は，(1) 靴屋で「(合うかどうか) 履いてみてください」のような場合には必須とされ，基本的には初めて行うことに対する未知の「結果への意識」が使用の前提とされる（金水，2004；須永，2007；嶋田，2007）．山崎(2017)が指摘しているように，視覚動詞が試行形式になる例はアジアの言語にいくつか例が見られるが，ではなぜ「見る」が「試行」の意味を持つに至ったのだろうか．嶋田（2007）によれば，「V て，見る」では，前項動詞と「見る」が継起的に連続していたのに対し，前項と後項がひとまとまりになるにつれて前項Vと「見る」との間に時間差がなくなり，そこで焦点シフトが生じ，前項のVに焦点が当たるようになった．それと同時に *V-テミル*に「意図的に何かを行い結果を見る」という「試行」の意味が生まれ，それが語用論的強化を経て構文となったと考えられる．さらに，嶋田（2007）は，前項動詞に意志性の低い行為が来ると結果は経験となるが，経験への意味拡張は「試行」と「経験」の隣接性によるものであると主張している[1]．日本語においては「経験」用法は，「Vてみると／みれば／みたら／みたところ」等の従属節でしか認められないが，韓国語においては主節での「経験」用法がある．また，日本語でも，過去の意図的な「試行」に限り，続きに言及すべき「結果」の前置きとして主節での使用が可能だが，今回対照させたタイ語やクメール語では，過去の「試行」についての使用が全般的に制限的で，通常は使用されない等の相違点があることがあきらかになった．

3. 「結果への意識」の違い

これら言語間での使用範囲の違いは，それぞれの形式の持つ「結果への意識」の強弱の違いと平行している．「試行」において意識される「結果」とは，期待通りの場合とそうでない場合（ (1) の例であれば，靴が足に合う／合わない）を含む．「結果への意識」は「試行」形式に通言語的に見られる一方，どの言語でも同様の「結果への意識」があるわけで

[1]主節でも非意志的Vに接続する「経験」用法が認められる韓国語 *V-boda* では，より多様な用法が見られ，文法化が進んでいると思われることから，この嶋田（2007）の説明が説得力を持つ．

はない．本研究では，クメール語，タイ語，日本語，韓国語の順に「結果への意識」が薄れる用法が見られ，それに伴い用法が多様化していることに着目し，この「結果への意識」の違いが，使用範囲や用法の異なりとそれぞれの形式の持つ含意の違いをもたらしていることを主張する．

本研究では，各言語の母語話者の *V-テミル*の使用場面ごとの含意に対する理解に焦点を当て，上級以上の日本語学習者に聞き取り調査を行った．その結果，どの言語の母語話者も *V-テミル*の含意の理解に関して母語の類似形式の影響を受けていること，そしてそれが *V-テミル*の誤用だけでなく非用にも影響を及ぼしていることがわかった．また，上級学習者でも母語と日本語の差異に来日するまで気が付いていなかった，或いは，今回の調査で初めて差異があることを知ったというケースが見られた．タイ語やクメール語のように「結果への意識」が強い言語では，試行形式が期待通りではない「負の結果」を含みとして強く持つ．例えば，*V-テミル*を用いた提案・依頼では「期待感」が伝わるため必ずしも失礼にはならない (2) カラオケで友人に「歌ってみて」と言う場面で，クメール語母語話者やタイ語母語話者では *V-テミル*形式を使うことに抵抗があると言う．[2.1]クメール語 *saːk -V- màːl* やタイ語 *lɔɔŋ -V- duu* は否定的な結果に対する予測が聞き手に伝わるため，相手の能力にかかわる話題では試行形式が避けられる傾向にあり，大人から子供に対してはよく使うが大人に対しては使いにくい用法となる．母語の形式の持つ含意の影響から *V-テミル*の使用を避ける傾向にあり，日本語母語話者から言われた場合も，負の結果に対する含みを読み取ってしまうため，「歌が下手だと思っているのか」と解釈して気分を害すると言う．一方，[2.2]韓国語母語話者は，母語 *V-boda* の命令形の持つヘッジ機能をそのまま日本語に転移させ，(2)「歌ってみて」を単に「歌って」よりもやわらかい依頼であると考える傾向があるため多用する．さらに，韓国語では *V-boda* の命令形に「結果への意識」が非常に薄いヘッジ用法があることから，(3) 上司が部下に仕事終わりに「(家に) 帰ってみて」(4) ちょっとトイレに行くときに友人に「カバン，持ってみて」のような *V-テミル*の不適切な過剰使用も見られる．日本語では，許可の文脈であれば，「～ていいよ」，依頼の場合は「～てくれる?」等の授受表現を用いる方が適切且つ自然であるため，*V-テミル*の過剰使用が聞き手である日本語母語話者の気分を害する事態を招くこともある．(3) は，例えば，家族の急病等の帰宅後に確認すべき事柄がある場合，(4) は選んだカバンが似合うかどうか確認するためにカバンを持たせる場合であれば使用が可能であろう．(5)ドライブ中に「車を停めてみて」と言った場合は，直ちに誤用だとは認識されないまでも，日本語母語話者は，エンジン音が少し変だからチェックしてみよう等，なにがしかの確認すべき「結果」があると解釈する可能性が高い．日本語母語話者が(3)(4)(5)のような韓国語母語話者の *V-テミル*の過剰使用に対して抱く違和感は，一見不可解に思えるクメール語母語話者やタイ語母語話者の *V-テミル*に対する違和感を理解する助けとなる．「負の結果」への意識が薄い (2) における *V-テミル*の使用について，歌を歌ってみればどのような結果が現れるか，即ち，うまく歌えないかもしれないという「負の結果」について必ずしも強く予測していない日本語母語話者の使用態度に，クメール語・タイ語母語話者は違和感を覚えるのである．それは，ちょうど，確認すべき結果がない韓国語母語話者の *V-テミル*の過剰使用(3)(4)(5)に日本語母語話者が違和感を覚えることと平行していると考えられる[2]．

意向形においても同様のことが言える．(6) 指導教授から論文を渡されて「読んでみます」と言った場合，クメール語母語話者は，読む気があまりないことを婉曲に伝えたつもりであるが，日本語母語話者は必ずしもそうとは受け取ってくれない．[6.1]*saːk -V- màːl* の意向形での使用が通常，「読んでもどうせ私には難しすぎてわからないだろう」「その論文は役にたたないかもしれない」等の「負の結果」を含意し，その論文を読むことに対する「やる気の無さ」を伝えるのに対して，[6.2]*V-テミル*は (7)「考えてみます」等の慣用的な表現以外では提案に対する婉曲な拒絶とは解釈されないからである．また，(6) のように，目上からの申し出に対してやる気がないということを伝えると失礼になる場合は，クメール語では *saːk -V- màːl* の使用自体が避けられるため，*V-テミル*の非用の原因にもなり得る．また，逆の立場で，クメール語母語話者が日本語母語話者に「読んでみます」と言われた場合に，婉曲な拒絶と誤解してしまい気分を害することもあり得る．さらに深刻なのは，日本語母語話者に頼まれごとをされ，意向形の *V-テミル*を用いて婉曲的に断ったつもりが相手にその意図が伝達されない場合である．約束を守らない人だと誤解され，対人関係の問題に発展しかねない．(8) 学園祭の準備物の買い物を頼まれたクメール語母語話者が「探しに行ってみます」と答えた場合，[8.1]クメール語母語話者は婉曲に断ったつもりであるが，[8.2]日本語母語話者は，その品物が売っているかどうかについて確信はないにせよ，一応引き受けたという意思表示であると解釈する．クメール語母語話者であれば，*saːk -V- màːl* を伴う回答を聞いた時点でその人

2 クメール語の試行形式には *màːl* 単独の形式で接辞尾化した結果への意識の薄いものあり，その形式であれば，韓国語同様 (4) (5) のような場面での使用が可能であるが，聞き手の能力にかかわることには使いにくいという特徴は残る．

に頼むのは諦めるか，きちんと約束を取りつけるまで確認し続けると言う．一方，[8.3]韓国語 *V-boda* の意向形では，日本語とほぼ同様の使用があるため（8）は承諾のつもりで答えていると考えられるが，(8)と言ったからといって日本語母語話者ほど「試行」の意味合い（できるかどうかわからないがという含み）を込めているとは言いきれない．韓国語母語話者の場合，「V てみます」を特に「試行」の意味あいを持たせず，「V ます」の丁寧なバージョンとして使用していると見られる場合があるからである．山崎（2017）等でたびたび指摘されているが，*V-boda* の意向形は，帰り際に「お先に失礼します」の意味で（9）「먼저 가보겠습니다（帰ってみます）」のように謙譲語マーカーのようなはたらきをすることがある[3]．なお，[8.4]タイ語母語話者は，「V てみます」に関して，初回の試行であること，且つ，結果がはっきりしないことが前提でなければ使いにくいと感じるが，含意の解釈自体は比較的日本語に似ていると言える．

*V-テミル*と願望形式が融合した *V-テミタイ*に関しても，違和感のなく使える韓国語母語話者に対して，クメール語・タイ語母語話者は一様に使いづらいと言う．タイ語母語話者の場合，単に母語の類似形式の使用頻度が低いためではない．タイ語母語話者は，(10)女性が「男に生まれ変わってみたいな」と言うのには違和感はないが，（11）2 枚目俳優をテレビで見て「あんなイケメンに生まれ変わってみたいな」には抵抗があると言う．理由は，（11）の場合は，その結果が概ね肯定的であると予想されるためである．ここでも[11.1]期待感さえあれば *V-テミタイ*が使用できる日本語と，[11.2]「負の結果」も含意されなければ試行形式を使用しにくいタイ語 *lɔɔŋ -V- duu* との違いが表れている．[11.3]クメール語では，もともと「試行」と「願望」が融合した形式は使用しないが，これは「負の結果」の比重が大きい *saːk -V- mɔ̀ːl* と願望形式を組み合わせること自体に無理があるためかもしれない．また，日本語では，非現実的な願望であればあるほど *V-タイ* よりも *V-テミタイ*の使用が自然であると感じられるが，タイ語やクメール語ではそのような使い分けをしているわけではない．そのため，日本語の単純な願望形式 *V-タイ*と *V-テミタイ*の微妙な差異に気がつきにくく，例えば，日本語母語話者の（12）「○○に行ってみたい」という発話を真に受けて，「いつ行こうか？」と聞き返してしまうことがよくあると言う．[12.1]日本語母語話者がこの形式を使用する場合，文字通り「言ってみただけ」[4]で，社交辞令も含め，実現させるつもりが無い夢物語を語っている場合が多いが，[12.2]タイ語母語話者やクメール語母語話者には紛らわしい表現となる[5]．

4. タ形 *V-テミタ*

過去時制や完了アスペクトにおける試行形式の使用は，言語によって差異が大きく見られる領域である．（13）帰宅した子供に母親が「先生に相談してみた？」と尋ねるような場合，［13.1］クメール語やタイ語では試行形式無しで尋ねるのが一般的であるため学習者の *V-テミタ*の非用が目立つ一方，［13.2］ *V-boda* は試行から経験まで意味の幅が広いため，韓国語母語話者は多用する傾向が見られる．（13）に対する答えとして（14）子供が「うん，相談してみた」と言う場面では，［14.1］日本語では，とくに逆接の接続助詞「～けど」等が無い限り，続きを聞かなければ結果がどうなったのかわからないが，［14.2］*saːk -V- mɔ̀ːl* では，聞き手は望ましくない結果を予想し，話し手は引き続き結果を最後まで述べる必要がある[6]．［14.3］ *lɔɔŋ -V- duu* でも，V が意志的で「試行」の結果を述べる文が継起する場合に限り，前置きとしての使用が認められるため，クメール語母語話者もタイ語母語話者も(15)「先生に相談してみた．でも今の成績では進級は難しいと言われた」のような文であれば，*V-テミタ*も違和感なく使用することができると言う．尚，タイ語母語話者は，結果が否定的でない（16）「例の申し出について考えてみました．お引き受けしたいと思います．」のような文でも違和感がない．（13）～（16）のいずれの用例でも日本語の *V-テミタ*は，なにがしかの結果についての言及が期待される前置き表現としての機能を持つと言えるが，*V-boda* では結果が継起する必要は必ずしもないため，タ形の使用において母語に存在する経験用法を用いるという誤用が多く見られる．（17）「私も大学 1 年生のとき，失恋してみました／失恋してみたことがあります．」のような非意志的な V を *V-テミタ*と結合させた用例では明らかな誤用となるため修正が可能であるが，(18)「富士山に登ってみた」のような意志的なVの場合は誤用が気づかれにくい．［18.1］韓国語母語話者は経験を報告しているだけであるのに，［18.2］日本語母語話者は話の続きを期待するという齟齬が生じることがある．これも，「結果への意識」という観点から見ると，経験用法は経験自体には言及するが，その結果がどうであったかについては必ずしも言及する必

---

3 韓国語は待遇形式が発達しているにもかかわらず，日本語のような謙譲語のシステムが無いため，このような聞き手目当ての「丁寧」な表現がそのギャップを埋める形式として発達し使用されていると考えられる．

4 「言ってみただけ」は，実現不可能とわかっている願望や要求を相手に否定されたときに言う決まり文句である．韓国語にも同様の言い方が存在する．

5 庵・他（2000），岡本・他（2009）では，*V-テミタイ*を「控えめな願望」と説明しているが，「控えめ願望」を述べる用法であるよりも，「実現させるつもりがあまりない」というところから「控えめ」に聞こえる場合があると言った方が正確であると考える．

6 英語の tried to V の場合，その動詞 V の内容が実現されなかったことを常に含意することを考えると，そう不思議なことではない．

要がないという点で「結果への意識」の薄い用法であるということができる．日本語では従属節に限られる経験用法が韓国語では主節末でも可能であるのはこのためである．

5. 「結果への意識」と文法化

以上，各言語の試行形式の用法の持つ含意の違いについて，「結果への意識」をキーワードに見てきた．本発表では，このような差異を文法化の程度の違いから生じるものと考え，（表１）にその違いをまとめた．V の意志性制約が薄らぐことと，本稿で重要視している「結果への意識」の強弱に相関が見られ，さらにそれが用法の多様化と平行している．

（表１）クメール語 *sa:k -V- mə̀:l*・タイ語 *lɔɔŋ -V- duu*・日本語 *V-テミル*・韓国語 *V-boda*　文法化比較

	sa:k -V- mə̀:l	*lɔɔŋ -V- duu*	*V-テミル*	*V-boda*
結果への意識	否定的結果への意識が強い．	結果の不確定性への意識が強い．	肯定的結果への期待だけでも使用可．	結果に対する意識が薄い用法が存在．
V の意志性制約	条件節でのみ緩和される．	条件節でのみ緩和されるが，多用しない．	条件節でのみ緩和される．	条件節でも主節でも制限が無い．
完了の場合	逆接的な内容の後続文の前置きとしての使用であれば可．	一般的に不使用．前置きとしての使用有り．	過去の試行に対する結果への意識がある場合は使用可．	日本語同様の過去の試行を表す用法に加え，経験用法（意志的V，非意志的Ｖと結合）が存在．

6. 現状の問題点とまとめ

本発表では，今まで指摘されることが少なかった *V-テミル*をめぐる学習者と日本語母語話者の認識のズレに焦点をあて，それが各言語の「試行」形式の持つ「結果への意識」の違いとそれによって生じる含意の違いによって引き起こされていることを指摘した．本発表で見たように，母語に類似形式がある場合，母語の形式の持つ含意をそのまま日本語に転移するという負の転移が起こりやすく，それに起因する誤解，齟齬，非用が発生しているが，修正されることなく放置されている現状が少なからずある．最後に，現状の問題点を挙げる．①初級の段階で単純に *V―テミル*は「試行」を表す表現であると教えられ，その後は触れられることが少ない．②初級段階では形式の持つ含意については特に情報を与えられていないことが多いため，母語に類似形式がある場合は母語の形式が持つ含みを無意識のうちに転移する傾向がある．③*V-テミル*自体の研究が不十分であり情報が少ない．④*V-テミル*は多くの場合任意の形式であるため，非用が見過ごされがちであり，過剰な使用が見られる韓国語母語話者を除いては，形式に対する思い込みを修正される機会が少ない．以上をまとめると，*V-テミル*形式を学習者が使いこなせるようになるためには，*V-テミル*形式の研究を深めると同時に，この形式の持つ言外の意味を意識的に教育に取り込んでいくことが必要であると思われる．

参考文献

庵 功雄・松岡弘・中西久実子・山田敏弘・高梨信乃(2000)．松岡弘（監修）初級を教える人のための日本語文法ハンドブック，スリーエーネットワーク

金水敏(2004)．文脈的結果状態に基づく日本語助動詞の意味記述，影山太郎・岸本秀樹（編）日本語の分析と言語類型 柴谷方良教授還暦記念論文集，くろしお出版，pp. 47-56.

生越直樹(1991)．朝鮮語어 보다と고 보다と日本語「てみる」，日本語学，Vol.10. 12，明治書院，pp.90－101.

岡本牧子・沢田幸子・安田乙世（2009）はじめて日本語を教える人のためのなっとく・知っとく初級文型 50，スリーエーネットワーク

嶋田紀之(2007)．「V てみる」の多義性と文法化，東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻　2007 年度 修士論文.

須永哲矢(2007)．してみる形の意味，日本語学論集，第 3 号，東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室，pp. 92-105.

山崎雅人(2017)．アルタイ諸語，朝鮮語と日本語における視覚動詞の試行相文法化の展開，言語処理学会第 23 回年次大会　発表論文集，pp. 70-73.

中国人日本語学習者のライティングの学習状況と学習意識に関する調査

余　文龍(京都大学大学院生)

1. 研究背景

中国の日本語教育現場におけるライティングの授業は,主に教師が課題文を説明して,注意事項を提示しながら授業中に学習者に書いてもらい,それらのライティングを回収し,翌週全体に対する口頭のフィードバックと個別対応の筆記によるフィードバックという形である.そして,クラスの人数が多く,教師による指導の限界があるため,協働学習を通して学習者に学び合ってもらう方法も使用されている.一方,そういう学習者の文章には「定型的な表現が多く,表現のバリエーションはない」や「文法の間違いはないが,不自然な表現が多い」という問題があると指摘している.

にもかかわらず,「書く」技能はほかの「聞く」「読む」「話す」技能と異なり,学習者の情意面による影響が多いと指摘されている.例えば,教師のフィードバックに強く依存する学習者は,協働学習から得るほかの学習者の意見を無視することもある.また,「読まれたくない」という気持ちで学習者間の協働学習に参加したくない学習者もいる（田中,2011）.さらに,「書く」ことは,相手の存在にかかわらず,教材を利用して,独学でも上達するという意見もある.このように,「書く」ことを学習するにあたり,学習者はそれぞれの学習スタイルと学習観を持っており,それを基づいて自分に合う方法で勉強すると思われ,単に教師側が学習法や教授法を改善しようとしても,必ずしも良い成果を導くとは限らない.特に,グローバル化がすさまじいスピードで深化している昨今,中国における外国語教育は従来「実用の学ぶとして位置づけられる」という「実用的な志向」である（谷部,1991）ため,学習者はそういう「実用的な志向」に傾く傾向があると思われる.そして,そのような「実用的な志向」は,彼らの学習状況と学習意識に影響する可能性が考えられる.また,教育上の「文法・文型中心」の指導について,学習者の実際の考えを知るべきだと思われる.学習者は,どのようにライティングを学習するか,彼らが利用している学習ストラテジー,また彼ら自身が感じた困難,問題点,教育上の不足とニーズを把握し,それを踏まえて改善案と対策を着実に検討する必要があると考えられる.

よって,本研究は,学習者のニーズを含め,彼らの学習動機と学習意識を調査するうえで,今後の日本語ライティング教育のあり方について考察する.

2. 方法

本研究は,学習者に,ライティングの学習状況と学習意識を中心に,アンケートに記入してもらい,それを基づいたインタビューを分析し,考察を行う.

協力者は,研究参加を承諾した中国語を母語とする中国滞在の日本語学習者70名（全員が日本語能力試験N2に合格した,中国の8つの大学の日本語専攻の大学生,大学院生）である.協力者に,基本情報を記入してもらい,2018年3月20日から3月30日にわたって,オンラインアンケートに記入してもらった.その後,データ統計整理をし,その結果に基づいて,録音インタビューを中国語で行った.

アンケートは,学習状況と学習意識に焦点を置いて,「基本情報」「学習者の自己評価と認識」「授業に関わる問題」「ライティングの学習方法と認識」について設問した.また,協力者の考えを具体的に知るため,一部の問題に「その他」などの自由回答欄を設置し,学習者に書いてもらった.さらに,「その他」に記入した何名の協力者に,フォローアップインタビューを行い,その考えを追究した.インタビューを,一部不確かな答えに対して行うフォローアップインタビューと,ランダムで10名に対して行う自由発話インタビューに分けて行った.

3. アンケートの結果と考察

3.1 自己評価と認識

質問5から質問12は学習者の「自己評価と認識」に関する質問である.具体的にみれば,第5問「「書く」ことは４技能（聞く,読む,話す,書く）の中で,一番難しいと思いますか」に対し,学習者は「書く」ことが難しい(50名,71%)と回答し,「書く」自信はまだ足りない様子が窺えた.また,インタビューでは,一番重視するのは「話す」技能であるが,第6問「ほかの技能と比べて,文章を書くことは日本語学習において重要ですか」に対して,学習者は「書く」技能も日本語の上達に欠かせないと認識していること(56名,80%)が分かった.一方,第7問「日本語で文章を書くとき,一番重視しているのは何ですか」において,学習者間には違う信念が見られ,「文法重視」には若干多い傾向（26名,37%）が観察されるが,ほかの「内容重視」（15

名,21.5%),「論理性重視」(15名,21.5%),「読者の理解重視」(14名,20%)は同程度だった.

また,自分の書く力への評価に対して,まず,第8問「自分の文章にはどれぐらいの文法ミスがあると思いますか」については,37名(53%)は自分の文章に文法上の間違いが多少あると認識しており,17名(24%)は間違いが多いと認識している.第9問「自分の書く能力をどのように評価していますか」からみれば,5段階評価のうち,上から二段目の自己評点をする人数が一番多く(37名,53%),学習者は自分の書く能力は合格点以上ではあるが,まだまだ満足できないと認識していることが示唆された.

さらに,第10問から,学習者の「書く」の学習時間が日本語学習において一番少ない(41名,59%)ことが明らかになった.次に第11問から,4技能学習のうち,「書く」に一番重視していない(46名,70%)ことも分かった.学習者は,「話す」が一番重要だと考えている.一方,「書く」学習に重視していないにもかかわらず,第12問「書く能力の学習目標は何ですか」において,学習者の「書く」の学習目標は低く設定されておらず,「意味を伝達できれば良い」のようなやや低いレベルではなく,「日本人らしく書きたい」(31名,44%)と答えるのは一番多かった.

以上,学習者は「書く能力は重要」と認識しながらも,「書く学習に一番重視していなく,時間を使っていない」のように,「書く」学習へのモチベーションが低い.一方,「自分の書く能力はまだまだ」「日本人のように書きたい」のように,学習者は自分の書く能力をさらに向上させたい姿勢も見られた.

3.2 自己評価と認識

質問13から質問20は授業と関連する問題である.まず,13問「大学の日本語の書く授業にどれぐらい満足していますか」において,上から二番目の評価「60-79」を選ぶ人数が一番多く(32名,46%),学習者は授業に対してある程度満足している様子が窺えた.また,14問「あなたがもらっている教師の添削について,一番合っているのはどれですか」の結果から,教師は主に文法の指導を行い(48名,69%),ほかの側面(内容,構成等)においてはあまり重視していないことが示唆された.そして15問「自分の文章について,教師にどのように指導してもらいたいですか」から,学習者側は,「文法」(24名,34%)と「日本語的表現」(29名,41%)の指導を受けたいと考えており,それは前述の8問と12問の「自分文章にはある程度の文法ミスが存在すると考えている」「日本人のように書きたい」にも関係があると思われる.さらに16問「日本語の書く授業について,中国人の先生に指導してもらいたいですか,それとも日本人の先生に指導してもらいたいですか」において,学習者は特に日本人教師を好む傾向がなく,中国人教師と日本人教師の両方とも必要と答える人が一番多かった(38名,54%)ことが分かった.

17問「フィードバックは,どのような形が良いですか」については,「教師による全体フィードバック」より「個別フィードバック」を好む傾向が明らかであるが,「個別口頭フィードバック」(24名,34%)と「個別筆記フィードバック」(29名,41%)にあまり差がなかった.

一方,上記16問の結果として,学習者は中国人教師と日本人教師両方が必要と考えているものの,18問「誰からのフィードバックがほしいですか」の結果として,「A.中国人教師のフィードバックが欲しい」「B.母語話者教師のフィードバックがほしい」「C.学習者同士のフィードバックが欲しい」「D.日本語母語話者(教師ではない)のフィードバックが欲しい」の4つの選択肢の中で,「B」のほう(45名,64%)が一番多かった.また,教師のみならず,母語話者全体への信頼度が高い(B+D,63名,90%)ことも示唆された.また,教師のフィードバック(A+B,49名,70%)に対する信頼が見られ,学習者は協働学習よりも教師を好む傾向は観察された.それは田中(2011)が指摘した,学習者が教師依存の傾向があると一致している.

さらに,第19問「フィードバックをもらってから,あなたはどうしますか」については,「文法の指摘を一つ一つ確認しながら自己訂正を行う」が一番多く(36名,51%),それは劉(2017)が述べた文法中心の授業形態と,前述の8問と15問の結果と関係すると思われる.

最後に,20問「大学の日本語の書く授業に,一番扱ってもらいたい内容は何ですか」について,「就職に役に立つ内容」と答える人が多く(27名,39%),それは劉(2017)の結論とも一致しているが,ほかの選択肢を選んだ学習者(「学習した日本語を定着させる内容」12名,17%;「興味がある内容や面白い内容」17名,24%;「レポートなどの書き方」10名,14%)もいる.学習者の書く能力を全面的に向上させるため,就職の内容のみならず,学習者が学習した日本語知識の定着を含め,広い範囲の内容を扱う必要があると思われる.

3.3 自己評価と認識

学習者の「自己評価と認識」に関する質問は21から30である.まず,21問「独学のみで書く能力が身に付けられると思いますか」において,学習者は独学のみで書く能力を身に付くことができない(55名,78%)と思い,教師の指導を加える必要があると考えている.また,25問「書く能力を上げるためには,独学で添削せずの「量的練習方法」が役に立つと思いますか」に同意するのは48名(69%)であるが,26問「書く能力を上げるためには,たくさん書いて,先生に添削してもらうという「量的練習方法」がいいと思いますか」に同意するのは62名(89%)だった.したがって,学習者にとって独学も重要であるが,教師の指導も欠かせないことが示唆された.

また,学習者が書く学習に役に立つ方法について,22,23,27問から,学習者は「多読」(67名,96%),「見本の提示」(65

名,93%),「まねて書く」(61 名,87%)が書く能力の向上に役に立つと考えていることが明らかになった.これは,中国の国語文章教育で多く使われている,多読→見本を読む→まねて書くという方法に慣れているだろうと思われる.さらに,24 問「「見本」はどのような見本がいいですか」から,見本は「良い例」を求めることが多い(41 名,63%)が,「並み例」や「悪い例」,さらにすべての方を求める学習者もいる.

28 問「あなたにとって,「書く」の一番良い学習する方法は何ですか」は,「A 中国人教師による指導」「B 学習者同士協働学習」「C 日本人教師による指導」「D 日本人学生協働学習」「E 独学 (範例を読む,まねて書くなど)」「F その他」のように六つの選択肢を設置した.その結果は上記 18, 21 問の結果と一致しており,学習者は母語話者を好む傾向(C+D, 37 名,54%)が見られる.一方,教師指導(A+C,35 名,50%)は協働学習(B+D,17 名,25%)の 2 倍であるため,協働より,学習者は教師の指導が信頼性高いと考えていることが推測される.また,29 問「日本語の「良い文章」のイメージについて,あなたはどう思いますか」については,「日本語が完璧的なもの」が日本語の「良い文章」と想定している学習者がやや多く見られる(20 名,28.5%)が,ほかの選択肢「教師が添削してくれるものと似ている」(13 名,18.5%),「教科書の範例と似ている」(19 名,27%),「実ははっきりしていない」(18 名,26%) においてもさほど差はなかった.したがって,学習者は,日本語の良い文章のイメージについてまだはっきり把握していないと思われる.さらに,30 問「母語話者教師が良いと思っている学習者のライティングについて,あなたはどう思いますか」について,「普通の日本人でも良いと思う」(11 名,16%),「多くの普通の日本人でも良いと思う」(32 名,46%) であるものの,24 名(34%)の学習者は,学校で学んだ文章の書き方は,全ての日本人に認められるではないと考えている.

4. インタビューによる考察

以上の結果から,学習者が母語話者によるフィードバックを好むこと,また学習者が教師指導に依存すること,さらに学習者が独学も欠かせないと考えていることが明らかになった.今後の教育の改善案を考察するにあたり,学習者が思っていることをさらに知る必要があるため,70 名からランダムで 10 名を抽出し,「書く」について自由発話インタビューを行った.分析にあたり一部の発話内容を抽出する.インタビューは中国語で行ったため,原文を提示の上,筆者が訳したものも添付し,表 1 にまとめる.

表 1　自由発話インタビューのサンプル

例 01	天啦，练习是很重要，但是盲目练习就像题海战术，用途不大啊.我觉得，像高考那样，给一些范文学习就很好.老师指导很重要，但老师不可能时刻，全面的指导.问题是，日语的这种范文，特别特别少.	なんてことだ. 実際, 練習は非常に重要ですが, 盲目の練習は無用です. ほとんど役に立たないです. 私は, 大学入試のように, いくつかのサンプルから学ぶのが良いと思います. 教師の指導は非常に重要ですが, 教師は常に全面的な指導をすることはできません. 問題になるのは, このような日本語（のライティング）の範例が特に少ないことです. (学習者 NO. 06)
例 02	市面上卖了很多作文的书，但我觉得太空泛，就比如要怎么写怎么写，用什么语法，连接词，但还是不够具体.能不能像中国作文书一样提供更多优秀作文范例啊.感觉这样老师也省事，学生也可以自学一部分.不然学生不会写，上课就那点时间，效率真的很低.作文这东西，上课肯定不够，必须上课加自学.	本屋には多くの日本語ライティングの本がありますが, いつも「文章の使い方, 文法の使い方, 言葉のつながり」を中心に向け, いったいどのように書けばいいかまだそれほど具体的ではありません. 中国語の本のように, もっと数多くの優れたライティングの例を見せてくれますか. このように, 先生も時間を節約できるように感じ, 学生も自分自身で一部の内容を学ぶことができます. そうでなければ, 学生は良く書けません. 授業の時間も短くて, 効率は本当に低いです. ライティングは, 授業の参加だけで決して十分ではないから, 自分で勉強する必要があります. (学習者 NO. 09)
例 03	就作文这一个而言，我觉得自学很重要，但肯定不能只是自学.仅仅自学，自己写给自己看的话，本来就失去了写作这个能力的意义，又不是写的所有东西都是日记.而且孤芳自赏没有用，关键还是要得到别人的认可，以及作文也属于信息传达吧，别人能否读懂，别人怎么评价，也非常重要.	ライティングに関しては, 自習は非常に重要だと思いますが, 確かに自習だけではできません. もとも, 独学で, 誰でも見せず, 自分へ書くことは, 書く能力の意義を失ってしまいではないでしょうか. 書かれたものすべてが日記ではないから. そして, 孤高をもって自ら任じ, 自分自身に酔いしれることでは意味がありません. 重要なのは他者からの承認を得ることです. ライティングはメッセージの伝達であるため, 他の人はその意図が分かっているかどうか, 理解できるかどうかも非常に重要です. (学習者 NO. 10)
例 04	嘛怎么说，日本人老师也是日本人，那他认可的肯定基本也是没问题的，不过肯定不可能全部人都认可，毕竟萝卜青菜各有所爱嘛.而且怎么说，职场的话还是有别于学校，要求不一样.说不定hr就觉得写得不好呢.毕竟工作的话，才不管你是不是外国人，给的工资都一样的话，肯定想找个日语没有问题的.	さて, 日本人の先生も日本人で, 認められたことが前提であれば基本的には問題ありませんが, 確かにすべての人がそれを受け入れるわけではありません. 十人十色, 人それぞれの好みがあるからです. そして, 職場はやはり学校とは違っていて, 要求は同じではありません. たぶん（先生が認めてくれたライティングについて）人事担当役員が良く書いていないと思うかもしれません. 結局のところ, 職場であれば, あなたは外国人であるかどうかは関係せず, 与えられる給料は同じであるため, 人事担当役員はきっと前提条件として, 日本語に問題がない人を探したいと思っています. (学習者 NO. 07)
例 05	我曾经在日企工作.职场上，你是拿工资的身份，日本人就没有平时这么亲切了.我们写的东西一看就不是日本人写的，即使语法没问题他们还是感觉不对.（略）所以觉得，日语老师说的没问题，并不是真的没问题，只是把我们当学习者来说，已经做得很好而已.	私はかつて日本の会社で働いていました. 職場では, あなたは賃金労働者であるため, 日本人はそんなに親切ではありません. 私たちが書いたものは, 一見しても日本人によって書かれたものではなく, たとえ文法が正しく使用されたとしても, それでも（文章全体が）おかしく思われます.（中略）そのため, 日本語の先生は「問題はない」と言われても, それは本当に「問題はない」ではありません. 私たちは,「学習者としてよくできた」とのことだけです. (学習者 NO. 04)
例 06	我觉得吧，老师认可的，不一定很多日本人认可欸.首先，语法应该是没问题的，但是我也试过就把一篇在上课时候被日本人老师改过的作文直接作为另一个老师的作业上交，结果另一位老师还说文章的句子很奇怪.嘛，就算语法没有问题吧，但老师毕竟是教育者，肯定对学生降低要求不是，因为要鼓励学生，不能损害学生积极性，那肯定不是所有日本人都认为那文章是好的.	私は, 先生が良いと判断されるものは, 必ずしも多くの日本人が同意しているとは限りません. 第一に, 文章の文法は問題ないはずですが, 私はまた, 授業中に日本人の先生が添削してくれたライティングを別の先生（日本人）の宿題として出したが, その結果, その先生は私の文章が奇妙であると言いました. たとえ文法が問題ではなくても, 先生は教育者であるため, 学習者の熱意を損なわないように, 生徒への要求水準を低くすることに間違いありません. そのため, すべての日本人はそのライティングが良いと思うわけではありません. (学習者 NO. 05)
例 07	我觉得多点日本人看还是好的，怎么说日本人老师也有分歧，而且集思广益，多听听别人的意见.要是能引进日本人学生的看法也挺好的，虽然他们不像老师，但觉得同龄人反而一些东西好沟通，而且感觉更接地气啊.	多くの日本人に見てもらった方がいいと思います. なぜなら, 日本人の教師の意見もたまたま分かち合いことがあるため, 他の意見を多く集めて, 考えた方がいいです. 日本人学生の意見を聞くことができれば, それもかなり良いです. 彼らは教師のようなものではありませんが, 同じ年齢層であるため, コミュニケーションしやすいと思います. それでもっと実情に合うではないかと感じています. (学習者 NO. 09)
例	其实不是很喜欢写作文，就觉得作文比较主观，评阅老师也有主观	実際, 私は書くことがあまり好きではないです. 作文が比較的に主観的であり, 読み手の先生も主観的な要因が

08	因素，这种东西很不好说.不知道什么样才算好，而且也不知道怎么写.不过有时候就觉得，中文是这样写的，然后脑子想个中文句子，翻译成日语这样.应该问题也不大吧，不过还是希望能有多点日本人老师看一下，毕竟平时能接触到的日本人就是老师了，又不会有其他日本人莫名的会帮我看作文.	あります. このようなことは はっきりすることができません. 良い作文はどういうものかわからないし，それを書く方法もわからない. しかし，時には私は 中国語の作文はこのように書かれているので，中国語の文を頭の中に作って，そしてそれを日本語に翻訳すればいいと思います. 問題はそれほどないはずですが，やはりできるだけ多くの日本人の先生が見てくれたほうがいいと思います. なぜなら，普段接触できるのは日本人の先生しかいなく，他の日本人は私を助けることがないからです. (学習者NO. 03)

下線部から，学習者は「書く」の学習方法とニーズ，「書く」に対する信念，またそこに存在する問題点についてはっきり認識していることが分かった. アンケートの結果が示した通り，学習者は独学が十分ではないと認識し(例 01，02，03)，先生の指導も必要であると考えている. また，市販の本では学習者のニーズに満足できないため，詳しく解釈している具体的な例が満載な参考書の開発が必要であると思われる. また，アンケート 25 問から 27 問の結果，そして例 01，例 02 が言及しているように，このような参考書は中国国語ライティング教育の方法に慣れている学習者にとっては，とても役に立つと考えられる. 一方，アンケート 29 問の結果から，学習者が日本語の「良い文章」についてまだはっきり分かっていないため，例 08 のように，中国語の書き方を参考にしている学習者もいる. 余(2018)によれば，中国語話者学習者は，日本語の「良い文章」のイメージは中国語と多く一致していると考えているが，日本語母語話者は学習者の「中国語的日本語」に消極的に評価している姿勢も観察される. 田中・阿部(2014)は，日本語の「良い文章」のイメージについて述べているが，それが学習者にまだ伝わっていないことも示唆された.

アンケート 30 問に関して，例 04，05，06 のような発話があり，学習者は，職場における日本語は，教育現場の要求と異なる場合もあると認識し，できるだけ多くの母語話者に読んでほしいと考えている. 母語話者教員は，「書く」は書き手の「自己発見」または「個性」を重視する，いわゆる「人間教育」を行う手段の 1 つと思って，日本語の文法や表現の不適切な使用の箇所に限り，それ以外の訂正は最小限にするように行っている(劉，2017)ため，学習者の不自然な表現(例えば上記述べた中国語的日本語)などを指摘していないと思われる. 母語話者教師が実際に不自然と思っているが，指摘を行わないため，学習者はそれが問題はないと思ってしまう可能性が高いと思われる. そして学習者がこのふうに書いた文章は，職場の人，すなわち教育関係でない人にとっては不自然であることもありうるだろう. 教師の限界と学習者のニーズ(例 07)によって，多くの母語話者のフィードバックの導入が必要である.

5. 今後の課題

以上の分析と考察によって，「書く」に対する学習者の学習方法と学習意識，ニーズと問題点を把握できた. 将来，範例参考書の開発と多くの母語話者のフィードバックの導入の方法などについて，さらに検討する必要があると思われる. 一方，一般の母語話者の評価においては大きなばらつきが存在する(宇佐美，2014)ため，彼らの評価を活用する前に，統一した評価基準と評価方法が必要であると思われる. また，中国語話者学習者の「中国語的日本語」の問題を解決するためには，「中国語的日本語」の要素を具体的に学習者に教える必要があると考えられる. それらの要素を含め，田中・長坂・成田・菅井(2009)が提案した評価基準を基に，学習者や一般母語話者にも使える評価基準を検討する必要がある. 学習者自身でもチェックできる，母語話者教師にも一般母語話者にも納得できるユニバーサル的な評価基準の開発は今後の課題として着実に研究を進めていきたい.

参考文献

劉偉（2017）. 中国人日本語学習者のライティングに関する実証的研究―論理的文章作成を目指す指導方法の改善に向けて 暨南大学出版社 pp. 48-78.

田中信之（2011）. 日本語教育におけるピア・レスポンスの研究:有効性と自律性の観点から 金沢大学人間社会環境研究科博士論文 金沢大学人間社会環境研究科

田中真理・阿部新（2014）. Good Writingへのパスポート―読み手と構成を意識した日本語ライティング くろしお出版

田中真理・長阪朱美・成田高宏・菅井英明（2009）. 第二言語としての日本語ライティング評価ワークショップ-評価基準の検討- 世界の日本語教育・日本語教育論集，**19**，157-176.

谷部弘子（1999）. 中国の大学における日本語教育の質的変化－言語教育と専門性－ 日本語教育，**103**，99-108.

宇佐美洋（2014）. 「非母語話者の日本語」は,どのように評価されているか―評価プロセスの多様性をとらえることの意義 日本語教育学の新潮流7 ココ出版 pp. 10-27.

余文龍（2018）. 学習者と母語話者の日本語の「良い文章」判断基準の差異－中国語話者中上級学習者を中心に－ 2018年度異文化教育学会第39回大会発表抄録，92-93.

ドイツにおける難民へのドイツ語学習支援活動

荒木 萌(慶應義塾大学大学院生)

1. はじめに

ドイツは2015年，16年に120万人以上の難民を受け入れ，労働市場への統合を目指して難民政策を進めている[1]．特に難民政策の中で中心的な役割を果たしているのは，2005年の新移民法制定とともにはじめられた統合コースである．統合コースは，ドイツ連邦移民難民局（Bundesamt für Migration und Flüchtlinge，以下BAMF）が主導して移民・難民を対象に行うドイツ語教室であり，難民の場合基本的には認定を受けた後に受講資格を得ることができる．しかし，大量の難民受け入れに伴って統合コース受講希望者が殺到し，一部の庇護申請者には認定前から受講資格を与えるなど，BAMFは統合を速やかに進めるべく制度の改正を行っている[2]．

統合コースの受講資格は拡大したものの難民の中には統合コースの受講申請から開始まで待たなければならない人，受講資格のない人，個人の事情で受講できない人などがいる．そのような中，ボランティアによるドイツ語学習支援活動が行われている．難民の統合コース受講に関する研究は多くみられるが，ボランティアのドイツ語学習活動については管見の限りまだ取り上げられておらず，本研究には新規性がある．

本発表では，ドイツのパッサウ市で統合コースを行う民間のドイツ語学校や難民・移民に対する学習支援団体で行ったインタビュー調査と参与観察をもとに，難民に対するドイツ語学習支援活動の意義とその有効的な方法について考察する．

2. 先行研究

はじめに，難民受け入れ以後の統合コースの変容に関する研究について述べる．木戸(2017)は2015年以降の庇護申請件数と統合コース受講希望者数の増大，平高・荒木(2018)はさらに統合コース内のドイツ語教育におけるニーズや制度の変更についてまとめている．それらによると，BAMFは難民受け入れの状況から，参加者の需要に合わせた特別クラスの拡大，認定後の素早い社会統合を目指した統合コース受講資格の変更等を行っている．しかし，庇護申請者の国籍や居住地域によって統合コースを開始できる時期が異なり，難民間でも格差が生まれている．2017年以降は難民申請数と統合コースの受講申請数はともに落ち着きを見せているが，難民にはドイツ語学習に時間がかかる人が多いため2018年冬の時点でも統合コース受講者は難民が大半を占めている．

次に，ドイツ語学習支援ボランティアに関する先行研究を概観する．連邦家族・高齢者・女性・青年省（Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend）の委託でドイツの調査機関アレンスバッハ研究所（Institut für Demoskopie Allensbach）が2017年に行った調査によると，国民の55%が何らかの形で難民支援に携わっていた．また支援活動の中では，難民支援に携わったことがある人の約4分の3がドイツ語学習の手伝いを行っており3番目に多い[3]．

久保山(2009)によると，2005年の統合コース開始前から自治体や福祉団体などの中間組織によってドイツ語能力の向上を目指すプログラムをはじめとする移民・難民向けのさまざまなプロジェクトが行われていたが，ボランティアによる支援については述べられていない．熊谷(2016)は難民に対するドイツ語学習支援ボランティアに関して，レーゲンスブルク市における調査報告を行っている．同市ではドイツ語教員の資格を持たない市民ボランティアによって成人向けの語学コースが行われているという．

3. 調査課題

本調査の目的は2つある．1つ目は，法的地位に関係なく難民が参加できるボランティアのドイツ語教室やドイツ語能力向上と情報交換を目的としたドイツ人との交流の場を提供する交流プロジェクトが，一定の意義を持つ活動であると示すことである．2つ目は，統合コースを行う民間のドイツ語学校とボランティアの連携が難民の言語学習において有効であると明らかにすることである．調査は特に以下の点に焦点を当てて行った．

---

[1] 公益財団法人日本国際交流センター（2017）による．

[2] 平高・荒木(2018)参照．

[3] 1番多かったのは，ドイツの事情の理解のための手伝い，2番目は余暇を難民と過ごすことであった．

① 統合コースとボランティアのドイツ語学習支援の役割と棲み分け
② ボランティアのドイツ語教室の課題
③ 統合コースを行う民間ドイツ語学校とボランティアの連携
④ ドイツ人と難民の交流プロジェクトと地域での社会参画

4. 調査対象・方法

2017年夏と2018年冬にドイツでフィールドワークを行い，それぞれ以下の機関・団体で調査を行った.

(ア)キリスト教プロテスタント派の学生団体(Die Evangelische Studierendengemeinde Passau，以下ESG)：同団体の学生牧師でドイツ語のプロジェクトの主任者，ドイツ語教室を行う有資格者ではない学習支援者にインタビュー調査と，A1.1とA2.1のクラスの参与観察を実施.

(イ)難民カフェ(Asyl-Café)：難民カフェと呼ばれる市民の集いの場[4]．難民とパッサウ大学の学生・市民の交流を数度参与観察と学生ボランティアにインタビュー調査を実施.

(ウ)女性カフェ(FrauenCafé)：Gemeinsam leben & lernen in Europa e.V.というパッサウ市にある社団法人が運営する難民の女性と市民が参加する交流の場．女性と子どもの参加のみ認められている．難民女性とパッサウ市の子育てを終えた年代の女性市民の交流の場の参与観察を実施.

(エ)パッサウ市の市民大学[5]：統合コースを行うドイツ語教員兼外国語としてのドイツ語の主任者にインタビューを実施.

5. ボランティアのドイツ語学習支援活動―パッサウ市の事例から―

5.1 ボランティアのドイツ語教室―パッサウのESGを例に―

パッサウ市のESGは週に5日間，夕方16時から18時の2時間，移民や難民に無料でドイツ語の授業を提供している．ドイツ語教室は2015年以降に難民支援としてはじめられたのではなく，約30年前から行われている．以前の参加者は後期帰還者[6]やドイツ人の配偶者，難民が多かったが，2015，16年以降は難民の参加者が増え，クラスの数や1クラスの学習支援者の数を増やして支援を行っている．また一時は識字コースも提供していた.

ドイツ語学習支援者の多くは学生だが退職教師もボランティアとして活動していた．学生の専攻は教育学，人文学，法学などさまざまでボランティアをしたい人は誰でも参加できる．ボランティア希望者は2015年以降大幅に増え，各学期のはじめにオリエンテーションと称して教授法の共有やボランティア間のネットワークをつくるイベントが行われる．学期中は，オンライン上のプラットフォームでボランティア間の情報や教材の交換，スケジュール管理を行っている.

ESGでは，パッサウ市の市民大学で行われている統合コースで使われている教材を使用してドイツ語教室を進めている．しかし，統合コースで教わるような文法事項の基礎を教えるというよりは，日常での会話で使える表現を優先して教えているという．またクラスのレベルはA1.1，A1.2，A2.1，A2.2と分けられ，1学期(13週間)かけてコースを終える.

5.2 ドイツ人学生と難民の交流プロジェクト―パッサウのESGの“Come together for German”を例に―

ESGはドイツ語教室以外にも，“Come together for German”というタンデムプロジェクトを行っている．このタンデムプロジェクトは，ドイツ語を学んでいて，話したい人とドイツ語学習者を手伝いたいドイツ人をマッチングするプロジェクトである．年間に50～100人がこのプロジェクトに参加していて，参加者の多くは統合コースなどでB1の取得のためにドイツ語を学ぶ難民だという．学期中には，参加するドイツ人のために教授法や異文化理解などさまざまなテーマの研修が用意されていて，タンデムを通して不安なことや困難があった時にもESGを通して解決を目指す．基本的にESGはタンデムのペアリング後はそのペアの活動にはあまり関与しない．タンデムは最低週に1時間行うように言われているが，その1時間はドイツ語学習でも雑談でも料理でも自由である．また，曜日や時間も決められていないためペアごとにフレキシブルに活動できる．学期の最後にはパーティが行われ，そこに顔を出すペアも多いという.

このタンデムプロジェクトを通して，タンデムのペアがプロジェクト終了後も友人として一緒に活動することも少なくない．ESGでは年間で30～50組のタンデムを斡旋する．しかし，すべてのタンデムが成功しているわけではない．ESGが慎重に参加者のプロフィールを見ながらペアを作っても，相性や話が合わずタンデムが続かないペアもいるという.

---

[4] 直訳すると「難民カフェ」であるが，古くからパッサウ市民が自由に会話を楽しむ交流の場であり，難民のために作られた場所というわけではないという(パッサウ市難民支援コーディネーターの直話による，2017年8月7日).

[5] 市民大学とは，市が運営する学校で外国語以外にもスポーツやパソコンなどの技術系の講座があるカルチャースクールを指す.

[6] 後期帰還者(Spätaussielder)とは，ドイツ民族であることで迫害されて旧ソ連や旧東欧地域に強制移住したが，1992年12月31日以降に帰還した人々を指す．つまり，ドイツ人だがドイツ語を話すことはできなかったため，統合コースの受講資格を得た.

5.3 集いの場での交流プロジェクト―パッサウの難民カフェと女性カフェを例に―

2 週間に 1 度行われる難民カフェには，年齢や国籍，来独歴がさまざまな人が訪れる．訪れた人々は，運営側が用意したコーヒーや紅茶，クッキーやフルーツを楽しみながらそれぞれ自由に会話をする．庇護申請中の書類を持ってきた難民は簡単なドイツ語に訳してもらったり，語学学校でドイツ語を学ぶ難民はドイツ人との自由な会話で自分の語学力の向上を目指す．また，交流の場は情報交換の場でもある．ドイツの大学進学を目指す難民は受験方法に関する情報や，また語学学校の空きの情報を交換していた．難民カフェは学生ボランティアによって運営され，交流所の開放や飲み物，食べ物の準備と片付けなどが主な仕事である．学生ボランティアによる運営といっても，準備や片付けには参加したドイツ人や難民らも手伝うため重労働であるという印象は受けなかった．

また，法律を学ぶ学生のボランティアにより結成された庇護申請に関する相談会が，学期中に数回難民カフェを実施している施設内の一室で行われていた．難民カフェで庇護申請に関する情報を交換したいという難民は多い．しかし難民カフェを訪れるドイツ人はドイツ語を理解できても法的な内容まで理解することは困難である．そのため，難民カフェが場所の提供を行い，学生による法律相談会と連携することでより効果的に活動を行っていた．

この難民カフェの難民の参加者は若い男性が圧倒的に多い．その理由として，難民がそもそも若い男性が多いという点と，家庭や宗教的な理由で女性は家で子育てをするべきだという考えがある点や，ほかの男性がいる場所に行くことを認めない文化がある点があげられる．難民女性のドイツ社会参画は BAMF も課題としており，それを危惧してパッサウ市ではじめられたのが女性カフェである．2 週間に一度 15 時から 17 時に子供を連れた若い難民や中東出身者が集まり，雑談をする．ドイツ語能力はさまざまで，独自に学習をはじめたばかりの人から大学の難民向けのプログラムに申請している女性もいた．ドイツ人の参加者はパッサウ市に長く住む中年女性や子育てを終えた女性が多い．子供たちは運営のドイツ人と一緒に近くの公園や部屋で遊ぶ．その間にドイツでの子育てやドイツ語学習の困難さを話していた．

6. まとめと今後の展望

ここでは，3 章で述べた調査課題に沿って分析する．

統合コースは「社会参画とその機会の平等という意味での移民の統合促進」を目的として，一般的には 600 時間かけて B1 のレベルの達成を目指す．つまり統合コースの役割は移民・難民のドイツ語習得とそれによる社会参画の促進である．それに対して，ボランティアのドイツ語教室には 4 つの役割があると考えられる．1 つ目は，統合コースを受講できない人のドイツ語習得と社会参画の促進である．公式にドイツ語を学ぶ機会がなく金銭的に語学学校に通うこともできない難民にとって，ボランティアのドイツ語教室は教科書を使って勉強できる唯一の場所となる．また，交流の場は普段ドイツ人と関わる機会がない難民にとって社会参画の一歩として重要である．2 つ目は，ドイツ語学習のモチベーションの維持である．統合コースの受講待ちの難民は，ドイツに滞在しているものの統合コースに通うこともできず働くこともできない．その時にボランティアのドイツ語教室に通ったことでドイツ語学習へのモチベーションを保つことができるという．また，ESG のドイツ語教室の最後には出席率が良い参加者に修了書が渡される．この修了書は公的なドイツ語能力の証明書ではないが，「決まった場所に来る」ことの証明であり，修了時に何もないよりは参加者たちのモチベーションをあげることもできるという．3 つ目は，学習速度が遅い学習者にとって学びやすいということである．図表 1 で分かる通り，統合コースは 4 週間で 100 時間の授業を行い，1 つのモジュールを終える．それに対して ESG のドイツ語教室では 13 週間かけてゆっくりと 130 時間の授業を終える．特に識字能力が低い人にとって，統合コースを受ける前に一度ゆっくりと学んでおくことは統合コースでドイツ語を理解するときに役立つという．4 つ目は，統合コースに通う時間がない人にとって夕方に 2 時間行われるドイツ語教室は都合が良いということである．既に働きはじめている人や子育てをしていて午前中統合コースに通うことができない人にとって，夕方の短い時間にドイツ語を学べることは便利である．

図表 1　統合コースと ESG のドイツ語教室の違い

	統合コース	ESG のドイツ語教室
参加者	BAMF から受講を認められた人	だれでも，いつからでも受講可能
教 員	BAMF に認定された有資格者	だれでも支援可能
期 間	1 つのモジュール(A1.1 など)を 4 週間	1 つのモジュールを 1 学期(13 週間)
時間数	100 時間	約 130 時間
料 金	1 回の授業につき 1.95€	無料
修了後の資格	統合コース修了とともに B1 の資格を得る	出席率のみによる修了書が発行される

ボランティアのドイツ語教室は，統合コースに通えない人にとってドイツ語学習という目的には十分とは言えないものの補完的役割を果たしているが，課題も抱える．例えば，無料で法的地位に関係なくだれでも参加できるので，参加者の動機がさまざまである．あるクラスではドイツ語を学びに来ている人もいるが，友人が行くからという理由で参加する人もいる．それが原因で教室内の秩序が乱れることも少なくないという．また，ボランティアのドイツ語教師は母語話者でもA2以上の教授法には限界があるという．

そこで，ボランティアのドイツ語教室は統合コースを行う市民大学と連携をとり，より良いドイツ語学習支援を目指している．市民大学では統合コースを受講できない難民に，ESGの無料のドイツ語教室を紹介してドイツ語学習をボランティアに任せることもある．また，5.2に記したタンデムプロジェクトも市民大学でドイツ語を話したいという難民の声に応じてESGが立ち上げたプロジェクトである．他にも，パッサウ市内で行われる統合コースで使われているものと同じ教材を使用してドイツ語を教えており，ボランティアのドイツ語教員に学期がはじまるときに行われる教授法のオリエンテーションは市民大学の教員が行っている．このように，市民大学とボランティア団体が共に活動することでドイツ語学習者やボランティアである学習支援者の可能性を広げている．

交流プロジェクトに参加する難民は，「普段ドイツ人と関わりがないのでこのような場があるのは嬉しい」と話す．仕事をはじめる前や難民ハイムと呼ばれる難民が多く住むマンションのようなところに住んでいる間は特にドイツ人との接触が少ないという．難民カフェではドイツ人・難民に関係なく，参加者の中で同じ趣味の人が集まって，週末にジョギングやサイクリングをすることも少なくない．このように，交流の場を通じて活動を共にすることで社会参画が行われている．女性カフェでは，シリア人女性が感じた子育てにおけるギャップと暮らしにくさを話題に出すと，子育てを終えたドイツ人女性はドイツ人の考え方や暮らし方を伝えながら文化の違いによる違和感の払拭に努める．このように全く異なる文化を持つ人々が共存する社会では，互いに会話を重ねて相互の文化や習慣を尊重して暮らしていくことが求められる．

パッサウ市の難民に対するボランティアの学習支援の役割や交流プロジェクトの実態の調査から，統合コースを実施する市民大学とボランティア団体がそれぞれ課題を抱えながらも互いに不足している部分を補完的に活動していることが明らかになった．特に地域でボランティアや民間組織，市などの公的機関が包括的なネットワークを築くことで，より難民のニーズに沿った活動が行えている．しかし，タンデムプロジェクトではペアの相性によってはうまくいかないこともある．また，タンデムの参加希望者はドイツ人より難民のほうが多いため，どのように多くの学生の興味を引き付けられるかに主任者は頭を抱えていた．学生の参加者が多い交流イベントでは，帰省のため休暇中の参加者が少ない．ボランティアの利点として，活動を柔軟にニーズに沿って行えることがあげられるが，ボランティアの不足も現状である．庇護申請者数も落ち着きを見せはじめた今，ボランティア間のどのような連携が効果的なのか，どのようにドイツ人ボランティアの参加を促すか，今一度考える必要性があるだろう．

参考文献

足立祐子（2009）．ドイツの現在と新潟 春原憲一郎(編) 移動労働者とその家族のための言語政策 ひつじ書房，93-120.

木戸芳子（2017）．移民のためのドイツ語教育：統合コースとドイツ語試験研究紀要 東京音楽大学，**40**，29-53.

金箱秀俊（2010）．移民統合における言語教育の役割―ドイツの事例を中心に― レファレンス，**60**，51-76.

久保山亮（2009）．ドイツの移民政策における自治体と中間的組織―1990年代後半からの政策転換と“統合から締め出される「事実上の定住者」”― 庄司博史(編) 移民とともに変わる地域と国家 国立民族学博物館，257-278.

熊谷知美（2016）．難民を受け入れるドイツ―レーゲンスブルク市の場合― 人間文化研究，**37**，119-143.

公益財団法人日本国際交流センター（2017）．ドイツの移民・難民政策の新たな挑戦―2016ドイツ現地調査報告―

昔農英明（2016）．ドイツにおける市民的統合と移民組織：ムスリム移民の活動の変容 三田社会学，**21**，3-17.

平高史也（2011）．ドイツにおける移民のための統合コース 民博通信 国立民族学博物館，**135**，12-13.

平高史也・荒木萌（2018）．ドイツ語統合コースの現状―大量難民受入れ以降の状況を中心に― 社会言語科学会，**41**，162-165.

山川智子（2012）．ドイツ語学習支援の現場から 松原好次・山本忠行(編) 言語と貧困―負の連鎖の中で生きる世界の言語的マイノリティ 明石書店，241-243.

Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend（2017）. *Engagement in der Flüchtlingshilfe ― Ergebnisbericht einer Untersuchung des Instituts für Demoskopie Allensbach ―*. <https://www.bmfsfj.de/blob/122010/d35ec9bf4a940ea49283485db4625aaf/engagement-in-der-fluechlingshilfe-data.pdf>

（招待発表）

消滅危機言語，宮古口のエスノグラフィー

―学校と集落のフィールドワーク調査の記録―

藤田ラウンド幸世（国際基督教大学）

1. はじめに

21 世紀の日本社会では，1）先住民言語のアイヌ語と琉球王国時代からの琉球諸語，2）19 世紀から日本に移住をしたオールドカマーの母語である韓国語や中国語，3）1990 年改定入国管理法に伴い移住した，日系人を中心としたニューカマーの母語であるポルトガル語やスペイン語，4）非漢字圏のニューカマー移民の母語であるフィリピン語やネパール語等，また，5）書記言語でも音声言語でもない「手話言語」の日本手話など，「日本語」以外の言語も使用されている．日本語は主要言語ではあるが，日本社会には単一言語のみではなく，言語の多様性が存在している（Fujita-Round & Maher, 2017）．

本研究は，ユネスコ（UNESCO 国連教育科学文化機関）に認定された日本国内に存在する 8 言語の消滅危機言語の一つである，宮古語が使用されている宮古島をフィールドとし，消滅危機言語と日本語のバイリンガルの言語使用について調査を行っている．2012 年からフィールドワークを始め，段階を経て宮古島市の中の学校（小学校，中学校）と集落（家族，コミュニティ，学校外での施設）のフィールドワークの対象者を広げた．また，生徒の宮古口（みゃーくふつ）と日本語の二言語使用の調査では，学校現場でアクションリサーチを行った（藤田ラウンド，2015）．本発表では，フィールドワーク調査と中学生への縦断的インタビューの言語データとを組み合わせ，言語のエスノグラフィー（Linguistic Ethnography）としてまとめることを試みる．

2. 宮古口のバイリンガリズム

2. 1 日本国内の消滅危機言語

国際機関としてのユネスコは，世界中の消滅の危機に瀕した言語について，2003 年にユネスコの無形文化財局内に新たに危機言語部門を設置し，そこでまずガイドラインを作成した[1]．続けて，2009 年にはユネスコによる世界の危機言語地図をインターネット上で公開した．その地図上には危機言語として日本国内の８つの言語が記載されている．危機度別に，1）極めて深刻：アイヌ語，2）重大な危機：八重山語・与那国語，3）危険：八丈語・奄美語・沖縄語・国頭語・宮古語である．ユネスコが認定した日本国内にあるとされた消滅危機言語の８言語の内，６言語は「琉球諸語」である．

---

[1] UNESCO Ad Hoc Expert Group on Endangered Languages (2003) "Language Vitality and Endangerment", a document submitted to the International Expert Meeting on UNESCO Programme Safeguarding of Endangered Languages, Paris, 10–12 March 2003 http://www．unesco．org/new/fileadmin/MULTIMEDIA/HQ/CLT/pdf/Language_vitality_and_endangerment_EN．pdf

図１．ユネスコ「世界の危機言語地図」上の 8 言語[2]

「琉球諸語」とは,「琉球語」として一つの言語が話されるわけではなく，琉球には複数の言語があり，その総体を意味する．Shimoji (2010)は,「琉球語」は琉球王国の城があった首里を中心とした首里語を指して「琉球語」と代表させることがあるが，19 世紀まで琉球王国として発達をとげた現在の沖縄県・鹿児島県に点在する島々の中で，首里語は「沖縄本島」で話される言語の一つであると指摘する．また，新垣(2013)が言うように，北は奄美諸島から南は与那国までの約 1,260 メートルに及ぶ海域で話されている「ことば」または「言語」を考えれば,「琉球語」という一つの言語ではなく,「琉球諸語」として複数の言語の総体としたほうが現実的であると考えられる．琉球諸語に関しては，そのことばの位置付けを「言語」とするのか,「(日本語の) 方言」とするのか、これまでの歴史的かつ政治的な問題もあり，未だに決着をみていない．本発表では，こうした議論とは別に，宮古島の言語話者の「話しことば」で自らの言語を表す「宮古口(みゃーくふつ)」を宮古語と同義で用いる．

2．2　琉球諸語の衰退と日本の言語政策

琉球諸語が現在のように衰退した原因は，明治期に始まった日本の言語政策、標準語化政策であることは誰もが指摘するところである．(詳しくは藤田ラウンド，2015 参照)．簡単に述べておくと，明治 5 年から 12 年にかけて，琉球王国が廃止され，琉球藩に，さらには沖縄県として位置付けられるようになり，それと同時に日本政府の政策として，琉球の島々は「本土」の言語と文化に強制的に同化させられた．特に学校教育の中で「方言札」に象徴されるような強制的な日本語使用が奨励された（田窪，2013)．これと同時に，言語使用域の「公的」スペースが日本語に取って代わられたことで，それぞれの地域方言の言語使用域が狭まり，使う機会が減少したともいわれている（ハインリッヒ，2010)．加えて，1972 年の沖縄の本土復帰（沖縄返還）以後，沖縄県の学校教育の教授言語は日本語になり，同時にメディア，雑誌，本，公的文書，公的標識などが日本語の標準語へと切り替わった

[2] UNESCO Atlas of the World's Languages in Danger, http://www．unesco．org/languages-atlas/

（Fujita-Round & Maher, 2017）．日本での消滅危機言語は，いづれも上記に挙げた明治時代の歴史的経緯，標準語化の言語政策が衰退の一因として関わっているといえるが，その中で留意をしたい点は，教育現場において日本語への同化が進められたことである．

2．3　宮古島市と研究調査地の現況

沖縄県宮古島市は，沖縄本島から約 300 ㎞南西に位置する先島諸島の一部であり，宮古島群島，宮古島，池間島，大神島，来間島，伊良部島，下地島，多良間島，水納島の 8 つの島々から形成されている（青井，2013）．この 8 つの島のうち，図 2 に示した 1 から 6 までの島々の市町村を 2005 年に合併し，これが現在の宮古島市となった．

図 2．宮古島諸島[3]

2014 年において，宮古島市の全人国は 54,290 人であり，そのうち本研究の対象となった久松の集落の人口は 1,084 人で，宮古島市全体の 2%にあたる．集落の史実を書いた松原（2001）によると，近代における久松集落の人口のピークは 1960 年の 3,552 人であったという．また，当時の小学校の児童数は 683 人であったので，2014 年の久松小学校の児童数である 308 人と比較をすると 2 倍の児童が集落に住んでいたことになるが，逆に，小学校に通う子ども達は半世紀で半分に減少したともいえる．

2．4　宮古口の言語話者

青井(2013)は，宮古語を，宮古ことば，大神ことば，池間ことば，伊良部ことば，多良間ことばと来間島を除く 5 つの島ごとに分類し，話者については「宮古語を流暢に話すことができるのはだいたい 60 歳代以上であり，それよりも下の世代になると宮古語を話せない方が増え，20－30 歳代では聞き取ることも難しくなる」（青井, 2018:88）という．林・ペラード(2012)らは，宮古語は南琉球語に属し，多良間島と宮古島内で話されている言語だが，「宮古語」とはいってもコミュニティごとに異なる方言・バリエーションを持っているので 30 から 40 の宮古語の方言が存在すると述べている．

島という立地条件や歴史的変遷により，一つの「言語」から複数の変異が生み出される．それは地域や集落ごと，つまり地理ごとの静的な属性にカテゴリー化できよう．一方で，こうした言語を分け隔ててい

[3] 出典元：Map-Miyako Islands Creative Commons, https://commons. wikimedia. org/wiki/File:Miyako_map. jpg

る地域のカテゴリーとは別に，島を巻き込む日本社会全体の変化，すわなち歴史・社会的な影響やグローバリゼーションもが言語に影響を与え，特に言語に関わる個人の教育や選択に関わるだろう．このような複数の層の影響を見極めることで，さらなる話者に関わる文脈が明らかになるのではないか．

先述の明治時代の言語政策以後,「教育」を通して日本語が入り込んだことから，その政策が厳しく反映された教育を受けた世代，また戦時中の混乱期やアメリカの占領下の教育を受けた世代，つまり，話者一人ひとりが受けた教育にも，歴史・社会的な「言語」に対する態度や意識が反映されていたことは想像に難くない．このような影響のもと，家庭内での言語選択が宮古口から日本語に傾き，島人自ら、また宮古島の集落や島全体の中での日本語へのシフトが進み、宮古口の言語使用を複雑化させたといえる．

3. 消滅危機言語，宮古口のエスノグラフィー

調査開始時の研究目的は，宮古口の現状がどの程度の危機にあるのか，その言語使用を調べることであった．先行研究から想定していた宮古口母語話者は 60 歳代前後であったが，フィールドワークを始めて集落の人たちの語りと実際を見ているうちに集落によっては 80，90 歳代まで進んでいることがわかり，調査から見えない集落を取り巻くグローカルな変化が陰影として言語話者にも影響を与えていることがわかった．また，小学 6 年生の時に出会った子ども達の中学 3 年間を縦断的に追い，その間に親と祖父母世代の方々と親交を深める中で，縦断的な視点が研究者の中にできてきた．

マクロとミクロとなるそれぞれ質の高い言語データをどのように得ることができ，また，三世代の時間的変遷をどのように捉えるのがいいのかなど，言語学と社会言語学の狭間を試行錯誤もしてきた．本発表ではフィールドワークで得た個人を取り巻く文脈（マクロ）とインタビューの談話（ミクロ）を組み合わせた言語のエスノグラフィー(Linguistic Ethnography)の可能性にも言及したい．

謝辞　本研究は JSPS 科研費 24520586，15K02659，18K00695 の助成を受けた．

参考文献

青井隼人(2013)．「宮古語」概説　沖縄大学地域研究所(編)　琉球諸語の復興 芙蓉書房　pp．87-98.

新垣友子(2013)．琉球における言語研究と課題　沖縄大学地域研究所(編)　琉球諸語の復興 芙蓉書房 pp．3-29.

藤田ラウンド幸世(2015)．学校教育の中で言語継承への気づきを育てる －沖縄県宮古島市での自尊感情につなげる教育実践　教育研究 57 国際基督大学教育研究所 pp．175-182.

Fujita-Round，S. & Maher，J.（2017）. Language Policy and Education in Japan. In T. McCarty & S. May eds. *Encyclopedia of Language and Education, 3rd edition, Vol. 1, Language Policy and Political Issues in Education*. NY: Springer pp. 491-505.

Maher, J. C.（2017）. *Multilingualism*. Oxford: Oxford University Press.

松原信勝（2001）. 野崎邑　歴史と暮らし　みえばし印刷出版部

ペラール,トマ・林由華(2012)．宮古諸方言の音韻 木部暢子(編)　消滅危機言語の調査・保存のための総合的研究　国立国語研究所 pp. 13- 51.

Shimoji,M.（2010）. An introduction. Shimoji, M & Pellard, T. eds. An introduction to Ryukyuan languages. *Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)* pp. 1-13.

人はなぜことわざを使うのか

―コーパス日本語会話における位置とはたらきの分析から―

谷畑美咲（関西学院大学大学院生）

1. はじめに

我々の日常会話において，ことわざはしばしば使用されるが，日本語教育においては，あまり使わないので，積極的に教えない，という傾向も強い．しかし，教えるかどうかの意義を検討する上で，頻度だけではなく，日本語話者はどのような時に，なぜことわざを使うのかを明らかにする必要があるのではないだろうか．しかし日本におけることわざの研究は多く存在するものの，それらは主に分類に主眼を置くもので，ことわざが人々の言語活動の中で果たすはたらきそのものに注目した研究は管見の限り少ない．そこで本研究では，ことわざが会話の中でどのようなはたらきをするかを「会話中の連鎖上の位置」という観点から探る．この問いを解明することで，そもそも我々はことわざを使用することで何を成し遂げようとしているのか，という本質的な意義に迫ることができると考える．

2. 先行研究

2.1 日本語におけることわざの先行研究

穴田（1996）によると，現在，日本国内におけることわざに関する研究は，主に民俗学的研究と，社会学，文化人類学，社会心理学の 4 つの領域で行われている．これらの多くは口承文芸や現存する書物にあらわれることわざの分類である．人々がことわざを使うことで何を遂行しようとしているかを解明するためには，実際の相互行為のデータを詳細に見ていく必要がある．

2.2 会話分析におけることわざの研究

Drew & Holt (1998)は，ことわざ(Proverb)を含む Figurative expressions を会話分析の観点から分析し，(1)話題を要約し，(2)参与者の同意が行われた後，話題を収束させる機能があることを明らかにした．

発表者は Drew と Holt の研究を踏まえて，日本語の日常会話データを用いて，日本語母語話者がことわざを使用するとき，どのような相互行為上の課題を解決しようとしているかに焦点を当てて分析を行う．

3. 分析手法とデータ

本研究では，会話分析の手法を用いる．会話分析は，「連鎖上の位置」と「発話の組み立て」に着目し，この２つの観点から発話のはたらき（行為）を明らかにする学問である．これらの観点は，研究者だけではなく，その会話の参与者自身が，その発話がどのような行為を遂行しているのかを理解する上で利用している観点でもある．つまり会話分析という手法を用いることは，人々がコミュニケーションを行う際に，ことわざを使用することで一体何を遂行しているのかを探るという目的に適っている．

本研究が対象とするデータは，米ペンシルバニア大学の David Graff 教授が収集した電話会話コーパス Call Friend および Call Home に収められた日本語母語話者同士の会話である．

4. 分析

これまでの分析から，ことわざのはたらきについて，(1)「話題を終わらせること」と(2)「褒めや個人的なトピックから話題の主を遠ざけること」という 2 つがあることが明らかになった．以下では、それぞれのはたらきについて，具体的な事例を示しながら説明する。

4.1 ことわざのはたらき①「話題を終わらせること」

断片(1) [医者の不養生]

01 B: う:ん，ガンは大したことなかったんだって．
02 A: あ:そうな[の:?
03 B: [だけど:肺炎起こしたんだって．
04 A: う:ん．
05 B: ほら:，やっぱり手術で血液が足らなくなるでしょ:¿
06 A: う:ん．
07 B: ん-だから:肺炎起こしちゃったら治んなくなっちゃったみたいね．
➡08 A: （)なにそれ，医者のふ-医者のふよう-
➡09 A: ぶよう-
➡10 B: ふ[ようじょう．
➡11 A: [ふようじょうだね:.
12 B: <そうだねえ:>
13 A: ねえ::.

A と B は親戚同士で，生前は外科医であった叔父の死因が，ガンではなく肺炎であったと B が A に切り出す．02 行目で A は驚きを示すものの，04，06 行目ではあいづちを打ちながら B の詳しい説明に耳を傾けている．07 行目で B は説明を一通り終える．次は，例えば「気の毒に」とか「大変だったね」というような，話題全体に対しての A の評価や感想が期待される位置である．まさにそこで，A はことわざを用いて自身の評価を述べる(08 行目)．言葉の産出がスムーズにいかず，修復が起こるものの，12，13 行目で A と B による同意がなされて話題は収束し，この後，次の話題へと移っていく．ことわざには，元来，話題の凝縮度が高く，さらに使用者側の，話題に対する端的な評価を含む，という特徴があると言われている（武田，1999）．これらの機能が，ここで A が一言で話題のエッセンスをまとめ，同時に自身の驚きや否定的な評価を同時に表明することを可能にしている．

4.2 ことわざのはたらき②「褒めや個人的なトピックから話題の主を遠ざけること」

断片(2) [案ずるより産むがやすし]

01 M: あ:そ:なんだ．よかった[じゃ↑ない¿ 心配してー
02 S: [う:ん．
03 そうそうそうま:ありがとね=でもう:ん=すみませんでした．

➡04 M:　いえいえ,あの: 何とかより産むがやすしで何だっけ？

05 S:　う:ん.

06 M:　ね.

07 S:　う:ん.

➡08 M:　案ずるより産むがや(h)す(h)し(h)か(h)

09 S:　¥よく知ってるね:そんなことば:¥

M と S は友人同士であり，M のおかげで S の近親者の生活が好転したというエピソードを S が M に語った直後の会話である. M がそこまでのエピソードに対する自身の評価を示した後， S は M に対して感謝を述べる(03 行目). 次の位置で, M は自身に向けられた感謝に対応しなければならない. そこで M はことわざを使用して(04 行目), 自身に向けられた感謝の対象となったエピソードに対し，個人的な話として反応する代わりに世間一般の話として反応を返すことで，自画自賛となる可能性を回避しつつ，同時にことわざのエッセンスを利用することによって，話題全体に対する自身の評価を一言で示している.

断片(3) [貧乏暇なし]

01 K:　. h いや:だからダメだよ:来なきゃ.

02 F:　AHAHAHAHA <そ(h)ん(h)な(h)ダ(h)メ(h)だ(h)よ(h).

03 K:　fufufu ¥1 年に 1 回は来るようにしなきゃ:¥

04 F:　°いきたい °-[行きたいなあ:,

05 K　　[ふぐ旦那さんがお医者さんなんだか↑ら:.

06　(.)

07 K:　°う:ん °

➡08 F:　え:m そんな:on 貧乏暇なし:.

09 K:　¥またまたウソばっか¥

10 F:　↑もうかんないのよ::.

11 K:　えっ,¥またウソばっかり:¥

12 F:　ほんとに歯医者ってダメよ:¿.

13 K:　ウソばっかり，治してくれない?

F には歯医者の夫がおり, K は独身で金銭的に厳しい生活，という立場が異なる友人同士の会話, K は具体的な数字を持ち出したり,「〜しなきゃ」と義務の表現を用いたりして，強い誘いを繰り返す（03 行目）. それに対し, F は笑いながら否定したり，「行きたい」と自身の希望を述べたりして，誘いへの回避を試みる. しかし 05 行目で K は「医者は一般的にお金持ち」という一般的な見方を持ち出し，三たび誘う. ここで自身の帰属へのうらやみを回避しつつ，誘いを断るというジレンマに直面することになった F は，ことわざを用い，自身の個人的な状況ではなく，世間一般のこととして発話することで，デリケートなトピックに対するうらやみを回避する(08 行目). さらにことわざのエッセンスを利用することで，「お金がない+時間がない」という二つの断りの理由を同時に示すことが可能となり, K の繰り返された誘いを終わらせることに成功している.

4.3　考察

4.1 では，ことわざが元来持つ特徴を利用して，一言でその話題やエピソードのエッセンスをまとめ，同時に使用者側の評価を示すことによって話題を終わらせるはたらきを考察し， 4.2 では，張(2014)で「焦点ずらし」と呼ばれる，褒めや個人的なトピックから話題の主を遠ざけるはたらきについて考察した．分析の結果，我々はことわざを使うことで，他の言い方では解決することができない，参与者たちが会話中に直面し，都度解決しなければならない様々な課題をクリアしていることが分かった．なお，張では，「焦点ずらし」をポジティブな評価に対する聞き手の応答の方略の一つとして見出しているが，本研究の分析の結果，「焦点ずらし」が，ポジティブな評価以外のものに対しても用いられていることが明らかになった．

5. おわりに

本研究では，ことわざの「話題を終わらせる」はたらきが，実際の相互行為でも有効であることを実際の会話データから証明した．また，新たに，焦点ずらしをすることによって，「褒めや個人的なトピックから話題の主を遠ざける」はたらきがあることを明らかにした．しかし，これらはまだことわざの持つはたらきの一端に過ぎない．今後は引き続きデータを追加・分析して他のはたらきがあるかを解明するとともに，参与者たちが会話の中で，その都度どのようなアイデンティティ（例えば感謝された人，褒められた人，等）に志向し，直面する課題の解決策として「なぜ・そこで・いま」ことわざを使うことが適切であるのかを引き続き探る必要がある．

（付記） 記号会話データの転記は Gail Jefferson によって開発された記号を元に，日本語向けに整理された西阪・串田・熊谷(2008)を参考にした．

::	直前の音の引き延ばし．コロンの数は引き延ばしの長さを示す
. / ,	語尾の音が下がり発話が終わる抑揚とやや下降調で発話が続く抑揚
?/ ¿	上昇調の抑揚とやや上昇調の抑揚
° °	音が小さい部分
[	複数の参与者の発する音声の重なり
( )	聞き取り不可能な箇所．空白の大きさは，聞き取り不可能な長さに対応
< >	発話のスピードが著しく遅くなる部分
. h/ h	吸気音と呼気音（言葉の後ろに h がつく場合，笑いながら発話が産出されている）
¥ ¥	発話が笑い声でなされている
言-	言葉が不完全なまま途切れている
↑ ↓	直後の音調の極端な上がり下がり
(.)	0. 2 秒以下の短い間合いを示す

参考文献

穴田義孝（1996）．ことわざに関する社会心理学的 研究序論，政経論叢，**64**(3・4), 117-298.

張承姫（2014）．相互行為としてのほめとほめの応答　-聞き手の焦点ずらしの応答に注目して-，社会言語科学，**17**(2), 98－113.

Drew, Paul & Holt, Elizabeth (1998). “Figurative of Speech: Figurative expressions and the management of topic transition in conversation” *Language in Society 27*, 495-522

武田勝昭（1999）．ことわざによるトピックの要約，語用論研究，**1**, 15-28.

会話に現れる架空の物品に対する認識の共有

―テーブルトークロールプレイングゲームにおける

参与者の発話と行動に着目して―

井上雄太(一橋大学大学院)

1. はじめに

本研究の目的は，複数人の参与者が協働して架空の状況を構築する会話において，参与者の目の前に実際は存在しない物品が提示され，共有される手続きの一端を明らかにすることである．

参与者が架空の状況の進行を共有する会話は，雑談等に見られるストーリーテリングの研究においても検討がなされているが，展開の主導権を持つ参与者が固定されおり，複数人による協働的な展開は取り扱われていない．井上(2017)では展開の主導権を複数人が持つ架空の状況が展開される卓上ゲーム，テーブルトークロールプレイングゲーム(以下 TRPG[1])の初心者によるプレイ時の会話が分析されているが，架空の状況内のキャラクターの像の変化の共有を可能にする手続きが特に着目されており架空の状況内での合流時におけるキャラクターの導入とその像の変化の共有を可能にする手続きが着目されており，架空の状況内の物品に関する検討は十分ではない．臼田(2015; 2017)では，西阪(2008)による「演技」の分析に依拠し，会話に導入される参与者の目の前には存在しないオブジェクトを利用した「演技」が，その物品への態度や関心を示し，直後に他の参与者も同調反応を行うことを可能とする手続きとして検討されている．しかし，「演技」に後続する他の参与者のどのような反応により，架空の物品が共有された・あるいはされていないのかが示されるのかについては考察が与えられていない．本研究では，この架空の物品の共有を可能とする手続きに着目する．

2. 対象とする会話

本研究では，TRPG における司会者プレイヤー(ゲームマスター，以下 GM)以外の一般プレイヤー(以下 PL[2])の担当するキャラクター(以下 PC)がゲーム内で進行する場面に登場するために別の PL の所有する物品を用いるやりとりに注目し，その物品にまつわる会話を分析する．特に 1.架空の状況への新規の物品の導入への肯定的な反応が複数の参与者によってなされた場合，2. 物品の提示が他の参与者によって却下された場合に注目し，主に会話分析の手法に依拠して考察を行う．対象とするデータとしては，2016 年 6 月に行われた『ダブルクロス The 3rd Edition ルールブック 1・2 (矢野・F.E.A.R., 2009)』を用いた 6 時間ほどのプレイの映像記録

[1] TRPG はテーブルを囲んだ 4～6 人程度のプレイヤーが紙とペンとサイコロ等を用い，会話によって架空のキャラクターを操り，架空の環境上に起こる課題をルールに従って解決に導く遊びである．プレイヤーは，使用するキャラクターの出自・能力・外見などをまとめたキャラクターシートと呼ばれる用紙に記された情報に基づき，キャラクターによる様々な行動ややりとりを，会話を用いて展開してゆく．

[2] 本稿では，以降混同を避けるため，ゲーム参加者全てを指し示す場合にのみ「プレイヤー」「参加者」という語を用い，司会者プレイヤーである GM 以外の一般プレイヤーという場合には「PL」という語を用いる．PL はそれぞれ一人のキャラクターを担当し，GM は舞台設定の準備や PC 以外のキャラクターを担当する．

の一部を用いた．シナリオ[3]は同ルールブック 2 に記載の「World End Juvenile」を採用した．

本稿で扱う会話は，ゲーム内で各 PL への状況説明や動機づけを行う会話の直後，PC3， 4， 5 が場面内で初めて合流する箇所の序盤を用いた．ゲーム序盤の会話では，以降のプレイ中に用いられる物品の初回の導入が行われることが多く，その認識を共有する手続きが比較的丁寧に行われる．場面内に登場する PC は PL3 による神田の古書店の店長いちご，PL4 によるレイジ，PL5 によるブルースクリーンオブデス(以降ブルースクリーン/トランスクリプト上はブルー)の 3 名となる．PC1～4 は人間の超能力者であるが，PC5 はウィンドウズのブルースクリーン画面に現れる妖精[4]のようなものであるとされている．また，各 PC は本シナリオ以前に面識があることが，事前に PL 達によって決められている．ここでは PC たちがとある重要情報をうけ，その対策や情報収集を行う準備段階の会話がなされている．

3. 物品の現れる会話

以下のトランスクリプトにおける会話では PC3 いちごがとある重要人物の連絡を受ける場面[5]が展開される．GM により連絡が通話でなされる旨の宣言がなされてから，場面内にて PC3 いちごがその連絡を受け取るまでに行われた会話のトランスクリプトである．発話者としての PL 番号表記に，担当するキャラクター名を付記した．また，場面内においてキャラクターの行動や，物品の使用といった変化が伴うと考えられる発話の行は便宜的に背景をグレーとした．当該の会話が行われる前に，PL3，4，5 がこのシーンにて担当キャラクターを合流させようという計画がなされている．参加のタイミングは自由であることが GM によって表示されており，会話が始まった時点で場面に登場しているのは PC3 いちごのみである．1 行目で PC3 に通話がくることや，16 行目で PL3 が PC3 に通話を取らせたりパソコンを開かせたりしている点から，PC3 は既に場面に登場しているということは参加者に了解されていると判断できる．PL4 は連絡の後に PC4 を登場させることを表明しているが，PL5 は PC5 を登場させるタイミングに関して表明していない．

断片 1　物品の「出現」

→1	GM	と:いうわけで[じゃあ PC3 のところにえ:通話が来ます飛んできますと．
2	PL3 いちご	[は::い．
3	PL3 いちご	じゃああ:の::
4	GM	=とってあげてください．
5	PL3 いちご	=はいあ取りますけどあの:ウィンドウズのパソコンを開きながら::
6	PL5 ブルー	は(h)い(h)，は(h)い hh
7	PL4 レイジ	やさしい，
8	PL5 ブルー	.hhhh
9	GM	やさしさにあふれているな．
10	PL2 弓弦	ていうかあれっすねあの下の方のあの↓::
→11	PL4 レイジ	ウィンドウズフォン．
12	PL5 ブルー	ウィンドウズフォン，あウィンドウズフォン，
13	PL3 いちご	あのウィンドウズフォンはちょっとこいつがいることを知っているので．

[3] TRPG において，大枠の世界観や行動の成否の決め方を定めたものがルールと呼ばれるのに対し，個々のプレイ(セッションと呼ばれる)において舞台となる場所，登場人物，事件の展開や解決方法の指針を定めたものがシナリオと呼ばれる．このため，TRPG のシナリオは，脚本・戯曲というよりゲームブックに近く，実際の進行はシナリオ通りとは行かない事も多い．

[4] PC の年齢や種族・来歴などは，シナリオに用意されたハンドアウトと齟齬が発生しない限り，PL が自由に決めることができる．

[5] この文章では参加者が共有するであろう，PC であるブルーやいちごが存在し会話を行うような架空の状況のことをとりあえず場面と呼ぶ．

14	PL3 いちご	あのウィンドウズフォンででプツッっとされると困るんで[::
15	PL4 レイジ	[あ::
16	PL3 いちご	(1.0)ノートパソコンでぽっと置いといた状態で(.)電話に出ます=
17	PL5 ブルー	はい::
18	GM	ええ榛名さん大変ですと.

3.1 ウィンドウズのパソコンの配置と出現

3.1.1 物品の提示への参加者による評価

当該の会話は，それが PC 達にとっていつ・どこで行われたかということは特に説明されずに進んでゆく．どの参加者もその点に関しては，気にしているような発話は見られない．この会話で多く触れられているのは，5 行目から現れる「ウィンドウズ」のパソコンや電話である．PC3 いちごが連絡を電話で受けることが 15 行目で語られているが，5 行目においてわざわざ「ウィンドウズのパソコン」が提示されている．ここでは，展開中の場面の時刻や場所の詳細な情報については語られない．むしろ，6〜9 行目での PL5 の笑いと PL4 と GM の発話は，パソコンを PC3 のいちごが開くことへ向けられている．

PC5 がいかにして場面に登場可能かという点に関し，人間であるほかの PC とは事情が異なるキャラクター設定を確認する．ま PL5 はプレイ開始前に行ったキャラクターの紹介において，担当する PC5 がウィンドウズのブルースクリーン画面に映像として現れると表明した．そのため，紹介した内容に沿って PC5 が場面内に現れるためには，場面内に何かしらウィンドウズを映す事のできる画面が必要となる．

これら二点により，5 行目で PL3 がわざわざ「ウィンドウズのパソコン」と明示して，PC3 にパソコンを開かせたことは以下のように読み取ることができる．PL5 に自らの担当する PC を合流させる意志と，加えてキャラクター紹介時に提示した設定を遵守する意志があると考えるのであれば，PC5 を登場させるために必要な小道具を頼まれもせず明示的に用意したことは，PL5 の助けとなり PL4 と GM が「やさしい」と表明するに値することであるのだろう．もちろんプレイヤーの権利上は，PL3 がウィンドウズ以外のパソコンを PC に開かせることも，そもそもパソコンには言及せず通話を取ることも可能であったのであるが，PL3 は 20 行目で PC3 に「ウィンドウズのパソコンを開」かせたのである．

3.1.2 物品の出現

さて，ここで 5 行目にもう少し注目したい．20 行目以前では，PC3 いちごが存在する場面は，時間も場所もそこに他にどのようなものがあるのかも明らかになっていない状態であった．それが，5 行目以降は，通話をとることが可能であり，パソコンを開くことができる環境であるということとなる．PL3 が 5 行目で，「通話を取ります」ということは，PC3 に通話するための機器(後ほど 16 行目で電話であると明らかになる)を用いさせることとなる．同様に「ウィンドウズのパソコンを開きながら」と発話することは，PC3 に「ウィンドウズのパソコンを開き」，恐らく起動させることとなる．この際，PC3 のいる場面には通信機器とウィンドウズのパソコンがもとよりあったということが，発話上では事後的に確定する．そのため PL3 は 5 行目によって，PC3 に通話を取りパソコンを開かせると同時に，PC3 のいる場面に通信機器とウィンドウズのパソコンがあり，おそらくはそれが起動したということにしたということもできるだろう．

このように，発話をすることで事後的に物品が架空の状況の中にそもそもあったことにするような PL の操作をとりあえず「配置」と呼ぶ．「配置」されることによって状況内にあったこととなる物品は，参加者にとってはそれが発話された時に架空の状況内に現れるからこそ，その時点で「配置」すること自体が会話上の評価対象となることが可能になる．しかしながら，架空の状況である場面の中では物品はそもそもその場に存在していたものとして振る舞っている．このように PL により架空の状況内に物品が配置された際における，その状況内での物品の存在の仕方を「出現」と呼ぶ.

3.2 出現しないウィンドウズフォン

さて，このようにして場面内にウィンドウズのパソコンは現れたが，11〜15 行目で話題に上がった「ウィンドウズフォン」は場面には「出現」しなかったように読み取れる．10 行目で PL3 は PC3 の「下の方のあの」と何かしらの物品の存在をほのめかす．これに対し，即座に 11 行目で PL4 は「ウィンドウズフォン」と発話を引き取り，続いて 12 行目で PL5 もそれに同調する．このまま 5 行目の「ウィンドウズのパソコン」のように異論が挟まらなければ，この物品はウィンドウズフォンであったこととなり，場面内には「ウィンドウズフォン」が「出現」したであろう．しかしながら，PL3 は 13，14 行目で「こまるんで」とやんわり否定する．13 行目の「こいつ」とは PC5 のブルースクリーンを指し示すと考えられる．PC3 はブルースクリーンの存在を知っており，PC がウィンドウズフォンを用いた通話中に「プツッ」と通話が切れてブルースクリーンとなり PC5 が現れるのが「困るので」，と PL3 は 14 行目で説明するが直接的に NO とは言わない．これは PC3 が行う会話の進行のコントロールを他の PL が行えることとなるのが「困る」のだと考えられる．PC3 の所有する通信機器をウィンドウズフォンとしないことは，16 行目で「電話」という語を用いていることで明らかとなる．PL3 の「配置」する通信機器をウィンドウズフォンであるとすることで，これからすぐに起きるであろう連絡の最中や，あるいは通信を行う別の場面で，PC5 の登場により通信機器の画面がブルースクリーンになってしまうことは PL3 によって避けられた，ということもできる．この PL3 によるウィンドウズフォンの否定には，PL4 の 15 行目の相槌ともつかない唸り声と，PL5 による 17 行目を見るに，異論が挟まれなかったと言えるだろう．

4. 考察

TRPG において場面内の物品の「配置」を行う際，その物品の所有者となる PC もしくは，その時点で担当する PC を架空の状況内に登場させている PL が物品の配置を行う優先権を持つ．TRPG における物品「配置」の際，物品はそれが単に発話において現れただけでは，十分に「出現」したと言えるものではない．そこに，更に相槌や笑い声による参加者のぼんやりとした承認が伴うことにより，その物品ははじめて，架空の状況内に既に存在していたこととなりうるのである．そのような仕方で，架空の状況の進行を会話で共有するゲームでは「出現」が起こる．その物品があったということはその物品が使用され，その使用を含む発話が参加者に承認されることで確定されたものとして共有されてゆく．このように，物品の「出現」とその承認は明示的な形で一挙に行われるのではなく，むしろ物品の像に関する発話を否定する発話の不在によってこのような承認はすでになされていたものとして扱われてるようになってゆく．

謝辞　本稿の執筆にあたり，データの収録に協力していただいた皆様に感謝します．

参考文献

井上雄太(2017)．TRPG の発話における操作主体の立ち上がり 言語社会，11，259 -240

臼田泰如(2015)．会話中の連鎖構造 ―「設定」について話すことと「演技」をすること― 社会言語科学会第 36 大会発表論文集，86-89

臼田泰如(2017)．態度や関心の共有のための資源としての演技 ―雑談における演技の分析― 社会言語科学，19(2)，43-58

西阪仰(2008)．分散する身体 勁草書房

矢野俊策・F.E.A.R.(2009)．ダブルクロス The 3rd Edition ルールブック 1・2 KADOKAWA

UNOにおけるルール交渉

―参与者間の知識差と相互行為的「チーム」形成―

中村香苗　(淡江大学)

1. はじめに

UNOは世界的に人気のカードゲームだが，公式ルール[1]以外に地域や仲間内だけの遊び方，いわゆる「ローカルルール」が多数存在する．そのため，プレイ中あるいはプレイ前にしばしば参与者間でルール確認や調整のやりとりが起こる．本稿では，大学生がUNOで遊んでいる場面をもとに，多人数の参与者間でのルール交渉が相互行為としてどのように組織立てられているのかを探究する．その際，参与者間でUNOの熟知度に差がある場合とない場合，それが参与の枠組みにどう影響するのか，さらにルール理解を同じくする参与者がどのように「チーム」を形成し，そのふるまいが交渉の展開にどう関わってくるのかを分析の焦点とする．

2. 相互行為における「チーム」

多人数会話では，複数の参与者が同じ立場をシェアする「チーム」としてふるまうことがある．参与者の属性（例えば「夫婦」や「同じクラブのメンバー」など）に関係なく（関係ある場合もあるが），相互行為の中で参与者たちの協働の産物として現れるチームのことを特に「相互行為的チーム」(Lerner, 1987)（以下，チーム）と呼ぶ．
Kangasharju(1996)によると，チームは複数の参与者が他の参与者たちに見える形で団体（association）としてふるまうことで特徴づけられる．そのふるまいの特徴として，以下のような例が挙げられている．
1) 話者が，ある聞き手に対してチームメートとして発話を向ける．
2) 発話の協働構築やユニゾンなど，複数の参与者によるターンの共有．
3) 発話連鎖の３つ目のターンが１つ目のターンの向け手ではない第３者によって産出される．その３つ目のターンは２つ目のターンの繰り返しや詳述，賛同などであり，連鎖自体は３つ目のターンがなくても成立する．
4) チームであることを示す代名詞の使用．
5) 視線や姿勢，表情，動き，ジェスチャー，笑いなど同じチームであるかないかを示す非言語的デバイスの使用．
家族間の会話を分析したGordon (2003)は，チームトークの特徴を「結合された参与（conjoined participation)」とし，具体的に1) shared turns, 2) parallel turns, 3) schema-echo turnsという３つのやり方を明らかにしている．串田（2006）は，第三者への共同行為としてのユニゾンに先立ち，参与者たちがどのように複数の者がチームとしてふるまう機会を作り出しているのかを例証し，以下の実践を明らかにしている．
1) ひとりがもうひとりに第三者に対して共同行為を行うことを誘いかける．
2) 第三者が複数のものをひとまとめにして発話を向ける．
3) ひとりが第三者に対して開始した行為を引き継ぐ発話をもうひとりが開始する．
4) ひとりが第三者に向けて他の者たちを代表した発話を行ったあとで，もうひとりがその結果を利用した発話を開始する．以上のように，相互行為の中で参与者がチームとしてふるまうやり方については，すでに先行研究で明らかにされている．それでは，このような実践がUNOのルール交渉の中でどのように立ち現れ，交渉の展開にどう関わってくるのだろうか．本稿ではこれらの点を探究する．

3. データ

4～5人の日本語母語話者の大学生にUNOを渡して自由に2回遊ぶよう指示し，その一部始終をビデオ録画した．各組の参与者全員が同じ大学に在学中の友人同士であった．本稿では2組（A ，Bグループ）のデータを分析する．撮

[1] 「日本UNO協会公式サイト」(http://www.geocities.jp/unoassoc/index.html) で公式ルールと2016年に改定された新しい遊び方が確認できる．

影当時，A グループにはUNO を熟知している者と，ほとんど遊び方を忘れている者が含まれていた．一方，B グループは会話の内容から，全員がUNO に精通していることが見て取れた．録画したデータは会話分析の慣例に則って文字化した[2]．

4. 分析

4.1 強い説得としてのチームトーク

まず5 人の女子学生（ミキ，カナ，キリ，マヤ，ルミ）から成るA グループのルール交渉を分析する．抜粋1 冒頭で，手札に捨てるカードがなかったカナが山札から2 枚カードを引き，2 枚目を場に捨てようとする．即座にミキがカナの誤りを指摘し，そこからミキとキリがチームになってカナを半ば強引に説得するというやりとりが展開する．

［抜粋1］

1 カナ：これいいのかな？((カードを捨てながら))＝
2 ミキ：＝なんで2枚引いたの？
3 キリ：Eh:huhhh
4 (0.3)
5 カナ：なかった.
6 (0.9)
7 ミキ：な[かったら終わりだよ. ＝
8 キリ： [え- なかったら終わりhだhよhh
9 ミキ：＝えh 待h[ってhh hehhehhehhhh
10 カナ： [（嘘でしょ どゆこと どゆこと？）
11 マヤ&ユミ： [Ahah hahahhaha hhhh
12 キリ：hhhh 嘘でしょ：：[hhhhh
13 カナ： [↑どうhいうhことh：：？
14 キリ：引いて[なかったら：↓：：
15 ミキ： [ひー たー りー おー
16 ミキ：ん もう[終わり，終わり，(.)終わり.
17 キリ： [出せない出せない.
18 キリ：なかったら引いて終わり.
19 マヤ&ユミ：AHAH HAHAHAHHAHH
20 カナ：↑え- どうゆうこと？
((9行省略 ミキがカナの取るべき行動を一つずつ解説))
30 カナ：へ↑え？
31 ミキ：藤本（(地名)) そうなの？
32 キリ：Heh hehehhhh
33 カナ：え藤本出るまで[なんだけど.（(マヤを見る))
34 キリ：[AHAHHAHAHAHAHA
35 ミキ：[AHAHAHAHA へえ[：：
36 マヤ： [でも待ってでも私もそうだったかも
37 [しんない.
38 カナ：[でしょ：：？ ほ[ら：：
39 キリ： [え ううん[ううん
40 ミキ： [それはないないない.
41 こないだ i- うちらやったけど：.
42 カナ：え- じゃどうすればいいの？
43 キリ：[え？終わりなの.
44 ミキ：[やー 終わり
45 カナ：終わりだって：((マヤの方へ体を傾ける))
46 キリ：うん終わり.
47 ミキ：((自分の番のプレイをしながら)) だ これ一枚ありません.
48 引きます. でもありません. 出します. 終わり.
49 キリ：うん.
50 (1.5)
51 ルミ：(出していいのかな) ((手札を捨てながら))
52 カナ：↑まじか.
53 (0.9)
54 キリ：そだよ. hh
55 カナ：まじ[か.
56 マヤ： [はいー ((手札を捨てる))

図1 抜粋1

4.1.1 ミキとキリのチーム形成プロセス

ミキのカナに対する説明要求にキリも笑いで参入することで，ミキとキリが同じ立場，つまりチームメートとなる可能性が示唆される（2-3 行目）．カナの返答に対して「正しい」ルールを主張するミキのターンに，即座にキリも参入し発話を後追いすることで2 人のチームが形成される（7-8 行目）．14-18 行目では，納得しないカナに対してミキではなくキリが説明を開始する点，ミキも先取り完結で参入する点，発話後半部を言い直すキリがミキの使った述語を採用している点からもチーム確立が確認できる．一連の発話でミキとキリが同じ発話末（動詞の言い切り）を用いていること，つまり同じ主張態度であることもチームとしてのふるまいと言えよう．

---

2 文字化記号 [オーバーラップ開始点，(数字) 発話中断の秒数，(.) 0.2 秒以下の中断，: 音の延長，- 声の詰まり，= 間隔のない発話，文字 声の強調，↑↓ 抑揚の急な上昇/下降，./,/? 発話末の下降/継続/上昇イントネーション，h 呼気または笑い声，>文字< <文字> 速い/遅い発話，(文字) 聞き取り不明瞭な発話，((文字)) 発話以外の行為や情報

4.1.2 カナによるチームへの誘いとマヤの回避

ミキによりルールのローカル性を示唆されると（31 行目），カナは反論調で自ルールを主張しつつ（～んだけど），おそらく同じ出身地であるマヤに視線を向けてチームへと誘う（33 行目）．マヤも同じルールである可能性を述べるも，その主張態度（～かもしれない）は不確実さを孕んでいる（36-7 行目）．それを受けて，ミキはマヤに強い賛同を示し（でしょ：：？），他の参与者にルールの正当性を訴える（ほら：：）（38 行目）．ところがマヤはカナに対して何の反応もせず，けっきょくカナの主張はミキとキリに強く否定される．さらに 45 行目でも，カナは体をマヤの方へ傾けながら，明らかにそれまでのやりとりが聞こえているにも関わらず伝聞形（～だって）でミキとキリの主張を繰り返す．Suzuki(1997)によると、このような「だって」の使用は発話内容との心理的距離を示しており，カナがミキとキリを遠ざけてマヤとチームを組もうとする実践と言えるだろう．しかし，やはりマヤからの反応はなく，けっきょくカナの納得を待たずに他の参与者が自分の番のプレイを進めることで（46 行目以降）ルール交渉は終了する．

4.2　妥当性を示すためのチームトーク

B グループは，4 人の男子学生（カズ，リク，テツ, マサ）から成る．抜粋 2 では，ゲーム準備中にカズが投げかけたルール確認の質問から参与者間でルール理解に齟齬があることが明らかになり，最終的にはカズ&マサとリク&テツというチームに分かれる．しかし前例とは異なり，本例ではチームが確立するまでに誰と誰がルールを共有しているのかを探り合う複雑な相互行為が展開している．

［抜粋２］

1 カズ：ねえドローツーの後ドローフォー出せる？
2 リク：[出せな[い.
3 マサ：[出せる.
4 テツ：　　[出せる.（(視線マサへ)）
5 リク：え，[出せんの？(視線マサへ))＝
6 カズ：　[そこがあ[れなんだよ[な
7 マサ：　　＝[出せるよね.（(視線カズへ)）
8 テツ：　　[[図 3]えドローツーの後ドロー
9　フォーは出せるけど：[図 4](0.5)
10　[ドローフォーの後に：ドローツーは[図 5][出せない.
11 カズ：[ドローフォーの後に：ドローツーは　[だめなの？
12 リク：　　[>出せない＝
13　＝出せない[図 6]出せない出せない<
14 マサ：うっそ出せないの？＝((視線カズへ))
15 カズ：＝俺出せると思ってた.（(視線マサへ)）
16 リク：あそうなの？
17 マサ：出した方が[なんかすげ：膨らんでさ，十：六枚とか，
18 カズ：　[（そなんかー）
19 カズ：そうそう．そうそう．[なんかー
20 リク：　　[ドローフォーはもう最強なん＝
21　＝[だよね.（(視線テツへ)）
22 テツ：[な-ドローフォーにドローツーでは返せないん
23　だ[（よ）(.)弱いから
24 カズ：　[ドローフォーにはドローフォーならできんでしょ？
25 テツ：ドローフォーにドローフォーは行け[る.＝
26 リク：　　[そ.＝
27 マサ：＝あそうなの？＝
28 カズ：＝そ- 俺んね　↑それローカルルールだよね絶対ね.
29 テツ：[Ehe:hehheh
30 リク：[そうなんだ.＝
31 カズ：＝こっちだと：もう無限.[もういくつでも（行ける）
32 リク：　　[ドローフォーは最強なんだよな.
33 テツ：んん.（(リクと視線を合わせて頷く)）
34 カズ：((切っていたカードを大量に落とす))
35 マサ&テツ：＜よっしゃ：：：＞
36（？？？）((みんなでカードを拾う))
37 テツ：こっから，こっからにしよう始めんの.

図２　抜粋２

カズ　リク　　テツ　　マサ

図 3 えドローツーの後

図 4 出せるけど：(0.5)

図 5 ドローツーは

図 6 出せない出せない

4.2.1　相違の顕在化とチームメートの探索

まず 1-7 行目までのやりとりを記述する．カードを切っていたカズが絵カードの出し方を確認する質問をすると，

リクとマサが同時に異なる返答をし，2 人の答えを聞いたテツがマサに視線を向けながらマサと同じ答えを言う．それを聞いたリクは，テツではなくマサに視線を向けて聞き返す．この時点でリク対マサ（&テツ）という対立が明らかになる．一方，6 行目のカズのコメントからはこのルールがトラブルとなり得ることを認識していたことが窺えるが，この時点ではカズの立場は明らかにされない．マサは立場のわからないカズに対して自ルールへの同意を求める．

次に 8-13 行目を論じる．ここでは発話構築と視線の移動が複雑に絡み合うため図 3-6 も参照されたい．カズの返答を待たず，テツは自身のルール理解を表明し始める．まずテツは，同意するマサに視線を向けながら「ドローツーの後ドローフォーは出せる」というルールを再言する（図 3）．この発話を「けど」でマークし相反する内容が続くことを投射すると，まだ立場不明なカズに視線を向け発話を中断する（図 4）．後続の発話にカズもユニゾンで参入してきたため(11 行目)，カズとチームになる可能性を確認したテツは，発話末直前でそれまで立場を異にしていたリクに視線を向け反応を探る（中村 2011）（図 5）．リクは即座に述部を何度も繰り返して強い同意を表明する．これにより突如テツとリクのチームが形成される．すぐに 2 人は対立するマサに視線を移し，チームとして反応を窺う（図 6）．

一方，ユニゾンでテツのターンに参入したカズのふるまいがチームトークではなかったことが，述部（だめなの？）で聞き返しをしていることから明らかになる．これはテツの主張するルールは認識したが，それを共有しているわけではないことの表明であり，同時に，チームであるテツとリクに対立する立場が明確になったということでもある．

4.2.2 チームによるルールの妥当性の主張

テツとリクから視線で反応を要求されたマサは驚きを表現するが，この発話は視線によりカズに向けられる（14 行目）．これにカズも同意することでカズとマサのチームが成立する（15 行目）．これ以降，各チームが自ルールの妥当性を主張し合うやりとりに発展する．具体的には，「（ドローフォーの後ドローツーを）出せた方が（手札）が膨らむ」と主張するマサにカズも同意を示すことで，自ルールの面白さを主張する．他方，リクはドローフォーは「最強」という極端な定式化(Pomerantz 1986)を用いて自ルールを正当化し，チームメートのテツに同意を求める(20-1 行目)．テツはリクの正当化を「ドローツーは弱いから」と言い換えて相手チームに説明する（22-3 行目）．これを聞いたカズが「ドローフォーにドローフォーは行ける」ことをテツとリクに確認すると（24-7 行目），マサはチームメートのカズに向かって聞き返す（27 行目）．カズはマサに対して相手チームは「ローカルルールである」と主張し，さらに「絶対」や「無限」という極端な定式化を用いて自ルールの妥当性を訴える（28，31 行目）．しかしカズの発話にオーバーラップしてリクがテツに向かって「ドローフォーは最強」と再確認し，テツも同意する（32-3 行目）．けっきょくカズとマサが納得を示さないまま，カズがカードを大量に落としたことを機にルール交渉は終了する．

5. おわりに

本稿では 2 組の大学生が UNO で遊ぶ場面から，多人数会話におけるルール交渉の組織化を，特に相互行為的チーム形成の観点から分析した．その結果，ルール交渉においても先行研究で論じられているチームトークの特徴が多見されたが，発話末の主張態度を合わせるチームトークやユニゾンの述部の選択による対立の明示化など，日本語の統語的特徴を利用した実践も見られた．また，参与者間で UNO の知識に偏りのある A グループと全員が精通している B グループの交渉では，チームのふるまいに相違が確認できた．A グループの場合，チームの 2 人が互いに同意を求めたりルールを確認し合ったりする発話はなく，むしろ 2 人が並行して 1 人に対して同じ行為をすることで強い説得となっていた．一方，B グループの場合は，チームの 2 人の間で相手ルールに関する反応をシェアしたり，自ルールに関して同意や確認し合ったりする行為が，相手チームに見える形でチームとして妥当性を主張する実践となっていた．最終的には，両グループとも明確な納得や合意が示されないままルール交渉が終わった点も興味深い現象であるが，この点に関する考察は将来の研究課題としたい．

参考文献

Gordon, C. (2003). Aligning as a team: Forms of conjoined participation in (stepfamily) interaction. *Research on Language and Social Interaction,* 36, 4, 395-431.

Kangasharju, H. (1996). Aligning as a team in multiparty conversation. *Journal of Pragmatics,* 26, 291-319.

串田秀也 (2006) 相互行為秩序と会話分析-「話し手」と「共-成員性」をめぐる参加の組織化- 世界思想社

Lerner, G. H. (1987). *Collaborative turn sequences: Sentence construction and social action.* Unpublished dissertation. University of California, Irvine.

中村香苗(2011). 会話における見解交渉と主張態度の調整，社会言語科学，14，1，33-47.

Pomerantz, A. (1986). Extreme case formulations: A way of legitimating claims. *Human Studies,* 9, 219-229.

Suzuki, S. (1997). *Tte* and *nante*: Markers of psychological distance in Japanese conversation. *Journal of Pragmatics,* 29, 429-462.

誰が物を渡すのか？

－多人数会話において物の渡し手が決まる過程の微視的分析－

門田圭祐(早稲田大学大学院生)　牧野遼作(早稲田大学)　山本敦(早稲田大学大学院生)　古山宣洋(早稲田大学)

本稿は，多人数会話において，物の受け渡しという相互行為を参与者たちが達成する過程を検討する．とくに，受け渡しがなされる前に渡し手が明らかではない場合に，いかにして実際に物を渡した参与者が渡し手となりえたのかについて，相互行為の微視的観察により検討する．

1. はじめに

会話や共同作業のような相互行為は，参与者たちが互いに，発話や動作の微細な調整を行うことで成立している．もし，そのような調整がなければ，同時に複数人が話したり，動いたりしてしまい，相互行為が破綻してしまうこともあるだろう．本稿では，そうした調整の例として，日常的な物の受け渡し場面で，渡し手になりうる者が複数いる中から実際の渡し手が決まる過程を分析する．

物の受け渡しは，物を渡す者，すなわち，渡し手になる者が一人に決まらなければ，多くの場合，円滑に達成できない．一方，日常的な物の受け渡しでは，渡し手になる者が明らかにされないことも少なくない．たとえば，「箸とって」という依頼は，箸を渡す者を明らかにしているとは限らない[1]．それでも多くの場合，そうした物の受け渡しは混乱もなく達成されるようである．以上より，日常的な受け渡しでは，実際に受け渡しがなされる前に，渡し手になる者が必ずしも明示的ではない何らかのやり方で事前に調整され，物の受け渡しが滞りなく達成されているのではなかろうか．

2. データと分析方法

本稿では，日常会話をビデオ収録して集めた受け渡し事例の中から，旅行中の夕食前に生じた事例を取り上げる．なお，この旅行は，本研究とは独立して準備・実施されたものである．ここで，とくに食事の準備場面を取り上げたのは，調味料や食器など，受け渡されうる物が多いためである．加えて，渡し手が依頼がされた時点では決まっておらず，実際の渡し手がその後の相互行為を通じて決められる場合が少なからず存在しているためである．会話の参与者は同じ研究室に所属する大学生男女８名（男性５名，女性３名）で，そのうち１名は第一著者である．夕食が行われた部屋の模式図を図１に示す．ただし，図１が示すのは後掲する図２の 01 行目前後での状況であり，参与者の位置は会話の進展に伴い変化していた．

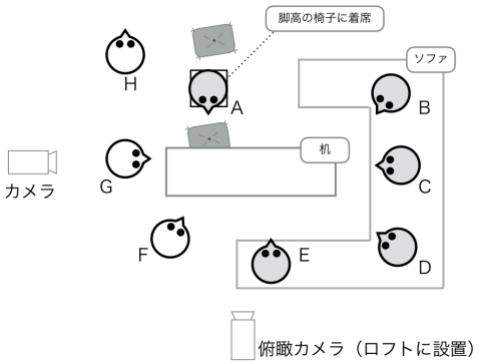


図１　部屋の模式図（図２の 01 行目前後）

立位の参与者は白塗，座位の参与者は灰塗り．

A，B，E，G，H が男性．C，D，F が女性．

前節で述べたような発話や身体動作の調整は，実際の会話データから発話や身体動作を書き起こして作成したトランスクリプトの，マイクロ分析を行う研究によって明らかにされてきた．マイクロ分析には，数秒間のうちになされる調整を分析の焦点とする場合 (e.g., 坂井田・諏訪, 2015) と，それよりは長い時間を通じてなされる調整を分析の焦点とする場合 (e.g., 城・細馬, 2004) とがある．ただし，こうした分析の時間幅の違いは，対象とする現象の違いによるものであり，相互行為を成り立たせるための調整を明らかにするという点では共通している．本稿も同様の立場から，渡し手が決められる過程を検討する．

分析のため，事例の発話をアノテーションして作成したトランスクリプトを図２に示す[2]．なお，発話に加えて，より詳細な身体動作についても記したトランスクリプトは後の分析の中で示す．

1　２者間会話や，視線を利用した場合など，発話以外によって，渡し手が明確になることもある．

2　トランスクリプトで用いた記法は，発話は西阪（2008）を，身体動作は坂井田・坊農（2016）を，それぞれ参考とした．

3. 分析

本稿で分析する事例は，共に夕食をとろうと，鍋に火が通るのを皆で待っているときのやりとりである．F を除く参与者たちは机を囲むように位置している．分析では，まず以下の４点を示す．

（1）01 行目は，探していることの示しによって，他の参与者が援助を申し出る機会を用意していること．

（2）04 行目と 06 行目は，F のみならず周囲の参与者に座れる物（座布団）を見つけたことを表明していること．

（3）04 行目および 06 行目には座布団の近くにいる参与者の反応が見込まれること．

（4）04 行目および 06 行目が他者に座布団が座れる物の候補として適切かどうかの判断を委ねていること．

そして，（1）～（4）の分析に基づき，渡し手（援助者）が決まる過程で，渡し手になりうる者が絞り込まれていくという可能性について議論する．

```
→01   F: なんかさ:座椅子的な:さ:(.)サムシングないのかな
  02  D?: みんなで写真撮ろう
  03   F: 高[いよね(.)(そ)れ.
→04   C:   [これじゃない?
  05    : (1.3)
→06   G: 座椅子(.) >それは? そ↓れく(.)>それそれく
  07  C?: °(      )°
  08   G: (こ)れがさ: [色んなと]こに散らばってる=
  09  D?:          [(      )]
  10   H: =接続できたわ ((部屋の WiFi に接続を試みていた))
  11   B: (>ちょ- 待っ-<)†(.) こ[れか
  12   F:                      [ありがʃ      と=
A_Hand: -差し出す-------->†-ホールド----->ʃ-受け渡し->
F_Hand: -差し出す-------->†-ホールド----->ʃ-受け渡し->
  13   A: =(      )Σ
A_Hand: -受け渡し->Σ-引き戻す->
F_Hand: -受け渡し->Σ-引き戻す->
```

図２　トランスクリプト

3.1 援助を申し出る機会の用意

01 行目において，F は自身が「座椅子的なサムシング」を探していることを示している（図２−１）．これは，「座椅子」そのものを探しているよりは，「座椅子」を含めた，座ることが可能な物を探していることの示しとして聞かれる．

```
→01   F: なんかさ:Δ座椅子的な:さ:(.)サムシング+ないのかな
A_Hand:          Δ-拍手 ---------------------->+
F_Gaze: -床を見渡す-------------------------------------->
  02  D?: みん ßなで写真ʃ撮ろう
B_Gaze: -机-->ß-A の足元---------->
C_Gaze: -A の足元-------->ʃ-座布団-->
F_Gaze: ---------------------->
  03   F: 高[いよね#(.)(そ)れ.
```

図２−１　トランスクリプト

01 行目における F のふるまいは，特定の参与者に対して，援助を直接依頼するものではない．一方で，他の参与者らにとって，F の発話は，援助を申し出る機会を他者に用意する発話とみることもできるだろう[3]．

当然，援助の申し出のための機会が用意されたからといって，他の参与者は必ずしも援助を申し出る義務を負うわけではない．ただし，先に述べたように，本事例は皆で共同で食事をしようとしている場面である．このことから，F が座れる物を探していることは，F のみにとっての問題というよりは食事に関連した問題として理解可能になっている．なぜならば，参与者のうちの誰かが着座できないことは，食事を開始できないという点で，参与者たちに共有されうる問題であるためである．したがって，F の発話は単に援助の申し出の機会を他者に用意するというよりは，他者に援助を依頼するものに近いと考えられる．

以上の分析の傍証として，直後の 02 行目では，B や C が座布団の置かれている場所の周辺に視線を向け，何かを探すようなふるまいを示していることが指摘できる．加えて，02 行目では，「みんなで写真撮ろう」と D が 01 行目とは無関係な誘いをしているため，01 行目が他者に援助を依頼するものではなかったようにも思える．一方で，02 行目につづく 03 行目では，02 行目への反応はなく，F が「高いよね(.)(そ)れ」と，A が座っているような脚高の椅子では，食事をとるには適さないのではないかと，確認を求めている．このことから，01 行目が F のみの問題というよりは，この場の参与者たちに共有されうる問題として扱われていると分かる．

以上より，01 行目は単なる探していることの示しではなく，さらに，援助を申し出る機会を用意しているというよりは，他者に援助を依頼するものであったと言える．

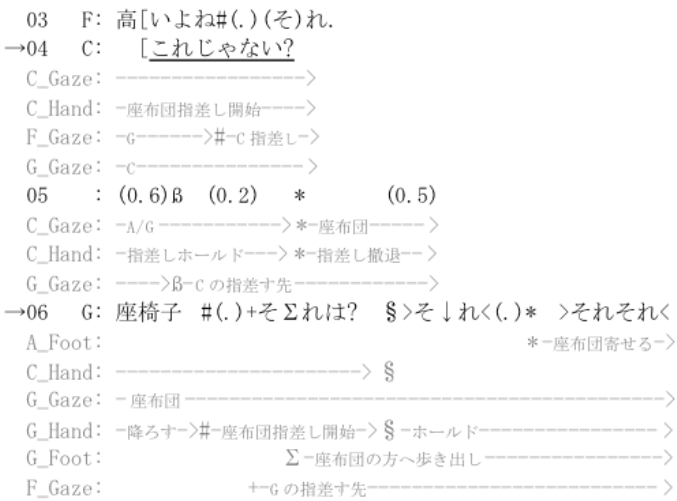
3.2 座れる物の候補を見つけたことの表明

04 行目で C は，指差しとともに「これじゃない？」と述べている（図２−２）．まず，以下の２点から 04 行目の発話は，01 行目に対する応答と聞かれる．第１に，01 行目の援助の依頼に対する直接の反応は，まだ誰からもなされていない．第２に，04 行目では切り詰められた表現が用いられている．つまり，「これじゃない？」は，01 行目に依存して「これが座椅子的なサムシングじゃない？」と理解される発話である．以上２点より，04 行目は，01 行目に対する反応と聞かれる．

---

[3] 05 行目は，この点で Kendrick & Drew (2016) が言うところの「援助のリクルートメント」に類似している．ただし，本稿は，依頼者以外の参与者たちのやりとりに焦点を当てるものであるため，詳細な議論は見送る．

上記のことから 04 行目は，F が探している物の候補を見つけたことを F に示しているものとして理解可能である．しかし，04 行目において座布団に向けていた視線を，直後の 05 行目冒頭において，C は指差しを保持したまま，A/G へと向けている．つまり，デザイン上は，F のみに向けられていた発話に反応する者として，A/G を見込んでいるような振る舞いを C はしている．このことから，04 行目の発話は座れる物の候補を F のみに示したのではなく，座れる物の候補を見つけたことを周囲の参与者（少なくとも A/G を含む）に表明した発話と理解できる．



ついで，06 行目で G は，座れる物の候補を見つけたことを表明している．06 行目は，行頭の「座椅子」という語，および，04 行目に関しても述べた，切り詰められた表現を用いている点で，01 行目への応答と聞かれる．一方で，G は F は視線を向けてはおらず，代わりに，A に身体の正面を向け，彼に近づきながら話している．このことから，06 行目は，座れる物の候補を F のみに示したのではなく，座れる物の候補を見つけたことを周囲の参与者（少なくとも A を含む）に表明した発話と聞ける．

以上より，04 行目と 06 行目では，01 行目への応答が期待される位置で，01 行目の産出者である F のみではなく，周囲の参与者たちに向けて，座れる物の候補を見つけたことの表明がなされていたと考えられる．

3.3 物の近くにいる参与者からの反応の見込み

04 行目および 06 行目のような気づき（見つけたこと）の表明は，たとえば気づきの共有のような反応を必ずしも強く見込めるものではない（串田ら, 2017）．ただし，座れる物の候補を探しているという文脈を考慮すると，気づきの共有にせよ，指示対象である座布団を手に取るにせよ，04 行目および 06 行目の表明に対するいずれかの参与者からの反応を C および G は見込めるであろう．ただし，そうした見込みは，すべての参与者に等しくできるわけではない．C や G の表明に対する反応を産出することを見込めるのは，C や G が指している物に気づくことを見込める参与者であろう．

それでは，ここで座布団に気づくことを見込める参与者とはいかなる参与者であろうか．1 つには，探し物に近い参与者であれば，そうでない参与者に比べて，物に気づくことを見込めるであろう．04 行目直後の C の目線と，06 行目の G の身体の向きが，自身よりも座布団の近くにいる参与者に向けられていたことも，この分析の傍証となる．

以上より，04 行目と 06 行目は，探し物の近くにいる参与者の何らかの反応を見込める発話であったと考えられる．

3.4 座れる物かどうかの判断を委ねること

04 行目と 06 行目の共通点として，疑問の形式が含まれることと，座布団を取りに行こうとしていないことが身体的に示されていることを指摘できる．04 行目と 06 行目には，共に断定を避ける表現（「じゃない？」と「それは？」）が含みこまれている．すなわち，C と G は，座布団が座れる物であるかどうか，判断を差し控えている．また，04 行目と 06 行目で C と G は座布団を取りに行こうとしていないことが彼らの身体によって示されている．まず，04 行目で C は指差しと座位を維持している．つぎに，06 行目で G は座布団に歩み寄りはするが，指差しの手形を解いたり，かがみ込んだりせずに，指差しと立位を維持している．以上より，C と G は，座れる物の候補を見つけたことを表明しつつも，それが座れる物として適切どうかの判断を他者に委ね，また，自身では取りに行くことを控えていたと考えられる．

3.5 渡し手になりうる者の絞り込み

3.2～3.4 節より，04 行目の C および 06 行目の G は，探し物の近くにいる参与者に向けて，座れる物の候補として座布団が適切な物かどうかの判断を委ねていたと言える．ここで 04 行目と 06 行目の差異として，反応を見込める者の数が異なっていたことに着目したい．04 行目の C の発話に反応が見込めるのは，参与者の中でも，とくに座布団に近い A と G である．そして，06 行目の G の発話に反応が見込めるのは，発話に G よりも物の近くにいる A である．すなわち，04 行目から，06 行目にかけて，座布団が座れる物として適切かどうかの判断を委ねられた者が絞り込まれていたと言える[4]．

[4] H も座布団の近くにいたが，他の参与者に背を向け，携帯電話の設定をしていたため反応を見込める者からは除かれるだろう．

上述の判断に関連して，03 行目で，A と G が座れる物を探すことの当事者として位置づけられていることにも触れておこう．まず，F は，03 行目で確認を求めている．このとき，F の視線は G に向けられている．加えて，「高いよね(.)(そ)れ」という発話は，「それ」という聞き手の側に属する物を指す表現からして，A にも向けられている．したがって，03 行目で，F が確認を求めている参与者は，A と G のどちらか，もしくは両方である．このことから，F は，座れる物に関する判断を A と G に仰いでいたと言える．すなわち，A または G は，ある物が座れる物として適切かどうか判断しうる者として，F によって扱われていたと言える．

ここで，座布団が座れる物として適切か判断することは，F に座布団（適切な援助）を提供するために必要であることに着目したい．このことから，F に援助を提供しうる者は，上述の判断が可能な者だと言えるだろう．

以上より，F に座布団を提供しうる者，すなわち渡し手になりうる者が A に絞り込まれていたと考えられる．

4. 考察

本稿で取り上げた事例には，参与者が座布団が座れる物として適切かどうかの判断を他者に委ね，渡し手になりうる者が絞り込まれていった結果，受け渡される物の近くにいる参与者に渡し手が決まるという過程が見出された．以下では，渡し手になりうる者が「絞り込まれた」点と，「受け渡される物の近くにいる」参与者に絞り込まれた点とに着目して考察を行う．

まず，渡し手になりうる者が「絞り込まれた」点について述べる．この過程を通じて，渡し手が決まることは，ともすれば，冗長にも思える．たとえば C や G は，「座布団を取ってあげて」というように F に座布団を渡すことを A に直接要求することもできただろう．このことについて考える手がかりとなるのが，会話分析の領域で検討されてきた「あからさまな要求（explicit request）」についての知見である．Pomerantz & Heritage（2013）によれば，会話の参与者たちは，あからさまな援助の要求をすることを回避するため，相手から援助の申し出を引き出すやり方を，しばしば用いるという．本稿の事例における「絞り込み」による渡し手の選択も，そうしたあからさまな要求を回避するためのやり方なのかもしれない．

つぎに，渡し手になりうる者が「受け渡される物の近くにいる参与者」に絞り込まれた点について述べる．既に述べたように，受け渡される物の近くにいる参与者は，遠くにいる参与者に比べて，より物に気づくことが見込める参与者であると考えられる．ただし，受け渡される物の近くにいるからといって，その参与者が必ずしも渡し手になるとは限らない．たとえば，物の近くにいて，その物に気づけたとしても，それを実際に渡すことができないという点で，幼児や，高齢者，負傷者は，実際の渡し手にはなりにくいだろう．このことを考慮すると，単に受け渡される物への近さのみに基づいて，参与者たちが渡し手を選んでいるとは言い難い．

そこで本稿では，単なる物理的距離ではなく，受け渡される「物へのアクセシビリティ」という観点を提案したい．ここでの物へのアクセシビリティとは，以下の３つの可能性を含むものである．第１に，物が環境中にあることに気づく可能性である．第２に，たとえば本事例の場合は「座ることが可能」であるというような，その物が参与者たちに提供する価値に気づく可能性である．第３に，渡すという身体動作の実行可能性である．本稿の事例に即して言えば，A は，座布団の位置に気づくこと，F にとってその座布団が座れる物であることに気づくことが，十分に見込める参与者だと言える．同時に，A は，F に座布団を渡せる距離にいるため，渡すという動作を十分に実行可能な参与者でもあると言える．加えて，04 行目や 06 行目のように断定を避ける表現は自身を十分なアクセシビリティをもたないことを示す表現と考えられるだろう．以上のような，参与者間での物へのアクセシビリティの偏りを背景として，渡し手になる者は調整されているのではないだろうか．

本稿の事例のみから，前節で述べた物へのアクセシビリティを背景として，参与者たちが渡し手になる者を選択していると，強く主張することは難しい．今後は，より多様な参与者を含む，多様な場面の受け渡し事例を収集・分析していく．

参考文献

城綾実・細馬宏通 (2015). 多人数会話における自発的ジェスチャーの同期 認知科学, 16 (1), 103-119.

Kendrick, K. H., & Drew, P. (2016). Recruitment: Offers, requests, and the organization of assistance in interaction. *Research on Language and Social Interaction*, 49 (1), 1-19.

串田秀也・平本毅・林誠 (2017). 会話分析入門 勁草書房

西阪仰 (2008). 分散する身体 勁草書房

Pomerantz, A., & Heritage, J. (2013). Preference. In Sidnell, J., & Stivers, T. (Eds.), *The Handbook of Conversation Analysis*, pp. 210-228. Chichester: Wiley Blackwell.

坂井田瑠衣・坊農真弓 (2016). 人はいかにして「歩き出す」ことを了解するのか ―展示物解説活動に埋め込まれた移動― 日本認知科学会第 33 回大会論文集, 189–194.

坂井田瑠衣・諏訪正樹 (2015). 身体の観察可能性がもたらす協同調理場面の相互行為 ―「暗黙的協同」の組織化プロセス― 認知科学, 22(1), 110-125.

（招待発表）

海を渡った広島方言

―海外日系移民社会における方言の継承と変容―

中東靖恵(岡山大学)

1. 海を渡った広島県移民とことば

2018年の今年，ハワイ日系移民150周年，ブラジル日本移民110周年を迎えた．アジア・太平洋地域，南北アメリカなど，かつて多くの日本人が海外へ移住し，現在も約380万人の日系人（2016年度推定）[1]が暮らす．移民とともに海を渡った日本の各地方言は，移住先での方言間接触や，移住先の言語との接触・混交をもたらした．広島県は全国一移民を輩出した「移民県」として知られ，戦前戦後合わせ，約11万人が移住した[2]．とりわけハワイには広島県移民が多く，戦前移民1世の24.1%を占めており，ハワイの日本語にも広島方言[3]が大きく影響している（比嘉，1972）．また，日本語と英語・ハワイ語との言語接触も盛んに行われた[4]（小林，1982）．

戦後1956～1957年に，広島県沼隈郡沼隈町の初代町長神原秀夫によって「町ぐるみ集団移住」が推進された南米パラグアイ[5]のLa Paz移住地には，在パラグアイ広島県人会（1960年創立）が置かれ，現在でも広島県人家族が比較的多く暮らす．以下は，発表者が2009年に調査で訪れた際に聞かれた広島方言を含む日本語とスペイン語交じりの発話である．

(1) Usted［あなた］はどこに住んどったんか．　(4) ここにはmaíz［とうもろこし］植えとるよ．
(2) うちのseñora［妻］に聞いてみんと分からん．　(5)（発表者に対し）先生はtranquilo［穏やか］じゃ．
(3)（運動会で）Yo［私］の番だと思って走ったら…　(6)（発表者の応答に）Sí, sí.［はい，そう］ほいでのー，先生．

1980年代以後，海外移住の時代は終焉を迎え，日系社会における世代交代による言語シフトの進行と日本語の衰退は著しい．世界最大の日系人口を誇るブラジルにおいても，すでにポルトガル語への言語シフトは完了している（中東, 2007）．一方，戦後移民の多いパラグアイ日系社会においても，1世から2世への過渡期を迎え，日本語からスペイン語への言語シフトが進行中であるが（パラグアイ日本人会連合会（編），2017），日本語を母語とする1世が多く暮らす農村部の日系移住地においては，今でも生活言語として日本語が機能し，若い世代でも日本語能力が高いことで知られる．このようなパラグアイ日系移民社会において，広島県移民によって持ち込まれた広島方言はどのように継承され変容しているのか．

以下に述べる中東（2011）の研究は，かつて発表者が行った広島市および山陽地方におけるアクセントの世代的地理的動態に関する一連の調査研究に基づき，パラグアイ日系社会に暮らす広島県人家族を対象に行ったアクセント調査の結果から，海外日系移民社会における移民言語としての方言の継承と変容の様相を具体像として描き出したものである．

2. 広島方言アクセントの世代的地理的動態に関する研究

広島市方言ネイティブである発表者は，学生時代，恩師とともに1993～1995年，以下(1)～(3)に示した広島市および山陽地方における方言アクセントの世代的地理的動態に関する調査研究を行った．各々の調査研究の概要を示す．

(1)広島市方言アクセント調査とアクセントの世代的動態研究（馬瀬ほか, 1995）：1993年7～8月，広島市（安芸郡府中町・海田町も含む）生育の1898～1981年生の男女159名を対象に138項目を調査し，2・3・4音節名詞，外来語，3音節形容詞（言い切り形・連体形・過去形・ウ音便形・仮定形），複合動詞のアクセントの特徴と世代的変動を中心に考察．

(2)『広島市方言アクセント辞典』(馬瀬（編），1994）の資料に基づくアクセントの世代的動態研究（馬瀬ほか, 1995c）：

---

[1] （公財）海外日系人協会「海外日系人数」より．http://www.jadesas.or.jp/aboutnikkei/index.html（2018年6月20日最終閲覧）．

[2] JICA「海外移住資料館だより」**45**より．https://www.jica.go.jp/jomm/index.html（2018年6月20日最終閲覧）．

[3] 例えば，「みやすい（易しい）」「えらい（苦しい）」「つかあさい（下さい）」などの語彙や，「今日はノー，頭が痛いケンノー，仕事を休モー思う」のような間投助詞「ノー」，接続助詞「ケン」，格助詞「ト」の省略など（比嘉, 1972: 229）．広島県内でも広島湾沿岸の町村からの移民が多く，とりわけ旧安芸郡仁保島村（現広島市仁保町）にはハワイ移民が多い（広島県（編），1993: 72-76）．この地に1997年に開館された「ハワイ移民資料館仁保島村」には，貴重な移民関連資料が保存・展示されている．なお，戦前1918年にブラジルへ移住した発表者の曾祖父母家族も仁保島村出身である．

[4] ブラジルにおける方言交じりの日本語とポルトガル語との接触言語は「コロニア語」として知られる（Nakato, 2012）．

[5] 首都Asunción，国土面積約40万km²，人口685万人（2016年統計），そのうち約95%がグアラニー系の先住民族とスペイン系の白人との混血（mestizo）である．公用語はスペイン語とグアラニー語（Guaraní）で，国民の大半がスペイン語とグアラニー語のバイリンガルである．パラグアイへの日本人の集団移住は，1936年に建設されたLa Colmena移住地への入植に始まり，現在の日系人口は推定10,000人である（（公財）海外日系人協会，注1参照）．

1994 年，広島市生育の世代を異にする男女 9 人（1907～1972 年生）を対象に約 12,000 語を調査し，2・3・4 音節名詞，外来語，地名，3・4・5 音節以上の形容詞，単純動詞・複合動詞，副詞のアクセントの特徴と世代的変動を中心に考察.

(3)『山陽地方岡山―広島―下関ライン方言アクセントグロットグラム（地理年代図）集』（馬瀬ほか，1995a）の資料に基づく岡山―下関方言アクセントの世代的地理的動態研究（馬瀬ほか，1995b）：1994 年 7 月～9 月，岡山―下関間 63 地点において 4 世代（20～70 代）252 名を対象に 175 項目を調査し，1・2・3・4 音節名詞，月名，地名，存在動詞・複合動詞・動詞否定形，3 音節形容詞（言い切り形・連体形）のアクセントの特徴と地理的・世代的動態を中心に考察.

3. パラグアイの広島県人家族における広島方言アクセントの継承と変容の実態

3.1 調査の概要

(1) 調査地域：パラグアイ南部 Itapúa 県 La Paz 移住地（1955 年創設）および Chavez 移住地（1953 年創設）.

(2) インフォーマント：調査地域在住の広島県移民（1 世）とその家族（2 世・3 世）.

(3) 調査方法：面接調査．個人的属性，学歴，言語能力意識，メディア接触，言語生活等についての聞き取りを行った後，調査語（195 項目）について，語単独あるいは調査語を含む短文（ルビ付き漢字仮名交じりで表記）を，調査語の意味を表す絵とともに示し，通して二度読み上げてもらい，IC レコーダー（TASCAM DR-07）に録音した.

(4) 調査期間：2009 年 8 月 3 日～8 月 14 日.

3.2 インフォーマントの世代ごとの属性と言語的背景

インフォーマント数は 44 人（男 21 人，女 23 人）であった．分析に際しては，前節(1)に述べた広島市でのアクセント調査（馬瀬ほか，1995）の出生年による世代区分に従った．各世代区分に該当するインフォーマント人数と属性（生年・平均年齢・世代[6]）は表 1 の通りである．広島市調査では第Ⅰ～Ⅶ世代に区分されたが，パラグアイ調査では第Ⅰ・Ⅱ世代は高齢のため該当者がおらず，若い第Ⅷ・Ⅸ世代が加わっている．また，通学歴，日本語とスペイン語の言語能力意識，日本語とスペイン語のメディア接触，家庭内・友人間・日系団体内の日本語・スペイン語の使用についての概略も加えた.

表 1　インフォーマントの世代区分と属性・言語的背景

区分	生年	平均年齢	世代	人数	通学歴	日本語・スペイン語言語能力意識	メディア接触	家庭内・友人間・日系団体での使用言語
第Ⅰ世代	1898～1909年	（該当者なし）						
第Ⅱ世代	1910～1921年	（該当者なし）						
第Ⅲ世代	1922～1933年	80.9歳	1世（成人移民）	7人	日本のみ	日本語＞＞スペイン語	ほぼ日本語	ほぼ日本語
第Ⅳ世代	1934～1945年	70.3歳	1世（成人移民）	3人				
第Ⅴ世代	1946～1957年	58.8歳	1世（子供移民）	6人	日本・パラグアイ両方	日本語＞スペイン語		日本語＞スペイン語
第Ⅵ世代	1958～1969年	44.3歳	2世	6人	パラグアイのみ	日本語＜スペイン語	日本語・スペイン語両方	日本語・スペイン語両方
第Ⅶ世代	1970～1981年	34.5歳	2～2.5世	4人				
第Ⅷ世代	1982～1993年	20.8歳	2～3世	12人				
第Ⅸ世代	1994～2005年	12.3歳	3世	6人				

3.3 パラグアイの広島県人家族における広島方言アクセント継承と変容の実態

広島県方言アクセントは全域東京式であり，型の種類は共通語・東京語[7]と同じである．県内の地域差もあるが，地域を問わず若い世代での共通語化は著しい．ここでは，調査語の中から，2・3・4 拍名詞，外来語のアクセントを取り上げる．表 2 に調査語数と調査の結果を，①世代的変動の見られない語，②世代的変動がいくらか見られるものの，全体的には第Ⅲ・Ⅳ世代の持つ伝統的アクセント型が優勢な語，③世代的変動が顕著に認められる語に分類して示す.

①②に分類される語，すなわち成人移民 1 世である第Ⅲ・Ⅳ世代が持つ広島方言の伝統的アクセント型が，パラグアイ育ちの第Ⅴ世代以降においても保持・継承されている語の多くは，日本国内の広島方言においてもアクセント変動の見られない語であり，かつ，広島方言アクセントが共通語・東京語と同じアクセント型である場合であった.

一方，③アクセントの世代的変動が顕著であり，若い世代でアクセントの新旧交代が見られる語の場合，その多くが，日本国内の広島方言においても同様なアクセント変動を見せる語であった．図 1～3，図 5～7 を見られたい[8]．これらは，パラグアイでの調査と，1993 年に広島市で行った調査（馬瀬ほか，1995）における，2・3・4 拍名詞の調査語のうち，世代的変動の顕著な語について，2 拍名詞 5 語「ねじ，熊，嘘，匙，火事」，3 拍名詞 5 語「命，涙，めがね，もみじ，きのこ」，4 拍名詞 5 語「足音，金持ち，年寄り，ものさし，のこぎり」の結果を総合して，図示したものである.

---

[6] 日本生まれは「1 世」，パラグアイ生まれは「2～3 世」であるが，両親が 1 世と 2 世の子は「2.5 世」，両親ともに 2 世であれば「3 世」とした.

[7] 共通語・東京語アクセントに言及する場合は，NHK 放送文化研究所（編）（1998）日本語発音アクセント辞典新版，秋永一枝（編）（2001）新明解日本語アクセント辞典，馬瀬良雄・佐藤亮一（編）（1985）東京語アクセント資料（上・下）に基づくこととする.

[8] 横軸は世代，縦軸は発音の割合（%），グラフ中の数字はアクセント型を示したものである.

2 拍名詞における尾高型 2＞頭高型 1，3 拍名詞における中高型 2＞頭高型 1 へのアクセント変動は共通語化であり，4 拍名詞における尾高型 4＞中高型 3 への変動は，共通語における新しい優勢な型への変化である．広島市方言では第Ⅳ世代から緩やかに始まり，第Ⅴ～Ⅵ世代以降で急速に進むアクセント変動により，X 状のラインを描いて新旧アクセントが交代するが（図 5，図 6，図 7），パラグアイでは広島市方言よりも複雑な様相を呈しながら，世代的には少し遅れて，第Ⅴ～Ⅵ世代で緩やかにアクセント変動が始まり，第Ⅶ～Ⅷ世代で加速し，広島市方言と同様なアクセントの新旧交代を見せる（図 1，図 2，図 3）．外来語アクセントも同様，「モデル」における頭高型 1＞平板型 0 への変動は第Ⅶ～Ⅷ世代で顕著となり（図 4），広島市方言における外来語アクセントの平板型化（図 8）はパラグアイ日系社会でも見られるのである．

すなわち，日本国内の広島方言で起きているアクセント変動が，「日本から最も遠い日系移住地」と言われるパラグアイ日系社会に暮らす広島県人家族の若い世代にも同様に起きているということであり，これまで全く知られていなかったパラグアイ日系社会の日本語の姿の一つとして，特筆すべき事実である．

表 2　2・3・4 拍名詞・外来語の調査語におけるアクセントの継承と変容[9]

	①世代的変動の見られない語	②第Ⅲ・Ⅳ世代の伝統的アクセント優勢	③世代的変動が顕著な語
2拍名詞 42語	飴, 牛, 鼻, 水, 風(0), 空, 箸, 松, 肩, 海, 雨, 春, 窓, 秋, 夜(1), 川, 歌, 橋, 足, 池, 波, 花, 山(2)	糸, 板(伝0／1, 2), 靴, 服, 旗, 梨, 蝉, 夏, 冬(伝2／1, 0)	神, 雲, ねじ, 熊, 嘘, 匙, 火事(2＞1), 北, 人, 上(2＞0)
3拍名詞 40語	形, 印, 隣, 背中, うさぎ, 桜(0), 天気, 料理(1), ひとり, 五つ, お菓子(2), 醤油(3)	苺, 薬(伝0／2), からす(伝1／2), 朝日(伝2／1, 0), 心, 力(伝2／3, 0), ふたり, 言葉, 男, 頭(伝3／2, 0), 女(伝3／1, 0), 卵(伝2／0)	りんご, 電話, 後ろ(1＞0), 命, 涙, めがね, もみじ, きのこ, 家族(2＞1), 時間, 国語, 着物(2＞0), 東(3＞0), 会議(3＞1), はさみ, 鏡(3＞2)
4拍名詞 27語	七夕, 友達, 新聞, 学校(0), あいさつ, 全国(1), 紫, 九つ, 手袋(2), 弟, 妹(4)	ひらがな(伝3／0), 色紙, 味噌汁(伝3／2, 0), 先生(伝3／0, 1), 生け花(伝2／0)	神様, 富士山(2＞1), 足音, 金持ち, 年寄り, ものさし, のこぎり, 腰かけ(4＞3), 鉛筆, 大根(3＞0), 日本語(4＞0)
外来語 8語	—	テレビ, ラジオ(伝1／2), リレー, バレー, レモン, ドラマ(伝1／2, 0)	コップ, モデル(1＞0)

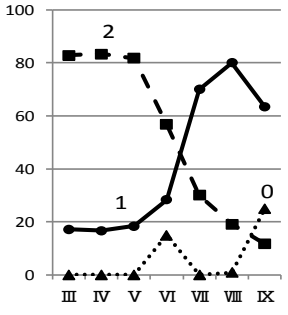


図 1：2 拍名詞 5 語（パ）

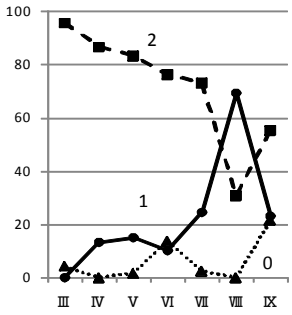


図 2：3 拍名詞 5 語（パ）

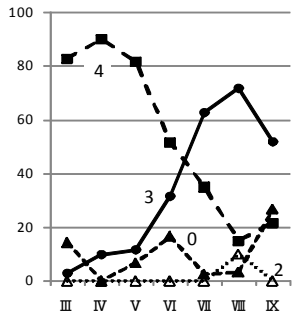


図 3：4 拍名詞 5 語（パ）

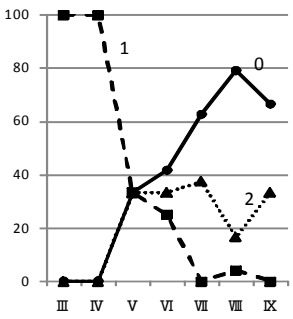


図 4：「モデル」（パ）

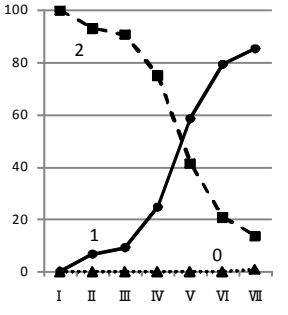


図 5：2 拍名詞 5 語（広）

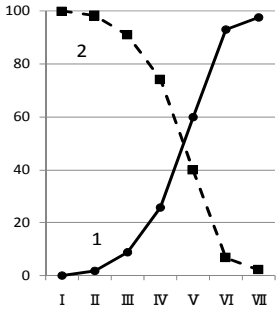


図 6：3 拍名詞 5 語（広）

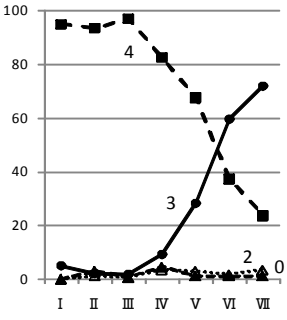


図 7：4 拍名詞 5 語（広）

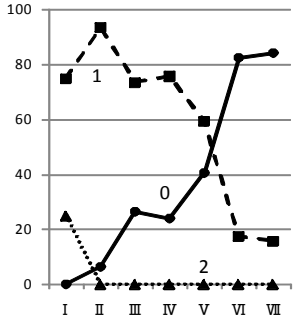


図 8：「モデル」（広）

3.4　パラグアイの広島県人家族における広島方言アクセントの変動をもたらす諸要因

では，このようなアクセント変動を促す背景には何があるのだろうか．広島市のテレビの普及は 1955 年頃から始まり 1959 年にピークを迎える．言語形成期を 3，4 歳～13，14 歳とすると，第Ⅴ世代（1946～1957 年生）は言語形成期の途中で，第Ⅵ世代以後（1958 年生～）は言語形成期の初めからテレビに接触した世代となる．第Ⅴ世代から共通語得点が大きく伸長するのは，言語形成期におけるテレビとの接触による影響である蓋然性が高いと考えられる（馬瀬ほか，1995）．

[9] 表 2 の括弧内の数字は，アクセント核の位置を語頭から数えた拍数によって示したものである．②欄内，括弧内／の左に第Ⅲ・Ⅳ世代の伝統的アクセントを「伝」として示し，括弧内／の右には第Ⅴ世代以降で世代的変動が見られるアクセントの型を数字で示した．

一方，海を隔てたパラグアイ日系社会におけるアクセント変動には，どのような要因が関わっているだろうか．第Ⅴ・Ⅵ世代が言語形成期を過ごした時期は，日系社会の多くが 1 世で構成される日本語中心社会であり，移住地外での生活も長くないため，親世代である第Ⅲ・Ⅳ世代の伝統的アクセントをよく保持していると考えられる．

表 3 広島県人家族のアクセントの継承・変容の世代的推移

日本生まれ	1世（成人移民）	第Ⅲ・Ⅳ世代	【伝統アクセント母語世代】
	1世（子供移民）・2世	第Ⅴ・Ⅵ世代	【伝統アクセント保持世代】
パラグアイ生まれ	2世～3世	第Ⅶ・Ⅷ世代	【新アクセント獲得世代】
	3世	第Ⅸ世代	【アクセント型消失世代】

これに対し，孫世代に当たる第Ⅶ・Ⅷ世代においては，1980 年代から始まる移住地の電化・インフラ整備により，テレビ・ビデオの安定的視聴，NHK 放送の受信やインターネットの利用が可能となり，さらに日本語学校では，JICA から派遣される日本語教育専門家により日本語を習うことが可能となった．日本語教育環境の充実，日本との人的交流の活発化とメディアを通じての「日本の日本語」との日常的接触は，移住地の日本語環境に大きな変化をもたらし，この時期に言語形成期を迎えた第Ⅶ・Ⅷ世代における日本語能力の維持・向上と，日本語の新しいアクセントの獲得に寄与したものと考えられる．だが，こうした高い日本語能力の保持は最も若い第Ⅸ世代において少し危うくなっており，アクセントの型区別が曖昧になる傾向のある者が見られた（表 3）．

移住地と都市部とのアクセスが容易になったことで，移住地からの人口流出とともにスペイン語への言語シフトが加速化するだけでなく，1992 年に公用語となったグアラニー語（注 5 参照）の教育が始まり日本語学習の時間が減少するなど，今後，世代交代とともに，移住地の言語生活は大きく変貌していくのではないかと思われる．

3.5 パラグアイ日系社会における日本語の新たな姿

調査から 3 年経った 2012 年，再びパラグアイを訪れた．1 世の高齢化とともに「移民言語としての日本語」の衰退を肌で感じる一方で，若い世代で「日本の日本語」との日常的接触が以前より活発に行われている様子も目の当たりにした．一つには，日本語学校に非日系パラグアイ人が増えており，「外国語としての日本語教育」の必要性が顕在化してきていること，さらに，パラグアイの学校教育機関で日本語を学ぶパラグアイ人も増加し，パラグアイ国内で「日本の日本語」に接する機会は着実に増えている．また，デカセギによる「日本の日本語」との接触と習得，それをさらに後押しする Facebook 等をはじめとする SNS の急速な普及は，国や地域を越えてパラグアイ日系人や日本に暮らす家族・親戚・友人らとのネットワークを構築する新たなコミュニケーション・ツールとして機能し，「日本の日本語」の習得・使用に大きく関わっていると考えられる．パラグアイ日系社会におけるこのような日本語の新たな動向は，今後も注目に値する．

謝辞 100 年前の 1918 年，移民を多く輩出した仁保島村出身の曾祖父母家族は広島からブラジルへ移住した．移住 100 周年を迎えた今年，故郷の広島で招待発表の機会をいただいたことを学会関係者の皆様に対し心より感謝申し上げます．

引用文献

比嘉正範(1972)．ハワイの日本語　安里源秀教授退官記念論文集　英宝社　pp. 217-246.
広島県（編）(1993)．広島県移民史　通史編　広島県
小林素文(1982)．ハワイ日系人のバイリンガリズム　愛知淑徳大学論集，**8**，143-158.
馬瀬良雄（編）(1994)．広島市方言アクセント辞典　中野出版企画
馬瀬良雄・小橋裕恵・竹田由香里・中東靖恵(1995)．広島市方言における語アクセントの動態　音声学会会報，**210**，1-15.
馬瀬良雄・竹田由香里・中東靖恵(1995a)．山陽地方岡山―広島―下関ライン方言アクセントグロットグラム（地理年代図）集　フェリス女学院大学馬瀬研究室
馬瀬良雄・竹田由香里・中東靖恵(1995b)．グロットグラムによる岡山―下関方言アクセントの研究　日本音声学会全国大会予稿集，66-71.
馬瀬良雄・竹田由香里・中東靖恵(1995c)．広島市方言語アクセントの特徴と世代的変動―『広島市方言アクセント辞典』の資料をもとに―　日本方言研究会第 61 回研究発表会発表原稿集，25-34.
中東靖恵(2007)．ブラジル日系移民社会における言語生活―ブラジル日系人の言語能力意識と意識にかかわる諸要因　大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」研究報告書，**6**，315-333.
中東靖恵(2011)．パラグアイ日系社会におけるアクセントの継承と変容―パラグアイの広島県人家族を対象に―　社会言語科学，**13**(2)，72-87.
Nakato, Yasue. (2012). Japanese Immigrants in Brazil and 'Colonia-go': Japanese as an Immigrant Language, *Global Migration and Ethnic Communities: Studies of Asia and South America*, Trans Pacific Press pp. 211-231.
パラグアイ日本人会連合会（編）(2017)．パラグアイ日本人移住 80 年記念誌　パラグアイ日本人会連合会

日本語とアラビア語エジプト方言における不満表明に関する考察
—不満表明と応答からなる不満談話シークエンスに着目して—

Marina B. ASAD（立命館大学大学院生）

1. はじめに

不満を表明することは, そもそも他者の感情を害するものであり, 会話参与者間の社会的な関係を対立させる恐れがある. そのため，誰しもなるべくならば回避したいものであるが，それでもなお「不満表明」を行う場合は，そこに何らかの目的が託されていると考えられる．例えば，山岡ら(2010: 182)によると，「相手が与害行為に気づいていない」状況の時にそれを気づかせたいとか,「相手の謝罪が足りない」状況の時に相手からの謝罪を引き出したいなどの欲求が喚起されている場合が存在する．しかし，単に相手によって引き起こされた好ましくない事態に対して不満を述べれば良いというわけではなく，不満を表明したいと思っている話し手は，発話の際，聞き手との社会的関係や聞き手の心理的状態を考慮する必要があり，聞き手側も発話を解釈する際に, 話し手をそのような発話に導いた社会的・心理的背景を考慮せざるを得ないと考えられる.

そこで，本研究では，話者にとって聴者の存在が明確に意識されている対人的コミュニケーションとしての不満談話シークエンスを分析対象として取り上げ，不満を表明する側の言語行動の指向性はどのように相手との人間関係と応答発話によって影響され変化していくのかという問いをリサーチクエスチョンとする. そして,「不満表明」とそれに対する応答に注目し分析することで，日本語とアラビア語エジプト方言における不満談話の特徴の違いを明らかにすることを目的とする.

2. 先行研究

これまでの日本語による不満表明に関する先行研究では，日本語母語話者と日本語学習者の不満表明行為を比較する初鹿野ら(1996)をはじめ，韓国人母語話者と韓国人日本語学習者を対象とする朴(2001; 2002)，李(2004; 2006)，など，日本語教育関連の研究が多く存在する．しかしながら，本研究は言語文化の比較に研究の中心を据えているため，本節では，比較文化研究，なかでも，話し手と聞き手の間の人間関係を焦点に不満表明を考察した研究(郭, 2007; 呉, 2008; 牧原,2008; 程, 2012), 及び不満表明を発話応答の観点から取り上げた先行研究(崔, 2009)の知見を紹介する.

2.1 親疎／上下関係の観点から見た不満表明の研究

郭(2007)は，千葉県における私立大学の日本人大学生及び大学院生にDCT[1]調査を行い，不満表明ストラテジーに影響を及ぼす諸要因を分析した結果，社会的な要因と文化的な要因に区別されることを明らかにした．前者の社会的要因には，社会的な距離，上下関係，力関係などが含まれるが，その一つである親疎関係に基づく不満表明の特徴としては，日本では，相手が目上である場合，親疎関係はあまり影響を与えない一方，同等か目下の場合は，親疎関係によってかなり左右される. また, 店で待たされた上に料理を間違えられた場合のように, 話し手が不満を表明する権利が社会的に保証されている場合, 不満表明の心理的負担が少なく，より直接的に不満を表明しても正当だとみなされると主張されている.

牧原(2008)は，同等の立場にある親しくないクラスメートに対し，日本人大学生が授業中に私語がうるさくて気になる場合どのように注意するかという調査を行った結果，日本人は相手に対する《不満表明》や《改善要求》を「笑いながら」行うというように, 非言語行動として配慮行動を行う傾向があるが, 外国人にはそうした傾向がないと主張している. 同様に, 呉(2008)は，日本人大学生および台湾人大学生を対象に，上下関係（先輩・後輩）を比較するDCT調査を行い，改善要求ストラテジーを分析した結果，日本人学生の言語行動の指向性は人間関係の維持であるのに対して，台湾人は目的達成であることを明らかにした．一方，程(2012)は，東北大学の日本人大学生45名，及び蘇州大学の中国人大学生40名に対して，先輩・同輩・後輩の三つの上下関係を対比するDCT調査を行った．その結果，日本人は目上に「共感」を示したり，同等の人に「直言」したり，目下に「警告」したりする傾向が強く，上下関係による対応の違いが明らかとなった.

[1] DCTとは「談話完成テスト(Discourse Completion Test)」のことで，中間言語語用論(interlanguage pragmatics)や発話行為論の分野でデータを集めるのに広く使われており、対話の状況が調査紙に印刷され、各々の状況で被験者が通常口にすることを書くように求める自由記述式のアンケートである (伊藤, 2004).

2.2 応答発話の観点から見た不満表明の研究

崔(2009)では，10代後半から20代後半までの中国語母語話者の女子留学生40人と関東地方の日本語母語話者女子大学生40人を対象に，親友と映画を見る約束の時間に特別な理由なしに三回も30分遅刻されるという一場面を設定したロールプレイ調査を行った．結果として，日本語のデータでは，不満を言う側は言われる側の理由説明に注意を払い，それを謝罪として受け取るか，相手の態度によっては再び不満表明を行った．つまり，不満を言う側と言われる側は共通の目的を持って談話が進行する．その一方で，中国語のデータでは，不満を言う側と言われる側の間には共通の目的がなかったということが明らかとなった．この「共通の目的がない」というのは，不満を言われる側の態度によって，不満を言う側の発話行動に変化がなかったという意味で用いられている．そして，中国語で不満を言う側は，不満談話全体の流れにおいて，一方的に不満について述べ，不満を言われる側は一方的に責任を認めるか回避したことが指摘された．

3. 研究目的と研究手法

以上のように，「不満表明」に関しては，日本語を様々な言語と比較しながら，それぞれ異なった角度からの議論がなされてきた．本研究はこうした議論を踏まえて，親疎関係を焦点とする日本語とアラビア語エジプト方言の不満談話の対照分析を行う．特に，先行研究での分析対象が主に，不満を感じる側からの一方向的な「不満表明」のストラテジーであったのに対し，本研究では「不満談話シークエンス」，すなわち，不満を言われる側の応答発話も含めた対話データを分析対象とする．したがって，本研究は単に不満を言う側と言われる側双方の第一発話だけではなく，聞き手と話し手の発話のターンが連なる不満談話シークエンスの中で，不満を表明する側の言語行動の指向性がどのように相手との人間関係に影響され，相手の応答発話によって変化していくのかという問いを解くことにより，日本語とアラビア語エジプト方言における不満談話の特徴の違いを明らかにすることを目的とする．

研究手法としては，10 代後半から 20 代後半までのエジプト人アラビア語母語話者（以下，EANS）の大学生・院生 100 人（50 組）（男 19 組，女 31 組）と関東地方の日本語母語話者学生（以下，JNS）40 人（20 組）（男 9 組，女 11 組）を対象に，従来研究(初鹿野ら, 1996; 朴, 2000; 李, 2004; 2006; 崔, 2009)でよく用いられてきた「相手に三回も待ち合わせに遅刻される」という場面設定のロールプレイ調査を用いた．ただし，本研究では，従来研究で 30 分と設定されていた遅延時間を 45 分に変更した．というのは，予備調査の時点で，EANS は相手が 30 分遅れて来ても不満を感じない人が多いという，エジプト人固有の社会文化的背景が存在することが分かり，遅延時間を 45 分に伸ばすことで，JNS と対等の比較が可能になると判明したからである．そこで，計 130 のロールプレイ対話を録音して収集し，それらを宇佐美(2003)の「改訂版：基本的な文字化の原則(BTSJ)」に従って文字化した．そしてその談話資料に対し，山岡(2008)の「発話機能論」に基づいた発話機能のラベリング作業を行い，両言語の不満談話の特徴の対照分析を行った．

「発話機能」(speech function)とは，山岡(2008)によれば、「話者がある発話を行う際に，その発話が聴者に対して果たす対人的機能を概念化したもの」である．この発話機能が発動するためには，会話参与者間の人間関係や，会話参与者の利害，能力，予備知識，社会通念などさまざまな語用論的諸要素群である語用論的条件が必要となる．このとき，そうした語用論的条件は，言語行動を行う二者間において共有される必要がある．さらに，発話機能の最も基礎的なタイプは《要求》(demanding)と《付与》(giving)であると考えられており，この両者はあらゆる二者の会話の原型となる．そして，この両者を組み合わせた一まとまりを，会話の一つの単位と考えるべきであると山岡は主張し，それを「連」(stream)と名付けた．

本研究では，こうした発話機能論の考えに基づいてラベリング作業を行ったが，実際の不満談話シークエンスを分析するなかで，山岡(2008)の提案する発話機能タイプだけでは捉えきれない発話があったため，発話機能の定義に従い，山岡ら(2010)，崔(2009)を参照しながら，独自に発話機能の追加を行った[2]．さらに，山岡(2008)の語用論的条件以外に「パラ言語的条件」を追加した．この「パラ言語的条件」とは，イントネーション，リズム，ポーズ，声質といった音声発話の周辺的側面に関する条件である．こうしたパラ言語は、話し手の発話の意図及び聞き手の発話への解釈を大きく左右する．例えば，「どうして遅れてきたの？」という発話は，普通に言えば単なる《疑問》であるが，言い方によっては《非難》や《叱責》を表すこともある．

4. 結果と考察

上述したように，本研究では，日本語とアラビア語エジプト方言における不満談話の特徴における共通点及び相違点を考察するために，不満を表明する側の言語行動の指向性がどのように相手との人間関係に影響され，不満を表明される側の応

[2] これは《あきらめ》，《改善約束要求》とそれに対する応答の《改善約束》，《補償援助要求》，《弁明承認要求》とそれに対する応答の《弁明承認》，《状況説明》，《賠償提供》である．

EF44（親しくない相手との場面）

دلوقتى إنتى جيتى متأخرة ومكانش ينفع إنت إنتى تيجى متأخرة. دلوقتى إحنا ملتزمين بشغل ولازم تلتزمى بالوقت اللى أنتى حتيجى فيه. ليه إتأخرتى؟ (今遅れてきましたけど、それ、よくないですよね．やらないといけないことがあって、時間を守らないといけないことがあるでしょう．何で遅れてきたんですか?)	A	504
آسفه. والله مكانش قصدى. الطريق...أنتى عارفة الطريق (すみませんが、仕方なくて、渋滞とか…わかるでしょう)	B	505
بس دا مش مبرر كافى. كنتى قادرة تنزلى بدرى شوية إحنا مرتبطين بشغل (知りませんよ、それは．もっと早くうちを出ることだってできたのに)	A	506
معلش،أنا آسفة. خلاص آخر مرة (ごめん、ごめん．今回は最後です)	B	507

EF46（親しい相手との場面）

أنتى أتأخرتى ليه كل دا ؟، أنا واقفة مستنياكى (なんでそんなに遅れてきたの?、待っていたのに)	A	516
معلش، والله يا بنتى الطريق زحمة (ごめん、本当に道が混んでいたんだよ)	B	517
طب حتى ردى على التليفون (じゃ、電話に出てよ)	A	518
معلش، أنا مكنتش سمعاه (ごめん、聞いていなかった)	B	519
يعنى إيه يعنى↑ . الفيلم إبتدا (どういうこと↑映画始まっちゃったよ)	A	520
خلاص كنتى تدخلى، وأنا حدخلّك علطول. معلش، آخر مرة (じゃ、先に入ればよかったのに、私その後に入るはずだったけど、ごめん、今回だけね)	B	521
وفى الآخر بتزعلى (でも、そうしたら怒るでしょ)	A	522
لأ، معلش حقك عليا (いや、本当にごめん)	B	523

図１：アラビア語エジプト方言の不満談話シークエンスの例

JF18（親しくない相手との場面）

216	B	すみません。また、遅れてしまいました
217	A	うーん。いつもですね
218	B	本当にすみません。ちょっと連絡しょうと思ったんですけど、…ちょっと電車でとかできなかったんで、…
219	A	うーん、分かりました。まー、はじめましょうか。

JM03（親しい相手との場面）

36	B	ごめんなさい。結構遅れちゃった
37	A	おまえは、何時と思ってんの??
38	B	45分↑??
39	A	いやーやーや、というかさ、…もうおまえはこれ3回目なんだけども、(1.0)ふざけている、本当に
40	B	いや、そんなつもりはないんだけど↓
41	A	"6時に"って言ったじゃんか↑

図２：日本語の不満談話シークエンスの例

答発話によって変化していくのかという点に着目して分析を行った．その結果として，(i)不満談話シークエンスの開始をどちらの会話参与者が行うのか，(ii)不満談話の「連」にどんな特徴があるのか，そして(iii)親疎関係によって不満談話シークエンスにどのような影響があるのか，という点に関する日本語とアラビア語エジプト方言の異同が明らかとなった．以下，具体例を交えて説明する．

4.1 不満談話シークエンスの開始の特徴

不満談話を開始する参与者に関しては，相手との親疎関係にかかわらず，アラビア語エジプト方言においては，不満を言う側（図中の参与者 A）によって不満談話が開始される場合が圧倒的に多い (96.7%)．その一方，日本語においては，不満を言われる側（図中の参与者 B）によって不満談話が開始される方が多い (74.4%) ことが分かった．このことから，アラビア語エジプト方言では，不満を言われる側は，最初は自分の非を認めず，相手が自分を責めるのを待つことが多いと考えられる一方，日本語では，不満を言われる側は，最初から自分が起こした非を認め，責任を承認する傾向が強いと言える．

4.2 不満談話の「連」の特徴

次に，両言語の不満談話における「連」を分析した結果，以下のようなことが判明した．

まず，アラビア語エジプト方言の不満談話シークエンスにおいて，親しい間柄の場合，不満を言われる側の第一発話から第四発話まで《自己弁護》あるいは《謝罪》＋《自己弁護》による責任回避の発話機能タイプがよく見られた (図 1 : 505, 517, 519)．一方，親しくない間柄の場合，不満を言われる側は《謝罪》など責任承認として機能する発話機能タイプが，責任回避の発話機能タイプとほぼ同程度使用されていた．このとき，不満を言う側は，いずれの場合においても，第一発話から第四発話まで明示的不満表明の一つである《非難》の発話機能タイプを使用する傾向が大きかった．つまり，アラビア語エジプト方言の場合，不満を言う側は，言われる側の応答発話にかかわらず，一貫して明示的に不満を表明することが分かる．このことから，アラビア語エジプト方言での不満を言う側と言われる側の間には相互行為上の共通の目的が存在せず，それぞれの目的を維持したまま談話が進行していくことが分かる．

それに対し，日本語の不満談話シークエンスの場合，不満を言われる側が談話開始時に《謝罪》による責任承認を行うか否かにかかわらず，不満を言う側は前半では《非難》の明示的不満表明を使用する傾向が強い (図 2 : 217, 37, 39) が，後半

では，明示的不満表明の発話機能の使用頻度が著しく低下し《忌避》による非明示的不満表明の使用がはっきりと見られた(図2：219)．つまり，不満を言う側は談話シークエンスの冒頭以降で，不満を言われる側の責任承認の態度を受けて，使用する発話機能タイプが変化したと考えられる．このことから，日本語では，不満を言う側と言われる側が相互行為上の共通の目的を実現するという形で談話が進められていくことが分かる．

4.3 親疎関係による不満表明の指向性

不満を表明するかどうかに関しては，アラビア語エジプト方言と日本語はともに，相手との親疎関係にかかわらず，不満の感情を隠すよりは表明する傾向が大きいことがわかった．しかし，アラビア語エジプト方言の場合は，親しくない相手に対する不満は隠す傾向が見られたのに対し，日本語の場合は，不満を隠す傾向が全く見られなかった．

また，不満談話シークエンスの長さに関しては，相手と親しい場合，日本語よりアラビア語エジプト方言のほうが，不満談話シークエンス自体が長くなるが，相手と親しくない場合は，アラビア語エジプト方言より日本語のほうが，不満談話シークエンスが長くなることが判明した．このことから，相手と親しい場合に比べて，親しくない相手の場合，アラビア語エジプト方言では，不満談話を長く続けないことが親疎関係への配慮と関係していると考えられるが，日本語では，不満談話を長く続けることが親疎関係の配慮と関連していると考えられる．つまり，両言語での親疎関係に対する配慮の感覚が異なっていることが明らかとなった．

5. おわりに

本研究では，これまであまり扱われることのなかった相互行為としての不満表明とそれに対する応答の分析を行い，その結果をもとにアラビア語エジプト方言と日本語の母語場面を比較することで，エジプトと日本の言語行動の文化的特徴を明らかにしてきた．しかしながら，ロールプレイ調査の場面や被験者数が限られていたため，結果の妥当性がまだ十分とは言えない．そこで，今後の課題として，調査場面や質問項目を拡張し，上下関係の社会的変数も加え，被験者の人数と年齢の範囲も拡大し，さらに両言語に見られた不満表現の言語形式的な観点からの分析も行うことで，より明確な両言語の不満談話の特徴を明らかにしたいと考える．

謝辞

本稿の執筆にあたって指導教員である立命館大学大学院文学研究科の岡本雅史先生から有益なコメントを頂きました．この場を借りてお礼を申し上げます．

参考文献

伊藤恵美子 (2004). データ収集における方法論の検討：言語教育に寄与する発話データを集めるには？ ことばの科学, **17**, 5-22.
宇佐美まゆみ (2003). 改訂版：基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese : BTSJ）多文化共生社会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的研究, 平成13-14年度科学研究費補助金基盤研究C(2) 研究成果報告書, 4-21.
郭碧蘭 (2007). 不満表明に対するイメージ及びそのストラテジーに影響を与える要因―日本語母語話者と学習者との比較を通じて― 明海対照言語学論集, 7, 11-20.
呉岳樺 (2008). 不満表明における改善要求ストラテジーの日台比較 台灣日本語文學報, 24, 231-252.
崔東花 (2009). 不満表明とそれに対する応答―中国語母語話者と日本語話者を比較して 多文化接触場面の言語行動と言語管理, **7**, 千葉大学大学院人文社会科学研究科, 43-63.
程鐸 (2012). 不満表現ストラテジーにおける日中対照研究 東北大学大学院国際文化研究科国際文化交流論専攻, 修士論文.
初鹿野阿れ・熊取谷哲夫・藤森弘子 (1996). 不満表明ストラテジーの使用傾向―日本語母語話者と日本語学習者の比較― 日本語教育, **88**, 128-139.
朴承圓 (2000). 「不満表明表現」使用に関する研究―日本語母語話者・韓国人日本語学習者・韓国語母語話者― 言語科学論集, **4**, 51-62.
朴承圓 (2001). 韓国人日本語学習者の言語行動の指向性に関する一考察：不満表明を例に 言語科学論集, **5**, 73-84.
朴承圓 (2002). 不満表明場面における一人称「私」の使用をめぐって―日本語母語話者と韓国人日本語学習者の相違 文化, **65**(3・4), 342-323.
牧原功 (2008). 不満表明・改善要求における配慮行動 群馬大学留学生センター論集, **7**, 51-60.
李善姫 (2004). 韓国人日本語学習者の「不満表明」について 日本語教育, **123**, 27-36.
李善姫 (2006). 日韓の「不満表明」に関する一考察―日本人学生と韓国人学生を比較して― 社会言語科学, **8**(2), 53-64.
山岡政紀 (2008). 発話機能論 くろしお出版
山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010). コミュニケーションと配慮表現―日本語語用論入門 明治書院

日本語母語場面と日中接触場面における「断り」言語行動の一考察

－「察し合い」の談話展開とそこに見る配慮表現－

高揚 （筑波大学大学院生）

1. はじめに

言語行動の中で，「断り」は「拒否」の行為タイプに属する発話行為として，Brown&Levinson（1987）のFTA（相手のフエイスを脅かす行為）に当たり，人間関係を損なう恐れがある言語行動である．そのため、断る側は断りの目的を達成する一方，依頼側との人間関係の維持に配慮をしなければならない．

また，依頼と断りのやりとりは一回だけで終わるとは限らず，断ったら再依頼される場合がしばしばある．このとき，互いに相手の知識状態や心理状態に配慮しながら「察し合い」の談話展開が行われる．そのため，「断り」は「高度な語用論的能力を必要とする言語行動」（堀田・堀江2012）であり，特に「非母語話者にとって負担が大きい行為」（武田1998）である．母語場面であっても断る際，その断りの複雑さや難しさをしばしば感じる。そのため、日本語学習者が接触場面でどうやって依頼側と察し合いながら断りの意思を表明するかがわからないことが想定される．

本研究は，多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）のロールプレイ2（RP2－断り：アルバイト先でホール担当から調理担当に変わるように依頼され断る）のデータを使用し，「察し合い」の談話展開と配慮表現という側面から，日本語母語場面と日中接触場面の「断り」言語行動の相互行為のやりとりの特徴を解明することを目的とする．

2. 先行研究と研究課題

「断り」はBeebe他（1990）以降，DCTで文レベルでの分析が多くなされてきたが，再依頼される場合はどう断るかという談話展開については未解決である．近年，談話レベルで母語場面での対照研究が進んでおり（施2005，2007；中垣2014；吉田2015，2016；ハヤティ2017），日本語では「断り」の表現形式は画一的で、察しや遠慮によって依頼側はそれほど再依頼しない傾向が指摘されているのに対し，再依頼する言語も多く，そうした言語では再依頼の際に断り部は長くなるという見解で一致しているが，断りが完遂するまでの依頼側と断る側の交渉実態は観察されていない．加えて，日本語母語話者の接触場面での「断り」はデータとしても少ないため，接触場面での「依頼－断り」の相互行為のやりとりの特徴はまだ明らかになっていない．そこで，本研究では，日本語母語場面と日中接触場面の「断り」言語行動の相互行為のやりとりの特徴を明らかにするため，以下の研究課題を設ける．

(1) 日本語母語場面（母語場面）と日中接触場面（接触場面）における「断り」言語行動の「察し合い」の談話はどのように展開されるか．また，その談話展開にどのような配慮表現が見られるか．

(2) 場面性質により「察し合い」の談話展開やそこに見られる配慮には違いがあるか．

3. 研究方法

3.1 対象データ

I-JAS（国立国語研究所　日本語教育研究・情報センター）の対話タスクのうち，日本語母語話者JJJ01（男，24歳，学生）と中上級中国の教室環境学習者CCM40（女，22歳，学生）のRP2のデータを使用した．

3.2 分析の枠組み

日本語の会話では，話し手側は聞き手に自分の心理状態や知識状態を察してもらえるように「察しの仕向け」が頻繁に行われ，それに対して，聞き手側は話し手の心理状態や知識状態を察し，それにいち早く応じようとする「察しの返し」が連鎖し，「察し合い」の談話展開が成り立つ．日高（2012:91）では，「こうした『察し合い』の配慮言語行動は，談話展開やその構成要素にも現れる」と指摘されており，日本語の配慮言語行動を特徴づけるものと言える．

分析は日高（2012）で指摘された「察し合い」の談話展開の枠組みから行い，配慮表現「対人的コミュニケーションにおいて，相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現」（山岡他2010）を参考にするが，「断り」言語行動における配慮は断り表現だけでなく，談話全体に盛り込まれると考え，談話の流れからの分析を図る．

4. 分析結果および考察

4.1 母語場面における「察し合い」の談話展開と配慮表現

断片(1)は母語場面における「依頼ー断り」の会話である（I-JAS，RP2，JJJ01 のデータより）．C は依頼側で日本料理店の店長の役を演じる日本人の調査者であり，K は断る側でホール担当の役を演じる調査協力者の JJJ01 である．

断片(1) 【RP2 のプレインテキストより抜粋（JJJ01）（下線は筆者が加筆）】

03C　はい、えーとー、JJ さんすいません、ちょっと今日はお願いがあって〈はい〉、来てもらったんですけど、えと今、ホールの仕事、をや〈はい〉接客の方（ほう）をやってもらってますよね、でーえっとー実は、えーキッチンの人が、一人辞めてしまったのでー〈あー〉、あのー、そっちのヘルプをお願いしたいんですが、できますか？
04K　えーとそうですね、僕は一料理一の方（ほう）が、苦手なん、でー〈えーえーえー〉、できればちょっとー｛笑｝
05C　そうですかー
06K　お断りしたい、＊＊んですけど
07C　まあでもあのー料理の方（ほう）は、あのーマニュアルもあるしー、少しずつ覚えていってもらえれば、それでいいんですけどねー
08K　えー、そうですねでも、まあ元々ー〈んー〉、その接客の仕事ー、やりたいなーと思って、あのー、ここのアルバイトも〈えー〉、応募してー、で今、その（連体詞）仕事にー、大分慣れてきて〈えー〉、結構常連さんお客さんと｛笑｝〈あーあー〉、ちょっと｛笑｝
09C　そっかそっか
10K　お話したりしたりとか〈はい〉、することもあって〈あー〉、できたら、そっちの方（ほう）で、続けていきたいなーっていうふうに｛笑｝
11C　そうかー｛笑｝
12K　思ってるんですよねー
13C　そうかー、んーそうですねーでもまあ、ねえ料理できると一人生これから得ですけど｛笑｝、どうですか
14K　｛笑｝そうですねー、んー、そう
15C　やっぱりでも
16K　でもやっぱり今ー〈んー〉、料理の方（ほう）にっていうとちょっとー｛笑｝
17C　そっかー気が乗らない？
18K　す、できればー｛笑｝、接客の方（ほう）続けてー、いきたいなーっていう
19C　あーそーかー、わかったじゃあ他（ほか）の人を当たってみることにしますね
20K　すいません、お願いします
21C　はい｛笑｝、わかりました、はいありがとうございます

4.1.1 「察しの仕向け」と配慮表現

依頼側 C の発話には，「ちょっと今日はお願いがあって〈はい〉、来てもらったんですけど」（03C）、「ヘルプをお願いしたいんですが」（03C）などのような文末を断定的に言い切らない言いさしの表現が用いられているが，こうした表現は，相手への遠慮を示しつつ，相手にこちらの意向を察してもらえるように仕向ける機能を果たす．「実は」（03C）も何らかの持ちかけが行われることを予告的に暗示するものとして機能する．

一方，断る側 K は，「できれば」（04K、18K），「できたら」（10K），「ちょっとー」（04K，16K）のように，断りによって相手に生じる心理的負担を予想し，それを事前に軽減化する表現が用いられており，依頼に応じることができないことを暗示する．また，「んー、そう」（14K）という「否定的マーカー」は，「『断り』へ入る前のワンクッションとなり，相手に対する心配りを示すものとなる」（カノックワン 1997:106）と同時に，相手にこちらの受け入れ難さを察してもらうように仕向ける機能を有する．こうした過程を経て，相手から否定的マーカーがあると断られることを予測でき，断られることを受け入れる準備ができる．

4.1.2 「察しの返し」と配慮表現

断りの意向を察した C は，K の発話が終わらないうちに，相手の言ったことを理解したことを表す「そうですかー」（05C）、「そっかそっか」（09C），「そうかー」（11C）というあいづちを行い，相手との関係が壊れないように配慮言語行動を行っている．また，断りの理由説明を受け入れた「そうかー、んーそうですねー」（13C）が，相手の状況を察知したことを示し，いち早く応じようとする「察しの返し」とみなすことができる．さらに，「察しの返し」と「察しの仕向け」の両方の役割を兼ねつつも気配りをする「やっぱりでも」（15C），「気が乗らない？」（17C）という「気配り発話」（ザトラウスキー1993）に注目したい．これらは何回もやりとりを経て K の断りの意思を変える見通しがないと C が判断し，最後に K を断りやすくさせる配慮言語行動と言える．それを受け継ぎ，K は「でもやっぱり今ー〈んー〉、料理の方（ほう）にっていうとちょっとー」（16K）と断りの話を行いやすくなる．

一方，断る側 K の関係修復の「察しの返し」の配慮言語行動としては，C の依頼発話あるいはそれと関連のある「察しの仕向け」に対し，断りの意思があるにもかかわらず，矢継ぎ早には断りの意思を示さず，相手が言っていることに対する同感を表す「えーとそうですね」（04K），「えー、そうですね」（08K），「そうですねー」（14K）とワンクッションを置き，ひとまず関心を示してから断りの理由説明などを行う．

4.2 接触場面における「察し合い」の談話展開と配慮表現

断片(2)は接触場面における「依頼ー断り」の会話である（I-JAS，RP2，CCM40 のデータより）．同じく C は依頼側で日本料理店の店長の役を演じる日本人の調査者であり，K は断る側でホール担当の役を演じる調査協力者の CCM40 である．

断片(2)【RP2 のプレインテキストより抜粋（CCM40）（下線は筆者が加筆）】

03C　はい、あ CM さーん
04K　はい
05C　あーほんとに君はよくやってくれて助かってるよ
06K　はい、ありがとうございます
07C　いや実は一つお願いがあるんだけどねー、調理場にいたカクさんが、〈はい〉お母さんがどうも病気らしくて〈はい〉、昨日からちょっと一国へ帰ってるんだよねー古里に〈はい〉、アンキ（地名「安徽省」）省に〈あーはい〉それで、ちょっとね、料理をやる人が一人足りなくなってるんで君、なかなか料理上手そうなので、え是非ね、調理場の方に代わってくれないかな
08K　あーて、あーそれはちょっと、あの一料理は上手ではない、ないがーあの、日本語の会話を練習する機会も、あーほしいですけど、それは、ちょっと無理かもしれ、ませんね
09C　あでも調理場にね、あの一田中君って言う（ゆう）ーアルバイトの学生も日本人もいるから、あのまあ調理場で、日本語を使うこともできるし、あの料理が下手でも、あの料理長が上手に、あの教えてくれるから、気にすることはないよ
10K　あのほんとにできないんです、あの、あ、あ料理を作ったことがありますが、あの友達は、とっても（とても）まずいと言って、いと言いましたあのその（連体詞）仕事は私に、向いていない、と思います
11C　{笑} そんなにまずいのかな
12K　はい {笑}
13C　そうか、それはちょっと困るなー、でも、ちょっとずつ、習ったらできるんじゃないかと思うんだけど、ま最初はね、すぐ料理作らなくても、さあの野菜を洗ったりとか、あのなん下ごしらえ？準備？すればいいんだけどなー、どうかな
14K　あの、それは、店の営業に、何（なに）か悪い影響もある、かもしれませんね〈え、うん〉あの、それは私にとって、できないことと言ってもいいかもしれないですね {笑}
15C　おーそうかな、それほどやっぱり嫌かな
16K　はい {笑} すいません
17C　そう、そうかまあそこまで嫌だったらじゃあしょうがないな、他（ほか）の人にあたってみようかな
18K　はい
19C　はい、わかりました
20K　すいません、ほんとにすいません
21C　はいどうも

4.2.1 「察しの仕向け」と配慮表現

依頼側 C の発話には，「一つお願いがあるんだけどねー」（07C），「すればいいんだけどなー」（13C）のような言いさし表現，「実は」（07C）という副詞が用いられており，何らかの持ちかけが行われることを予告的に暗示するものとして機能する．また，「それはちょっと困るなー」（13C）という発話は，一見独話的な話のように見えるが，呟くことにより，相手に自分の困っている状態を察してもらえるように仕向けることができる．また，「下ごしらえ？準備？すればいいんだけどなー、どうかな」（13C）と疑問形で相手の意向を考慮しながら依頼の仕向けを工夫しており，「「断り」の選択における相手の負担を軽減する効果があるといえよう」（李 2010:120）から，一種の配慮表現と言える．「どうかな（あ）」（13C）は，三牧（2000:44）によれば，「相手に直接向けずに独話風に発話することによって，FTA を補償していると思われる用法」であるが，本稿で扱った接触場面会話のデータでも確認ができた．「え是非ね、調理場の方に代わってくれないかな」（07C）という否定疑問文の形式で意向を尋ねながら依頼することで，「相手に「断り」を選択する余裕を与えている」（李 2010:124）という配慮が見られ，「是非」は「ぜひ代わってください」のように自己の利益をより大きなものとして表すことにより相手の積極的なフェイスに考慮し，「代わる」という依頼行為に伴う FTA を軽減している（牧原 2017）．

一方，断る側である K は，「あーて、あーそれはちょっと」（08K）という省略表現が用いられており，C の依頼を応じることができないことを婉曲的に暗示している．また，「それは、ちょっと無理かもしれ、ませんね」（08K）における「ちょっと」は，「本来は程度が小さいことを表す程度副詞であるが，本来の程度副詞としての意味が希薄となり，主に対人配慮の機能を果たす成分として用いられることが多い」と牧原（2017：151）が指摘されているように，FTA を和らげる配慮表現である．それに，「無理」とははっきり言わずに，「無理かもしれません」という緩和させる方略を用いることは相手に断りの意図を伝えるソフトな表現形式となり，より高い待遇的配慮を表すと考えられる．

4.2.2 「察しの返し」と配慮表現

断りの意向を察した依頼側 C は，「おーそうかな、それほどやっぱり嫌かな」（15C）という発話を行い，相手の理由説明に理解を示しつつ，その断りの意向に沿った「察しの返し」の応答をする．同時に，それは K を断りやすくさせる「察しの仕向け」の配慮言語行動と言える．K はそれを受け継ぎ，「はい {笑} すいません」（16K）と簡潔に断りの話を済ませる．しかし，CCM の断る側 K の話においては，JJJ の断る側 K の発話における「えーとそうですね」（04K），「えー、そうですね」（080K），「そうですねー」（14K）のようにワンクッションを置き，ひとまず共感や関心を表す「察しの返し」の発話が見当たらなかった．

5. おわりに

本研究では，I-JAS－RP2 のデータを使用し，日本語母語場面と日中接触場面の「断り」における「察し合い」の談話展開と配慮表現を考察し，以下の点が明らかになった.

① 母語場面・接触場面ともに「察しの仕向け」と「察しの返し」を兼ねた「察し合い」の談話が展開し，聴者への配慮として，言いさし表現，あいづち表現，それに「んー、そう」というような「断り」へ入る前のワンクッションとなり，相手に対する心配りを示す「否定的マーカー」などの配慮表現が見られた.

② 母語場面では，日本語母語話者の間で「察しの仕向け」と「察しに返し」が連鎖し，つまり「察し合い」の談話展開が頻繁に行われたのに対し，日本語母語話者と中国人日本語学習者の接触場面では，「察し合い」の談話展開があまり行われていなかった.

③ 接触場面では，母語話者は和語を漢語に替えるストラテジーを使用して学習者に配慮を示したが，学習者では母語話者が頻繁に使われる「察しの返し」の表現は見当たらなかった.

本研究から，日本語学習者は言語から出発しターゲットとなる語彙や文型をもとに取り組むだけではなく，具体的な状況におけるコミュニケーションのやりとりに盛り込まれる「察し合い」の談話展開と配慮表現に関する知識を身に付く，活用すべくことを主張する.

謝辞　本研究は中国国家留学基金委の奨学金によるものである。ここに記して感謝する.

参考文献

Beebe, Leslie M., T. Takahashi and R. Uliss-Weltz(1990). Pragmatic transfer in ESL RrefusaPragmatic transfer in ESL Rrefusals. In R. Scarcella, E. Anderson and S. Krashen(eds.)Developing communicative competence in a second language. Newbury House, 55-73.

Brown, P. and Levinson, S. (1987). *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.

カノックワン　ラオハブラナキット (1997). 日本語学習者に見られる「断り」の表現－日本語母語話者と比べて　世界の日本語教育, 7, 97-112.

日高水穂 (2012).「察し合い」の談話展開に見られる日本語の配慮言語行動　三宅和子・野田尚史・生越直樹 (編)「配慮」はどのように示されるか　ひつじ書房 pp. 91－112.

堀田智子・堀江薫 (2012). 日本語学習者の『断り』行動におけるヘッジの考察ー中間言語語用論分析を通して　語用論研究, 14, 1-19.

李錦淑 (2010).「誘い」とそれに対する「断り」の言語行動について－日本語母語話者同士による携帯メール会話の分析から　待遇コミュニケーション研究, 7, 113-128.

牧原功 (2017). 丁寧さと関わる文法ー配慮という観点から文法を見なおす　江田すみれ・堀恵子 (編) 習ったはずなのに使えない文法　くろしお出版 pp. 65-92.

三牧陽子 (2000). 丁寧体基調の談話にみる独話的発話・直接引用・心情も直接表出ー「働きかけ方式」ポライトネス・ストラテジーとして　多文化社会と留学生交流, 4, 37-53.

中垣友江 (2014). 日本語とスワヒリ語における『勧誘』会話の対照研究―昼ごはんの『勧誘の断り』の会話から　日本語・日本文化研究, 24, 170-185.

ノフィア　ハヤティ (2017). 日本語とスンダ語における『断り』談話とそれに対する反応―予備調査結果の分析に基づいて　金沢大学人間社会学経済学類社会言語学演習『論文集』, 12, 55-68.

施信余 (2005). 依頼に対する『断り』の言語行動について―日本人と台湾人の大学生の比較　早稲田大学日本語教育研究, 6, 45-61.

施信余 (2007).『待遇コミュニケーション』における『依頼』に対する『断り』の研究：日台の言語行動の比較を中心に　早稲田大学大学院日本語教育研究科博士論文

武田加奈子 (1998). 接触場面の断り行動についてのケース・スタディ　語文論叢, 26, 79-94.

山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010). コミュニケーションと配慮表現―日本語語用論入門 明治書院

吉田好美 (2015). 勧誘に対する断りの研究―日本語母語話者とマナド語母語話者の比較　お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士論文

吉田好美 (2016). 再勧誘後における断り発話の出現について―日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較　比較文化研究, 124, 263-272.

ザトラウスキー　ポリー (1993) . 日本語の談話の分析ー勧誘のストラテジーの考察　くろしお出版

話題転換タイプによる話題転換表現の使い分け

－日中両言語の雑談会話の話題開始部において－

朱怡潔（東北大学大学院生）

1. はじめに

日常会話において，同じ内容をめぐって会話が永遠に続くことはなく，常に話の中身が変化し，「話題転換」が起こる．これまでは，村上・熊取谷（1995）の「連結タイプ」と「結束性表示行動」，楊（2005b）の「転換タイプ」と「転換方略」のように，どのような転換表現を用いてどのようなタイプの話題に転換されるかという二つの側面を中心に話題転換が研究されてきている．しかし，どのような転換表現を使うかは前後話題の内容的関連性により異なり，どの転換表現が多いかを明らかにしても，話題転換を網羅的に記述することにはならない．本発表は，日中雑談会話の話題開始表現に焦点を当て，転換タイプによる開始表現の使い分けを考察する．

2. 先行研究

転換タイプについて，話題の内容的関連性と会話参加者の相互行為プロセスという二つの指標で分類されることが多い．相互行為プロセスを今後の課題にし，本発表は内容的関連性の先行研究のみを紹介する．

内容関連に基づく分類では，直前話題と関連があるか否かで 2 分類する研究（南 1981；楊 2005a）もあれば，それまでの話題を視野に入れて 3 分類する研究（村上・熊取谷 1995；楊 2009；等）もある．楊（2005a）の「連続型・非連続型」と同様，南（1981）の「断絶・継続」も 2 分類法ではあるが，断絶をさらに「新出」と「再出」に分けた点では，村上・熊取谷（1995）の「派生型・新出型・再出型」と同様の 3 分類だと言える．この 3 分類法は後に多く用いられる（木暮 2002；楊 2009 等）ようになった．

転換表現について，まず，どこまでを話題の開始部とするかについて意見が分かれる．村上・熊取谷（1995）は開始表現を「先導」と「応答」に分けたが，楊（2005a；2009）は「先導」のみを扱った．本発表は後者の立場に従い，聞き手の言語表現を扱わないことにする．ここではさらに，話題転換部にある全ての表現を対象とするか否かという分類の枠組みの問題が出てくる．村上・熊取谷（1995）は「認識の変化を示すことば・相手に働きかけることば・談話標識やメタ言語による談話展開の示唆・後続トピックのフレームの提示・トピックそのものの提示」の 5 つで，楊（2005a：330－331）はその上に「言いよどみ表現」を加え，「話題となる事柄を際立たせる表現・認識の変化を示す表現・言いよどみ表現・接続表現・メタ言語表現・呼びかけ表現」の 6 つで分類した．本発表は，「言語表現か話題内容を考えている」ことを示す言いよどみ表現は話題の転換に機能していると考え，楊（2005a）の枠組みを利用する．

しかし，転換タイプによる転換表現の使い分けに関する研究（楊 2009）が少なく，その実態が明らかにされているとは言いにくい．本発表は日中対照の観点から，3 つの転換タイプごとに開始表現がどう使い分けられるかに焦点を当て，考察を行う．

3. 研究対象と転換タイプの分類

発表者は 2016 年 11 月に，日本語 8 会話と中国語 8 会話を収集した．会話参加者は当時現役の大学（院）生（J15 は博士卒）である．同性 2 人に 30 分程度の雑談会話の録音を依頼した．参加者でない 2 人の母語話者と発表者で話題区分（日本語一致率：69.77%，中国語一致率：66.87%）し，一致しない部分について協議した結果，日中共に 95% 以上の話題の切れ目について合意が得られた．

さらに，各会話の一話題目を除き，日本語 252 と中国語 219 の話題を対象に，主観性をできるだけ回避するために転換タイプを 2 回に分けて認定した（一致率は日本語が 91.08%，中国語が 94.98%）．また，「話題開始者による

一発話目[1]に現れる開始表現」を話題開始表現とし、楊（2005a）の枠組み[2]で認定した.

転換タイプによる表現を考察する前に，本発表での転換タイプの定義を提示しておく.

1）派生型：当該話題の焦点か話題内の発話が直前の話題の焦点か発話と内容上の関連性を持つ場合.

2）新出型：当該話題の焦点か話題内の発話がそれまでの話題か発話と内容上の関連性を持たない場合.

3）再出型：直前話題とは一見新出型の関係に見えるが，それより前の話題と同じか，派生型の関係にある場合.

分類の結果，日本語 252 話題に，200（79.37%）の派生型，27（10.71%）の新出型，25（9.92%）の再出型が認定できた．中国語 219 話題に 140（63.93%）の派生型，47（21.46%）の新出型，32（14.61%）の再出型が認定できた.

4. 転換タイプによる開始表現の使い分け

4.1 平均使用頻度

3 つの転換タイプの話題数の間にかなりの差が存在するため，それぞれの開始表現の数を集計しても比較にはならない．そこで，開始表現がどれぐらい使われたかを図る指標として，「平均使用頻度」を提示する.

例 1：【J5 のバイトの仕事内容】→【バイト先の社割】（〔J5J6〕より）

文ナンバー	話者	発話内容
284	J6	なるほどね《沈黙 2 秒》。
➔285	J6	え何?、「社割」とかあんの? 《少し間》。
286	J5	あるよ。

例 1 では，認識の変化を示す表現（「え」）が 1 回出現した．日本語 200 回の派生型において認識の変化を示す表現が 29 回出現したため，平均 1 回に 0.15 回の認識の変化を示す表現が出現した計算になる．これが認識の変化を示す表現が派生型における「平均使用頻度」である.

4.2～4.4 は，6 つの言語表現を調査した結果をもとに，転換タイプごとの日中の共通点と相違点を考察する.

4.2 派生型

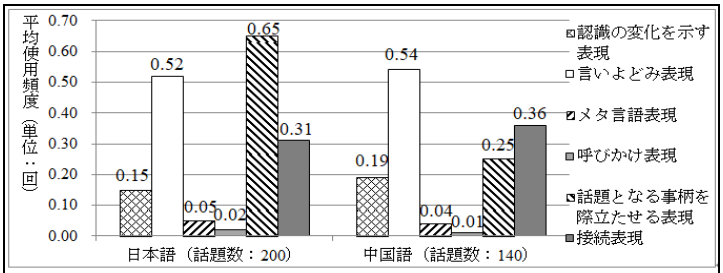


図 1　派生型の話題転換表現の平均使用頻度

（1）共通点：メタ言語表現と呼びかけ表現が少なく，言いよどみ表現が多い.

派生型は関係のある話を導入するため，堅いイメージを与えるメタ言語表現と，二人会話に不必要と思われる呼びかけ表現の使用が控えている．その代わり，言語表現や話題内容を考えていることを示す言いよどみの多用により，1）話題導入に必要な時間的猶予を与える；2）考えている時のつなぎ言葉；3）「会話の流れを変える際につきまとう強引さを緩和する働き」；（楊 2009：48）の 3 点を果たす．話の流れを切らずに，躊躇しながら派生型を導入していく傾向は日中共通に見られたと言える.

例 2：【《西部世界》剧中设定（『ウエストワールド』のドラマ設定）】→【《死神来了》（『ファイナル・デスティネーション』）】（〔C9C10〕より）

文ナンバー	話者	発話内容	日本語訳
405	C10	=而且你以为是主角'jiao3'，主角'jiao3'人，说死咗当<就死>{<}。	=それに、主役だと、主役だと思ってた人がポックリ死ん<でしまうの>{<}。
406	C9	<哼哼>{>}哼哼哼<笑>。	<はは>{>}ははは<笑い>。
➔407	C9	哎[↑]，跟那个 什么，那个，《死神来了》一样，<全句一边笑><哼哼哼哼<笑>>{<}。	あれ[↑]、あの あれ、あの、『ファイナル・デスティネーション』と同じだ、<全句にわたり笑いながら><ははははは<笑い>>{<}。
408	C10	<《死神来了》>{>}那个没有，没有内涵那个片儿（啧[咋舌声]），就是看着一个<刺激一个猎奇>{<}。	<『ファイナル・デスティネーション』>{>}のような、中身のないああいう映画は（チッ[舌打ち]）、もう刺激やら猟奇やらにしかならないわ。

例 2 は，C9 と C10 がアメリカドラマについて話し合っている中，C9 は『ウエストワールド』の設定からそれと似た『ファイナル・デスティネーション』を話題に持ち出した例である．ドラマの名前が一時思い出せなかった様子が伺え，「考えていること」を示す言いよどみ表現を用いることで，発話権を維持しながら話題を展開していく.

[1] 開始者の発話が相手により割り込まれたりする場合もあるが，開始者の発話が終わるまでを「一発話目」とする.

[2] 6 つの表現の日本語の例を少しばかり挙げる．「認識の変化を示す表現」：え，あ，あれ，等．「言いよどみ表現」：あの，その，なんか，等．「メタ言語表現」：言ったっけ，変なあれですけど，てか，等．「呼びかけ表現」：ねー，聞いて，相手の名前，等．「話題となる事柄を際立たせる表現」：は（提題），って（引用），とか（列挙），倒置，くり返し，等．「接続表現」：だから，でも，なので，等.

⑵ 相違点：日本語は話題となる事柄を際立たせる表現が多い.

例3：【戦争で戦うこと】→【変身中に殺されること】（〔J1J2〕より）

文ナンバー	話者	発話内容
665	J1	そう，本当に《沈黙 1.5 秒》。
666	J2	駄目やと思う《少し間》。
➔667	J2	だから仮面ライダーやったら さ(うん), 変身中に, 《少し間》殺すなんて御法度やん，絶対=。
668	J1	=御法度，ま<じで>{<}。
669	J2	<うん>{>}はは<笑い>。

例3でJ2は，戦争中に名乗る間に殺される話から，「○○間に殺される」という派生関係から，仮面ライダーが変身中に殺されるのはあり得ないという話を導入した．接続表現の「だから」で直前話題との関係を表示したうえで，「やったら」「さ」「なんて」と倒置表現の「絶対」を用い，話題となる事柄を導入する際に伴う躊躇を見せ，相手の反応を見ながら導入していく．中国語にこのような表現が少なく，その代わりに言いよどみが多用され，自分側の整理に専念する傾向が見られた.

4.3 新出型

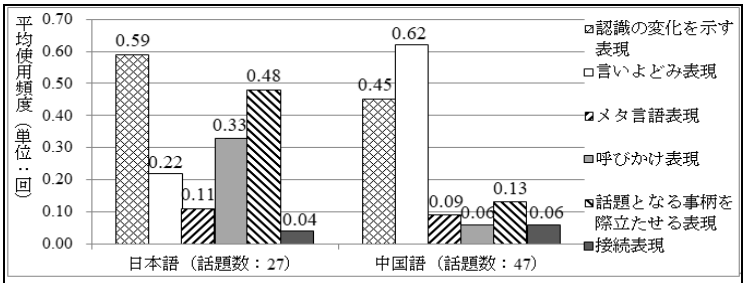


図2 新出型の話題転換表現の平均使用頻度

⑴ 共通点：認識の変化を示す表現が多く，接続表現が少ない.

新出型は突然気づいたことを前触れなしに導入するため，唐突さが伴われる．例えば，「あ、そういえば」で始まる話題では，認識の変化を示す表現の使用によりその唐突さが軽減できると考えられる．また，日中共に接続表現の使用が少ないのは前後話題につながりがないことと関係していると考えられる.

⑵ 相違点：日本語は呼びかけ表現と話題となる事柄を際立たせる表現が多い．中国語は言いよどみ表現が多い.

日本語の呼びかけ表現と話題となる事柄を際立たせる表現は中国語より多いと言える．これは，中国語において呼びかけるために名前を直接呼ぶことが少ないことと，引用表現や提題表現などが少ないことと関連していると考えられる．その代わりに言いよどみ表現が多用されるのは，聞き手の会話理解よりも，話題内容をどういう表現で導入すべきかという話し手側の事情によるものだと考えられる．日中の会話例について，例4と5を挙げる.

例4：【J1の睡眠と朝の日課】➔【H〈地名〉県】（〔J1J2〕より）

文ナンバー	話者	発話内容
985	J1	えもちろんうそやって《沈黙 4 秒》。
➔986	J1	え K〈人名、J2 の名前〉って，H〈地名〉に住んでたん?《少し間》。
987	J2	うん《少し間》。
988	J2	大学来る前はね《少し間》。
989	J1	あ，大学来る前は。

例4は，J1が毎朝ラジオ体操をしていることを冗談のように話し，4秒の沈黙を経て，突然思い出したかのようにJ2の実家であるH県のことを聞き出そうとした例である．【H県】はこれまで一回も出たことがなく，直前の話題と関係があるとは考えにくい新出話題である.

話題をさらに発展していかず，新しい話題を導入するのは，友人同士でもあまり好ましくないように思われる．それを緩和するために，あたかも今思い出したかように「え」を発話した．そのうえで名前で呼びかけ相手の注意を引き，話題を導入する．このように，日本語会話には新出話題を導入する際，相手を呼びかけることで話題の導入を明示し，そのうえで何について話すかを提示するという傾向がある.

例 5：【两人喜欢的意面与购买地点（二人の好きなスパゲッティと購入場所）】→【两人喜欢电视剧（二人の好きなドラマ）】（〔C9C10〕より）

文ナンバー	話者	発話内容	日本語訳
310	C10	】】=我是偶尔去，我一，我一周都不见得去，我一周顶多就去一回。	】】=私はたまに、週に、週に 1 回も行かないとか、行くとしてもせいぜい 1 回ぐらいかな。
311	C9	哼哼<笑>[笑止的声音]《稍停顿》。	はは<笑い>[笑いが止める]《少し間》。
312	C10	一个月也就去个两<回左右>{<}。	1 カ月に 2<回ぐらい>{<}。
➔313	C9	<[清嗓子声]>{>}，《稍停顿》哎[↑]，你最近有没有什么好看的那个[尾音拉长 1 秒]，那个 那个 那个，情景喜剧之类的? =。	<[咳払い]>{>}、《少し間》え[↑]、最近何か楽しいあれ[引き延ばし 1 秒]あれ あれ あれ、シチュエーション・コメディとかないの?=。
314	C9	=我又，《武林外传》看完了，想再找一个<一边笑>[笑声持续 2 秒][语速较慢]。	=私また、『武林外伝』見終わって、他のも探して見たい<笑い>[笑いが 2 秒続いた][スピードが遅い]。

一方，中国語会話は，例5のように，直前のスパゲッティと無関係のドラマの話を導入するのに，言いよどみが4回，認識の変化を示す表現が1回用いられた．他に，列挙表現の「とか」もあるが，中国語に話題となる事柄を際立たせる表現がそもそも少なく，まず自分側の考えを整理し，言語表現と話題内容を考えながら話題を導入していく傾向がある.

4.4 再出型

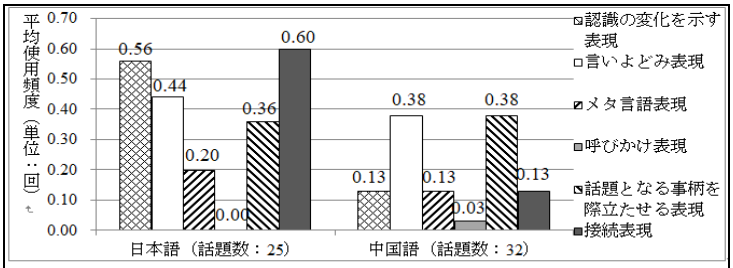


図 3　再出型の話題転換表現の平均使用頻度

(1) 共通点：呼びかけ表現が少ない.

再出型は前に出た話を再導入するので，前話題との関係に言及したり，言いよどみ表現で時間を稼いだりすることは想像できるが，相手の注意を引きつける必要はなく，むしろ話題内容に関する記憶を呼び戻すことのほうが重要だと考えられる.

(2) 相違点：日本語は認識の変化を示す表現と接続表現が多い.

例 6：【J4 の Y〈地名〉の旅】➔【キルフェボンのタルト】➔【宿泊代】（〔J3J4〕より）

文ナンバー	*話者*	*発話内容*
98	J4	見直した、タルト，タルトいいね、あれ[呟くようなトーンで][鼻水を吸う]《沈黙 2 秒》。
➔99-1	J4	あ、そうだ、で，《沈黙 2 秒》1 日目の宿[指を鳴らす]„
100	J3	うん。
99-2	J4	さっき話した、1 日目の宿„
101	J3	うん=。
99-3	J4	=Y〈J4 の彼女の名前〉が払ってくれてさ。

99-1 からの【宿泊代】は前の【J4 の Y〈地名〉の旅】の延長なので，「再出型」とした．ここで，メタ言語表現の「さっき話した」以外に，認識の変化を示す表現「あ」，「そうだ」と接続表現「で」が用いられている．直前話題との「無関係性」を表示するのに「あ、そうだ」が用いられ，さらに「旅行」の話題との「関係性」を表示するのに「で」が用いられたと考えられる．図 3 から分かるように，日本語会話の，1 回の再出型に接続表現が 0.60 回も使用されることから，この「関係性」の表示が必要のように思われ，前述の「記憶の呼び戻し」とも関連している．一方，中国語会話に現場にある事柄から発展した再出型が多かった．言語外文脈を考慮に入れると，直前話題と無関係でも，参加者の二人は，現場にある事柄だから特に多くの言語処理を行わずに済むため，関係性・無関係性を表示する必要もなくなるのではないかと考えられる.

5. まとめと今後の課題

本発表を以下のようにまとめる．派生型はよく言いよどみが使用され，話の流れを切らずに躊躇しながら導入する傾向がある．新出型は話題導入に伴う唐突さを軽減するために，よく認識の変化を示す表現が使用される．再出型は呼びかけ表現の使用が少ないことに日中が共通している．これらは，転換タイプ本来の特徴ゆえにこういう使用傾向があると考えられる．相違点について，日本人は話題となる事柄を際立たせる表現を愛用することから，何について話すかを先に相手に提示し，相手の会話理解を助けることに重きを置いている．それに対し，中国人は言いよどみ表現を愛用することから，自分側の整理に専念し，会話相手の理解に重きを置いていないように思える.

しかし，同じ開始表現でも，メタ言語表現と呼びかけ表現とは違い，言いよどみ表現や接続表現などは話題開始部以外のところでも現れるため，話題転換への貢献・効果に関しては同じではないと考えられる．今後，話題転換への貢献・効果の視点から開始表現を見直し，更なる考察と検討が必要だと考えられる.

参考文献

木暮律子（2002）．日本語母語話者と日本語学習者の話題転換表現の使用について 第二言語としての日本語の習得研究，5，pp.5-23．凡人社

南不二男（1981）．日常会話の話題の推移―松江テクストを資料として― 藤原与一先生古稀記念論集方言学論叢 I ―方言研究の推進―，pp.87-112．三省堂

村上恵・熊取谷哲夫（1995）．談話トピックの結束性と展開構造 表現研究，62，pp.101-111．表現学会

楊虹（2005a）．日本語母語場面の会話に見られる話題開始表現 人間文化論叢，8，pp.327-336．お茶の水女子大学

楊虹（2005b）．話題転換研究の概観―タイプと方略を中心に 言語文化と日本語教育.増刊特集号,第二言語習得・教育の研究最前線，2005，pp.159－189 日本言語文化学研究会

楊虹（2009）．中日接触場面における話題転換の研究 お茶の水女子大学博士論文，pp.1-167.

日本語の雑談における物語の後続文脈への展開方法

張未未・早稲田大学大学院生

1. はじめに

大小様々の話題から構成される雑談の談話には，過去の出来事や体験を語る「物語(narrative)」(Labov 1972[1], 李 2000[2])がよく生じる．この物語[3]は，前後の文脈から区別されるが，同時に連続性も保っているという(野村 2000:48)．日本語の会話教育には，日本語学習者の物語に関する実践報告(木田・小玉, 2001; 中井, 2005 等)はあるが，物語からどのように次の話題に展開するかについては扱われていない．本研究では，文章・談話論の立場から，雑談における物語と後続文脈との関係を解明し，上級日本語学習者に対する雑談の話題展開の会話教育への応用を目的としている．

2. 先行研究

日本語教育の分野における物語に関する研究は，従来，物語の内部の構造と表現に焦点が置かれ，インタビューやストーリーテリングなどのタスクによって導き出される物語が主な研究対象とされてきた．

日本語の雑談に自然に生じる物語を取り上げて，その終了する過程に言及した研究は，李(2000)，鈴木(2006)，佐々木(2010)等がある．物語の終了にその評価が述べられることが多いが，接触場面における学習者の物語には，評価が聞き手の日本語母語話者との協働によって形成される傾向があるという(鈴木, 2006)．学習者が自分の物語に評価を加えられないところに，日本語教育の一つの問題点があると思われる．佐々木(2010)も，日本語母語場面では物語に対する評価が積極的に言語化され，共感の構築が導かれるのに対して，日中接触場面では会話を滞らせずに先へと進めることが重視されると述べている．雑談における物語に対する評価は，物語に直接関連しない話題をするための布石になりうるとされている(李 2000:158-159)が，物語の後続文脈への具体的な展開方法は明確にされていない．

雑談の談話の文脈展開を動態的に把握するために，佐久間(2002; 2009)の「接続表現」を主な形態的指標とする全 3 類 14 種の「文脈展開機能(話題統括機能)」[4]の分析観点を導入する．本研究では，雑談における物語の話題から後続の話題がどのように展開されるのかに着眼し，物語に後続する話題の「話題統括機能」(佐久間 2009:112)を分析する．「最小の話題が一対の『提題表現』と『叙述表現』からなる」(佐久間 2002:167)ことから，物語の話題と後続の話題をそれぞれ「最小の話題」からなるまとまりとし，その話題のまとまりの統括機能に基づく「話段」(佐久間 1987; 2003)という単位を用いる．

3. 研究課題

本研究は，日本語の雑談における物語の後続文脈への展開方法について，日本語母語場面(以下，「母語場面」と称す)と日中接触場面(以下，「接触場面」と称す)を比較し，日本語母語話者(以下，「NS」と称す)と中国人日本語学習者(以下，「CNS」と称す)の相違を解明する 3 つの課題を設けた．

【課題 1】母語場面の雑談における NS の物語の後続文脈への展開方法はどのようなものか．

【課題 2】母語場面と接触場面の雑談における NS の物語の後続文脈への展開方法はどのように異なるのか．

【課題 3】雑談における NS と CNS の物語の後続文脈への展開方法はどのように異なるのか．

---

[1] Labov(1972) defines narrative as one method of recapitulating past experience by matching a verbal sequence of clauses to the sequence of events which (it is inferred) actually occurred.

[2] 李(2000:8)は，「物語」を「過去に発生した出来事を雑談の中で報告すること」と定義している．

[3]「会話物語」(メイナード，1993)とも呼ばれている．

[4] 「接続表現だけではなく，指示・提題・叙述・反復・省略表現等による総合的な機能である」(佐久間 2002:167)．

4. 研究方法

4.1 分析対象

本研究の分析対象は，同一の NS による母語場面と接触場面の各約 30 分間の親しい友人同士の日本語の雑談 5 組全 10 資料(計 5 時間 19 分 28 秒)である．調査協力者は，NS10 名(NS1～10)，CNS5 名(CNS1～5)の全 15 名の 20 代女性である．調査協力者 NS1～5 は，母語場面と接触場面の両場面の参加者である．CNS は，全員日本滞在歴 2～3 年の大学院生で，「日本語能力試験 N1」取得の中国人上級日本語学習者である．

4.2 分析方法

本研究では，Labov(1972)[5]と李(2000)の定義をもとに，「物語」を「連続する 2 つ以上の節からなる過去の出来事を再現する語り」として定義する．物語の話題の「中心発話」[6]の統括する範囲を「物語の話段」として，基本的に，「前置き表現」[7]，「物語」，「物語に対する評価」(以下，「評価」と称す)から構成される．「物語」に後続する「評価」の話段は，「物語の話段」の小話段に位置付けられる．物語に後続する話題の中心発話の統括する範囲を「後続話段」[8]と称す．隣接する話段に提題・叙述・接続・指示・反復・省略表現等の形態的指標によってつながりが見出せるものをまとめて 1 つの大話段とする．

分析手順として，まず，佐久間(2009:112)による全 3 類 14 種の「話題統括機能」の分類を用いて，「物語の話段」から「後続話段」がどのように展開されるのかを分析する．その際，「後続話段」の始まりとなる「発話」[9]を分析するために，「後続話段」を開始する情報内容を示す実質的発話を，語り手と聞き手のどちらが行ったかに着目し，「Ⅰ.物語の語り手が後続話題を始める場合」と「Ⅱ.物語の聞き手が後続話題を始める場合」の別に，「話題統括機能」を集計する．

5. 分析結果

雑談全 10 資料から，母語場面 79 例，接触場面 73 例(NS34 例，CNS39 例)の計 152 例の物語が得られた．「後続話段」の「話題統括機能」を分析し，「後続話段」の総数に対する「話題統括機能」の使用傾向を「Ⅰ」と「Ⅱ」の別に集計した結果を【表 1】にまとめた．

【表 1】雑談全 10 資料における物語の「後続の話段」の話題統括機能[10]の集計

話題統括機能	定義	母語場面				接触場面			
		NS1～5：41(100.00%)		NS6～10：38(100.00%)		NS1～5：41(100.00%)		CNS1～5：32(100.00%)	
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ
A 話題開始機能	話題を始める.	1(2.44%)	0	1(2.63%)	2(5.26%)	0	3(7.31%)	0	0
a1 話を始める機能	話を最初から始める.	0	0	0	0	0	0	0	0
a2 話を再び始める機能	前の話とは違う話を途中から始める.	1(2.44%)	0	1(2.63%)	2(5.26%)	0	3(7.31%)	0	0
B 話題継続機能	話題を続ける.	18(43.90%)	22(53.66%)	16(42.11%)	19(50.00%)	16(39.02%)	21(51.22%)	14(43.75%)	18(56.25%)
b1 話を重ねる機能	前の話を繰り返し，同じ話を続ける.	0	0	0	0	0	0	0	0
b2 話を深める機能	前の話を言い換えて，説明する.	0	0	0	0	0	0	0	0
b3 話を進める機能	前の話の結果や反対の話をする.	6(14.63%)	6(14.63%)	7(18.42%)	7(18.42%)	5(12.20%)	6(14.63%)	4(12.50%)	0
b4 話をうながす機能	話が先へと進むように働きかける.	1(2.44%)	0	3(7.89%)	0	0	4(9.76%)	0	0
b5 話を戻す機能	一度それた話を再び元の話に戻す.	3(7.32%)	3(7.32%)	3(7.89%)	3(7.89%)	3(7.32%)	0	1(3.13%)	1(3.13%)
b6 話をはさむ機能	前の話に関連する別の話をさしこむ.	0	0	0	0	0	0	0	0
b7 話をそらす機能	前の話を避けて，別の話をする.	0	0	0	0	0	0	0	0
b8 話をさえぎる機能	前の話を続けないように断ち切る.	0	0	0	0	0	0	0	0
b9 話を変える機能	前の話を切り上げ，別の話に変える.	8(19.51%)	13(31.70%)	3(7.89%)	9(23.68%)	8(19.51%)	11(26.82%)	9(28.13%)	17(53.13%)
b10 話をまとめる機能	前の話をまとめて，しめくくる.	0	0	0	0	0	0	0	0
C 話題終了機能	話題を終える.	0	0	0	0	0	1(2.44%)	0	0
c1 話を終える機能	話を全部終える.	0	0	0	0	0	1(2.44%)	0	0
c2 話を一応終える機能	前の話を途中で切り上げる.	0	0	0	0	0	0	0	0

5.1 母語場面の雑談における NS の物語の後続文脈への展開方法

【表 1】によると，母語場面では，「物語の話段」の話題を他の話題に転換する「b9 話を変える機能」，「物語の話段」の話題を先へと進める「b3 話を進める機能」，「物語の話段」の「先行話段」の話題に戻す「b5 話を戻す機能」の 3 種が合わせて全体の約 9 割も用いられている．【例 1】は「b9 話を変える機能」，【例 2】は「b3 話を進める機能」，【例 3】は「b5 話を戻す

[5] Labov(1972) defines a minimal narrative as a sequence of two clauses which are temporally ordered.
[6] 「『中心発話』とは，1 話段内部の複数の発話連鎖を一つの話題のまとまりとして統括する機能を有する発話である．提題表現と叙述表現が複数の発話間にわたる場合や，倒置や省略される場合も少なくない．」(佐久間 2002:107)
[7] メイナード(1993:51-52)による「前置き」の中の「(1).ジャンル移動の発表」「(5).その物語を相手がまだ知らないことを確かめ，物語を披露してもいいか許可を取る」「(7).聞き手から出されたテーマを受け入れた形の物語であることを伝える」が代表的である．
[8] 物語に先行する話題の中心発話の統括する範囲を「先行話段」と称す．
[9] 杉戸(1987:83)に従い，「発話」を「一人の参加者の一まとまりの音声の連続で，他の参加者の音声やポーズによって遮られるまでの間」と定義する．
[10] 佐久間(2009:112)表 1「文段の話題統括機能」参照．

機能」の例を示す.【例 1】は，NS8 が NS4 の物語に対して『ツイッターみたい』と評価し，そこから NS4 がツイッターの知り合いの人に関する話題に変えている．そこには「ツイッター」という「提題表現」のつながりがある.【例 2】は,『コミュニケーション能力があったから留学先で友達を作ることができた』という話題を受けて，NS6 が『言語を勉強するには，コミュニケーション能力は大事だ』という話題に進めている.【例 3】は， NS1 が『携帯を失くしたから，一番小さい容量のものに買い換えた』という物語の後で，NS1 が 214 発話で「写真って結構容量食うよね.」と話題を「先行話段」の『アイフォンの容量が小さいから写真を消した』という文脈に戻している.

【例 1】b9　話を変える機能	【例 2】b3　話を進める機能	【例 3】b4　話を戻す機能
597NS4 : で，なんか，なんか{笑}，その，「終わった，終わってない」の報告， 598NS8 : うん，うん. (8 発話省略) 607NS4 : 投稿するのはどうだろうみたいな{笑}. 608NS8 : うるせえって感じだよね. 609NS8 : ツイッターかよ{笑}. (8 発話省略) 618NS4 : {笑}めっちゃ面白かった. 619NS8 : うん，そうだね. 620NS8 : ツイッターで見たことあるって感じだよね. (3 発話省略) 624NS4 : あのー，今日，例のあの香ばしい人，メンヘラ？ 625NS8 : あー. 626NS4 : ツイッターの， 627NS8 : うん. 628NS4 : 私の知り合いの人が，	1299NS6 : もう，一番馴染んでたもん，向こうの子たちに{笑}. 1300NS1 : で，その点数悪くても？ 1301NS6 : そう. 1302NS6 : もう，ノリでなんとかしちゃう. 1303NS6 : ノリで友達作れちゃうみたいな. 1304NS6 : コミュニケーション能力だね. 1305NS1 : うん. 1306NS6 : やっぱさ，言語を勉強するって，それがすごい大事なんだね. 1307NS1 : そうだね. 1308NS6 : ね. 1309NS1 : あくまでも，ツールでしかないからね. 1310NS6 : そう，そう，そう，そう，そう. 1311NS1 : 客観的にすっごい思える，今ならば. 1312NS6 : うん. 1313NS1 : うん. 1314NS6 : だって，日本語話せたって，日本人誰とでも仲良くなれるわけじゃないしな.	156NS1 : 写真見たい. 157NS6 : いや，でも，消したかも. (4 発話省略) 162NS6 : このアイフォンはね，すごい容量が小さいの. 163NS1 : あっ，わかる. 164NS6 : っていうの//も， 165NS1 : 同じく. 166NS6 : 私ね，失くしたの，アイフォンを. (44 発話省略) 211NS6 : 「一番ちいちゃい方でいいんです」って言って， 212NS1 : ああー. 213NS6 : 全然使いないんだから. 214NS1 : 写真って結構容量食うよね. 215NS6 : うん. 216NS6 : だから，もう，すぐパソコンに入れて， 217NS1 : うん. 218NS6 : 消す.

以上のことから，NS は物語を語り終えた後，つながりを保ちながら話題を継続していることがわかった.

5.2　母語場面と接触場面における NS1～5 の物語の後続文脈への展開方法の相違

母語場面と接触場面における NS1～5 の物語の後続文脈への展開方法は，【表 1】に示すように，上位 3 位の「b9」「b3」「b5」に関して大きな違いは見られなかったが，母語場面の「Ⅰ」のみの「b4 話をうながす機能」は，接触場面では，「Ⅱ」にのみ現れている．母語場面の【例 4】は，NS6 が物語を語り終えた後，860 発話で「NS1 も反抗期ないでしょ.」と NS1 に反抗期に関する次の物語を促している．接触場面の【例 5】は，CNS2 の高校時代の恩師と再会した時の物語の後に，NS2 が 473 発話で「じゃあ」という「接続表現」を使って CNS2 に大学時代の情報提供を促している．これは，NS が母語場面では発話権取得のバランスを保つために，相手の NS に発話権を譲るのに対して，接触場面では CNS の話題を膨らませるために，関連する事柄を尋ねるなどして話を続けさせようとする働きかけによるものである．また，大話段を開始する「a2 話を再び始める機能」は，母語場面では雑談の談話現場に密接する話題が開始されるが，接触場面では，CNS の「評価」を加えない非協働的な物語への参加姿勢を受けて，NS がそれまでの話題とは無関係の全く異なる話題に変えている.

【例 4】b5　話をうながす機能（母語場面）	【例 5】b5　話をうながす機能（接触場面）
852NS6 : テレビ見てるのを見ると，どんだけ暇なんだよって思っちゃうけど， 853NS1 : {笑}. 854NS6 : あっ，見てないうちに，なんかしてんだろうなって. 855NS1 : 偉い. 856NS1 : 思いやりがある. 857NS6 : えー？ 858NS6 : ないよ. 859NS1 : 偉いわ. 860NS6 : NS1 も反抗期ないでしょ. 861NS1 : ないなー. (10 発話省略) 872NS1 : 言えない，怖すぎて.	464CNS2 : 初めて，こういう会話，全部日本語で出てきた時に， 465NS2 : うん. 66CNS2 : 先生も感動したっていう. 467NS2 : {笑}. 468NS2 : すごいね. 469CNS2 : 「まさかこういう日が来る」って{笑}. 470NS2 : {笑}成長した姿を. 471CNS2 : うん. 472NS2 : へえー，そうなんだ. 473NS2 : えっ，じゃあ，大学は，D だったの？ 474CNS2 : ううん，D じゃないんです. 475CNS2 : あのう，向こうの大学との，姉妹校みたいな.

5.3　NS と CNS による物語の後続文脈への展開方法の相違

【表 1】によると，CNS が聞き手として「後続話段」を始める場合，全 18 例中に「b9 話を変える機能」が 17 例(94.44%)も用いられるが，「b3 話を進める機能」は全く用いられていない．CNS が NS の物語から話題を先へと導けなかったのは，

物語の内容を理解できていないことによるものである．【例 6】は，CNS1 が NS1 の「夢」の物語を受けた直後に，「評価」を挟まずに突然 CNS1 自身の異なる「夢」の話題へと変えている．NS1 はそれに従い，CNS1 の夢の語りに協力的に参加している．こうした CNS の唐突な話題展開は，楊(2005)等も指摘している．【例 7】は，CNS2 が「先行話段」で関西弁を出していいか悩んでいることに対して，NS2 が関西弁をアイデンティティーとして勉強したいという学生がいたという物語を用いて，出していいと主張している．その後，CNS2 が 305 発話で「そういう，証としてみたいな．」と NS と協働的に「評価」を構築しているが，310 発話で「関西弁は難しいですよね．」と話題を違う方向に変えている．一方，NS の用いる「a2 話を再び始める機能」と「b4 話をうながす機能」を，CNS が使用していないのも，接触場面における NS と CNS の間に「言語ホスト」と「言語ゲスト」の力関係(ファン，1998)があることによるものだろう．

【例 6】b9　話を変える機能
271NS1：洗濯，うん，学校にいるんだけど，
272CNS1：　　うん．
273NS1：あー，やべえ，家に洗濯干してあるとか，
274CNS1：　　ああー．
275NS1：なんか嫌な思い．
276CNS1：　　うん，そう．
277NS1：　　うん．
278CNS1：私，あれ，あれ，いつもゼミの夢を見たり，
279NS1：　　{笑}．
280CNS1：調査の夢を見たり，文字化の夢を見たり，
281NS1：　　うん．
282CNS1：するの．
283NS1：終わらない夢？
284CNS1：そう．
285NS1：なんか，終わらないよって苦しむ夢？

【例 7】b9　話を変える機能
277CNS2：関西弁は，最近，あのう，封印しようと思って．
278NS2：　　へえー．
279NS2：いいじゃん，出せば．
(7 発話省略)
287NS2：だって，京都で勉強してる人は，なんか，関西弁勉強したいとか言って，
(17 発話省略)
305CNS2：そういう，証としてみたいな．
306NS2：　　うん．
307NS2：証として．
308NS2：「ほんまか」とか言って//{笑}．
309CNS2：　　{笑}．
310CNS2：関西弁は難しいですよね．
311NS2：　　うん．
312CNS2：　　うん．
313NS2：難しい．

6. おわりに

本研究では，日本語の雑談における物語の後続文脈への展開方法を，佐久間(2009:112)の「話題統括機能」という観点から分析した結果，母語場面における NS は，物語に対する評価を挟み，つながりを保ちながら話題を先へと進め，物語を終えた後，以前の雑談の文脈に戻して話題を再開することが多かった．一方，CNS は，日本語の雑談における物語の内容が理解できず，NS の物語の後，物語の内容の一部に関連する話題で話の本筋から外れる方向に変えることがあったが，それは CNS が日本語力不足からか，話段全体の内容を把握しきれず NS の直前の物語のみに集中していることによるものであろう．

したがって，日本語の会話教育では，NS の展開例の提示等による談話全体の文脈を踏まえた話題展開方法の教育が必要である．今後は，雑談の談話資料を増やし，物語の話題別に後続文脈への展開方法を考察していく必要がある．

参考文献

ファン，サウクエン(1998)．接触場面における言語管理 日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成研究会発表原稿・会議要録，1-16.

木田真里・小玉安恵(2001)．上級日本語学習者の口頭ナラティブ能力の分析－雑談の場での経験談の談話指導に向けて－ 日本語国際センター紀要 11，31-49.

Labov, W. (1972) Language in the Inner City. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.

李麗燕(2000)．日本語母語話者の雑談における「物語」の研究－会話管理の観点から－ くろしお出版

メイナード，泉子・K(1993)．会話分析 くろしお出版

中井陽子(2005)．談話分析の視点を生かした会話授業－ストーリーテリングの技能指導の実践報告－ 日本語教育 126，94-103.

野村眞木夫(2000)．日本語のテクスト－関係・効果・様相－ ひつじ書房

佐々木泰子(2010)．接触場面と母語場面－体験談の終結部から見たその特徴－ 言語文化と日本語教育 39，33-40.

佐久間まゆみ(1987)．文段認定の一基準(I)－提題表現の統括－ 文藝言語研究言語編 11，89-135.

――――(2002)．3 接続詞・指示詞と文連鎖 野田尚史他(編) 日本語の文法 4 複文と談話，119-189．岩波書店

――――(2003)．第 5 章 文章・談話における「段」の統括機能 佐久間まゆみ(編)・北原保雄(監修) 朝倉日本語講座 7 文章・談話，91-119．朝倉書店

――――(2009)．第 2 章 日本語表現の機構 第 3 節 表現の展開・構造 糸井通浩・半沢幹一(編) 日本語表現学を学ぶ人のために，101-116．世界思想社

杉戸清樹(1987)．発話のうけつぎ 国立国語研究所報告 92 談話行動の諸相－座談資料の分析－，68-106．三省堂

鈴木伸子(2006)．接触場面における日本語学習者の体験談の構造－「評価」の協働構築が可能にするもの－ アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要 29，1-17.

楊虹(2005)．日中接触場面の話題転換－中国語母語話者に注目して－ 言語文化と日本語教育 30，31-40.

（招待発表）

Python と TwitterAPI によるビッグデータ事始め

荒川　歩(武蔵野美術大学)

1. はじめに

社会言語科学では，従来，少数の事例を丁寧に質的に分析する方法と，大量のデータを統計的に分析する方法というお互いに利点と欠点のある方法が相互に補い合うように用いられてきた．このうち，前者の質的な分析は，研究者の人力に依存よる部分が多く，分析の背後にある方法論の精緻化という形で発展をしているのに対して，後者の一部は，大量のデータを貯蔵し，効率的に検索できるコンピュータや，言語データを機械的に処理するテキストマイニングソフトウェアなど技術的な発展の影響を受けてきた．それでも従来の量的研究が対象とするデータは，コーパスに代表されるように，出処は明確であるが量的に限られるものであった．ところが近年，インターネットの普及により，Twitter などの（位置情報などさまざまな情報と紐付いてはいることもあるが）誰がどのような文脈で発したかの情報には欠ける極めて大量の言語データ，いわゆるビッグデータが分析の対象として用いられるようになった．

Twitter とは，140 字という制限字数の中で匿名で簡便に情報を不特定多数に発信したり，それを読んだり，共有したりすることのできるインターネット上のサービスであり，フォローとよばれる機能を相互に使うことで，他のユーザーに自身の現在の状態や関心を伝え，また，友人や有名人の関心や情報をリアルタイムで得ることができるものである．この Twitter のデータを言語データとして利用することについては，「言語資料としてどのような性格を有しているのか，実は未だ詳らかではない」という指摘(岡田・西川, 2016)があり，その使われ方は，時間と伴に変化し，もともとの独り言的に表出される私的発話から，社会的発話の割合が増えつつあるという指摘もある(澤山・三宅, 2018)．また，十分な利用者の情報に欠けているため利用者の特徴を含めた多面的な分析をする必要があるという指摘もある(北村・河井・佐々木, 2017)．しかし，ツイートはある種の言語使用であると考えられることから，これを使うことで，大きな標本を対象に，ある言葉が地域的にどの地名と結びついて使われているか，あるいは，ある言葉と同時に使われる言葉が時間的にどのように変化をするかを巨視的に調べることができる．

そのため，現在でもさまざまな観点から，言葉の変化を捉える手段として，Twitter が分析の対象として用いられている．例えば，五味・辰巳・新田(2012)は，「違う」の形容詞化について調査し，後に続く語としては「違わない・違(う)くない」と続く場合の形容詞化率が最も高いことを指摘した．また，全く別の種類の研究として，保田・岡本・荒牧(2012)は，ファッション雑誌等で，読者に新しい印象を与えるために，語を組み替えて使用する現象に着目し，雑誌における表現について分析するとともに，Twitter において人びとが使う言語表現や用法にも着目し，キーワード検索を用いて「大人」「ｘ＋」「大人＋ｘ」「大人な」といった用法について調査を行い，その結果として「『大人なガーリッシュ』や『大人女子』のような新たな用法が現われることで，『大人』用例の割合に変化が現われている」と指摘している．

しかし現状では，Twitter というビッグデータの分析にはプログラミング等の知識を要するため，それらの専門的な知識をもった人以外には障壁が大きいと思われる．そこで本研究では，素人として大量のツイートデータを収集し，テキストマイニングで簡単な分析を行う方法について紹介する．例として，近年「大人コーデ」や「双子コーデ」といったように利用が増えている「コーデ」と言う言葉に注目し，それがどのような言葉と同時にツイートされているかについて検討を行う．

2. ツイートの取得の方法

ツイートは，Twitter 社が管理しており，ツイートの取得方法は，さまざまな方法が提供されている．無料で利用できる公式の方法は，Twitter 社が提供する Standard Search API というウェブ上のシステムに，Perl や Python などで作成したプログラムでアクセスして情報を得るものである．Standard Search API は，緯度経度情報を含んだツイートの検索も可能であり，これは社会言語学的には有用な情報だと考えられるが，この情報が含まれているものはツイートのごく一

部である．また，検索可能な対象期間が公式には7日間であり，一度の検索で引き出すことのできる件数と一定時間内に検索を行うことのできる回数がかなり限られている．なお，このほか，より制限が緩やかな有料サービスも提供されている．

ここでは，わかりやすいことで，近年，利用が伸びているプログラム言語である Python を用い，Standard Search API にアクセスして，ツイートを収集することを試みる．

2.1 API キーの取得

API を利用するには利用者を識別するための Consumer Key, Consumer Secret, Access Token, Access Token Secret の 4 つが必要である．Twitter アカウントを取得したうえで，https://apps.twitter.com/ にアクセスして，指示に従って，上記の4つのキーを取得する．

2.2 Python のインストール

https://www.python.org/ にアクセスして，Python をインストールする．Windows よりも Linux や Mac のほうが，形態素分析に用いる MeCab との相性がいいという指摘もある．インストールをする際，どのディレクトリからでも Python が使えるように Path を設定するかにチェックを入れる欄があるのでチェックを入れる．

2.3 ツイートの収集

http://www.mivurix.sakura.ne.jp/mivurix/twitter.html から実際に，「コーデ」を含むツイートを収集する際に用いたプログラムをダウンロードできる．プログラムをメモ帳などで開き，検索ワードや CONSUMER_KEY などの部分を自分の API キーに置き換え，Windows のコマンドプロンプトでプログラムのディレクトリに移動して「pyhon プログラム名」と入力すれば，時間をかけて，test.html というファイルに収集したツイートが書き込まれる(すべてのファイルは utf-8 形式で保存されている必要がある)．この際，いわゆるリプライは含むが，リツイートは含まない設定にしているが，逆に一定数以上のリツイートがあったものだけを収集することも可能である．

なお，どのような検索ワードであっても，宣伝業者による同内容の莫大な量のツイートなど，分析に含むには適さないデータが多数含まれているため，不要なものは削除するなどさまざまな事後処理が必要である．

3. テキストマイニングの方法

https://github.com/ikegami-yukino/mecab/releases などを参照し，形態素分析ソフト MeCab をダウンロードして利用できるようにしたうえで Path を通す．これでテキストマイニングができるようになっているはずだが，MeCab の辞書は，ネットで使われるような新しい言葉が入っていないため，本研究では，新語を定期的に更新している mecab-ipadic-Neologd を Linux 経由でダウンロードしてデフォルトの辞書の代わりに用いた．

4. 結果と考察

2018 年 6 月 28 日 20 時 27 分にツイートの収集を行ったところ，6 月 18 日 22 時 06 分以降の「コーデ」を含むツイート 54383 個が収集された．これに，7 月 5 日 21 時 22 分に追加の収集を行い，さらに 42514 個収集し，接合した．目視で業者による広告を発見し，一括削除を行い，最終的に 88916 個を分析の対象にした．

図 1 は，この 17 日間の「コーデ」を含んだツイートの件数を 1 時間ごとに示したものである．おおむね同じパターであることが読み取れ，9 時から 12 時の間に小さなピーク，そして 20 時から 11 時くらいの間に大きなピークがあることが読み取れる．これは，午前中，人と会うなかで装いに関するツイートが増え，また夜，翌日以降の装いを考える中で増えているのかも知れない．一般的にツイート件数は早朝 4 時～5 時に最も少なく，右肩上がりで，21 時頃に多くなるという指摘(株式会社 AutoScale)と比較すれば，午前中に小さなピークが来るのは，「コーデ」の特徴といえるかも知れない．また，24 日 (2411)と 1 日 (0111)周辺だけ他の日と様相がことなり，11 時頃にピークが来ていることも，この日が日曜であることを考慮すると，この特徴の存在を支持するものといえよう．

表 1 はこの期間に「コーデ」とともにつぶやかれた名詞・形容詞のうち意味が取れる言葉の上位 25 語を示したものである．名詞は「今日」が最も多く，また近年の流行を反映して「双子」が 2 番目に多くなっている．また「大人」が 17 番目に入っている．形容詞は，「可愛い」，「良い」，「うれしい」などポジティブな言葉が並び，「かっこいい」，「大人っぽい」など少し詳しく説明する言葉がそれに続いている．

また，図2は，コーデとともにつぶやかれる名詞7つ（今日・双子私・夏・ファッション・スカート・大人）について，その出現頻度の日ごとの変動を表したものである．ここでも日曜日には平日とは異なるパターンが見られ，7月1日は「スカート」が増えて「大人」が減っている．これは「コーデ」という言葉を使う人々の価値観を反映したものといえるだろう．

5. 今後の課題

本研究は，Python と MeCab を使って，「コーデ」を含むツイートの分析を試みた．その結果，「コーデ」およびそれと一緒に用いられる言葉の時間的な変化をとらえることができた．しかし，本研究には様々な問題点がある．第1に，本研究が対象とした時間は短い．そのためその変化の多くは，言語使用の変化をとらえるのには不十分であり，その日の天候や出来事などに大きく依存している．今後は，より長期間のデータを集積したうえで，「コーデ」をめぐる表現がどのように変化するかを検討する必要があろう．第2に，本研究では，独自の辞書登録は行わず，Neologd の辞書そのままで形態素分析を行っている．そのため，誤分類と思われるものもときには見られる．また，自動化した処理で行われていることによる誤分類や，発話意図が他と大きく異なるツイートを含んでいることによる誤分類もある．これらは結果をゆがめる可能性のあるものではあるので，注意が必要である．

謝辞：
Python や MeCab による Twitter の分析に当たっては，mecab-ipadic-Neologd を含め，それぞれのプログラム，辞書の開発者はもちろん，ウェブ上の情報提供者にその多くを頼っている．ここで感謝の意を表する．

参考文献

藤田秀之 (2011). Twitter メッシュデータ収集・視覚化システム 地理情報システム学会第 20 回研究大会講演論文集, (https://www.gisa-japan.org/conferences/proceedings/2011/papers/E-6-3.pdf 2018 年 7 月 5 日確認)

五味伸之・辰巳暢・新田優喜 (2012). Twitter を利用した言語形態の変化についての研究 福井工業高等専門学校 研究紀要 人文・社会科学, 45, 1-6.

株式会社 AutoScale (2017). 【Twitter 運用ツール「Cheetah（チーター）」が 100 万ツイートを対象に調査】ツイートが拡散されやすい投稿時間帯は 5 時，11 時・15 時 (https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000022240.html 2018 年 7 月 6 日確認)

北村智・河井大介・佐々木裕一 (2017). ソーシャルメディアにおける感情語使用と投稿動機，ネットワーク構造の関係 ―ツイッターでのポジティブ感情語・ネガティブ感情語に着目して 社会言語科学, 20, 16-28.

岡田祥平・西川由樹 (2016). 日本語研究資料としての Twitter ： コミュニケーション構造の観点から 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編, 9, 93-111.

澤山郁夫・三宅幹子 (2018). 大学生の独り言的ツイートは独り言なのか―発話傾向との関連から パーソナリティ研究, 27, 31-41.

保田祥・岡本雅史・荒牧英治 (2012). <新しさ>のために循環する表現－女性向けファッション雑誌『InRed』を材料に 社会言語科学会第 29 回大会発表論文集, 134-137.

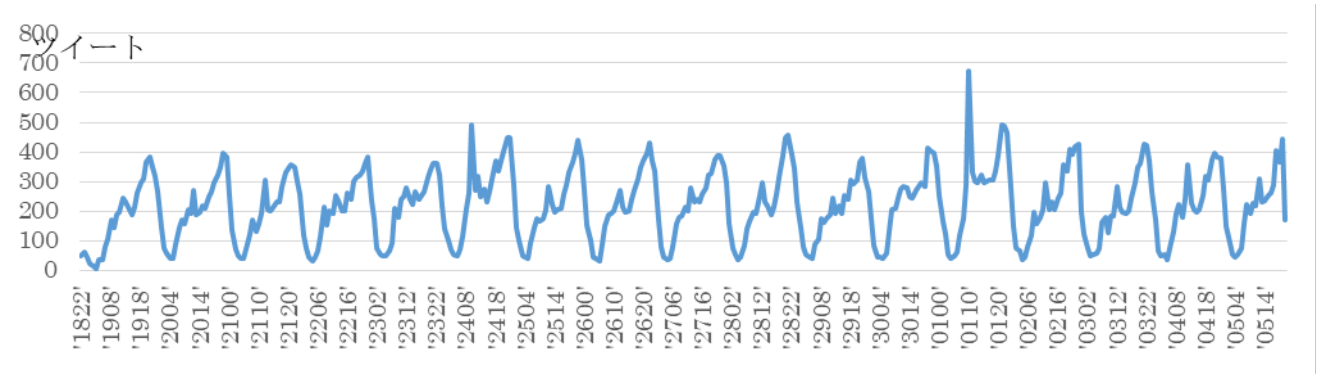


図１　「コーデ」を含んだツイートの時間変動（横軸は日と時刻：例えば 1822 は 18 日 22 時）

表１　「コーデ」とともにつぶやかれた名詞・形容詞のうち意味が取れる言葉の上位 25 語

名詞				形容詞			
今日	7473	こちら	2449	可愛い	7742	多い	957
双子	5636	スカート	2384	いい	4052	暑い	868
夏	4993	黒	2375	ない	4022	かっこいい	661
私	4260	大人	2361	かわいい	3243	難しい	653
好き	4189	シャツ	2154	良い	2558	高い	609
ファッション	3145	目	2153	嬉しい	2262	大人っぽい	580
服	3075	オシャレ	2130	欲しい	2198	早い	519
人	2706	おしゃれ	2108	楽しい	1745	無い	509
これ	2630	白	2075	すごい	1437	詳しい	504
色	2597	時	2056	よい	1396	やばい	497
交換	2518	T シャツ	1954	っぽい	1189	新しい	489
素敵	2514	画像	1929	ほしい	1008	おそい	467
アイテム	2461			やすい	1000		

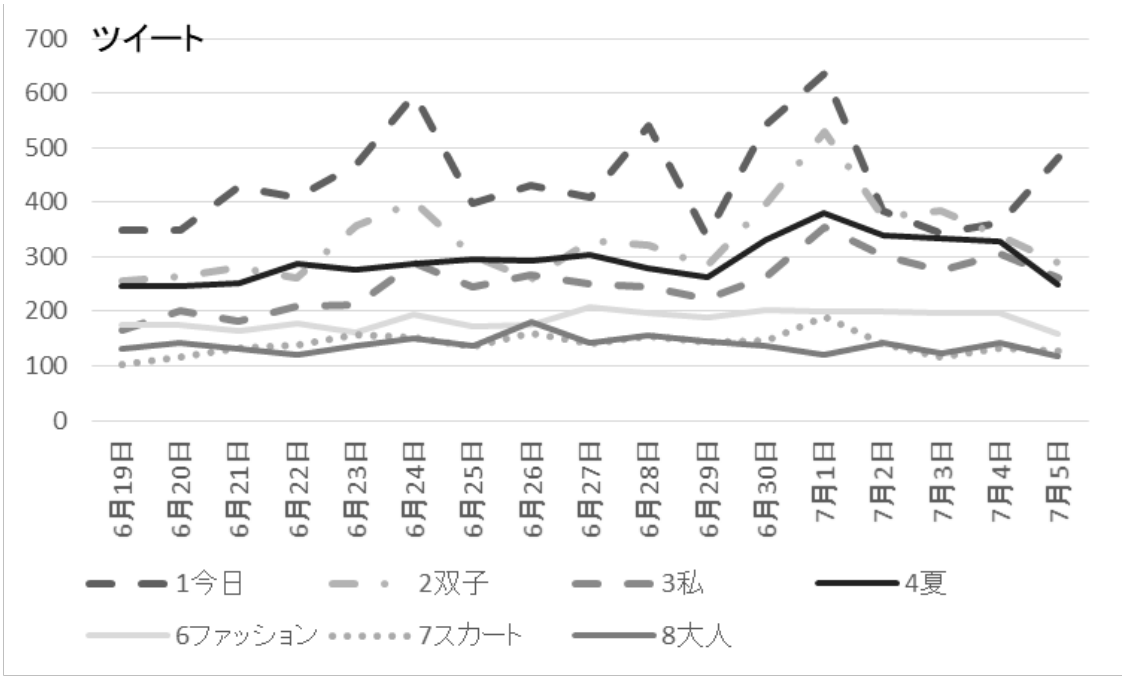


図２　「コーデ」とともにつぶやかれるキーワードの変動

連鎖全体への反応として使用される「へー」の働き

関玲(筑波大学大学院生)

1. はじめに

日本語会話において,「へー」は聞き手の反応の 1 つとしてよく使用される.「へー」の働きについて, Iwasaki(1997)では「へー」を“news-receipt token”として捉え, 冨樫(2005)でも同様な記述が見られる. これらの研究では「へー」の働きを述べているものの,「へー」の産出位置や仕方について特に考慮されていない. 一方, Mori(2006)は「へー」の働きを産出位置や仕方との関連性に焦点を当て, 会話分析の手法を用いて記述を行っている. Mori(2006)では, 情報を提供する連鎖(informing sequence)の途中とその後のそれぞれの位置に用いられる「へー」の働きを分析し, 前者においては, 情報を提供する中である特定の情報をとりわけ重要なものとして受け止めたことを標示したり, 修復開始として使用されたりすること, また, 後者においては, 情報を提供する連鎖を閉じて新たな連鎖を開始する際の標識として働くことなどを明らかにしている.「へー」の働きを分析するにあたり, Mori(2006)は多くの示唆を与えるが, 情報を提供する連鎖のみを扱っており, それ以外の連鎖環境について考察されていない. そこで, 本研究では連鎖のタイプを限定せず, より多様な環境の「へー」の働きを検討する. その中で, 本発表では「語りの連鎖」と「一連の連鎖(複数の話題上関連性のある連鎖が続く場合)」が完結可能な位置に至った後に産出される「へー」を取り上げ, その位置に用いられる「へー」がなぜ連鎖全体への反応として理解可能なのか, また「へー」の相互行為上での働きを明らかにすることを目的とする.

2. データ及び分析方法

本研究で取り上げるデータは, 日本語母語話者同士による自然会話(計約 190 分)である. そのうち,「へー」の使用が見られた 88 件のデータを対象とし, 会話分析の手法を用いて分析を行う.

3. 分析

3. 1 語りの連鎖の全体への反応として使用される「へー」

断片(1)では, N と S は九州旅行の計画について話しており, 2 人の友人のテッシーのことを話している. 断片の前に他の友人が長崎に行きたいという話があった.

(1) 【N&S_フェリー】

01S：あとあれだ:テッシーが¥フェリー¥に乗り
02S: たいんだ長[崎まで.
03N: [hahaha[.h he.h h he.h he
04S: [でもテッシーは九州お父さん
05S:の実家が九州だ[から正直
06N: [>あそうなの?<
07S:そう.正直九州(0.3)旅行はそんなとこでも行ったこと
08S:わりとあるから,(0.2)どこでも¥フェリーに乗れればいいみたい.¥
09N：(TS::).hh¥[<フェリー楽しくなくね?>[別に¥
10S： [.hhe [ね:
11S：.hhh途中から酔ったって¥言い始めるん[だよどうせ.¥
12N: [hahaha[.hhe.hhehe(.)
13->N:.hh.hhへ:::::::
14 (0.5)
15N：考えなきゃね, ホテルどうしようね.

S は 01 行目で「あとあれだ」と言い, 断片の前で話されていた他の友人の話につなげて, テッシーのことを導入し, 語り始めている. しかし, S はここで友人の希望をただ要約した形で代弁し, 詳細なことを語っていない. N はこの報告を笑いで受け止める(03 行目).そして S は 04-05 行目で「テッシーはお父さんの実家が九州だから」と新たな情報を提供し, テッシーの希望について背景事情を語り続けている. その新たな情報に対して, N は 06 行目で即座に「あそうなの」と反応し, 意外性を表している. この反応を受けた S は 07 行目でまず「そう」と同意を示し, その後語りが中断されたところの言葉「正直」(05 行目)を用いて語りを再開した. この語りが 08 行目まで続いており, 語りを受けた N は 09 行目でまず「TS::」と皮肉をめいた笑いで受け止め, 吸気の後に笑いながら「フェリー楽しくなくね別に」とテッシーがフェリーに乗ることを評価した. また, ここで N は「なくね」という形式を用いて, S に評価について同意を求めている. S はこの評価に対して, 10 行目でまず「ね:」と同意を示し, その続きで「途中から酔ったって言い始めるんだよどうせ(11 行目)」と同意した根拠を提供している. このように, 語りへの評価のやりとりが行われた後に「へー」が産出されている.

ここで, この断片の構造を確認しておきたい. S は 01-08 行目で語りという形で報告を産出し, N はその報告を受けて

09 行目で評価を行っている．また，この評価は同意を求める形になっており，S はそれに対して 10-11 行目で同意を示している．01 行目より報告(とその背景事情)として生み出された語りについて評価がなされ，それに対する語り手自身の同意も産出されたこの時点は，構造的に 09-11 行目の隣接ペアの連鎖が完結する位置であると同時に，01 行目からの語りとその評価の連鎖全体が収束してもよい位置に至ったとみることができる．そのような位置で N によって産出された「へー」は，直前の隣接ペアへの反応というより，直前の語りが報告としてなされたという理解を示し，語りとそれに対する評価の連鎖全体を受け止めた反応として産出されているとみなされる．

また，語り連鎖が完結可能な位置に至ったという話者の理解は，話者の身体的ふるまいからも確認できる．N は 12 行目で笑いを産出する時に視線を S に向けていたが，「へー」を言ったとたんに視線を S からずらし，右のほうに向け始める．また，0.5 秒の間合い(14 行目)の間，N と S はお互いに視線を合わせず，別の方向を見ている．さらに，15 行目で N は「ホテルはどうしようね」と新たな話題を提供し，新たな連鎖を開始した．新たな連鎖が開始されたことも先行する語り連鎖が収束されたという N の理解を示している．

3. 2　一連の連鎖の全体への反応として使用される「へー」

断片(2)の前で N と S は S が入社[1]する予定の寮の生活について話していた．

(2)　【N&S_住宅手当】

01N：え:でもあれでしょ,住宅手当は出るんでしょ．
02 (0.2)
03S：住宅手当が(.)どくしんのうちは出ないんだよ．
04N：あそうなの.[じゃ早く結婚するしかないね．
05S：　　[うん
06S：そう．
07 (1.2)
08N：え::[:,あじゃ独身のやつ寮入れ[みたいな感じなんだ．
09S：　[そうなんだよね．　　[そうそうそうそう
10 (0.4)
11S：独身のやつ寮に入るか,自宅から通えるやつは通わな
12S:いといけない．
13 (0.3)
14N：えでももし一人暮らししたいってなったら,自費で
15N:[できるんでしょ．
16S:[そうそうそう
17 (0.8)
18N：でも安いんじゃない野田ら辺．
19S：うん,多分つくばと変わんないよね．
20 (1.3)
21->N：**へ::::[:**
22S：　[や:ばかったよ.(0.3)なんもなかった本当に

N は 01 行目で S に住宅手当のことについて質問する．N はここで「でしょ」という形式を用いて，自身の推測したことについて相手に同意を求めている．この推測に対して，S は 03 行目で「独身のうちは」という条件つきの部分的に否定する答えを産出している．S のこの答えに対して，N は 04 行目で「あそうなの」と理解を示した．そして，その続きで，「じゃ早く結婚するしかないね」とさらに S の答えを踏まえた上での意見を出している．この意見に対して，S は 06 行目で「そう」を用いて同意を示している．この同意に対して N は 4 回うなずいて(07 行目)S の反応を受け止める．1.2 秒の間合いの後に N は 08 行目で「え:::」ともう一回 03 行目の S の答えに反応を示し，その続きで「独身のうち」に関連する質問，「独身のやつ寮入れみたいな感じなんだ(08 行目)」，「一人暮らししたいってなったら，自費でできるんでしょ(14-15 行目)」を行った．この 2 つの質問に対して，S はそれぞれ肯定的応答をした(09-12，16 行目)．これらの質問を踏まえて，N は 18 行目で S が入社される予定の「野田」での「一人暮らし」について「安いんじゃない」と確認を求めている．それに対して，19 行目で S はまず「うん」と確認を与えて，さらに 2 人が在住している「つくば」との比較を出して根拠づけている．S の応答に対して，N は 20 行目で 3 回うなずいてそれを受け止めた．

ここで注目したいのは 18-19 行目の隣接ペアの連鎖とそれまでの一連の質問-答えの連鎖との違いである．01-16 行目で行われている質問-答えの連鎖は全て N が S に対して何か情報を聞き出すやりとりとなっており，それに対して，18-19 行目のやりとりはそれまでの情報を踏まえて N 自身が理解したことを S に確認しているものになっている．このことから，N は 18 行目の時点で 03 行目の S による否定的応答について，それまでのやりとりを通してより具体的な理解に到達しており，その点(会社が住宅手当を出さないという点)については，17 行目以降でそれ以上追及していないことがわかる．18-19 行目のやりとりは，01 行目より開始された一連の連鎖で語られていることについてはこれ以上展開しないこと，つまり，ここで，01 行目から開始された連鎖を収束してもよい位置に至ったことを示している．そのような位置に話者 N が「へー」を用いることでそれまでなされてきた一連の連鎖にどのように受け止めたかを示し，それによって，一連の連鎖を相互に認識可能な仕方で収束させるとみられる．

また，断片(1)と同様に，話者の身体的ふるまいも一連の連鎖が収束したという認識を示している．N は S に質問する側として 20 行目まで視線を S に向けたままであるが，「へー」を言う時に視線を S からずらして右のほうに向け始める．そして，S は 19 行目で「つくば」を言った時点から視線を N からずらして下に向けている．N と S は視線をお互いにそらす

[1] 会話収録時，N と S は 2 人ともつくばに在住している．S は野田市にある「キッコーマン」という会社の内定をもらっている．

ことから，2 人とも先行する連鎖が収束していいことに志向していると考えられる．さらに，22 行目でＳが「やばかったよ」を言い，野田の状況を語り始めようとし，新たな連鎖を開始した．このことも先行する一連の連鎖が収束されたことの裏付けとなっている．

下記の断片(3)も断片(2)と同様の現象が見られる．断片(3)では，ＮとＳは働いた後の貯金の話をしている．

(3)【N&S_貯金】

01N：しかもぜったいさ:働き出したらお金めっちゃもらえるし
02S：うんそうだよ．
03 (0.7)
04S：今年は[借金出れば( )
05N： [す:げたまるらしいよ．
06 (0.6)
07S：でも:(0.4)あの:(0.3)アメフトのノハラはどんなに
08S：働いても全くたまらん¥[つってたよ¥．hehehehe
09N： [hh hehehehe hhhhhhh
10N：.hhhh 銀行だっけ?
11S：そう．
12 (.)
13N：なんで?
14 (0.3)
15S：SMBC住友証券とか(の中に)
16 (0.2)
17N：なんでたまんない[の．
18S： [わかんない．
19N：なんに使う?
20 (.)
21S：でも飲み会が多いじゃないやっぱこういうとこは．
22S：[お客さんとの飲み会だったり先輩との飲み会だったり
23N：[°うん°
24N：でも毎日飲み会だとして:(0.3)大人だと一万いっくら
25N：使うのかな．
26 (0.2)
27S：そんなに:?
28 (0.3)
29N：キャバクラとか行ったら[使うのかな
30S： [あ::::::
31 (0.6)
32N：[若いのにね出してもらえないんだね[あんまり．
33S：[でも( ) [ね:そう.おごって
34S：もらえないんだ意外と．
35 (1.1)
36->N：へ::::
37 (2.6)
38N：で(0.7)大正製薬行ったときに
39 (0.5)
40S：おごってもらえた?

Ｎは 01 と 05 行目で働き出したらお金がたまるという主張を言っている．これに対して，Ｓは 07-08 行目で友人ノハラの話を持ち出し，「反例」を出している．この「反例」について，Ｎはすぐに受け止めず，10 行目でまずノハラの就職先を確認し，確認が得られた後に 13 行目から一連の質問をし続けている(17，19，24-25 行目)．これらの質問を通して，ＮはＳからノハラについての情報を聞き出している．また，それらの質問を踏まえて，Ｎは 32 行目でこれまでのやりとりとは異なり，Ｓから何か新しい情報を聞き出すというより，「若いのにね出してもらえないんだねあんまり」と自身の理解を示している．また，この理解の発話は確認を求める形式になっており，33-34 行目でＳはＮが示した理解に確認を与えている．この確認のやりとりの後に，1.1 秒の間合いが生じ，その後「へー」が産出されている．このように，この断片からも「へー」の直前の隣接ペアとそれまでの一連の質問-答えの連鎖の違いが見られる．32 行目でＮは情報を要求するより，自身の理解を示すことから，07-08 行目でＳによって出された「反例」についてさらに追及しないことがわかる．また，その理解が確認される(33-34 行目)ことによって，それまでの一連の連鎖がもう収束していい位置に至っていることがわかる．

また，断片(2)と同様に一連の連鎖が収束に向かっていることは話者の身体的ふるまいからも確認できる．35 行目まではＮはＳの聞き手としてふるまい，視線をＳに向けたままであるが，35 行目で 2 回うなずいた後にすぐに宙に向け始める．また，Ｓは 30 行目から視線をずっとテーブルの虫の方に向けている．36，37 行目でＮとＳが特に視線を合わせないことからここで連鎖全体が収束してよい位置に至っていることに志向している．さらに，38 行目よりＮによって新たな話題が提供され，新たな連鎖が開始されたとみられる．このことからも 36 行までは一連の連鎖が収束されたことがわかる．

断片(2)，(3)を通して，一連の連鎖の開始部分で話者の間で意見のずれが生じ，続いてそのずれを解消するやりとりが行われ，最終的に「へー」によって連鎖を収束させることが確認できた．次の断片(4)は，断片の開始部分で意見のずれではなく，認識のずれが見られる例となる．断片(4)ではＣとＫはＫ(看護学類の学生)のアメリカ留学について話している．

(4)【N&S_留学】

01C：えっそのさんしゅうかん留学するのが
02C：[普通に勉強しに行くってこ[と?
03K：[うん [うんそう°よ°．
04 (1.0)
05C：看護の勉強するの?
06K：うん
07 (0.2)
08C：[え:::
09K：[向こうの病院で．
10 (0.2)
11C：へ:::::
12 (1.0)
13C：[全然勝手が違いそうなイメージなんやけど．
14K：[°うん°
15K：う:ん(.)たぶん全然違う気がする．
16->C：°へ:::°
17 (0.8)
18K：なんか(0.2)でもそれをすごい楽しみだし，今英語の勉強
19 (.)
20C：お:

01行目でCはKに留学について質問をしている．Cの質問に対して，Kは03行目で「うんそうよ」と端的に肯定的に答えている．CがKに留学についてさらに語らせようとし，05行目でより具体的な質問，「看護の勉強するの」を聞いた．その質問に対して，Kは06行目で「うん」と肯定的に答え，また09行目で続けて「向こうの病院で」とさらに情報を付け加えている．ここで興味深いのはCの08と11行目の反応が異なっていることである．「看護の勉強するの」の質問に対して肯定の答えが得られた後にCは8行目で「え:::」と受け止めている．それに対して，追加された「向こうの病院で」に対してCは11行目で「へ:::::」と8行目の反応と比べて驚いた反応を示している．この驚いた反応はCの表情からもわかる．08行目ではCはKをただ見つめながら「え:::」を産出しているが，11行目で目を大きくして表情も徐々に笑顔になっていった．Cがなぜここで異なる反応をするかについて述べておきたい．09行目で追加された「向こうの病院で」という情報はKが向こうの病院で「実習する」ことが含意される．Cにとって看護学類の学生であるKがアメリカに留学しに行って，そこで看護の勉強をすることは容易に想定されるが，向こうの病院で「実習する」ことは容易に想定されないことだと考えられる．それによって，Cはこの2か所で異なる反応をしていると思われる．1.0秒の間合いの後に13行目でCはそれまでのことを踏まえて「全然勝手が違いそうなイメージなんだやけど」と自身の理解を述べている．これに対して，Kは15行目で「うん，たぶん全然違う気がする」とCの理解に同意を示している．ここで注意したいのはKの答えの仕方である．Kは「たぶん」「気がする」のような不確定な言葉遣いを用いてこのトピックについてこれ以上具体的に語ろうとしていないことを示している．つまり，13行目より開始された隣接ペアがここで収束可能な位置に至っていることがわかる．そして，そのやりとりの直後に「へー」が産出されている．

この断片も確認しておくべきこととしては，断片(2)，(3)と同様に，16行目の「へー」の直前の隣接ペアは何か相手に情報を聞き出すやりとりではなく，話者が理解したことの確認のやりとりとなっている点である．つまり，それまでは話者の間で実質的に新たな情報の提示と受け止めがなされ，連鎖が続いているが，最終的にそこまでの質問と応答の連鎖を通して理解されたことの確認のやりとりとなると，話者はこれ以上連鎖を展開させないことがわかる．つまり，ここで一連の連鎖が収束に向かっていることが相互に認識可能となる．そのような位置に用いられる「へー」は断片(2)，(3)と同様に一連の連鎖の全体に反応を示している．また，それによって，一連の連鎖の全体が収束され，新たな連鎖に移行する準備が整えられる(18行目)．

4. まとめ

以上4つの断片を用いて，なぜ「へー」が連鎖全体への反応として理解可能なのかを分析してきた．断片(1)-(4)に共通してみられるのは「へー」の直前のやりとりはそれまでなされてきたことを踏まえて話者が理解したことについて確認するものである．そのやりとりから会話参加者がそれ以上連鎖を展開させないこと，つまり連鎖を収束させようとすることは分析を通して確認できた．「へー」はそのような連鎖全体が収束してよい位置に産出されている．また，分析を通して，話者はこのような特定な位置に「へー」を用いることによって，先行する連鎖全体をどのように理解し，どのように受け止めたかを示してその連鎖の特徴づけを行い，それによって，先行する連鎖を収束させ，次の新たな連鎖を開始することを可能にすることを明らかにした．

それでは，なぜ連鎖全体が収束可能な位置に至った後に他の形式ではなく，「へー」が用いられるだろうか．その理由として，連鎖全体の中に「へー」の産出者にとって何か想定外のことあるいは価値があることについてのやりとりが含まれていることが挙げられる．断片(1)では，語り手Sが語りの背景を説明する際に「テッシーの実家は九州にある(04-05行目)」の情報を提供し，受け手Nは「あそうなの」と意外性を表している．断片(2)と(3)では，断片の開始部分で「へー」の産出者が相手に反対の意見がされて，その後そのずれについてやりとりが行われている．また，断片(4)では，「へー」産出者が相手に予想外の情報(「向こうの病院で」)を提供され，それによって連鎖が続いている．このように，断片(1)-(4)で共通して「へー」の産出者にとって何か想定外あるいは価値のあることについてやりとりが行われていることが確認できる．この点について今後連鎖全体が完結する可能な位置に至った後に用いられる「へー」以外の形式との比較を通して検証していきたい．

参考文献

Iwasaki, Shoichi (1997). *The Northridge earthquake conversations: the floor structure and the 'loop' sequence in Japanese conversation*. Journal of Pragmatics 28, 661-693.

Mori, Junko (2006). *The workings of the Japanese token hee in informing sequences: An analysis of sequential context, turn shape, and prosody*. Journal of Pragmatics38, 1175-1205.

冨樫純一 (2005). 「へえ」「ほう」「ふーん」の意味論 大修館書店, 34(11), 22-29.

フィラー「まあ」の中心的機能は何か

―日常会話と大学講義の用例から―

柳澤浩哉（広島大学大学院教育学研究科）　馮文彦（広島大学大学院生）

1 先行研究の問題

1.1 先行研究

「まあ」に関する先行研究は複数あるが，ほとんどが“概言性”とでも呼ぶべき性質に「まあ」の中心的機能を求めている（注）．この性質は，「とりあえずの反応」「概言」「処理過程の曖昧性を標示」「但し書き的用法」など様々な言葉で呼ばれる．例えば，川上（1993）はこれを「概言」と呼び，次のように説明する．

「いろいろ問題はあるにしても，ここではひとまず大まかにひきくくって述べようとする」という姿勢・態度に関わるものである．

次は川上（1993）の例である．

（1）A　こういううるさい場所はお嫌いですか．

B　まあ，そうでもないんです．

（1）の B の「まあ」には，「どちらかと言えば」といった意が読み取れると川上（1993）は述べる．あるいは，大工原（2010）はこの性質を「但し書き的用法」と呼び，「内心のわだかまりにこだわりを残し，それを但し書きする用法」とまとめる．次は大工原（2010）の例である．

（2）リンゴの産地と言えば，まあ，青森ですね．

「話し手の内心のわだかまり（たとえば「細かいことを言えば，長野や岩手などの他の名産地もあるけど」）をほのめかす．」と説明されている．

1.2 “概言性”と相容れない「まあ」

発表者は大学講義（受講生 50 名以上，90 分×5 本）中の「まあ」「ま」を調査し，“概言性”を想定できない場所で「まあ」「ま」が頻繁に現れる事を確認した．（用例後の括弧は次の意味である．（話）：日常会話，（講）：大学講義，（作）：作例．日常会話と大学講義の用例は発表者が収取．ただし，収集先の説明がある場合は省略．）

（3）ましてや感想を述べてもまあアカデミック・ライティングにはならないね．

（3）はアカデミック・ライティングを解説する講義の中で，その条件を述べる重要な箇所である．“概言性”が排除される場所と考えられる．次も同じ講義の例である．やはり“概言性”は想定できない．

（4）その中でまあ，パラグラフの３要素をどういうふうにー，ま読者になんですね，分かりやすく書くか．

次の２例では正確な数字を提示する場所に「ま」が出現している．

（5）ですから，失業者が数百万，でーま 32 年あたりに 600 万人の失業者というふうなところ，ドイツは抱える事となっていきます．

（6）で，まあ当然，え高校で世界史を取った人は知っているものだろうと思いますけれども，ま 1871 年という年にドイツはですね，初めて国家統一をやります．

正確さが要求される場所での「まあ」は，“概言性”と真逆の用法である．

2 先行研究が取り上げていない「まあ」の用法

先行研究が触れていない，あるいは十分な分析のない「まあ」の用法をあげてみたい．

2.1 自慢・尊大あるいは謙遜

「まあ」は尊大な印象を与えることがある．

（7）そうですね．／ まあ，そうですね．（作）

「まあ」が常に尊大な印象を加える訳ではないが，「まあ，そうですね．」を＜下→上＞の人間関係において発する事は難しい．次の二つは自慢と取れる場所に出現した「まあ」である．

(8) 比較的にまあドイツ語が楽に話せるんですけど，ま，そういう目から改めて，自分の国っていうのは，（話）

（9）まあ，ゆくゆくは世界だけどね．（話）

その一方で，「まあ」が謙遜に現れる事も少なくない．

（10）A　専門は何ですか．

　　B　専門．まあ専門というか．とはまだ言えないんですけど，はい．（話）

2.2 例示の時

（11）で，例えばですね，えーとー，ま，そこでも日本人なのに日本語の事が分からない，（講）

（12）まあ例えば大多数の意見はこのようですので，でこのように（話）

2.3 メタ言語的な発言

それ以前の話をメタな立場で総括する次のような発言．

（13）まあ，（今の話は）冗談だけど．（作）

(13)は「まあ」のある方が自然であり，他のフィラーに置き換えると単なる言いよどみになってしまう．

3 「まあ」の中心的機能

3.1 話者は十分な情報を持っている

「まあ」の用法はあまりに多彩だが，発話者の立ち位置がほぼ全ての例文で共通している．それは，話題に関して十分な情報を持つという立場である．次は冨樫（2002）の例文とその説明である（下線は発表者）．

（14）A　太郎って，今何してるの？

　　B　あいつは，まあ，大学生やってるよ．

　　B は何かを隠してるのではないか（太郎は本当は大学生ではない，等）というニュアンスが「まあ」発話によって生じる．つまり，「大学生である」という情報に対して，「まあ」によって「曖昧性」を与えているのである．

ここで注目したいのは，B 発話の「曖昧性」が，「太郎についてよく知らないから曖昧に答えた」という解釈を生まない点である．この事実は「まあ」が「発話者の十分な情報」を表示する事の検証となるだろう．

3.2 メタな視点

先行研究が注目する“概言性”は，発話内容に対するある種の躊躇と捉える事ができる．「内心のわだかまり」（大工原 2010），「いろいろ問題はあるにしても，ここではひとまず」（川上 1993）など．躊躇の前提にあるのは，発話内容に対するメタな視点である．本発表ではこの性質に注目したい．

「まあ」は，「痛い！」のような反射的な発話，あるいは気付き・発見の発言などと共起できない．次は，川田（2007）の例文である（一部改変）．

（15）（机の上のパソコンを見て）??まあ，新しいパソコンを買いましたね．

（16）（卒業名簿を見たら，みちこの姓が変わっていた．）??まあ，みちこはもう結婚したらしい．

このような気づき・驚きを伝える発話では，驚き以外の「まあ」は共起できない．気づき・驚きの発言に，発話

内容をメタに見るゆとりはない．この事実は「まあ」がメタな視点を表示する事の検証となるだろう．

3.3 結論:「まあ」の中心的機能

(17)「まあ」の中心的機能は次の二点を示す事である．

1　発話者はメタな視点に立っている．

2　発話者は話題に関して十分な情報を持っている．

3.4 自慢と謙遜

自慢と謙遜は，十分な情報を持つ自分をメタな視点から評価する発言であり，仮説(17)に合致する．そして，自分に対する評価が厳しければ謙遜，甘ければ自慢となるが，両者は基本的に同じ行為のため境界は明確ではない．

（18）まあ，私なんて大した事ありませんよ．（作）

（18）は表面的には謙遜だが，中身が凄い事なら自慢に聞こえるだろう．なお，自慢や謙遜と無縁であっても，インタビューのような自分を語る場面では「まあ」「ま」が現れやすい．ちなみに，状態を曖昧に表現する「まあまあ」は，対象をメタに見ている事だけ語って評価結果を語らない表現から生まれた用法と考えられる．

3.5 和らげ効果

日常会話では逆接や譲歩の直前に立つ「まあ」がしばしばみられる．

（19）まあでもなんか．まあでもそう考えたら，日本語教師としてのあれはあんま関係ないなって．（話）

（20）独立して，まあ一応，司法行政領地全部あるから．（話）

これらの「まあ」には，逆接や譲歩を和らげる効果が感じられる．「和らげ効果」は，逆接・譲歩に限らず，日常会話では多くの「まあ」に感じられるもので，「まあ」を使用させる大きな要因と考えられる．「和らげ効果」に感じるのは，遠慮や照れに近い印象である．発言内容に対するメタな意識がこのような含意として固定化する点に，日本語表現の特質の一端が垣間見える．

3.6 中心的機能と“概言性”の関係

仮説（17）と典型的な“概言性”をつなぐために，次のように考えてみたい．「メタな視点」と「十分な情報」が組み合わさると発言者の優位性が際立つ．その結果，「まあ」が導く部分はただのコメントではなく，何かを教示するような含みを持つだろう．（「まあ」の尊大な含みはここから生まれると考えられる．）

一方，言葉によって教示する方法を考えてみよう．手続きの違いによって分ければ，教示方法は，直接提示，例示，隠喩的説明の三種類になる．そして，「まあ」の用法・含意は全て，この三パターのいずれかに対応すると考える事ができる．ごく簡単に言えば，「『まあ』は教示の含みを持つため，その用法も教示と同じパターンを取る」となるだろう．

3.6.1 隠喩的説明

典型的な“概言性”は隠喩的説明に対応する．

（21）彼は，まあ，優等生だな．（作）

（21）が伝えているのは，「彼」と「優等生」が隠喩的関係にある事，すなわち「彼」と「優等生」の間に類似関係が成立する事である．その結果，（19）は「彼は優等生に近いもの」といった意味で理解される．さらに，「まあ」が数字と組み合わされると，隠喩的説明の含意が，それに似た数字（近い数字）の意味となり，正確な数字と共起しにくくなると考えられる．次は冨樫（2002）の例である．

（22）?? 1980 円に消費税だから，まあ，2079 円だな．

3.6.2 例示

2.2 に示した「例示の時」がこれである事は言うまでもないが，大工原（2010）が「但し書き的用法」と名付けた典型例もここから説明できる．

（2）リンゴの産地と言えば，まあ，青森ですね．

例示とは複数候補から選択した結果であり，それが感じさせる印象を（2）に即して具体化すれば，「他の名産地もあるけど」といった「わだかまり」になるだろう．

3.6.3 直接提示

1.2 に示した“概言性”を想定できない「まあ」は，直接提示に当たる．

（5）ですから，失業者が数百万，でーま 32 年あたりに 600 万人の失業者というふうなところ，（後略）

ただし，直接教示に当たるのはこのような特殊な「まあ」だけではない．隠喩的説明と例示以外の「まあ」は全て直接提示に分類されるからである．

何かを教示する時，例示や隠喩的説明を使う事は稀である．「まあ」も同様で，収集した用例中で例示や隠喩的説明に分類できるのはごく僅かであった（ただし，中間的な用例も少なくなく，これらの境界は必ずしも明確ではない）．

4 「まあ」の特殊な用法

4.1 驚き

驚きの「まあ」は，十分な情報とメタな視点という含意が，「通常とは異なる評価基準で」といった印象を作る事で生まれた用法と考えられる．例えば，「まあ，えらい！」が，典型的な評価対象として幼児をイメージさせるのは，「通常とは異なる基準」と「えらい」の組み合わせが「幼児用の基準」を感じさせるためだろう．また，「まあ，きれい！」が，典型的使用者として上品で気取った夫人をイメージさせるのは，「通常とは異なる基準」が審美眼への自信を感じさせるためと思われる．

4.2 なだめ

「まあ，まあ・・・」という反復形を典型とする，なだめの「まあ」は，冷静な立場から興奮した人を落ち着かせる発話であり，メタな視点を強調して生まれた用法と考えられる．ただし，「まあ，まあ・・・」の後に新たな情報の来る事が期待されるため，メタな視点と十分な情報の両方を強調した用法とも考えられる．

5 今後の課題:「まあ」の発話要因

「まあ」の必要性は用法によって異なり，隠喩的説明では高いが，それ以外での発話は“任意”である．参考として，講義における「まあ」「ま」の数を報告したい．講義はメタな視点を使いながら進行するので「まあ」の出現条件を常に満たしているが，出現数は講義によって大きく異なる．調査した 5 つの講義における「まあ」「ま」を合わせた数は，176, 102, 90, 34, 8 であった（なお，「8」の講義は学生の話合いを含み，教師の話は 30 分程度である）．また，講義中に「まあ」が集中する場所があるものの，それらに共通する条件を見出すには至っていない．「まあ」を発話させる要因は重要な問題と思われるが，現段階では内面を「あからさまに」表現した結果としか言えない．今後の課題である．

注　調査した先行研究の中では，川田（2007）が“概言性”を使わない唯一の研究であり，話し手と聞き手の情報の共有という点から「まあ」を説明している．ただし，この仮説は大工原（2010）によって批判されている．

参考文献

川上恭子（1993）. 談話における「まあ」の用法と機能（1）: 応答型用法の分類 園田国文，14，69-78.

川上恭子（1994）. 談話における「まあ」の用法と機能（2）: 展開型用法の分類 園田国文，15，69-79.

川田拓也（2007）. 日本語談話における「まあ」の役割と機能について 言語学と日本語教育Ⅴ，175-192.

定延利之（2016）. コミュニケーションへの言語的接近　ひつじ書房

大工原勇人（2010）. 日本語教育におけるフィラーの指導のための基礎的研究:フィラーの定義と個々の形式の使い分けについて 神戸大学博士学位論文

冨樫純一（2002）. 談話標識「まあ」について 筑波日本語研究，7，15-31.

呼びかけの重ね用法出現の要因

―フィクションの話し言葉という可能性―

東出朋(釜慶大学校)

1. はじめに

他者に呼びかけ語を発する際，通常対称詞は1つで十分であると思われるが，対称詞が2つ連続して用いられる呼びかけの現象がある．

(1) a. 千代さんあんた，気ぃふれたのか？ 「フラガール」
b. 千代さん，気ぃふれたのか？
c. あんた，気ぃふれたのか？

(1a)の「千代さんあんた」のように異なる対称詞が2つ連続する形式を東出・松村(2016)は「重ね用法」と名付けた．(1a)の代わりに(1b)「千代さん」や(1c)「あんた」といった選択肢も可能であるはずで，この重ね用法の特徴と機能は検討に値する．

重ね用法における前項と後項は，言語外現実としては同一人物を指示しているが，その方法やその効果は異なっている．普通名詞である前項は，その対象が備えている(と話し手が考えている)何らかの性質や属性を記述しているのに対し，後項は，特に対象の性質を記述しているわけではなく，話し手が聞き手を「あんた」や「おまえ」といった語で指示することが可能であるという，話し手と聞き手の人間関係のみを反映している．以下，前項の普通名詞による対称詞を通常の名詞が対称詞として使用されているという意味で「対称名詞」と呼び，後項の「あんた」「おまえ」などをいわゆる「人称」を表すという意味で「対称人称詞」と呼ぶことにする．

興味深いことに，重ね用法は小説の会話文では頻繁に観察されるが，現実の話し言葉では非常に観察されにくいという事実がある．これは一見すると，フィクションの話し言葉かリアルな話し言葉か，という違いに還元できる．フィクションとリアルの話し言葉においてなぜ重ね用法の使用に差があるのか，について検討するのが本稿の目的である．

2. 関連先行研究

2.1 レジスターの違いと対称詞に関する先行研究

近年コーパスを利用した話し言葉の研究が盛んであるが，山崎(2016, 2017)はレジスター別の話し言葉の特徴を分析している．日本語の会話文の多様性，特に語彙的多様性をレジスターや位相の観点から分析した結果，人称代名詞の使用にもコーパス間の差異が観察され，小説会話には話し言葉に比べて特に多様な人称代名詞が出現するという(山崎2017)．その他，小説や歌詞を対象とした分析(郭2015，大出・松本・金子2013他)でも，話し言葉とは異なる対称人称詞の使用という特徴が見られる．

2.2 フィクションの話し言葉に関する先行研究

金水(2014)はフィクションの話し言葉について，自然な話し言葉に似ているところもあるが，似ていてもそれは作り手の意図に奉仕する形で利用されており，作品のために再構成された言語であると述べる．山口(1998, 2005, 2011)はフィクションにおけるコミュニケーションを「微視的／巨視的コミュニケーション」という用語で説明している．「微視的コミュニケーション」とは作品世界内の登場人物同士のやり取りを指し，作品という小世界内での伝達であるのに対し，「巨視的コミュニケーション」とは作品の小世界の枠を超えるもので，作者から読者(観客)への伝達である．

フィクションの話し言葉はリアルな話し言葉とは異なる．そして，フィクションには作品内における微視的コミュニケーションと，作品外に向けた巨視的コミュニケーションが存在する．フィクションの話し言葉とリアルな話し言葉の重ね用法を分析するにあたり，この観点は重要である．

3. 方法及びデータ

本稿は，フィクションの話し言葉として小説を，リアルな話し言葉として自然談話を分析する．また，コーパスから対称人称詞を抽出して量的な側面も示す．

4. 分析

4.1 フィクションの話し言葉における呼びかけ語分析

4.1.1 対称名詞の呼びかけ語

小説において，誰の誰に対する発話であるのか，読者は理解できなければならない．作者はそれを作品内で様々な工夫を凝らして実践している．多数の登場人物が同じ場面で話している場合，対称詞と地の文の表現が大いに読者の場面理解に貢献している．

【断片１】

[1]タケイちゃん怒っちゃいや，イシハラが慰めようとした．カネシロが立ち上がって，[2]でもまあ武器は武器だし，と言った．（中略）[3]おいマツヤマ，今なんて言った？　タケイは一昔前の歌手のようにからだを斜に構え，顎を左斜め上に向け，右手の人差し指でマツヤマを指した．（中略）[4]イシハラさん，マツヤマが引き金を引けば弾が出るって，聞いたようなことをぬかすんですが，それが間違いだって教えてやってもいいですか．そう聞かれて，イシハラが，[5]タケイ，耳元でそっと教えてついでにこそっとマツヤマの耳たぶ噛んだりするなよ，と言って大笑いした．

村上龍『半島を出よ　下』

この場面では 20 人の登場人物が話し合っている．地の文で誰が誰に言っているのか示される（点線）と同時に，セリフ内に呼びかけ語が配置されている（下線）ため，読者は誰の誰に対する発話なのか理解できる．

4.1.2 対称名詞と対称人称詞の比較

対称名詞と対称人称詞を両方用いることができる人間関係の場合，そこには使い分けがある．

【断片２】

[1]「周作，ついに武士になるか！」（中略）[2]「周作，のめ，祝い酒だ」（中略）[3]「しかしだぜ，周作．サンピンでも侍は侍だ，侍には違いない」「そりゃ，そうですけど」[4]「馬鹿だなお前，晴れて苗字がつくんだ．そこがめでてえと言うんだ．苗字がよ」（中略）「考えてみろ．おれたち一家は千葉姓を蔭では名乗っている．しかし，出るところへ出て身分を問われてみりゃただの百姓だ．庄屋の手もとにある人別帳（戸籍）には，おれはタダの幸右衛門，お前はタダの周作としか書かれていない．[5]それはお前，おれは松戸にきてから，馬医者稼業の都合上，もっともらしく浦山寿貞と名乗ってはおるさ．しかしこれもお奉行所で通用する名前じゃねえ．役者や浮世絵師と同様，芸名として姓をお上のお目こぼしで私称させてもらっているだけで，人別には幸右衛門，これっきりだよ．千葉幸右衛門じゃない．そこを考えろ，お前は」

司馬遼太郎『北斗の人』

身分が低くても武士だからいいと話している間は「周作」と対称名詞で呼びかけている（1～3）が，その後息子が納得しない様子を見て，「馬鹿だな」というセリフを機に「お前」に代わり（4～5），以降息子を説き伏せる部分では対称人称詞が用いられている．「周作」から「お前」への変更によって父の感情の変化が読者に伝達されることになる．

4.1.3 重ね用法との比較

対称人称詞が使える人間関係では，呼びかけ語として，対称名詞と対称人称詞が連続する重ね用法も選択肢に含まれる．

【断片３】

[1]「田沢，お前，本気で読者を泣かせたくて泣かせを書いたことがあるか」何かを言い掛けて，田沢は黙した．（中略）「随分と達観してやがるんだな．らしくねえ」[2]「田沢」「何だ？」「俺はいつでも下りる．この事故やりたかったら上に言え」田沢は腕を組み，悠木の目を見つめた．

横山秀夫『クライマーズ・ハイ』

悠木と田沢の口論の場面である．1 では，田沢に対する反論の軽々しさや誰かに八つ当たりしたい苛立ちなど複雑な感情を背景に重ね用法が出現する．逆に言えば，重ね用法であるからこそ悠木が複雑な感情を抱いていることが分かるともいえる．2 では，泣かせ記事を書く意義からデスクを譲ることへとトピックが変わっている．「（デスクから）いつでも下りる」という表現からは悠木の投げやりな感情が伝わり，そこでは対称名詞が用いられている．

【断片４】

「なぜそんな勝手な真似しやがった！」「落とせない現場写真がありました」[1]「お前，自分が何をしでかしたかわかってんのか」すごみながら，暮坂は懐から四つ折りにした用紙を取り出してベッドの上に手荒く開いた．（中略）「迂

闊でした」[2]「謝って済むか．取り返しがつかねんだよ．お前，いったいどう責任取る気だ」（中略）[3]「なんだそのツラは？　おい，悠木．お前全五段広告が幾らか知ってるのか．」　横山秀夫『クライマーズ・ハイ』

暮坂が悠木に勝手な変更を叱責している場面である．1 と 2 で暮坂は激怒している．憎しみの感情を含む動詞の表現や地の文による感情の表現があり（点線），そこでは対称人称詞「お前」が用いられている．一方 3 は，責めてはいるものの，損害金額という話題を持ち出して責め方が変わっており，重ね用法が用いられている．3 では 1，2 同様に対称人称詞「お前」を用いてもいいわけだが，重ね用法によって話し手の感情が 1，2 とは異なることを伝達している．

4.1.4　対称人称詞を用いることの効果

日本語では，量的にも質的にも使用の一般性という点において対称名詞が中心で，対称人称詞は周辺的である（小林 1997；鈴木 1973；田窪 1997）．フィクションでも対称人称詞ではなく対称名詞が基本である．しかしフィクションでは，呼びかけ語に限らず文内の言及としても対称人称詞が頻繁に観察される．対称人称詞の使用は，対称名詞では表せない感情を伝えている．

小説では登場人物たちの複雑な感情が読者に伝達されなければならない．しかし，フィクションの話し言葉には，リアルな話し言葉と異なりパラ言語的情報及びメタ言語的情報がないため，話し手の細かな感情を全て文章によって表現しなければならない．（断片省略）

悠木の等々力に対する対称詞は，対称名詞「部長」から，口論が激しくなるにつれて対称人称詞「あんた」へ変化した．等々力のほうが立場が上であり「あんた」は本来使用できないが，「あんた」は悠木の強い怒りの感情から用いられている．一方，等々力の悠木に対する対称詞は，いずれも強い感情を含んでいる表現が用いられている．相手を馬鹿にする語「小僧」，強い怒りの感情を含む対称人称詞「貴様」がある．「悠木ィ」という対称名詞は，「ィ」という表現が怒りの音調というパラ言語的情報を示している．対称詞以外の様々なセリフや地の文の表現も話し手が相手に対して怒っているという強い感情を伝えている．「悠木ィ」を発話するときの等々力のメタ言語的情報は「等々力はテーブルに拳を落とした」と地の文で表現される．つまり，パラ言語的・メタ言語的情報を欠く小説という媒体では，その不足を表現によって補っている．地の文による解説やセリフに含まれる強い感情表現である．そして，セリフ中に見られる表現の一つには，対称人称詞の選択も含まれる．

表 1．悠木と等々力の対称詞の種類

	悠木→等々力	等々力→悠木	その他の感情を伝える表現
1	部長		無にした，羨み，僻んだ
2	部長		大久保連赤がすべて
3	あんた		ゴチャゴチャ言った
5	あんた		
7	そっち		聞け！
8		小僧	吠えるな
9	あんた		大久保連赤が可愛い
10		悠木ィ	（テーブルに拳を落とした）
11		悠木ィ	しやがれ！
12		貴様	貶めやがって，そんな奴，やめろ！，去れ！

パラ言語的・メタ言語的情報の不足を補うもう一つの手段は，表記のバリエーションである．日本語はひらがな，かたかな，漢字という表記のバリエーションによる書き分けが可能であり，作者はその選択によって語が持つ「硬軟」の印象を操作している（佐藤 2015）．《おまえ》について BCCWJ 内で検索すると，バリエーションとして「おまえ」「お前」「オマエ」「御前」，音のバリエーションも含めると「おめえ」「オメエ」「オメー」があることが分かる．

(2)　俺は，将来これで食っていけるように野球をしているんだ．おまえ，うちの家が貧乏だってことわかるだろ？　グローブだって高いんだ．　東野圭吾『魔球』

(3)　「大丈夫だ．テメー相手にそんなに面倒な話はしねえから安心しろ．オマエ，スーフリって知ってるか．新聞とかテレビとかで騒がれてるだろ」　山崎マキコ『東京 19 歳の物語』

作者は，セリフの発話者のイメージを熟慮した上で当該の表記形式を選択している．このような，対称人称詞の表記による情報伝達は，作者から読者へ向けた巨視的コミュニケーションに含まれると考えられる．

対称名詞の使用は，誰の誰に対する発話か読者が分かりやすくなる．しかし対称名詞では表現できない登場人物の感情を表すために，作者は対称人称詞も使い分けている．その延長線上に，対称名詞と対称人称詞による重ね用法が出現すると考える．

4.2　リアルな話し言葉における重ね用法の分析

4.2.1　リアルな話し言葉における重ね用法の有標性

自然談話において，（呼びかけ用法に限らず）対称人称詞の使用に人間関係や場面の制約がある中で，呼びかけ語の重

ね用法という形式は極めて有標である．リアルな話し言葉の書き起こしを含むコーパスのうち，形態素検索が可能な名大コーパス「ひまわり」を利用して，対称人称詞（言及用法及び呼びかけ用法）を抽出した．その結果，793 の対称人称詞が抽出されたが，重ね用法（呼びかけ用法）は 1 件しか見つからなかった．また，入手可能なその他の自然談話データからは 2 件観察された．一方，フィクションにおける話し言葉では多数観察される．つまり，重ね用法はフィクションにおける話し言葉の特徴である．リアルな話し言葉における重ね用法は，フィクションにおける話し言葉の特徴を引き継いでいるものであると想定できる．

4.2.2　リアルな話し言葉における重ね用法

リアルな話し言葉において重ね用法が出現するのは極めてまれである．その数少ない重ね用法は，引用節内でしか観察されない．自分もしくは自分以外の人の発話を引用する際，元々の発話とまったく同じものを再現することは（ほぼ）不可能である．

【断片５】

M023：でも変なこと覚えとるねー.

M023：＜笑い＞ほんっとに変なこと覚えとるわ，あの人.

→M023：M023，お前ああやって言ったじゃねえか，それ忘れてくださいよっていうのを引っ張り出してくる.

F128：うそー.

F128：＜笑い＞　　名大コーパス≪data087≫

重ね用法が引用部分，つまり他者の発話のスタートである．「M023，お前ああやって言ったじゃねえか」における「M023，お前」は，他者（この場合「あの人」）が M023 に言った発話だということを示している．また，「ああやって言ったじゃねえか」という文末表現が今までの M023 の発話スタイル「覚えとるねー」「覚えとるわ」とは異なることからも，その部分が「あの人」の発話内容であることが分かる．続く「それ忘れてくださいよっていうのを引っ張り出してくる」の「それ忘れてくださいよ」は，M023 自身の発話が直接引用として提示されている．「てくださいよ」という文末表現が直前の「言ったじゃねえか」と対応して，「あの人」と M023 のおもしろい掛け合いとなっている．重ね用法からスタートする引用部分は，忘れてほしいような変なことを「引っ張り出してくる」という「あの人」について，M023 がパフォーマンス的に述べている．直後の F128 の笑いからも，→の部分がおもしろいものとして受け止められたことが分かる．

リアルな話し言葉では，重ね用法は引用部分に出現する．重ね用法によって，誰の誰に対する発話か，目の前の聞き手に分かりやすくなる．また，引用は，今ここという次元から離れた発話で，話し手によるある種の創作である．つまり，フィクション的要素がある．したがって，フィクション的要素を持つリアルな話し言葉の引用内部では，フィクションの話し言葉に見られるような重ね用法が出現する余地がある．リアルな話し言葉における重ね用法は，フィクション的な発話として当該発話を聞き手に提示していると考える．

5. 終わりに

フィクションの話し言葉では，対称名詞は読者の発話理解を助け，対称人称詞は登場人物の感情を読者に伝達している．重ね用法も，対称名詞単独，対称人称詞単独とは異なる感情を持つ形式として使い分けられている．また，パラ言語的・メタ言語的情報を伝達する手段として，対称人称詞とその表記が効果的に利用されている．フィクションの話し言葉の特徴である重ね用法は，リアルな話し言葉において，フィクション的要素として提示される．

参考文献　（一部）

東出朋・松村瑞子（2016）．呼びかけ語の二人称対称人称詞―談話における特殊な機能― 言語文化論究，37，37-50.

金水敏（2014）．フィクションの話し言葉について 役割語を中心に 石黒圭・橋本行洋（編） 話し言葉と書き言葉の接点，1-11，ひつじ書房

佐藤栄作（2015）．文字から来る「硬軟」の印象：特集 ことばの「硬さ」「やわらかさ」 日本語学，34（1），46-57.

鈴木孝夫（1973）．ことばと文化 岩波書店

田窪行則（1997）．日本語の人称表現 田窪行則（編）視点と言語行動，13-44，くろしお出版

山口治彦（2011）．役割語のエコロジー―他人キャラとコンテクストの関係― 金水敏（編）役割語研究の展開，27-47，くろしお出版

山崎誠（2016）．レジスターの違いによる話し言葉の変容」シンポジウム「日常会話コーパス」Ⅰの配布資料

韓国語の尊敬形‘-si-’の不使用状況に関する一考察
－ドラマの台詞をデータとして－

金アラン（上智大学）

1. はじめに

韓国語の尊敬形‘-시-’(以下‘-si-’)は主体敬語を実現する形である(例：만나다(mannata) 会う，만나시다(manna-si-ta) お会いになる)．日本語にも「お＋連用形＋になる」や「～られる」のような尊敬形が存在するため，日韓語の尊敬語は一見似通ったものに思われる．しかし，使用様相を比較してみると，日本語の尊敬形より韓国語の尊敬形‘-si-’の方が使用範囲が広い[1]．例えば，日本語では大学1年生が2年生の先輩に尊敬形を使う状況はあまり見られないが，韓国語では1歳上の先輩に対しても尊敬形が普通に使われ，次のような発話がごく自然である．

(1) 선배, 그 책 읽으셨어요?「先輩，その本お読みになりましたか?」
senpay, ku chayk ilku-sy-esseyo?

このような‘-si-’の使い方は，上下関係が厳しい韓国社会を反映しているようにも見えるが，実際には韓国語でもすべての発話に‘-si-’が用いられるわけではなく，同じ相手に対して‘-si-’を使ったり使わなかったりする．‘-si-’に関するこれまでの研究では，‘-si-’の機能や尊待する対象に焦点が当てられ，いつ，‘-si-’が使われないかについては言及されてこなかった．普段‘-si-’を使う相手に‘-si-’を使わない状況はどのような状況だろうか．本発表では，韓国のドラマをデータとし，どのような状況で‘-si-’が使用されないかを分析した結果を報告する．

2. 先行研究

話し手は主体との社会的関係や心理的関係によって，尊敬形を使用するかどうかを決める．年齢や社会的地位，性別，親密度など，様々な要素が尊敬形の使用に影響を与えるが，どの要素がどの程度，影響を与えるかはその時々で異なる(남기심・고영근，1993)．

尊敬形‘-si-’の機能や用法は変化し続け，近年では‘-si-’が聞き手敬語としても機能するようになり，非文と言える‘-si-’の使用が指摘されている(이래호，2012；채춘옥，2013；오현아，2014；김영일，2016)．‘-si-’が聞き手敬語を実現する例を(2)に示す．

(2) *주문하신 음료 나오셨습니다.「ご注文された飲み物，*出ていらっしゃいました.」(김영일 2016:64)
cwumwunha-si-n umlyo nao-sy-esssupnita.

이래호(2012)は(2)のような例について，主にサービス業で見られるとしながら，いつも使っている丁寧体のhapnita 体やhayyo 体だけでは丁寧さの不足を感じ，主体敬語の‘-si-’を用いて丁寧度を高めようとしていると述べた．このような‘-si-’の機能変化による過剰使用に関する議論は活発に行われている．一方で，尊敬形の使用が当然である相手との会話における‘-si-’の不使用には関心が向けられてこなかった．同一人物に対する

[1] 尊敬形‘-si-’は主体である人物だけでなく，主体の身体部分，生活の必須的な条件となるもの，個人的な所有物を表す名詞にもつくことができ，このような敬語は間接敬語と呼ばれる．
例) 할아버지는 수염이 많으시다.「お爺さんは髭が多くていらっしゃる.」(남기심・고영근 1993:336)
halapecinun swuyemi manhu-si-ta.

尊敬形の使用・不使用を考えた場合，‘-si-’を使用して立場や関係性を明確化し，‘-si-’を使用しないことで親近感を表すことが容易に予想されるためであろう．普段，‘-si-’を使用して話す相手に対して，‘-si-’を使用しないのは，親近感の表れだけを意味するのだろうか．本発表では韓国のドラマをデータとし，どのような状況で‘-si-’が用いられないのかを分析する．

3. 分析

分析にあたって使用したデータは，2016 年に韓国で放送された『Cheese in the trap』(全 16 話，約 1,019 分)である．このドラマは大学が背景となっており，若い世代の発話が多く収集できた．丁寧体を使用する相手に対して‘-si-’が使用されなかった発話を抽出した結果，いくつかのタイプに分けることができた．

まず，相手を非難する時や相手に対して怒りを表す時に‘-si-’が使用されない場合があった．例を見て確認しよう．(3)は食堂のオーナー(A)とアルバイト生(B)の会話である．A はお店のチラシに B の写真を載せているが，B が写真を撮り直したいと言うと，すでにモデル代としてご飯を奢ったから，肖像権は自分にあると言い張っている．それに対して B がジャージャー麺一皿でそれはひどいと怒っている場面である．

(3) A: 난 분명히 탕수육 시키라고 말했다? 「私は酢豚注文しろと言ったよ?」
nan pwunmyenghi thangswuywuk sikhilako malhayssta?
B: 아, 시키면 때릴 것처럼 노려봤잖아요!
a, sikhimyen ttayli-φ[2]-l keschelem nolyepw-φ-asscanhayo!
「あ，注文しようとしたら殴りそうな感じで睨んでいたじゃないですか！」 (『Cheese in the trap』11 話)

A は B が働くお店のオーナーであり，年長者であるため，丁寧な言い方をすべき相手である．実際，B は A に対して普段は尊敬形を使用しており，この会話の開始部も「오셨어요?(o-sy-sseyo? いらっしゃいましたか?)」から始まっている．B の発話を分析すると，때리다(ttaylita, 殴る)の主体も노려보다(nolyepota, 睨む)の主体も聞き手であるが，ここでは尊敬形‘-si-’が使用されていない．B は自分の要求(=チラシに載せる写真を撮り直したい)を受け入れてくれない A に不満をぶつけており，A の過去の行動を非難している．この例では下位者の B が上位者の A に自分の怒りをより明示的に表すために‘-si-’を使用していないと考えられる．

次の例も怒りを表現した例である。(4)は同じ学科の後輩(A)と先輩(B)の会話である．B は学科の食事会の会費を横領し，グループ課題にも全く協力せず，いつも周りの人に助けてもらおうとする先輩である．その先輩が今回は A が持っていた卒業試験の過去の問題を盗み，それに気づいた A が怒っている場面である．

(4) A: 선배, 어떻게… 창피하지도 않아요? 「先輩，どうして…恥ずかしくもないですか。」
senpay, ettehkey…changphiha-φ-cito anh-φ-ayo?
B: 그러길래 니가 순순히 먼저 보여 줬음 되는 거 아냐! [中略] 너야말로 나 엿 먹인 게 한두 번이야?
kulekillay nika swunswunhi mence poye cwessum toynun ke anya! neyamallo na yes mekin key hantwu peniya?
「だからお前が先におとなしく見せてくれればよかったんだよ! お前こそ俺を何回も困らせたじゃん!」
A: …과비 횡령이랑 팀플, 그거 선배가 잘못한 거잖아요. 맨날 남 탓만 하고 자긴
kwapi hoynglyengilang thimpul, kuke senpayka calmosha-φ-n kecanhayo. maynnal namthasman ha-φ-ko cakin
피해자인 척하는데 정작 모두에게 피해 주는 건 선배예요.
phihaycai-φ-n chekha-φ-nuntey cengcak motwueykey phihaycwu-φ-nun ken senpay-φ-yeyo. (『Cheese in the trap』14 話)
「…学科費の横領やグループ課題の件，あれ悪いのは先輩だったじゃないですか。いつも人のせいにして自分は被害者のふりするけど，実はみんなに被害を与えているのは先輩なんですよ！」

A の発話を見ると，창피하다(changphihata, 恥ずかしい), 잘못하다(calmoshata, 過ちを犯す), 남 탓하다(nam thashata, 人のせいにする), 피해자인 척하다(phihaycain chekhata, 被害者のふりをする), 피해 주다(phihay

[2] φ は‘-si-’が生起し得る位置に生起していないことを表す.

cwuta, 被害を与える)の主体はすべて先輩の B である．しかし，尊敬形‘−si−’は用いられていない．最初の発話である「창피하지도 않아요?」は，「창피하시지도 않으세요?(changphiha-si-cito anhu-se-yyo?)」のように 2 か所に尊敬形を使うことはもちろん，「창피하시지도 않아요?(changphiha-si-cito anhayyo?)」や「창피하지도 않으세요?(changphihacito anhu-se-yyo?)」のように 1 か所にだけ尊敬形を使うことも可能である[3]．しかし，この例ではどの位置にも‘−si−’が生起していない．また，最後の선배예요も선배세요(senpay-se-yyo, 先輩でいらっしゃいます)という表現が可能であるが，同じく‘−si−’は使用されていない．

また，もう一つの特徴として，このタイプの発話には修辞疑問文が多く見られたことが挙げられる．例えば，(3)の노려봤잖아요，(4)の창피하지도 않아요?，그거 선배가 잘못한 거잖아요は相手の返事を求める疑問文ではなく，それぞれ「睨んでいたから怖くて注文できなかった」，「恥を知れ」，「私のせいではなく，先輩が悪い」という意味を表している．

次に，‘−si−’が使われないことが確認できたのは，相手に何かを要求する行為要求文であり，大きく二つに分けられる．一つ目は，次のように負担度の低い行為を要求する場合である．

(5) [幼い頃の集合写真を指差しながら] 여기서 저 찾아 봐요. 「ここから私を探してみてください.」
yekise ce chaca pw-φ-ayo. (『Cheese in the trap』6 話)

写真を見てそこから知り合いを見つけるのは，負担が大きい行動ではない．類似した例としては，손 좀 줘 봐요(ちょっと手を出してください・見せてください)などが見られた．

二つ目は，相手のためを思って，ある行為を要求する場合である．次に見る(6)は，同じ学科の後輩が先輩に発話したもので，食堂でお肉ばかり食べている先輩に体のことを考えて野菜を食べるように言っている．このタイプの例は相手への負担度が高いにもかかわらず‘−si−’が使用されなかった．

(6) 고기 좀 그만 먹고 야채 좀 먹어요. 야채가 몸에 좋대요. (『Cheese in the trap』12 話)
koki com kuman mek(φ)[4]ko yachay com mek(φ)eyo. yachayka momey cogtayyo.
「肉ばかり食べないで野菜食べてください．野菜が体にいいんですって.」

話し手は，肉を食べるという行動を中断することと，野菜を食べるという別の行動への移行の両方を要求しているため，相手に与える負担度が高いと言える．‘−si−’の不使用は FTA の補償が行なわれていない点で望ましくないが，心的距離を縮められるという効果は期待できる．

次の例は，手を怪我して心配している患者に対する医者の発話である．

(7) 너무 걱정하지 마요[5]. 재수술하면 금방 원래대로 돌아올 테니까. (『Cheese in the trap』15 話)
nemwu kekcengha-φ-ci ma-φ-yo. cayswuswulha-φ-myen kumpang wenlaytaylo tolaoltheynikka.
「あまり心配しないでください．再手術すればすぐ元に戻りますから.」

行為要求文は他の文に比べて，相手に与える負担度が高い．そのため，できるだけ丁寧な言い方をした方が望ましいと思われるが，相手の健康を考えての助言(例 6)や，不安がっている相手を安心させるための発話(例 7)は，その行為自体が相手のためのことであり，「窓を閉めてください」のような行為要求文とは異なる．そのため，‘−si−’の不使用が無礼に聞こえたり，不快感を与えたりしない．

最後に，相手に敬意を表す時間的な余裕や心理的な余裕がない発話でも尊敬形が用いられない場合があった．(8)は警察官が犯人を捕まえるために走り出す直前に，一緒にいた市民に発話したものである．

---

[3] ただし「창피하시지도 않아요?」より「창피하지도 않으세요?」の方が自然である．
[4] 먹다の尊敬語は드시다であり，먹고と먹어요を尊敬形にすると，それぞれ드시고,드세요になる．
[5] 否定文であるため，(4)の창피하지도 않아요と同様に，尊敬形が生起し得るのは 2 か所であり，最も丁寧な言い方は걱정하시지 마세요(kekcengha-si-ci ma-se-yyo,ご心配なさらないでください)である．

(8) 여기 꼼짝 말고 있어요. 「ここから動かないでください.」(『Cheese in the trap』7 話)
yeki kkomccak malko iss(φ)[6]-eyo.

普段は丁寧な言葉遣いと態度で市民に接している警察官が, 容疑者を目の前にしている緊迫した場面である. 市民を危険にさらさないため, ついて来ないように注意しているが, 走り出す直前の発話であるため, 時間的余裕がなく, 尊敬形をつけずに発話している.

次の例は, 新学期の歓迎会で, 復学した先輩に話しかけている後輩がお酒をこぼしてしまい, そのお酒が先輩にかかってしまった場面である.

(9) 저 기억 안 나세요? …입학할 때 한 번 뵀었는데 바로 군대 가셔서… <お酒をこぼす>선배, 괜찮아요?
ce kiek an na-se-yyo? iphakhal ttay han pen pwayssessnuntey palo kwuntay ka-sy-ese… senpay, kwaynchah-φ-ayo?
「私のこと覚えていらっしゃらないですか? 入学した時, 一度お目にかかったのですが, すぐ軍隊に行かれて… <お酒をこぼす>先輩, 大丈夫ですか?」 (『Cheese in the trap』1 話)

前の発話を見ると, 기억 안 나세요?(kiek an na-se-yyo?)と바로 군대 가셔서(palo kwuntay ka-sy-ese)のように尊敬形'-si-'が用いられているが, 最後の発話は'-si-'がついた괜찮으세요?(kwaynchanhu-se-yyo?, 大丈夫でいらっしゃいますか)ではなく, '-si-'がついていない形が用いられている. 相手にお酒をかけてしまった状況であるため, より丁寧な言い方が望ましいと考えられるが, 相手に迷惑をかけてしまったという当惑感で心理的な余裕がなく, そのため尊敬形をつけずに発話していると考えられる.

4. おわりに

本発表では, どのような状況で尊敬形が使用されないかを分析した結果について述べた. 分析の結果, (i)相手を非難する時や相手に対して怒りを表す時, (ii)行為要求文を用いているが, 相手への負担度が低い時や相手のことを考えてその行為を要求する時, (iii)相手に対する敬意を表す時間的な余裕や心理的な余裕がない時に'-si-'が用いられない場合があることが分かった. また, (i)に関しては返答を求めない修辞疑問文による発話が多いことも指摘した.

上下関係が厳しい間柄や親密度が低い関係では, 上記のような場面でも尊敬形'-si-'が用いられる可能性が高い. 相手に不満があっても表明しないことも十分考えられる. 本発表では, 年齢差が少なく, 親密度が高くなれば非丁寧体の使用も許される大学生の発話をデータとしたが, 社会人の発話を分析すると異なる結果が見られる可能性がある. 今後は大学生の発話と社会人の発話がどのような共通点と相違点を見せるかについて明らかにしていきたいと考える. 多様な人間関係と様々な場面における発話を収集し, 今回の結果を補完していきたいと考えている.

謝辞 本研究はJSPS 科研費 17K3449 の助成を受けたものである.

参考文献

채춘옥 (2013). 선어말 어미 [-시-]에 대한 소고(先語末語尾[-si-]に関する小考) 한국학논총(韓国学論叢), **39**, 411-443.
김영일 (2016). 청자 존대'-시-'의 종합적 검토(聞き手尊待'-si-'の総合的検討) 언어과학(言語科学), **23**(1), 53-87
남기심・고영근 (1993). 표준국어문법론(標準国語文法論) 탑출판사
이래호 (2012). 선어말 어미 -시-의 청자존대 기능에 대한 고찰(先語末語尾-si-の聞き手尊待機能に関する考察) 언어학연구(言語学研究), **23**, 147-166.
오현아 (2014). 선어말어미 -시-의 문법 교육 내용 검토 : -시-의 청자 높임 기능을 중심으로(先語末語尾-si-の文法教育内容検討 : -si-の聞き手敬語機能を中心に) 인문과학연구(人文科学研究), **40**, 157-180

[6] 있다の尊敬語は계시다であり, 있어요を尊敬形にすると, 계세요になる.

「身振り」に男女差はあるのか？

－中国語母語話者の不同意表明を例にして－

趙東玲（金沢大学大学院）

1. はじめに

意見交換場面に関する考察は言語行動を焦点とするものが多い．しかし，さまざまな対面コミュニケーションについて理解を深めるためには，そこで重要な役割を担っているノンバーバル行動の究明が必要であることも多くの研究に指摘されている（伊藤，1991；片桐，1998）．意見交換場面に関する対照研究では，日米・日独間のノンバーバル行動の特徴を明らかする研究が見られる（上田，2008；法，2011）が，日・中母語話者の特徴を比較した研究の殆どはまだ言語行動にとどまっている．王(2013)，楊(2009)，趙(2018)はそれぞれ考察対象が異なるが，多くの場面において，日本語母語話者は暗示的または間接的な言い方を多く使用し意見を述べるが，中国語母語話者はむしろ明示的または直接的な言い方で意見を述べる傾向がこれらの研究によって明らかにされた．そのため，言語行動だけではなく，それに伴って表出されるノンバーバル行動は，意見交換場面の日・中言語対照分析の新たな切り口になるのではないかと思われる．

意見交換を行う会話において，特に不同意を表明する際に，姿勢・視線・笑いなどのノンバーバル行動は，相手の主張に対する共感や反発，もしくは話者自身の主張や意志などの伝達における話者の感情や態度などが，表に明確に現れない面において，重要な機能を担っている可能性が否定できない．例えば，相手が発話している時，聞き手は姿勢を後傾し，或いは視線を話者の方から離すなどは相手の発話に対して同意しない態度，或いは相手に対する不満を暗示的に表現していると見なされるだろう．また，笑いは，不同意の表明による緊張状態を緩和する機能を持つと予想できる．したがって，こういったノンバーバル行動が不同意表明というコミュニケーションにおいて相手との対人距離をどのように調節しているのかを明らかにすることは有意義なことであろう．

そこで，本研究では手の動きを取り上げ，相手への不同意や話者自身の主張などが言語で表明される際，どのような形の手の動きが伴うのか，また，それらはどのような機能を持ちうるのかについて考察を試みる．これによって，中国語母語話者の不同意表明コミュニケーションにおける手の動きの特徴を明らかにし，今後日本語母語話者との対照研究を行うための基礎資料の作成を目指す．

2. 背景

同一の身ぶりであったとしても，コミュニケーション上，言語・人間関係・場面によって異なる役割を演じていると指摘している研究としてはザトラウスキー(2012)が挙げられる．ザトラウスキー(2012)は，日米の女子大学生による雑談を比較対照し，人を指す場合の指示的な身振りと配慮との関係について考察を行った．その結果，第一に，相手に情報要求や同意要求を行う際と，同感･知識の共有を示す際に，日米ともに，手や人差し指を相手のほうへ向ける指示的な身振りをする．しかし，情報要求や同意要求を行う際に行われた身振りは日米では違う機能を持っている．日本語の場合，発話の主語である相手や相手と関連する人物についてはその名前が言語化されていないことが多いため，その身振りによって相手や相手と関連する人物を指すという機能をもつことになるが，英語では，主語が言語化されているため，相手を指し示すよりも相手に働きかけ，応答を要求するために用いられる．第二に，日本語による会話では，手の平下で自分の意見を強める例があり，英語による会話では，手の平立てで相手の注目・同感・知識の共有を求め，要求が強ければ強いほど高い位置を指す，と指摘している．

ザトラウスキー(2012)が取り上げた雑談と異なり，本稿は主張を表明したり，相手の意見に不同意を表明したりする会話を分析対象とし，話者の発話の際に，どのような手の動きがなされうるかを探ることを目的とし，以下の研究課題を設定する．

(1)不同意の強さを強調する機能を持つ顕著なノンバーバル行動は存在するのか．

(2)そのようなノンバーバル行動が存在すると認定できれば，その表出は性別上，違いが存在するのか．

3. 方法

3.1 分析資料

調査は,2018 年 3 月に実施した．対象者は,中国の華北地域にあるＴ大学の 20 代の大学生（2 人一組の同性の友人同士 26 組(男女それぞれ 13 組)）である．各調査協力者 2 名は四角いテーブルの角を挟んで着座させ,ロールプレイの形式による合意形成を目的とした意見交換会話をしてもらった．音声はボイスレコーダーを用い,映像(調査協力者の上半身)はデジタルカメラで撮影した.調査協力者2名のどちらの真正面に三脚で固定されたビデオカメラが配置されている.会話は,災害等に巻き込まれた難民の子供たちに何かを寄付する場合，写真で提示された 10 個種の品物(飲み物，レトルト食品,衣類，書籍，文房具，玩具，布団，薬品，衛生用品，テント)のうち，必要だと思う 3 種を会話前に調査協力者 2 人にそれぞれ事前に選んでおいて，その後 2 人で話し合い，最終的に必要だと思うものを 3 種に限定してもらうと設定した．また，2 人がそれぞれ事前に決めておいた品物が写った写真も，選んでいない写真も，机の上に置いたまま会話を開始するよう指示した.

その結果，女性同士(CNF)と男性同士(CNM)の会話,それぞれ 120 分 7 秒と 113 分 42 秒のデータが得られた.

3.2 分析手法

本稿では，言語行動の分析に「ターン」と「発話」を，手の動きというノンバーバル行動の分析に「指す」・「置く」・「叩く」・「動かす」といった分析単位を設定する.

ターンとは，深澤(1999:48)の定義に従い，発言権を取っている話し手が，話し始めて終わるまでのひとまとまりの内容を持つ部分のことであり，1 つのターンは，複数の発話で構成されることもあるが，1 つの発話のこともある.

手の動きとは，指や手,手に持っているもの(写真)を用いて,対象物（机,机においた写真,手に取っている写真）に対し何らかの動作をすることを指す．具体的には，「指す」・「置く」・「叩く」・「動かす」が窺え，それらをここでは総合的に「発話動作」とする．それぞれのアノテーションは表 1 に従う.

表 1　取り上げたノンバーバル行動項目の概要

種類	定義	文字化の符号
指す	指や手はで写真のほうに向け，または写真の上に少し(1 秒)触れてから離れる.	言葉
置く	指や手は机に置いた写真の上に下ろし，またその状態を暫く(1 秒以上)保持する.	言葉
叩く	指や手，或いは手に持っている写真で写真の上や写真の周りである机を繰返して打つ.	言葉
動かす	写真を手にとって相手に見せたり、強く振ったり、ひっくり返したりする．または，机に置いたまま写真の位置を変えたりする.	言葉

また，各符号の終わりの部分に，「*」と「#」を付け，「*」は相手の選択に対する発話動作，「#」は話し手の選択に対する発話動作を示す．更に，表 2 の示したように発話対象を載せた写真が相手の領域にある場合は「^{*相}」と「$^{\#相}$」，話し手の領域にある場合は「^{*話}」と「$^{\#話}$」で示す[1]．実は「$^{\#相}$」は出現していなかった.

表 2　発話動作の領域

発話対象の所属 / 発話対象の位置	相手	話し手
話し手の領域	＊話	#話
相手の領域	＊相	#相

3.3 分析の枠組

会話は，「選択されたものの示し」，「自分或いは相手の選択に対する意見の交換」，「決まったものに対するまとめ」という 3 段階に分けられる．不同意は主に「自分或いは相手の選択に対する意見の交換」の段階に表明されており，実は,この段階における発話は更に相手の選択に対する不同意を表明する発話と,話者自身の選択に対する理由等を陳述する発話という 2 種類に分けられる．ここでは前者を「反対発話」,後者を「陳述発話」とする．このような発話とそれを伴う

[1] 同時に相手の選択と話者の選択に動作をする場合，発話動作の後ろに「$^{\#話・*相}$」で示し，分けて数える．また，共同の選択や意見の一致になった場合，発話対象が話者と相手との両方に所属しているため，その対象物に対する発話動作は話者の領域にある場合が多く，「$^{\#*話}$」で示す．この 2 つの状況は中国語母語話者の会話では多く出現していない.

発話動作を見る．しかし，この段階おいて，以下の幾つかの状況もあるが，それは考察対象としない．

①「反対発話」・「陳述発話」ではない場合の発話動作を対象外とする．

例：CNF08

CNF08A 这两个是确定了哈，然后我们就在在这两个中选一个．投票吧

（著者訳）この２つもう決まっただろう．後は，残りの２つの中から１つを決めてもいい．投票するか．

CNF08B 就药和这个，是吧

（著者訳）薬とこれの中から，ね．

②発話の内容と合致しない発話動作を対象外とする．例えば話し手は「衣服」について何かを述べる際，手は「衣服」を載せた写真ではなく，他の品物が写った写真に動作する．その場合の発話操作を考察外とする．

③言語形式による発話を伴わない発話動作を対象外とする．即ち，発話を開始する前や，終わった後の場合の発話如動作を考察しない．話し手の発話を聞いている聞き手の発話動作もこの枠に入る．

4. 分析

4.1 手の身ぶりの表出傾向

表３「自分或いは相手の選択に対する意見の交換」段階の長さ(単位：秒)

グループ番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	合計	平均
CNM	476	550	270	237	349	235	114	568	478	525	252	593	602	5249	403
CNF	1092	300	510	193	308	307	300	194	1254	382	284	429	346	5899	453

表３が示しているように「自分或いは相手の選択に対する意見の交換」段階では，男女同性同士グループは会話の長さに総体的には平均で 50 秒の差がしかない．各グループの長さを個別的に比較すれば，男性同士は平均値の上下に均衡に分布しており，一方，女性同士グループは平均値を離れている両端に分布している傾向が窺え，平均値の２倍以上，３倍弱となったのは２グループもある．この点から見れば，中国語母語話者は男性に比べ，女性は相手に対する不同意を表明することが多い傾向があるのではないかと思われる．相応的に，表出されたノンバーバル行動も男性より多く，表４と表５に示されたように，発話動作の表出は総体的に男性は 491 回，女性は 588 回であった．また，話し手の領域に属した話し手自身の選択に対する発話動作(#話)ではカイ二乗検定を行い，有意差($p<.05$)が見られた．女性は男性より話者自身の領域を強調しやすいではないかと思われる．また，発話動作の表出別(表 6)から見ると，話者自身領域の発話対象に対する発話動作の中では「指す」・「置く」・「叩く」・「動かす」が何れも，男女に有意差($p<.05$)が見られた．つまり，女性は手を発話対象と長時間で離さない「置く」と「動かす」といった手の身ぶりによって，一方，男性は手を発話対象と少し接触してから離れ，またそのような動作を何回も繰返したりする「指す」・「叩く」によって話者自身の選択を堅持したり強調したりすることが窺えた．

表４　発話動作の表出回数（CNM）

	#話	＊話	＊相	#＊話	合計	頻度（秒/回）
CNM1	25	9	12	0	46	10.3
CNM2	27	6	4	0	37	14.8
CNM3	31	0	14	0	45	6.0
CNM4	6	1	10	0	17	14.8
CNM5	23	0	25	0	48	7.2
CNM6	7	0	6	0	13	18.0
CNM7	7	0	1	0	8	14.2
CNM8	34	0	22	4	60	9.4
CNM9	52	8	29	7	96	5.0
CNM10	18	1	3	0	22	23.8
CNM11	10	4	4	0	18	14.0
CNM12	15	1	5	0	21	28.2
CNM13	29	2	20	9	60	10.0
合計	284	32	155	20	491	10.7

表５　発話動作の表出回数（CNF）

	#話	＊話	＊相	#＊話	合計	頻度（秒/回）
CNF1	69	27	28	5	129	8.4
CNF2	13	4	17	1	35	8.6
CNF3	17	0	1	1	19	26.8
CNF4	20	0	6	0	26	7.4
CNF5	9	0	9	0	18	17.1
CNF6	32	0	5	0	37	8.3
CNF7	13	0	4	0	17	17.7
CNF8	10	1	5	2	18	10.8
CNF9	80	0	72	0	152	8.3
CNF10	29	0	25	0	54	7.1
CNF11	9	0	3	0	12	23.7
CNF12	30	0	9	0	39	11.0
CNF13	25	4	3	0	32	10.9
合計	356	36	187	9	588	10.0

表6　発話動作の表出別(単位：回数)

手の身ぶりの種類	CNM		CNF	
	話者(#)	相手(＊)	話者(#)	相手(＊)
指す	102	74	74	93
置く	33	7	56	24
叩く	83	23	56	17
動かす	66	51	170	53

表7　身振りの指向性と発話内容(単位：回数)

			CNM		CNF	
反対発話	相手	相手・D	155	74	187	93
		相手・A		81		98
	話者	話者・D	73	30	64	21
		話者・A		43		43
陳述発話	話者	話者・D	221	72	292	53
		話者・A		149		239

4.2　手の身ぶりの発話内容別

また，「指す」を除く，各発話動作の表出は，男女の会話では同様の傾向が見られた(表6)．即ち，相手に対する動作に比べ，話者は自身の選択に対し，発話動作を多く表出していることが見られる．そのため，本研究では，発話対象を指す動作を「指示的な身振り」(deictic，以下D)，他の動作をまとめて「行為的な手振り」(action，以下A)とし，身振りの指向性は発話内容とどのような関連があるのかを考察して試みる．結果は表7のように示しているが，相手に「反対発話」を発する際，女性は男性より相手の領域に踏み込みやすく，男性は女性より話者自身の領域を強調しやすい．逆に，相手に「陳述発話」を発する際，女性は男性より話者自身の領域を強調しやすい．

5. 終わりに

本研究では相手への不同意や話者自身の主張などが言語によって表明される際，どのような形の手の身振りが伴うのか，また，それらの機能について考察を試みた．中国語母語話者は「指す」・「置く」・「叩く」・「動かす」といった4つの「手の身ぶり」で言語形式と伴い相手への不同意や自身の主張等を伝えていたのである．男女差には，女性は手を発話対象と長時間で離さない「置く」と「動かす」といった手の身ぶりによって，一方，男性は手を発話対象と少し接触してから離れ，またそのような動作を何回も繰返したりする「指す」・「叩く」によって話者自身の選択を堅持したり強調したりすることが窺えた．また，それらの発話動作は「指示的」と「行為的」な機能を担っている．それぞれは発話内容とどのような関連があるのかについても考察を行った．相手に「反対発話」を発する際，女性は男性より相手の領域に踏み込みやすく，男性は女性より話者自身の領域を強調しやすい．逆に，相手に「陳述発話」を発する際，女性は男性より話者自身の領域を強調しやすいという結果となった．

参考文献

伊藤哲司(1991)．対人相互作用場面におけるユニット的ノンバーバル行動の特性　実験社会心理学研究，31(2)，85－93.

上田安希子(2008)．日本人はどのように意見を述べるのか―日米の「グループの中で意見を述べる」談話の対照分析から　英米文学研究，43，　日本女子大学，21－36.

王萌(2013)．日本人と中国人の不同意表明―ポライトネスの観点から―　花書院.

片桐恭弘(1998)．マルチモーダル対話の分析　日本語学，17，22－31.

ザトラウスキー・ホリー(2012)．日米の実際の談話に見られる人を指す身振りと配慮との関係　三宅和子・野田尚史(編)「配慮」はどのように示されるか　ひつじ書房，235-256.

趙東玲(2018)．日中会話の不同意表明に見られる「配慮」の伝え方の分析　金沢大学人間社会環境研究科，35，33-48.

法文恵(2011)．合意形成会話における非言語行動の文化比較―文化適応的な会話エージェントの実現を目指して―　第73回全国大会講演論文集，591-592.

深澤のぞみ(1999)．日本語の会話における割り込み発話に関する研究―日本語母語話者と日本語学習者の言語行動と非言語行動の観察から―，　金沢大学博士論文.

楊昉(2009)．意見の不一致における類型と調整ストラテジー―中国語母語場面と日中接触場面の事例分析―　千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書，218，65－85.

『商標言語学』

ー商標の類似性判断における音韻論及び認知言語学的アプローチー

五所　万実(慶應義塾大学大学院)

1.　はじめに

本研究は，商標登録の審査過程や商標権侵害において問題となる商標の類似性について，音韻論および認知言語学の知見を用いて分析するものである．商標とは，商品やサービス(以下，商品)またその提供者を特定するためのマークをいい，自他商品の識別化を図り，商品の出所混同を防ぐことを目的とする．したがって，他人の先願商標と同一あるいは類似する商標は，登録・保護を受けることはできない．比較する二つの商標が似ているか否かの判断は，特許庁や裁判所によって，商標審査基準[1]や判例に基づき行われる．しかし，審判官や裁判官は言語学的知識に精通していないことが多いため，個人の直感や言語経験による主観性や判断のぶれ、不透明さがどうしても排除できない。そこで，本研究は，言語学的根拠に基づく客観性や説得性のある判断基準を示し、より安定した行政・司法判断へと繋げることを大きなねらいとする．

2.　本研究の背景と意義

商標言語学は，言語学の知見や分析手法を法実務に役立てる事を想定した法言語学(Forensic Linguistics)の一分野として位置付けられる．日本における法言語学の取り組みは 21 世紀頃から活発になり，証拠の言語鑑定，法廷談話，司法通訳等を中心に研究が進められてきた．しかし，海外に比べ商標の類否に関する言語学の立場からの提言は非常に少なく，法言語学の認知度もまだ高いとは言えない．商標は，命名研究として固有名詞学の枠組みでなされることが多いが(森岡&山口，1985；蓑川，2006b；奥田，2007)，法実務への応用は想定されていない．本研究は，商標審決の類否判断プロセスを質的・量的に分析した結果に基づき，商標の類否判断において重要となる「商標の一体性」について，音韻論や認知言語学の観点から考察を行なっている．「ことばの証拠」を探るツールとして，電子テクストデータのコーパスを使用した計量的アプローチも採用している．法実務への応用を想定した本研究は，言語学における実社会への貢献のあり方を示す一研究として，言語学の理論や分析手法を生かし，より客観性・説得性のある類否判断基準の構築を目指す．言語構造やことばの解釈における認知的営みを探る上で，商標は非常に有益な言語資料となるため，法実務および言語学の両分野において双方向にメリットのある研究分野と言えるだろう．

3.　前提知識

3.1.　商標の類否

商標の類似とは，「二つの商標が互いに似通っていて，同一または類似の商品に使われた場合，需要者・取引者が同じ製造者または販売者の商品であるかのように間違えるおそれのあるような関係をいう」(奥山，2001)．商標の登録要件は多岐に渡るが，先に述べたとおり，先願商標と同一又は類似の商標を，その先願商標の指定商品と同一又は類似の商品について使用することは許されない[2]．商標は，使用する商品を指定して登録がなされるが，原則として，商標が似ていても指定商品が異なれば類似(同一)商標とはみなされない．また，他人の業務に係る商品と誤認し，出所の混同を生ずるおそれがある商標も登録が許されない[3]．このように，「商標の類似」と「商品の出所混同」という概念が別条項によって規定されていることに注意が必要である．

商標の類否判断において忘れてはならないのは，商標法は，商標の自体商品識別および出所表示機能を守ることにあり，表現の独創性を守るわけでないという点だ．商標も，言語と同様に恣意的な記号体系の一種である．企業の宣伝努力等に

[1] 特許庁により商標法の適用についての解釈や運用がまとめられたもので，審査の指針となる．法律改正や社会情勢の変遷等に伴い改訂される．
[2] 商標法第４条第１項第11号(先願に係る他人の登録商標)
[3] 商標法第４条第１項第15号(商品又は役務の出所の混同)

よる記号化のプロセスを経て，ある商標（記号表現;signifier)が特定の商品又提供者(記号内容;signified)と恣意的に結ばれる．商標法は，両者の記号関係を保護するのであり，記号表現自体を守るものは著作権法の役目となる．

3.2. 商標の類否判断基準

商標の類否は，商標審査基準改訂版13版において「出願商標及び引用商標がその外観（見た目），称呼（呼び方）又は観念（意味合い）等によって需要者に与える印象，記憶，連想等を総合して全体的に観察し，出願商標を指定商品又は指定役務に使用した場合に引用商標と出所混同のおそれがあるか否かにより判断する.」とされている．さらに，「指定商品又は指定役務における一般的・恒常的な取引の実情」を考慮し，「需要者が通常有する注意力」を基準に判断される．「一般的・恒常的な取引の実情」とは，例えば，商品「清酒」は地域性の強い商品であり，清酒の取引者・需要者は，地名部分を必ずしも産地とは理解せず，地名部分を含めた商標全体で識別標識として機能する場合が多いという実情を考慮し，商標「宰府寒梅」と先願商標「寒梅」の類似性を否定した判例があげられる[4]．また，「需要者が通常有する注意力」に関しては，例えば，商標「CHOOP」CHOOP（シュープ）と先願商標「Shoop」Shoopにおいて，前者の「ティーン世代の少女層向けの可愛いカジュアルファッション」を好む需要者層と，後者のいわゆる「セクシーなB系ファッション」を好む需要者層とは，被服の趣向(好み，テイスト)や動機(着用目的，着用場所等)において相違することが認められるとし，両商標は類似しないとされた判例がある[5]．

3.3. 商標の類否判断手法

商標の類否判断は，直接並べて比べる対比観察ではなく，時と場所を異にして商標に接することを前提とする離隔観察が基本となる．また，複合語や文字・図形・記号等の複数の部分から構成される結合商標の場合でも，商標全体を一体とする全体観察を原則とする(奥山，2001)．しかし，商標の構成要素が単独で自他商品識別力を発揮し得ると判断された場合，つまり需要者の注意を引きやすい部分(要部)が認定された場合は，要部観察が行われる．結合商標における要部の認定プロセスには，様々な要因が絡んでくる．例えば，周知性がある部分(例：SONY，GUCCI)は要部として抽出され，一方で，商品の品質や原材料，提供場所等を表す記述的部分(例：スーパー○○，銀座○○)や慣用的用いられる語(例：○○観光ホテル)は，商品との関係において識別力が弱いとされ捨象される．

4. 商標の類否判断における重要概念

4.1. 商標の類否判断プロセス

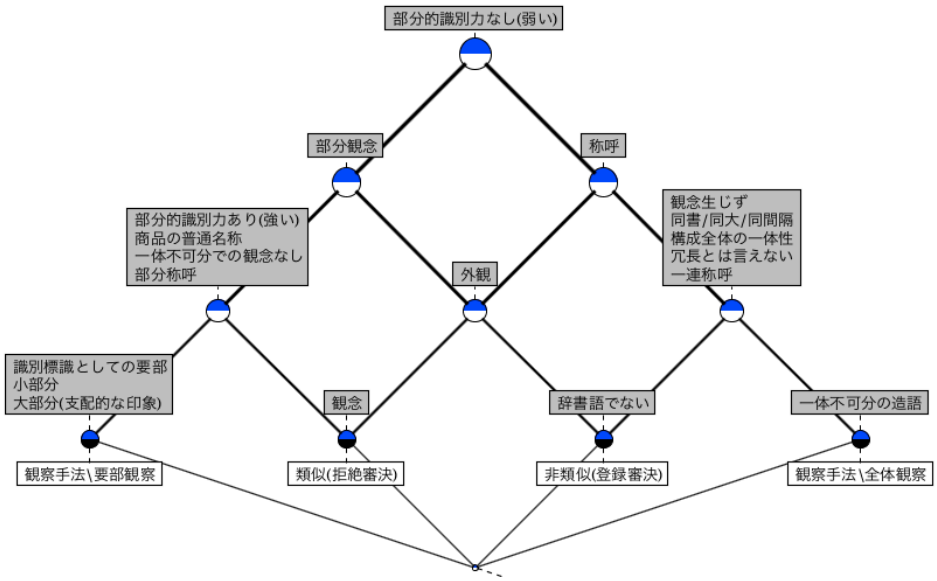
本研究では，商標登録の審査過程において先願商標との類否のみが争点となった審決文書 40 件(拒絶・登録審決各 20 件)を，文書解析ソフトMaxQDAを用いてコーディングし，定量データに変換したコーディング結果をベースに，形式概念分析(FCA)ソフトConcept Explorerを用いて，図１のようなハッセ図に類否判断プロセスを可視化した．本論では，この分析結果に基づく言語学的考察に焦点を当てるため，分析手法については割愛する．

まず，ハッセ図の見方から説明すると，各ノードに付いている網掛けで括られたコード群は商標の類否判断における言語的考察要素を表しており，それらのコード群により商標の類否と観察手法のコード群は特徴付けられている．ハッセ図は概念(ノード)の包含関係や階層関係を表しており、そこからコード間の含意規則を導出することができる．また，ノードの距離が近いほど，共有する特徴が多いことから，近似する概念を表している．このように，ノードの位置関係から類否判定別に見られる類否判断プロセスの傾向を，視覚的に捉えることができる．

4.2. 商標の一体性

図１のハッセ図を見てみると，非類似と判断される際の大きな特徴としては，商標全体で比較する全体観察が行われる傾向にあることがわかる。全体観察がなされる際の商標の言語的要因としては，「同書・同大・等間隔」に基づく「構成全体の一体性」や「冗長とは言えない」，「一連称呼」，さらに「観念が生じない」ことによる「一体不可分の造語」等があげられる，すなわち，非類似へと導くためには，全体観察へと導く外観上・称呼上・観念上の一体性が鍵となることがわかった．

[4] 東京高判平成11年5月27日平成10年(行ケ)第318号[宰府寒梅]
[5] 知財高判平成23年6月29日平成23年(行ケ)第10040号[シュープ]



非類似（登録審決）：全体観察
＜外観上の一体性＞
構成上の一体性，同書/同大/同間隔
＜称呼上の一体性＞
冗長とは言えない，一連称呼
＜観念上一体性＞
一体不可分の造語

類似（拒絶審決）：要部観察
＜分離＞
識別力の強弱，外観の大小差，一体不可分での観念なし
＜抽出と捨象＞
要部，商品の普通名称

図１．ハッセ図：商標の類否判断プロセス（観察手法と類否判定 × 言語的考察要素）

4.3. 要部認定

また，類似と判断される際は，要部観察が行われる傾向にあることがわかった．商標を構成要素を細かく比較するほど類似と判断されやすくなるという結果は，直観的にも納得がいく．要部観察の主な要因としては，「外観の大小差」「部分的な識別力の有無や強弱」に起因する分離や，「要部認定」，「商品の普通名称」部分の捨象が挙げられる．また，部分的な観念は生じるが，「一体不可分での観念なし」，「不可分的に結合しているとは言えない」また「全体としては直ちに特定の意味合いを生じるとは言えない」ために，「一体不可分のものとしては把握されない」とされ，分離されるケースが多くみられた。

5. 類否判断基準における課題と言語学的考察

5.1. 商標の一体性と要部認定

以上の類否判断プロセスの分析結果から、外観・称呼上および観念上の一体性が認定された場合，非類似と導かれる可能性が高いことがわかった．では，一体どのような基準をもって「一連に称呼できる」、「冗長とは言えない」あるいは「不可分的に結合している」と判断するこができるのだろうか。例えば，商標「サラサラ生活向上委員会」は，一体不可分のものとして一連の称呼のみ生ずるとされ，先行商標「さらさら生活」とは非類似であるとされた[6].

さらに，商標の一体性と表裏の関係にある要部の認定は，いかにして行われているのか．商標審査基準[13 版]の基準に従い、指定商品商標の構成中，商品との関係において自他識別力が弱い部分は画一的に捨象され，残った部分が要部とみなされ類否考察がなされていた点には，疑問を感じた．例えば，指定商品をコロッケ入りのパン他とする「ゲンコツコロッケ」**ゲンコツコロッケ**は，「やや冗長」であるとされ，「『ゲンコツ』と『コロッケ』を分離して観察することが取引上不自然と思われるほど不可分的に結合しているとはいえない」とし，指定商品の原材料を意味する「コロッケ」の部分は捨象され，おにぎりやサンドイッチ他を指定商品とする商標「ゲンコツ」と類似すると判断された[7]．各構成要素の識別力を図るにとどまらず，構成要素同士の関係や言語構造を含めたよりマクロな視点も，検討してみる価値があるのではないだろうか．以上を踏まえ，本論では，称呼および観念上の一体性及び要部の認定について，音韻規則や用法基盤に依拠した認知言語学の観点から考察して行く．

5.2. 称呼上の一体性

日本語は，「一語に一つのアクセント核(急激なピッチ下降)」という原則を有している．商標は，複合語や混成語によ

[6] 不服 2011-7797
[7] 無効2015-890082；知的財産高等裁判所 平成30年3月7日判決 平成29年(行ケ)第10169号

る造語が多いが，複合語においても複合名詞のアクセント規則に従ってアクセント融合が起こり，音律的一語にまとまる．一方で，先に示した商標「サラサラ生活向上委員会」（サラサラセ┐イカツ・コウジョウイイ┐ンカイ）のように，＜格関係(例:家事手伝い)＞の意味制約により，一つのアクセント核にまとまらないケースもある．このように，「一連に称呼できる」「冗長ではない」という称呼上の一体性は，音律的一語性の成否によって捉えることができると考える．

5.3. 観念上の一体性と要部認定

認知言語学では，意味と形式のシンボリックな関係で結ばれた語，句，構文等のあらゆる言語単位が，日常の言語使用において慣習化され，ゲシュタルト的な統一体(ユニット)として頭の中に定着すると考えられている．また，個々の要素を単純に足し合わせ意味を導き出す「構成性の原理」は採らず，イディオムに代表されるように，構成要素の意味によって部分的に動機づけられこそすれ，全体の意味には還元できない側面を持つと考える．このような認知言語学における意味の捉え方は，商標における観念上の一体性について考える上で非常に示唆的である．例えば，禁煙用具を指定商品とする商標「チャッカ　マン」チャッカマンと，商標「チャッカボー」チャッカボーおよび「チャッカ棒」との類否が争われた裁判[8]において，商標「チャッカマン」側は，「チャッカ」が要部であるとし類似性を主張したが，裁判所は「チャッカ」の要部性を否定し，相手方商標とは非類似であると判断を下した．本件においては，「チャッカマン」という商標は，全体をもって需要者の脳内に定着しているため，分析可能性(Langacker, 2008)が低いことを根拠に，一体不可分性を主張できる可能性があったのではないかと考える．

また，商標の一体性を考える上で，構文スキーマという概念が有効と考える．「ゲンコツ○○」というフレーズを構文スキーマとして捉えて考えてみる．「ゲンコツ○○」というフレーズを Web コーパス jpTenTen11 で調査した結果，上位 10 位のうち 3 つを除き，スロット部分には全て食品がランクインした．つまり，「ゲンコツ○○」構文が持つフ中心フレームは食品ドメインであると言える．つまり，スロット部分に食品が来る「ゲンコツ○○」は，一体不可分性が増すと考える．ただ，活性化されるフレームによっては，構文自体が地となりスロット部分が図となり際立ちの部分つまり要部と考えられるケースも出てくると思われる．構文スキーマを用いた要部認定の手法については，今後の課題としていきたい．

6. おわりに

本研究では，商標の類否判断プロセスを質的・定量的に分析し，類否判定において重要な要素となる「商標の一体性」と「要部の認定」について言語学的観点から考察した．米国では，商標権をめぐる裁判において言語学者の意見が取り入れられたり(Lentine & Shuy, 1990; Butter, 2010)，商標権の独占的使用における表現の自由をめぐる問題や(Shuy, 2002)，商標の普通名称化問題[9](Clankie, 2002)が取り上げられたりと，商標言語学の研究が盛んに行われている．日本においても同様に，法実務および言語学両分野においてメリットのある商標言語学の研究が今後さらに発展していくことを願う．

参考文献

Beebe, Barton (2004). The semiotic analysis of trade mark law. UCLA Law Review 51(3), 621-704.

Butters, Ronald R. (2010). Trademark Linguistics, Trademarks: Language That One Owns. The Routledge Handbook of Forensic Linguistics in Coulthard, Malcolm, and Alison Johnson (eds.). Oxford: Taylor and Francis.

Clankie, Shawn M. (2002). *A Theory of Genericization on Brand Name Change*. Lewiston: E. Mellen.

堀田秀吾 (2004). 商標の言語学的分析モデルの一例 -言語学的分析から何が見えるか-. 立命館法学 91-12.

Lentine, Genine; Shuy, Roger (1990). Mc-: Meaning in the Marketplace. American Speech 65(4), 349-366.

Langacker, Ronald W. (2008). Cognitive Grammar: A Basic Introduction. Oxford: Oxford University Press

窪薗晴夫 (1998).『音声学・音韻論』(日英語対照による英語学演習シリーズ 1) . くろしお出版

奥山尚一[他] (2001). 三省堂知的財産権辞典. 東京: 三省堂.

Shuy, Roger (2002). *Linguistic Battles in Trademark Disputes*. New York: Palgrave.

[8] 知的財産高等裁判所 平成 27 年(行ケ)第 10172 号審取事件

[9] 「巨峰」や「正露丸」, Aspirin, escalator 等，元々は登録商標だったものが，使用されていく中で，商品やサービスの一般名称として認識され，商標としての機能を失ってしまう現象．著名な商標を有する企業は，築き上げてきた商標に係る顧客吸引力やブランド価値が損失してしまうのを避けようと，阻止しようとするのが一般的．商標の普通名称化は，部分(種)が全体(類)を表す提喩表現(synecdoche)として捉えることができ，単語の意味変化のプロセスを探る上でも，大変興味深い現象と言える．

「感謝しない場面」の分析による「感謝」の研究
—「物をあげる」という場面に注目して—

岸本 健太（関西学院大学大学院生）

1. はじめに

相互行為において，我々はどのように感謝を行っているのだろうか．感謝という行為は，日本語教育において入門期に学ぶ項目の 1 つである．それに加え，社会生活を営む上で必要不可欠かつ，重要な要素であることは，多くの人が実感していることであろう．

これまでの感謝研究の焦点は，「感謝場面における詫び表現」に当てられており，三宅(1993)は，自身の利益や相手との関係性，借りの有無などによって選択されていると述べている．三宅(1993)の研究を受けて，それ以降も感謝の表現選択について，主にアンケート調査を行い，ポライトネスやフェイス理論を用いて説明する研究が多く，特に 2000 年以降，他の言語使用者の意識と比較する対照研究が盛んである（秦, 2002; 大谷, 2003; 中村, 2006 など）．これまで，多くの研究が話し手の内面に関心を寄せてきた一方で，実際の会話における感謝の行為を分析する研究は非常に少なく，感謝という行為がどのように行われ，どのような役割を果たしているか，という点についての分析はほとんど進んでいない．

本発表ではこうした現状を鑑み，「物をあげる」事例を 2 つ取り上げ，会話分析の手法を用いて，話し手と聞き手の視点からの分析を行っていく．そして，分析から得られた知見を，感謝という行為の全貌を明らかにするための足がかりとし，感謝研究の新たな視点を示していく．

2. 物を「あげる」「もらう」という行為

何かを誰かに対してあげたり，誰かから受け取ったりするとき，我々は大抵何かしらの発話を動作と同時に行う．それらは，単独では十分な行為となりにくいが，相互に補完しあって 1 つの行為を築き上げている．まずはこれについて以下に述べる．

ここで用いる事例は，ある大学の共同研究室で起きた会話で，Ｊ（画像右側）が研究室に置いていたお菓子を，部屋に入ってきたＳ（画像左側）に渡しにいく場面である．

書き起こしに用いた発話用の記号と，非言語用の記号については，表 1 と表 2 に示す．非言語の記号について，表 2 を見ながら(1)の 3 ～ 5 行目の J/Move という動作を説明すると，Ｊの体全体の動き（Move）が 3 行目のＳの発話「いつも」の「い」のタイミングで止まった（Stop）ことを示している．また，図が示す場所が分かりやすいように，図がある部分の発話は「□」で発話を囲んでいる．

表 1．発話の書き起こし記号

記号	意味	記号	意味
[　]	発話の重複	h	呼気
=	前後の発話が間髪なく続く	.h	吸気
(数字)	沈黙の秒数	.	下降調の音調
¥	笑っているような発話	,	継続調の音調
:	音の伸び	?	上昇調の音調
下線	発話の強調	'	やや上昇調の音調

表 2．非言語の書き起こし記号

記号	意味	例	例の意味
名前 / 部位：	動作の主と、その部位	Ｊ/L.Hand	Ｊさんの左手
！（　）	動作のタイミングと内容	！(raise)	手をあげる
ー（ハイフン）	一連の動作をつなぐ	！(raise)ー！(pinch)	手をあげ、そのままつまむ
_（アンダーバー）	動作の詳細を示す	!(hand out _ hold)	差し出して保持する

(1) [LCC_cocolate]

```
01  J          :せとうちさんどうぞ:[:'
02  S          :                  [あ！=
03  S          :=[¥ す い ま h [せん,[いつもありがとうございます'¥
04  J          : [aha hah hah hah  [い(h)い(h)で(h)す(h)い(h)い(h)で(h)す
05  M          :                [AH hah hah hah hah hah
    S/Move     :    !(back)
    J/Move     :                   !(stop)
    J/LR.Hand  :                   !(hand out _ hold)
    S/L.Hand   :                   !(raise) - - - - - - !(pinch)
```

図 1．せとうちさん

図 2．すいません

図 3．いつも

1行目以前からJはお菓子の袋を持ってきて，1行目で声をかける際，Sに対して差し出す動作を行っている（図1）．この「相手にお菓子をあげる」という行為を達成する上で必要なことが2点ある．1つは，当然のことながら，身体動作の次元において「渡す」ことにあるが，それだけでなく，相手に受け取ってもらえるように，適切にふるまうことが必要となる．もし無言で渡そうとすれば，相手が不審がって拒否する可能性や，そもそも「あげる」行為であると理解されない可能性が生まれる．そのため，「あげる」行為を確実なものとするためには，動作だけではなく発話も必要となる．この点についてJは，ただ渡すだけでなく，「どうぞ」という発話を伴わせる形で「あげる」という行為を組み立てている．

次に，「どうぞ」とお菓子の袋を差し出されたSは，なんらかの形でそれに応じることが期待される．ここでの応じ方においては，あげる側と同様，もらう側においても発話と動作の両立が必要となるだろう．少なくとも「もらう」のであれば，受け取る動作が必要であることはもちろん，適切な発話がなければ，無礼なふるまいと捉えられかねない．ただ，「もらう」という行為を達成する上で使用可能な発話の種類はさほど多くはなく，大抵の場合がこの事例と同様，「ありがとうございます」のような感謝の意を述べる．

以上のように，「あげる」と「もらう」といった行為の中には，「どうぞ」の発話と「差し出す」動作，そして「ありがとうございます」の発話と「受け取る」動作が内包されていた．内包されたものは，単独では課題に対する解決法として十分な役割を果たせないが，互いに補い合うことで，行為を構成することができる．

Mondada(2014)は，会話における指示の研究の中で，指示の発話だけを取り上げるのではなく，動作と同時に観察する重要性に触れ，「行為」というものは，言語や動作，視線，その場の環境など，様々な要素が複雑に絡み合って，その「Gestalt」を形成すると述べている．Mondadaの研究は指示を中心としてはいるが，今回の事例においても同様のことが言えるだろう．

今回の事例での発話や動作といった構成要素は，それぞれにおいて「どうぞ」という発話には「ありがとう」という発話が，「差し出す」という動作には「受け取る」という動作が，非常に期待されるように思われる．すると，一見すると「あげる」の状況にあっても，その構成要素が異なれば，「もらう」方法にも違いが生じるのではないだろうか．これについて3で見ていこう．

3.「感謝しない場面」で何が起きているのか

次の事例は，ある家での7人の友人同士の食事場面を撮影したもので，仕事で遅れてきたHが，お土産が入っていると思しきビニール袋を持って部屋に入り，挨拶を終えた直後の場面である．それぞれの名前と位置関係は以下の図4に記す．

基本的には「物をあげる」という点で，(1)の事例と共通しているが，ここでの「あげる」行為は，むしろ「提示」に近いものと言える．これについて以下で詳しく見ていこう．

3.1 応答の位置での「提示」

(2)[umaibou]

```
01  M           :ホリウチまたタクシー乗らな,バス乗り遅れるで.=
    K/Face      :              !(up)          !-------!(left-down_chase)
    K/R.Hand    :                             !(grab_hold)
02  K           :=Huh Huh [Huh
03  H           :         [え'
    H/L.Hand    :          !(put a bag)
04              :(0.4)
05  K           :おｈまｈえh heh .heh
    K/R.Hand    :!(draw a bottle)
    K/L.Hand    :! - - -!(get off a bag---point "umaibou"_chase)
06  S           :にを持って[きた.
    H/Face      :    !(look into a bag)
07  K           :           [¥おまえ,そんな,¥
    H/R.Hand    :                   !(pick)
```

図4．人物配置（1人は画面外）

図5．おまえ(05)

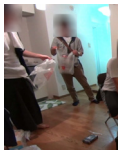


図6．なに(06)

図7．そんな(07)

2行目から5行目にかけて，KはHの持つビニール袋へ視線を向けた後に笑い始め，「おまえ」という発話に加え，ビニール袋へ向けた指さし（図5）によって，何を笑っているのか，何がその原因なのか，を明らかにする．

6行目でSが「なにを持ってきた」と質問を行うが，これは位置的な問題から，彼自身が指さしの対象は分かるものの，中身までは見えていないことによるものと考えられる．これに対しHは6行目のSの「なに」の直後に自分が持っているビニール袋を覗き込み（図6），その後7行目のKの「おまえ，そんな」という発話の途中で中身をつかむ（図7）．

この「なにを持ってきた」という質問に対して，Hが行う応答には，発話だけで応じる方法と，実際にものを見せる方法の2通りが考えられる．ここでHは袋を覗き，中身を取り出そうとしていることから，少なくとも見せる方法を使おうとしていることが分かる．つまり，先ほどの事例とは違い，自発的にお菓子を「あげる」のではなく，質問への応答として「見せ」ようと，つまり「提示」しようとしている．

3.2 応答を待たずに起きる「評価」

(2)[umaibou]続き

```
06  S          :なにを持って[きた.
    H/Face     :    !(look into a bag)
07  K          :          [¥おまえ,そんな,¥
    H/R.Hand   :                    !(pick)
08  K          :¥またどこでも買えるもんを¥ =
    H/R.Hand   :     ! - - !(drop-groping_start)
    K/L.Hand   :                !(retract)
09  S          :=うあ:mua たどこでも買えるｈもｈのｈを hoh=
```

図8．どこ(08)

図9．買える(08)

続く8行目でKが「またどこでも買えるもんを」と，お土産に対する評価を行う．この発話の「どこ」のあたりでHは，偶然か意図的かは分からないが，一度つかんだものを手放し（図8），袋の中を漁りはじめる（図9）．そして漁っている途中，Hが持つ袋（透明なビニール袋）の中身が見えたのか，SがKの発話を繰り返すように，「うわ，またどこでも買えるものを」（9行目）とお土産についての評価を下す．Kによる評価は，あくまでSによる「なにを持ってきた」という質問と，それに対する応答のやりとりに影響を及ぼさない．一方，Sによる評価は，自身の質問についての疑問が解消されたことの表示でもあり，その時点でHが「見せる」必要性はなくなる．また，この評価自体もポジティブな評価ではなく，「どこでも買えるお菓子を買ってきた男」としての評価に対する抗議や，言い訳のようなものが後に来うることは十分に予想可能と言えよう．

3.3 カウンターとしての新たな「提示」

(2)[umaibou]続き

```
09  S          :=うあ:mua たどこでも買えるｈもｈのｈを hoh=
    H/R.Hand   :                          !  --   !(draw-turn back)
10  H          :=¥これは:,どこでも買われへんぞ.¥
    H/Face     :   !(look)
    H/R.Hand   :          ! -   !   -    !(holdout-show-put)
11  S          :[なやそれ.
12  K          :[nあ:?
13  K          :なにそれ.=
14  K          :=あ![それうまい[やつや'
15  S          :    [め.
16  N          :             [あ:.
```

図10.ものを(09)

図11.どこ(10)

図12.買われ(10)

図13.へんぞ(10)

9行目のSの発話の最後「ものを」のあたりでHは，袋から先ほどとは違う箱を引き抜き，確認するように裏返す．そしてSの発話の後，間髪入れずに「これはどこでも買われへんぞ」（10行目）とSに向けて「差し出し」つつその箱を見せ，発話の終了とほぼ同時に机に置く．

このHの行為は，直前の「どこでも買えるお菓子を買ってきた男」としての評価に対し，汚名返上の一手としてなされたものだと考えられる．状況だけでなく，発話形式も「どこでも買えるものを」に対応するように「どこでも買われへん」としていることからも，KとSの評価に対するカウンターと言えるだろう．それは言わば，「提示」から「評価」にかけてのやりとりを，再度やり直すようなものであり，Hの「提示」は「評価求め」とまではいかずとも，KやSが「新たな評価」を行うことが非常に期待される．

その後SとKは「なんやそれ」（11行目），「なにそれ」（13行目）と，新たに提示されたものについて疑問を示し，箱に視線を向ける．確認を終えたKはすぐさま「あ！それうまいやつや」（14行目）と，「どこでも買われへん」について異議を唱えることなく，今度はポジティブな評価を行う．

4. 考察

(1)の事例も，(2)の事例も，どちらもお菓子を「あげる」「もらう」という行為としては同様でありつつも，その文脈や構成要素には大きな違いがあった．(1)では「あげる」側が自発的に相手に「差し出し」ていたが，(2)では１度目は「もらう」側の「質問」に応じる形で，「あげる」側が「応答」の一部として「提示」しようとしていた．また，その後は１度目のネガティブな「評価」への対抗策として，あげる側がカウンター（反撃）ととれるような発話とともに「提示」を行っていた．

結果として，(1)の事例では「もらう」側が「ありがとうございます」と感謝を行い，(2)の事例では「もらう」側が「それうまいやつや」という評価を行うといったように，両者の間には違いが生じた．とはいえ，前者は礼儀正しく，後者が無礼であるかといえば，そうではない．どちらの事例においても，会話の参与者たちは，その場その場の文脈に応じて適切に振舞っている．我々は，ただ単に「お菓子をもらったら感謝する」のではなく，個別の場面における文脈によって，それに応じたふるまいを行っている．そうした文脈は，「あげる」「もらう」といったラベル付けでは表出してこない．発話や身体動作など，相互行為における資源を１つずつ，つぶさに観察し，それぞれの行為に視点を向けることで，そのやりとりにおける本質が見えてくるのである．

以上の点を踏まえて，今回の２つの事例の比較から，「感謝」とは，心情的な問題によって生じるというよりもむしろ，会話のルールや型のようなものに則って行われるものである，という可能性を示唆したい．

5. おわりに

本研究では，「物をあげる場面」に注目し，そこでの「感謝する場面」と「感謝しない場面」を会話分析の手法によって分析し，比較することで，「感謝」という行為の性質の一部を明らかにしようと試みた．

結果として，同じような場面であっても，そこで起きていることに違いがあることが分かった．一見すると(1)と(2)の事例はどちらも，その動作はお菓子を「差し出す」ものではあるが，発話に注目すると，「感謝する場面」においては「どうぞ」と「差し出す」動作を後押しするような形式であったのに対し，「感謝しない場面」においては，「提示」の意味合いが強いものであった．そうした「あげ方」の違いが，その後の応答にも影響を与え，(1)では「感謝」が適切であっても，(2)では「評価」が適切である，という違いを生んでいた．

従来の研究では，「行為」自体をカテゴリ化し，そのカテゴリ化に基づいて，「感謝のバリエーション」の比較を中心としてきた．しかしながら，Mondada(2014)も指摘するように，発話や身体動作，視点，その場の環境など，その場で使用可能な資源のそれぞれが複雑に絡み合って，不可分な Gestalt を構成している以上，構成要素に視点を向ける必要がある．今回，そうした構成要素に焦点を当てて分析を行ったところ，「物をあげる」という場面においても，構成要素が行為全体の方向性を決めていることが分かった．それゆえに，感謝の仕組みを明らかにする上では，「感謝のバリエーション」だけを見比べるのではなく，「感謝の場面の構成要素のバリエーション」を比較しなければ，「なぜ感謝を行うのか」という本質に迫ることは不可能と言えよう．

社会学においては広く認知されている会話分析も，日本語学や日本語教育学においては未だ認知の度合いが低い．しかしながら，感謝に限らず，ある行為の仕組みを明らかにする上で，実際の会話を分析する質的な手法は必要不可欠だろう．

本研究は，著者のみならず感謝研究全体における新たな視点からの一歩を踏み出すものである．今後は，これを足がかりに，長らく感謝研究の焦点が当てられ続けてきた「なぜ感謝場面で詫び表現を用いるのか」という議論についても，再考していきたい．

参考文献

秦秀美 (2002). 日・韓における感謝の言語表現ストラテジーの一考察　日本語教育, **114**, 70-79.
三宅和子 (1993). 感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム-Coulmas(1981)の indebtedness「借り」の概念からの社会言語学的展開-　筑波大学留学生センター日本語教育論集, **8**, 19-38.
Mondada, Lorenza. (2014). Pointing, talk, and the bodies: Reference and joint attention as embodied interactional achievments. In Seyfeddinipur, Mandana, & Gullberg, Marianne (Eds.), *From Gesture in Conversation to Visible Action as Utterance: Essays in honor of Adam Kendon*, pp. 95-124. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
中村香代子 (2006). 感謝ストラテジーの日独対照研究およびドイツ人日本語学習者のストラテジー選択　言語情報科学, **4**, 243-257.
大谷麻美 (2003). 日・英語における謝罪と感謝-背景心理からの分析-　日本英語コミュニケーション学会紀要, **12(1)**, 140-152.

日本の英語教育政策についての専門家の言説

ーポッドキャスト番組の談話からー

泉谷律子（大阪大学大学院生）

1. はじめに

文部科学省は，平成 29 年度に審議・了承された「大学入学共通テスト実施方針」[1]において英語では民間事業者の認定試験を導入することを決定した．文部科学省の説明[2]によると，この決定は「読む」「聞く」「話す」「書く」の 4 技能を適切に評価するという考え方に基づいている．このような決定は，一般に流布している「4 技能は同一平面にありバラバラに習得できるもの」「日本人は英語がしゃべれない」（阿部，2017）や「日本の英語教育は間違っている、なぜなら日本で習った英語はまったく役に立たなかった」（斎藤，2013）などという素朴信念を強化することにつながると予想される．そこで，本研究では， 民間試験導入を推進している英語教育の専門家が，非専門家との相互行為の中で大学入試改革を語る際に，何を前景化させ，何を排除してメディア上の論理を構築していくか，そしてそこにはどのようなイデオロギーが潜んでいるかということを検討する．

2. 先行研究と分析概念

メディアの中でいかに教育は言説的に構成されているのかを問う研究は，一方向の文字テクストである新聞報道（築地 2013 など）や画像と音声によって専門家やインタビュアーなどの出演者の談話を扱うテレビメディア（越智・酒井， 2018 など）では多数見受けられるが，双方向コミュニケーションという観点からは，専門家と聴き手との談話に迫っていく必要があるため，一方的に情報を流すマス・メディアよりも，専門家と一般市民をつなぐ双方向性のあるインターネットメディアが本研究には適っている．そのため，本研究では個人が制作したポッドキャストの無料バイリンガル会話番組の談話を分析する．本研究では，1）インターネットメディアの談話の中で，どのように民間試験導入の正当性は構築されるのか，2）このような談話は一般に流布している素朴信念を強化するのか，というリサーチ・クエスチョンを設定した．

イデオロギーという概念は，様々な学問分野の中で様々な用途で使われている概念であるが，本研究ではテリー・イーグルトン（1999）の６つの定義の中から本研究の目的に最も近いと思われる 5 番目の定義を採用する．すなわち，イデオロギーは支配的な社会権力が自らの利害関係の促進と正当化をすることであり，支配的イデオロギーは支配者に都合のよいやりかたで社会構成体を統一するのに役に立ち， 被支配階級や集団などを共犯関係に巻き込むという前提がある（イーグルトン， 1999）． また，日常会話の分析における本研究と関連する概念としては，あいづち（メイナード 1992， 堀口 1997），対人関係に関する終助詞（大曽，2005），協働的なオーバーラップ（Tannen，1984），社会的距離（van Leeuwen，1999）ポリフォニックな対話的空間（西口，2013） があげられる．

3. 調査概要と分析対象：日本語と英語でニュースを語るポッドキャスト番組

調査の対象としたポッドキャスト番組「バイリンガルニュース」は，共に日本語と英語のバイリンガルである企画者の日本人女性とアメリカ人男性が独自の観点から選んだニュースを日本語と英語で読み，ニュースの内容について日本語で，英語で台本なしで語り合う，といった形式のもとに 2013 年 5 月 15 日から毎週 1 時間から 2 時間配信されているものである．2014 年 7 月に iTunes store のポッドキャスト番組ランキングで 1 位を獲得し，2018 年 6 月 6 日現在 Facebook のページに 28282 人， Instagram に 19188 人， Twitter に 45240 人のフォロワーと呼ばれる登録者を持つ．

---

[1] 文部科学省「大学入学共通テスト実施方針」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/10/24/1397731_001.pdf （2018 年 5 月 19 日最終閲覧）

[2] 文部科学省「大学入学共通テスト実施方針策定」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/10/24/1397731_002.pdf （2018 年 5 月 19 日最終閲覧）

今回分析の対象にした回は 2014 年 2 月 24 日に配信された第 68 回配信分[3]で著名な英語教育専門家をゲストに招き，ホスト出演者と 3 人で話している計 2 時間 1 分 25 秒のものである．Twitter 上では配信直後から 3 年後までこの回に言及した投稿が断続的に続き， ほぼすべての投稿が配信内容に肯定的である．この第 68 回で話された内容は，筆者がトピックごとに 28 のセクションとして分けた．本研究で分析の対象としたのは，英検・TOEIC・TOEFL がトピックとなったセクション 6 と大学入試改革の必要性がトピックとなったセクション 17 である．分析は，ゲストの語りの特徴，ゲストと出演者の相互行為の特徴，大学入試改革についての談話の構造の 3 つの観点から行う．

4. 分析結果と考察

4.1 ゲストの語りの特徴

ゲストの語りには，インフォーマルな表現の多用，他者の声の引用，英語教育に関連することば，断定的な数値による表現，およびピッチの上がり下がり，語りの速さ遅さ，声の大小などの変化が多彩で豊かな音声表現が特徴として見られた．インフォーマルな表現の発語例を挙げると，セクション 6 では，抜粋 1[4]のようにゲスト C の語りには「最初の頃にね（112 行目）」「ちゃんとあったの（113 行目）」「入ってたんだよね（113 行目）」「めんどくさい方をやめちゃおうってなるよね（125 行目））」「やめちゃおうて[なるよね（125 行目）」などが見られ，語り手の C に権威的でない親しみ深さという印象を与えることに貢献している．また英語教育に関連することば，例えば，「文法項目をみるスコアが::ものすごく高い相関がある（117 行目）や数値「point nine five correlation (between writing and grammatical) [knowledge（120－121 行目）」により専門知識が印象づけられる．他者の声の引用例については，後述の 4 章 3 節で言及する．音声表現の多彩さを示す発話例としては，抜粋 2 のように速度を速くした（> <）発語の直後に速度を落とし（< >）同時に強調 （__）する，頻繁に間をおく（(.)）という変化が見られる．重要なことは，以上のような語りの特徴は，C を，その高い社会的地位にもかかわらず権威を押しつけない，親しみの持てる専門家であると印象づけることに貢献している，ということである．

抜粋1

```
112  C:  >だから<ねあのむかし::TOEFL ができた時に::一番>最初の頃にね(.)<
113      あのライティングがちゃんとあったの中に入ってたんだよね
114 A:   あ:::
115 C:   で.hh ところが途中で:ライティングのスコア::と::文法のスコア
116 A:   あ::
117 C:   文法項目をみるスコア:が::ものすごく高い相関がある(. )
118 A:   あ::
119 B:   ( )
120 C:   >something like< point nine five correlation (between writing
121       and grammatical)[knowledge
122 B:                    [( )
123 A:                    [あ::
124 C:   それだけ相関高いとどうなるかっていうと(.)おんなじ事測ってるんだ
125      ったら(.)めんどくさい方をやめちゃおう[てなるよね
126A:                                          [あ hhaha あ haha そうか
127 C:   >それで結局<ね::ライティングやめちゃったの
```

抜粋2

```
141  C:  ね(.)>ていう事はどういう事かっていうと<<文法は(.)
142      ライティングのための>(.)必要条件
```

4.2 ゲストと出演者の相互行為の特徴

出演者とゲストの相互行為に目を転じると，出演者のあいづちの多用が目につく．さらにゲストの終助詞「ね」「よね」（メイナード，1992；大曽 2005）と その直後のあいづち（メイナード，1992；堀口，1997）も特徴的である．さらに出演者 A とゲスト C の日本語のみならず，出演者 A と B，ゲスト C が英語で話している時も抜粋 3 のように協働的なオーバーラップ（Tannen，1984）（[），密着した会話（ =）が随所に見られ，A，B，C の談話の中で共感が形成されていることがわかる．さらに、低いピッチや音量でソフトかつくつろいだ（relaxed）声によって個人的な距離（personal distance），高めのピッチと音量でしっかりした（full）声によってビジネスライクだがインフォーマルな社会的距離（informal distance）の

抜粋3

```
78   A: [right
78   B: [it seems to have been impossible to creat the test that(.) did that=
79   C: = (no it would be [impossible to do that)
80   A:                   [たしかにたしかに(.)TOEF[L
81   C:                                            [so it got be some
```

---

3 バイリンガルニュース (Bilingual News)　68.http://bilingualnews.libsyn.com/size/5/?search=%E5%90%89%E7%94%B0%E7%A0%94%E4%BD%9C (2018 年 3 月 28 日最終閲覧)　（セクション 6 は開始後 14 分 30 秒～19 分 43 秒，セクション 1 7は開始後 56 分 48 秒～58 分 21 秒）

4 トランスクリプト記号

[　オーバーラップ　　£　笑いながらの発語　　hehehe または hahaha　笑い声(.)　2 秒以下の沈黙
> <　周囲よりも速い発語　　< >　周囲よりも遅い発語　　__　強調表現　　( ) 聞きとりづらい発語　hhh 息を吐く音　　.hhh 息を吸う音　　=　続けて聞こえる発語　　:　長音

両方を交互に出演者およびリスナーとのあいだに実現（van Leeuwen, 1999）していることが観察された.

4.3 大学入試改革についての談話の構造

セクション６はAのCが英検やTOEICとかはどういうふうに見ているのかという問いかけをきっかけに開始する．それに答えCが文法だけ試すテストと比べ自分の今のレベルを知る上では悪くはないとこれらの民間試験を位置づける．その後，英語母語話者（native speaker以下NS）であるBがTOEIC受験をしたことがない、ということを受けてCはアメリカ人の学生のTOEFL平均スコアが677点中 620 であった実験を紹介し、英語非母語話者（non-native speaker 以下NNS）である日本人学生がもっと高いスコアを取ると述べて，コミュニケーション能力を測るテストを作るのは不可能である，と述べる．紙面の制約上全ての書き起こしを掲載できないため，セクション６の前半の談話構造を図１に示す.

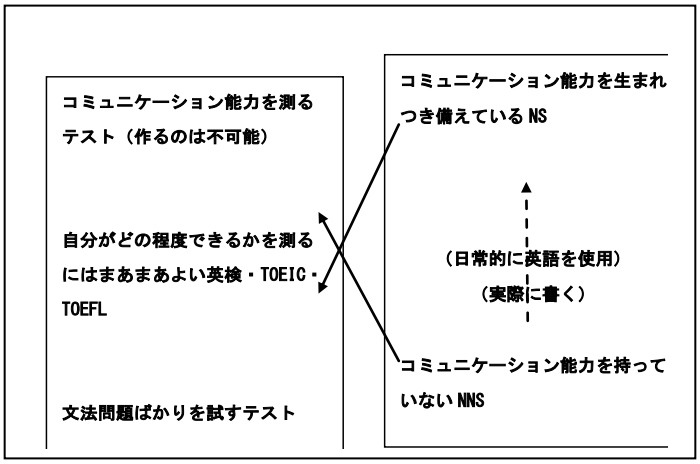


図１　A, B, C の談話の中で構築されるテスト，コミュニケーション能力，NS/NNSの位置づけ

しかしこの後Aは、抜粋４に見られるように英検一級保持者が英語がしゃべれないということで「demotivatedされ（95行目）」るという民間試験の否定的な側面に言及する．このAの発話内容は図１で見てきたように，コミュニケーション能力を測定するテストは存在しないということ，つまり英検・TOEFL・TOEICではコミュニケーション能力は測定できないという点，NSよりもNNSの方が高い点数がとれる現象がありえるというTOEFLのテストとしての性質と合わせて，Cにとっては好ましくない展開となっていることは容易に推測される．というのもCはこれらの民間試験の大学入試への導入を推進しているからである．そこでCは「テストだけのため（100行目）」の勉強，さらに言い換えて「テストを受ける技術（100－101行目）」という，新たな要素をもち出し，英検一級保持者が英語が喋れない理由を，テストを受ける技術に専念しているからであると学習者の学習方法に帰属させる．これ以降，このセクション６では学習者はテスト勉強だけでなく日常的に英語を話したりコミュニケーションをしたりするような機会を作る努力をしないと実際に英語を使えるようにならないので，学習者自らがイニシアティブを取るようにリスナーを励ます，という流れに収斂していき，民間試験をどう見るかという論点からずれていく．

抜粋４

95 A: demotivated されちゃって:（）なんかこんなにやったのにみたいな
96 （）なっちゃうと思うんですよね　その英検でなんでそのスピーキングと::例えば文法だったり::リスニングだったりそれぞれ違うじゃないですか（）というのはなんかなんか日本だとちょっと分けて考え考えてないというか（）
100 C: >たぶんねくテストだけのために勉強したら（）>いわゆるくテストを受ける技術ってあるでしょ

抜粋５

168 C: 今まで通りのやり方やってったら今まで通りのような勉強しか
169 しないから
170 A: う::ん
171 C: 今まで通りのような勉強（.）しかしなければ今まで通りのような日本人
172 しか育成
173 A: [hahaha
174 C: [されないだろうから（.）これをどう変えるかとなるとその教え方云々という
175 まありっりりそ理想論を言うのはいいんだけど
176 A: う::ん
177 C: 現実の問題として入試が目の前にあるとだって入試はこうだからっと
178 言われないような[入試にしないと=
179 A: [確かに
180 C: =いけない[（んだけどね）
181 A: [たしかに 今まさにそうですもんねそれが言い訳というか=
182 C: =そう=
183 A: =として成り立ってるやっぱりこっちで今目の前にあるこの入試で
184 忙しいから:=
185 C: =うん=
186 A: =そんなスピーキングとかやってる場合じゃないみたいな
187 C: そうそうそう

再び，テストの話に戻るのはこのセクション６終了後37分経過したセクション17である．セクション17では，Cは大学入試の改革側に立つ自分とそれに対立する旧来の制度という対立構造を構築する．Cは「今まで通りのやり方」「今まで通りの勉強」（168行目）「今までと同じような勉強」「今まで通りのような日本人しか」（171行目）と「今まで通り」という言葉を繰り返すことで，これまでの教育とその結果を否定的に印象付ける．そしてそれを「どう変えるかとなると（175行目）」「教え方云々（175行目）」という「理想論を言う（176行目）」仮想の人物を作り，それに対して仮想の学習者の反論「だって入試はこうだから（178行目）」という声を語りの

中に登場させることによって，語られる世界をポリフォニックに拡張しつつ議論を構築する．その議論に対して，「言われないような[入試にしないと（179 行目)」という自らの解決案を提示する．A は C が構築した仮想の議論を，さらに具体的に「やっぱりこっちで今目の前にあるこの入試で（184 行目)」「忙しいから：(185 行目)」「そんなスピーキングとかやってる場合じゃない（187 行目)」という「言い訳（182 行目)」として述べることで裏付けをし，その A の裏付けに C が同調することで，「理想論」の脆弱さとそのような強固な「言い訳」を打破するための大学入試の改革の必要性が構築されることになる．しかし， ここで解決策として提案されている「スピーキング」を含む「大学入試」は明らかに C が導入を推進している民間試験であろうが，先述の図１の談話の中ではコミュニケーション能力を測るテストは不可能であり，TOEIC は NS より NNS の方が高い点数を取ることのできるテストであり、A の発話から英検一級を取っても英語は話せず，テスト技術を習得すれば合格できるものであった．このような推進派にとって不都合な論点はすべてここでは後景化され，排除されている．

５．まとめ

本稿では，1) インターネットメディアの談話の中で，どのように民間試験導入の正当性は構築されるのか，2) このような談話は一般に流布している素朴信念を強化するのか，というリサーチ・クエスチョンを設定した．そしてその問いに答えるために，ゲストの語りの特徴，ゲストと出演者の相互行為の特徴，談話の構造の３つの観点からインターネットメディアにおける英語教育改革についての談話を分析した．その結果，権威を押しつけない親しみやすい英語教育専門家という印象を与える語りのもとで当の専門家と半専門家とも言えるバイリンガルが相互行為の中で共感を形成しつつ，民間試験の好ましくない側面を後景化し，論点をずらし，仮想の議論を構築し大学入試政策の正当性を主張していく過程を確認した．ここに隠されているのは，権威者が決めたことはその正しさを検証する必要がない，という支配的イデオロギー（イーグルトン，1999）であろう．このイデオロギーはまさに支配的な社会権力による自らの利害関係を促進しまた正当化し，支配者に都合のよいやりかたでの大学入試改革への向き合い方を統一し， 英語学習のための番組制作者兼出演者およびリスナーを共犯関係に巻き込むという前提を踏まえていることが見て取れる．またこの分析結果は談話の内容がリスナーによって吟味されることがなくそのまま現実となって積み重なり，「日本人は英語がしゃべれない」（阿部，2017）や「日本の英語教育は間違っている，なぜなら日本で習った英語はまったく役に立たなかった」（斎藤，2013）という素朴信念を強化する可能性があるということを示唆する．

参考文献

阿部公彦 （2017）．史上最悪の英語制作―ウソだらけの「4 技能」看板 ひつじ書房

イーグルトン，テリー （1999）． イデオロギーとは何か（大橋洋一訳） 平凡社.

堀口純子 （1997）．日本語教育と会話分析 くろしお出版.

メイナード泉子 （1992）．会話分析 くろしお出版.

西口光一（2013）第二言語教育におけるバフチン的視点 ― 第二言語教育学の基盤として くろしお出版

越智康詞･酒井真由子(2018).テレビメディアにおける教育世論の構成と教育政策 信州大学教育学部研究論集 12, 17-36.

大曽美恵子 （2005）．終助詞「よ」「ね」「よね」再考―雑談コーパスに基づく考察 鎌田修・筒井通雄・畑佐由紀子・ナズキアン富美子・岡まゆみ（編） 言語研究の新展開：牧野成一教授古稀記念論集 ひつじ書房 pp. 3-15.

斎藤兆史 （2013）．もう一度英語教育の原点に立ち返る 大津由紀雄・江利川春雄・斎藤兆史・鳥飼玖美子 （2013） 『英語教育、迫り来る破綻』ひつじ書房 pp. 29-50.

Tannen, D. (1984). Conversational style: Analyzing talk among friends. New York:Oxford University Press.

築地達郎（2013）.文部科学省の高等教育政策過程におけるマスメディア報道との相互作用 龍谷大学社会学部紀要 43, 54-63.

Van Leeuwen, T. (1999). *Speech, music, sound.* Basingstoke: Macmillan.

話題の終結と開始のための相互行為

ーマルチモダリティーの観点からの分析ー

大谷麻美(京都女子大学)

1. はじめに

会話における話題の展開には，流れるように連鎖しながら話題が移り変わる「切れ目ないトピック推移」と，明確に話題を区切りながらすすむ「境界づけられたトピック推移」とが見られる(串田，1997)．大谷 (印刷中) は，日本語とオーストラリア英語の会話の話題展開方法を調査し，日本語では，オーストラリア英語と比較して「境界づけられたトピック推移」の頻度が非常に高いことを指摘した．そこで本稿では，日・英語の話題展開方法の対照研究の一環として，日本語の「境界づけられたトピック推移」が会話参加者間でどのように成し遂げられるのかを，視線とうなずきに焦点を当てて分析する．

2. 先行研究と本研究の目的

Schegloff (2007) は，話題の終結の基本的な形式が次のような 3 ターンから構成されると指摘する．1)発案者からの要約，評価，ジョークなどを用いた話題の終結の提案，2)受け手による何らかのアクションによる終結への同調，3)発案者による終結の合図．また，このような境界づけられた話題の終結部に頻繁に見られる言語的特徴については，長い沈黙やポーズ，声の調子の変化，文脈転換を明示する表現，相手の発話の繰り返し・あいづち・笑いだけ等の限られた反応，まとめや評価の発話などが指摘されている(e.g., Reichman, 1978; メイナード, 1993; Schegloff, 2007)．

しかし実際の日本語会話データの話題終結部には，Schegloff の提示する 3 ターンが現れない事例や，先行研究ではほとんど指摘されていない視線やうなずき等の身体動作が関与していると思われる事例も見られる．そこで本稿では，特に視線とうなずきが話題終結に大きく機能していると思われる事例を取り上げ，そこで見られる相互行為の特徴を記述する．

3. データ

本調査では，日本人の男性 3 人 1 組の初対面会話，8 組をデータとして用いる．各会話は 30 分で合計 4 時間分である．会話参加者はいずれも 20 代の大学生，大学院生で，本会話実験のために集められ，会話相手とは会場で初めて出会った者同士である．教授宅のホームパーティーで出会ったという設定のみを定め，会話テーマは特に定めずに自由に会話を行った．会話は録音，録画し，そのトランスクリプトと映像を用いて分析を行った．

4. 分析と考察

本データの中では，話題の終結部で相手から視線をそらす動きが頻繁に見られ，その動きが話題の終結を示唆する重要な役割を果たしていると考えられる事例がいくつも見られた．以下では，話題の送り手が視線をそらすことで自ら話題を終結に導く事例と，話題の受け手が視線をそらす事で終結に導く事例の 2 つを検討する.さらにその反例として，視線による示唆を行わないまま話題の終結と新話題の導入を行ったために，会話相手に戸惑いを与えた事例を検証する．

4.1 話題の送り手からの視線そらしによる終結の事例

例 1 では，J36 が主たる情報の送り手となり，自分の研究内容，特に統計データに補正をかけることについて話している.しかし 06，07 行で会話は途切れがちになり，07 行で話題は終結し，08 行からは J42 の所属学部についての新話題が展開される．先行話題が終結するプロセスとしては，05 行の J42 のあいづちに対して，情報の送り手である J36 が 06 行で「はい」としか答えず 2.3 秒の沈黙が生じる．この J36 の最小限の反応は，Schegloff の指摘する話題終結への 1 つ目のターンである終結の提案と考えることができる．しかしそれに対して他の 2 人からは何の発話もなく，J36 は一旦終結しかけた話題についてさらに 07 行で情報を付け足している（「その補正できるモデルっていうのもあるので」）．それに対しても，情報の受け手である J40，J42 からは何の反応もなく，1.4 秒の沈黙の後に J42 が新たな話題を開始する．

この旧話題の終結と新話題の開始の流れは，発話だけに着目すると，07 行の J36 の発話の後に，他の参加者達の言語

的反応がないまま新話題へと進んでいる点からも，Schegloff の 3 つのターンを踏まないかなり強引な話題の移行に見える.しかし，参加者達の視線に着目すると，発話には現れないものの，参加者たちが視線で話題終結の同意をとりあっていることがうかがえる．J36 は，06 行で「はい」といいながら視線を下に向けている．話題の主たる送り手である J36 が視線を下げるということは，視線で次の話者を選択しないということになり(e.g., Lerner, 2003; 榎本・伝, 2003)，自らこの話題から撤退することを示唆し，Shegloff の 1 つ目のターン，つまり話題終結の提案となっていると考えられる.それに引き続いて J40 も 06 行後半ですぐに視線を落としている．これは 2 つめのターン、つまり J36 の提案に同調してこの話題からの撤退に同意を示したと考えられる．07 行で J36 が情報を付加した際，J40 はすぐに話し手である J36 に視線を向けるが，J36 が一瞬 J42 を見た以外は視線を上げない様子を確認して再度目線を下げる.ここでは Schegloff の 1-2 のターン(終結の提案と同意)が再度繰り返されたと考えられる. このように, 主たる情報の送り手 J36 の視線そらしを契機に、視線による話題終結の相互行為が達成されたと解釈することができよう．

さらに, このような視線の動きに加え, 会話参加者達のうなずきも話題の終結を示唆していると考えられる. J36 は 06, 07 行で自らの発話の後に繰り返しうなずいている．特に 07 行では，J36 のうなずきの後すぐに，J42 も同調するようにうなずき始めている．06，07 行のいずれでも視線をそらしながらうなずくことで，J36 はそれ以上この話題について話す事が無いことを身体行動で示したと考えられる．そのためこのうなずきも話題の終結の提案と解釈でき、07 行の J42 の同調するようなうなずきは，提案への同意と見なすことができよう．

(例 1)　No.67　((J36 が自分の研究テーマについて話しており，統計結果に補正をかける説明をしている))

```
01   J42：  補正をかけるという↑＝
02   J36：  ＝そうですね．  補正をかけるためにどういう，
03   J42:  うん

04   J36：  その前に日本人はレスポンススタイルというのがあるのかっていうのを＝
     J36GZ 42-----------------------------------------------40----
     J40GZ 36-------------------------------------------------------
     J42GZ down---36-----------------------------------------------

05   J42：  ＝なるほど．
     J36GZ (40)----
     J40GZ (36)----
     J42GZ down--- ND3
```

```
06   J36：  はい．  (2.3)
     J36GZ down----ND7
     J40GZ (36)-down--
     J42GZ 36----------

07   J36：  ま  あ：  その補正：す  できるモデルっていうのもあるので．  (.7)  はい．  (1.4)
     J36GZ down-------------------------------42----down------ND7
     J40GZ (down)---36-----------------------------------down-------
     J42GZ (36)-----------------------------------------------------ND3

08→  J42：  じゃ  え::と  ぼくは まあ あ: 英文科なんですけれども,
     J36GZ (down)----------42-------------------------
     J40GZ (down)-42-------------------------------down
     J42GZ (36)--------------------40-------------------

09         まあ文学は全くやっていないので,
     J36GZ (42)--------------------
     J40GZ 42----------------------
     J42GZ down-40-----------------
```

4.2 話題の受け手からの視線そらしによる終結の事例

一方，視線を用いた話題終結の提案は，情報の受け手の側から行われることもある．例 2 では，3 人の中で唯一理系の研究を行っている J40 が，他の参加者に求められて理系学部しかもたない大学について説明をしている.しかし 07 行でその話題は打ち切られ、08 行からは J40 の修士論文のテーマについての新しい話題が導入される．J40 が理系大学の名前を次々に挙げ説明を行う(01－03 行)のを聞いていた J37 は，04-05 行で「(理系専門の大学が) あるんですか　そんなに. 全然知らなかった. そっか」と反応するものの，その発話の途中で視線を J40 から下にそらして目をこすり始める (04-05 行)．それを受けて情報の送り手である J40 もすぐに視線を下に向け(04 行)，引き続いてもう一人の受け手である J35 も

視線を下にそらす(05 行). J37 は 05 行目の最後で一瞬 J40 に視線を向けるものの左に視線をそらし，そのまま顔を上げることはなかった．ここでは J37 の視線そらしが話題終結の提案となり，それに続いて J40，J35 も視線をそらすことでその提案に同調し，円滑に話題は終結される．08 行目で J37 が次の新たな話題（J40 の修論のテーマ）を開始することで，全員の視線は再度互いに向き合い，次の話題が展開してゆく．

(例 2) No.70 ((J40 が理系の大学について話している))

```
01  J40： 工学院とか．
02  J37： あ：工学院もそうか．

03  J40： 電通とかも，いろいろありますね．理系しかない大学は．
    J35GZ  40----------------ND3-down-----------
    J37GZ  40----------------ND-----------------
    J40GZ  37-----------------------------------

04  J37： ああ：  あるんですかそんなに．
    J35GZ  40-----------------
    J37GZ (40)---------down---
    J40GZ (37)-------------down

05  J37： あ  全然知らなかった．(1.7)゜そっか．゜ (3.4)
    J35GZ (40)-------------------down---------
    J37GZ (down)-(( 目をこする ))-----------40---
    J40GZ (down)-----------------------------

06  J35： うん．
    J35GZ (down)+
    J37GZ left---
    J40GZ (down)+

07  J40： うん  そうっすね．(1.7)
    J35GZ (down)----------
    J37GZ (left)--------40
    J40GZ (down)—ND-------

08→J37： 修論は  もう  決まってるんですか↑  ゜書くことば
   J35GZ 37----------------------40-----------
   J37GZ (40)---------------------------------
   J40GZ (down)-37----------------------------

09  J40： いや，分かんないっすね  hhh
   J35GZ (40)-------------------
   J37GZ (40)-------------------
   J40GZ 37---------------------
```

J40　　J35　　J37

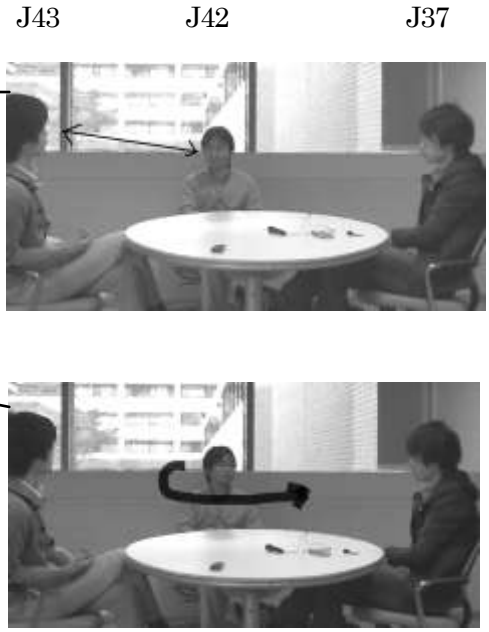
4.3 話題終結の合意がとられない事例

一方，上記の例とは逆に，発話，視線のいずれにおいても話題終結の合意がとられないまま新話題が導入され、相手が戸惑いを見せる例を見てみよう．例 3 は，J42 が非常勤先の大学での採用の際に模擬授業があったという話をしている途中で，J37 によりかなり唐突に新話題が導入される事例である．J42 は模擬授業について話しており，J37 は常に伏し目がちに聞いている(01-09 行)．この J37 の視線配布は話題の終結を提案しているのかもしれないが，J42，J43 はほとんど視線をそらさずに相手を見ながら話しており(04-09)，また、発話にも話題終結部の特徴が現れていないため，話題の終結に合意ができているとは考えにくい．実際，09 行の最後に J42 は J37 に視線を向けて彼を次の話者として指名しているので，J37 のコメントなどを期待していたのだろうと推測できる．それにも関わらず，10 行で J37 が学費に関する新話題を開始したため，J42 は一瞬戸惑った表情で J37 を直視して「え 学費」と上昇音調で問いかけている（11 行）．これは，話題終結のための 3 ターンもとられず，また，視線による終結の合意もとられないままの話題終結と新話題の導入が行われたことに J42 が戸惑ったためであると考えられる．

(例 3) No.68 ((J42 が非常勤先の面接で模擬授業があることを話している))

```
01  J37： へ:::: 模擬授業なんてあるんですね．
02  J42： そう．(1.1) 模擬授業ですよ．
03  J37： あ::
```

```
04  J42：  ま 特に 僕は英文科なんで どちらかというとその
    J37GZ  away------------------------ down---
    J42GZ  down-----43---------------away------
    J43GZ  42---------------------------------

05  J42：  自分の専門というのはまず 語学の英語を
    J37GZ  (down)------------------42----
    J42GZ  43--------------------------
    J43GZ  (42)------------------------

06  J42：  教えられるかどうかっていうのが ま [わりと]
07  J37：                               [うんうん]
08  J43：                               [う:::ん]
    J37GZ  down-------------------------------
    J42GZ  (43)-------------------------------
    J43GZ  (42)-----------------------------away

09  J42：  重要になってくると思うんで ま あるかな っていう.
    J37GZ  (down)-----------------------------
    J42G   (43)---------------away----------37---
    J43GZ  42--------------------------37--42----

10→J37：  ふ::ん (1.5) 学費とかどうしてます↑
    J37GZ   42-------------------------
    J42GZ  (37)-------------------------
    J43GZ   37-------------------------

11  J42：  え↑ [学費↑]
12  J37：      [学費] 学振とか取ってますか↑
    J37GZ  (42)----------------------
    J42GZ  (37)----------------------
    J43GZ  42------------------------
```



5. まとめ

本稿では，日本語会話における話題終結には，Schegloff の指摘する終結のプロセスが発話だけではなく，視線配布やうなずきによっても遂行される事例があることを示した．会話参加者達は，話題終結の 3 つのターンに準ずる働き，特に話題終結の提案と同調を，視線を用いて行うことで話題終結と新話題の開始の合意をとっていた．逆に，発話も身体動作も使用せずに話題終結と新話題の導入を行えば，参加者の間に戸惑いを引き起こすことも示した．話題終結部でのこれら身体動作についてはほとんど注目されてこなかったが、発話と同様に非常に重要な機能を果たしていることを指摘できた．

本論は，日・英語の話題展開の対照研究の一環で，日本語に顕著な「境界づけられたトピック推移」の特徴を明らかにするためのものである．従って今後は，このような視線やうなずきの使用が英語にも見られるのか，日本語にこのような「境界づけられたトピック推移」が多用される理由などを明らかにしていく必要がある．

参考文献

榎本美香・伝康晴 (2003). 3 人会話における参与役割の交替に関わる非言語行動の分析　言語・音声理解と対話処理研究会, 38, 25-30.

串田秀也 (1997). 会話のトピックはいかに作られていくか　谷泰(編) コミュニケーションの自然誌 新曜社 pp.173-212.

Lerner, G. H. (2003). Selecting next speaker: The context-sensitive operation of a context-free organization. *Language in Society*, 32(2), 177-201.

メイナード泉子, K. (1993). 会話分析 くろしお出版

大谷麻美 (印刷中). 日・英語の初対面会話における話題の連鎖と展開: 共-選択の観点からの分析　社会言語科学, 21(1).

Reichman, R. (1978). Conversational coherency. *Cognitive Science*, 2 (4), 283-327.

Schegloff, E. A. (2007). *Sequence organization in interaction.* Cambridge: Cambridge University Press.

【付録】

J35GZ：視線の送り手,　　40----：視線の送り先と期間,　(40)-- :視線の送り先が前行から継続している場合

ND：うなずき,　　ND7：うなずきの回数

感情を表す「さ名詞」と「み名詞」について

加藤恵梨(大手前大学)

1. はじめに

本研究の目的は,「かなしさ」「かなしみ」,「くるしさ」「くるしみ」,「たのしさ」「たのしみ」,「おもしろさ」「おもしろみ」を分析対象とし,感情を表す名詞において,接尾辞「ーさ」がつく「さ名詞」と,接尾辞「ーみ」がつく「み名詞」にどのような違いがあるのかを明らかにすることである.また近年,Twitter などで従来使われてこなかった「さびしみ」「つらみ」といった「み名詞」が多用されている.このような新しい「み名詞」の使われ方についても分析する.

2. 先行研究の記述と検討

まず,接尾辞「ーさ」と「ーみ」の基本的な機能について,影山(1993)の記述にそって確認する.影山(1993)が述べているように,形容詞を名詞に変える接尾辞「ーさ」は「甘さ,深さ」のように単純基体にも,「甘酸っぱさ,奥深さ」のように複合基体にも付くが,他方,「甘み,深み」などに見られる接尾辞「ーみ」はごく限られた形容詞にしか付かず,とりわけ「*甘酸っぱみ」や「*奥深み」のような複合基体に付くことはできないという違いがある.

次に「ーさ」と「ーみ」の意味の違いについて庵ほか(2001)を見ると,庵ほか(2001)は,「ーさ」は形容詞について程度を表す名詞を作り,「ーみ」は形容詞のあとについて「そういう性質を持っている部分」といった意味の名詞を作ると述べている.また,「ーさ」と「ーみ」の両方が存在する場合について,「高さ(尺度)―高み(高いところ)」「深さ(尺度)―深み(深いところ)」のように対立がはっきりした組み合わせもあるが,「楽しさ―楽しみ」「苦しさ―苦しみ」「悲しさ―悲しみ」など大きな意味の違いがない組み合わせもあると記述している.

さらに,杉岡(2005)は「ーみ」の意味について,「ーみ」という接尾辞が固有に持つ意味は「具体的な感覚」であり,ある種の感覚に言及することが必要になったときに,その感覚の原因となる属性を表す語に「ーみ」を付加することで,その感覚に名前をつけると説明している.

上の先行研究の記述を検討すると,庵ほか(2001)は,「楽しさ―楽しみ」「苦しさ―苦しみ」「悲しさ―悲しみ」などは大きな意味の違いがないと述べているが,大きな意味の違いがないのであろうか.実例を見ると,両語が置き換えられないものがある.よって以下では,「かなしさ」「かなしみ」,「くるしさ」「くるしみ」,「たのしさ」「たのしみ」,「おもしろさ」「おもしろみ」について分析し,分析結果をもとに,感情を表す「さ名詞」と「み名詞」の違いについて述べる.

3. 分析

3.1 「かなしさ」と「かなしみ」について

はじめに「かなしさ」の例をご覧いただきたい[1].

(1) ニュースで見る裁判の風景にはよく眼鏡をかけた表情の硬い裁判官が映し出される.その表情を見るたび思ってきた.彼らに情や貧しさや痛みがどれほど届くのだろうかと.人間の悲しさ(??かなしみ)愚かさをどれほど自分のものとして見られるだろうかと.　(PB43_00325　遥洋子『働く女は敵ばかり』)

(2) 毎日の生活の中で,保育者は子どもにとって保護者の次に頼りにしている存在だと言っても,過言ではありません.その保育者から,マイナス感情をストレートにぶつけられる悲しさ(??かなしみ)を考えてみましょう.
(PB33_00599　実著者不明『見過ごさないで!子どもたちのSOS　虐待から子供を守り,保護者を支えていくために』)

(1)と(2)の「かなしさ」を「かなしみ」に置き換えると不自然な表現になる.まず(1)の「かなしさ」は,人間一般が持つ,人々が「かなしい」と感じるような性質を表している.「かなしさ」が表しているのは個人的感情ではないということは,文中にある「人間の悲しさ愚かさをどれほど自分のものとして見られるだろうか」という表現からも分かる.続い

[1] 以下で挙げている用例は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からのデータである.

て(2)は，保育者からマイナス感情をストレートにぶつけられることで子どもたちがどのように感じているかを人々が推測し，子どもたちが抱いているであろう感情を「かなしさ」と表している．このように(1)と(2)は，ある事物に対して人々が一般的に抱く感情を「かなしさ」と表している．

次に「かなしみ」の例をご覧いただきたい．

(3) 私はうらみはしない．しかしせめてあと，二，三ヶ月後，あなたの婚約を知りたかった．自分の悲しみ（??かなしさ）が少しは癒えてから．　(PB19_00535　石垣用喜『石垣島失踪事件』)

(4) （前略）けれども人間は人間を思いやることはできる．他人の悲しみ（??かなしさ）を悲しみ，他人の喜びを喜ぶことは出来る．　(LBt9_00210　瀬戸内寂聴『寂聴人は愛なしでは生きられない』)

(3)と(4)の「かなしみ」を「かなしさ」に置き換えると不自然な表現となる．(3)の「かなしみ」は好きな人が婚約したことで感じる「かなしい」という感情を表し，(4)の「かなしみ」は個々人が感じている「かなしい」という感情を表している．このように，「かなしみ」は個々人が感じる感情を表している．

以上から，「かなしさ」はある事物に対して人々が一般的に抱く感情を表すのに対し，「かなしみ」は個々人が感じる感情を表すと言うことができる．

3.2　「くるしさ」と「くるしみ」について

まず「くるしさ」の例をご覧いただきたい．

(5) 無名の女優は，水圧と呼吸の苦しさ（??くるしみ）に耐えかねて顔を歪める度に，演技をやり直さなくてはならなかった．　(LBp9_00048　服部真澄『龍の契り』)

(6) 肩が凝りますと，その部分はそれこそもう石のように固くなりました．じっと立っていることができないくらいそれは苦しいのですが，横になればなったでやはり苦しいのです．昔何かの本で，狭い木の箱に何年も人を閉じ込めておく中国の刑罰の話を読んだことがありますが，その苦しさ（??くるしみ）はおそらくこんな感じのものだっただろうと私は想像しました．　(0B4X_00138　村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』)

(5)と(6)の「くるしさ」を「くるしみ」に置き換えると不自然な表現となる．まず(5)の「くるしさ」は，水圧で呼吸がまともにできないことで生じる肉体的苦痛を表している．続いて(6)は，自身の肩凝りの「くるしさ」と，狭い木の箱に何年も閉じ込められていた人の「くるしさ」を同じようなものだろうと想像している．よって，(5)と(6)の「くるしさ」はともに肉体的苦痛を表しており，人々が同じような体験をすることで，ある程度共有できるものであると考えられる．

次に「くるしみ」の例をご覧いただきたい．

(7) 自らの存在に絶望している人は，いつも不満で，いつも苛立っている．そして苦しみ悩むしかない自分の人生を嘆きつつ，人をうらんでいる．この苦しみ（??くるしさ）に耐えなくてはいけないのなら，いっそう死んでしまったほうがいいとさえ思う人もいる．中には苦しみ（??くるしさ）を訴えつつ，人をうらみつつ，本当に自殺する人もいる．　(LBp1_00006　加藤諦三『苦しくても意味のある人生』)

(7)の「くるしみ」を「くるしさ」に置き換えると不自然な表現になる．(7)はある人が「いつも不満で，いつも苛立っている」こと，また「自分の人生を嘆きつつ，人をうらんでいる」ことを「くるしみ」と表現している．このように，「くるしみ」は精神的苦痛を表す．また，「くるしみ」が表す精神的苦痛は個々人によって異なるため，他人に知らせたいときは「苦しみを訴え」る必要がある．

以上から，「くるしさ」は肉体的苦痛を表し，「くるしみ」は精神的苦痛を表すと言うことができる．また，「くるしさ」は同じような体験をすることによって人々とある程度共有できるが，「くるしみ」は個人的感情であるため共有することが難しい．

3.3　「たのしさ」と「たのしみ」について

まず，「たのしさ」の例をご覧いただきたい．

(8) 子どもたちが，実験などを通じ，科学の楽しさ（??たのしみ）を体験できる機会もたくさんあります．
（OP41_00005　『市政だより（中原区版）』）

(9) 「今後も教材の改良・開発等を続けながら，子供たちに物づくりの大切さと楽しさ（??たのしみ）を伝えていきたいです．そして，創造性豊かな人材が仙台からたくさん羽ばたいていってほしいですね」と，これからの活動を考えるお二人でした．　（OP07_00001　『市政だより青葉区版』）

(8)と(9)の「たのしさ」を「たのしみ」に置き換えると不自然な表現となる．まず(8)は，「科学の楽しさを体験できる」とある．これは，実験などを通じて多くの人が科学に対して「たのしい」と感じることを「たのしさ」と表している．また，(9)に「物づくりの大切さと楽しさを伝えていきたい」とある．このように，物づくりを体験することで多くの人が「たのしさ」を感じるようになれば，「たのしさ」は物づくりの属性となる．

次に「たのしみ」の例をご覧いただきたい．

(10) 朝早くから夜遅くまで働き通しの生活の中で，この有線放送は酪農家にとって，唯一の楽しみ（??たのしさ）でもあった．　（PB56_00106　河合知子『北海道酪農の生活問題』）

(11) 毎日の楽しみ（??たのしさ）は？
１日の疲れをいやす晩酌ですね．病院の先生から，肝機能が低下しているので，少し控えるように言われていますが，体と相談しながら適当に飲んでいます．　（OP95_0002　『市政だより天草』）

(12) どんな楽しみ方でもいいし，楽しみ（??たのしさ）は一つでなくてもいい．とにかく何か楽しみ（??たのしさ）を見つけて歩き始めると，いつの間にか歩くことそのものが楽しみ（??たのしさ）になってくる．楽しみ（??たのしさ）はつぎつぎに変わっていくが，歩く楽しみ（??たのしさ）は変わらないということになれば，本物だ．歩いていると，楽しみ（??たのしさ）はどんどんと広がっていく．
（PB54_00120　大島清『歩く人はなぜ「脳年齢」が若いか？』）

(10)から(12)の「たのしみ」を「たのしさ」に置き換えると不自然な表現となる．まず(10)は，働き通しの生活の中で，酪農家にとっての唯一の「たのしみ」が有線放送を聞くことであると述べている．続いて(11)の話し手の「たのしみ」は，「１日の疲れをいやす晩酌」である．さらに(12)は文中に「楽しみは一つでなくてもいい」「楽しみを見つけて」とあるように，「たのしみ」は個々人が見つけることであり，複数あっても良い．また文中に「楽しみはつぎつぎに変わっていく」「楽しみはどんどんと広がっていく」とあることから，「たのしみ」は個人的感情に左右されやすく，対象が変化したり，範囲が広くなったりすることが分かる．

以上から，「たのしさ」はある行為を通して多くの人が共通して感じることができる感情であるのに対し，「たのしみ」は個々人が見つけることであり，個人的感情によって「たのしみ」を感じる対象が変化したり，範囲が広くなったりするという違いがある．

3.4　「おもしろさ」と「おもしろみ」について

まず「おもしろさ」の例をご覧いただきたい．

(13) この２人も，別に顔が面白いわけでもなく，キャラが立ってるわけでもなく，特異な動きをするわけでもない．ほんと，話だけで笑わせてくれるから好き．地味なコンビだけど，普遍的な面白さ（??おもしろみ）があるような気がするなあ．　（OY04_05902　Yahoo！ブログ）

(14) スタイル風に赤地錦織帯を合わせて，ノスタルジックなコーディネートをしていますが，白地や落ち着いた帯を合わせれば，今のきものと変わらない雰囲気になります．ただし大胆な面白さ（??おもしろみ）が半減します．その意味で母娘で共有しても同じものには見えないことが，このきものの魅力です．
（PM41_00602　大内順子『きものサロン（家庭画報特選）』）

(15) ４年生のある日，ふれあいの里の水をはった田んぼをのぞき込んだところ，たくさんのカブトエビをみつけた．その動きの面白さ（??おもしろみ）に惹かれ何度もふれあいの里に足を運んだり家の近くの田んぼをのぞき込んだりしていた．　（PB53_00062　児島邦宏（監修）『才能を伸ばす』）

(13)から(15)の「おもしろさ」を「おもしろみ」に置き換えると不自然な表現となる．(13)は「普遍的な面白さがある」

と述べられている．これは，このコンビの漫才やコントを見て誰もが「おもしろい」と感じるように，このコンビには人々が「おもしろい」と感じる要素が備わっていることを「おもしろさ」と表している．続いて(14)は，今のノスタルジックなコーディネートを変えてしまうと「面白さが半減します」とある．このことから，きものの大胆なコーディネートを見て「おもしろさ」を感じている．さらに(15)は，カブトエビの動きに「おもしろさ」を感じている．このように(13)から(15)は，ある事物の外的要素に「おもしろさ」を感じている．

次に「おもしろみ」の例をご覧いただきたい．

(16) （前略）そうすれば仕事中は面白み（??おもしろさ）がないと思っていたのに，立場を忘れた飲み会で急に意気投合したり，恋に発展したりということがきっと起こるはず．　（PM21_00389　鏡リュウジ『an・an』）

(17) （前略）つまり子ども心が決定的に不足しています．これではユーモアどころか，面白み（??おもしろさ）のない堅物人間そのものです．この結果生じる生きグセは，イライラして怒りっぽいことです．他人が少しでも意に染まないことをすれば，とたんに怒り出すのです．これでは人間関係も円満にはなり得ません．
（PB11_00071　芦原睦『心療内科医がすすめる自分に出会う心理テスト』）

(16)と(17)の「おもしろみ」を「おもしろさ」に置き換えると不自然な表現となる．まず(16)は，ある人のことを「おもしろみがない」と思っていたが，飲み会で話をすることで「意気投合したり，恋に発展したり」するとある．よって，(16)の「おもしろみ」は人の内面的魅力を表している．続いて(17)も，「子ども心が決定的に不足」している人を「面白みのない堅物人間」と表していることから，「おもしろみ」は人の内面的魅力を表している．(16)と(17)から，「おもしろみ」はある事物の内部要素に対する感情であると言うことができる．

以上から，「おもしろさ」はある事物の外的要素に抱く感情であるのに対し，「おもしろみ」はある事物の内部要素に抱く感情であるという違いがある．

3.5. 感情を表す「さ名詞」と「み名詞」のまとめ

以上の分析から，感情を表す「さ名詞」と「み名詞」について次のようにまとめることができる．

「さ名詞」は，「ある事物に対して人々が一般的に抱く感情で，他の人とある程度共有できる」「身体に伴う感情」「ある事物の外的要素に感じる感情」を表す．

一方の「み名詞」は「個人的感情であるため，共有することが難しい」「精神に関わる感情」「ある事物の内部要素に感じる感情」を表す．

4．新しい「み名詞」―「さびしみ」と「つらみ」について

近年 Twitter などで，従来使われていなかった「み名詞」が使われている．「さびしみ」と「つらみ」も新しく使われるようになった「み名詞」で，次のような表現が見られる[2]．

(18) かまってください，さびしみが深いです．
(19) 前めっちゃ絡んでたのに最近ご無沙汰でさびしみがつよい．
(20) 席替えとかつらみの極み

(18)から(20)のように，「さびしみ」や「つらみ」は「深い」「つよい」「～の極み」といった表現と一緒に使われることが多い．新しい感情を表す「み名詞」も個人的感情を表し，他人と共有することが難しいものである．このことから，新しい「み名詞」は用法については新しいが，表す意味は従来の「み名詞」と異ならないと言うことができる．

参考文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）．中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック スリーエーネットワーク
影山太郎（1993）．文法と語形成 ひつじ書房
杉岡洋子(2005)．名詞化接尾辞の機能と意味 大石強・豊島庸二・西原哲雄(編) 現代形態論の潮流 くろしお出版 pp. 75-93.

[2] (18)から(20)は作例である．

国語辞典の意味記述と社会状況の変化
－「聾者」とその関連語の場合－

岡田 祥平（新潟大学）　入山 満恵子（新潟大学）　中井 好男（同志社大学）

1. はじめに

国語辞典における「手話」「公用語」という語の意味記述の変遷を素描した都染 (2011) は以下のような一節から始まる.

> ことばは生きており，常に変化を続けている．したがって，辞書（本稿では断らない限り「国語辞典」を指す）もその変化を追って改訂を続けている.
>
> 一方，語（辞書における項目）自体の意味・用法は大きく変化していないが，社会状況の変化に伴って辞書の記述内容が変化してくる場合がある.

そのうえで，都染 (2011) では，各種国語辞典（以下，辞典）おける「手話」の意味記述の変遷を紹介したうえで，「手話についての記述が決して満足とは言えない」，すなわち，「手話」を「言語」と明記している辞典が少ないと指摘している.

アメリカの言語学者ウィリアム・ストーキーが，手話は単なる身振り手振りではなく，音声言語同様，人間の言語であるという研究結果を公表したのは，1960 年のことである．それ以降，手話の言語学的研究の進展とともに，現在においては，「手話」が「言語」であるという認識は言語研究者の間では一般的になったと思われる．一方，日本社会において，「手話」が「言語」であるという認識が（言語研究者以外の）一般市民に広がるきっかけの一つとなったのは，「ろう者とは，日本手話という，日本語とは異なる言語を話す，言語的少数者である」という一節から始まる木村・市田（1995）ではなかろうか．木村・市田（1995）以降，日本社会において，「日本手話」を「聾者」の母語として位置付け，「聾」である子供（「聾児」）が自らの母語である「日本手話」で教育を受けられるようにする運動（たとえば，詳細は，小嶋 [監修]（2004; 2006）などを参照）の波が高まっていったのは，象徴的である[1].

このように考えると，（木村・市田（1995）の影響もあったのか）1990 年代後半以降，日本社会に「手話」の位置付けが変化する兆しが生まれたように思われる．そして，その社会的な状況の変化に伴って，一部辞典における「手話」の意味記述も変化した．たとえば，都染（2011）には，都染氏が各種辞典における「手話」の意味記述に着目したのは，「亀井信孝氏の『手話の世界を訪ねよう』（岩波ジュニア新書）にある，「手話」の意味記述の変遷から刺激を受け」たという記述がある（亀井 (2009) は『広辞苑』第 6 版から「手話」が「言語」であると記述されるようになったと解説している）.

以上のように，日本社会における「手話」の位置付けに少なからず影響を与えたと考えられる木村・市田（1995）であるが，木村・市田（1995）をよく読むと，木村・市田（1995）が日本社会に「位置付けの再考」を迫ったのは「手話」だけではないことに気付く．すなわち，上に引用した木村・市田（1995）の冒頭部分，すなわち「ろう者とは，日本手話という，日本語とは異なる言語を話す，言語的少数者である」という一節には，「手話」が「言語」であるということが宣言するのと同時に，「聾者」は（耳の聞こえない・不自由な人）なのではなく「日本手話を話す言語的少数者」である，と宣言しているのである．このことは，従来の日本社会における「聾者」に対する視点に再考を迫るという意味で，見落としてはならないだろう．しかし，各種辞典における「手話」の意味記述の変遷を追った都染（2011）は，「聾者」についての言及はない．また，都染氏が各種辞典における「手話」の意味記述の変遷を追うきっかけとなった亀井 (2009) も，『広辞苑』における「聾者」の意味記述の変遷には触れていない.

そこで，本発表では，「聾者」，ならびに「聾者」と類義語と考えられる「聾」と「つんぼ」の 3 語の意味が，各種辞典においてどのように記述されてきたかの変遷を素描することを試みることにした．なお，「つんぼ」を考察対象に含めたのは，各種辞典における「聾者」の意味記述を調査する過程で，（本稿末尾に付した表にまとめたとおり）意味記述に「つんぼ」とだけ与えるものも多いことが分かり，本調査においてこの語を看過することができないと判断したためである（ちなみに，「聾者」「聾」「つんぼ」の 3 語は，いずれも国立国語研究所が製作した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(前川, 2014 などを参照)でヒットした[2]）.

2. 本調査の対象とした辞典について

本調査の対象としたのは，2001 年以降に版が改められている，主に成人を対象としたと思われる辞典の初版から最新版まで，計 88 冊である．具体的な辞典名は以下の通り（辞典名のうしろに記載した丸数字は，分析対象とした版の数）.

- 小型辞典：　『岩波国語辞典』①～⑦新版，『旺文社国語辞典』①～⑪，『学研現代新国語辞典』①～⑥，『講談社国語辞典』①～③，『三省堂現代新国語辞典』①～⑤（前身の『三省堂現代国語辞典』①・②も含む），『三省堂国語辞典』①～⑦，『新明解国語辞典』①～⑦（前身の『明解国語辞典』①・改訂版も含む），『集英社国語辞典』①～③，『現代国語例解辞典』①～⑤，『小学館日本語新辞典』，『新選国語辞典』①～⑨，『明鏡国語辞典』①・②
- 中型辞典：　『広辞苑』①～⑦（前身の『辞苑』も含む），『大辞林』①～③，『大辞泉』①～②（含『デジタル大辞泉』）
- 大型辞典：　『日本国語大辞典』①・②

今回の調査で，対象を 2001 年以降に版が改められている辞典に限定したのは，前節で紹介した木村・市田（1995）が辞典の意味記述に与えた影響を調べたかったからである（辞典の改訂には最低でも数年かかるが，2001 年以降に版が改められている辞典であれば，木村・市田（1995）の社会的影響を反映させる時間的余裕があるのではないかと考えた次第である）．また，今回は

[1] 木村・市田（1995）以前にも，日本社会においては「聾者」や「手話」をめぐって様々な社会的運動が展開されてきた．しかし，「手話」を明確に「言語」と位置づけたり，「聾者」の母語は「日本手話」であるという立場を鮮明にしたりした運動は，木村・市田（1995）以前には見られなかったのではないか.

[2] ちなみに，『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(検索アプリケーション「中納言」による「長単位」検索）における各語のヒット件数は，「聾者」16 件，「聾」13 件，「つんぼ」15 件であった.

ひとまず，調査の第一段階として，小学生・中学生向けの辞典といった使用者を限定した辞典は調査の対象外とした．
なお，本稿末尾に付した表に，各辞典のどの刷を調査対象にしたかをまとめているので，詳細はそちらを参照されたい（各版の 1 刷を調査対象にしたわけではない，ということである）．

3. 調査結果

本調査の対象にした各辞典における意味記述の記述をまとめたものが，本稿末尾の表である（なお，表の意味記述の表現は基本的には原文そのままであるが，用例は割愛している．また，意味記述中の略記号は，各辞典の凡例を参照して，略さない形に戻している）．
表では調査結果を読み取れやすくすべく，各辞典の意味記述の表現を，おおよそ以下のように色分けしている．
①「耳が／の聞こえない」類の意味記述： 赤 ②「耳が／の不自由な」類の意味記述：ピンク
③「つんぼ」： 青 ④「聴覚／聴力（に）障害（が／のある／持つ）」類の意味記述： 緑
⑤「聴力を（まったく）失っている／聴力のない」類の意味記述： 薄緑 ⑥その他の意味記述： 黒
⑦文体的注記に関する注記： オレンジ（当該語・表現について，「差別的（で使用を避ける）」という注記されている場合や，他の語や表現に言い換えを推奨されている場合はオレンジゴシック体で表記）
なお，本稿末尾の表の「聾」の意味記述を示した欄で【】内に示しているのは，漢和辞典的項目の記述（「聾」という漢字の説明を施した部分）である．この漢和辞典的項目では漢字の読みに対する説明も存在しているが，表中では【】内の（ ）内には，当該辞典が「聾」という漢字に与えた「読み」を示している．
さて，本稿末尾の表からは様々な事実や傾向を読み取れるが，ここでは以下のような点を指摘したい（勿論，以下に前列挙した以外にも読み取れる事実，傾向は存在するわけではあるが，紙幅の都合上，それらについては触れないこととする）．

○「聾者」に関して

(1) 第二次世界大戦終戦前には，「つんぼ」という語への言い換えしか看取されない（なお，この時期の辞典で「聾者」を立項しているのは『辞苑』1 冊のみ）．
(2) 1950 年代から 1970 年代までは，「耳が／の聞こえない人」という意味記述と「つんぼ」という語への言い換えを併記する辞典が大半である．
(3) 1960 年代に入ると，「文章語」といった文体的な注記が散見され始める（この傾向は 2010 年代まで認められる）．
(4) 1980 年代に入ると「つんぼ」という語への言い換えは激減し，1980 年代後半からは「耳が／の聞こえない人」という意味記述が一般的になる．また，「聴覚障害者」「耳が／の不自由な人」「聴力に障害がある人」という意味記述も散見されるようになる．
(5)（部分的にせよ）「手話を用いる」という意味記述があるのは，2000 年代以降に版が改まった辞典 4 冊（『大辞林』③，『広辞苑』⑥・⑦，『三省堂』⑦）に限られる．

○「聾」に関して

(6) 1950 年代までは，「つんぼ」という語への言い換えの意味記述しか看取されない．
(7) 1960 年代から「耳が／の聞こえない人／こと」という意味記述を与える辞典も増えてくるが，1970 年代までは「つんぼ」という語への言い換えが併記されることも多い．
(8) 1980 年代以降，「耳が／の聞こえない人／こと」（あるいは「耳が／の不自由なこと／人」）という意味記述が主流になる．ただし，手話との関係性に言及した辞典は 1 冊もない．
(9) 「文章語」「改まった表現」という文体的な注記が本格的に認められるようになったのは，1980 年代に入ってからである（なお，意味記述にそのような注記を施した辞典自体は，1950 年代から認められる）．
(10) 1980 年代までは「聾」という漢字の読みとして「ロウ」と「つんぼ」の双方をあげる辞典が多かったが，1990 年以降は「ロウ」という読みしかあげない辞典が主流となる（2000 年代以降も「つんぼ」という読みをあげているのは『岩波』のみ）．

○「つんぼ」に関して

(11) 1940 年代から 2010 年代に至るまで，一貫して「耳の聞こえない人／こと」という意味記述が与えられる．
(12) 1980 年代に入り「卑語」「現在は耳が聞こえない人という」という注記が入るようになり，2000 年代になるとほとんどの辞典に「差別的な語」「使用を慎むべき」という注記が入る．
(13) 1940 年代から 2010 年代に至るまで，一貫して関連する表現が二つ程度（多くの場合，「つんぼ桟敷」と「つんぼの早耳」の二つ），言及される（なお，『広辞苑』は年を経るにつれて，言及される関連表現の数が減っていく）．
(14) 「聾者」「聾」と結びつける意味記述を記載する辞典もある（たとえば，「広い意味での類義語」として「聾者」をあげる『三省堂現代』①・②や『三省堂新現代』①～⑤，意味記述として「聾者」を採用する『大辞林』①，「聾」を「参照項目」としている『大辞林』②）．

○その他

(15) 辞典の性格上，当然のことであると言えるかも知れないが，大型辞典である『日本国語大辞典』や中型辞典では，小型辞典には見られない，専門的な知見を反映したと思われる（踏み込んだ）意味記述を与えている場合がある（たとえば，『日本国語大辞典』①の「聾」「つんぼ」，『日本国語大辞典』②の「聾」，『大辞林』③の「聾者」「聾」）．ただし，大型辞典，中型辞典であっても，すべての語について専門的な知見を反映したと思われる（踏み込んだ）意味記述を与えているというわけではない点にも，留意する必要がある．
(16) これも当然のことであるが，辞書間の意味記述のあり方が必ずしも一致していない．たとえば，上記(3)と(9)で述べたように，「聾者」と「聾」で文体的注記が施されるタイミングが異なる．
(17) 同じ辞典でおいても，意味領域が重なる部分が大きい「聾者」と「聾」で全く異なる意味記述を与えている場合も散見される（『新明解』①・②など，『大辞泉』①～②・デジタル，『明鏡』①・②，など）．

4. 考察

前節では，本調査の結果をまとめた本稿末尾の表から読み取れる事実や傾向を列挙したが，本節では，紙幅の都合上，以下の三つの点に絞って，簡単な考察を試みたい．

A： 各種辞典ける「聾者」「聾」という語に対する意味記述であるが，1970 年代までは「つんぼ」という語への言い換えをする傾向が認められる．しかし，1980 年代以降，「聾者」「聾」という語に対する意味記述として「つんぼ」という語の使用を避け，「耳が聞こえない」という表現が採用される傾向が認められる．

B： 一方，「つんぼ」という語に対する意味記述は，一貫して「耳が聞こえない」という表現を使用する傾向が認められる．同時に，1980 年代以降，「差別的な語」「使用を慎むべき」という注記が入るようになる．

C： 「ろう者とは，日本手話という，日本語とは異なる言語を話す，言語的少数者である」という木村・市田（1995）の意図を汲んだ辞典は現在においてもほとんど存在しない．

まず，A・B の点について，現代日本語における差別語に関する先行諸文献を参照しつつ，簡単に考察を行う．

趙（2015）は，「日本では，1970 年代から差別語糾弾運動が盛んに行われてきた．その結果，差別語の言い換えが徹底され，マスコミも用語規制集などを数多く出してきた」と指摘している．実際，鈴木（1975）には NHK と民放 2 局の「いいかえ集」の実例が紹介されているが，そのなかに「つんぼ桟敷」という語がある．また，郡山（2013）は，「厚生省は 1981 年 12 月，同省関係の医師法・歯科医師法など 9 つの法律に記載されていた「めくら」「つんぼ」「不具」「おし」「廃疾」の 5 つの言葉を，「不具」「廃疾」を「障害」，「おし」を「口がきけない者」，「つんぼ」を「耳が聞こえない者」，「めくら」を「目が見えない者」と改めることを決定した」という事実を紹介している．これらの事実を踏まえると，1970 年代から現代日本社会において「つんぼ」は差別的な語であるという意識が浸透していき，それが辞典の意味記述に反映したと考えるのが妥当であろう．すなわち，辞典における「つんぼ」の意味記述の変遷は，都染（2011）がいう，「社会状況の変化に伴って辞書の記述内容が変化」した例だと位置付けることができる．

次に C の点について考えたい．C は 1 節で述べた，本発表の問題意識とも深く関連する点でもある．

そもそも，本発表で取り上げた 3 語は，確実に現代日本語で使用はされているものの，使用頻度は高くはないと推定できる（註 2 も参照）．したがって，日本語母語話者であっても，たとえば「聾者」とはどのような意味の語なのかを確認するために，辞典を調べることもあろう．その際，本稿末尾の表に記したような意味記述の傾向であると，辞書を調べた人は「聾者≒耳が不自由な人」と理解してしまい[3]，結果として（木村・市田（1995）や小嶋［監修］（2004; 2006）に象徴されるような）当事者たちの「思い」が伝わらないことになるのではないだろうか．

この点に関連して，ましこ（2018）は以下のように述べている．

> そもそも中型国語辞典の権威をうたがわない人たちは，それが百科辞典に準じた責任編集で構成されたと信じ切っているだろう．（中略）だから，百科事典編纂事業と同様，準百科事典的な日本語辞典を標榜する中型国語辞典はあえてハイリスクな編集体制をとってきたことを，つよくたたえるべきであろう．しかし同時に，偏見・誤謬を大量に伝播・注入する装置と化しかねない，非常にきわどい事業だということもわすれてはなるまい．（中略）
>
> くりかえしになるが，中辞典や小辞典は，大衆的に参照される刊行物なので，専門性とは対極にある．したがって，「言語的現実をかきとめて，後世につたえる」といった記録主義（専門家集団の官僚制としての責務）にたつ必要はもとからない（中略）．
>
> その意味で（中略）中辞典以下の日用辞典は，責務として規範主義にたつべきだとかんがえる．（中略）「真の意味で被差別の当事者のみになってかんがえることなど原理的にできない」という宿命ゆえに，「まちがいない」ことだけ収録する責任をもつ，という規範主義だ．

見坊豪紀氏による『三省堂国語辞典』第 3 版の序文に象徴されるように，辞典は「鏡」である（記述的立場に立つ）べきか「鑑」である（規範的立場に立つ）べきか，辞典の編纂者は常に頭を悩ませるところであろう．しかし，今回取り上げた 3 語のうち，「聾者」「聾」という 2 語については，当事者の「思い」を汲み取るならば，（日常生活においては「耳の不自由な人」「聴覚障害者」とほぼ同義語として使用されているかも知れないが）「手話を話す言語的少数者」という「鑑」的な意味記述を採用するべきなのかも知れない[4]．というのも，上に引用したとおり，ましこ（2018）は辞典，殊「権威をうたがわない人たち」が多用する中型辞典は「偏見・誤謬を大量に伝播・注入する装置と化しかねない」と指摘しているが，逆に言うなれば，辞典は，場合によっては当事者たちにとってあるべき意味記述を「大量に伝播・注入する装置と化」することも可能だと考えられるからである．

ただ，ここで留意しなければならないのは，「聾者」や「聾」という語の場合，（日本の）当事者たちの「思い」に，必ずしも見解の一致を見ていない，という点である．1 節で見たように木村・市田（1995）は「聾者」を「日本手話を話す言語的少数者」と位置付けている．一方，「全国唯一のろう者の当事者団体」である全日本ろうあ連盟も，いわゆる「手話言語法」の制定運動に精力的に展開したりするなど，「聾者」と「手話」は切っても切れない関係にあると考えていることが窺える（https://www.jfd.or.jp/2018 年 7 月 3 日閲覧）．しかし，そもそも，当事者間で何を「手話」と見なすのかについての見解の一致を見ていないという事実（森・佐々木［編］, 2016 なども参照）を看過してはならないだろう．

付記 本研究は JSPS 科研費 17K04926，17K02718，17K02874 の助成を受けている．
謝辞 本研究の実施にあたっては，中村日海里氏（新潟大学教育学部卒業生）とのディスカッションから示唆を得た．

参考文献

江時 久（2002）．難聴，ときどき手話 第一話 ろうは差別語なのか 手話コミュニケーション研究, **43**, 38-40.
亀井信孝（2009）．手話の世界を訪ねよう 岩波書店
木村晴美・市田泰弘（1995）．ろう文化宣言 言語的少数者としてのろう者 現代思想, **23**(3), 354-362.
郡山 暢（2013）．ことばのタブーとその言い換え 國文學, **97**, 29-49.

[3] 実際，たとえば江時（2002）には，「もともと社会の認識としては，長い間，「聴覚障害」＝「聾」だった」という記述がある．
[4] たとえば江時（2002）には，「「ろう」を強引に「難聴」と表現する動きは，事実認識の流れに逆行するし，聴覚障害の理解を，ますます誤解だらけにしてしまうかも知れない」という指摘がある．

小嶋 勇［監修］・全国ろう児をもつ親の会［編］（2004）．ろう教育と言語権 ろう児の人権救済申立の全容　明石書店
小嶋 勇［監修］・全国ろう児をもつ親の会［編］（2006）．ろう教育が変わる！ 日弁連「意見書」とバイリンガル教育への提言と言語権 ろう児の人権救済申立の全容　明石書店
鈴木 均（1975）．差別語について―放送用語いいかえ集の意味するもの　思想の科学 第6次, **45**, 15-24.
趙 凌梅（2015）．日本語における差別語の定義に関する一考察　国際文化研究, **21**,141-151.
都染直也(2011)．国語辞典における意味記述の社会言語学的考察(1)ー「手話」「公用語」ー　甲南大学紀要文学編, **161**,15-22.
前川喜久雄［監修］・山崎 誠［編］（2014）．講座日本語コーパス 2.書き言葉コーパスー設計と構築　朝倉書店
ましこ・ひでのり（2018）．差別とことば 国語辞典で差別語はどうあつかうべきか　世界, **909**, 212-217.
森 壮也・佐々木倫子［編］（2016）．手話を言語と言うのなら　ひつじ書房

表　各種国語辞典における「聾者」「聾」「つんぼ」の意味記述一覧

年代	辞典名	版	1刷出版年	参照した刷	参照した刷の発行年	「聾者」の意味記述	「聾」の意味記述	「つんぼ」意味記述	関連する表現数
戦前	辞苑		1935	1版	1935	つんぼ。	つんぼ。みみしひ。	耳の聞こえぬこと。耳の聞こえぬ人。みみしひ	9
	明解	初版	1943	復刻版	1997	[redacted]	つんぼ。	耳が聞こえない・こと（人）。	1
1950年代	明解	改定版	1952	改訂15版	1954	耳の聞こえない者。つんぼ。	[redacted]	耳が聞こえない・こと（人）。	1
	広辞苑	初版	1955	第1刷	1955	耳の聞こえない不具者。つんぼ。	つんぼ。みみしい。	①耳の聞えぬこと。またその人。みみしひ。　つんぼう。②感覚を失うこと。③煙管にやにが付いて通らないこと。④聾桟敷の略。	6
	新選	初版	1959	初版	1959	耳のきこえないひと。つんぼ。	（文語的）つんぼ。	①耳のきこえないこと・人。②感覚のにぶいこと。③きせるがつまっていること。④つんぼさじき。	2
1960年代	三省堂	初版	1960	2版	1961	［文章語］耳のきこえないひと。つんぼ。	耳のきこえない人。つんぼ。	耳が聞こえない・こと（人）。	1
	旺文社	初版	1960	初版	1960	耳のきこえない者（同意語）つんぼ	つんぼ	①耳が聞こえない人②（医学用語）聴覚器官がそこなわれ，音響が聞こえないこと	2
	岩波	初版	1963	第１刷	1963	耳が聞こえない人。つんぼ。	【（ロウ　つんぼ）耳が聞こえなくなる。不具で耳が聞こえない。みみしい。つんぼ。】	耳が聞こえないこと。また，その人	2
	旺文社	中型新版	1965	初版	1965	耳のきこえない者。つんぼ	【（ロウ　つんぼ）耳の聞こえないこと。】	①耳が聞こえない人②（医学用語）聴覚器官がそこなわれ，音響が聞こえないこと	2
	新選	新版	1966	卓上新版	1967	［文章語］耳のきこえないひと。つんぼ。	［文章語］つんぼ。	①耳のきこえないこと，また，その人。②つんぼさじき。	2
	講談社	初版	1966	初版	1966	耳の聞こえない人。つんぼ。	つんぼ。	耳が聞こえないこと・人。	2
	三省堂	新装版	1968	第1刷	1968	[文章語]耳の聞こえないひと。つんぼ。	耳のきこえない人。つんぼ。	耳が聞こえない・こと（人）。	1
	広辞苑	第2版	1969	第2刷	1970	耳の聞こえない人。つんぼ。	耳が聞こえないこと。つんぼ。みみしい。	①耳の聞えぬこと。またその人。みみしひ。　つんぼう。②感覚を失うこと。③煙管にやにが付いて通らないこと。④聾桟敷の略。	7
1970年代	旺文社	改訂新版	1970	改訂新版	1970	耳のきこえない人。つんぼ。	【（ロウ　つんぼ）耳の聞こえないこと。】	耳が聞こえないこと。また，その人。	2
	岩波	第2版	1971	第４刷	1973	耳が聞こえない人。つんぼ。	【（ロウ　つんぼ）耳が聞こえなくなる。不具で耳が聞こえない。みみしい。つんぼ。】	耳が聞こえないこと。また，その人。	2
	新明解	初版	1972	（特装版）第1刷	1972	「耳の聞こえない人」の意の漢語的表現。	【つんぼ】	耳が聞こえない・こと（人）	2
	日本国語大辞典	初版	1972		1972	耳の聞こえない人。つんぼ。聾人。	【(1)耳が聞こえない。つんぼ。(2)くらい。おろか。】両方の耳が八〇デシベル以上の難聴のこと。ほとんど耳が聞こえない。後天性のものとしてはストレプトマイシンの副作用（いわゆるストマイつんぼ），重症中耳炎などが原因となるが，先天性のもの、原因不明のものも多い。つんぼ。	①耳の聞こえないこと。また、その人。聴力障害のうち，特に重症で，日常生活に特に支障があるもの。ふつう，聴取距離が〇・五メートル以下のものをさす。みみしい。つんぼう。ろう。②キセルにやにがつまって煙の通じないこと。③「つんぼさじき（聾桟敷）」の略。④「つんぼがさ（聾傘）」の略。	23
	講談社	改訂増補版	1972		1972	耳の聞こえない人。つんぼ。	つんぼ。	耳が聞こえないこと・人。	2
	旺文社	新訂版	1973	新訂版	1973	耳のきこえない人。つんぼ。	【（ロウ　つんぼ）耳の聞こえないこと。】	耳が聞こえないこと。また，その人。	2
	新明解	第2版	1974	第1刷	1974	「耳の聞こえない人」の意の漢語的表現。	【つんぼ】	耳が聞こえない・こと（人）	2
	三省堂	第2版	1974	第1刷	1974	［文章語］耳のきこえないひと。つんぼ。	［文章語］耳の聞こえない人。つんぼ。	耳が聞こえない・こと（人）。つんぼう。	2
	広辞苑	第2版補訂版	1976	第2刷	1976	耳の聞こえない人。つんぼ。	耳が聞こえないこと。つんぼ。みみしい。	①耳の聞えぬこと。またその人。みみしひ。　つんぼう。②感覚を失うこと。③煙管にやにが付いて通らないこと。④聾桟敷の略。	7
	岩波	第3版	1979	第１刷	1979	耳が聞こえない人。つんぼ。	【（ロウ　つんぼ）肉体的な障害のために耳が聞こえないこと。その人。つんぼ。】	耳が聞こえないこと。そういう人。	2
1980年代	旺文社	新版	1980	新版	1980	耳のきこえない人。	【（ロウ　つんぼ）耳の聞こえないこと。】	耳が聞こえないこと。また，その人。	2
	新明解	第3版	1981	第24刷	1986	「耳の聞こえない人」の意の漢語的表現。	【耳が聞こえないこと。】	耳が聞こえない・こと（人）	2
	講談社	新版	1981	第7刷	1989	耳の聞こえない人。つんぼ。	つんぼ。	[卑語]耳が聞こえない人。	2
	新選	「常用」新版	1982	8刷	1985	［文章語］耳の聞こえないひと。	［文章語］耳のきこえないひと。【（ロウ　つんぼ）耳のきこえない人。】	聴力をまったく失っていること・人。［現在は，耳の聞こえない人という］	2
	三省堂	第3版	1982	第13刷	1984	［文章語］耳の聞こえない人。つんぼ。聴覚障害者。	［文章語］耳のきこえない人。つんぼ。	耳が聞こえない・こと（人）。つんぼう。	2
	広辞苑	第3版	1983	第1刷	1983	耳のきこえない人。	耳が聞こえないこと。みみしい。	①耳の聞えないこと。また，そういう人。みみしひ。つんぼう。②感覚を失うこと。③煙管にやにが付いて煙の通らないこと。④聾桟敷の略。	7
	現代国語例解辞典	第1版	1985	第27刷	1992	耳の聞こえない人。	耳が聞こえないこと。聾に唖を含め，「聾唖」の意に用いることがある。【（ロウ）耳の不自由なこと。】	耳が聞こえないこと。また，その人。聴力障害のうち，特に重症な聾の状態にあることを俗にいう。	1
	岩波	第4版	1986	第1刷	1986	耳が聞こえない人。つんぼ。	【（ロウ　つんぼ）肉体的な障害のために耳が聞こえないこと。その人。つんぼ。】	耳が聞こえないこと。そういう人。	2
	旺文社	改訂新版	1986	重版	1991	耳の不自由な人。	【（ロウ）耳の聞こえないこと。】	耳の聞こえないこと。また，その人。	2
	新選	第6版	1987	第8刷	1989	耳の聞こえない人。	耳の聞こえないこと。【（ロウ　つんぼ）　耳のきこえない人。】	聴力をまったく失っていること・人。［参考］現在は，耳の「聞こえない人」という。	2
	三省堂現代	初版	1988	第5刷	1989	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳の聞こえないこと（・人）。	耳が聞こえないこと。また。その人。［広い意味での類義語（同義語をふくむ）　聾者］	2
	大辞林	初版	1988	第1刷	1988	耳の聞こえない人。	【（ロウ）耳がきこえない。】	耳が聞こえないこと。聴覚に障害があること。また，その人。聾者。	3
	新明解	第4版	1989	第1刷	1989	「耳の聞こえない人」の意の漢語的表現。	【耳が聞こえないこと。】	耳が聞こえない・こと（人）。	2
1990年代	広辞苑	第4版	1991	第1刷	1991	耳のきこえない人。	耳が聞こえないこと。みみしい。	①耳が聞えないこと。また，そういう人。みみしい。つんぼう。②感覚を失っていること。③煙管にやにが付いて煙の通らないこと。④聾桟敷の略。	2
	三省堂	第4版	1992	第21刷	1997	［文章語］耳の聞こえない人。聴覚障害者。	［文章語］耳の聞こえないこと（人）。	耳が聞こえない・こと（人）。	1
	旺文社	第8版	1992	重版	1995	耳の不自由な人。	【（ロウ）耳の聞こえないこと。】	耳の聞こえないこと。また，その人。	2
	三省堂現代	第2版	1992	第11刷	1997	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳の聞こえないこと（・人）。	耳が聞こえないこと。また。その人。［広い意味での類義語（同義語をふくむ）　聾者］	2
	集英社	第1版	1993	第９刷（横組み版）	1994	［文章語］聴力のない人。	【（ロウ）身体上の障害で，耳が不自由なこと。】	耳が聞こえないこと。また，その人。	1
	新選	第7版	1994	第1刷	1994	耳の聞こえない人。	耳の聞こえないこと。【（ロウ　つんぼ）耳のきこえない人。】	聴力の発達が十分でないこと。［参考］現在は，「耳の聞こえない人・聴覚（力）障害者」という。	1
	岩波	第5版	1994	第1刷	1994	耳が聞こえない人。	【（ロウ　つんぼ）肉体的な障害のために耳が聞こえないこと。その人。】	耳が聞こえないこと。そういう人。	2
	学研現代新		1994	第5刷	1996	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳が聞こえないこと。	［使用を慎むべきことば］耳が聞こえない・こと（人）。	1
	大辞林	第2版	1995		1995	耳の聞こえない人。	両耳の聴覚が重度に障害されている状態。【（ロウ）耳がきこえない。】	耳が聞こえないこと。また，その人。→ろう（聾）。	2
	大辞泉	初版	1995	第1刷	1995	聴力に障害がある人。	耳が聞こえないこと。	聴力を失っていること。耳の聞こえないこと。聴覚障害。	2
	新明解	第5版	1997	第31刷	2001	「耳の聞こえない人」の意の漢語的表現。	【耳が聞こえないこと。】	耳が聞こえないこと（人）。	2
	学研現代新	改訂新版	1997	第5刷	2001	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳が聞こえないこと。	［使用を慎むことば］耳が聞こえない・こと（人）。聴力障害者。	1
	現代国語例解辞典	第2版	1997	〈2色刷〉第5刷	1998	耳の聞こえない人。	耳が聞こえないこと。【（ロウ）耳の不自由なこと。】	耳が聞こえないこと。聴力障害のうち，特に重症な聾の状態にあること。	1
	広辞苑	第5版	1998	第1刷	1998	耳のきこえない人。	耳が聞こえないこと。みみしい。	①耳が聞えないこと。また，そういう人。みみしい。つんぼう。②感覚を失っていること。③煙管にやにが付いて煙の通らないこと。④聾桟敷の略。	2
	旺文社	第9版	1998	重版	2005	耳の不自由な人。	【（ロウ）耳の聞こえないこと。】	耳の聞こえないこと。また，その人。	2
	三省堂現代新	初版	1998	第15版	2003	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳の聞こえないこと（・人）。	耳が聞こえないこと。また。その人。［広い意味での類義語（同義語をふくむ）　聾者］	2
	大辞泉	増補・新装版	1998	第1刷	1998	聴力に障害がある人。	耳が聞こえないこと。	聴力を失っていること。耳の聞こえないこと。聴覚障害。	2
2000年代	岩波	第6版	2000	第1刷	2000	耳が聞こえない人。	【（ロウ　つんぼ）肉体的な障害のために耳が聞こえないこと。その人。】	耳が聞こえないこと。そういう人。	2
	集英社	第2版	2000	第1刷	2000	［文章語］聴力のない人。	【（ロウ）耳が不自由なこと。】	耳が聞こえないこと。また，その人。	1
	三省堂	第5版	2001	第7刷	2003	［文章語］耳の聞こえない人。聴覚障害者。	［文章語］耳の聞こえないこと（人）。	耳の聞こえない・こと（人）。［差別的なことば］	1
	現代国語例解辞典	第3版	2001	〈2色刷〉第3刷	2001	聴力に障害のある人。	耳が聞こえないこと。【（ロウ）耳の不自由なこと。】	耳が聞こえないこと。聴力障害のうち，特に重症な聾の状態にあること。	1
	新選	第8版	2002	〈２色刷〉第1刷	2002	耳の聞こえない人。	耳の聞こえないこと。【（ロウ）耳のきこえない人。】	聴力の発達が十分でないこと。耳の聞こえないこと。聴覚（力）障害。	1
	日本国語大辞典	第2版	2002		2002	耳の聞こえない人。聾人。	耳が聞こえないこと。聴覚の感度が極度に低下しているか、または、完全に失われていること。後天性のもの、先天性のもののほか、原因不明のものも多い。教育関係の規定では、平均聴力が九〇デシベル以上の難聴をいうことが多く、補聴器をしてもなお音を解することが困難な程度とされている。【(1)耳が聞こえない。(2)くらい。おろか。】	(1)耳の聞こえないこと。また、その人。みみしい。ろう。つん。つんぼう。(2)キセルにやにがつまって煙の通じないこと。(3)「つんぼがさ（聾傘）」の略。(4)石材・庭石など、石をいう、盗人仲間の隠語。［補注］「つんぼ」という語、および「つんぼ」に関わる語は、聴覚障害者への蔑視観が強く、現代では障害者差別の語とされている。	22
	明鏡	初版	2002	第6刷	2008	聴覚に障害のある人。	耳の不自由なこと。	聴力を失っていること。また，耳の不自由な人を言う差別的な語。聴覚障害（者）。聴力障害（者）。耳の不自由な人。	1
	学研現代新	改訂第3版	2003	第2刷	2003	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳が聞こえないこと。	［使用を慎むことば］耳が聞こえない・こと（人）。聴力障害（者）。	1
	三省堂現代新	第2版	2004	第4刷	2004	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳の聞こえないこと（・人）。	耳が聞こえないこと。また。その人。［差別的なことば］［広い意味での類義語（同義語をふくむ）　聾者］	2
	講談社	第3版	2004	第1刷	2004	耳の聞こえない人。	耳の不自由なこと・人。	［差別的な語］耳の不自由なこと。また，その人［つんぼの早耳，つんぼ桟敷などと聴覚障害を比喩的に使って言われるが，差別的な表現］	2
	新明解	第6版	2005	第1刷	2005	「耳の聞こえない人」の意の漢語的表現。	耳が聞こえない（人）。	耳が聞こえないこと（人）。［侮蔑を含意して用いられることがある］	2
	旺文社	第10版	2005	重版	2010	耳の不自由な人。	[redacted]	聴力を失っていること。また，その人。（差別的な意がある。「つんぼの早耳」「つんぼ桟敷」といった派生語も同様）	2
	小学館日本語新辞典		2005	初版第1刷	2005	［文章語］耳の聞こえない人。	耳が聞こえないこと。	耳が聞こえないこと。差別的な語感を伴うので現在では用いない。［「つんぼ桟敷」も差別的な語感が伴うので，現在では用いない］	1
	現代国語例解辞典	第4版	2006	〈2色刷〉第1刷	2006	聴力に障害のある人。	耳が聞こえないこと。【（ロウ）耳の不自由なこと。】	耳が聞こえないこと。聴力障害のうち，特に重症な聾の状態にあること。▽「つんぼ」および「つんぼ」に関わる語は，聴覚障害者への蔑視観が強く，現代では障害者差別の語とされる。	1
	大辞林	第3版	2006	第1刷	2006	①耳の聞こえない人。②言語獲得以前より重度の聴覚障害があり，音声言語の自然な獲得が困難であった者。特に手話を母語とする者をさす。	両耳の聴覚が重度に障害されている状態。補聴器を利用しても聴覚によるコミュニケーションが難しい状態。【（ロウ）　耳がきこえない。】	耳が聞こえないこと。また，その人。	2
	三省堂現代新	第3版	2007	第1刷	2007	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳の聞こえないこと（・人）。	耳が聞こえないこと。また。その人。［差別的なことば］［広い意味での類義語（同義語を含む）　聾者］	2
	三省堂	第6版	2008	第1刷	2008	［文章語］耳の聞こえない人。聴覚障害者。	［文章語］耳が不自由なこと（人）。	耳の聞こえない・こと（人）。［差別的なことば］	1
	広辞苑	第6版	2008	第1刷	2008	耳のきこえない人。特に手話を日常言語として用いる人を言う。	耳が聞こえないこと。	①耳が聞えないこと。また，そういう人。みみしい。つんぼう。②感覚を失っていること。③キセルにやにが付いて煙の通らないこと。④聾桟敷の略。	2
	学研現代新	改訂第4版	2008	第5刷	2010	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳が聞こえないこと。	［使用をつつしむことば］耳が聞こえない・こと（人）。聴力障害（者）。	1
	岩波	第7版	2009	第1刷	2009	耳が聞こえない人。	【（ロウ　つんぼ）　肉体的な障害のため耳が聞こえないこと。その人。】	耳が聞こえないこと。そういう人。	2
2010年代	明鏡	第2版	2010	第3刷	2012	聴力に障害のある人。	耳の不自由なこと。	聴力を失っていること。また，耳の不自由な人を言う差別的な語。聴覚障害（者）。聴力障害（者）。耳の不自由な人。	1
	新選	第9版	2011	ワイド版〈2色刷〉第1刷	2011	耳の聞こえない人。	耳の聞こえないこと。	耳が聞こえないこと。聴覚（力）障害。	1
	岩波	第7版新版	2011	第1刷	2011	耳が聞こえない人。	【（ロウ　つんぼ）肉体的な障害のため耳が聞こえないこと。その人。】	耳が聞こえないこと。そういう人。	2
	三省堂現代新	第4版	2011	第4刷	2012	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳の聞こえないこと（・人）。	耳が聞こえないこと。また。その人。［差別的なことば］［広い意味での類義語（同義語を含む）　聾者］	2
	新明解	第7版	2012	第1刷	2012	「耳の聞こえない人」の意の漢語的表現。	【耳が聞こえない（人）。】	耳が聞こえないこと（人）。［侮蔑を含意して用いられることがある］	2
	学研現代新	改訂第５版	2012	第1刷	2012	［文章語］耳が聞こえない人。	［文章語］耳が聞こえないこと。	［使用をつつしむことば］耳が聞こえない・こと（人）。聴覚障害（者）。	1
	集英社	第3版	2012	第1刷	2013	［文章語］聴力のない人。	【（ロウ）耳が不自由なこと。】	耳が聞こえないこと。また，その人。	1
	大辞泉	第2版	2012	第1刷	2012	聴力に障害がある人。	耳が聞こえないこと。	聴力を失っていること。耳の聞こえないこと。聴覚障害。	2
	旺文社	第11版	2013	第11版	2013	耳の不自由な人。	[redacted]	聴力を失っていること。また，その人。（差別的な意がある。「つんぼの早耳」「つんぼ桟敷」といった派生語も同様）	2
	三省堂	第7版	2014	第1刷	2014	耳の聞こえない人。（手話を用いる）聴覚障害者。	耳が聞こえない〈こと／人〉。	耳の聞こえない〈こと／人〉。［差別的なことば］	1
	三省堂現代新	第5版	2015	第1刷	2001	［文章語］耳の聞こえない人。	耳の聞こえないこと（・人）。	耳が聞こえないこと。また。その人。［差別的なことば］［広い意味での類義語（同義語を含む）　聾者］	2
	現代国語例解辞典	第5版	2016	第1刷	2016	聴力に障害を持つ人。	耳が聞こえないこと。【（ロウ）耳の不自由なこと。】	耳が聞こえないこと。聴力障害のうち，特に重症な聾の状態にあること。▽「つんぼ」および「つんぼ」を使った語句は，聴覚障害者への蔑視観が強く，現代では障害者差別の語とされる。	1
	学研現代新	改訂第6版	2017	第1刷	2017	［文章語］耳の聞こえない人。	［文章語］耳が聞こえないこと。	［使用をつつしむことば］耳が聞こえない・こと（人）。聴覚障害（者）。	1
	デジタル大辞泉	2018年5月18日最終更新		2018年7月4日JapanKnowledge検索		聴力に障害のある人。	耳が聞こえないこと。	聴力を失っていること。耳の聞こえないこと。	2
	広辞苑	第7版	2018	第1刷	2018	耳のきこえない人。特に手話を日常言語として用いる人を言う。	耳が聞こえないこと。	①耳が聞えないこと。また，そういう人。みみしい。つんぼう。②感覚を失っていること。③キセルにやにが付いて煙の通らないこと。④聾桟敷の略。	2

※各語の意味記述における色分けについては，3節を参照.　※※黒で塗りつぶされた意味記述欄は，当該語が当該辞典に収載されていないことを表す.
※※※各辞典名にある「国語辞典」という名称は，表中の「辞典名」においては省略した.（ 例：　『岩波国語辞典』は表中では「岩波」とだけ表記）

断り場面における電子メールの書き方の相違と言語転移

馬　云霏(京都大学大学院生)

1. はじめに

近年の日本では,日常生活において電子メールは通信手段として最も頻繁に使われている.電子メールによるメッセージの伝達は,知らせ,尋ね,依頼,断りなどが挙げられる.一方,中国では,WeChatやQQを皮切りに,多くの即時通信アプリケーションがあるため,電子メールによるメッセージの伝達はあまり多くない.また,日本のように電話番号は普通プライベート情報として扱うことなく,連絡手段として相互交換されていることが多い.学校の先生や職場の上司のような人に対しても,目上であるにもかかわらず,特に添付資料がなければ,SNSで連絡を取ることが多い.このように,中国と日本の電子メールには大きな異なりがあると思われる.

日本語学習者にとって,電子メールを用いて,相手に頼むこと,また相手からの要求を断ることも少なくない.その場合には,表現の選び方,展開の流れによって断りの理由に誤解を招く可能性もあると考えられる.しかし,中国ではあまり電子メールを書かない中国人日本語学習者は,日本にいればいるほど,日本の電子メールの書き方や礼儀に慣れることが多い.こうして,文化や慣習などが中国と異なる日本に長年滞在し,日本語に堪能な学習者が中国人対象に中国語でメールを書く際,滞在している国の言語,すなわち日本語の影響を受けることがある.そして,日本語がわからない中国人にとって,文章が不自然だと思われてしまう場合もよく観察される.

中国語の場合は,当面や電話で断ることが多いが,メールで相手を断ることが少ないである.筆者の親友と筆者自身も,その経験がある.日本にいるため,中国での同窓会に参加できず,友人に中国語でメールを転送してもらい,参加を断った.しかし,転送してくれた中国の友人は,私の中国語表現には不自然な所が多く,とてもおかしく読めると指摘した.筆者の親友も,彼女の親戚へのメールを中国にいる友人に見せたが,その友人はまるで外国人が書いたものだと指摘された.身内の人や親しい人の場合ならまだしも,あまり親しくない,または目上の相手にとって,表情が読み取れない文面上のやり取りでは,相手を誤解される恐れがある.そのため,失礼にならないように文章を送り,相手に遂行させる行為に細心の注意を払うことが必要とされる.

依頼の場面において,大友(2009)は,依頼を電子メールで行う場合には,その表現の選び方,展開の仕方が依頼の目的達成に影響を及ぼす可能性が,相手の対応に応じてそれらを考えることができる対面場面よりも高いと指摘している.このように,断りの場面は,依頼の相手側になるため,マナー正しく誤解のない返答が必要であると思われる.

そして,本研究の目的は,中長期日本に滞在する中国語を母語とする日本語学習者,日本語学習歴も滞日経験もない中国語母語話者,また日本語母語話者を対象に,親しい関係の人との断り場面を想定した電子メールにおけるメールの特徴,言語転移の実態とその原因を明らかにすることである.また,学習者の母語による影響と目標言語による影響,及び中間言語語用論の特徴はどのようなものであるかについても,第二言語習得の観点から考察し,その傾向を明らかにする.

2. 方法

2.1 協力者とデータ収集

本研究では,中長期日本滞在中国語母語・日本語学習者(日本滞在歴4年以上,日本語学習歴6年以上の大学院生),中国語母語話者(大学院生),日本語母語話者(大学院生)各15名(すべてのグループも,男性7名,女性8名)に,同じく親しい関係である上下関係が異なる二つの場面(親友の授業への誘い,自分の指導教員から懇親会参加への案内)を断ることを想定したメールの文章を,中国語母語・日本語学習者は日本語と中国語,中国語母語話者を中国語,日本語母語話者は日本語で作成してもらった.さらに,3グループの協力者から各５名を抽出し,深層インタビューを行い,その発話について分析を行った.調査は2017年9月で行った.

表１　２つの断り場面

・以下の二つの場面において,あなたは「とりあえずやりたくない」と想定し,メールで相手を断ってください.断る理由は,自分なりに想像すれば結構です.
1. 親しい友達は,あなたに一つの授業を一緒に取ることを誘った.
2. 親しい先生(あなたの指導教員や担任の先生)は,あなたに講座(ゼミ)の懇親会への参加を案内した.この懇親会は,講座長(分野長)も出席予定のため,あなたの先生はあなたにぜひ出席してほしい.

2.2 データの分析方法

中間言語は,第二言語及び外国語の学習者が言語を習得する過程で生み出す言語体系であり,また学習者の頭の中のシステムとして,時間の経過に伴って変化する,母語とも目標言語とも異なる過渡的,動的な言語体系として考えられている(Selinker,1972).つまり,中国人日本語学習者が電子メールによる断る行為を行う際に用いるストラテジーは典型的な中国語でもなく,典型的な日本語でもない可能性があると思われる.そこで,電子メールによる断る行為において,中国語メールと日本語メールの特徴と相違点,また中国語話者日本語学習者の逆行転移の実態を明らかにするために,上下関係を持たせた二つの設定場面を通し,日本語学習歴も日本滞在歴もゼロの中国語母語話者(CNS)が電子メールで他人を断る際に用いるストラテジーと,日本語学習歴も日本滞在歴もある中国語話者日本語学習者(JFL)が使用するストラテジー,及び日本語母語話者(JNS)のストラテジーを整理し,それぞれを照らし合わせて分析する.

データの分析単位として,李(2008)と大友(2009)の分類, 及び王・聞(2015)が挙げている発話要素を参考にし,電子メールによる断る行為に見られる発話要素を表2のように18の要素に整理した.

表2　日中の電子メールにおける断る行為に見られる要素

発話要素	中国語例	日本語例
呼称	xx 同学 / 老师	～さん／先生
挨拶	您好 / 老师好	こんにちは
名乗り	我是 xx	私は～です
導入	感谢来信	メールありがとうございます/ご連絡いただきありがとうございます
事情描写	关于你邮件说的这件事	要件ですが/XXX についてですが/
フェイス緩和①	非常光荣/我很想参加的	とても残念ですが/とてもうれしいですが/ぜひ参加したいのですが
詫び①	非常抱歉 / 实在不好意思	大変申し訳ありませんが／恐れ入りますが
詳しい事由	我奶奶生病了我要照顾她/我第二天要考试	次の日にテストがあるため,準備しなければなりません/ 休みが取れないため,アルバイトに行かなければなりません
曖昧な事由	我那天有点私事 / 我那天不太方便	私用があるため/都合により
拒絶	我想我不能参加了/我就不去了/我应该不可以了	出席できません/参加できません
遺憾	这么难得的机会真的太可惜/很遗憾	せっかく誘ってくださいましたが
詫び②	真的很抱歉	本当に申し訳ございません.
相手の理解	希望得到您的谅解	ご理解のほどよろしくお願いいたします
フェイス緩和②	下次一定参加	またチャンスがあればぜひ参加させてください/ チャンスがあればぜひお願いします
詫び③	再次表示抱歉	再びお詫び申し上げます
祝福	祝老师工作顺利 / 身体健康	先生のご健康をお祈りします/先生のご活躍をお祈りします
よろしく表現	今后也请多关照	どうぞよろしくお願いいたします.
署名	xxx	xxx

3. データの分析

表2が示した発話要素を基づき,CNS,JFL,JNSの2のメールにおける18個の発話要素についての使用状況を集計した結果を統計した.表3,表4は,CNS,JFL,JNSのメールのサンプルと分析方法を示したものである.

表3　中国語のサンプル(中国語母語話者と中国語話者日本語学習者の例)

中国語母語話者	中国語話者日本語学習者
小A**(呼称)** 不好意思欸,**(詫び①)**我数学很差,那门课对我来说太难了.**(詳しい事由)**我还是不修了.**(拒絶)**下次要是有机会再一起上其他的！**(フェイス緩和②)**不好意思哈.**(詫び③)** (CNS005)	小A**(呼称)** 下午好！**(挨拶)** 感谢你的来信！**(導入)** 关于你说选课这件事**(事情描写)**,我觉得我这学期课太多了,有点吃不消.**(詳しい事由)**我看我这个学期就算了.**(拒絶)**不好意思啊,**(詫び②)**难得你邀请我,我却不能一起上.**(遺憾)**下次有机会再一起选吧**(フェイス緩和②)** XX**(署名)** (JFL007)
B老师**(呼称)** 老师好,**(挨拶)**我是XXX.**(名乗り)** 实在是很抱歉,**(詫び①)**那天是我奶奶的80岁生日,全家人打算为她庆祝生日,要到外面吃饭.**(詳しい事由)**因此我不能参加恳亲会了.**(拒絶)** 真的很对不起,**(詫び②)**请您谅解！**(相手の理解)**	B老师**(呼称)** 老师好**(挨拶)**,我是XXX.**(名乗り)** 感谢老师的通知.**(導入)** 关于恳亲会,**(事情描写)**非常抱歉.**(詫び①)**我想我不能参加了.**(拒絶)**因为第二天我正好要去参加一个面试,因此需要好好的准备一下.**(詳しい事由)**错过这么难得的机

XXX**(署名)** (CNS010)	会真的很遗憾，**(遺憾)**同时希望能得到老师您的体谅.**(相手の理解)** 真的很对不起，**(詫び②)**请您谅解！**(相手の理解)** 祝老师一切顺利！**(祝福)** XXX**(署名)** (JFL008)

表4　日本語のサンプル(中国語話者日本語学習者と日本語母語話者の例)

中国語話者日本語学習者	日本語母語話者
A さん**(呼称)** 授業の件ですが,**(事情描写)**ごめんね,**(詫び①)**今期は授業数が多いので,ちょっと難しい…**(詳しい事由)**また来期でおねがいします.**(フェイス緩和②)** (JFL003)	A ちゃん**(呼称)** メールありがとう！**(導入)** 誘ってくれてうれしいが,**(フェイス緩和①)**その時間帯はちょうどほかの授業があるから,**(詳しい事由)**一緒に取れなくて,**(拒絶)**ごめんね！**(詫び①)** また今度是非！**(フェイス緩和②)** (JNS005)
B 先生**(呼称)** ご連絡いただきましてありがとうございます.**(導入)**XX です.**(名乗り)** 懇親会をご案内いただき,誠にありがとうございます.**(事情描写)** 大変申し訳ないですが,**(詫び①)**次の日に私用があって,曖昧な事由検定試験があるため,準備をしなければなりません.**(詳しい事由)**せっかくのチャンスですが,**(遺憾)**今回の懇親会に参加することができません.**(拒絶)**本当に申し訳ございません.**(詫び②)** またチャンスがあればぜひ参加させてください.**(フェイス緩和②)** どうぞよろしくお願いいたします.**(よろしく表現)** XX**(署名)** (JFL003)	B 先生**(呼称)** お世話になっております.**(導入)**XX です.**(名乗り)** 懇親会のご案内,誠にありがとうございます.**(事情描写)** 大変残念ですが,**(遺憾)**私用があるため,**(曖昧な事由)**今回の懇親会を欠席させていただきます.**(拒絶)** またチャンスがあればぜひ参加させてください.**(フェイス緩和②)** どうぞよろしくお願いいたします.**(よろしく表現)** XX**(署名)** (JNS006)

3.1 日中の断りメールの特徴

上記述べたデータを分析した結果,まず,上下関係によって,日本語学習歴もない滞日経験もない中国語母語話者(CNS)も日本語母語話者(JNS)も,ストラテジーの使い分けが存在する.具体的には,まず親しい友人の場合,CNSもJNSも,「挨拶」「名乗り」「導入」のような前置きを省くことがほとんどであるが,目上の先生に対してはきちんと揃えた書式で書くことが観察された.また,親しい友人に対して,CNSもJNSも詳しい事由と共に「直接断り」というようなポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを多用するのに対して,同じく親しいではあるが,先生の場合において使い分けも見られる.具体的には,CNSがとても詳しい事由で相手に説明する傾向が多く(14名,93.3%),日本語母語話者はその理由をはっきり言えず,婉曲な言い方と共に「間接断り」などのネガティブ・ポライトネス・ストラテジーを好む(13名,87.7%)ことを明らかにした.さらにインタビューから,以下のような発言があった.

嗯，必须讲清楚吧.不说具体的话老师应该觉得我没有理由，就只是不想去，感觉老师会觉得我在撒谎.越具体，老师越容易体谅.即使理由不是真的，也要编得很具体，才容易让对方相信.(CNS 007)

そうですね,はっきり説明しなければなりません.はっきり説明しないと,先生は私に理由がないと思う可能性があり,私はただ行きたくないではないかと,先生は私が嘘をついていると思う可能性が高いです.よりはっきり説明すれば,先生が理解してくれるでしょう.例えその理由が真実でなくても,相手を信じてもらうためには,非常に具体的説明しなければなりません.(筆者訳)

詳しい事由…あまり言わないですね.普通の場合,プライベートの話になれば,言いたくもないし,相手も,知りたくないと思います.たとえ親しいであったとしても,先生は先生で,私用についてはっきり言わない方がいいと思います.親友なら,先生と違いますので,同じ年齢層の人だから,特に非常に私的のものでなければ正直に言った方がいいと思います.(JNS011)

以上の発言から,CNSは「詳しい事由」が相手が誤解しないように,自分の事情について理解してもらうためのポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと考えていることが多いのに対し,JNSはプライバシー侵害の理由で回避していることが多い.それは中国と日本の文化の差異の影響だと思われる.中国では,私用のプライベート度がそこまで高くなければ,その私用をほかの人に言う場合が多く,そのため,言わない方がおかしく思われる可能性が高い.一方,日本では,私用のプライベート度に関係せず,それを言い出したくない傾向があるため,極親しい人しか言わないことも観察された.また,今回の結果から,CNS女性はCNS男性よりも「詳しい事由」に対する説明が長く,相手のフェイスを考えて,それに理解してもらうための説

明が観察される.一方,JNS女性は「私用のため」で断ることが多いが,JNS男性は「先約あり」という簡潔な理由で断ることがほとんどであることが分かった.

3.2 中国語話者日本語学習者のメールの特徴と言語転移

今回のJFLのメールは,CNSともJNSとも異なる形であることが確認された.まず,「親しい友人」の場合の中国語の場合において,CNSは,「挨拶」(3名,20%),「名乗り」(0名,0%),「導入」(1名,6.7%),「事情描写」(2名,13.3%),「遺憾」(3名,20%)において使用頻度が低いと観察されるが,JFLは,いずれも使用頻度がCNSより高いと観察された(「挨拶」(9名,60%),「名乗り」(4名,26.7%),「導入」(6名,40%),「事情描写」(6名,40%),「遺憾」(8名,53.3%)).それが日本語を勉強したための影響ではないかと考えるものの,日本語版メールにおいて,JNSの使用頻度は「挨拶」(4名,26.7%),「名乗り」(2名,13.3%),導入(11名,73.3%),事情描写(6名,40%),遺憾(3名,20%)であるため,JFLは「挨拶」「導入」「遺憾」においてどちらとも異なることが分かった.

一方,親しい先生へのメールにおいて,JFLの中国語のメールは,CNSのメールにほとんどない「導入」(8名,53.3%)「事情描写」(8名,53.3%)「遺憾」(10名,66.7%)が観察され,それ等の要素JNSの使用頻度(8名,53.3%;9名,60%;9名,60%)に近いと思われる.一方,中国語の「依頼表現」でよく観察される「祝福」は,「断り表現」においてCNSも使わない(1名,6.7%)が,JSLは5名(33.3%)であった.また,JSLが特有する「曖昧な事由＋詳しい事由」という表現があり,曖昧な事由を自ら詳しく説明する様子も観察される(6名,40%).第2言語の作文産出における第1言語の関与,とくに第1言語の作文力との関連は深いである(石橋,2004)ため,学習者が中国語を参考にして日本語のものを書くことが多く(余,2018),学習者は日本で長期間滞在において自身の言語を変化しつつ,その言語は中国語的でもなく日本語的でもない,両方の影響も受けている中間言語になっている可能性が示唆された.

4. 今後の課題

以上のように,中国語と日本語の断り場面における電子メールの特徴を明らかにしたうえで,中国語母語話者・日本語学習者が書いた中国語メールは,中国語,日本語両方の影響を受けて,中国語メールとしても日本語のメールとしても不自然なところが見られた.その原因は,まず文化間の差異の存在,または在日時間によって文化や言語の混同であることが示唆された.加えてその結果には,男女間でも差が見られ,女性の間によく使われている断りのストラテジーも観察された.今後の計画としては,女性の中国語母語話者,中国語母語話者・日本語学習者,日本語母語話者を対象に,ジェンダー,文化の側面からそのメールの書き方の相違を明らかにする予定がある.それによって,中国語話者日本語学習者が中国語または日本語を運用する際に,日本語,中国語の影響を排除し,自分の構文により多くの注意を喚起できるようになること,および日本語教育および異文化コミュニケーション教育,また中間言語語用論研究の示唆となるものを提示したいと考える.

参考文献

石橋玲子 (2004). 第2言語の作文産出における第1言語の関与ー第1言語の作文力との関連からー 茨城大学留学生センター紀要, **2**, 1-12.

王玉明・聞芸 (2015). 電子メールによる依頼行動に関する日中対照研究ーディスコース・ポライトネス理論の観点から 東アジアへの視点, **12**, 53-59.

大友沙樹 (2009). 電子メールにおける依頼のストラジー日中対照の観点から 国際文化研究, **15**, 61-72.

李宜真 (2008). 依頼の言語行動に関する日中語対照研究ーポライトネスの観点からー 東北大学高等教育推進センター紀要, **3**, 117-129

Selinker, L. (1972). *The Interlanguage.* International review of Applied Linguistics, 10, **3**, 209-231.

余文龍 (2018). 学習者と母語話者の日本語の「良い文章」判断基準の差異ー中国語話者中上級学習者を中心にー 2018年度異文化教育学会第39回大会発表抄録, 92-93.

国際法上の言語権概念の日本国内法における受容について

杉本篤史(東京国際大学)

1. はじめに

言語権という概念は，社会言語学領域ではすでに充分に認知されているものの，法学の分野では，国際人権法領域で言及されることはあっても，憲法学をはじめとした国内法領域ではいまだ馴染みのない概念である．本ポスター発表は，このような日本における言語権の認知状況をふまえて，法学の見地から，国際法上の言語権概念をいかにして日本国内法において受容せしめるか，またその条件は何かについて検討するものである．

2. 国際人権法における言語権概念の受容と発展

国際法上の言語権概念の発展過程を概観すると，国際連合憲章(1945)においてすでに言語による差別の解消が各所で唱えられ(1 条 3，13 条 1b，55 条 c，76 条 3)，その後，言語権に言及する 4 つの宣言(世界人権宣言・外国人市民の権利宣言・民族的または種族的，宗教的および言語的少数者に属する者の権利に関する宣言・先住民族権利宣言)と 8 つの人権条約(教育における差別を禁止する条約・国際人権規約 A 規約・同 B 規約・移民労働者条約/ILO 第 143 号条約・原住民および種族民条約/ILO 第 169 号条約・子どもの権利条約・すべての移住労働者とその家族の権利保護に関する条約・障害者権利条約)が成立している．そして，現代日本で起こっている言語権に関する諸問題は，これらの国際条約においてほぼ網羅されているといってよい．ただ，日本国は教育における差別を禁止する条約，移民労働者条約/ILO 第 143 号条約，原住民および種族民条約/ILO 第 169 号条約，すべての移住労働者とその家族の権利保護に関する条約について未批准であるが，これらの宣言・条約には，言語的少数派や先住民族に属する人々の言語権，移民の滞在国語主要言語を学びかつ母語母文化の保持について滞在国政府から支援を受ける権利等が規定されていることを指摘しておきたい．

なお，宣言と条約では法的拘束力が異なり，宣言は一般に主権国家を拘束しないといわれているが，宣言も国際法の解釈準則として一定の効力を有し，特に重要な原理原則は国際慣習法としての効力も有すると考えられている．また，後発の人権条約・宣言は，前文等で既存の人権条約・宣言等を踏まえたものとして参照することが多い．例えば子どもの権利条約は，前文で国連憲章，世界人権宣言，国際人権規約 A 規約・B 規約を参照している．最新の障害者権利条約は多数の人権条約・宣言を参照しているが，この中には先に述べた日本国が批准していない教育における差別を禁止する条約，すべての移住労働者とその家族の権利保護に関する条約が含まれている．

ところで，1996 年にバルセロナで開催された世界言語権会議が発表した世界言語権宣言は，地域に固有の言語の話者を主体とする言語権が中心で，移民，特に子どもの滞在国における言語権についての記述が不充分であるだけでなく，ろう者・ろう児の手話(視覚言語)を念頭に置いた記述は存在しない．欧州を中心に発展した言語権概念は音声言語中心主義的である．実際，欧州における言語権の基礎は，第一次世界大戦の講和条約で定められた国内民族的マイノリティに対する言語的差別の禁止に端を発している．その結果，欧州地域語少数語憲章(1992)により音声言語マイノリティへの対応は欧州域内でほぼ統一されたが，ろう児に対する教育制度では聴覚口話法やバイリンガル教育法などバラつきがあり，手話の公用語化等の扱いについても各国で異なっている．上で見た諸宣言・条約も，障害者権利条約を除いて全て音声言語中心主義的記述であるが，障害者権利条約において手話への言及がなされたことにより，視覚言語を音声言語と同等に扱うべきとするだけでなく，いままでの音声言語中心の言語権枠組みをも再構成することが求められている．

3. 言語権の国内法化に対する障壁としての日本国憲法

このように国際法体系において，言語権はいまや所与のものとされているが，日本国の国内法においては 4. で述べるように，言語に関係する法令は存在するものの，言語権に関する法令はいまのところ存在しない．ここでは，その理由を法解釈および立法政策の面から検討したい．

筆者がまず注目するのは，差別禁止条項の禁止項目に言語を含む国連憲章や世界人権宣言と，ほぼ同時期に制定されたにもかかわらず，日本国憲法の 14 条「法の下の平等」条項には，禁止項目に言語が存在しないことである．日本国憲法

草案をみると，各段階の草案でも言語による差別の禁止に直接言及しているものは存在しない．しかし，当時の終焉しつつある多民族帝国という現状と，同時期に起草された国連憲章がたびたび言語による差別の禁止を唱えていることをあわせて考えると，これは意図的な無言及ではないかと推測される．なお，これに関連して，1946 年 2 月 13 日 GHQ 草案では，平等条項の差別禁止列挙項目に「国籍起源(national origin)」があり(13 条)，また別条で外国人の法的保護を受ける権利(16 条)が明記されていた．これらのうち「国籍起源」への言及は 3 月 2 日の日本政府草案で一旦削除され，3 月 5 日の日本政府草案で「国籍」」として復活し(13 条)，逆に外国人の法的保護を受ける権利条項が削除された．そして 3 月 6 日の憲法改正草案要綱において，「国籍」も削除され成立にいたっている．ここから，そもそも日本国憲法は単一民族＝単一言語国家主義に基づいて起草されており，そのような意味では国内少数言語に関する権利などを想定する余地は初めから存在しなかったということが指摘できる．

そうではあっても，日本国憲法には制定時に想定されなかった「新しい権利」を受容するための「余白」が設定されており(13 条，25 条)，また，少なくとも日本国が批准した国際人権条約の規定は，国内法としての効力を有する(98 条 2 項)はずであるが，実際には，日本の裁判所は国際人権条約の裁判規範性を認めず，条約人権委員会の一般意見や日本国政府報告に対する総括所見などを国際人権条約の一般的解釈とすることも拒否している．これには，司法試験および法曹養成（司法修習等)において，国際法とりわけ国際人権法に関する出題や専門教育カリキュラムが必須ではない点が指摘されている(山下，2014)．また，日本国は個人通報制度を設置しているすべての国際人権条約について，本文にある場合は受諾宣言を行わず，制度を設置する選択議定書が別にある場合は，これを批准していない．その理由は，司法権の独立を損ねるおそれがあること，個人通報制度を必要とするような人権問題が国内で発生していないことなどとされているが，個人通報制度に基づき関係国際機関から発せられる勧告意見は，締約国の司法権を法的には拘束しないし，同制度の設置趣旨はむしろ逆で，国内における人権保障状況に自信のある締約国政府こそ，その証として批准すべきものなのである．一時期，民主党政権下で党の公約とされた個人通報制度の受諾と国内人権保障機関の創設が検討されたが，東日本大震災後の 2011 年 8 月に党内慎重論が優勢となり立ち消えとなった．なお，後者の国内人権保障機関とは，国際人権条約の効果的な実施の確保を任務とするもので，司法的解決のみに頼らない人権保障システムの多層化という要求に応えるものであった(東澤，2012)．

国際人権条約の締約国である日本は，国内での人権保障状況(当該条約の実施状況)について，定期的または不定期に報告を提出する義務を負うが，この報告については，当該条約が設けた専門委員会または当該条約により委託を受けた国連機関等がその内容を審査し勧告意見を公表する．そこでしばしば強く勧告されているのが，日本国憲法 13 条ほかで言及されている公共の福祉という人権制約原理の解消である．憲法 13 条その他でみられる公共の福祉の概念は，包括的な人権制約原理であり，人権同士が対立・衝突する場合にのみ人権への制約を認めるべきと考える国際人権法の発想とは鋭く対立する．日本の判例をみても，公共の福祉の内容を明確に定義できないことがわかる．それだけでなく，国際人権条約の国内実施のために必要な立法や既存法令の改廃を日本政府が怠ったとしても，公共の福祉を口実として政府は当該人権の国内実施義務から事実上逃れることができる．結局，公共の福祉の概念は，運用次第で国際人権条約の内容を国内法に受容せしめる政府の法的義務に，きわめて広範な裁量を与え，事実上の政治的義務に過ぎないものとして運用することを可能とし，実際政府は少なからずそのように運用している．

4. 日本の言語政策の実情

日本国において言語に言及する法令はいくつかあるが，そこでは言語の意味が統一的に用いられていない(杉本，2015)．障害者基本法には 2011 年の改正で，言語に手話を含むとする条項が挿入されたが(3 条 3 項)，いまのところそれだけである．総じて日本では，地位計画が不在のままで言語政策ないし言語教育政策・立法が乱立している状況である．例えば，学習指導要領という特殊な法形式により外国語教育政策や，ろう児教育について定められているが，外国語教育は事実上，英語教育であり，それには専門教師を養成し，カリキュラムの一層の充実が模索され続ける一方で，ろう児の母語である日本手話を教育言語として使用することや，日本手話を用いることができる教員の養成はまったく考慮されていない．また，1997 年にアイヌ文化振興法が制定されたが，同法ではアイヌの先住性や先住権についてはまったく触れられず，アイヌの経済的生活を保障する施策にも言及がない．アイヌ語についても，民族継承語としての重要性や継承のための具体的な措置，民族語教育などに言及する規定はない．その後の同法の運用もアイヌのおかれている差別的状況の改善に充分資するものとは言いがたい(平山，2014)．それどころか，近年は Twitter や Facebook などの SNS を通じて「アイヌはもう存在しない」「アイヌ特権」「えせアイヌ」などのヘイトスピーチが後を絶たない．他方，ユネスコにより危機言語と認定されている南西諸島のしまくとぅばや，小笠原語(ボニン英語)，あるいは在日コリアンらの継承語に関しては，言語政策

そのものが存在しない.

このような無原則な言語政策・言語教育政策が展開されている一方で，2012 年以来，全日本ろうあ連盟が地方自治体の賛同を得ながら手話言語法制定運動を推進し，また，2017 年 11 月以来，国会で議員連盟が発足して日本語教育推進基本法案の立法化が急ピッチで進められている．両者は一見，本格的な言語法の様相を呈しているが，国際人権法領域で培われてきた言語権の実現という意味では，いずれもかなり問題のある内容である．まず，手話言語法案は，条文上で「日本手話」と「日本語対応手話」を区別せず，両者を統合して「日本手話言語」と呼称している．全日本ろうあ連盟は，言語学的にまったく異なる両者の間に区別をするべきでないという驚くべき立場を再三表明しており，もし連盟の法案がこのまま立法化されれば，圧倒的多数の「日本語対応手話」利用者によって「日本手話」話者が言語的ジェノサイドに晒される危険性がある(杉本，2016)．一方の日本語教育推進基本法案については，その内容が日本語教育を行う側，日本語教育制度を管理する側からの視点だけで構想されており，要日本語学習者の視点，日本語学習権という視点が存在しない．また，同法案は基本法の名を冠しているが，このままの内容で成立すると，日本国内法では，言語権は，国家の政策的裁量の反射としてのみ認められるという先例になるおそれがある(杉本，2017)．

また現在，手話通訳者や日本語以外の音声言語との法廷等における通訳者，そして日本語指導ボランティアの，高齢化と若者層の供給不足が急速に深刻化しているが，この問題には，通訳・翻訳・言語教育(英語を除く)を中心とした言語関連職域に関する根深いボランタリズムが根底にある．日本政府はこれらの諸分野でプロフェッショナルを養成し職域を確保するどころか，2020 年オリンピック関連ボランティアの募集内容でもわかるように，大学生等を頼みに大量の言語ボランティアを運用しようとしている．しかも，ここでのボランタリズムやボランティアは，「自発的な」という本来の意味ではなく，「無償の」という日本特有の意味で用いられている．

ところで，現在までのところ，国際人権法上の言語権の概念を，憲法 13 条等を通じて日本国憲法の人権規定に読みこみ，それに基づく異議申し立てを行った例が 1 件だけ存在する．2003 年に全国ろう児をもつ親の会が小嶋勇弁護士をはじめ 4 人の代理人弁護士とともに，日本弁護士連合会に提出した人権救済申し立て書がそれである．この申し立てでは，当時のろう学校において広く行われていた聴覚口話法による教育ではなく，ろう児の母語である日本手話によって教育を受ける権利を，言語権として構成している．結局，全日本ろうあ連盟による本件申し立てへの反対意見表明(日本手話と日本語対応手話の区別への反対，日弁連への異議申し立てという当事者団体である全日本ろうあ連盟を経由しない手続きによる権利主張への反対)などもあり，日弁連は本件申し立てについて日本政府への差別是正勧告は行わず，手話による教育を受ける権利についての意見書を公開するにとどめた(小嶋ほか，2006)．その後，ろう学校の現場では，聴覚口話法により教育する学校は減ったが，かわりに広まった手話による教育とは，その大半が日本語対応手話による教育であり，ろう児の母語である日本手話による教育は，2008 年に構造改革特別地域の教育特区制度により誕生した，私立明晴学園の登場を待たなければならなかった(クァク，2017)．

5. 国内法化のために：障害者権利条約による権利概念の読み直し

以上のような日本国内法の状況を踏まえて，言語権をどのように国内法化していくべきか．その鍵は障害者権利条約にあるのではないかと筆者は考えている．言語権に言及する国際条約のうち最新の障害者権利条約は，それまでの自由権と社会権を峻別する権利類型論やその前提にある権利主体の近代的同質性を問い直す内容である．国際人権規約が締約国に漸進的努力義務を課す A 規約と即時実施義務を課す B 規約に分離されて採択されたことからも分かるように，国家の不作為により保障されるとされた国家からの自由(精神的自由，経済的自由，人身の自由など)と，国家の作為により保障される社会権的権(福祉受給権，教育を受ける権利，労働権など)は分離され，前者は即時実施が可能であるとされ，財政を必要とする後者の実現については，国家の広範な裁量が認められると長らく考えられてきた．これは日本国内法においても同様である．しかし，このような権利類型論が実現可能なのは，社会参加において国家の支援を必要としない「強い個人」を想定した場合だけである．障害者権利条約はこのような枠組みを採用せず，「すべての人」の社会参加を締約国に義務づけ，国家の作為/不作為による権利保障の分類・序列化を否定する．この観点からすると，言語権の保障は，音声言語間だけではなく，視覚言語である手話等も含めなければならない．そして言語権とは，多元的民主主義の維持コストとして必要不可欠であり，国際人権条約が権利主体として想定する「自由で自律した抽象的な個人」(阿部:262)に「すべての人」が包摂され，「強い個人」を措定した上に成立してきた人権保障の近代性を問い直し，更新し続けることに参与する権利であるといえる．なお，ここでの包摂は同化ではなく，近代への抗議概念としてのエスニック・マイノリティの伝統的権利とそれに連なる継承語への権利も含むことになる．障害者権利条約の考え方を真に「すべての人」に適用するならば，必然的に近代社会の同質性への問い直しを含むことになるからである．このように考えれば，条約締結国は言語的少

数派について具体的な制度構築が義務づけられるばかりでなく，制度構築・運用における当事者参加主義が要請されることになる．さらに，障害者権利条約の言語権観により，それ以前の国際人権条約における言語権の読み直しも必要となる．いままで想定されてきた言語権の主体が，教育を受け，環境が整えば自在に特定言語の話者になることができる「言語的に強い個人」であるとすれば，そうではない人々をも包摂する主体設定に変更する必要がある．様々な情報保障場面や言語障害場面が，今後も言語権の主体として論じられなければならない．

このように現在進行形で問い直されつつある国際法上の言語権概念を国内法へ受容するためには，憲法を改正して言語権を明記する方向で権利章典を改定するか，あるいは言語権基本法の制定が必要である．後者の方がハードルが低く，現実的な解決策と思われる．言語権基本法は，日本国内法体系において，言語に関する立法政策の参照基準となるものでなければならない．そこでは，言語的・文化的多元性を社会基盤的価値として宣言し，国際人権法上の言語権概念の要点が記されるとともに，言語に関する政策立案および政策レビューにおける当事者参加主義と，その擁護者・調整者としての公権力の役割が明記されるべきである．また，先住民語などの非/前近代的価値を包摂するための非司法的人権保障制度の構築があわせて求められる．そしてこのような言語権基本法の構築・運用・レビューを通じて，逆に，国際法上の言語権概念の問い直しに，日本国政府は参与していくことすら可能になるだろう．

参考文献

阿部浩己（2014）．国際法の人権化 信山社

芦部信喜・高橋和之(補訂)（2015）．憲法　第六版 岩波書店

馬場里美（2012）．マイノリティの保護―自由権規約 27 条の国内適用をめぐって 法律時報，**84**(5)，56-60.

言語権研究会(編)（1999）．ことばへの権利―言語権とはなにか 三元社

東澤靖（2012）．憲法と国際人権法―共通の人権規範の確立に向けて・企画の趣旨 法律時報，**84**(5)，4-8.

平山裕人（2014）．アイヌの歴史―日本の先住民族を理解するための 160 話 明石書店

葛西まゆこ（2012）．国際人権規約と憲法 25 条 法律時報，**84**(5)，61-65.

小島勇監修・全国ろう児を持つ親の会(編)（2006）．ろう教育が変わる！―日弁連「意見書」とバイリンガル教育への提言 明石書店

小島勇監修・全国ろう児を持つ親の会(編)（2004）．ろう教育と言語権―ろう児の人権救済申立の全容 明石書店

クァク・ジョンナン（2017）．日本手話とろう教育―日本語能力主義をこえて 生活書院

ダニエル・ロング（2018）．小笠原諸島の混合言語の歴史と構造―日本元来の多文化共生社会で起きた言語接触 ひつじ書房

松井亮輔・川島聡(編)（2010）．概説　障害者権利条約 法律文化社

松井芳郎・薬師寺公夫・坂元茂樹・小畑郁・徳川信治(編)（2005）．国際人権条約・宣言集　第 3 版 東信堂

棟居快行（2012）．人種差別と国家の差別撤廃義務 法律時報，**84**(5)，71-75.

大谷美紀子・山下幸夫・猿田佐世(編)（2007）．国際人権法実践ハンドブック 現代人文社

下地理則・パトリック　ハインリッヒ(編)（2014）．琉球諸語の保持を目指して―消滅危機言語をめぐる議論と取り組み ココ出版

申惠丰（2016）．国際人権法　第 2 版 信山社

杉本篤史（2017）．言語権からみた「日本語教育推進法案」の問題点 社会言語学，**XVII**，55-73.

杉本篤史（2016）．第 3 章　手話言語条例と手話言語法―法学・人権論の立場から 森壮也・佐々木倫子(編) 手話を言語と言うのなら ひつじ書房 pp. 23-36.

杉本篤史（2015）．再考　言語と憲法学 東京国際大学論叢国際関係学部編，**20**，53-71.

関口明・田端宏・桑原真人・瀧澤正(編)（2015）．アイヌ民族の歴史 山川出版

田門浩（2014）．手話言語法の法制化をめぐる考察―人権擁護との関連から 手話学研究，**23**，11-30.

田門浩（2012）．「手話の復権」手話言語法運動の背景と法的根拠を考える 手話学研究，**21**，81-96.

山元一（2012）．グローバル化世界における公法学の再構築―国際人権法が憲法学に提起する問いかけ 法律時報，**84**(5)，9-16.

山下潔（2014）．国際人権法―人間の尊厳の尊重・確保と司法 日本評論社

山内一宏（2017）．日本語と日本手話―相克の歴史と共生に向けて 立法と調査，**386**，101-111.

現代朝鮮語の当為表現‘-ya toyta’が使用される状況の分類

―聞き手が行為者の場合を中心に―

平　香織(神田外語大学)

1. はじめに

朝鮮語には日本語の「～(し)なければならない」に相当する-ya toyta/-ya hata[1]という当為表現が存在する．日本語において，当為表現が「忠告」「勧告」「依頼」「命令」「禁止」などの表現効果を持つことが指摘されているが(益岡・田窪, 1992)，朝鮮語の-ya toyta も主体の違いや状況によって，さまざまな意味を持つ.

本発表では，聞き手が行為者となる場合の-ya toyta に着目し，どのような状況で使用されるのかを分類する．そして，各状況で-ya toyta が使用される特徴について考察する.

2. 先行研究

-ya toyta/-ya hata に関する既存の研究を見ると，안주호(2005)は-ya hata の様態的意味を「必然性」とし，下位意味として義務，状況，当為，望み，意志，後悔を挙げている．강현화(2008)は教授法の観点から考察し，コーパスを基に-ya toyta/-ya hata の意味を文型別にまとめている．叙述文では当為，後悔，心配，依頼，拒絶，信じること，非難，苦悩，意志の意味が現れ，疑問文では再確認，同意・同情の要求，非難，苦悩の意味が現れるとした．そして，命令文では命令(例 1a)の意味以外に，勧誘や忠告を挙げている．이동혁(2015)は-ya hata が動詞だけでなく，形容詞とも共起することから，-ya hata が行為のみに使用されるわけではないと指摘した．そして，(1b)を挙げて-ya hata が担う事態（気分がよいこと）が，それ以降に発生する事態（クラシック音楽を聴くこと）に対して，必須条件になると話し手が判断することを表すとしている（引用例の下線，日本語訳は筆者による）.

(1) a. 안내원:　(핸드폰을 가리키며) 저기 핸드폰 꺼야 돼요.
　　案内員:「(携帯電話を指しながら) 携帯電話，切らなければなりません.」(강현화 2008:42)
　b. 클래식 음악을 들으려면 일단 기분이 좋아야 합니다.　(이동혁 2015:107)
　「クラシック音楽を聴こうとするなら，まず気分がよくなければなりません.」

以上, 概観してきたとおり, -ya toyta/-ya hata によって表される意味が明らかになりつつあり, また, -ya toyta/-ya hata の使用によって，話し手のどのような判断が表されるのかについての言及もなされつつある．しかし，話し手と聞き手の関係性や使用状況に着目し，-ya toyta を考察したものは見当たらない.

本発表では，行為の要求や強制を意味する当為表現-ya toyta が，行為者が聞き手となる場合に使用される状況を分類し，各状況の特徴を考察する.

3. -ya toyta が使用される状況と状況別に見る特徴

3.1 話し手・聞き手の(不)利益による分類

本節では，聞き手が行為者となる場合に使用された-ya toyta について，行為や事態の実現が話し手・聞き手にとって利益になるか，不利益になるかという観点から分類する．使用した例文は 21 世紀世宗コーパス(文語データ)からの引用[2]である．なお，今回は叙述文のみを取りあげる.

(2) 네가 징역 2 년을 선고 받은 이상 2 년 동안 이곳에서 노동을 통해 죄닦음을 해야 돼.　(21 世宗)

[1] この二つの形式の違いについて국립국어원(2005)では，話しことばでは-ya toyta が，書きことばでは-ya hata が多く使用されるとしている．先行研究を概観する際には原文に従って両形式を区別して記すが，本発表では話しことばで使用された-ya toyta の例が考察の中心となるため，-ya toyta と表記する.
[2] 分かち書きや綴りの誤りについては『표준국어대사전』(電子版)を基に修正した.

「お前が懲役2年の宣告を受けた以上，2年間ここで労働を通して罪を償わなければならない.」

(3) a. 만약 원장님이 꾸중하셔도 꾹 참고 잘못했다고 빌어야 돼. 알았어? (21 世宗)
「もし院長先生がお叱りになっても，ぐっと堪えてすみませんと詫びなければならないよ．わかった?」

b. 제가 돈 많이 벌어 좋은 술 사 드릴 테니 그때까지 술 참으셔야 돼요. (21 世宗)
「私がたくさん稼いでいいお酒を奢って差し上げますから，それまでお酒は我慢なさらなければなりませんよ.」

(2)は囚人に対する刑務官の発話であり，(3a)は弟に対する兄の発話，(3b)は先輩に対する後輩の発話である．(2)の-ya toyta が使用された「罪を償う」という内容は，法や倫理を基盤とした社会通念であり，その行為の実現が話し手や聞き手の利益・不利益にかかわるものではない．それに対し，(3)の「詫びる」や「我慢する」という行為は，その行為の実現が聞き手にとって利益になると話し手は考えている．

次は行為の実現が，非行為者（話し手）にとって利益となる例である．

(4) a. 잘해야 돼. 그날 엄마 친구들도 부르고 이모들도 다 올 거야. 쓸데없이 망신만 줬단 봐라. (21 世宗)
「(演奏を) うまくやらなければならないよ．その日，お母さんの友人たちも呼ぶし，おばもみんな来るわ．無駄に恥をかかせたらみろ.」

b. 엄마, 나 내일 김밥 맛있게 싸 줘야 돼요. (21 世宗)
「お母さん，明日ののり巻き，おいしく作ってくれなければなりませんよ.」

c. 요 앞 바다, 가까운 데를 나갈 적에는 저를 꼭 불러 주셔야 돼요. (21 世宗)
「この前方の海，近くに出る時には私を必ず呼んでくださらなければなりませんよ.」

(4a)は母から子への発話であり，「無駄に恥をかかせたらみろ」という内容が続いていることから，上手に演奏をすることは話し手である母の体面を保つためであり，話し手の利益となる．(4b),(4c)は授受表現(-아/-어 주다)が使用されている．(4b)は遠足に行く子どもが，母親にのり巻きをおいしく作ってくれるよう話した例であり，(4c)はそれほど親しくない知人同士の対話で，乗船を拒否された話し手がその理由を知り，船が近場に出る次の機会には自分を呼んでくれるよう述べた例である．いずれも行為の実現が非行為者である話し手の利益となる例である．話し手と聞き手との関係性と要求される行為の内容から，(4a)は命令，(4b),(4c)は依頼と解釈できる．

次の例は，行為や事態の実現が行為者や事態の主体（聞き手）にとって不利益になる場合である．

(5) a. A: 말도 안되는 소리 집어치워라. 너는 누가 뭐라고 해도 법대를 가야 돼. B: 어머니…….
「話にもならないことを言うな．お前は誰が何と言おうと法学部に行かなければならない.」「母さん……」

A: 여러 소리 말고 이 에미가 시키는 대로 해. (21 世宗)
「ごちゃごちゃ言わずに母さんの言うとおりにしなさい.」

b. 너같이 아직 세상맛을 모르는 놈은 진짜 세상맛을 봐야 돼. (21 世宗)
「おまえのように，まだ世間の苦しみを知らない奴は本当の世間の苦しみを味わわなければならない.」

(5a)は神学部への進学を望む子どもに対し，母親は法学部に行くことを強要した例である．この行為の実現は子どもにとって望ましくない結果となる．(5b)は聞き手が世間の苦しみを味わうことを話し手は望んでおり，その事態が成立すると聞き手が不利益を被る例である．このように(5)は行為や事態が実現すると，聞き手が望まない結果や聞き手に不利益をもたらす結果となる．

最後に，行為の実現が話し手および聞き手の利益・不利益に関係のない場合である．

(6) a. 면접 끝나고 교정을 보고 가셔야 돼요. (21 世宗)
「面接が終わったら校正をしてお帰りにならなければなりません.」

b. (スカーフをプレゼントしながら) 죽을 때까지 하고 다녀야 돼, 알았지? (21 世宗)
「死ぬまでして歩かなければならないよ，わかった?」

c. A: 지금 행복하지 않으시죠? 내 말이 맞죠? 아들이 없다는 건 결혼 생활의 행복의 중대한 결격 사유라는 걸 인정하셔야 돼요.
「今，幸せではないでしょう? 私が言っていること，合っているでしょう? 息子がいないというのは結婚生活の幸

せの重大な欠格事由ということをお認めにならなければなりません.」
B: 왜 그걸 강요하십니까? 본인이 조금도 그렇게 안 느끼는 걸 가지고. (21 世宗)
「なぜそれを強要なさるのですか. 本人が少しもそう感じていないのに.」

(6a)は出版社の面接の場面で, 4 年間校正を学んだという人に対する面接官の発話である. この出版社では, 校正の試験を受けることが決まりとなっていることから, 面接官は面接者にそれを要求している. 話し手・聞き手の利益・不利益にかかわらない要求をしている点で, (2)と類似しているように見えるが, (6a)で要求された行為は, その会社に関わる人にのみ適用する規則であり, 一般的に通用する社会通念とは異なる. (6b)は恋人同士の会話である. 話し手はスカーフをプレゼントし, ずっと使うように聞き手に要求している. この要求が実現されることで話し手に利益をもたらすとも考えられるが, 実際には, 要求の実現を確認することが困難な内容である. よって, 利益・不利益を判断できない. (6c)では話し手は聞き手に対し, 息子がいないために結婚生活において十分な幸せを得られていないことを認めるよう要求している. これに対し, B はそのように考えていないため不利益とはならない.

以上, -ya toyta が使用された例を「社会通念として受け入れられる場合」,「行為の実現が行為者（聞き手）に利益となる場合」,「行為の実現が非行為者（話し手）に利益となる場合」,「行為や事態の実現が行為者や事態の主体（聞き手）に不利益となる場合」,「行為の実現が話し手および聞き手の利益・不利益に関係のない場合」に分類した. 次節では「社会通念」を除いた 4 つの状況において-ya toyta が使用される特徴を考察する.

3.2 状況別に見る特徴

まず,「行為の実現が行為者（聞き手）に利益となる場合」から見ていこう. この状況で注目すべきは, 尊敬形-si-を用いて, 上位者に対しても-ya toyta が使用できる点である. 行為の実現が聞き手の利益になるとは言え, 行為の要求や強制を表す-ya toyta を上位者に使用するのは失礼に当たると考えられるが, 朝鮮語では上位者に対する-ya toyta の使用がよく見られる.

(7) 걔들이 아무리 헤프게 살아도 못 본 척 참으셔야 돼요. (21 世宗)
「あの子たちがどんなに荒っぽく生活していても見ないふりをして我慢なさらなければなりませんよ.」

(7)は, 長男の家で世話になることになった夫に対する妻の発話である. 妻は夫に対して, 長男家族がどんな生活をしていても我慢することを要求しており, 我慢することが結果的に夫にとって利益となると考えている. 行為の要求や強制を意味する-ya toyta であるが, 上位者に対する使用では, 行為の要求や強制をするという解釈よりも聞き手の利益を考えているという解釈が優先されるために, 失礼に当たらないと考えられる.

続いて,「行為の実現が非行為者（話し手）に利益となる場合」を検討してみよう. 3.1 で挙げた例文(4)に共通しているのは, 話し手と聞き手との間で行為に関わる情報が共有されていると話し手が想定している点である. (4a)の話し手は, 自分に恥をかかせることはあってはならないと考えており, 聞き手もそのように考えているという想定の基で発話している. (4b)では, 遠足に持参するお弁当をおいしく作るのは母親の役目であると子どもが考え, その考えを母との共通理解と想定している. (4c)では, 今回, 乗船をあきらめるから次回は乗せてくれなければならない, つまり今回の譲歩を次回に返してくれるべきであると考え, それが聞き手にも理解されると話し手は想定している. 話し手は, 聞き手との間にある共通理解を前提として, -ya toyta を使って行為要求をするが, 共通理解はあくまでも話し手の想定であるため, それが成立しない場合には次のような対話がなされる.

(8) A: 나 사진 이쁘게 찍어 줘야 돼.「わたしの写真, きれいに撮ってくれないといけない.」 B: 왜요?「なぜですか.」
A: 아 이거 제삿상에 놓을 사진이야.「ああ, これ, お葬式に使う写真なんだよ.」 (21 世宗)

(8)は, 写真屋に来た客と店員との対話である. 客は写真をきれいに撮ってくれないといけないと-ya toyta を使用して述べているが, この発話の意味を理解できない店員はなぜかと尋ね, それに対する理由を客が話している. 両者に共通理解がなかったため, 店員は-ya toyta で要求された行為をなぜ遂行しなければならないのかと尋ねる結果となっている. ここから分かることは, 話し手の利益となる行為を聞き手に要求する場合の前提は, 話し手と聞き手による当該行為に関わる情報の共通理解である.

次に見るのは「行為や事態の実現が行為者や事態の主体（聞き手）に不利益となる場合」である．(5a)は子どもが望まない学部への進学を母親が強要した例，(5b)は世間の苦しみを知る必要があるという話し手の負の願望[3]を述べた例であった．いずれも命令を表しているが，-ya toyta を使用する話し手にはどのような意図があるのだろうか．

(9) a. 글쎄, 조선이 보수주의냐 아니냐 하는 것은 평가 문제인데, 극우라는 말은 철회하셔야 돼요. (21 世宗)
「朝鮮が保守主義かそうじゃないかというのは評価の問題ですが，極右という言葉は撤回なさらなければなりません．」
b. 아이, 기뻐라. 너희들도 당해야 돼. 너희들 말야, 우리 가족이 그렇게 비참한 죽음을 맞이할 때 뭐했어?
「ああ，嬉しい．おまえたちもひどい目に遭わなければならない．お前たち，わたしたち家族があんなに悲惨な死を迎えた時，何をしていた?」 (21 世宗)

(9a)は討論会において話し手が聞き手に発言を撤回するよう要求した例であり，(9b)は聞き手がひどい目に遭っていることを話し手が喜んでいる例である．誤った発言は撤回するのが当然であるという話し手の認識，わたしたちが大変な目に遭ったのだから，あなたたちも大変な目に遭うことが当然であるという話し手の考えが現れる．行為や事態の実現が，聞き手の不利益となることを知っていながら-ya toyta を用いて発話する場合には，自分の要求や望みが当然であるという話し手の信念があり，その信念に伴う理由を話し手が有しているという共通性が見出せる．

最後に「行為の実現が話し手および聞き手の利益・不利益に関係のない場合」について見ていく．この場合，すべての例に共通する点は見られなかった．(6)は，校正の試験を受けること，プレゼントしたスカーフをずっと使うこと，息子がいないため十分な幸せを得られていない現実を認めることを要求する例であった．(6a)は倫理や法的観点からの規程ではなく内輪の規程である．内輪の規程に沿って誰かにある行為を望む際，日本語では主に依頼形式が使用されるが，朝鮮語では-ya toyta を使用する点で異なりを見せる[4]．(6b)は，プレゼントしたスカーフを死ぬまでずっとすることを要求しているが，実際にはスカーフを大事にしてほしいという意味である．行為を強要することで親しさを表す例と言える．(6c)について見てみると，韓国では息子を望む傾向が強く，息子がいることが幸せであるという考えが一般に通用する．一般的な考えを押し付けて反論できないようにするのは，相手の気分を害させることを意図したものと解釈できる．

4. おわりに

本発表では，話し手と聞き手の利益・不利益の観点から，聞き手が行為者となる朝鮮語の-ya toyta の使用状況を分類し，各状況に見られる特徴について考察した．利益・不利益にかかわらない状況における-ya toyta の使用には共通点が見出せなかったが，内輪での規則を提示する場合に使用されたほか，親しさを表したり，意図的に相手の気分を害させる時にも使用されることが明らかになった．

当為表現の使用は朝鮮語と日本語で必ずしも一致しないため，今後は対照研究によってそれぞれの当為表現の特徴を明らかにしていきたい．

謝辞 本研究は JSPS 科学研究費 JP18K00584 の助成を受けています．

参考文献

안주호 (2005). "-어야 하-"류 구성의 문법적 특성과 의미 국어교육, **118**, 363-393.
강현화 (2008). 어휘접근적 문법교수를 위한 표현문형의 화행기능 분석 -어야 하다/되다를 사례로 한국어 의미학, **26**, 21-46.
국립국어원 표준국어대사전 (電子版 http://www.korean.go.kr/)
국립국어원 (2005). 외국인을 위한 한국어문법 2－용법편 커뮤니케이션북스.
이동혁 (2015). -어야 하다의 양태 의미에 대하여 국어학, **76**, 95-122.
益岡隆志・田窪行則 (1992). 基礎日本語文法－改訂版－ くろしお出版
仁田義雄 (1991). 日本語のモダリティと人称 ひつじ書房

[3] 仁田(1991)は相手にとって都合の良くない・望ましくない動きを話し手が望むといった類を「負の願望」と呼んでいる．
[4] 次の例は航空会社の乗り換え案内である．
a. 외국에서 미국/캐나다로 입국하여 미국/캐나다 국내선 구간으로 환승하는 경우 반드시 수하물을 첫번째 기착지에서 찾아야 합니다.
(https://kr.koreanair.com/korea/ko/traveling/baggage-services.html)
b. 外国から米国またはカナダに到着される際には，必ず最初の到着空港で手荷物をお受け取りください.
(https://www.koreanair.com/content/koreanair/global/ja/traveling/baggage-services.html#allowed-to-bring-unrestricted)

連濁における使用領域差と造語表象因

浅井 淳(大同大学)　大野和敏(広東技術師範学院)

1. はじめに

日本語の連濁現象に関しては，統語論，意味論，音韻論，語彙層などの観点から，普通名詞を中心に多くの調査・分析・論考がなされてきた(まとめとして例えば，奥村，1980；Vance，2015)．今回，連濁しやすさに関して，複合語が用いられる領域ごとの様相について調べ，その範囲内における社会言語上の見方を述べる．

2. 合成名詞データの集計

連濁は複合語の後部要素の先頭子音が無声阻害音の場合に有声阻害音に交替する現象とみなす．今回の調査・分析の動機として，日常生活上における連濁の生起傾向の観察があった．例えば，「里(/sato/)」であれば普通名詞では「人里(/hito+zato/)」[1]のようにやや連濁しやすいが，歌謡曲や詩では非連濁形「古里(/huru+sato/)」をよく見聞きして記憶に残りやすい．姓では「永里(/naga+sato/)」のようにやや連濁しにくく，名では「美里(/mi+sato/)」のように連濁しにくい．このような，語の性質に関してドメイン間の異同に関する指摘があり(Macnamara，1982)，現代でも生産的な連濁の振る舞い(Vance，2015)と原因・理由(中川，1966)に興味が向く．

そこで，「山里(/yama+zato/)」のような複合語の音形を書籍・雑誌，辞書・事典・目録，郵便番号簿，表示目視などにより収集して[2]，使用領域(仮称)として普通名詞，季語，色名，地名，姓(苗字)，人名，建造物名，店名，商品名，動植物種名などに分けた．前部要素も後部要素も基本の2モーラ(森岡，1982)が安定で連濁しにくく[3]，長くなると連濁しやすく，動詞のときに連濁しにくくなるなどの傾向があるため，今回は後部要素が2モーラで数が多く造語性が高い和語名詞を後部要素とする合成語名詞を対象とした(西尾，1976)[4]．前部要素は語種と長さを限定しなかった．普通名詞は約10万，地名は約13万，姓は約9万種類といった収集データの中から連濁対象となる語を抽出して，例えば後部要素となる形態素の異なり語数25のうち15が連濁する場合0.60というように，語構成に属格助詞が入る場合を除いて，連濁率を求めた．普通名詞は形式名詞も含め，『広辞苑』，『大辞林』，『明解国語辞典』を基にしたため，古い語が含まれる．ここでは，多義語の場合の意味区分をしない．同一語で連濁・非連濁の両形がある場合の扱いが課題となる．地名で両形がある場合は各 0.5 語とした．姓では「中島(/naka+sima/，/naka+zima/)」のように両形が近い認知度合いの場合のみ各0.5語と数え，原則として多数派と判断された音形にした．アクセントとは異なり，連濁では方言差が小さいものの，商品名では今回は産地がなるべく限定されず種類数を得られる日本酒(清酒)と穀物(米・麦)とした．穀物では意味象徴性が低いとして前部要素が地名の場合を除いた．動植物種名では動物の場合は亜種までの標準和名と種の俗称を用い，地方独自の呼称は採らなかった．植物もいわゆる別称，異称を除いた．曲名は明治時代から2010年までの歌謡曲名とした．

3. 形態素ごと・使用領域ごとの連濁程度

3.1 形態素による連濁程度

集計の結果，普通名詞では，色名や季語も含めて連濁率は使用領域間で概ね似た傾向であった．固有名詞は普通名詞とやや異なる場合があった．主な使用領域について代表的な形態素の連濁率を表1に示す．「高頻」は普通

[1] 音韻表示は訓令式，形態素境界は+印を用いる．いわゆる異体字や旧字は一つにまとめた．

[2] 参照資料は予稿要旨では出典記載を省く．音形は共通東京語に基づく．商品などは次々と登場するため，現時点での調査結果である．

[3] 「尾頭(/o+gasira/)」，「気心(/ki+gokoro/)」のような連濁形が観察された40種の並立構成普通名詞では前部要素1.9モーラ，後部要素2.3モーラだが，連濁形が観察されなかった109種では前部2.0，後部2.1であり，2モーラの場合に連濁しにくい．これには「貸し借り(/kasi+kari/)」のような動詞転成形や「あれこれ」のような代名詞を除く．

[4] 集計分析では2モーラ1字形態素を対象とするが，語例は1または3モーラや2字の場合も用いる．

名詞のうち近年の高頻出語として国立国語研究所(2006)を基準とした.「辞書」は普通名詞で,国語辞典の見出し語に近年のメディアに出現した語を加えた.「地名」は近年の自治体統合による新しい地名を含む.「品酒」は日本酒の銘柄を示す.

表 1.　代表的な形態素の主な使用領域ごとの連濁率[5]

形態素	高頻	辞書	季語	地名	姓	品酒	曲名	種名[6]
花 /hana/	1.00	0.92	0.85	0.55	0.20	0.0	1.0	1.00
鳥 /tori/	0.55	0.85	0.94	0.38	0.33	0.5	1.00	1.00
玉 /tama/	0.81	0.76	0.80	0.51	0.35	0.57	1.0	—
竹 /take/	0.7	0.74	0.5	0.25	0.00	0.00	1.00	1.00
草 /kusa/	0.58	0.71	0.88	0.29	0.25	—	0.71	0.65
鹿 /sika/	0.0	0.59	0.57	0.32	0.20	0.00	—	0.67

連濁生起の集計結果から,後部要素となる形態素は連濁しやすさに関して,連濁しやすい「柿(/kaki/)」のような高度(仮称; 以下同様),中程度の連濁程度に位置する「川(/kawa/)」のような中度,連濁しにくい「春(/haru/)」のような低度という 3 つに大別されるのは先行研究(Irwin, 2016; Vance, 2015)の通りであった[7].

連濁程度差の要因を簡潔に振り返る.まず,前部要素と後部要素の統語関係がある.並立構成のときは連濁しにくい[8].前部要素が数詞や接頭辞のときも連濁しにくい.「片(/kata/)」のような部分指示的構成をもたらす前部要素のときも連濁しにくい.例えば,「平仮名(/hira+gana/)」や「読み仮名(/yomi+gana/)」は連濁するが,「片仮名(/kata+kana/)」は連濁しない.一方で,「隅々(/sumi+zumi/)」のような畳語構成のときは連濁しやすい[9].このように,口語化で促音が形態素境界に挿入されるときに連濁作用の重みが最小というように,語構成,語構造成分,語用の各要素値を設定して音形の収束を遺伝的アルゴリズムにより検討すると[10],代表例参照継承は使用領域数が少なく狭い場合や連濁作用の重みが小さい場合に適用されやすい.例えば,「毛皮(/ke+gawa/)」のような高頻出語が連濁形であっても,「皮(/kawa/)」は造語性が高いため,他の合成語に拡張されにくく,全体としてはやや連濁しにくい.なお,「菫(/sumire/)」などでは総称が基本種名になっており,他の種名は連濁しない.「桜(/sakura/)」,「鶴(/turu/)」などは総称が上位科属名であり,その下位分類の種名は連濁するが,「鹿(/sika/)」など民俗呼称の定着で連濁・非連濁両形が混在する場合もある.上位参照がない「樫(/kasi/)」などは音韻的要因が表れやすい.また,撥音後接有声化(Post-nasal voicing)は,現代東京語では限られた条件以外では顕現化しないため,ここでは連濁に含まれる現象とみなした.

3.2　使用領域による連濁程度

形態素差の次に使用領域差を見ると,使用領域差があまり無い「霧(/kiri/)」(高度),「月(/tuki/)」(中度),「露(/tuyu/)」,「下(/sita/)」(低度)などの定数的形態素群と,使用領域によっては普通名詞の場合よりも連濁率が下がる「棚(/tana/)」,「炭(/sumi/)」(高度),上下変化が有る「竹(/take/)」,「人(/hito/)」(中度),連濁率が上がる「先(/saki/)」,「端(/hasi/)」(低度)という変数的形態素群と大まかに 2 分化された.使用領域ごとの連濁率を図 1 に示す.連濁率は中心が 0,外縁が 1 である.(a)が今回得られた範囲での定数的形態素群であり,(b)が姓・名で連濁しにくくなる傾向のある形態素群,(c)が使用領域による変化が比較的多く大きい変数的形態素群である.

連濁では,前節で触れたように連濁程度で 3 分化,使用領域間変動で 2 分化の計 6 類型化という見方ができそうである.その中では,普通名詞で連濁しやすい高度・変数的形態素が地名や姓では連濁しやすさが下がり,連濁しにくい低度・変数的形態素は上がるという,一種の均等化のような様子がうかがえる.

[5] 語数が 5 未満と少ない場合は小数点以下を 1 桁で表した.語例が観察されなかった場合は—印を付けた.
[6] 動植物種名では,左枝構造でも右枝構造でも「〇竹□」の最終要素が省略されて「〇竹」となるような場合を含まない.
[7] 三間・浅井(2017)は連濁率 0.85 以上を高く偏在,同 0.15 以下を低く偏在としたが,閾値に関しては検討が必要である.
[8] 並立構成でも「物事(/mono+goto/)」,「筋骨(/suzi+bone/)」のように熟合度が高い,または連濁しやすい後部要素のときは,連濁する.
[9] 「島々(/sima+zima/)」は集合指示的だが,「縞々(/sima+sima/)」は単一物・概念の反復強調であり,擬態語と同様に連濁しない.
[10] 連濁は同音異語を区別する機能は小さいとして,他の後部要素との作用は組み入れていない.

(a) 定数的形態素群　(b) 特定使用領域で変化する形態素　(c) 変数的形態素群

図 1. 使用領域ごとの連濁率[11]

4. 合成名詞の造語性と連濁傾向

4.1 普通名詞の造語性と連濁傾向

普通名詞でよく用いられる形態素の連濁程度を代表的な意味カテゴリ別にして表 2 に示す．変数的形態素は普通名詞の人工物に多いようである．これは，後部要素の意味範囲を前部要素で限定して対象物を記述するためで，連濁率も高めになる．そして，数詞や接頭辞で連濁しないことになる．

表 2.　使用領域間差と意味カテゴリによる形態素の類型化[12]

類型 カテゴリ	連濁程度 低度			中度		高度
空間概念	下/sita/ 代/siro/	*端*/hasi/ *先*/saki/	*隅*/sumi/			形/kata/ 際/kiwa/
時間概念	春/haru/			*年*/tosi/ *時*/toki/		
自然形態	浜/hama/	*露*/tuyu/	川/kawa/	*坂*/saka/ *空*/sora/	*星*/hosi/	霧/kiri/
動植物				*草*/kusa/ *鳥*/tori/	*花*/hana/	柿/kaki/
自然利用 人工物			畑/hata/	*塩*/sio/ *玉*/tama/ *鎌*/kama/ *倉*/kura/ *橋*/hasi/ *笠*/kasa/	*塚*/tuka/ *炭*/sumi/ *棚*/tana/	

4.2 固有名詞の造語性と連濁傾向

固有名詞では，肯定的な意味の形態素が選ばれやすい．そして，上位類概念を省くことがあり(森岡，1982)，特徴や属性を描写して普通名詞と同様の命名がなされたとしても，継承のうちに造語意図が薄れ，姓や地名では対象と語意の結合性が低く，連濁現象知識の平均スキーマが適用されるため，形態素間で連濁程度の平準化作用が見られると考えられる．

また，商品名では，対象が直接指示されず，名称が借用されるか，造語時の連濁傾向が受け継がれることが多い．例えば食用米の種名では，「初霜(/hatu+simo/)」のように普通名詞の語意を借用して特質を表象する場合がある．従って，連濁の様相から見ると，固有名詞には記述と指示の両面を考えることができそうである（まとめとして，Braun，2006；Soames，2010)．

[11] 該当例が見つからなかった使用領域は空けてあるが，5 語未満の少数例はプロットしてある．後部要素先頭モーラのハ行転呼や母音変化，ならびに後続モーラに削除を含む音変化がある場合は母数から引き，連濁率算出に含めていない．ここでは，「倉」に「蔵」，「船」に「舟」を含めてあるが，「鳥」には「鶏」を含めていない．

[12] 定数的形態素を**ゴシック**体，変数的形態素を*斜字*体で示す．

4.3 心理的な表象意図

食材・食品によっては,「真蛸(/ma+dako/)」,「真鯛(/ma+dai/)」が広告では「真タコ」,「真タイ」のように非連濁形で表記されることがある．河川名や橋名では，住民による呼称とは異なり，銘板表記が非連濁形になっていることがある．これは複合程度を低くすることで(石井，2007；湯本，1977)，原音保持による意味の明確化，すなわち各形態素の原意を明示する意図があるものと推測される．これには複合語の普及度への対応という社会的な役割もあると推測される．

また，命名の際に，形態素の語義からの連想による意味表象という造語意図が含まれると推測される．例えば，「鶴(/turu/)」の持つ優美さを直接的に表出させたいために非連濁形を取ると推察される．3 モーラ形態素の例に目を向けると，いくつかの使用領域では「光(/hikari/)」のような清明感，あるいは「力(/tikara/)」のような屈強感・剛健感が連想される形態素が多用されることで推測される．一方で，適用の多様性を利用して，美しさの中でも特有の可憐さ，あるいは特有の強さを連想させたい意図で「〇桜(/〇+zakura/)」あるいは「〇力(/〇+zikara/)」のように，普通名詞としての形態素の連濁しやすい傾向が受け継がれることがあると推測される．

4.4 文化的な継承要因

特定の使用領域内で一定の音形が継承されるには，相撲の四股名のように文化的な要因もある．その場合，形態素ごとの連濁傾向が反映されやすいようである．シリーズ化された商品名でも，音形が継承されることがある．

5. まとめ

連濁現象には，社会における実使用領域上の差異を分析すると，これまで考えられてきた語構成，語構造成分，語用論の面のみならず，語意の表象性という心理的な造語意図など多くの要因が体系的に関わっていると考えられる．今回の調査範囲内では，「鶴(/turu/)」や「花(/hana/)」が固有名詞，とりわけ商品名で連濁率が下がるというように原意保持や連想表象などの造語意図が含まれ，心理面の寄与や文化的，社会的役割の機能が推測された．これら姓や商品などの名称は接触機会が比較的多く，話者の連濁に関する知識体系化につながり，造語時に関与すると考えられる．連濁に関しては，社会言語面などまだ多方面から検討する意義があると考えられる．

謝辞　本発表は国立国語研究所共同研究プロジェクト(日本語レキシコン―連濁事典の編纂)の発展の一部である．ティモシー J バンス氏ならびに関係諸氏に感謝する．連濁現象に関してご助言をいただいた上野善道氏，共に姓の調査に取り組んでいただいた故三間英樹氏，土木関係名称で協力いただいた樋口恵一氏に感謝する．本要旨の文責は第一著者が負う．

参考文献

Braun, D. (2006). Names and natural kind terms. Lepore, E. & Smith, B. C. (eds.) *The Oxford handbook of philosophy of language*, pp. 490-515. Oxford, UK: Clarendon Press.

Irwin, M. (2016). The rendaku database. Vance, T. J. & Irwin, M. (Eds.) *Sequential voicing in Japanese compounds: Papers from the NINJAL rendaku project*, pp. 79-106, Amsterdam: John Benjamins.

石井正彦 (2007). 複合語形成と「意味表示の二重性」―複合語形成論における「くみあわせ性」と「ひとまとまり性」― 言語, **36**(8), 50-58.

国立国語研究所 (2006). 研究開発部門第一領域研究課題『現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築』における『現代雑誌 200 万字言語調査』による現代雑誌 200 万字言語調査語彙表.

Macnamara, J. (1982). *Names for things*. Cambridge, MA: MIT Press.

森岡健二 (1982). 語彙の歴史の中の現代語彙. 森岡健二他(編) 講座日本語 4 語彙史 明治書院 pp. 1-27.

中川芳雄 (1966). 連濁・連清(仮称)の系譜 国語国文, **35**(6), 302-314.

西尾寅弥 (1976). 造語法と略語法. 鈴木孝夫(編) 日本語の語彙と表現 大修館 pp. 27-62.

奥村三雄 (1980). 連濁. 国語学会(編) 国語学大辞典 東京堂出版 pp. 925-926.

Soames, S. (2010). *Philosophy of language*. Princeton, NJ: Princeton University Press.

Vance, T. J. (2015). Rendaku. Kubozono, H. (ed.) *The handbook of Japanese phonetics and phonology*, pp. 397-441. Berlin: Mouton de Gruyter.

湯本昭南 (1977). あわせ名詞の意味的記述をめぐって 東京外国語大論集, **27** (再録：松本泰丈(編)(1978)日本語研究の方法 むぎ書房).

三間英樹・浅井 淳 (2017). 姓に見られる杉藤の法則と拡張版ライマンの法則に関する形態的・音韻的考察. バンス他(編) 連濁の研究－国立国語研究所プロジェクト論文選集－ 開拓社 pp. 145-178.

合同コンパ場面における日本語母語話者の話題導入と気遣い

宿利 由希子(神戸大学大学院生) ／日本学術振興会

1. はじめに

これまで，言語学やコミュニケーション研究において，性差の存在が指摘されてきた．女性に比べ男性が，下位者に比べ上位者が，会話の主導権を握り話題を導入する傾向があること(Maltz & Borker, 1982; 宇佐美他, 2014)，また男性上位者は自己に関する話題導入(以下，話し手志向的話題導入)を，女性上位者は聞き手に関する話題導入(以下，聞き手志向的話題導入)を行う傾向があること(三牧, 2013)が報告されている．これらの傾向は話者間に共有された「社会規範(三牧, 2013)」または「基本状態(宇佐美, 2008)」であり，「コミュニケーションにおける丁寧さ」に繋がるものと考えられてきた．コミュニケーションにおける丁寧な行為とは，相手が持つ『他者に受け入れられて面子を保ちたい』『他者に干渉されて面子をつぶされたくない』という2つの意向を尊重する行為であり，専門的には「ポライトネス」と呼ばれる(Brown & Levinson, 1978/1987 他)．では，「社会規範」や「基本状態」の傾向とは異なる行動を取る行為者，すなわち，話し手志向的話題導入の多い女性や聞き手志向的話題導入の多い下位者の男性は，他者からどのように認識されるのであろうか．

そこで本研究は，従来指摘されてきたコミュニケーションにおける性差の傾向とは異なった方法で気遣いを示す行為者が，他者にどのように認識されるのかを明らかにするため，話題導入に注目し，日本語母語話者による合同コンパ(以下，合コン)の会話を観察する．合コン場面を扱うのは，初対面・非初対面の人たちが，今後の関係の発展性を探りながら，一定時間雑談をして，親交を深めていく様子，また自然に気遣いを示す様子が観察できると考えたためである．

2. 調査の概要

2017年7月に大阪の居酒屋で，日本語母語話者の男性3名(M1, M2, M3)，女性3名(F1, F2, F3)による合コン場面をICレコーダーとビデオカメラを用いて約150分収録した(合コン参加者に関する情報は表1参照)．

表1　合コン参加者に関する情報

	M1 (男性)	M2 (男性)	M3 (男性)	F1 (女性)	F2 (女性)	F3 (女性)
年齢	30代前半	20代後半	30代前半	30代前半	30代前半	30代前半
出身地	大阪府	広島県	大阪府	奈良県	奈良県	奈良県
交友	M2・M3	M1	M1	F2・F3	F1・F3	F2・F3

次に，収録データのトランスクリプトから，話題導入の回数とその志向性を調べた．本研究では，話題を，会話の中で導入・展開された，内容的に結束性を有する事柄の集合体(三牧 2013)とし，参加者1名が話題候補を導入しても，他の参加者が相づちだけで，その内容をそれ以上取り上げない場合は考察対象から除外した．志向性については，話し手に関する話題および話し手を含む複数人に関する話題を話し手志向的話題導入，1名または複数の聞き手に関する話題を聞き手志向的話題導入とした．聞き手志向的話題導入については，特定の1名に対する発話なのか，複数に対する発話なのか区別がつきにくいため，本研究ではこれらを区別しないこととした．また，出された料理や飲み物についての話題は，話し手・聞き手志向とは区別し，現状に関する話題導入として数えた．それぞれの例を(1)(2)(3)に示す[1]．

(1)　話し手志向的話題導入

→01 F1: 私3年広島に住んでたことありますよ.
　02 M2: あ:そうなんですか. なんで, なんで. いつですか

(2)　聞き手志向的話題導入

→01 M2: 皆さん出身は, 関西,
　02 F3: 関西です.
　03 M1: あ:

[1] データの転写は，すべて高木他(2016: 27-37)を参考に行っている．「[ ]」は音の重なり，「=」は発話の密着，「(m)」は0.2秒より長い間，「.」は語尾の音調が下がっている場合，「,」は音が少し上がって弾みが付いていて続きがあることを予測させる場合，「?」は語尾の音が上がっている場合，「¿」は語尾の音が上記の擬音符を付けるほどには上がっていないが多少上がっている場合，「:」は音の引き伸ばし，「文字」は発話の音量自体が大きい場合，「゜文字゜」は声が小さい部分，「h」は呼気音および笑い，「(h)」は笑いながら産出される発話，「( )」は聞き取りが困難な発話を示す．

(3) 現状に関する話題導入

→01 M3: (5.0) ただなんかこの緊張感すごいな.
02 F2: [hh]
03 F1: [hh] 書類から書き始め.

3. 調査結果

分析の結果, 最年少の男性 M2 による話題導入数が最も多く, その約半数が聞き手志向的であること, 話し手志向的話題導入数は男性M3と女性F2によるものが同数で最も多いことがわかった (表2参照). また, M2 と F2 による話題導入は, 先行研究の指摘する傾向とは異なるが, 相手の面子を脅かすことのない丁寧な気遣いであることがうかがえた.

表2 話題導入数と志向性についての結果

	M1	M2	M3	F1	F2	F3
話し手志向的	22回	23回	28回	12回	28回	9回
聞き手志向的	15回	41回	21回	21回	21回	8回
現状	1回	11回	2回	9回	0回	2回

次の(4)は M2 の聞き手志向的話題導入の例である. 1 行目で M2 が M1 に調査者との関係性を確認する話題導入をし, 4 行目で女性 3 名に同様の質問で話題導入をする. F1 の回答を受け, 7 行目で M3 も質問をし, しばらく調査者についての会話が活発に行われる. M2 の話題導入が, 男性・女性の壁を取り払う役割を果たす気遣いであることが見て取れる.

(4) M2 による聞き手志向的話題導入の例

→01 M2: どういう, つな, セッティングはどうなってるんですかゝ M1 さん, つながりゞ
02 M1: (せ:じん)は宿利さんから[, M3]くんに発信があって, M3 くんから僕に, 来て, M2 くんに連絡した感じ.
03 M2: [はい]
→04 M2: あ: (4.0)女性陣もそんな感じなんですか?
05 F1: 宿利さんと[同じ]職場の人が私の友達で[その友達から]連絡が来て, ここは友達です.
06 M2: [はい] [あ: なるほど.]
07 M3: あ: じゃ: あんまり宿利さんとは直接関わりは,
08 F1: 今日初めて会いました.
09 M3: そうなんですか.

次の(5)は F2 による話し手志向的話題導入の例である. 1・2 行目の F1 の発話に対し 4・6・8 行目で F2 が不同意を示す. 7 行目の M2 の「なんかいきなり突き放した」や 14 行目の沈黙, 15 行目の M2 の唸りなどから, F2 の不同意をどのように扱ったらいいかわからないという男性たちの気まずさが垣間見える. 16 行目で F2 が女性 3 名の関係性を説明する自己志向的話題導入を行う. その後, 女性 3 名の会話はかみ合わずよく不同意を示し合うことが判明し, 男性たちもその関係性を面白がる. F2 の話題導入は, 女性陣に関する男性陣の理解を促し, 男女の壁を取り払うための気遣いであると言える.

(5) F2 による話し手志向的話題導入の例

01 F1: そんなに 1 つの事考えて,
02 真剣に考えて生きてない. hh
03 M2: [あ: そうすよね.]
04 F2: [そうや, 確かに.]そうやな. F1 そういやそうやな.
05 F1: あ, 私, が? あ,
06 F2: 私考えてるよ.
07 M2: なんかいきなり突き放した.
08 F2: F1 よりは考えてる.
09 F1: あ, あ: ほんま.
10 M1: F1 よりは. hh
11 F1: [hh]
12 F2: [hh]
13 F3: [hh]
14 F1: (6.0) かもね:
15 M2: う:ん
→16 F2: この前, こう, 喫茶店に行ってて,
17 M2: [はい]
18 F3: [うん]

19 F2: うん，3人が[，全]然違うことしゃべってた．hh
20 M2: [はい]
21 F1: [hh]
22 F3: [hh]
23 M1: え，全く噛み合わん状態で?
24 M2: あ:，この3人で行って(h)て: (h)
25 F2: 自由にしゃべってるみたいな．
26 F3: う:ん

では，先行研究の指摘するコミュニケーションの性差の傾向とは異なる気遣いを見せるM2やF2は，他の参加者にどのように評価されているのであろうか．参加者たちは，男性M2を「営業(さん)」，女性F2を「ツッコミ」と呼んでいた．次の(6)はM3がM2を「営業」と呼び(10行目)，M1や女性たち，最後にはM2もその指摘を受け入れる会話部分，(7)はM2が女性3名の関係性を「ボケ(F1)・ボケ(F3)・ツッコミ(F2)」であると指摘する(9･10行目)会話部分である．

(6) M2が「営業(さん)」と呼ばれる場面

01 F1: 写真撮ってどうするんですか?
02 M2: ラーメンの写真撮ってですかも
03 M1: hhh
04 M2: いやでもそれは，あのFacebookとかあげる，とかじゃ
05 なくて，ラーメン好きの人がいた時に，ネタちょっと
06 こう，[僕ここ]のラーメン食べましたでっていう．
07 M3: [ああ]
08 F2: [ここの]ラーメンやでって．
09 F1: へ:
→10 M3: 営業すね．
11 M2: hh ラーメン営業しても全然あんまり
12 [゜(ないんですけど)゜．]
13 M1: [hhhhh]
14 M3: 話のネタとして．
15 M2: [はい]
→16 M1: [営業]さんやね．
17 F1: 盛り上がりますもんね話．
18 M2: そうすね．ラーメン好きの人は特に，
19 なんかこう，おわってなるんで．
→20 M1: でも営業さんは雑学のネタが多い方が．
21 M2: [う:ん]
22 F1: [う:ん]
23 M1: う:ん，絶対，ラーメンであれ何であれ．
24 F1: う:ん
25 M2: そうすね．本当に．

(7) 女性3名が「ボケ･ボケ･ツッコミ」と呼ばれる場面

01 F1: 私がぼそぼそ変なことしゃべってるのが入る，から
02 あげる．
03 F2: ちょっともう意味がわからへん．
04 F1: [hhh]
05 F3: [hhh]
06 M3: M1食べる?これ．
07 M1: あ，もう，3つぐらい食べたよ俺．
08 M3: 大丈夫¿
→09 M2: (5.0)あれなんすね，普段は，ボケボケツッ
10 コミみたいな．
11 F1: [ボケ]じゃないよな．hh[ボケてないよね．]
12 F3: [hhh]
13 M2: [え，(h)違う?]
14 F2: [天然．天然．]
13 F1: 至って真面目やな．hh

4. 考察

調査の結果，聞き手志向的話題導入数は最年少の男性M2によるものが最も多いこと，自己志向的話題導入数は女性F2によるものが男性M3と同数で最も多いこと，他の参加者はM2の男性を「営業(さん)」，F2の女性を「ツッコミ」と呼んでいることが明らかになった．本節では，聞き手志向的話題導入数の最も多い男性M2が「営業(さん)」，話し手志向的話題導入の最も多い女性F2が「ツッコミ」と呼ばれていることについて考察するため，「キャラ」という概念を用いる．キャラとは，「スタイル以上，人格未満」の状況に応じて変わる人間(定延，2011)であり，社会的・文化的にある程度共有された年齢や性別，職業，階層，容姿･風貌，性格などの人物像である．

ラーメンの写真を雑学のネタとして撮っているという話の流れから，M2は「営業(さん)」と呼ばれた．M2の職業は確かに営業職であるが，ラーメン自体を営業しているわけではない．話題の豊富さは良い営業職の特徴とされることもある(例えばキャリアコンパス)が，営業職でないF2やM3，M1も自己志向的話題導入の多く話題が豊富であった．そのため，ここで褒め言葉のように使われる「営業(さん)」という呼び方は，ラーメン好きの人のために写真を撮るというM2の聞

き手志向的言動に向けられたものであると考えるほうが現実的であろう．聞き手志向的言動は，話題の豊富さ同様良い営業職の特徴の一つとされている(ibid)．仕事を離れた合コン場面でも現れている M2 の聞き手志向的言動と，ラーメンの写真を撮るという聞き手志向的言動が重なり合い，内面化した「営業(さん)」らしい特徴として評価されたと考えられる．次に F2 の「ツッコミ」について，参加者全員が「つっこむ」という言語行動を実践していたにもかかわらず，「ツッコミ」と呼ばれたのは F2 だけであった．これは，F2 が話し手志向的話題導入により女性陣に関する男性陣の理解を促す行為と，「つっこむ」ことにより会話を聞き手の理解できる位置に戻す「つっこむ役回り」の特徴(金水，1992)とが一致していたためと考えられる．つまり，「つっこむ」ときだけでなく，話題導入の際も F2 の言動は「ツッコミ」らしい特徴として評価されたということである．

このことから，観察された「営業(さん)」「ツッコミ」は，「営業する」「つっこむ」などの言語行動自体や，「営業職」「つっこむ役回り」といった役割と密接に関係するが，必ずしも一致しない「キャラ」であると考えることができる．キャラは多様であり(瀬沼，2005)，それゆえ「社会規範」や「基本状態」と異なる行為者を単なる「逸脱」と捉えるのではなく，「この人はこういうキャラだから」とその言動を理解・評価するための材料になり得る．本研究の会話から，参加者たちが M2 や F2 の話題導入を含む言動を，性別などの属性ではなく「キャラ」から理解・評価しようとしていることが観察できたと言える．

5. まとめ

本研究は，合コンの会話データを用い，従来指摘されてきたコミュニケーションにおける性差の傾向と異なる方法で気遣いを示す行為者が，他者にどのように認識されるかを観察した．その結果，聞き手志向的話題導入数は男性 M2 によるものが最も多いこと，自己志向的話題導入数は女性 F2 によるものが男性 M3 と同数で最も多いこと，他の参加者は男性 M2 を「営業(さん)」，女性 F2 を「ツッコミ」と呼び，彼らの話題導入を含む言動をその「キャラ」から理解・評価しようとしていることがわかった．本研究の観察は，行為者に関する過度な一般化を和らげ，コミュニケーションの諸相をより現実的に捉える一歩になると考える．

但し，本調査は合コン一回分の会話データおよび観察による分析であるため，断定的なことは言えない．今後，他の参加者による合コンの会話データを収集し，分析していく必要があるであろう．

謝辞 本研究は，日本学術振興会の特別研究員奨励費による研究「コミュニケーションにおける丁寧さに関する齟齬について」(課題番号：17J04518)の成果を含んでいる．ここに感謝する．

参考文献

Brown, P., & Levinson, S. C. (1978/1987). *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press. [ブラウン，P & レヴィンソン，S. C. (著)．田中典子・斎藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野壽憲・山下早代子 (2011 訳)．ポライトネス：言語仕様における，ある普遍現象 研究社]

キャリアコンパス by DUDA，「なんであいつは成績いいの…？」を徹底解剖。 できる営業【7 つ】のコツ，https://doda.jp/careercompass/compassnews/20161104-26353.html，20180703 最終確認

金水敏 (1992)．ボケとツッコミ-語用論における漫才の会話の分析- 上方の文化-上方ことばの今昔 **13**，61-90.

Maltz, D. N. & Borker, R. A. (1982). A cultural approach to male-female communication. In John J. Gumperz (ed.) *Language and social identity*, 196-216. Cambridge: Cambridge University Press

三牧陽子 (2013)．ポライトネスの談話分析 くろしお出版

定延利之 (2011)．日本語社会のぞきキャラくり 三省堂

瀬沼文彰 (2007)．キャラ論 Studio Cello

高木智世・細田由利・森田笑 (2016)．会話分析の基礎 ひつじ書房

宇佐美まゆみ (2008)．ポライトネス理論研究のフロンティアーポライトネス理論研究の課題とディスコース・ポライトネス理論ー 社会言語科学，**11**(1)，4-22.

宇佐美まゆみ・野口芙美・木林理恵 (2014)．初対面二者間会話における話題導入と展開のプラクティス：対話相手との年齢差・性差に着目して 言語・音声理解と対話処理研究会，**71**，23-28.

謝罪行為にみる日・モンゴル規範意識の相違

ー元横綱日馬富士の引退記者会見の分析を通してー

オユナー　ノミン(大阪大学大学院)

1. はじめに

2017年11月29日，大相撲の第70代横綱日馬富士（モンゴル出身）が引退の決意を公表した.大相撲の九州場所当初から同国出身後輩力士に対し起こした暴行・傷害事件の報道で世間に注目されていた日馬富士だが，その記者会見の際，被害者への直接的且つ明確な謝罪を行わなかったため，その点をめぐってネット上では視聴者からさらなる批判の声が殺到[1]した.そこからは，視聴者が「被害者への謝罪がないことへの違和感」を感じたことが確認できる.

本稿では，上記のような結果に終わった記者会見の場について，日本人とモンゴル人視聴者がそれぞれ異なる期待と意味づけを持っていたのでないかと仮定する.そしてその背景に在る,両者をそのように行動せしめる社会的規範を，詳細な談話分析によって明らかにすることを試みる.

具体的には，1）日馬富士による謝罪はなぜ批判されたのか，2）不祥事に対する日本人視聴者と記者陣の反応とその背景にどのようなものがあったのか3)不祥事に対するモンゴル人視聴者の反応とその背景にどのようなものがあったのか，という3つのリサーチ・クエスチョンを掲げ，議論を進めたい.

2. 理論的枠組み

本発表では，人々の言動には,社会文化的に想定される常識として知られる様々なイデオロギーが広く影響しているとするFairclough（1989)とTrubetzkoy(1969)に端を発するMarkedness Theory（主にdistributional markedness[2]の概念）を主な理論的な枠組みとする．分析では批判的談話分析の視点から，記者会見のテキストに加えて「相互行為」や「コンテクスト」との関連で詳細な記述・説明を行う(Fairclough 1989:25)．考察では,今回の不祥事について日本とモンゴルの視聴者にこのような解釈の違いをもたらしたものは謝罪に対する日本とモンゴルの社会規範の相違に基づく規範意識の差異であると考え，考察を行う.

3. データ：元横綱日馬富士の引退記者会見

本稿でデータとなるのは,2017年11月29日に元横綱日馬富士と伊勢ヶ浜親方らにより開かれた記者会見のやりとり(35分22秒の談話データの一部）の他,日本のインフォシークヤフージャパン,モンゴルの大手新聞Өнөөдөр（Unuudur）のオンラインバージョン,ポータルサイト(news.mn, olloo.mn等)のコメント欄や不祥事が報道されるモンゴルの社会・文化的諸要素を掲載する新聞記事などである.

4. 分析

4.1 日馬富士による謝罪はなぜ批判されたのか

本節では,日馬富士による謝罪はなぜ批判されたのかを明確にする.最初に取り上げるデータ1は，記者会見の冒頭，伊勢ヶ浜親方による引退告知・謝罪後，質疑応答が始まる前に，日馬富士により語られた謝罪発話である．よって，これは記者会見その場の即興で話されたものではなく，日馬富士自身もしくは他の誰かによって予め用意された正式な謝罪文と言える.

<データ1>

01 日馬富士:	このたび(.)貴ノ岩関に怪我を負わせたことに(.)対し(.)
02	横綱としての責任を感じ

[1]インターネット上の記事やアップロードされた記者会見のビデオへのコメント欄などからこの姿勢を観察できる.リンクを参考文献のウェブサイト一覧に掲載する.

[2] 言語学，意味論においてことばがコンテクストにおいてより自然かつ一般的な意味を指す場合unmarkedとされ,それとは対照的により強調される場合,markedとみなす．この現象をDistributional markednessと呼ぶ.

03　本日をもって引退をさせていただきます（お辞儀する，15 度程度）
04　国民のみなさま(.)相撲ファンのみなさま(.)相撲協会
05　伊勢ヶ浜部屋の後援会のみなさま(.)親方やおかみさんに
06　↑大変迷惑をかけたことを
07　心から深くお詫び申し上げます（お辞儀する，45-60 度程度）

日馬富士はまず最初に，01 で「怪我を負わせた」と語り，今回の事件の核となった暴行行為に触れ，その事実を認める．続けて，02 で「怪我を負わせた」ことに対する「責任を感じ」と引退行動の背景について説明を行った上で，01～03 で「引退をさせていただきます」と具体的な対処方法を告げる．自身の行為により「国民のみなさま」「相撲ファンのみなさま」「相撲協会」「伊勢ヶ浜部屋の後援会のみなさま」「親方やおかみさん」と言った該当する多くの方々に「大変迷惑をかけた」という結果を招いたことを 06 で表し，最後 07 で「お詫び申し上げます」と謝罪の提示を明確に行う．

それにもかかわらず，記者会見に対する批判の声がネット上で殺到する結果になった．竹野谷（2004）では，謝罪行為に関して根本的な問題の位置と謝罪が提示される位置との距離を指摘し，それが離れれば離れるほど，何に対して謝罪しているのかが不明になるとした．データ 1 での謝罪はその位置からして，根本的な問題である暴行行為に対する謝罪というより「迷惑をかけた」ことへの謝罪であると視聴者に感じられる側面を持っているだけではなく，さらに，謝罪が向けられる対象が「国民のみなさま」「相撲ファンのみなさま」「相撲協会」「伊勢ヶ浜部屋の後援会のみなさま」「親方やおかみさん」となっており，そこには貴ノ岩は含まれていない．

まとめると，日馬富士より「お詫び申し上げます」との謝罪提示がされたものの，そこには被害者である貴ノ岩への直接的謝罪が言及されなかった点が特徴的であり，批判が寄せられる原因となったことが観察できる．

4.2 日馬富士による謝罪の姿勢に対する日本人視聴者と記者陣の反応はどのようなものであったか

本節では，日馬富士以外にもその場にいた者たちの言動を含めた分析を行い，それらの発話が生起する社会的コンテクストに焦点を当てる．

前節で明らかになった被害者への直接的謝罪の不在が多くの視聴者に違和感をもたらしたことは日本のネットニュースにおけるニュースのコメント欄から容易に確認できる[3]．それらの多くで共通して見られるのは，日馬富士に関して被害者への明確な謝罪を求める視聴者の声が著しく，主に「反省していない」や「被害者への謝罪がない」などに代表される内容のコメントである．しかしこれらの意見はすでに記者会見の場で見られたものと同様であった．このことは，以下の日馬富士と記者たちとの一対一の質疑応答のやり取りから読み取ることができる．

<データ 2>

01 記者：　読売テレビの XXXX と申します(.)横綱にお聞きします
02　先ほど自分の暴力について弟弟子を思ってやったことだと話されました
03　(.)今貴ノ岩関に対して思うことはなにかあるでしょう↑か
04 日馬富士：　貴ノ岩関に怪我を負わせて(.)心もたぶん傷ついていると思います
05　これから(.)礼儀と礼節を忘れずちゃんとした生き方をしてがんばっていただきたいです
中略
10 記者：　横綱に 1 つ聞きますけれども(.)今回起こしてしまったことの
11　重大さ重さというのは今どのように認識していらっしゃいますでしょう↑か
12 日馬富士：　今回のことで彼のためになる(.)そして僕は正しいことをしている
13　という気持ちが強過ぎたと(.)
14　いき過ぎることがあるんだなと思いました(.)それだけです

まず，着目できるのはデータ 2 の 01 にある記者の質問およびその出現したタイミングである．これは，記者会見での代表質問が終わり，個人質問における最初の質問である．これは，予め決められた流れが終わり，日馬富士と記者が自由に対話できる初めてで唯一の機会であった．そこで，現れた質問が，データ 2 の 03 の発話「今貴ノ岩関に対して思うことはなにかあるでしょうか」であったことは興味深い．データ 1 の分析で明らかになった通り，日馬富士の正式な謝罪発話に被害者である貴ノ岩への直接的謝罪が言及されず，貴ノ岩に対する日馬富士の思いは不明なまま終わった．03 の記者の質問は，直接謝罪の不在への反応であり，日馬富士の思いが言及されずに終わるのは謝罪として不十分であると解釈されたことが読み取れる．日本人の謝罪行動に関する研究として，池田（1993）は，日本人がとりわけ明確な謝罪表現を重視する傾向にあり，場合によって自分に責任がない場面でも責任を認め，謝罪を行うとしている（p. 19）．

[3]例えばhttps://headlines.yahoo.co.jp/cm/main?d=20171130-00000002-wordleafs-fight&s=lost_points&o=desc&t=t&p=4.

そこで今回の日馬富士は，自身の行為により被害者が心身ともダメージを受けた（心もたぶん傷ついている 05）ことに気づいていながら明確な謝罪に言及しないことを明示化し，「これから礼儀と礼節を忘れずちゃんとした生き方をしていただきたいです」（06）と発話することで，自分の行動の正当性（礼儀と礼節を忘れた者には暴力を以って「指導」しても良い）への主張と被害者への明確な謝罪には言及しないスタンスを保ち，それを再表出する．

また，データ 2 の 10〜11 からも被害者への謝罪の不在が日馬富士の認識不足との解釈につながったことが観察できる．データ 2 の 10〜11 にある記者の発話に「…起こしてしまったことの重大さというのは今どのように認識していらっしゃいますか」とある通り，この記者は事件の重大さについての日馬富士の認識に再確認が必要と解釈したことが明らかである．これは，日馬富士の様子及び暴行行為に対してではなく，世間を騒がせ多くの方々に迷惑をかけたことに対する日馬富士の反省を受けた反応，および再確認として生まれたものと捉えられる．

まとめると，被害者への思いや事件の重大さに対する日馬富士の認識を問うなどする記者陣の姿勢から，謝罪の場面において直接的な謝罪提示こそが視聴者の解釈や加害者の反省度および“本当の気持ち”を表出させるキューとして働き，さらにその表出が期待されるものであることが確認できる．

4.3 不祥事に対するモンゴル人視聴者の反応はどのようなものであったか

引退記者会見での被害者へ直接的な謝罪の不在をめぐって，日本人の視聴者からはもちろん，その場にいた記者陣からも批判と再確認を求められたことを前節で確認できた．しかし，日本人の謝罪行動の研究は数あれども，モンゴルにおける謝罪場面の研究及びその土台となる規範意識についての資料が管見の限り非常に少ない．今回の不祥事の記者会見はモンゴルでも報道されており，その反応として，新聞記事やネットニュースにおける視聴者コメントの傾向として，最も多く見受けられるのは，「自業自得，お酒はだめ」などの日馬富士に対する批判のコメントであり，続いて「言うことが無い，残念」など事件全体に対する評価を含むコメントが多数見受けられるものの，「貴ノ岩への謝罪」を求める声は著しく少ない点が日本での反応と異なる．

このような事情を踏まえ，一般的に謝罪に対するモンゴルでの規範について考察する．以下モンゴルにおける謝罪に関する先行研究とモンゴル人役人によるモンゴルの事情を説明するインタビューを資料として取り上げる．

日本とモンゴルの謝罪行動に関する比較実験分析を行ったオユーンビレグ，G.（2004）では，謝罪行動に対して，日本とモンゴルでは，機能や表現の違い，コミュニケーション意識に差異が見られるという．日本人は慣用表現を用いて明示的に謝罪を行う傾向にあり，最初と最後に謝罪を繰り返して表現することも少なくない．一方，モンゴルでは，謝罪の慣用表現だけではなく，様々な言語的機能の組み合わせによって間接的に謝罪の気持ちを伝える場合もあり，さらに謝罪を何回も繰り返しすることはなく，繰り返しはむしろ誠意がないことを表す可能性を指摘した．

また，モンゴルに関する様々な事情を伝えるものとして 2015 年の東洋経済新聞に掲載された駐日モンゴル国大使館の商務・経済担当者によるインタビュー（日本語）の中でインタビュイーは謝罪に関するモンゴルでの規範に触れている．以下では，その部分とインタビューの取り上げ方などをもとに，そこに潜むイデオロギーに焦点を置きながら今回の不祥事と関連させ分析を深める．

<データ 3> 東洋経済新聞，駐日モンゴル国大使館役人インタビュー(2015) とそのコメント欄（2017 年 11 月 28 日）

図 1

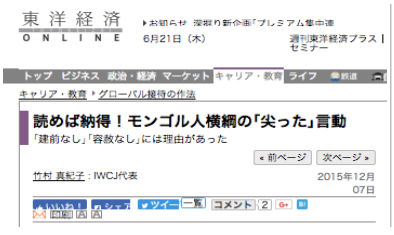


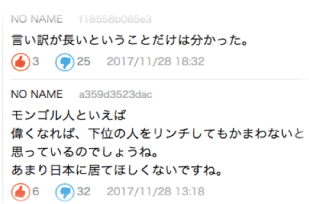
図 2

それでも、自分たちの問合いと言える住んでいる空間に、お客さんや見知らぬ誰かが入ってきた場合には、全力で助けます。広大な自然の中ではそれは生死の問題ですから。

しかし、助けても見返りを求めず、恩を売りません。遊牧民の生活では今日会った人は、もう明日は会わない人。今日行ったことは今日限りです。助けられたほうも感謝はやたらとせず、恩を返さなければとは思いません。やって当たり前なのに感謝をしたら逆に失礼で、怒られることもあります。

それに、謝ることも憎むことも、さほどしません。謝っても延々と謝りません。相手も間違いなどは大目に見ます。モンゴル出身の横綱が問題を起こしたと言われることがありますが、彼らにとってはおそらくそれほど大きな問題を起こしたとは思っていないのです。

図 3



まず，図 1 から確認できる 2015 年当時のインタビューに付けられたタイトルに着目する．「読めば納得！モンゴル人横綱の「尖った」言動」とのタイトルからは，モンゴル人横綱の言動は通常より「尖った」ものであるとの内容がすでに読者にとっても既知の情報であるかのように描写されている．つまり，モンゴル横綱の言動は，記事の内容を読まない限り一般的に納得いくようなものではないとの主張が暗示される．図 2 の，謝罪に関する内容は次の通りである．「助けられたほうも感謝をやたらとせず，恩を返さなければと思いません．やって当たり前なのに感謝をしたら，逆に失礼で怒られることもあります．それに，謝ることも，憎むこともさほどしません．謝っても延々と謝りません」にある「謝ることもさほどしません」「謝っても延々と謝りません」という表現は，オユーンビレグ，G.（2004）の結果を裏付けるものと言える．よって，これらから謝罪はモンゴル社会において「有標」の行動である様子が読み取れる．

図 3 は,2015 年のインタビューのコメント欄における全てのコメント (2 件) を表すものである. 注目できるのは, 2 件の掲載された日付が 2017 年 11 日 28 日および日馬富士引退の前日, 不祥事が過熱気味に報道されていた時期に重なるものであり,ただの偶然といえないタイミングでのこの反応・内容に「モンゴル人といえば」とあり,当時の不祥事からモンゴル人全体に対する「モンゴル人像」を抱いた様子を確認できる.

5. 考察

5.1 日馬富士による謝罪とは

4.1 の分析結果,日馬富士による記者会見での謝罪は,被害者への直接的な謝罪の提示が不在する点で, 謝罪に関して日本人視聴者が期待するディスコースタイプに合うものではなく, 視聴者に「謝罪」と解釈されるものではなかった. このことから, 視聴者にとっては被害者への直接的且つ明確な謝罪の言及こそが“本当の謝罪”であり, その標識がなければ謝罪がなされたとは認識しないことが暗示された.

5.2 日馬富士による謝罪の姿勢に対する日本人視聴者と記者陣の反応とその背景

被害者への謝罪がないことへの違和感が記者会見の場にいた記者陣にも感じられた根拠として,日馬富士の加害者意識を繰り返し問う,記者陣の姿勢を観察できた. 視聴者のそのような違和感はモンゴル出身横綱であった日馬富士を同場面に置かれた日本人と同様に振る舞うことを当たり前とする視聴者マジョリティの姿勢「郷に入れば郷に従え」が潜んでいたことからくるものと言えるのではないだろうか.「モンゴル人横綱の『尖った言動』」との新聞タイトルからもわかるように, モンゴル人横綱は通常から外国人である点が前景化される傾向にある様子が見受けられる.

5.3 不祥事に対するモンゴル人視聴者の反応とその背景

分析結果からも明らかであるように, 謝罪行為に関するモンゴルでの規範は, 無標な形式が重んじられる日本社会のそれとは対照的な傾向にあった. 今回の分析や先行研究により, 謝罪はモンゴルでは必ずしも明確に提示されない場合があることがわかった. さらに, インタビューの中に見られた「やって当たり前なのに感謝をしたら,逆に失礼で怒られることもあります」との見解が謝罪にも当てはまり, 場合によっては, 謝罪を一切表明しないことが謝罪を表す可能性もあると考えられる.

6. まとめ

本稿では, 2017 年 11 月に引退したモンゴル出身元横綱日馬富士の引退記者会見における謝罪に焦点を当て, それに対する日本人モンゴル人視聴者の解釈とその背景について分析を試みた.分析をまとめると, 日馬富士による謝罪は日本人視聴者が同状況において期待するディスコースのタイプに沿ったものではなかったことが明確になった.とりわけ被害者への直接的且つ明確な謝罪提示を重んじる日本の規範意識とは対照的に, モンゴルでは, 視聴者が日馬富士への批判を示すものの, 謝罪は求めない傾向があり, 謝罪を通常とは異なる「有標」の行動と捉える文化的規範があることがわかった. 日本人視聴者が抱いた違和感から, 同状況における日馬富士には日本の社会的規範に従い, とりわけ被害者への謝罪に言及することが暗に義務付けられていたことが確認された.

通常外国人横綱であることが前景化され, だからこそより日本人横綱よりも「日本人らしさ」を求められるモンゴル出身横綱であるが, 謝罪会見において日本とモンゴルとの規範意識の違いが前景化した結果を見ることができた例と言える.

トランスクリプト記号: (.) マイクロポーズ, ↑上昇イントネーション, ( )身体動作

参考文献

池田理恵子 (1993) .謝罪の対照研究―日米対照研究―face という視点からの考察― 日本語学,12(12),13-21.

Fairclough, N.(1989). *Language and Power*. London; New York:Longman.

オユーンビレグ,G(2004).モンゴル人と日本人の謝罪行動 日本語教育指導者養成プログラム論集,3,75-99.

竹野谷みゆき(2004).言語行為としての謝罪広告:違法香料事件をめぐる新聞広告の分析 三宅和子・岡本能里子・佐藤彰(編)メディアとことばVol.1.「マス」メディアのディスコース ひつじ書房 pp.94-129.

Trubetzkoy,N.S.(1969).*Principles of phonology*,Berkeley and Los Angeles;University of California Press.

WEB 資料:https://toyokeizai.net/articles/-/94826?page=2

http://olloo.mn/n/48786.html https://www.news.mn/?id=265502

https://headlines.yahoo.co.jp/cm/main?d=20171130-00000002-wordleafs-fight&s=lost_points&o=desc&t=t&p=4.

インタビュー形式の自由会話における終助詞「ね」の使用状況
―韓国人日本語学習者を中心に―

朴美貞(昭和女子大学大学院生)

1. 研究の目的

日本語母語話者の会話の中で使用する終助詞「ね」と「よ」の割合はおおよそ 3:1 である(メイナード，1993)という報告もあり，終助詞の中でも「ね」は多用される．一方，日本語学習者は，初級から「ね」を学習するものの，上級になっても適切に使えないと指摘されている．日本語の習得が早いと言われている韓国人学習者にとっても「ね」を適切に用いることは困難であると報告されている(Bae，2002 など).

「ね」は，話題となる情報の所在によって，その出現が影響を受けうる．そのため，本稿では，話題を統制したインタビュー形式の自由会話における韓国人日本語学習者の終助詞「ね」の使用状況を分析し，その特徴を探ることを目的とする．

2. 先行研究

2.1 情報のなわ張り理論の概要

神尾(1990； 2002)は，会話において話題となる情報が話し手または聞き手のなわ張り内にあるかどうかによって用いられる言語形式が選択されると述べている．神尾(1990；2002)は，終助詞「ね」を「情報のなわ張り理論」によって 4 つに整理している．また，「ね」が欠けると文を不自然にする「ね」の使用を「必須」とし，「ね」が欠けても不自然ではない「ね」の使用を「任意」としている．次の表 1 に，「ね」の性質を整理する．表 1 の右側にある式の H は聞き手を，S は話し手を意味する．1 は，話し手または聞き手がその情報について「完全に知っている」ことを，0 は「完全に知らない」ことを意味する．n は，話し手または聞き手のなわ張りの「内」と「外」の境界を意味し，1 から n の間が情報のなわ張りの「内」，0 から n の間が情報のなわ張りの「外」である．

表 1 神尾(2002)に基づく「ね」の分類

必須	①必須の「ね」	H = 1
任意	②任意の「ね」	H < n & S≧H
	③疑問の「ね」	H > n & S < n
	④強調の「ね」	H >n & S > n

2.2 自由会話をデータとする「ね」の習得研究

初鹿野(1994)は，4 人の初級学習者の 1 年間のインタビュー形式の会話データを用いて「確認を求める」，「同意を求める」，「同意を示す」，「配慮・共感を示す」，「共感を求める」，「間投助詞」の 6 つの「ね」を調べている．その結果，「配慮・共感を示す」，「共感を求める」の「ね」を多く使用してると報告している．

柴原(2002)と張(2005)は，「会話促進」，「注意喚起」，「発話緩和」，「発話内容確認」，「発話埋め合わせ」の 5 つの「ね」を調べている．まず，柴原(2002)は，中・上級の学習者 6 名を対象とし，来日時と 9 ヶ月後の OPI(Oral Proficiency Interview)データを分析した結果，9 ヶ月間日本に滞在しても「ね」の使用に変化は見られず，「ね」が適切に発話できるようになるのは上級以降になるという仮説を立てている．張(2005)は，上級台湾人学習者 10 名と日本語母語話者 10 名における約 15 分～20 分の会話(接触場面:10 会話，母語場面:5 会話)を分析している．その結果，台湾人学習者の「ね」の使用頻度は，日本語母語話者の半分以下であると述べている．

何(2008)は，初級から上級の中国語を母語とする学習者 25 名の OPI データを用いて「同意要求」,「同意受け入れ」,「確認要求」,「聞き手の発話に対する判断・意見・感想」,「聞き手の質問に対する情報」,「話し手の判断・意見・感想」,「聞き手への依頼・勧め・感謝・謝り・要望」,「話し手の質問」の 8 つの「ね」を調べている．その結果，中・上級になっても「ね」を適切に用いられない学習者が多いとしている．

楊(2010)は，中上級の中国人学習者 2 名と日本語母語話者 5 名を対象とし，10 ヶ月間に 5 回の会話(20 分)を収集している．この会話データを用いて「引き込み型」,「共感共有型」,「確認要求型」の 3 つの「ね」を調べた結果,「ね」の使用における大きな変化は観察できなかったと報告している．

吉田(2011)は，初級から超級の韓国人学習者 111 名の OPI データを用いて「話し手情報(発話緩和・自己確認)」,「同意(同意要求・同意表明)」,「確認要求」,「フィラー」,「間投詞」の 5 つの「ね」を分析している．その結果，初級では「ね」の使用は少なく，中級では「同意」の「ね」の誤用が減り，上級では「話し手情報(発話緩和・自己確認)」の使用と誤用が増加し，超級では「ね」の使用が母語話者に近づいていると述べている．

以上のように，従来の研究では,「ね」を分類する区切り方が異なっているため，研究間の結果を比較しにくいという課題が残る．また,「ね」の機能を文レベルから分析しており，各機能における誤用や正用については数値を出している．しかし，使われるべきなのに使われていない欠落については言及はしているものの，詳細な分析は行われていない.「ね」は情報の所在によって出現するため, 話題が統制できていない会話データでは,「ね」の出現が変わる可能性が高いことも従来の研究の課題であった．

3. 使用データの概要

データは，国立国語研究所の「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」から採取した．このうち，自由会話を対象とする．自由会話は，ある程度統一させた話題(15 項目)で，調査実施者(日本語母語話者)と日本語学習者および日本語母語話者が会話(約 30 分)を行うものである．データ間での比較のため話題が統制されており，調査実施者が質問をしながら進めているインタビュー形式であることから，話題によって「ね」の出現が変動するという従来の課題をある程度解消できる．本稿では，インタビューされる側の 20 代の日本語母語話者(以下「母語話者」)6 名と韓国人日本語学習者(以下「学習者」)12 名の 18 会話を対象とする．表 2 は，対象者の性別と J-CAT(Japanese Computerized Adaptive Test) の得点である．学習者は，上位群と下位群に分ける．

表 2 対象者の情報

		性別	J-CAT の得点
母語話者(N=6)		男 3，女 3	-
学習者 (N=12)	上位群(N=6)	男 2，女 4	250~349 点
	下位群(N=6)	男 2，女 4	150~249 点

4. 研究結果

4.1 終助詞「ね」の頻度数の集計

分析対象は，文末に付く単独の終助詞「ね」である．語中，文中，フィラーおよび「よね」は，分析対象外とする．フィラーは，(1)のように，はい/いいえで答えられない質問に対する「そうですね」である．以下，C は調査実施者を，J は母語話者を，K は学習者を意味する．

(1) C ： 生活をする場所として何が一番大事ですか.
J ： あーそうですね. でもやっぱりゆっくり休めるとかー(中略)そういうのがいいなってゆう

表 3 は,「ね」を「情報のなわ張り理論」の 4 つの枠組み(①「必須の『ね』」,②「任意の『ね』」,③「疑問の『ね』」,④「強調の『ね』」)に分類し，欠落と誤用を加え，一人当たりの使用数を算出したものである．

表 3 「ね」の一人当たりの平均使用数(単位：回)

		①必須のね	②任意のね	③疑問のね	④強調のね	合　計	欠　落	誤　用
母語話者(N=6)		9.8(18.9%)	36.7(70.8%)	5.3(10.2%)	0(0.0%)	51.8(100%)	-	-
学習者	上位群(N=6)	6.3(15.3%)	34.3(83.1%)	0.7(1.7%)	0(0.0%)	41.3(100%)	2.3	0.8
	下位群(N=6)	1.5(8.3%)	16.3(90.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	18.0(100%)	1.3	1.2

表 3 より，上位群の「ね」の使用数は，41.3 回と母語話者より少ないが，①「必須の『ね』」と②「任意の『ね』」の割合は母語話者に類似している．一方，下位群の「ね」の使用数は，18.0 回と母語話者より大幅に少なく，その使用のほとんどは②「任意の『ね』」である．また，上位群，下位群とも欠落と誤用は殆どない．

学習者の欠落や誤用は殆どなく，上位群は集計上は母語話者と「ね」の 4 分類に関して類似の傾向が観察されたものの，実際の発話を見ると違いが観察される．(2)と(3)のように，母語話者が「そうですね」を使う場面で，学習者は「はい」を使うことが多く見られた．

(2)　(母語話者，都会に住みたい理由と述べた後)
C　：　あじゃあ狭さはもう特に気にならない
J　：　そうですね，普通であれば別に(中略)

(3)　(下位群，都会に住みたい理由を述べた後)
C　：　翻訳のお仕事をされたいということだったので，田舎でもできますね
K　：　はい

このような観察を受けて，母語話者と学習者における「そうです」に「ね」を付ける文，「そうです」以外に「ね」を付ける文，「はい」を集計した(表 4).

表 4 「ね」と「はい」の一人当たりの平均使用数(単位：回)

		①必須のね		②任意のね		はい	合計
		そうですね そうですね＋情報	その他+ね	そうですね そうですね＋情報	その他+ね	はい＋情報	
母語話者(N=6)		6.7(9.2%) 2.3	3.1(4.3%)	16.5(22.7%) 9.3	20.2(27.7%)	26.3(36.1%) 8.2	72.8(100%)
学習者	上位群(N=6)	5.2(5.6%) 1.8	1.1(1.2%)	8.0(8.6%) 3.0	26.3(28.4%)	52.0(56.2%) 28.3	92.6(100%)
	下位群(N=6)	0.2(0.3%) 0.0	1.3(1.7%)	0.7(0.9%) 0.2	15.6(20.2%)	59.3(76.9%) 26.5	77.1(100%)

表 4 より，学習者は「そうですね」が少なく，「そうですね」の代わりに「はい」を使う傾向が見られる．ただし，上位群はやや母語話者に近くなっている傾向がある．

4.2 「そうですね」の有無が談話の流れに与える影響

次の(4)と(5)は，同じ話題(誕生日の過ごし方)における母語話者と学習者(上位群)の会話である．母語話者と学習者の談話の流れを比較し，分析する．

(4) C ：子供の頃に〈はい〉，なんか印象に残ってるお誕生日の会とかってありますか
J ：まあ大体毎年〈うん〉，同じような感じで，まあケーキを〈はい〉，買ってきてくれて〈えーえーえー〉，蝋燭立てて
C ：お祝いして家族集まってって
J ：そうですねーまあ，うちはあの一祖父母はもう，なく，あの一早くに〈えー〉亡くなっていて〈あーはいはい〉，兄弟もいないので，三人家族で〈あーあー〉，やってました，ずっと
C ：そっか，じゃあまあ愛情を一身に受けて
J ：まあそうですね

(5) C ：韓国ってなんか，誕生日に特別なことをしたりはしますか？
K ：あー，わかめのスープを，食べますね〈ふーん〉，わかめのスープ，必ず食べて〈うんうん〉その後は，まあ家族と一緒にケーキをするとか〈うんうん〉そんな感じですね(中略)
C ：あーまずは，じゃあわかめスープを
K ：はいそれは，必ず
C ：必ず
K ：そう
C ：今でもやるんですか？
K ：はい

(4)では，C の「お祝いして家族集まってって(お祝いしますか)」という追加の質問に，J は「そうですね」に加えて詳しい情報を追加している．一方，(5)では，C の「あーまずは，じゃあわかめスープを(飲みますか)」と

いう追加の質問に，K は「はい」に加えて「わかめスープは必ず飲む」という情報を繰り返して述べている．その後も，C の「必ず」と「今でもやるんですか？」という質問に K は，「はい」と「そう」で答えるだけて情報は追加していない．(5)では，追加される情報がないまま，会話のターンが増えている．つまり，学習者の「はい」の使用は間違いではないが，話し相手に与える情報が少なくなり，話題の広がりが限られるなどの影響があると考えられる．

5. 結論と今後の課題

本稿では「情報のなわ張り理論」における「ね」の 4 つの枠組みを用いて，学習者の終助詞「ね」の使用状況を分析した．その結果，学習者は，欠落と誤用は殆どなく，「そうです」以外の文に②「任意の『ね』」をよく付ける傾向があった．また，「そうですね」の代用として「はい」を使用し，追加の情報を述べないことが，談話の流れに影響を与えていると考えられる．従来の研究では，「ね」の分類方法が異なるため，研究結果を比較しにくい問題があった．しかし，「情報のなわ張り理論」を使うことによって「ね」を普遍的に分類することができたと考えられる．また，話題による「ね」の出現が統制できている「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を使うことによって，データ間の比較が容易にできたと考えられる．

同じ 30 分の会話でも母語話者と学習者では発話量が異なり，それが「ね」の出現量にも影響していることが考えられるが，本稿では発話量を考慮した分析をすることができなかった．今後は，発話量に比しての「ね」の使用頻度を調査する必要がある．

参考文献

Bae Deokhui(배덕희 2002). 한국어‘요’, 일본어‘ね’・‘よ’와 그 교육(韓国語の「요」，日本語の「ね」・「よ」とその教育) 日本語文学, 12, pp.21-47.

張鈞竹(2005). 台湾人日本語学習者の終助詞「ね」の使用―コミュニケーション機能を中心に― 言語情報学研究報告, 6, 281-299.

初鹿野阿れ(1994). 初級日本語学習者の終助詞習得に関する一考察―「ね」を中心として― 言語文化と日本語教育, 8, 14-25.

何桂花(2008). 日本語教育における終助詞「ね」の習得の特徴―インタビュー形式の会話における中国語を母語とする学習者を中心に― 日本語・日本文化研究, 18,117-126.

神尾昭雄(1990). 情報のなわ張り理論 大修館書店

神尾昭雄(2002). 続・情報のなわ張り理論 大修館書店

メイナード.K.泉子(1993). 会話分析 くろしお出版

柴原智代(2002). 「ね」の習得―2000/2001 長期研究 OPI データの分析― 日本語国際センター紀要, 12, 19-34.

楊虹(2010). 中国人日本語学習者の終助詞の使用に関する一考察 お茶の水女子大学人文科学研究, 6, 199-208.

吉田たか(2011). 韓国人日本語学習者の終助詞使用状況―「ね」の使用を中心として― 日本語學研究, 32, 155-167.

偶然の出会いにみられる対面会話開始部の様相

岡村　佳奈(東京大学大学院生)

1. はじめに

会話の最もはじめに位置する開始部は，対人関係を円満にし，円滑に話を進めるのに重要な役割を果たすと考えられる．

これまで開始部に関しては，Hopper(1992)など電話会話を対象にした会話分析の研究が多くなされ，汎言語的に「呼び出し(電話のベル)―応答」→「自己提示―認定」→「挨拶(Hi)―挨拶(Hi)」→「挨拶表現(How are you?)―応答(Fine)」の4つの隣接ペア[1]で構成されていることが明らかにされてきた．また，対面会話の開始部については，実際の対話を分析した研究ではないものの，「間投詞」→「呼称」→「あいさつ語」→「実質的表現」で構成されていると述べた長谷川(2001)などを通して電話会話と似たようないくつかの連鎖によって成り立っていることが言及されている．

このように開始部の研究はある程度蓄積されてきたが，話し手同士の対人関係や，会話開始時におかれた状況などの変数によって，開始部の構成やその中にみられる特徴に差が生じることが予想されるのにもかかわらず，そのような点に焦点を当てて分析したものは少ない．

本研究では，様々に分類される変数の中でも特に偶然の出会いに注目し，日本語母語話者同士が偶然に出会った場面でどのように会話を開始するのか，その様相を考察することを目的とする．

2. 調査の概要

2016年10月から2017年3月にかけて，同性および同年齢同士の20代の日本語母語話者を対象にロールプレイ調査を2人1組で実施し，その会話内容を録音した後，宇佐美(2015)を基に文字化を行った．ロールプレイ調査で示した状況は以下の通りであり，4つの状況で親しい友人，もしくは親しくない友人と出会ったと仮定して会話を始めた後，3分程度雑談するよう被験者たちに依頼した．

状況1：9時頃，毎日のように顔を合わせる親しい/親しくない友人と学校/職場で出会ったとき
状況2：13時頃，3か月間会わなかった親しい/親しくない友人と学校/職場で久しぶりに出会ったとき
状況3：17時頃，1週間会わなかった親しい/親しくない友人と新宿で偶然出会ったとき
状況4：20時頃，毎日のように顔を合わせる親しい/親しくない友人と新宿で偶然であったとき

この4つは，出会った時刻に違いがあるほか，①日常的な出会いか否か[2]，②久しぶりの出会いか否かという2つの尺度の組み合わせによって，状況1が日常的に出会ったとき，状況2が日常的かつ久しぶりに出会ったとき，状況3が偶然かつ久しぶりに出会ったとき，状況4が偶然に出会ったときという設定になっている．

このうち本研究では，偶然での出会いにおける開始部に焦点を当てているため，状況3と状況4で収集された各32談話(女性：20談話、男性：12談話)、計64談話を主な分析対象とする．ただし，日常的な出会いである状況1や2と比較をしなければ得られない考察もあると考えたため，状況1と2を分析した岡村(2018)の結果を一部参照することにしたい．

なお、本調査では前述したように相手との親疎別に調査を行ったが，自然談話にできるだけ近似した談話を収集するため，親しい友人同士のロールプレイは実際に親しい友人同士で行い，親しくない友人同士のロールプレイは初対面の被験者たちに5分程度の自由会話をしてもらった後，自分たちを「親しくない友人」だとみなし行うよう指示した．

[1] Schegloff & Sacks(1973)によれば，隣接ペアとは，「質問―応答」「挨拶―挨拶」のような対をなす行為の連鎖のことであり，(1) 2つの発話からなる，(2) 2つの発話は隣接した位置にみられる，(3) 別の話し手によってそれぞれの発話が産出される，(4) 第一成分が第二成分に先行する，(5) 第一成分はある特定の第二成分を引き出す，という5つの特徴を持っている．

[2] ここでいう「日常的な出会い」とは，他学生との学校での出会いや同僚との職場での出会いなど，普段からよく会っている人同士の予測可能な出会いを指す．

3. 分析結果

3.1 全体的な構造

調査の結果，偶然の出会いにおける開始部は，談話例1のように「認識―認識」→「挨拶―挨拶」→「挨拶表現―応答」の3つの隣接ペアで構成されており，先行研究における指摘と非常に類似していることがわかった.

【談話例1　状況4・親しい友人同士】

J32：お。　《認識》
J30：おう&,,　《認識》
J30：〈お疲れ〉{く}。　《挨拶》
J32：〈お疲れ〉{ン}さまです。　《挨拶》
J30：あれ?どしたの?。　《挨拶表現》
J32：うん、ちょっとあのー、プレゼント買いに。《応答》

【談話例2　状況3・親しい友人同士】

J26：あ&,,　《認識》
J26：なんでいんの?。
J27：うわー〈二人で笑い〉。　《認識》
J26：え、〈なにしに来たの?〉{く}。　《挨拶表現》
J27：〈久しぶり〉{ン}。　《挨拶》
J26：久しぶり。　《挨拶》
J27：えっとね、プレゼント買いに来た。《応答》

収集された談話の中にはこの順序が逆になっているようにみえる例も数件みられたが，そのような例も順序が完全に入れ替わっているのではなく，談話例2のように「挨拶表現―応答」の間に「挨拶―挨拶」が挿入されているだけであった. この例では，「なんでいんの?」「なにしに来たの?」と言われた J27 がそれに対して答える前に挨拶をしているが，「挨拶―挨拶」が「挨拶表現―応答」に先行すべきだという考えがあったからこそこのような振る舞いをみせたのだろう．もしそのような前提が話者の中になかったならば，挨拶表現に答えてから挨拶をすることも可能だが，そのような談話例は1例もなかったため，やはり開始部の基本的な構造は前述のとおりだと判断される.

3.2 「認識―認識」

「認識―認識」は，相手が既知の人だということを認識し，相手に自分の存在を知らしめる部分である.

まず，「認識―認識」の第一成分のみを分析したところ，「あ、あー」「あ」などのア形感嘆詞，「おう」「おー」などのオ形感嘆詞のほか，偶然の出会いに対する驚きなどの感情を表すと考えられる「あれ?」「え、あれー?」などアレが含まれるアレ形感嘆詞が状況にかかわらず多用されることが明らかになった.

＜表1＞　「認識―認識」の第一成分

状況3	「あ、あー」「あ」「あ―」	**10**
	「お」「お、呼称」	**8**
	「あれ?」「あれ?呼称」「あ、あれ?」「え、あれー?」	**6**
	「え」	3
	その他	4
	認識なし	1
状況4	「あー」「あ」「あ、呼称」	**10**
	「おう」「おう、呼称」「お」「おー」	**10**
	「あれ?」「あ、あれ?」「あれ、呼称」	**5**
	「え」	2
	その他	3
	認識なし	2

【談話例3　状況3・親しくない友人同士】

→J1：〈あれ?〉{く},,
→J2：〈あ〉{ン}、あれ?〈あー、えー、「J1性」さん〉{く}。
J1：〈あ、お久しぶり〉{ン}です、えー。
J2：え、お久しぶりです。

【談話例4　状況4：親しい友人同士】

→J5：あ,,
→J8：あー、「J5名」ちゃーん〈二人で笑い〉。
→J5：「J8名」ちゃーん〈笑い〉。
J8：バイトでしょ?。

次に，第二成分まで含めて分析した結果，第一成分と第二成分で同一，あるいは類似した発話形式を用いたものが状況3で12件，状況4で16件あり，談話例3や談話例4のようにオウム返しが好まれる傾向にある様子がうかがえた.

3.3 「挨拶―挨拶」

Hopper(1992:60)によれば，挨拶とは「相手を認識し，相手との出会いが受け入れ可能であることを示すサイン」として交わされるものである．どのようなことばを挨拶の範疇に入れるかに関しては研究者ごとに見解の違いがあるだろうが，

本研究では小林・澤村(2014)に従い，挨拶の専用形式，つまり人に出会ったり別れたりするという挨拶する場面でしか使えない「こんにちは」のようなことばのみを挨拶と見なすことにした．

このような定義に基づき「挨拶―挨拶」の第一成分をみた結果，挨拶が観察されなかった例が状況3では12件，状況4では17件あり，挨拶の省略が30～50%と頻繁に行われていることがわかった．岡村(2018)によれば，状況1と2では挨拶の省略が親しい関係であってもほとんど見られなかったため，これは偶然の出会いにみられる特徴であり，予期せぬ出会いに対する驚きなどが挨拶の省略につながったと考えるのが妥当であろう．

使用された挨拶の類型は，状況3ではヒサシブリ類，状況4ではオツカレ類を単独，もしくは併用して用いる比率が高く，「こんにちは」「こんばんは」のような挨拶はほとんど用いられていなかった．ロールプレイ調査で出会いの時刻として設定した夕方から夜にかけての規範的な挨拶は「こんにちは」「こんばんは」であるが，羅聖淑(2010)によれば，これらの挨拶は若年層では目上の人だけに用いられ，友人同士ではあまり用いられないという．本研究で研究対象としたのが20代被験者による同年齢同士の会話であったため，これらの挨拶が観察されなかったものと推測される．

＜表2＞　「挨拶―挨拶」の第一成分

状況3	「お久しぶりです」「久しぶり」「久しぶり ＋ やっほー」	**12**
	「お疲れ様です」「お疲れ」	6
	「どうも」「やっほー」	(各1)2
	挨拶なし	**12**
状況4	「お疲れ」「お疲れ様です」「お疲れ ＋ さっきぶり」	**7**
	「どうも」「やっほー」「こんばんは」	(各2)6
	「おはよう」「さっきぶりー」	(各1)2
	挨拶なし	**17**

また，第二成分まで含めて分析したところ，第一成分と第二成分で同一，もしくは類似した発話形式が用いられた談話が状況3では14件，状況4では10件あった．全体数はそれほど多くないが，状況3では12件，状況4では17件でそもそも挨拶自体が観察されなかったことを鑑みると，オウム返しがかなり好まれているといえるだろう．実際の談話例をみても，「さっきぶりー」という使用頻度の低い挨拶にも「さっきぶり」で返していたり(談話例5)，J1の「こんばんはー」を聞いたJ2が「こんな」から始まることばを言おうとしていたのに発話をやめて「こんばんは」と返した(談話例6)ことから日本語母語話者がオウム返しを志向していることがわかる．

【談話例5　状況4・親しい友人同士】
J1：あれ?。
J3：え?。
J1：え?あれ?どうしたの?。
→J3：うーん、なんかさっきぶりー〈二人で笑い〉。
→J1：さっきぶり〈笑い〉。

【談話例6　状況4・親しくない友人同士】
J1：あれ?。
J2：あれ?あー。
→J1：こん〈ばんはー〈笑い〉〉{〈}。
→J2：〈こんな〉{〉}、こんばんは。

3.4　「挨拶表現―応答」

「挨拶表現―応答」は，深い発話内容を含まない質問や表現が交わされる部分である(Hopper，1992)．開始部の最後ではこのような「挨拶表現―応答」がいくつか交わされた後，主要部に移行していくと考えられるが、ロールプレイ調査での話題を雑談としたためか主要部移行へのサインとなる談話標識が本研究ではみられず，どこまでが開始部か判断するのが困難だった．そのため，「挨拶―挨拶」の後に観察された直後に観察された1つ目の隣接ペアのみを「挨拶表現―応答」とみなし，分析することにした[3]．本研究で収集された挨拶表現を分類した類型は(1) 行動や状況への質問・描写，(2) 接触に関する言及，(3) 感情の表出，(4) その他，の4つである．

分析の結果，「どうしたの?」「なにしてんの?」のようにどのような目的で偶然に出会ったその場所に来たのかをたずねる「行動や状況への質問・描写」や，「こんなところで会うなんて」「よく会うね」など偶然に出会ったことや頻繁に会うことについて述べる「接触に関する言及」が多く用いられることが明らかになった．

[3] 第一成分と第二成分が両方生起されたものに限り「挨拶表現―応答」とみなした．したがって「挨拶―挨拶」の直後に何らかのことばが発せられたのに，それに対応する第2成分が産出されなかった場合は，分析の対象から除外した．

＜表 3＞　「挨拶表現―応答」の第一成分

状況 3	行動・状況への質問・描写	**26**
	接触に関する言及	3
	感情の表出	2
	その他	1
状況 4	行動・状況への質問・描写	**20**
	接触に関する言及	7
	感情の表出	3
	その他	2

【談話例 7　状況 4・親しくない友人同士】
J28: あ、〈「J25 名」やん〉{〈}。
J25: 〈あれ?〉{〉}&, ,
→J25: どうしたん?。　(1 つ目の質問)
→J28: えー、いつから?何で?。　(2 つめの質問)
J25: いつから?〈二人で笑い〉。
→J25: 今来たとこ。
＜中略＞
→J25: どしたん?。(1 つ目の質問)
J26: え、本を買いに来た。

このうち「行動や状況への質問・描写」を用いた談話の中には,「どうしたん?」の後に「いつから?なんで?」を産出した談話例 7 のように, 1 つ目の質問に 2 つ目の質問で返している例が状況 3 では 8 件, 状況 4 では 6 件みられた. このような様相を呈した理由には, 質問形式ではあっても質問の機能はないとみなされたため、あるいは驚きを示すため、などが挙げられるだろう. また, このような談話例のもう 1 つの特徴は, 2 つ目の質問への応答が 1 つ目の質問のそれに先行するということであった. 例えばこの例では,「いつから?なんで?」という 2 つ目の質問に応答がなされた後,「どうしてそこに来たのか」についての会話がしばらく続く. そして, 1 つ目の質問が再び投げかけられてから, ようやくそれへの応答が観察されたが, 1 つ目の質問に対する答えが会話中まったく産出されずに会話が終了する例も数件みられた。

最後に,「挨拶表現―応答」でも以下のようにオウム返しがみられる例があったことを明記しておきたい. このような例は, 状況 3 では 4 件, 状況 4 では 5 件しかなかったが,「認識―認識」と「挨拶―挨拶」でもその傾向があったことから, 開始部では全体的にオウム返しを好む可能性があることも否めない.

【談話例 8　状況 3・親しくない友人同士】
J4: あ、あー。
J3: え、えー(〈笑い〉)&, ,
→J3: えー、こん〈な所で一会うなんて〉{〈}。
J4: 〈えー、どうした?〉{〉}。
→J4: ねー、会うなんてー〈笑い〉。

【談話例 9　状況 4・親しくない友人同士】
J10: あ&, ,
J10: お疲れさまです。
J9 : おー。
J10: あー、お疲れさま〈ですー〉{〈}。
J9 : 〈こんな〉{〉}所一に, ,
→J10: なんとー。
→J9 : なんと。

4.　まとめと今後の課題

本研究では, 偶然の出会いにおける開始部が「認識―認識」→「挨拶―挨拶」→「挨拶表現―応答」で構成されていることを提示し, アレ形感嘆詞の多用や挨拶の省略が多いことなど, 出会いへの驚きの表示が偶然の出会いにみられる特徴を生んでいることについて言及した. また, 3 つの隣接ペアすべてで第一成分と第二成分のオウム返しがみられたことから, 開始部全体でオウム返しが志向されている可能性があることも提起した.

相手との親疎による差異, 性差については取り立てた結果を得ることはできなかったが, データ数を今後増やし、再度検証していきたい.

参考文献

長谷川頼子 (2001). 出会いの場面にみられるあいさつ語と実質的表現　筑波応用言語学研究, **8**, 71-84.

Hopper, R. (1992). *Telephone Conversation*, Indiana University Press.

小林隆・澤村美幸 (2014). ものの言いかた西東, 岩波書店

岡村佳奈 (2018). 日本語対面会話における開始部の構造と特徴―日常的に・久しぶり出会った場面 におい て― 社会言語科学会第 41 回大会発表論文集, 190-193.

Schegloff, E. A., & Sacks, H. (1973). Opening up Closings *Semiotica* **8**, pp. 289-327.

宇佐美まゆみ (2015). 基本的な文字化の原則(BTSJ: Basic Transcription System for Japanese)2015 年改訂版 (http://ninjal-usamilab.info/pdf/btsj/btsj2015.pdf)

羅聖淑 (2010).「お疲れさまです」をめぐって―日韓大学生の挨拶言葉の対比より― 上野善道(監) 日本語研究の 12 章　明治書院 pp. 16-31.

中国語における日源新詞の受容
—日源新詞の判別とその受容について—

張暁娜(鹿児島大学大学院)

1. はじめに

1978 年の「改革開放」政策以後，中国は日本語由来の外来語の輸入ブームを迎え，“御宅族”（オタク） “萌”（萌え） “单品”（単品）等のような現代の日本文化と関わりの深い語を数多く輸入した。これらの 1978 年の中国の「改革開放」政策が実施されて以来，中国語に取り入れられた日本語由来の外来語は「日源新詞」と呼ばれている。本発表は日源新詞の定義と判別基準を明確にした上で，新語辞書，先行研究そしてメディアから集めた語について，受容パターンと意味の２つのレベルに見られる受容の特徴について報告する。

2. 日源新詞の定義

本稿のテーマである日源新詞は，中国語における「外来語」の一種である。中国語の「外来語」については，これまで数多くの研究者によって多様な研究がされてきたが（王力，1958； 高名凱・劉正埮，1958 など），「外来語」の概念とそれが意味する範囲についての議論は学者により異なり，いまだに定まった結論が出ていない（彭広陸，2005）。とくに，その意味する範囲についての議論は，主に意訳語（翻訳借用）と日本語由来の借形語が外来語に属するかどうかに集中している。本稿は，以上の問題点をふまえて，「外来語」とは，他の言語から取り入れられて，記号表現の面（音声面あるいは形態面）で借用が発生する語彙のことと定義する。具体的には図１に示すように，音訳語，逐訳語，そして借形語のことであり，意訳語は含めない。この定義にしたがい，「日本語由来の外来語」は「日本語から借りてきた語彙」という意味で使うことにする。

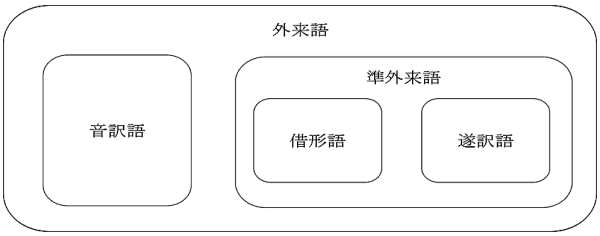


図１　本稿における外来語の意味範囲

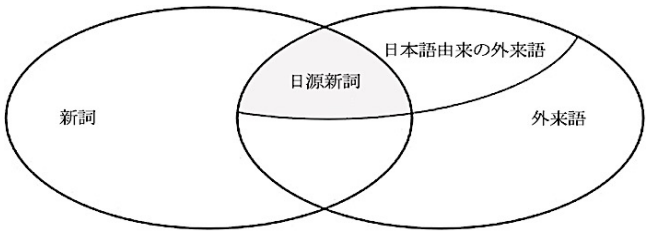


図２　本稿における日源新詞の意味範囲

表１　調査対象とした新詞辞書と収録語数

辞書	収録範囲	収録語数
漢語新詞語 2006～2014 （計９冊）	2006	171
	2007	420
	2008	444
	2009	573
	2010	626
	2011	618
	2012	525
	2013	363
	2014	424
中国言語生活状況報告書 2016	2015	469
100 年漢語新詞新語大辞典 1912–2011 下巻のみ考察対象とする	上巻 1912–1949	約 11000
	中巻 1949–1978	
	下巻 1978–2011	
新世紀新詞語大辞典 2000–2015	2000–2015	約 5400
漢語新詞詞典 2005–2010	2005–2010	約 2000

表２　調査対象とした先行研究と収録語数

先行研究	収録語数
丁杨（2010）现代汉语中的日源外来词研究 pp. 21–22	単語:183 接辞: 7
王雯（2010）改革开放以来的日源外来词研究 p. 5	単語:117
谯燕 徐一平 施建军編(2011)日源新詞研究	単語:75
谢静怡（2012）日源外来词新词语特征 pp. 37–38	単語:280
石聪慧（2014）动漫文化中的日源外来词研究 pp. 43–55	単語:62
王婷（2015）現代中国語における日系外来語に関する認知的研　究 —改革開放以来の新語を中心に— pp. 41–42	単語:295
張黎（2015）中国の新語に於ける日本からの借用語について —メディアの使用状況を中心に— pp. 41–42	単語:171

次に，本稿における日源新詞の定義について述べる。彭広陸（2013）によると，「新詞（新語)」の指し示す範囲は固定しているものではなく，時代とともに変化するものである。中国の歴史上での区分は，1978 年以降を「新時期」と呼ぶ。本稿では「1978 年改革開放政策以降に現れた語彙」を「新詞（新語)」として扱うことにする。「日源新詞」は「外来語」でありながら「新詞」でもある。そのため，本稿は，図２に示すように，「日源新詞」を「1978 年の中国の改革開放政策以来，中国語に取り入れられた日本語由来の外来語」と定義する。

3. 日源新詞の収集と判別

3.1 収集の基準と調査対象の選定

上述のように,「日源新詞」は常に更新されるものである。そのため，出来る限り新しい資料を利用して広く新詞を収集し，その特徴を明らかにすることが重要である。しかし，中国には日源新詞に特化した辞書は一つもなく，日源新詞を収録する新詞辞書でも日本語由来だと明記するものが少ないため，その量を把握するのは非常に難しい。そこで，本研究は 2.の日源新詞の定義を基準として，新詞辞書および日源新詞に関する先行研究，さらにメディアの３つから語を集めた。その際，新詞辞書は出来る限り新しいものを選び，先行研究ですでに考察された辞書は避けることにした。本稿が参照した新詞辞書と先行研究は表１と表２の通りである。

3.2 日源新詞の判別

3.2.1 日源新詞の判別ステップ

日源新詞を収集するときの判別基準は以下の通りである。

⑴ 外来語かどうか

本稿における外来語は，音訳語，借形語（形訳），逐訳語のことを指す（図１）。意訳語や派生語を含むとする立場もあるが（彭広陸，2013；史有為，2000 など），本稿ではそれらは含めない。

⑵ 日本語由来かどうか

語が日本語由来かどうかを判断するときには３つのステップが考えられる。

ステップ①：新詞辞書で日本語由来と明記されているかどうかを確認する
ステップ②：①で明記されていない場合は『デジタル大辞泉』や新詞集の『イミダス 2016』などを確認する。
ステップ③：②でも確認できない場合は，検索エンジン，Wikipedia，ニコニコ大百科，実用日本語表現辞典(ウェブリオ)などを確認する。

これらのステップを経て,「日本語由来」と確認できた場合のみを日源新詞とし，それ以外は分析からはずす。

⑶ 新詞かどうか（1978 年以後に輸入された語かどうか）

語が新詞かどうかを判断するときには２つのステップがある。

ステップ①：読秀コーパスと人民日報図文コーパスを検索し，初出記事の年代を確認する。
ステップ②：①の結果にから，初出記事の年代が 1978 年以前の語彙の意味を文脈に照らして確認する。

これらの結果から，初出記事の年代が 1978 年以後の場合は新詞と扱う。それにたいして，初出が 1978 年以前の語は,文脈から判断される意味が 1978 年以降の新しい意味である場合は「旧詞新義」として新詞に含める。1978 年以降も意味が変わらない場合は新詞ではないと判断する。

3.2.2 現在までの収集結果

合計 296 語を集めた。内訳は，音訳語 60 語，逐訳語 11 語，借形語 204 語，接辞 21 語である。

4. 日源新詞の受容に見られる特徴

外国語が外来語として輸入されるときには，輸入先の言語の文字表記や文法の制約によって，何らかの変更が生じることがある。日源新詞の中国語化（言語的受容）には形態と意味の２つのレベルにその特徴が見られる。

4.1 形態レベルの受容の特徴

⑴ 日源新詞受容のパターンは増えたが，借形語が依然として一番多い。

19 世紀末～20 世紀初頭にかけての「日本語由来の外来語」輸入ブームにおいては，借形語としての受容が圧倒的であり，音訳語と逐訳語は極めて少なかった（沈国威，1994)。それにたいして，1978 年以降は多様なパターンが見られるようになった。たとえば，“OL”（OL）のようなローマ字語や“壁咚”（壁ドン）のような音訳＋形訳の形式である。今回集めた語彙には，“Wota 艺”（オタ芸）のような仮名をローマ字表記に還元して輸入する受容法や“工口”（エロ）のような仮名の元になった漢字で表現するという新しい受容法が見られた。

⑵ 音訳語の増加

沈国威（1994）によると，近代以降，中国語に入ってきた日本語の語彙には，ブランド名などの固有名詞を除けば，一般名詞としての音訳借用語は“榻榻米”（たたみ）のみのようである。それに比べて，新しい時代に入ると，日源新詞の受容パターンが増え，音訳語が徐々に見られるようになった。筆者が集めた 296 語のうち，音訳語は 60 語あり，全体の約 20%を占めている。これらの語を 10 年ごとに時間を区切ると，各期間の輸入語数は表３のようになる。少しずつではあるが，音訳語は量的にも比率的にも増加する傾向にあると思われる。その中で，特に増加しているのは“卡哇伊”（かわいい） “欧尼酱”（お兄ちゃん） “赛高”（最高）等，すでに存在する概念や物事を新しく表現するためにできた音訳語，いわゆる贅沢借用語（luxury loans）である。

表 3　各年代の音訳語の個数と総輸入語数

期間	音訳語	総輸入個数	比率（音訳語）
1978-1987	3	57	5%
1988-1997	8	55	15%
1998-2007	15	75	20%
2008-2017	23	72	32%

⑶ 日本語由来の形態素（接頭辞と接尾辞等）の生産力が高いこと

今回の収集により，新詞辞書には，“激～”(激～)“～控”(～コン)“～族”(～族)のような日本語由来の接辞（接頭辞と接尾辞）によって作られた派生語や“过学死”“过劳肥”などのような日源新詞になぞらえて作られた「外来語自構詞」(史有為，2000）が数多く存在することがわかった。一部の例をあげる。

～控(kong)大叔控　穿越控　攻略控　数码控　推特控
～族(zu)　婚活族　剁手族　房族　　恐生族　走婚族

これらの派生語の数は筆者が調べた中でも 150 語以上に達している。これらの語は本稿では日源新詞に含めないが，日本語由来の形態素の生産力が高いことは伺える。

4.2 日源新詞の意味レベルの受容

日本語が中国語に輸入されるときには，意味レベルにおいてもさまざまな変容が見られる。外来語の意味的変容は主に意味範囲の拡大と縮小，意味のプラス/マイナスの変化，意味の派生，そして意味の転換などから観察できる（彭広陸，2005；丁杨，2010)。新語辞書掲載の“暴走”[1]は，輸入されて意味範囲の拡大/縮小，プラス/マイナスの変化，意味の派生等の変容すべてに関わるため，本節では“暴走”を例に意味レベルの受容状況を考察する。

4.2.1“暴走”の意味的変容

『デジタル大辞泉』によると，「暴走」の意味は以下のとおりである。

【暴走】ぼう - そう［名］(スル)
①常軌や規則を無視して乱暴に走ること。②運転者のいない車両が走りだすこと。また，走っている乗り物が制御できない状態になること。③周囲の状況や他の人の思惑を考えずに勝手にどんどん事を進めること。④野球で，走者が無謀な走塁をすること。⑤コンピューターが異常な動作を始めて，制御できなくなること。

このように，「暴走」には５つの意味があり，基本的にはマイナスの意味をもつ語である。それにたいして，中国語としての“暴走”の意味は，新語辞書の『新世紀新詞語大辞典』によれば以下の通りである。

“暴走”［动］
①形容因失控而导致的狂暴以及不受人控制的行为，多出现在动漫作品中。
（コントロール不能により引き起こした乱暴な行為。アニメやマンガ作品によく出てくる。）[2]
②一种户外运动方式，通常沿着确定的路线，徒步或驾车行走一日或数日。
（戸外スポーツの一種であり，普通は決まった路線に沿って，徒歩やドライブで一日/数日中歩く/走ることを指す。）

中日の意味を比べると，中国語新詞辞書の意味②と対応する日本語の意味は見られないが，中国語の①は日本語の②とある程度の対応関係があると思われる。中国語①の「多出现在动漫作品中」(アニメやマンガ作品によく出てくる)という説明から，この意味はアニメやマンガ作品から輸入された可能性が高いと考えられる。「暴走」という語がアニメやマンガ作品に初めて使われたのは 1988 年の『機動警察パトレイバー』[3]（第５話のタイトルは『暴走レイバーX10』）である。しかし，当時中国に輸入されるときには，第５話のタイトルは“暴走”ではなく，“狂走”と訳された。「暴走」の語自体が中国人に知られたきっかけは，恐らく『新世紀エヴァンゲリオン』[4]の輸入だと考えられる。この場合の「暴走」は，主人公らの乗る決戦兵器の「エヴァンゲリオン」が「ロストコントロールによって引き起こされた狂った状態」を意味し，それがアニメのヒットによってファン

[1] 本節は，日本語と中国語を区別するために，日本語の暴走を「」，中国語の暴走を“”で括る。
[2] 中国語辞書の意味および中国語の例文の翻訳は筆者による。
[3] 『機動警察パトレイバー』: 1988 年を基点とした 10 年後からの数年間の近未来の東京を中心とした地域を舞台とした漫画，アニメ，小説などのメディアミックス作品である。マンガはゆうきまさみにより，アニメは押井守，吉永尚之等による。(Wikipedia：https://ja.wikipedia.org/wiki/機動警察パトレイバー 2017/01/24)
[4] 『新世紀エヴァンゲリオン』庵野秀明監督，GAINAX の原作による SF アニメ作品。大災害「セカンドインパクト」後の世界（2015 年）を舞台に，巨大な人型兵器「エヴァンゲリオン」のパイロットとなった 14 歳の少年少女たちと，第 3 新東京市に襲来する謎の敵「使徒」との戦いを描く。(Wikipedia：https://ja.wikipedia.org/wiki/新世紀エヴァンゲリオン 2017/01/24)

の間で広がった（王大閎；2014)。したがって，アニメやマンガの世界では，「暴走」という語は「ロストコントロールによって引き起こされた狂った状態」として認識され，作品と共に中国に伝わり，中国語の“暴走”の意味として定着した。中国語の語義①は日本語辞書の②の後半「走っている乗り物が制御できない状態になること」の意味に対応しているが，これは中国語の“暴走”は日本語から輸入される際に，語義が５つから 1 つになって，意味範囲が縮小したものと考えられる。

それにたいして，中国語②の意味は日本語の意味とは全く関係なく，漢字の意味から派生した新しい意味である。つまり，語彙の「字」の意味が「詞」の意味への影響によってできた意味である。日本語の「暴走」における漢字の「暴」は主に「乱暴，度を越した」,「走」は「走る」という意味で使われている(スーパー大辞林，2010)。一方，中国語になった“暴走”はその漢字の“暴”が“激し勢い，猛烈な”というふうに理解され，くわえて現代中国語において “走”は“走る”ではなく,“歩く”へと転換したため,“暴走”は日本語原語の「乱暴に走る」の代わりに,“激しい勢いで歩く”(つまり早足)というふうに理解されてしまった。

このように,「暴走」は“暴走”になることで，意味が縮小したのと同時に意味の拡大も生じた。日本語の「暴走」は基本的にはマイナスの評価を含意する表現として使われているが，中国語では中立的な意味（②）が生じたため,“暴走”はマイナスまたは中立的な意味を含む表現になった。

しかしながら，中国でもっとも権威のある漢語辞書の『现代汉语词典』最新版の第 7 版（2016）には“暴走”が収録されたが，語釈には「[动] 指在室外长距离快速行走。」（[動] 戸外で長距離に早足すること）という意味しか収録されていない。つまり，日本語原語の意味は中国語では二次的な意味（①）となり，新しく派生した意味のほうが主要な意味になったのである。その原因は，おそらく漢字から日本語原語の意味が読み取りにくいためと考えられる。彭広陸（2013）によれば，中日両語は漢字を使い，語構成にも大きな違いが見られないため，中国人は日本語由来の外来語にさほど違和感と抵抗感を覚えないですむ。一方で，同じ文字を使うからこそ，理解に支障をきたす場合もあり,「暴走」はその一つの例である。漢字は中日両語それぞれで千年以上の発展を経ているが,その使い方は共通していても,語義の変遷や語感が必ずしも一致しているとは限らない。上述のとおり，日本語の「暴」と「走」意味は，中国語の“暴”と“走”の意味とそれぞれ異なるため，日本語原語の「乱暴に走る」という意味は，字面からすでに読み取りにくくなった。その代わりに,“激しい勢いで歩く”(つまり早足)というふうに理解されるようになったのである。

5.おわりに

本稿は日源新詞の定義と判別基準を明確にした上で，新詞辞書，先行研究そしてメディアから集めた 296 語について，語彙の形態と意味の２つのレベルに見られる受容の特徴について考察した。日源新詞の形態レベルの受容の特徴は，①受容パターンが増えたが，借形語が依然として一番多いこと，②音訳語の増加，③日本語由来の形態素（接頭辞と接尾辞等）の生産力が高いことがわかった。意味レベルにおいては,「暴走」を例に日源新詞の受容状況を考察した結果，日本語が中国語に輸入されるときには，意味する範囲の拡大/縮小，語の評価的含意の極性（プラス/マイナス）の変化，意味の派生，および意味の転換等の変容が観察されること，②漢字が語彙の意味理解へ影響をもたらすことがわかった。

参考文献

彭広陸（2013)「中国語の新語に見られる日本語からの借用語」 『日本語学』 32 13-11 明治書院
彭広陸（2005)「中国語と外来語」『国文学　解釈と鑑賞』第 70 巻 1 号　至文堂
沈国威（1994)『近代日中語彙交流史』笠間書院
史有為（2000)『漢語外来詞』商務印書館
王大閎（2014)「日语 ACG 亚文化流行语研究」[M] 東北師範大学修士論文
丁杨（2010)「现代汉语中的日源外来词研究」[M] 江蘇大学修士論文
『デジタル大辞泉』(第二版) 2012　小学館
『スーパー大辞林』(第三版) 2010　三省堂
『现代汉语词典』(第七版) 2016　商務印書館
『新世紀新詞語大辞典』2015　上海辞書出版社
現代日本語書き言葉均衡コーパス：http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search_form
読秀コーパス：http://www.duxiu.com/showyou.jsp?o=1
人民日報図文コーパス：http://58.68.146.102/rmrb/20170124/1?code=2
ヤフー：http://www.yahoo.co.jp
Wikipedia：https://ja.wikipedia.org/wiki/メインページ
ニコニコ大百科：http://dic.nicovideo.jp
実用日本語表現辞典(ウェブリオ)：http://www.practical-japanese.com

日本語学習者の発話における補助動詞「～てしまう」の使用特徴

－談話の構造を中心に－

簡卉雯(国立台湾海洋大学)

1. はじめに

第2言語としての「～てしまう」の習得について，初級段階から教科書に導入されているが，上級日本語学習者にも使いこなすのが難しいことが報告されている（棚橋1996）．習得が困難になる原因，「～てしまう」の習得過程，及び日本語学習者の母語との関わりなどに関しては，まだ明らかにされていないところが多い．また，「～てしまう」は話し言葉的な文脈の中で多く用いられており，話し言葉的表現のベースとなる会話の考察が重要であると指摘されている（中山 2015；丸谷他1998）．本発表は日本語の補助動詞「～てしまう」が使用される談話の構造に注目し，英語，韓国語及び中国語を母語とする日本語学習者発話コーパスを用い，日本語母語話者との相違を比較しながら使用特徴を検討することを目的とする．

2. 先行研究

第2言語としての「～てしまう」の習得に関する研究には棚橋（1996）がある．棚橋（1996）は「～てしまう」の「遺憾」と「完結」の2つ用法の使用状況と使用環境に注目し，英語を母語とする日本語学習者を対象に，ストーリー・テリングの発話テストを行った．分析の結果，滞日期間及び学習期間が長いほど「～てしまう」の使用頻度と適切さが増加すること，日本語母語話者の多くが「被害の受け身」と共起させている一方，日本語学習者にはその傾向は見られなかったことが報告されている．しかし，実際の会話で，日本語学習者がどのような文脈の中で，どのように「～てしまう」を用いて表現するのか，母語に関わらず共通する使用傾向が見られるのか，日本語母語話者とどう異なるのかに関しては，未解明のままで，さらなる検討が必要である．本発表は日本語学習者コーパス「KY コーパス」と日本語母語話者コーパス「インタビュー形式による日本語会話データベース（「上村コーパス」）」という2つのコーパスを用い，「～てしまう」が使用される談話の構造に注目し，日本語母語話者の使用と比較しながら，日本語学習者の使用特徴を把握することを目的とする．

3. 調査

3.1 「～てしまう」の用法分類

「～てしまう」の用法分類について，本発表では「～てしまう」を「アスペクト的な意味」と「感情・評価的な意味」の2つの用法に分け，そのうちの「感情・評価的な意味」は「対抗的」，「遺憾」，「非意図」と「間主観」の4つの下位分類を行った.それぞれの定義については，守屋（1994），一色（2011）と簡（2018）を参考し，以下の（1）に示したように定義を下した.

(1)「～てしまう」の用法分類

ア.「アスペクト的な意味」:

a.「完結」:一連の動作が最後まで行われることを表す.

例：太郎がカードを配ってしまうと，皆はそれを一斉に手に取った.　（一色，2011：203-205）

イ.「感情・評価的な意味」:

a.「対抗的」:動作主体が強い意図のもとで動作を完結することに，話者の表現意図が置かれる場合に生じる意味である.

例：こうしていないで，宿題をやってしまおう.　（守山，1994：57）

b.「遺憾」:動作主体が意志を持って行為を行い，あるいはコントロール不可能な状況下で行為を行い，その結果話し手が自分にとっては好ましくないと否定的に捉える傾向が高いことを表す.

（一色，2011：205-209）

例：バスに忘れ物をしてしまいました.

c.「非意図」：動作主体のコントロール不可能な状況下で行為が行われるということを表す.感情・評価的な意味が薄い. （一色，2011：209-211）

例：スワンボードがあると，つい写真を撮ってしまう.今もっとも熱い被写体のひとつ（知らんけど）. （宮田珠己 『晴れた日は巨大仏を見に』；一色，2011：210）

d.「間主観」：聞き手に対する「言い訳」や「照れ隠し」や「配慮」を表す話し手が「てしまう」を付加して行為の意図性を軽減させることにより，意図的にその行為を行った印象を弱め，その行為に対する反省の念を聞き手に伝わることを表す.

例：A：誰？パソコンの電源，勝手に切ったのは.

B：すみません…，私がさっき切ってしまいました. （一色，2011：211-215）

3.2 データ

本発表はOPI方法によりデータ収集が行われた日本語学習者発話コーパス「KYコーパス」と日本語母語話者コーパス「インタビュー形式による日本語会話データベース（「上村コーパス」）」という2つの発話コーパスを分析に使用した.「KYコーパス」には英語，中国語，韓国語を母語とする日本語学習者それぞれ30名（初級5名，中級10名，上級10名，超級5名），計90名分の発話データが収録されている.日本語学習者の使用状況と比較するため，「KYコーパス」における各レベルの学習者の人数に合わせ，「上村コーパス」から無作為に10名の母語話者発話データのみを抽出し，対照資料として分析に用いた.

分析方法としては，「KYコーパス」と「上村コーパス」から「～てしまう」が使用された動詞を抽出して，3.1で述べた「てしまう」の用法分類に基づき，抽出された「てしまう」を「完結」，「対抗的」，「遺憾」，「非意図」と「間主観」の5つの用法に分類した.抽出の段階で，用法分類が曖昧な用語と日本語学習者による誤用を対象外とした.なお，「てしまう」の音韻縮約形「ちゃう」は「てしまう」と運用面において，微妙に違いがあるかもしれないが，本稿では同等に扱うものとした.

4. 結果と考察

4.1 用法別から見た「～てしまう」の談話構造の使用特徴

コーパスの中の「～てしまう」が現れた談話をの談話の構造を，中山（2015）を参考して，特徴をまとめ，以下の(2)に示した4種類に整理し，類型化を行った.

(2) データからまとめた談話の構造の種類 （中山2015を参考）

1. 因果関係： ①「原因（結果に至る理由説明）－結果」
   ②「条件－帰結・望ましくない結果」
2. 「事態や事情の説明－結論」
3. 理由説明：「事態や事情の説明－謝罪・補償」
4. その他：大きなまとまりが見出せないもの

「～てしまう」の用法別に談話の構造種類ごとに表1のようにまとめた．表1から次のことが観察された．まず，日本語母語話者では，「～てしまう」の間主観の用法を除き，残りの4つの「てしまう」の用法において，「因果①：「原因（結果に至る理由説明）－結果」」の構造で因果関係を表わす発話が連なっている場合が多く観察された.この調査結果は中山(2015)が『名大会話コーパス』より採取した「～てしまう」用例の談話構造を分析した結果と一致している.

一方，日本語学習者では「～てしまう」の各用法において，違う母語話者の間に「事態説明：事態や事情の説明－結論」という構造で発話のやりとりを通して出来事を説明して結論を出す場合が共通に最も多く，それに「因果②：「条件－帰結・望ましくない結果」」の関係で発話の連なりは「遺憾」の用法に多く確認された．日本語母語話者と日本語学習者とでは「～てしまう」の談話構造の使用に異なるところが多いことが見られた.

表1　被験者による「～てしまう」用法別の談話の構造種類

	使用数合計	完結			遺憾				間主観	非意図				対抗		
		因果①	因果②	事態説明	因果①	因果②	その他	事態説明	理由説明	因果①	因果②	事態説明	その他	因果①	因果②	事態説明
日本人	63	**9**	0	5	**13**	7	0	2	**13**	**6**	0	0	0	**5**	2	0
英語話者	37	0	1	**4**	3	**6**	2	5	0	1	1	**8**	3	0	1	**2**
中国語話者	20	0	2	**5**	1	**3**	0	4	0	2	2	0	0	0	1	0
韓国語話者	22	1	0	**4**	3	**5**	0	2	1	0	1	**3**	0	1	0	1

（注：数字は「てしまう」使用数を表わす；因果①：「原因（結果に至る理由説明）－結果」；因果②：「条件－帰結・望ましくない結果」；事態説明：「事態や事情の説明－結論」；理由説明：「事態や事情の説明－謝罪・補償」）

4.2　談話の構造から見た「～てしまう」の使用特徴

4.2.1　因果関係を表わす構造「因果①」と「因果②」について

例文(3)は日本語母語話者による因果①：「原因（結果に至る理由説明）－結果」の使用例である．「因果関係」を表わす談話において，日本語母語話者では結果に至る理由を連続した文で説明して，「～てしまう」で帰結する場合が多く見られた．一方，日本語学習者では違う母語話者の間に「因果②：「条件－帰結・望ましくない結果」」の構造で「因果関係」を述べる発話が連なっている場面が多く確認された．例文(4)は中国語を母語とする超級日本語学習者による使用例である．例文(4)に示したように，条件を表わす文型と共起して，因果関係を語る構造である．「連続した文」のほうが使いやすいと思われるにもかかわらず，学習者がやや難しい条件を表わす文型を用いて，「因果関係」を述べる傾向があった．

(3)語学留学っていうことで，行ったんーで，やっ ぱり，なにか，するー，時に，／人との関係がうまくいかなくても全部，言語に結び付けてしまったから，それで，一番自分で語学が駄目だって思い込んでるんだと思うんですけども．やっぱり，風土が違えば，ご，言語だけじゃなくって，他に，人のかかわり合い方とか，文化の違いがあって，うん，そういう面で苦労したんでしょうけど．　（日本語母語話者 I.0.(F)）

(4)OPI テスター：そうですか，あのう，夜とかはどうですか，やっぱりー遅く帰ったりーすると，門限とか設けますか．
学習者：そうですねえ，やっぱり，うーん，その制限がなければ，うーん，子供にも，どんどん，こうエスカレートしちゃうから，〈うん〉それはやっぱりあの作ると思います．　（学習者 CS05）

4.2.2　「理由説明」の構造について

「理由説明：事態や事情の説明＋謝罪・補償」の構造は，日本語母語話者による「～てしまう」の「間主観」の用法の文脈に多く用いられることが観察された．例文(5)は日本語母語話者の使用例であり，謝罪の場面で，以下の流れで謝罪ストラテジーを用い，話を進んでいく．まず，「風邪を引いて，約束した通りに一緒にテニスをすることができない」と理由状況を説明し，「ごめんなさい」と謝罪を表明し，責任の承認及び故意ではなかったことを説明したうえ，「一週間ずらして」などの補償を提案した．「間主観」の用法は聞き手に対する「配慮」を表すものであり，学習者データに 1 例のみが観察されたことから，学習者にとって習得しにくい用法であると考えられる．

(5)えと，本木あやこです．今日，テニスのお約束をしていましたけれども，風邪をひいてしまい，行けなくなってしまいました．えと，ごめんなさい．１週間ずらして，あの，同じ，火曜日の１０時に，あ，して，して頂けるとありがたいんですか，場所は同じえと，井口コミュニティーセンターのテニスコートでよろしいでしょうか．ご都合が悪かったらご連絡ください．（日本語母語話者 A.M.(F)）

4.3 レベル別から見た「～てしまう」の使用特徴

日本語母語話者では「因果①:「原因（結果に至る理由説明）－結果」」の関係で発話が結びついている談話が多く観察された．そこで，日本語レベルと「因果①」との関係について調べたところ，日本語レベルの上昇に従い，「因果①」使用数が多くなる傾向が見られなかったことが母語の異なる学習者の間に確認された．「因果①」の習得が化石化しており，習得が進まない可能性がある．この点についてさらにデータを集めて検討する必要がある．

5. 結論

本発表は日本語の補助動詞「～てしまう」が使用される談話の構造に注目し，英語，韓国語及び中国語を母語とする日本語学習者発話コーパスを用い，日本語母語話者との相違を比較しながら使用特徴を検討し分析を行った．分析した結果，「～てしまう」の談話構造について，日本語母語話者では「間主観」を表わす談話を除き，殆どの談話には，「原因（結果に至る理由説明）+帰結・結果（てしまう）」の構造で因果関係を表わす発話が連なっている場面が多く観察された．それに対して，日本語学習者では「完結」と「非意図」を表わす談話においては，「事態や事情の説明+結論（てしまう）」の構造で，「遺憾」を表わす談話においては，「条件（と/ば/たら）＋帰結・結果（てしまう）」の構造で，発話のやりとりを通して出来事を説明して結論・結果を出す場面が多かった．

参考文献

一色舞子（2011）．日本語の補助動詞「～てしまう」の文法化：主観化，間主観化を中心に 日本研究，**15**，201-221.

簡卉雯（2018）.日本語学習者の発話における「てしまう」の使用実態：日本語母語話者と比較 *Learner Corpus Studies in Asia and the World*，**3**，177-187.

棚橋明美（1996）．英語を母語とする日本語学習者による「～てしまう」の使用について 言語文化と日本語教育，**12**，24-33.

中山富子（2015）.補助動詞「～てしまう」の考察：談話の構造に注目して 昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究，**10**，1-19.

守屋三千代（1994）.「シテシマウ」の記述に関する一考察 早稲田大学日本語研究教育センター紀要，**6**，49-70.

丸谷しのぶ・和栗雅子・寺内弘子・菊池周子・法貴則子・梅岡己香(1998)．「てしまう」はどのような表現かーその「心理側面」についてー 留学生日本語教育センター論集，**24**，東京外国語大学，119-131.

相互行為の資源としての異文化

－日本人学生と留学生の話し合いにおける成員カテゴリー化の実践を中心に－

森本 郁代（関西学院大学）

1. はじめに

本研究の目的は，大学における日本人学生と留学生の話し合いにおいて，「異文化」がどのように有意味（relevant）になっているのかを，成員カテゴリー化（Sacks, 1972）の実践に焦点を当てて明らかにすることである．成員カテゴリーとは，相互行為の中で参与者を特徴づけるのに用いられる属性のことであり，「男性」「教師」「親」「若者」「30 代」といった，性別，社会的・家庭内の立場，年代や，本研究が対象とする「日本人」などがそれに当たる．西阪（1997）が指摘しているように，従来の異文化間コミュニケーション研究は，参与者の文化的アイデンティティを特徴づけるカテゴリーを，対象とする現象の説明変数と捉え，それらのカテゴリーがその現象にどのような関連性を持っているかどうかについては考慮されてこなかった．西阪（1997）は，ラジオ番組における外国人留学生に対するインタビューの緻密な分析によって，「異文化間」であることが所与のものではなく，そのつどの相互行為の具体的な展開を通して成し遂げられることを例証している．本研究も，話し合いの中で，「異文化」がどのように有意味になっているのかを，「日本／日本人」といった参与者の出身国を用いた表現に焦点を当てて分析を行う．

2. 成員カテゴリー化

成員カテゴリー化の実践を見る上で重要なのは，Sacks（1972）が定式化した成員カテゴリー化装置が，そのつどの相互行為の組織化にどのようにかかわっているかである．成員カテゴリー化装置とは，カテゴリーの集合とその適用規則から成る．カテゴリー集合とは，家族｛父，母，子など｝，学校｛教師，学生など｝，病院／医療｛医師，患者，看護士など｝といった，一つ以上のカテゴリーを要素として含む集合のことを指す．ある人物に対してカテゴリーが適用されている時は，そのカテゴリーが属するカテゴリー集合が適用される．例えば， 診察室で「先生」と呼びかけた場合，相手を「医師」としてカテゴリー化すると同時に自らを「患者」としてカテゴリー化している．他方，成員カテゴリー化の実践は，必ずしもカテゴリー名を使って行われるわけではない（串田・平本・林，2017）．後で詳述するように，本研究においても「日本」「韓国」など参与者の出身国名による場所の定式化が，カテゴリー化を実践している事例が多く見られた．

3. 分析データ

分析対象とするデータは，日本人学生，韓国人留学生，中国人留学生の 3 名によるグループディスカッション 9 回分である．「ペットの殺処分を減らすにはどうしたらよいか」「SNS の利用に年齢制限をつけるべきか」「学校の給食費の未納問題を解決するためにはどうすべきか」というテーマで，それぞれ 20 分間の制限時間内で結論を出すよう指示をして話し合いをしてもらい，その場面を録画したものを分析に使用した．

4. 分析

分析の結果，「日本」や「日本人」など出身国のカテゴリー名が用いられるのは，相手の国に関する情報を求めたり，自国の情報を提供したりする場合がほとんどであった．さらにこうした情報要求や情報提供が，意見の主張，疑問の提示，相手に対する反論などの行為の媒体（vehicle）となっている例も多く見られた．以下では，3 つの断片を取り上げて，国名によるカテゴリーの使用が，そのつどの行為の組織化においてどのような資源となっているのかを分析する．

断片 1 は，ペットの殺処分を減らすにはどうしたらよいかというテーマで話し合っている場面で，この断片の直前で，センは，動物愛護センターが，スペース不足のため保護された犬や猫を殺処分せざるを得ない現状について書かれた記事を紹介し，1 行目からハナが殺処分の仕事について感想を述べ始めている．

【断片 1】20161105_1_G4

01　ハナ：=d みんながやりたがる仕事じゃないから:，

02　カン：>うんうんうん.<
03　ハナ：ましてやこう:殺処分に(0.6)か(.)かわらなきゃいけないかもし[れないってなった]ら:
04　カン：　　[うんうんうん.]
05　セン：う:ん.
06　(.)
07　ハナ：犬好きじゃ-犬,dハナ動物好きじゃないとやってられへんけど,
08　カン：うんう:ん.
09　ハナ：動物好きであれば好きであるこそ:
10　カン：うんうん.
11　ハナ：殺処分[を,つらい　　]っていう.
12　カン：　　[なるほどなるほど.]
13　カン：矛盾です[ね.
14　ハナ：　　[矛盾[する,
15-> セン：　　[あの,韓国はどう-(.)どうですか?
16　(0.8)
17　?　:hh
18->カン：いやわたし:,[犬好きなんですけど: [犬の毛のアレルギーがある[んですよ.
19　セン：　　[はい.　　[はい.
20　ハナ：　　[ha ha ha ha ha
((21行略. カンが犬が好きだがアレルギーがあるので飼えなかったという話をする))
42-> カン：え,とにかく:,>そうすね<だから:,そんな,詳しい事情までは知らないんですけど:,
43　セン：はい.

ハナが動物愛護センターで働く職員の辛い心情について感想を述べると，カンは「矛盾ですね」と評価を行って話をまとめ，ハナも14行目でそれに応じ，この時点で，この話題が終了に向かっていることが観察可能となる．この次の話題に移ることも適切となる位置で，センが「あの，韓国はどうですか?」と質問をする．この「韓国」が国名による場所の定式化（location formulation: Schegloff, 1972）であることから，センがそれまでの話題を「日本」の現状として理解しており，そのため，日本と対になるカテゴリーとして「韓国」が選択されたことが分かる．さらに，この定式化によって，この質問が韓国人のカンに向けられていることが公然化する．0.8秒の沈黙の後，18行目でカンは応答を開始するが，冒頭の「いやわたし:」は，「韓国人であるカンは韓国の殺処分の現状に精通している」というセンの質問の前提に抵抗を示し（串田・林, 2015），50行目で「詳しい事情までは知らない」と自分に知識がないことを表明する．このように，それまでの話題を「国」と関連づけて理解し，その国の出身者に情報要求をすることには，「異なる国の出身者」によって話し合いの参与者が構成されていることに対する彼らの指向が示されている．

次の断片2でも，国名による場所の定式化が用いられている．この断片は断片1の後の部分で，カンとセンが自分たちの国では犬を食べる習慣があると述べたのに対し，ハナが昔は日本人も犬を食べていたかもしれないと話していた．

【断片2】20161106_1_G4

01　ハナ：でも少なくともう:,(0.8)今は絶対ないですね[犬食べるのは.
02　セン：　　[huh huh
03　カン：うん.
04　ハナ：100パーたぶんないしみんなゆったらうえーって言うと思う.
05　(0.8)
06　カン：そうっすね.=
07　ハナ：食べな:い.
08　(.)
09->セン：え!日本には馬は食べま°すね.°
10->ハナ：あ!馬食べる.
11　セン：>でも<中国では馬は食べない[です.
12-> ハナ：　　[¥馬おいしいよ.¥[huh huh [huh huh huh ha ha ha ha ha
13　カン：　　[ああ.　[おいしい.h 食べたことあるんだ.
14　セン：　　[huh huh huh
15　ハナ：[ありますあります.]
16　セン：[(あの:)　　]¥お刺身は食べました.¥
17　カン：う:ん.=
18　セン：=え,お鶏だ.友だち「あこれ馬だよ」馬でなん-なんですか,(0.6)さっきはうま:と:たぶん小さいの子ども:たぶん,ニワトリみたい[の:と:,
19　カン：　　[うん.
20　ハナ：う::ん.
21　セン：でも馬は,d-辞書を調べてあ!,そういう馬ですか.
22　カン：うん.
23　セン：そうそう[そう驚いた.
24　ハナ：　　[fu ha ha ha

25　(0.6)
26　カン：なるほど:.
27　ハナ：食べる:[(馬はある:)
28　セン：　　[おいしいですけど.
29　ハナ：おいしいおいしいけど.hu hu hu
30　セン：でも[(　)
31　ハナ：　[ちょっと,たぶんギョッとすると思う.[=わたしも最初にだす-出されたときはギョッとした.(0.6)しかも=
32　カン：　　[なるほど
33　ハナ：=刺身で出てきたんですよ.
34　カン：う:[ん.
35　ハナ：　[生で.
36　セン：そうですね.
37　(.)
38->ハナ：え,あれはたぶん:大陸とかの人には:結構厳しいと¥思う.¥
39　セン：huhuhu そうか.
40　(.)
41->ハナ：日本人なんでもすぐ生で食べるから.
42　セン：huh huh [huh huh
43　ハナ：　　[huh huh huh
44　カン：¥生で結構食べま[すね.¥
45　セン：　　[¥そうです.[食べますね.¥
46　ハナ：　　[全然（火）とおらへんから:.平気で生で食べる.

9行目の「日本には馬食べますね」という発話は，「日本」による場所の定式化を通して，「日本人」が馬を食べることの確認として聞くことができる．同時にこの発話は，今でも犬を食べる韓国や中国と違い，日本は少なくとも現在は犬を絶対に食べないというハナの主張に対して，同じように通常食用とは考えられない馬を日本も食べているではないかという反論としても聞くことができる．続く11行目の「中国では馬は食べないです」という情報提供とともに，犬を食用とすることをめぐる中国と日本の立場が馬については逆転することを指摘することで，ハナに対する反論を行っている．ここでも，馬を食べる慣習が参与者の「国」と結びつけて理解されている．

それに対し，ハナは10行目で「馬食べる」と認めた後，12行目で「馬おいしいよ」と，馬肉に対する評価を行い，自分が馬を食べた経験があることを表明する．つまり，「日本は馬を食べますね」と尋ねた時点では，まだハナを「馬を食べる日本人」としてカテゴリー化しているとは言えず，「日本人の慣習について知識がある者」と見なしていると聞くことができるのである．ハナに対する「馬を食べる日本人」としてのカテゴリー化が達成されるのは，ハナ自身による評価を通した経験の表明によってである．13行目のカンの「おいしい，食べたことあるんだ」という発話も，ハナをそのように捉えていなかったことを示している．このカテゴリー化のプロセスは，断片1の「韓国はどうですか」という質問とそれに対する応答にも見られ，カンは「詳しい事情は知らない」と，知識がない者として応答している．杉原（2010）は，「○○（国）ではどうですか」という質問が，続く発話者のカテゴリー化に対して強い拘束力を行使するため「日本人／外国人」というカテゴリー化が生成されるとしたが，断片1と2では，質問を「○○（国）についての知識を持つ者」と聞くことが可能であり，応答者に対するカテゴリー化は，質問者と応答者の間の相互行為によって達成されている．

12行目でハナが馬がおいしいと述べたのに対し，カンは驚きを示し（13行目），センは「おいしいですけど」（28行目）と述べ，両者とも馬食に対する否定的な評価を示す．そしてこれは，ハナに対する否定的な評価と聞くことも可能である．すると，ハナは，「大陸の人」（38行目）と「日本人」（41行目）というカテゴリーを用い，それぞれの評価を個人としてではなく，出身国の文化として一般化することで，カンとセンの否定的評価を自分自身に向けられたものとは聞いていないことを示す．ここでは，出身国によるカテゴリー化の実践が，参与者間の対立を回避する手段として用いられている．

次の断片3は，話し手が自分の主張の根拠として自国の情報を提供している事例である．この断片では，日本人のショウと韓国人のアン，中国人のエンが，SNSの利用に制限をつけるべきかについて話し合っている．エンは，LINEの友達追加機能に対する疑問と不満を語り，14行目で中国ではチャットのツールにそのような機能はないと述べている．

【断片3】20161105_2_G1

01　エン:でもじゅうっさいで[SNS使ったら:<めっちゃ:>や-
02　アン:　　[10歳かあ.
03　(1.4)
04　エン:危険と思いますね:=
05　アン:け[:
06　エン:　[知らない人と交流[さ-(.)ま,親とか>友だちとか<SNSで:あの交流できるん=
07　？　:　　[うん
08　エン:=ですけど:,万が一知らない人と:あの追加したらどうしますか¿(0.4)あと,

09 ショウ:う[ん.
10 エン: [LINE というとこ-(0.4)というもので:わたしも自身使っているんですけど,(0.6)なんかさ:あの,(0.9)全然
11 知らないの人で無理矢理に追加する場合があるんで,そうゆ-そう:すr-(.)たらなんか(ひたい)できないんですよね.
12 ショウ:う:ん.
13 アン:°これ°むずいなあ:.
14 ->エン:中ご[く:は,]あの一応,(.)チャット:の道具は, 無理矢理[あの追加:することがないんですよ.
15 アン: [heh heh heh]
16 ショウ: [はい.
17 ショウ:う:ん.
18 エン:で,LINE はなぜ,その無理矢理:なんか知らない人ばっかりで.
19 (1.6)
20 アン:いや::hh
21 ショウ:huh huh huh よく(h)わ(h)[か(h)ん(h)ない.
22 アン: [ちょっと[<*なんとも>言われ*へんわこれ:.=
23 エン: [*LINE の*-
24 エン:=ま,そういう条件したら:なんか(.)[LINE が経営する会社で:
25 アン: [なんなんや(もう)
26 ショウ:う:[ん.
27 エン: [いー(.)まあ一番,最初から,>だから<[(つかわない)方がいいかな:.
28 ショウ: [まあ,人-
29 ショウ:使う:利用者に向けて制限をするというよりも提供してる:会社に対して:(.)え:それなりの:[配慮をしろという: ことですか.
30 アン: [う:ん.
31 エン:そうでねまず会社:,
32 ショウ:まそれは賛成ですねぼくも.

14 行目の「中国」という国名での場所の定式化は，エンが LINE を日本の SNS だと理解しており，それと対になる SNS を指示する手段として用いられている．同時に，自国の SNS には LINE のような追加機能がないことを引き合いに出すことで，自分には LINE に対して不満や疑問を述べることの正当性があることを主張している．ここでも，この話し合いの参与者が「異なる国の出身者」であることに対して敏感であり，それを行為の組織化に利用していることが見てとれる．

5. おわりに

国名による場所の定式化は，自分たちが「異なる国の出身」であることに敏感であるとことを示すと同時に，相互行為を達成するための資源として利用されていた．参与者たちにとって，「異文化」が常に有意味であるわけではないが，異文化性もまた，相互行為の組織化において利用可能な資源の一つであることが示されたといえる．Schegloff(1972)は，話し手による聞き手の成員カテゴリーの分析が場所の定式化に反映されていることを示し，場所の定式化と成員カテゴリーが密接に結び付きうることを指摘したが，本研究のデータでも場所の定式化が受け手のカテゴリー化の手段として用いられていた．その一方で，「日本人/韓国人/中国人」という国籍によるカテゴリー化の例は断片 2 など数えるほどしかなかった．国名による場所の定式化は，相手を「○○人」としてカテゴリー化しうるが，断片 1 と 2 で示したように，「○○国の事情に精通する者」として聞くことも可能である．国籍カテゴリーではなく国名による場所の定式化が用いられたのは，「○○人」という明示的なカテゴリー化を避けることに参与者が注意を向けていたからかもしれない．この点については今後さらに分析をしていきたい．

付記 本研究は科学研究費補助金基盤研究(C)（課題番号：16K02831）の助成を得て行われた．

謝辞 本研究のデータに関し，戸江哲理氏（神戸女学院大学）および山本真理氏（関西学院大学）から有益な示唆を得た．

参考文献

串田秀也・林誠（2015）．WH 質問への抵抗―感動詞「いや」の相互行為上の働き．友定賢治（編）感動詞の言語学．ひつじ書房，169-211.

串田秀也・平本毅・林誠（2017）．会話分析入門．勁草書房.

西阪仰（1997）．相互行為分析という視点―文化と心の社会学的記述．金子書房.

Sacks, Harvey (1972). On the analyzability of stories by children. In Gumperz, J. John & Hymes, Dell (Eds.), *Directions in Sociolinguistics: The Ethnography of Communication*, 325-345. Holt, Rinehart and Winston, Inc.

Schegloff, Emanuel A (1972) Notes on a Conversational Practice: Formulating Place. In Sudnow, D. (Ed.), *Studies in Social Interaction*, 75-119. The Free Press.

杉原由美（2010）．日本語学習のエスノメソドロジー――言語的共生化の過程分析．勁草書房.

日本の朝鮮学校児童・生徒たちの発話にみられるコード・スイッチングについて

李　在鎬(東京大学大学院生)

1. はじめに

本稿では，日本の朝鮮学校に在学している児童・生徒たちの発話にみられるコード・スイッチングの特徴について述べる.

朝鮮学校の児童・生徒たちの大多数は，日本で生まれ育った，いわゆる在日コリアン(オールドカマー)である.彼らは，就学時までは日本語で日常生活をしているが，朝鮮語でのイマージョン教育を実施する朝鮮学校に入学してから，朝鮮語能力を身につけ，学校内では朝鮮語を話すように，と指導を受ける.

しかし，そのような彼らは，同様に両言語を知る学生同士の間では，学校コンテキストにおいて，朝鮮語での会話がなされるような場面でも日本語の使用がみられることがある.以下は，発表者が収集したデータの一部の例である.朝鮮語の部分は，イェール式ローマ字で示している.

(1) えー，もう ike 乾いたよ.
「えー，もうこれ乾いたよ.」
(2) おまえさ，これ issunikka さ，ちょっと食べろ.
「おまえさ，これあるんだからさ，ちょっと食べろ.」
(3) ikesun masissta よ.
「これは美味しいよ.」

上記の(1)-(3)は，いわゆるコード・スイッチング(以下，CS)の例である.(1)と(2)は，いずれも朝鮮語の単語・表現が日本語文の文中に挿入されたタイプのもので，(1)は代名詞「ike」，(2)は存在詞と理由・原因などを表す語尾が接続した形式「issunikka」が挿入されている.そして，(3)は朝鮮語文の文末に日本語の終助詞「よ」が接続している.以上の(1)-(3)は，日本語と朝鮮語の言語接触によるものである.

これまで，実際の発話データを基に，朝鮮学校出身者の二言語使用，特に CS を分析した研究は，管見の限り，見当たらないが，一部の文献に朝鮮学校出身者の朝鮮語使用において文末に日本語の終助詞「ね」「よ」などが接続することがしばしばあるという報告がある（朴浩烈 2007，伊藤英人 1989).

その他に，朝鮮学校出身者の場合ではないが，同じように日朝バイリンガルの CS を分析したものとして，朴良順(2006)，吉田さち(2005)などでは，日本語/朝鮮語(韓国語)の文法要素(名詞，形容詞など)に hata[1]/するが接続するタイプが頻繁にあらわれると述べられている.

本稿では，朝鮮学校の児童・生徒たちの発話にみられる CS の特徴を確認しながら，他の日朝バイリンガルによる CS の特徴とどのような点において共通点・相違点があるのかについても述べていく.

2. データ収集

2.1 インフォーマント

本稿で扱う CS のデータは，関東所在の A 朝鮮初中級学校(以下，A 学校)の児童・生徒たちの発話を収集し，それより抽出したものである.

A 学校は，初級学校(小学校)と中級学校(中学校)が共に設置してある学校(小中一貫校相当)で，初級と中級の人数を合わせると，全校生数は，年によって変動はあるが，おおよそ 50 名弱である.児童・生徒は，他の朝鮮学校の場合と同様，日本で生まれ育った日本語母語話者の在日コリアン(3 世以降)であり，全員初級 1 年の入学時から A 学校に通学している.

[1] 朝鮮語の「hata」は，日本語の動詞「する」に相当するものであり，主に名詞に接続して動詞としての働きもするが，状態を表す名詞に接続すると形容詞としての働きもする.

調査者(発表者)は，A学校を2010年から現在に至るまで定期的・不定期に訪れ，調査・研究(参与観察など)を行ってきているが，今回のデータは，初級高学年(小4以降)から中級(中3)の児童・生徒(約15名程度)による発話データを対象としている.

2.2 発話データ

今回の発話データは，学校のキャンプやコミュニティ行事など学校関連の活動中に収集された計224分のものである.

＜表1＞　発話データ

調査時期	時間	活動内容	備考
2013年7月	45分	(学校キャンプ) 釣り	教員も近くにいる.
2013年7月	35分	(学校キャンプ) ゲーム（ウノ）	男子学生のみ. 自由時間中の発話.
2013年7月	15分	(学校キャンプ) 全体集合	教員も近くにいる.
2015年2月	5分	(コミュニティ行事) ゲーム（アクション）	男子学生のみ. 卒業生1名(高1)も参加.
2015年7月	40分	(学校キャンプ) YouTube動画鑑賞中	男子学生のみ.
2017年7月	11分	(学校キャンプ) 朝食中	グループ別食事中.
2017年7月	37分	(学校キャンプ) 昼食中	グループ別食事中.
2017年7月	36分	(学校キャンプ) ゲーム（アクション）	男子学生のみ.

調査では，A学校の通常の授業や部活，授業間の休み時間にもインフォーマントの発話を採録したが，授業中の発話は，教員の質問に対する回答や，おうむ返しのような発話が多く，ほとんどが朝鮮語での発話であった．今回はこのような授業中などの発話は対象外とした．また，自発的発話が多く見られるような休み時間に学生同士の間で二言語の使用が見られることもあったが，録音状態がよくないなどの理由により，今回は分析対象から除外することにした.

3. CSの分析結果

3.1 CSのタイプ：開始部言語と終了部言語

インフォーマントの発話でCSがみられた文(以下，CS文)を抽出した結果，CS文の数は計158文であった．そして，CS文における言語交替をタイプ別にわけてみると，CS文によっては文中に名詞などが挿入されたタイプ(insertional CS)もみられれば，文中に交替が起こって開始部と終了部の言語が異なるタイプ(alternational CS)，さらに，挿入，または交替が複数回起こっているようなタイプもみられることがわかった.CS文を各言語が現れた順に示すと以下のとおりである.

＜表2＞　CSタイプ（開始部言語整列）

日本語開始文		朝鮮語開始文	
言語交替順	数	言語交替順	数
J-K	81	K-J	18
J-K-J	8	K-J-K	35
J-K-J-K	7	K-J-K-J	2
J-K-J-K-J	2	K-J-K-J-K	5
計	98	計	60

＜表3＞ CSタイプ（終了部言語整列）

日本語終了文		朝鮮語終了文	
言語交替順	数	言語交替順	数
K-J	18	J-K	81
J-K-J	8	K-J-K	35
K-J-K-J	2	J-K-J-K	7
J-K-J-K-J	2	K-J-K-J-K	5
計	30	計	128

以上の表では，CS 文の文内における言語交替を開始部(表 2)と終了部(表 3)の言語を基準にして分けているが，＜表 2＞の開始部言語に注目してみると，朝鮮語(60 文)より日本語(98 文)で始まる文が比較的多い反面，＜表3＞の終了部言語の場合は，日本語(30 文)より朝鮮語(128 文)で終わる文が圧倒的に多いことがわかる．校内でなされた発話ではないものの，学校関連の行事で収集された発話であったため，学校(コンテキスト)では朝鮮語を使わなければならないという意識からCSへの影響が及ぼされた可能性がある．

3.2 hata形CS

先行研究では，朝鮮語/日本語の名詞などの文法要素と，する/hata が接続するタイプ(以下，hata 形CS)もみられることが報告されていたが，今回のデータでもそのような例がみられた．

全体CSのうち，hata形CSがみられたのは36件であるが，そのうち，朝鮮語の名詞などに「する」や「するの活用形」が接続した例は，今回のデータではみられなかった．つまり，今回のhata形CSはすべて日本語の文法要素に「hata」や「hataの活用形」が接続した例のみであったということである．

(4) みならいhala.
「みならいしろ（見習え).」
(5) inom 低下hayyo?
「こいつ，低下しますか.」

また，以上の(4)と(5)のような「日本語名詞＋hata」の例(19 件)のほかにも，「日本語副詞＋hata」(11 件)，「日本語代名詞＋hata」(2 件)などもみられた．

3.3 日本語終助詞の接続

データでは，朴浩烈(2007)や伊藤英人(1989)でもみられる日本語の終助詞が接続した例(7 件)も観察された．

(6) kulehtaな.
「そうだな.」
(7) nahako ＜人名＞ hyengnim huynsaykね.
「私と，○○兄さん，白色ね.」

(6)は日本語終助詞「な」，(7)は「ね」が接続したものである．その他に，上記の(3)のように「よ」が接続した例や「か」「よね」もみられた．

伊藤(1989: 57)の言及のように，話者の出身地によってはもっと多様な日本語終助詞が接続する可能性がある．

3.4 その他：形態素境界におけるCS

その他に，日本語と朝鮮語両言語が膠着語であるために，起こるようなCSもみられた．

(8) HP hayssたら、逆に回復hayse しつつ、バーバリアン召喚でそのまわりにいる.
「HP したら，逆に回復しつつ，しつつ，バーバリアン召喚でそのまわりにいる.」
(9) チャレンジボードnun かlile kasseyo.

「チャレンジボードは，借りに行きました.」

(8)の「hayss たら」は，「hayssta」と「―たら」が接続したものとみられるが，朝鮮語終結語尾「ta」と日本語の仮定・条件マーカー「―たら」の「た」は，音声的違いがさほどないものである[2]．そのためか，重複する「ta」「た」のうち，一つが脱落した形でCS が起こっているものと考えられる．

また，(9)の「かlile」は，「かりる(借りる)」に「-le」が接続したものと思われるが，「かりる」の第一音節(モーラ)の「ka」は長母音のように発せられており，つまり「ka:lile」[3]のように実現している．日本語の動詞「借りる」に相当する朝鮮語の動詞は「pil.li.ta」[4]であるが，これを(9)の「かlile」と同じ意味になるよう活用させると，「pil.li.le」になる．実際の音声で「ka」が長母音のように発せられたのは，日本語から朝鮮語へのCS が起こる段階に，話者の迷いと解釈できるだろうか．

4. おわりに

本稿では，日朝バイリンガルである朝鮮学校の児童・生徒たちの発話データからみえるCS のタイプや特徴について述べた．データからは，他の日朝バイリンガルの発話でもみられる「hata 形CS」や，「朝鮮語文の文末に日本語終助詞が接続するタイプ」のほか，形態素境界におけるCS などもみられた．

朝鮮学校の児童・生徒たちの発話にみられるCS は，他のバイリンガルにもみられるような例(日英バイリンガルによる日本語終助詞接続タイプ)もあれば，みられないような例(hata 形CS，形態素境界におけるCS)もあった．しかしそれは，言語タイプの違いによるものと考えられ，解釈の際は言語類型論的考察も必要とされよう．

謝辞　本研究は，2014 年大韓民国教育部および韓国学中央研究院(韓国学振興事業団)から東京大学韓国学研究センターが受けた「海外韓国学中核大学育成事業」の支援を受け遂行した研究である(AKS-2014-OLU-2250002)．This work was supported by the Core University Program for Korean Studies through the Ministry of Education of the Republic of Korea and Korean Studies Promotion Service of the Academy of Korean Studies (AKS-2014-OLU-2250002).

参考文献

伊藤英人 (1989)．在日朝鮮人によって使用される朝鮮語の研究の必要性について 日本の多言語使用についての実態調査 東京外国語大学井上史雄研究室

金智英 (2006)．在日コリアン一世の言語運用の一実態 真田信治(監)・任榮哲(編) 韓国人による日本社会言語学研究 おうふう pp. 168-182.

金美善 (2003)．混じり合うことば―在日コリアン一世の混用コードについて 月刊言語，2003 年 6 月号 大修館書店 pp. 46-52.

郭銀心 (2006)．韓国の帰国子女の言語生活―日本語と韓国語間のコード・スイッチングを中心に― 真田信治(監)・任榮哲(編) 韓国人による日本社会言語学研究 おうふう pp. 201-222.

朴浩烈 (2007)．在日朝鮮語の研究―言語分析・社会言語学的考察への試み― 韓國語學年報，3，93-124.

朴良順 (2006)．日本語・韓国語間のバイリンガリズムとコード・スイッチング 真田信治(監)・任榮哲(編) 韓国人による日本社会言語学研究 おうふう pp. 183-200.

吉田さち (2005)．二言語の能力とコード・スイッチング―韓国系民族学校の高校生を対象として― 社会言語科学，8(1)，43-56.

[2] ここでは，「hayss」に「―たら」が接続したものと処理した．
[3] 便宜上，このように表記する．
[4] 「.」は，音節境界を示している．

日本とインドネシアにおける禁止表現比較
—金沢市とバンドン市の公的表示看板を例に—

ムティ・アフィファー
金沢大学大学院　博士後期課程

1. はじめに

グローバル化の進行にともない, 言語景観が多様になってきた．その変化の傾向に関する研究が, 社会言語学, 経済言語学, 地理言語学など様々な観点から行われるようになってきている．しかし, そういった言語景観に関する研究のほとんどは, 看板表記に何語が使用されているのか, あるいはどのような種類の文字表記が用いられているのかといった, 主に「多言語表示」という観点からの考察に留まり, 看板がその目的とする機能とその表現形式との関係を考察する研究がほとんど見られない．そこで, このような看板機能と表現との関係を調べるために, 本研究では言語景観の中でも特に頻繁に目にする禁止看板に焦点を当て, その禁止機能とその表現との関係を分析することにする．禁止看板について, 岸江（2011）は「これらの禁止看板には, その効果をねらって, 色々な工夫が凝らされているものである」と述べている．たしかに「駐車禁止」のような直接的な表現を使用するものだけでなく,「駐車はご遠慮ください」などの間接的な表現を用いることもあり, バリエーションが認められる．では, どのような場面で, どのような表現が使われる傾向にあるのだろうか．両者の関係には言語や文化による差異があるのだろうか．このような問題意識から, 本研究では, 日本の中核都市の 1 つである金沢市とインドネシアの中核都市の 1 つであるバンドン市で見られる対応する禁止看板のデータを収集し, 両社会の対応する場面に設置されている禁止表現の類似点と相違点を明らかにすることを目標とする.

2. 調査方法

データを収集するために, 筆者が調査地域に行き, 対象となる看板, ポスターなどをデジタル・カメラで撮影する．調査対象は, 禁止を求める看板, ポスター, 張り紙などである．調査対象のデータの数え方として, 1 つの調査地域に全く同じ内容の禁止看板やポスターなどが 1 つ以上存在する場合, それを 1 つとして, つまり, 異なり数で数える．調査地域は, 金沢市とバンドン市である．両市の交通機関関係場所（駅, バスターミナル）, 観光地, 商業地という 3 つの場所で禁止サインの写真データを収集した.

3. 結果と分析

金沢市とバンドン市で,それぞれ 262 件と 141 件の禁止サインのデータが収集できた．全ての禁止サインは, 全て否定的な命令機能を持つ．しかし,禁止サインは,それが設置される場により「いつ」「どこで」「誰に」「何を」「なぜ」「どのように」禁じるのかが変化するため, 多様な表現が使用され,否定的な命令表現（禁止表現）以外の形をとるものも見られた.

3.1. 禁止サインの表現の形

それぞれの調査地域のデータに見られる禁止サインにいかなる表現形式が使用されているかを分析した結果,金沢市では「情報提供」「命令」「否定」という 3 つの表現形式が使用されている.それに対して,バンソン市では,「情報提供」「命令」「感謝」という表現形式が使用されている.それらの表現形をとる禁止サインはいかなるものか,以下の表 1 と表 2 にまとめた.

表 1. 金沢市における禁止サインで使用されている表現形式の分類

	表現形式		例文
	提供 情報	～厳禁	<u>無断駐車厳禁</u> 無断駐車の場合は一ヶ月の駐車料金をいただきます

禁止を要求する		～禁止	**無断駐車禁止**　駐車の際は警備員まで
		～禁止（場所）	ひがし茶屋街周辺は「**ぽい捨て等防止重点区域**」です 違反した方は過料料せられる場合があります
		～禁ずる	外部者の**無断立入を禁ずる**
		～禁じます	当館ご利用以外の方の**駐車を固く禁じます**
		～禁止です	販売勧誘などの行為は**禁止です**
		～禁止します	スケートボードなどは**禁止します**
		～します	この先、午後 6 時以降**閉鎖します**
		～です	ふんの後始末は**飼い主の責任です**
		～体言止め	**快適で美しいまちづくり**
		～出来ません	これより先には**入れません**
		～制限	道路等の公共の場所での**喫煙は制限**
		～と危険です	ドアに触る**と危険です**
		～ではありません	こちらの駐車場は当店の**駐車場ではありません**
		～必要ありません	チップは**必要ありません**
		～罰せれることがあります	チラシの配布、呼び込みなどの営業行為は、 **許可なくすると罰せられる**ことがあります
		～は罰金として頂きます	無断駐車は**罰金として 2 万円いただきます**
		～は許しません	客引き行為**は許しません**
	命令	～なし	注意！**駆け込まない**！**立ち止まらない**！
		～ないこと	危険　手すりから体を乗り出さないこと　手すりの上に**乗らないこと**　逆向きに**乗らないこと**　けがをする恐れがあります
		～ないで	清掃中危険！ホースを**またがないで**
		～ないでね	熱い　**触らないでね**
		～ないでください	石垣に**登らないでください**
		～な！	**のるな！**
		～でね	クツは**ぬいでね**
		～ご遠慮下さい	展示室に長傘（日傘を含む）の**お持ち込みはご遠慮ください**
		～ご遠慮願います	お願い　犬猫などのペットの持ち込み、自転車の乗り入れ、定められた場所以外での**喫煙はご遠慮願います**
		～ご協力下さい	館内では地図・資料スタンプ以外**手をお触れにならないよう、ご協力ください**
		①　～お願いします	お願い　当店では試食は一切しておりません **マナーを守って下さるようお願いいたします**
		②　～下さい	自転車は降りて**通行してください**
		③　～よう	**やめよう**　ゴミ出しのルール違反
	拒否	①　～お断りします	ご来店以外の**駐車はかたくお断りします**
		②　～ご遠慮いただいております	この入口からの関係者以外の**立入はご遠慮いただいております**

表 2. バンドン市における禁止サインで使用されている表現形式の分類

	表現形式		例文
禁止を要求する	情報提供	① 受け身動詞「Dilarang」（接頭辞 di+動詞 larang）＋動詞	**DILARANG** MEMBAWA HEWAN PELIHARAAN ペット持ち入り禁止
		② 否定の副詞「Tidak」＋動詞	TIDAK DUDUK DI TANGGA ESKALATOR エスカレーターに座らない
		③ 否定を表す副詞「Bukan」＋名詞	**BUKAN** JALAN UMUM 公的道ではない
		④ ø＋情報提供文	BATAS TROLY DI SINI ここはトロリーのリミットです
		⑤ 注意を要求する副詞「Hati- hati」＋名詞	**HATI- HATI PALANG** OTOMATIS 自動バリアゲートに気を付ける
	命令	① 副詞「Jangan/Tidak boleh」＋基本命令文（述語＋目的語）	WARNING! **JANGAN** MEMBUANG SAMPAH DI SINI! OK! 警告！ここでゴミを捨てないで！オッケー！
		② 動詞「Mohon/harap/tolong」＋否定を表す副詞「Tidak」＋動詞	**MOHON TIDAK** MEMBERI TIPS ATAU DONASI KEPADA PEMANDU ガイドの人にチップ又は寄附金を上げないようにお願いします
		③ 動詞「Stop」＋動詞/名詞	YANG BERAKAL PILIH YANG LEGAL. STOP!!! PEMBELIAN 知恵のある（人）は適法な（もの）を選ぶ。ストップ！！違法タバコの購入
		① 基本命令（述語＋目的語）	BUANG SAMPAH PADA TEMPATNYA ゴミをゴミ捨て場所に捨てて！
		② 副詞「Mohon/ Harap/ Tolong」＋動詞	MAAF, SANDAL/ SEPATU **HARAP** DILEPAS すみません、靴を脱ぐよう期待します。
		③ 述語＋接尾辞 lah＋目的語	**JAGALAH** KEBERSIHAN RUANGAN INI この部屋の清潔さを守って下さい！
	感謝	① 感謝を表す名詞「Terimakasih」＋副詞＋動詞	**TERIMAKASIH** UNTUK MENJAGA TEMPAT INI TETAP BERSIH この場所の清潔さを保ち、ありがとうございます。

金沢市とバンドン市に見られるそれぞれの表現形式を比較すると,金沢市では「情報提供」（127 件）と「命令」（121 件）の表現の表現形をとる禁止サインが最も多い一方,バンドン市では「情報提供」（105 件）の表現形をとるものが最も多く,命令の表現形をとるものは数少ない（31 件）.また,金沢市には否定の表現形をとるものが 14 件出ているが,バンドン市では否定の表現形式を使用する禁止サインはデータの中には見あたらない.そして,感謝の表現形式をとる禁止サインはバンドン市で 5 件見られるのに対して,金沢市のデータには見られない.否定の表現形式をとるものは本研究のデータでは金沢市にしか見られなく,感謝の表現の形をとるものはバンドン市にしか見られなかった.

3.2. 禁止サインの「直接性」と「間接性」

既述のように, 禁止サインが設置される場により「いつ」「どこで」「誰に」「何を」「なぜ」「どのように」禁じるのかが変化する. そのため, 「～禁止」「～厳禁」「～な！」「～しないで下さい」等の直接的に禁止を要求する表現を使用する禁止サインが存在する一方, 観光地や商業地では客に対してある行為を制限する場合は, 不快感を与えないように, 間接的な表現を使用する禁止サインも見られる. 例えば日本語の場合は, 「靴は脱いでね」や「展示室に長傘の持込はご遠慮下さい」等がデータの中から見られる. 金沢市とバンドン

市の禁止サインの「直接的表現」と「間接的表現」の使用件数を比較すると, 金沢市が 58%と 42%,バンドン市が 63.8%と 36.2%であり,両者に大きな違いは見られない.そこで、金沢市とバンドン市における禁止サインの使用表現形式ごとの「直接的表現」と「間接的表現」の割合を以下の表 3 と表 4 にまとめた.

表 3. 金沢市における禁止サインの表現形ごとの「直接的表現」と「間接的表現」の割合

表現形式					
情報提供（計 127 件）		命令（計 121 件）		拒否（計 14 件）	
直接的	間接的	直接的	間接的	直接的	間接的
97 件 （76%）	30 件 （24%）	54 件 （44.6%）	67 件 （55.4%）	1 件 （7.1%）	13 件 （92.9%）

表 4. バンドン市における禁止サインの表現形ごとの「直接的表現」と「間接的表現」の割合

表現形式				
情報提供（計 105 件）		命令（計 31 件）		感謝（計 5 件）
直接的	間接的	直接的	間接的	間接的
82 件 （78.1%）	23 件 （21.9%）	9 件 （29.1%）	22 件 （71.9%）	5 件 （100%）

上の表 3 と表 4 を比較すると,金沢市とバンドン市のいずれも「情報提供」の表現形式を使用する場合は,「間接的表現」より「直接的表現」を使用する傾向が見られる.その一方,金沢市では命令の表現形式の「直接的表現」と「間接的表現」を使用する禁止サインにはわずかな違いしか見られない.それに対して,バンドン市の場合は,命令表現の形式をとるものは「直接的表現」より「間接的表現」の方が多い.金沢市のデータでしか見られない否定の表現形式は間接的な表現を使用するものが直接的な表現を使用するものに比べて極端に多い.そして,バンドン市のデータにしか見られない感謝の表現形式をとるものは全て間接的な表現となっている.

4. まとめ

「情報提供」と「命令」の形式は金沢市とバンドン市のいずれにもその使用が認められたが,「拒否」の形式は金沢市にしか見られず,「感謝」の形式はバンドン市にしか見られなかった. また、金沢市では「情報提供」と「命令」の出現割合がほぼ変わらないが, バンドン市では「情報提供」の使用が 7 割以上を占め, 他の表現形式の使用割合に比べて著しく高い. さらに, 表現内容の明示性については, 全体から見ると, 金沢市とバンドン市のいずれにおいても直接的な表現の方が多いが, バンドン市の方が直接的な表現が若干多い. また, 各表現形式から見ると, 金沢市とバンドン市のいずれにおいても「情報提供」形式をとる場合は, 分かりやすい間接的表現が多く使用されるが,「命令」形式をとる場合は, 読み手に不快感を与えるのを避けるために婉曲的な間接的表現が多用される傾向にあるようだ.

参考文献

岸江信介（2011）「看板・標示物にみられる禁止表現の言語景観」内山純蔵監修, 中井精一, ダニエル・ロング編『世界の言語景観 日本の言語景観―景色のなかのことば』桂書房, pp.218―226.

「断り」談話における視線行動の分析

－日本語母語話者とスンダ語母語話者の比較－

ノフィア・ハヤティ（金沢大学大学院生）

1. はじめに

日常的なコミュニケーションでは非言語行動も重要な情報伝達手段である。その重要性の認識の高まりから、近年の談話研究では、非言語行動を含むマルチモーダルな観点から言語行動を分析する試みが注目されるようになってきている。そのような非言語行動の一つに視線がある。視線の動きは、会話参与者間の対人意識とかかわりがある。では、「断り」という否定的態度の表明でもある言語行動では、どのような視線行動が特徴的であろうか。その視線行動には言語や文化による違いはあるのだろうか。あるとすれば、どのような違いだろうか。

これまでの「断り」に関する研究では、言語的側面にのみ着目した研究が多く、「断り」行為に伴う視線行動はほとんど注目を浴びることがなかった。断りと視線を扱った研究の1つとして、断りとアイ・コンタクトに関する任(2002)を挙げることができる。任(2002)はテレビドラマを資料とし、日本人と韓国人が勧誘・依頼を断る際、それぞれどのようなアイ・コンタクトを行うのかを調べた。その結果、日本人は断る際、アイ・コンタクトをしないように配慮するが、韓国人は相手を直視しながら意見を表明する頻度が高いことが分かった。しかしながら、任(2002)はテレビドラマをデータとしているので、実際の会話についても同様のことが言えるかどうかは不明である。より実際の会話に近いデータを用いた研究としては、ハヤティ(2016)が、ロールプレイによる断り談話を資料に日本語母語話者(JNS)とインドネシア人スンダ語母語話者(SNS)の視線行動を分析している。断り発言を行うとき、両母語話者はともに「視線はずし」→「視線はずし」(OFF→OFF)及び「視線向け」→「視線向け」(ON→ON)という 2 つのタイプの視線行動を行っていることが確認された。両言語間の違いとして、JNS は SNS に比べ OFF→OFF で終わる傾向があるが、SNS は JNS に比べ ON→ON で終わる傾向が見られた。しかしながら、この研究は「断り」談話における視線の役割に関して問題点を明確にするために実施した予備調査である。そのため、被験者のサンプル数が十分ではなく、結果を適切に評価することはできない。

そこで、本研究では実際の会話のやりとりに近いデータが収集できるオープンロールプレイ法を採用し、その様子を録音・録画することにした。本研究の目的は、このデータを用いて、断り場面において、JNS と SNS が断る際、それぞれどのような視線行動が特徴として見られるのか、また、それは「断り」行為のどの場面とどのように関連しているのかを明らかにすることにある。

2. 調査方法

JNS と SNS の同性同士の大学生それぞれ 60 名ずつ(30 組のペア)を対象に、オープンロールプレイ方法を用いてデータを収集した。ロールプレイの内容は「親しい友人に、自分の代わりにアルバイトとして学会の手伝いを依頼するが、それに対して断りを行う」という場面で、自由に会話してもらうという設定である。

断り発話ごとに見られる視線行動を任(2002)に従って視線 ON と視線 OFF に分類する。視線 ON というのは相手の目・顔を見ている状態である。それに対して、視線 OFF は相手の目・顔を見ていない状態である。具体的な断り発話に伴う視線行動は以下の通りである(視線 ON は下線で、視線 OFF は波線で示している)。

会話例 1　JNS

発話文 No	話者	発話内容
15	A	えっと思って(えーそっか)、で、今他の子、○○とか頼んだんだけど、全部断られてしまって。
16	B	ええ、でも私もさ、明日さ他の先生に頼まれたことあって。→ 1 回目の断り
17	A	えーーー[笑]。
18	B	時間は時間は？
19	A	時間は午後の、1 時、だからこの時間。
20	B	あ、なるほど。
21	B	かぶってますね。→ 2 回目断り
22	A	かぶってますか。
23	B	ちょっと行けなさそう、私も。→ 3 回目の断り

会話例1に示されているように断り発話が3回出現し、その中で下線の部分は相手の目・顔を見る視線行動ONを示している。一方、破線の部分は相手の目・顔を見ない視線行動OFFを示している

3. 結果と考察

視線行動を分類し、断り発話の総数はJNSの場合113件、SNSの場合139件である。視線行動の結果は以下の図1に示されている。今回の分析では出現が多く視線行動①OFF→ON、②ON→ON、③OFF→OFF及び④視線の乱れという4つのタイプを中心にして分析を行う。

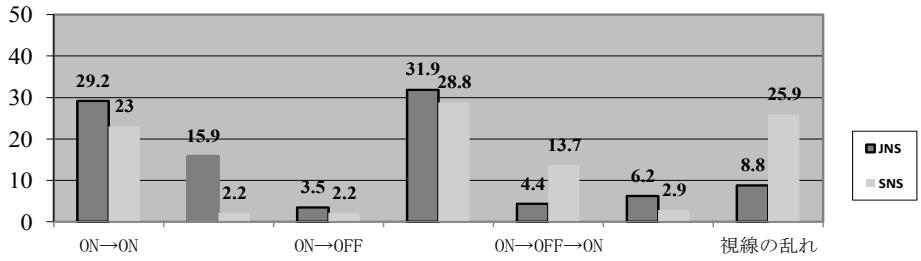


図1　断り発話に伴う視線行動（単位：%）

図1に示されているように、JNSにおいて最も多い視線行動はOFF→ONタイプが31.9%(36件)、ON→ONタイプは29.2%(33件)を占めている。次に、OFF→OFFタイプは15.9%(18件)、視線の乱れは8.8%(10件)で、その他のタイプは低く、1割以下である。一方、SNSにおいて最も多い視線行動はOFF→ONタイプは28.8%(40件)を占めている。次に、視線の乱れは25.9%(36件)、ON→ONタイプは23.0%(32件)である。また、その他のタイプは5%以下である。

両母語話者の視線行動を比較してみると、OFF→ONタイプは共通して最も多く見られた。また、JNSにはON→ONタイプも多く見られ、次の2位を占めている。さらに、JNSにはOFF→OFFタイプが多く($p<0.01$)[1]、SNSには不安定な視線行動、つまり、視線の乱れというタイプが多く見られた($p<0.01$)。これはそれぞれの特徴的な視線行動として見られた。

3.1 断り発話の文末に見られる視線行動

まず、断り発話の文末で見られる視線行動の OFF→ON について考察していく。対話には視線の機能が幾つかあり、その一つは話す・聞くの交替時を調整する機能である(ヴァーガス 1987)。普通には話し手は最初に聞き手と視線を合わせてから話を始め、話を始めたら聞き手から視線を逸らし、途中で時々聞き手を見るのは聞き手が自分の話をよく聞いているかいないか、または理解しているかいないを確認する時で行われる。そして、その他に時々合した視線を相手の目に止めるのは自分の話を終わらせたい場合で、相手に発話権を渡したいという合図である(任 2002)。今回のデータで見られた視線行動 OFF→ON について、「断り」発話を述べる際に視線 OFF で始まり、文末に相手を見るという視線 ON に変わる可能性がある。これは話し相手に発話権を渡したいという合図と解釈できるであろう。また、断り発話を表明してから、相手を見ることによって、相手は話者の断り意図受諾をするのか、またはしないのかという反応を確認するためにもなると思われる。断り発話を述べる際に、視線を逸らしている傾向が高いにもかかわらず、話を終える際には視線を変えて、話し相手を見ており、自分の話はもう終わりであるという合図を送るようである。両母語話者は「断り」と視線行動の関わりを示していないが、このように視線が会話の順番を調整するということは既に先行研究において指摘され(Kendon 1967)、視線を相手に向けるか否かは話し手・聞き手の役割交替に有効な情報となっている(橋内 1999)。任(2002)では日本人は自分の話を終えても、相手に発話権を渡す時に相手の目を見ていないが、韓国人の場合は殆ど視線 ON で終る。つまり、話を終える時に相手を見て自分の話はもう終わりであるという合図を送るという。しかしながら、この任(2002)の結果と異なり、JNS も SNS も視線行動の OFF から、断り発話の文末には相手を見るという視線行動 ON は守られているという共通点が見られた。つまり、対話時に視線の機能の1つである「話す・聞くの交替時期を調整する」(ヴァーガス 1987)と関連づけることができる。このような違いは、任(2002)がテレビドラマを資料とし、会話参与者がどのような人間関係なのかが規定されていず、一般に通用している典型的な演出が反映された結果であろうと推測できる。

3.2 視線行動と親しい対人関係

次は視線行動ON→ONタイプの結果を考察していく。断り発話は上記のようにヴァーガス(1987)によれば、気まずさ、ことば表現することの難しさ、気軽な話ではないため、視線行動を逸らすという可能性が高い。しかしながら、ヴァーガス(1987)の研究では一般的な視線行動であり、話者参与者までの関係は言及されていない。今回のデータでは断り発話を述べる際、ずっと相手の目・顔を見ることも見られた。断り発話と視線行動 ON→ON タイプについて被験者は断り発話を述べる際、相手を見る傾向が認められた原因は対人距離に関係があると考えられる。すなわち、親しい同等関係であるため、それほど視線を気にせず、また、

[1] p値 (Probabilityの値) が0.05より小さい場合 ($p<0.05$)、さらに厳密にはpが0.01より小さい場合 ($p<0.01$)、グループ間の比には有意差がある (三浦他 2006)。

相手を見るか見ないかいは内的状況(感情)の気持ちを表すものであり、礼儀や誠意の気持ちと関係していることがフォローアップインタビューで分かっている。対面している2者間における対人感情と視線行動とは、親和、好意、非好意とが密接に関係していることが示唆される(飯塚 2005)。また、任(2002)はアイ・コンタクトを行うことは参加、仲間入りの欲求を表現し、所属欲求の強い人たちはより視線を返す傾向があると述べている。今回の調査の場面は、親しい友人関係で、しばしば会ったり話をしたり、一緒に行動をしたりしている友達で設定してある。したがって、そのような密接な関係では、断りを表明する際に、相手を見るということはむしろ自然な行動である可能性が考えられる。また、意味公式の使用に関しては、視線 ON→ON タイプは単独使用の意味公式の際に用いられ、比較的発話量が短い断り発話に見られた。任(2002)は、日本人は断る時、アイ・コンタクトを気にするが、韓国人はあまり気にせず、相手を見て意見を表明する態度が頻繁に見られると述べている。しかしながら、任(2002)はテレビドラマを資料としているため、一般に想定されている典型的な演出がなされていたのかもしれない。また、任(2002)の断りの場面の調査では、話者間の関係が規定されていないことも疑問の余地がある。

3.3 視線行動と発話量

JNS にはそれほど見られなかった、視線の乱れ、つまり、視線の変化が 1 つの断り発話の中で 3 回以上起こるタイプは SNS には多く見られた。これについては次の会話例を見ながら説明していく。

会話例 2 SNS

発話文 No	話者	発話内容
15	A	Tabuh opat, pan rada nyalse meureun tabuh opat mah, tah kumaha tiasa teu ○○.? 〖4 時頃、4 時頃ならば少し暇かもだから、できないですか。〗
16	B	Duh, abi teh kumaha nya…tabuh opat teh aya ospek, ospek jurusan.〖Duh,私どうしよう、4 時はオリエンテーションがあって、学科のオリエンテーション。〗→1 回目の断り
17	A	Oh… enya nya jurusan, janten bentrok.?〖そうか、かぶってますかね。〗
18	B	Heemh, muhun, teras pami saterasna oge teu tiasa abi teh nya. Salasa, kuliah full dugi ka Jumaah, teras, Senen na Senen kan libur, ngajar, teras sabtu na sareng rebo na ospek, Minggu na panginten uih ka bumi beberes.〖そう、それでこの先も私はずっとできなくて、火曜日から金曜日までずっと授業があって、そして月曜日、月曜日は休み、教えて、そして土曜日と水曜日は学科のオリエンテーション、日曜に家に帰って、片付ける〗→2 回目の断り

例 2 に示されているように 1 回目の断りでは「Duh, abi teh kumaha nya…tabuh opat teh aya ospek, ospek jurusan.〖Duh,私どうしよう、4 時はオリエンテーションがあって、学科のオリエンテーション。〗と【困惑】+【理由】で断りを表明する比較的短い発話である。一方、2 回目の断りでは「Heemh, muhun, teras pami saterasna oge teu tiasa abi teh nya. Salasa, kuliah full dugi ka Jumaah, teras, Senen na Senen kan libur, ngajar, teras sabtu na sareng rebo na ospek, Minggu na panginten uih ka bumi beberes.〖そう、それでこの先も私はずっとできなくて、火曜日から金曜日までずっと授業があって、そして月曜日、月曜日は休み、教えて、そして土曜日と水曜日は学科のオリエンテーション、日曜に家に帰って、片付ける〗と長々と発話で【理由】として詳しく事情を説明している。SNS は JNS に比べ、全体的に【理由】を多く用いる傾向にある。【理由】の使用に関して JNS は 40 件(39.4%)であるのに対し、SNS は 75 件(53.9%)で、これは両母語話者間における相違点である($p<0.01$)。【理由】は依頼側に断りの意図を理解させ、相手に自分の事情を理解してもらうため、【理由】が多ければ多いほど相手を納得させることができると考えられる。また【理由】を述べる際、詳しく事情を説明することによって、発話量も当然多くなる。このような特徴は任(1999, 2003)が既に指摘し、韓国人の断り方の特徴は「理由型(弁明型)」を好み、申し出を受け入れなれない自分の都合を詳しく述べることによって相手に信頼を与え、人間関係を保つためだと言う。理由型を重んじることによって、結果的として発話が長くなる。

次の会話例は{付随表現}の範疇にある個別意味公式を 1 回以上繰り返すことで、発話量が長くなる発話である。

会話例 3 SNS

発話文 No	話者	発話内容
9	B	Oh jadi keur neangan gantina?. 〖そっか、代わってくれる人をさがしているよね。〗
10	A	Heemh, terus ○○ tiasa teu enjing mun ngagentoskeun ○○?. 〖そう、で、○○さん明日代わってくれませんか。〗
11	B	Hmm…kumaha nya, sabenerna mah…kumaha nya, lain embung mantuan sih ngan pedah…nya, kumaha nya, karunya sih ka ○○ na tapi da abi ge kumaha, teu bisa, teu bisa mantuan soal na abi isukan mah moal bisa..〖えーと、どうしよう、実は…どうしよう、手伝いたくないというわけではないけど、あれだから…どうしよう、○○さん可愛そうだと思うけど、でも私もどうしようかな、できない、明日までできないから、手伝えない。〗→ 断り発話

会話例 3 には 1 つの断り発話が、【ためらい】+【困惑】+【用意有り】+【困惑】+【共感】+【困惑】+【不可】から成り、同じ意味行公式が何度も繰り返され、発話量が多くなっていることが分かる。1つの断り発話に多くの個別意味公式を多く使用することで、

発話量が長くなり、それに伴い視線行動も不安定になると考えられる。

3.4 視線行動と発話内容

古本(1993)によると、発話している時の視線行動が「伝達のモダリティ」や「聞き手目当ての働きかけ」と関連しており、「聞き手目当ての働きかけ」が強いと判断される演述では視線ONが高く、それが弱いと判断される場合、視線ONが低いと述べている。JNSによる視線行動OFF→OFFの会話を見てみると、{直接的断り}の【不可】(または{間接的断り}の【謝罪】の発話に随伴する視線行動がOFF→OFFになる傾向が見られる(11件/18件)。具体的な会話例は次のようである。

会話例4 JNS

発話文No	話者	発話内容
19	A	明日、明日代わって欲しい。
20	B	明日はちょっと厳しいよ。→【不可】

会話例5 JNS

発話文No	話者	発話内容
4	A	ああ、そうなの、どうしても無理？
5	B	[笑]そうやね、明日だけはちょっと、明後日とかは大丈夫かもしれない。
6	A	あー明日なんだよね。
7	B	そう、ごめんね。→【謝罪】

上記の会話例では【不可】は直接的な断りで、相手のフェイスを脅かす可能性が高い。そのために、視線を逸らすことによって、FTAの度合も多少緩和しようとしているのではないかと考えられる。また、【不可】は聞き手目当ての働きかけではない否定的な発話であるため、視線ONにする必要性が低いと言える(古本 1993)。さらに、JNSは【謝罪】の時にお辞儀する傾向があり、それが影響している可能性がある。井上 (1982：108) によれば「私達の挨拶行動はお辞儀である。このお辞儀という振る舞の形式に忠実であれば、私達は相手の視線をお互いに自然に避け合うことができるのである」と述べている。このお辞儀の形式は挨拶を交わす場面だけでなく、謝る場面でも頻繁に使用される。それによって、相手への視線を避ける手段にもなり得る。したがって、JNSによる断りの際、視線OFF→OFFの出現は【謝罪】の使用に伴うお辞儀と関わりがあると考えられる。

4. まとめ

断りに伴う視線行動の分析をした結果、従来、断りのような、言いにくく、気まずい発話では、一般に、視線を逸らす可能性が高いと言われているが、必ずしもそうではない場合もあるようだ。本研究では、相手と関係が親しく、同性同士の場面での断りでは、むしろ相手を見る傾向が高いことが分かった。本研究では十分に分析できなかった発話末の表現や発話内容、発話量も視線行動に影響を及ぼしている可能性がある。断り発話のこういった側面と視線行動との関係に関する分析は今後の課題。

参考文献

井上忠司 (1982). まなざしの人間関係 講談社現代新書

飯塚雄一 (2005). 視線行動の表出に関する研究―視線の「接近-回避モデル」の検討 鳥取県立看護短期大学紀要 11, 119-130.

ヴァーガス, マジョリー F (石丸正訳).(1987). 非言語コミュニケーション 新潮社

Kendon, A (1967). Some Functions of Gaze-Direction in Social Interaction. *Acta Psychologica* 26, 22-63.

任炫樹 (1999). 日本語と韓国語の断り表現 ことばの科学 12, 201-215.

任炫樹 (2002). 断りとアイ・コンタクト 言語と文化3, 181-199.

任炫樹 (2003). 日韓両言語における断りのストラテジー―言語表現の違いとストラテジー・シフトを中心に― ことば 24, 60-77.

橋内武 (1999).『ディスコース―談話の織り成す世界―』くろしお出版

ハヤティ・ノフィア (2016). 断り談話における非言語行動の分析―日本語とスンダ語の対照研究―言語科学会 18 回年次国際大会 発表要旨, 208-209

古本裕子 (1993). 発話に随伴する視線行動の研究―日本語母語話者の場合― 名古屋大学大学院文学研究科修士論文

三浦香苗・深澤のぞみ・岡澤孝雄・ヒルマン小林恭子. (2006). アカデミックプレゼンテーション入門―最初の一歩から始める日本語学習者と日本人学生のための― ひつじ書房

依頼・誘いにおいて断りが発生する際の発話ストラテジー及び話者の態度
—日本語母語話者のロールプレイとフォローアップ・インタビューの質的分析を通して—

滕越（東京大学大学院生）

1. はじめに

フェイス侵害行為（以下，FTA）に関する研究では，二言語間，中間言語と母語間の対照研究が行われており，言語間で典型的に使用されるストラテジーの違いが第二言語習得における負の転移につながり，母語話者の不快感を招くことが指摘されているが，筆者は，「不快感」について，観察された言語特徴だけから論じることは不十分と考え，話者の態度という概念を導入し，原因を追究したいと考えている．今後は学習者も調査対象とする予定だが，本稿では日本語母語話者を対象に行った調査の一部を報告する．

2. 先行研究

FTA に関する研究の多くは，ポライトネス・ストラテジーや発話機能をコーディングし，言語間でのまたは中間言語との対照をする方法が採られている[1]．対照の結果得られた差異に関しては，Brown & Levinson（1987）（以下，B&L, 1987）に基づいて，ある文化の PF/NF への志向性に原因が求められている．例えば，王・山本（2015）では，断りに関する日中対照研究の結果，日本語では NPS が，中国語では PPS がより多く使用されており，その原因は両文化において重視されるフェイスの違いだと論じられている．

また，会話分析の方法を用いて，FTA 会話の構造の特徴を分析する研究も現れている．ザトラウスキー（1993）では，日本語の勧誘会話について「話段」という単位をもとに分析を進めており，話段の移行とストラテジーの使用について論じている．

しかし，いずれの研究でも，観察された言語行為の特徴についてのみ論述しており，FTA 会話の背後にある話者の心の動きと発話の関係についての分析[2]はいまだ不十分である．話者の内面に切り込むためには，FTA 時フォローアップ・インタビュー[3]の手法が効果的だと考えられる．

3. 本稿の目的

本稿の目的は，1. [-H]FTA[4]会話における PS と会話の構造を分析し，「断らないこと」，「両話者[5]ともに結果的に納得すること」と，観察された言語特徴の関係について論じる；2. いずれかの話者が結果的に納得していない会話について，話者の態度を分析することである．なお，「話者の態度」を，Allport(1935)を参考に，「話者のパーソナリティや規範などの内的要因と，場面や相手などの外的要因の双方に影響されて形成された，ある特定の発話や行為を導く，話者の心の準備状態」と定義する．

4. 研究方法

研究方法は，オープンエンドのロールプレイ及びロールプレイ後の FUI を採用した．NF を侵害する場面

[1] 以下，ポライトネス理論関連の用語として，ポジティブ・フェイスを PF，ネガティブ・フェイスを NF，ポライトネス・ストラテジーを PS，Brown & Levinson (1987)で指摘されている 5 種類の PS それぞれ BOR，PPS，NPS，OffRe，NoFTA と記す．
[2] ザトラウスキー（1993）でも話者の態度について言及しているが，相づち的発話の発話機能による推測に基づいている．
[3] 以下，「フォローアップ・インタビュー」を FUI と省略する．
[4] [-H]FTA を，「聞き手のネガティブフェイスを侵害する言語行為」という意味で用いる．5 節以降では，特に本研究で扱う 4 つの場面（依頼 3 場面，誘い 1 場面）のフェイス侵害行為を指して用いる．
[5] [-H]FTA の行為主体と受け手の両者を指す。なお本稿の 5.2 節では受け手の態度について分析している。

を計 4 場面（依頼 3，誘い 1）設定し，協力者に対し，「提示された場面に遭遇した場合に自らがとる言語行動をする」よう指示を与え，ロールプレイを実施し，録音した．直後に，ロールプレイの音声を聞きながら，発話時の態度に関する FUI を行った．ロールプレイの場面情報を表 1 に簡単に示す．

表 1　ロールプレイの場面情報

場面名	[-H]FTA の受け手	[-H]FTA の実施主体
空調	寒がりで部屋の温度がちょうどよい	暑くて空調の温度を下げたい
課題協力	大変忙しい	急で面倒な課題協力をお願いしたい
トマト	トマトがとても苦手	おいしいトマト料理のお店に誘う
引っ越し	依頼を引き受けたが忙しくなってしまった	以前依頼した引っ越しについて確認する

研究の協力者は，東京都内の大学に在籍する，日本語を母語とする大学生・大学院生である．日常生活において口語体で会話をする同性の友人同士 2 人を 1 ペアとして研究協力を依頼した．本稿では，男性 1 組，女性 2 組，計 3 組の，4 場面分，計 12 会話のデータを扱う．今後，ペア名（A から C）および[-H]FTA の受け手（a）か行為主体（b）かを示すアルファベット，計 2 桁で協力者を表す．

調査実施時には，ロールプレイに慣れてもらうために，2 つの場面で練習を行ったのち録音を開始した．また，場面の提示順が結果に影響を及ぼすことを避けるため，ペアごとにランダムに提示した[6]．

5. 結果・分析

5.1　ロールプレイの言語的特徴

今回分析対象とする 12 例の[-H]FTA 会話のうち，3 例で断りが産出され，残り 9 例では[-H]FTA が受諾あるいは一部受諾/条件付き受諾された．また，FUI の結果，12 例の会話のうち 5 例において，少なくとも片方の話者が会話の結果に「納得していない」という言及が多くなされていた．

5.1.1　ポライトネス・ストラテジーの分析

まず，12 例の会話のうち，[-H]FTA の行為主体の依頼・誘い[7]時の会話について，B&L（1987）に基づいて PS のコーディングを行い，表 2 にまとめた．結果的に断りに至った会話を太字，FUI で，話者が「納得していない」という言及が多かった会話を下線で示した．

表 2　12 の会話のポライトネス・ストラテジー

場面，話者 / ストラテジー	空調			課題協力			トマト			引っ越し			合計
	Ab	**Bb**	Cb	Ab	Bb	Cb	Ab	Bb	**Cb**	Ab	**Bb**	Cb	
BOR	0	**1**	0	0	0	0	0	2	**7**	1	**1**	0	12
PPS	1	**1**	2	1	2	5	3	7	**11**	0	**3**	0	36
NPS	3	**0**	7	8	9	14	2	0	**0**	3	**2**	1	49
OffRe	0	**4**	0	0	0	0	0	1	**7**	0	**0**	2	16

表 2 から，全体的な傾向として，今回の 3 名の話者は[-H]FTA 時に NPS を用いることが多く，また，フェイス侵害のリスクがより高い依頼より，比較的低い誘いの方が PPS が使用されることが多い，ということがわかる．これは，王・山本（2015）や，B&L（1987）の PS の選択についての記述と一致している．

しかし，断りに至ったか否か，話者が結果的に納得したか否かに，ストラテジーの選択の上で目立った違いは観察されなかった．そこで，ストラテジー単体ではなく，会話の構造と併せての分析を試みた．

5.1.2　会話の構造の分析

収集した 12 の会話の構造を，会話分析の隣接ペアや連鎖組織の考えに基づいて分析した結果，大きく 3

[6] 本研究は，東京大学大学院総合文化研究科・教養学部の，「ヒトを対象とした実験研究に関する倫理審査委員会」の承認を受けている（課題番号 579）．

[7] 本節では，[-H]FTA の受け手が，受諾/拒否の答えを出すまでの，FTA の実施主体の発話についてストラテジーのコーディングを行っている．

つのタイプに分類された．それぞれ，FTA を受けて，すぐに受諾へ向かう会話（タイプ 1），FTA を受けて，膠着を経て受諾へ向かう会話（タイプ 2），FTA を受けて，膠着を経て断りへ向かう会話（タイプ 3）である．

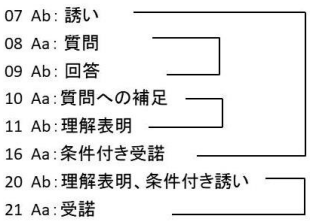


図 1 会話[トマト-A]の構造

まず，タイプ 1 の会話の流れを，[トマト-A][8]の会話を例に図 1 に示す．収集した 12 例の会話のうち，2 例がこのタイプであった．「[-H]FTA－受諾」の基本連鎖が比較的早い段階で現れ，後続拡張も短く，FTA に対する否定的反応はほぼなく，依頼・誘いを実現するために用いられた PS も比較的少なかった．話者への FUI の結果，両話者ともに会話の結果に納得していた．その理由は，事態が重大なものではないと捉えられていたため，両者ともに互いから配慮を感じたためであった．

次に，タイプ 2 の会話の流れを，[課題協力-C]の会話を例に図 2 に示す．収集した 12 例の会話のうち，7 例がこのタイプであった．7 例のうち，両話者が会話の結果に比較的納得している例が 4 例，そうでない例が 3 例あった．このタイプの会話はさらに，交渉部が受諾表明の前に来るか，あとに来るかで 2 種類に分けられるが，図 2 は前者を表している．また，タイプ 2 では，相手が躊躇を見せたときに，効果的な補償案を示す（PPS），依頼・誘いの内容を軽減する（NPS）ことなどの PS が相手の受諾に結び付く例が 7 例中 5 例観察された（図 2 の「→」）．

図 2 会話[課題協力-C]の構造

最後に，タイプ 3 の会話の流れを，[トマト-C]の会話を例に図 3 に示す．収集した 12 例の会話のうち，3 例がこのようなタイプであった．またそのうち 2 例で，話者が会話の結果に納得していない，という言及が多くみられた．このタイプの会話は，タイプ 2 のような入れ子型構造は少なく，「[-H]FTA-拒否」や「代案-拒否」といった隣接ペアが繰り返され，相手が拒否しているのにもかかわらず，同様の依頼・誘いや代案が繰り返されるといった特徴が観察された．

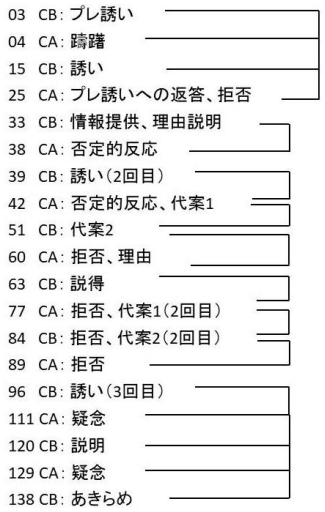


図 3 会話[トマト-C]の構造

タイプ 3 の会話でも，PS が使用されているものがあったが，効果的ではなかったということが[-H]FTA の受け手への FUI から明らかになっている．

5.2 話者の態度

前節の分析の結果，PS や構造など，会話の表面に現れるものと，話者がその結果に納得しているかという内面は，必ずしも一致していないということがわかった．本節では，話者の内面に注目し，[-H]FTA の受け手が，「断って納得していない」と「受諾したが納得していない」会話を一例ずつ取り上げ，[-H]FTA の受け手の態度といった内的要因と，言語行為として現れたものの関係性をまとめる．

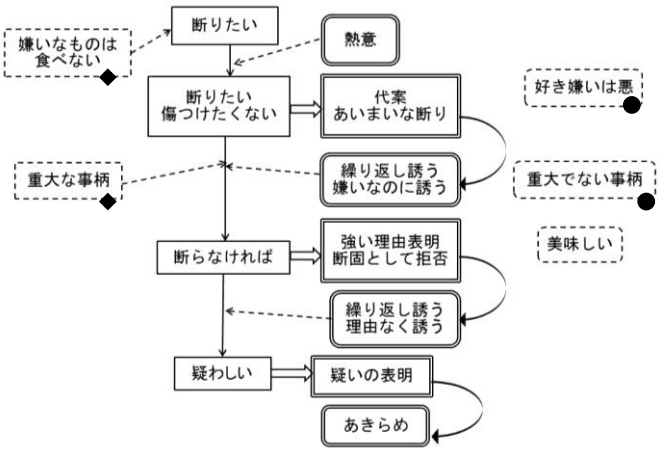


図 4 トマト場面における話者 Ca の態度変化

まず，「断って納得していない」例として，トマト場面の Ca 氏の態度の変化を図 4 に示す．Ca 氏は，自らの「嫌いな食べ物は食べる必要がない」という内的規範から，相手からの嫌いな食べ物に関する誘いを受けて，「断りたい」という否定的態度が形成されたが，相手の熱意のこもった誘いを受け，そこに「相手を傷つけたくない」という態度が加わり，代案を提示したり，断固として拒否するのを避けたと述べている．

[8] 以降，12 の会話を，［場面名-ペア名］（単語-アルファベット大文字 1 桁）で表す．

しかし，相手が誘いを続けたため，「相手を傷つけたくない」よりも「断りたい」が優先され，強化された結果，断固とした拒否が産出された．それでも相手が誘いをやめないことから，「断らなければ」から「疑わしい」というさらに否定的な態度に変化し，その結果産出された相手の誘いの意図を疑う発話が，誘い手のあきらめにつながっている．両話者への FUI の結果，事柄の重大性に関する把握と，「好き嫌い」に関する規範に違いが発見された．

次に，「受諾したが納得していない」例として，課題協力場面の Aa 氏の態度の変化を図 5 に示す．依頼を受けた当初の Aa 氏の態度は，自分の能力と相手の事情を考慮して形成された，「協力したい」というものであった．相手からの依頼内容の説明を受け，その重大性・緊急性と自分の事情を考慮し，「協力したい」と「自分の事情に時間を使いたい」という 2 種類の矛盾した態度が同時に形成されたことで，自分の事情を相手に伝え，拘束時間について再確認する発話を産出するに至った．しかし，相手からの回答は，拘束時間に加えて依頼をさらに追加するものであった．それによって，「自分の事情への配慮を求めたい」という態度が形成された．相手の事情の重要性を考慮し，結果的に依頼を受け入れたが，結果的にこれが不快感として残ったと Aa 氏は述べている．また，Ab 氏も自分の事情に気をとられており，「(Aa 氏が) レポートって言ったのに，全く動じずに続けちゃった」と述べており，Aa 氏の事情に対する両者の把握のずれが背後にあることが分かった．

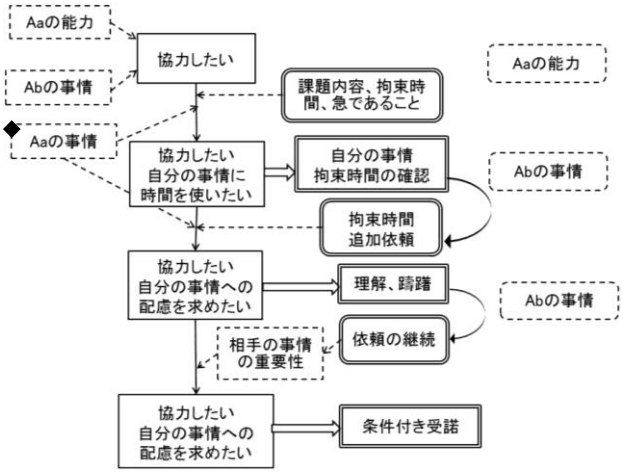


図 5　課題協力場面における話者 Aa の態度変化

6　まとめ及び今後の課題

本稿では，日本語母語話者 3 組による 12 の[-H]FTA 会話における，PS，会話の構造，話者の態度について分析を試みた．その結果，(1)会話として産出される PS は，両話者が会話の結果に納得するか否かとはあまり関連しないが，位置や内容が適切であれば受諾につながり，会話の構造は，すぐに受諾に向かう会話以外は，話者が結果的に納得していない可能性がある；(2)話者が納得していない会話において，[-H]FTA の受け手の態度を分析した結果，「誘いへの否定的態度の相手の発話による強化」や「依頼への協力的態度の相手への発話や場面要因による変化」が発生しており，これらの会話に見られる共通点として，両話者の事態把握や内的規範のずれが挙げられることが分かった．

本稿では，収集した会話の PS，構造，話者の態度やその変化について分析することができたが，話者の態度と内的特性との関連性などに関する分析には不十分な部分が多い．また，本稿は数例のケーススタディであるため，今後は，さらに深く分析を重ね，会話において観察された言語特徴と，話者の内面についてのモデル化，パターン化を目指す．

参考文献

Allport, G. W. (1935). Attitudes. In *A Handbook of Social Psychology* (pp. 798-844). Worcester, MA, US: Clark University Press.

Brown, P., & Levinson, S. C. (1987). *Politeness: Some universals in language usage* . Cambridge University Press.

Hayashi,T(1996)Politeness in conflict management: A conversation analysis of dispreferred message from a cognitive perspective,*Journal of Pragmatics,* 25(2), 227-255.

王源・山本裕子 (2015). 親しい友人に対する断り行動の日中対照研究. 人文学部研究論集(34), 19-35.

ザトラウスキー,ポリー(1993).日本語の談話の構造分析―勧誘のストラテジーの考察―.くろしお出版

高木智世・細田由利・森田笑(2016).会話分析の基礎. ひつじ書房

ローカル（出身地）からローカル（居住地）へ

ー在米日本人の「県民」アイデンティティー

木場安莉沙(大阪大学／日本学術振興会)

1. はじめに

本研究は米国サンフランシスコに住む在米日本人を対象としたインタビューの質的分析から,「日本人」というアイデンティティだけでなく「○○県人」といったようなローカル・アイデンティティが,いかに米国での語り手の生活や自己の位置づけに関与しているかを示すものである. これまで在米日本人／日系人のアイデンティティについては,宮崎（2004）,南川（2005）,宮内（2011）,黒木（2016）などで考察されてきた. しかし,「日本人／日系人」としてのアイデンティティ分析に終始しており,語り手が「○○県民」「○○出身の日本人」といったようなよりローカルな出身地に基づくアイデンティティを米国での自己の位置づけにどう関連させているのかについては詳察されていない.

山田（2011）は「自分を「江戸っ子」,「世田谷区民」,「生まれも育ちも葛飾柴又」などと意識し,またそれを表出すること」をその人物の個人的なローカル・アイデンティティの意識や表出であるとしている（山田 2011: 156）. また,田中（2008）の在米日本人に関する研究や中澤ら（2008）の在星日本人に関する研究では,インタビューはホスト社会における自らの位置づけに「日本人」だけでなく,よりローカルな出身地を持ち出している（民族アイデンティティを「日本人であり,名古屋人」と説明するなど）. こうしたことから,在外生活を語る上で上記のようなアイデンティティはナラティブの構築やライフストーリーの意味づけに欠かせないと考えられる.

本研究ではナラティブ内で人の性的アイデンティティや民族的アイデンティティがどのように構築／交渉されるかを明らかにする目的から,これまでに国内外で複数の性的少数者や在外邦人のコミュニティに人脈を構築し,日本で10人11組,サンフランシスコで11人9組から単独またはペアでインタビューを行ってきた. 本発表ではサンフランシスコに滞在する関西出身の日本人3名のデータを取り上げる. インタビュー協力者のプロフィールは以下の表1の通りである.

表1. インタビュー協力者のプロフィール

	国籍	出身地域	サンフランシスコ在住歴	性別
S	日本	大阪府	4年	M
N	日本	大阪府	1年半	M
K	日本	京都府	10年	F
A（IR）	日本	大阪府	–	F

インタビュー協力者によるローカル・アイデンティティの構築,すなわちアメリカ社会において「○○県民」「○○出身の日本人」であるとはどういうことなのか,またそれを動的な相互行為の中で話し手がどのように表すのかを明らかにするにあたって,本研究では動的なアイデンティティ構築の場とされる（Georgakopoulou, 2006）ナラティブ（語り）の質的分析を行う. また,話し手や聞き手がトークの中で（トークを通して）自分をある人物として取り上げるのに伴って築かれるとされるポジション（Davies & Harré, 1990）に着目し,こうしたポジションを築く行為であるポジショニング（位置づけ）が語りの中でどのように行われ,話し手や話し手が語る対象がどのように位置づけられているかを分析する.

2. データ分析

2.1 Sのデータ：ホスト社会との親和性

本章からは実際のインタビューデータから話し手のローカル・アイデンティティがどのように表出されるかを見てゆく.データ 1 の直前では,A の「米国に住み始めて文化などの違いから困ったことはあったか」という質問に対し,S が言語表現の違いを挙げている.100-102 行目で S が「大阪出身の人は（アメリカ文化に）入りやすい」と発言すると,これに同意しつつ内容を補う形で A が「はっきり言う方ですもんね」(106 行目）と答え,S が「はっきり言う方だし馴染みやすい」(107 行目）とオーバーラップしながら発話を続ける.106 行目の A の発話や 108 行目の S の発話に話し手の知識が聞き手の知識と一致すると判断された場合に用いられる終助詞「ね」の使用（益岡, 1991）が見られることなどから,ここでは S,A の出身地である大阪の言語表現が「はっきり言う」性質のものであり,よって米国文化に「馴染みやすい」という共有知識（林, 2008）が確認され,ともに大阪出身である S と A のローカル・アイデンティティが表出されている.

<データ 1>
100. S: ん： やっぱりでも大阪出身っていう
101. A: @@
102. S: ことで： そういう：のにはすごく入りやすいと思うよ
103. 大阪の人って[アメリカで
104. A: [あ：：
105. S: [あの
106. A: [（ ）はっきり言う方[ですもんね
107. S: [はっきり言う方だし馴染みやすい
108. っていうふうに言われてるね

2.2 Nのデータ：他地域との混同の忌避

データ 2 では,N がサンフランシスコの「ジャパンタウン」にて毎年開催される「大阪祭」について述べている.インタビュー全体を通してNおよびAは「標準語」ないし「共通語」（中井, 2007）とされるスタイルの日本語を使用しているが,6 行目で N が「関係無いやん」と大阪方言を使用すると A もこれにオーバーラップしながら「大阪ちゃうやん」(7 行目）と発話しており,大阪方言への収斂（Giles et al, 1991）が見られる.つまり,「大阪祭」で大阪とは「関係無い」徳島の文化が紹介されるという事柄に対して,ともに大阪出身であるNとAが批判的意見を述べながら大阪方言への切り替えおよび収斂によってローカル・アイデンティティを顕示しており,談話の内容と方言使用の双方から「大阪出身」というアイデンティティを共同構築していると言える.

<データ 2>
1. N: 阿波踊りの（団体名）があったりとかするんですけど
2. A: @@
3. (.)
4. N: 大阪祭で踊って（ ）(.)関係ない
5. A: hh 阿波踊り徳島ですよね hh
6. N: hh もう全然関係無いやんと[思って
7. A: [h 大阪ちゃうやん h

2.3 Kのデータ：ホスト社会との対照性

データ 3 は,直前の部分で K が「アメリカと日本の違い」として「アメリカでは個々人の違いが尊重される一方日本では均質的であることが前提とされ,そうでない者は「変わっている」として排除される」という語りを構築し,その中で自分を「変わってる」(33 行目）人間として位置づけている.この自らに対する位置づけに際して,「京都の生まれなんですけどお茶もお花もせずに」(36-37 行目）ということが位置づけを強化する要因として補足されていることから,「お茶」および「お花」は日本的な価値観の象徴であり,そうした「型にはまらずに」生きてきた K 自身とは相対する位置に置かれていることが分かる.このことをさらに強化するのが同じセクション内のデータ 4 である.データ 3 とデータ 4 の間では,K が（サンフランシスコ以前に住んでいた）ロサンゼルス滞在時に日系 3 世でゲイであるお茶の先生から免状を貰ったということ,また,その先生が「意地悪」で,「面白い」が「難しい」人であった,ということが語られている.

<データ 3>（セクション 1）
33. K だからたぶん自分もちょっと変わってるんだと思うんですね
34. まあ あるいは自由に育ててもらったから
35. A: ん：
36. K: あんまりこう型にはまらずに 私は京都の生まれなんですけど
37. お茶もお花も h せずに：h

データ 4 の談話から,K が「お茶出しを女性がするもの」とする価値観を日本に,それに反発する自らの価値観を日本とは異なるところ（米国）に位置づけていることが分かる.データ 3 での習い事としての「お茶」と,データ 4 での「お茶出し」が（同じ「お茶」という言葉が使われているとはいえ）どのように繋がっているのかここでは不明瞭であるが,データ 4 の後に続くロサンゼルスでの職場に関する説明を経て語られたデータ 5 およびデータ 6 から明らかとなる.

<データ 4>（セクション 1）
62. K: 私は元々そのお茶出しを女性がするもの
63. A: あ：：
64. K: だというのが嫌で：h ある意味そっから出てきた
65. 日本から出てきたとこがあって

〈データ 5〉（セクション 2）
26. K:　トップのあの（上司）さんていうね　彼は三世で
27. A:　°ん：°
28. K:　°あの：°彼はほんとエリートなんですけど↑ね
29.　にっけ　日系アメリカ人の
30.　で彼はね　そんなね絶対出したらいけないて
31.　言ったんですよ私に
（中略）
40. K:　それはかっこいいなと思ったんですよ

〈データ 6〉（セクション 2）
56. K:　あの三世の〉ゲイのお茶の先生〈
57.　もうK さんそんなことは：て@@
58.　言うんですよその　綺麗な京都弁　@てか
59.　すごい京都弁で@
60. A:　[はあ：
61. K:　[もうそんな：て言って　それあの　あの
62.　当たり前だけど出してくださいって言って

データ 5 とデータ 6 では 2 人の人物（ロサンゼルス滞在時の上司とお茶の先生）の「お茶出し」に関する態度が対照的に位置づけられている. 2 人はともに日系 3 世であるが, 前者は（社内での立場が弱く, 若い女性である）K がお茶出しをすることによって来客が K を見下すことを懸念し「自分が代わりに出すので K はお茶を出してはいけない」と発言し, これを K は「かっこいい」（データ 5: 40 行目）と肯定的に評価する. 対して後者は, 「当たり前だけど出してください」（データ 6: 62 行目）と K がお茶出しすることを当然視している. データ 3 で京都の「お茶」や「お花」が日本的な価値観の象徴として位置づけられていたことを併せて考えると, 「綺麗な京都弁」「すごい京都弁」（58-59 行目）という情報が追加されることにより, お茶の先生が日本的な価値観の持ち主であることがより一層強調されていると言える. また, お茶の先生が職場で女性がお茶出しすることを当然視していたという談話によって, データ 3 での（習い事としての）お茶に関する談話と, データ 4 でのお茶出しに関する談話との間の結びつきが明らかとなる. K の一連のナラティブをまとめると以下のようになる. 日本にいた時の K にとっての「お茶」とは, 出身地である京都と結びつくものであり, また職場でのお茶出しの習慣から自分とは相反する抑圧的な価値観の象徴でもあった. ロサンゼルスに移ってからは, お茶の教室に通い免状を貰ったということから日本的アイデンティティの象徴として希求していたことがうかがわれ, 「自分とは相反する価値観の象徴」という位置づけは多少変化したと言える. また, 職場での上司の存在は解放的な価値観の象徴として位置づけられている. しかし, 同じ日系 3 世であり熟達した京都弁話者であるお茶の先生がこれと反対に抑圧的な価値観の象徴として位置づけられ, 「お茶」に依然として抑圧的な側面を与え続けている.

3. 考察

以上の分析を踏まえて, 3 名の話し手がホスト社会である米国との関連の中で自らのローカル・アイデンティティをどのように表出させているかを考察してゆく. データ 1 の S は, 米国の人々の言語表現を自らの出身地である大阪の言語表現と文化的に近いものとして位置づけることによって出身地とホスト文化との親和性というナラティブを構築し, 大阪出身であるというローカル・アイデンティティが米国での生活を馴染みやすいものにしたことを裏付けている. またこの発話内容は同じ大阪出身である A によって承認され, 共有知識の確認という行程を経て両者のローカル・アイデンティティが協働的に確認されている.

データ 2 では, ホスト社会において大阪とそれ以外の地域を混同されることについて N が抵抗を示すナラティブを構築し, 4 行目の「関係無い」を 6 行目で「関係無いやん」と大阪方言に切り替えて言い直すことで, ローカル・アイデンティティをより明示化させながらこの抵抗を強化している. A の発話内容への賛同と大阪方言への収斂によって, ここでも両者のローカル・アイデンティティが確認されている. S, N 両者のインタビューにおける A の同意・承認は, S や N を「同じ大阪府民」として位置づける相互行為的ポジショニング（Davies & Harré, 1990）であると言える.

データ 3-6 の K のナラティブでは, 日本や出身地の京都およびその価値観を象徴する「お茶」は, 米国ならびに K 自身の価値観とは相反するところに位置づけられている. 京都にいる間には習わなかった「お茶」をロサンゼルスに移住してから習い始め免状を受け取ったという K の行動は, 「滞在年数が少ない（特に 10 年未満）時期は自らのルーツである日本文化に意識が向く時期である」という田中（2014）の見解と一致する. また, ハワイに移住した日本人女性に関する宮内（2011）の研究では, 「お茶」は「本物の日本」「もとの（過去の）日本」へと彼女らを「引き戻」すものであると考察されている. つまり, 日本にいる間は抑圧的な価値観の象徴として機能していた「お茶」が, 米国移住後はアイデンティティ希求の手段という側面を持つようになったと言える. しかし, 「綺麗な京都弁」でお茶出しという「日本的」な価値観の象徴的慣習を肯定するお茶の先生により, その抑圧的側面は存続される. ナラテ

ィブ全体を通して,K 自身は「お茶」ならびにお茶出しに象徴されるような「日本的」価値観と対照的な価値観の持ち主として繰り返し再帰的ポジショニング (Davies & Harré, 1990) を受けている.

4. 結論

本研究ではサンフランシスコ在住の 3 名の関西出身者のナラティブから,「ローカル・アイデンティティが,いかに米国での語り手の生活や自己の位置づけに関与しているか」について考察した.分析結果から,ローカル・アイデンティティはある時はホスト社会／文化との親和性を築き,ある時は反対にホスト社会／文化と対照的に位置づけられ,ナラティブにおける米国での生活や自分自身に関する語りに深く関与していることが分かった.このようにローカル・アイデンティティが様々な意味からホスト社会において強く意識される以上,在外日本人の研究においては「日本人」という大きな枠組みだけではなく,よりローカルな社会／文化的背景にも注意を払う必要があることが示された.

トランスクリプト記号

:	直前の音の引き延ばし	(空白)	聞き取り不能	hh	呼気
(.)	小休止	@	笑い	[	オーバーラップ開始
°発話°	比較的小さな声での発話	h 発話 h	呼気を伴う発話	>発話<	比較的早口での発話

参考文献

Davies, B., & Harré, R. (1990). Positioning: The Discursive Construction of Selves. *Journal for the Theory of Social Behavior*, 20: 43-63.

Georgakopoulou, A. (2006). Small and large identities in narrative (inter)action. In A. De Fina, D. Schiffrin and M, Bamberg (eds.) *Discourse and Identity*, 83-102. New York: Cambridge University Press.

Giles, H., Coupland, N. & Coupland, J. (1991). Accommodation theory: communication, context and consequence. In H. Giles, J. Coupland, & N. Coupland (eds.), *Context of accommodation*, 1-68. Cambridge University Press.

黒木雅子 (2016). 日系アメリカ人のアイデンティティ変容ーエスニシティ,ジェンダー,国家を超えて― 人間文化学会紀要,36, 79-95.

林宅男(編) (2008). 談話分析のアプローチ 研究社

益岡隆志 (1991). モダリティの文法 くろしお出版

南川文里 (2005). 「在米日系人／在外日本人」であることの現代的意味ーエスニシティの現代社会論に向けて― 立命館言語文化研究, 17(1), 137-143.

宮内壽美 (2011). 海外在住日本人の伝統的日本文化への融合―裏千家ハワイ協会会員に見る〈お茶〉の捉え方と適応を事例として― 政治学研究論集, 33, 13-31.

宮崎江里香 (2004). 日系アメリカ人の「ローカル」アイデンティティをめぐる一考察―Rice 対 Cayetano 裁判と多文化社会ハワイ― 多元文化, 4, 179-190.

中井精一 (2007). 方言と共通語 荻野綱男(編) 現代日本語学入門 明治書院 pp.146-162.

中澤高志,由井義通,神谷浩夫,木下礼子,武田祐子 (2008). 海外就職の経験と日本人としてのアイデンティティー―シンガポールで働く現地採用日本人女性を対象に― 地理学評論,81(3), 95-120.

田中真奈美 (2008). 海外生活がアイデンティティに与える影響―あるアメリカ在住日本人の経験を通しての考察― 東京未来大学研究紀要, 1, 89-99.

田中真奈美 (2014). アメリカでの長期海外生活者のアイデンティティに対する重要性評価の分析―アイデンティティ・アンケート調査から― 東京未来大学研究紀要, 7, 113-123.

山田晴通 (2011). 米国のポピュラー音楽系博物館等展示施設にみるローカルアイデンティティの表出とその正統性 東京経済大学人文自然科学論集, 130, 155-187.

Brexit 騒動後の日本人移民の新たなポジショニング

―EU 離脱派の親戚を通してみるイデオロギーの中で―

秦かおり (大阪大学)

1. はじめに

本稿は，2016 年 6 月 23 日に行われた EU からの英国脱退，通称 Brexit の是非を問う国民投票とその後の多数の分析報道によって顕在化した移民排斥の動きの中で，自分の夫の親戚ですら移民排除を象徴する「EU 離脱」に投票した事実を知った日本人移民たちが，どのようにその事態を受け止め，インタビューの場で語り，新しい英国社会の秩序の中で自らをどう位置付けて行くかを，談話分析の観点から解明することを目的とする.

具体的なリサーチクエスチョンとしては， 1) 移民がその社会変化に直面したとき，その社会変化や環境との関係をどう表現し，その社会と自らの関係性をどう位置付けたか，2) 語りの場においてどのようなストラテジーが用いられたかに着目し，分析を行った.

また，本研究は単に今回の英国の社会的変動に止まらず，急速な社会的政治的変動によってその地に住まう（特にマイノリティの）人々が迫られる新社会秩序のもとでの新しい社会との交渉とアイデンティティの一例として考察する.

2. データについて

本稿では，2016 年に 31 名，2017 年に 30 名の在英日本人女性に実施したインタビューのうち，「EU 離脱」についての語りと，それに関連する「夫の親戚」についての語りに焦点を当てる．さらにそれらの中で，本稿で用いるデータは，2016 年と 2017 年両方でペアインタビューを受けた以下の協力者の例に的を絞る.

表 1. 協力者の基礎情報

協力者	仕事	夫の国籍	在英歴	子	夫との使用言語	居住地域
K	自営業	EU	17 年	1	英語	ロンドン南東部
Y	専業主婦	英国	5 年	1	英語	ロンドン南東部
調査者	研究者	日本人	(6 年)	2	日本語	(ロンドン南東部)

＊K の夫の国籍は個人情報保護のため，「EU」とのみ記す．なお，調査者は現在日本在住であるが，過去に居住していた在英歴，居住地域を括弧内に記す.

上記の K，Y，調査者間で 2016 年，2017 年に交わされたインタビュー会話をデータとする．K と Y は在英歴が全く異なるが，子どもの年齢が近く，通わせている互助会が同じであることもあり仲が良い．この点において，K と Y の親和性は高く，また調査者ともインタビューを重ねており，すでにラポールは築かれていると言って良いだろう.

今回のインタビューにおいて大きな隔たりとなって現れるのは，K がもともと自ら語学力向上のために渡英し，仕事をし，自力で永住権を獲得して夫と結婚しているのに対し，Y は結婚をして移住しているいわゆる「結婚移民」であり，しかし永住権を獲得するには年数的にも至らない上，そのような気があるかどうかも現時点では特に表明していない点である．さらに，K の夫は EU 移民であり，Y の夫は英国人であるという客観的事実も大きな異なりとして存在する.

分析では，まず国民投票 3 ヶ月後の 2016 年 9 月に収録したデータを分析し，さらにその後 1 年間に経験した出来事を踏まえて 2017 年のインタビュー時にどのように語りの中で自らのアイデンティティが変容したのかを探っていく.

3. 分析と考察

3.1 移民の細分化と差異化―2016 年インタビューより

2016 年のインタビューにおいて最初に顕在化するのは，「結婚移民であること」か「自力で永住権を勝ち取った者」であることかの違いである．この違いは，やがて「努力の違い」となり，「努力せずに英国に入国してくる EU 移民」へとスライドし，さらにその中でも「ベネフィット（日本でいう生活保護のようなもの)」をもらう人」へとシフトして行く.

抜粋1（2016年9月　Yの語り「イギリス人の妻」）
1.　Y:　でもなんかあれが始まる前からどんどん(.)なんか例えば日本人=
2.　　=例えばイギリス人の: >あの< 私は(.)え:と妻なんですけども::
3.　I:　うん

この抜粋1では，Yは一度「日本人」と自分のアイデンティティを生起した後に，今この場において生起すべきアイデンティティとして「イギリス人の妻」と言い直している．これに対し，黙って聞いていたKは以下のような語りを始める．

抜粋2（2016年9月　Kの語り「XX人の妻」）
4.　K:　=° んん::° どうなんだろう[↑ね::
5.　Y:　　[↓ね:
6.　K:　hこれはでも(1.0)確かに私たちはやっぱりわ-わたし::は
7.　　別に >結婚してビザ取ったとかそういうのは全然ない[かく ら::=
8.　I:　　[んん んん
9.　K:　もともとここ::に自分で(.)来て[(.)それで(.)あの::
10.　Y:　　[永住権あるもんね
11.　K:　学生やったり
12.　I:　うん
13.　K:　そいで仕事して
14.　I:　うん
15.　K:　そいで:::::えと仕事同じところで5年間ていうの↑でビザ取って ° とかいって° >でも<
16.　　今までですごいやっぱりビザは厳しい大変だったから お金もすごい費やしたしビザ取るのに↑ね(.)
17.　　そう(.)それが もうなんか た-例えばEUの人は↑ね 簡単に来れて↑ね↓え
18.　Y:　そうね
19.　K:　そうでそういう人がベネフィットもらっている人とかいるわけ[だし
20.　I:　　[° そうね°
21.　K:　なんか(.6)ちょっとやっぱり私としては >今までですごい大変だったしお金も使ってるしそんなんずるいよな<
22.　　っていうのはある(.)けど::

Kは6行目で「私たち」と述べた後に「わたし」と言い直し，「I」の語りを始める．それは「結婚してビザ取ったとかそういうのは全然ない」（7行目）とYとは全く違うことを強調した上で「今までですごい大変だったしお金も使ってる」（21行目）ストーリーである．ところが，比較対象として最初に出して来ていた結婚移民から，17行目でターゲットは「EUの人」に移行し，さらにその中でも「ベネフィットもらっている人」（19行目）に細分化される．そしてそのベクトルの向かう先は「ずるい」（21行目）という評価(evaluation)である．ここで行われている論理は，同じ移民同士でも離脱派の論理と類似している．移民同士で細分化を行い，「ここにいてもよい正当な移民」と「ずるい移民」のベクトルを作り，自らを正当な移民に位置付け(positioning: Bamberg, 2014)，新しい社会秩序の中で居場所を確保しようとする一つの動きであろうと考えられる．しかし，その後22行目で「けど::」の後，残留派の論理への移行が見られる．

抜粋3（2016年9月　Kの語り「移民がいないと成り立たない」）
23.　K:　ちょっとしん-心配は正直あ↑る
24.　I:　あ:::
25.　K:　あの:: やっぱりエコノミー的な問題とかで↑も::そうだ↑し::そいでうち::も: パートナーは(.) ねえ=
26.　I:　=ああうんXX° 人の方ですよね°
27.　K:　でもXX人だけど::彼ももう20年近くいるから だ-別に出されるとかそいう心配はないから
28.　I:　うん
29.　K:　別にそれは::心配は全然してないけど
30.　I:　うん
31.　K:　でもただ >なんか< が生活し辛くするぶぶ-しづ-ん-あ::
32.　　なんだろう(.)不便になる部分は出てくるじゃないかなとは[ん::::
33.　I:　　[ん::::
34.　K:　特にロンドンに住んでると
35.　I:　ん::
36.　K:　やっぱり田舎に住んでる人はイギリス人ばっかりの世界で生活してるだろうし
37.　I:　ん::
38.　K:　ビジネスもイギリス人でなってんからあんま変わんないんだろうけど
39.　I:　ん::
40.　K:　ロンドンは↑ね::
41.　I:　うん

42. K: や-あの:::外人いないと成り立たないと[思うから
43. I: [そうですね
44. K: そうその点でどうなってくるん[だろうっていうのは
45. I: [うん

K の言う，田舎はイギリス人ばかりだが，ロンドンは移民がいないと経済が成り立たないから移民は必要だ，という論理は残留派のもので，「移民はベネフットを使って生活してずるい」という離脱派の論理とはかけ離れている．ここで K の語りには多くの「でも」や言い淀み，EU 移民の妻としての立場が入り混じり，それが意見の変容を生み出すが，紙幅の都合上割愛する．

この 2016 年のインタビューの状況後，では 1 年を経て 2017 年にはどうなったのかを紐解く．

3.2 「移民は移民」－2017 年インタビューより

2016 年には特に出ていなかった国民投票後の義理の親戚の話が，2017 年のインタビューでは繰り返し聞かれるようになった．英国の基本的なライフプランとして，老後は田舎で暮らす，あるいは元々地方出身の子供だけがロンドンに出てくるといったスタイルが多く，そもそも年老いた両親がロンドンで一緒に暮らしているということは調査協力者の場合は皆無であり，国民投票後もおそらく顔をあわせるのはクリスマスなど特別な行事である．1 年巡り，それらの行事が終わった後様々な情報収集や経験を経ての語りとなる．

以下の抜粋 4 は，Y と K が共に自分の義理の親戚が離脱（リーヴ）に投票してショックだった話をしている．

抜粋 4 （2017 年 9 月 Y と K の語り「自分の義理の親戚の話」）
1. Y: あたしはさあほら親戚いるじゃな↑い 田舎のほうに=
2. K: =うん
3. I: んん
4. Y: ん: ていうと(.) <やっぱ>その親戚 Pa-うちの主人のほうの親戚でさえもリーヴの方にヴォートしたから↑ね
5. I: ° あ::そうなん° =
6. Y: で（地名）なんですよ[だからものすごい
7. I: [あ:: あ::
8. Y: Lak-湖水地方のほ↑う
9. I: はいはいはい
10. Y: ° だから° あそこらへんは全部リーヴだったでしょ？=
11. K: £=自分の(.)親戚で(.)んふふ£
12. I: リーヴだった?
13. K: うん うち-=
14. Y: =ショックだったよね[(.)知ってたけ[どね(.)知ってたけど.
15. K: [うち [でも うん
16. I: うん
17. Y: UKIP だったので(.)彼は. 私のおじさん[(.)義理の叔父は.
18. I: [うん
19. I: うん
20. Y: だからもちろんリーヴに投票したわけだけれども
21. I: うん
22. Y: でもやっぱ改めて考えるとちょっと(.)ちょっとショック hh っていうか@@

抜粋 4 では，Y と K はお互いに自分の親戚がいるとして，主に Y が自らの体験を語っており「知ってたけど」(14 行目)，「改めて考えると」「ショック」(22 行目) と述べている．ここでは K も自分の語りを行おうとしており(15 行目)，ターンを取れずに引き下がってはいるが，同様に自分の親戚の話をしようとしている．それに対し，抜粋 5 では，K が主たる語り手となり友人の話をするが，上記の「ショック」の真の正体を暴いていく．

抜粋 5（2017 年 9 月 K の語り「友人の夫の親戚の話」）
23. K: んん でも:: やっぱりそういうのは:: 私も友達:: で::
24. XXXX:人で旦那さんがイギリスじ↑ん
25. I: うん
26. K: でもその XXXX 人っていっても彼女は::: （EU の某国）のパスポート[も持ってる人だから
27. I: [うんうん
28. K: 一応ヨ-あ::の
29. I: EU のね

30. K: そうEUの人で そいで(.)そしたらその旦那のほうの<もう>かぞ↑く:: みんなやっぱリーヴに投票しててぇ::=
(中略)
69. K: でもなんかそしたら(.)<なんか> (1.3)も:::おなんか旦那↑の(.)お母さん(.)異様にか:::っときっちゃった
70. みたいで 私はでもねレイシストじゃないわよみたいな感じで £もうすごいなんか <なっちゃって>£
71. Y: @@@@@
72. K: そんなことは言ってない[みたいな@@@
73. I: [@@@@@@

Kの語りの中の友人の旦那のお母さんは問い詰められたわけでもないのにその雰囲気に飲まれて「私はでもねレイシストじゃないわよ」(70行目)と叫ぶ.「そんなことは言ってない」(72行目)のにヒステリックに「レイシストじゃない」と叫ぶ義母の声は義母の声でもあり移民に直面しながらも離脱に投票した英国人の声である(Bakhtin, 1981). これをもってして, 自分がいくら「正当な移民」であろうとなんであろうと, この国の「差別の対象」なのだと明確になってしまったこと, そしてそれは自分の親戚ですらも変わらないと明示されたことを物語る. この後,「私たち外国人は」と自分を含めて移民を一般化し, こういう話はいっぱいあって潜在化していた気持ちがポンと出ちゃった, と, ジェスチャー行動付きで「ちゃった」の反復でresonance (Du Bois, 2007, 2014)を用いて共鳴しながら笑い合う.

ここで2016年から2017年の変化を考察する. 2016年では移民を細分化し, いい移民と悪い移民を分けて新しい社会変容の中で自らをどこにポジショニングするかを探り, 同じ「日本人」でもそれ以外の属性により新たなアイデンティティを前景化しようとする試みが見受けられた. しかし翌年の2017年, 様々な経験を経て, どのような立ち位置であろうと(その属性がなんであろうと), 大勢側からすれば結局「移民は移民」であるという結論が導き出されていた. そこには急速な変容の中で一通りの経験を経て周囲を見渡し, 客観的に自らに与えられたラベルを受け入れた上で, 全体にナラティブの構造(Labov, 1967)を持たせてそれらを笑い話とし, 連帯や共鳴を使用してその場の参与者がその状況を「同じ被差別者として笑い飛ばす」という状況を作り出していた.

4. 結語

本稿では, 英国のEU離脱を問う国民投票が行われた2016年とその1年後の2017年に, 在英日本人女性に実施したインタビュー調査を元に大きな社会的政治的変動があった社会に身を置くマイノリティである移民がそのアイデンティティの在りようをどのように変化させるのかを観た. その結果, 今回排斥される恐れがある側であった「移民」である彼女らはそのカテゴリーを(今回のケースでは入れ子式に)分割していき,「そこにいても良い正当な移民」から「(合法だろうけれども)ネガティブな評価を受ける移民」までのスケールを用いて, 新しい社会秩序の中で自らを新たにポジショニングしようとする動きがあった. それは結局マジョリティ側に阻まれ「移民は移民」と一緒にされてしまうが, こうした被差別側がカテゴリーを分割していき正当なポジショニングを確保する例は歴史的にも類似例があり興味深い. このようなマクロ的な政治的決断による社会変動が, ごく普通の市井の人々のその社会における存在価値や居場所といった根幹にまで行き渡り揺るがしていく様子は, 今後もミクロ分析を通して注意深く観察していきたい.

謝辞 本研究は, 科学研究費T15K128760の助成を受けて行われた研究成果の一部である.

参考文献(抜粋)

Bakhtin, M. M. (1981). *Dialogic Imagination: Four Essays.* Austin: University of Texas Press.

Du Bois, J. W. (2007). The Stance Triangle. In Robert Englebretson (Ed.) *Stancetaking in Discourse: Subjectivity, Evaluation, Interaction*, 139-182. Amsterdam: John Benjamins.

Du Bois, J. W. (2014). Towards a Dialogic Syntax. *Cognitive Linguistics* 25 (3), 359-410.

Labov, W. & Waletzky, J. (1967). Narrative analysis. In June Helm (Ed.) *Essays on the Verbal and Visual Arts*, 12- 44, Seattle: University of Washington Press.

トランスクリプト記号

[	オーバーラップ	:	長音	£ £	笑いながらの発語
° °	周辺よりも小さい音	(.)	2秒以下の沈黙	__	強調表現
(0.0)	それ以上の沈黙	< >	周辺よりも遅い音	> <	周辺よりも早い音
[(( ))	ジェスチャー	-	言い淀み	↑↓	音の上昇, 下昇
( )	状況説明	=	続けて聞こえる発語		
(地名)	協力者匿名化のため地名を伏せている	XXXX	協力者匿名化のため国名を伏せている		

方言多用地域における理解困難点の整理と，その理解促進を目指した聴解教材の開発

吉里 さち子(熊本大学)　馬場 良二(熊本県立大学)　島本 智美(熊本県立大学)　和田 礼子(鹿児島大学)
大庭 理恵子(熊本県立大学大学院)　田川 恭識(神奈川大学)　大山 浩美(アップル・ジャパン)　嵐 洋子(杏林大学)

1. はじめに

本研究チームは，熊本県熊本市を中心とした方言多用地域において在住外国人を対象とした方言教材の開発を行っており，これまでに入門書[1]，中級者向け教材[2]を製作している．現在，これらの教材をさらに発展させる形で，外国人がいつでもどこでも使用できるスマートフォンやタブレット対応のアプリケーション教材を開発し，外国人に寄り添う学習支援モデルの確立を目指している．

図１　方言教材入門書『話してみらんね さしより！熊本弁』

2. 方言多用地域における地域共通語

方言を多用する地域では，「方言のみ」でなく標準語と方言が混じり合った地域共通語が日常的に用いられている．地域共通語は語彙や表現だけでなく，音声や音韻の面においても，標準語とは異なっている．例えば，熊本県熊本市の地域共通語の音声面には，次のような特徴がある．連母音を含む「ない」が「にゃー」，「太い」が「フテー」，「きつい」が「キチ―」，「買う」が「コウ」となる．また，語末のウ列音は「する」が「スッ」となり，促音化する．このように，同市における地域共通語では，音の長短が変わったり，促音化したりする例が多い．そのため，外国人や当該地域共通語に慣れていない日本語母語話者にとっても，地域共通語の理解や習得はたやすくない．

本研究チームが熊本県熊本市在住の日本語学習者へ行った意識調査においても，全員が「方言は，標準語（教科書のCDやテレビの音声など）の聞き取りより難しい」と回答し，聞き取りの困難さを認識している．

コミュニケーションは，相手が発した言葉の意味を理解して初めて成立する．地域共通語でのコミュニケーションにおいても，聞き取る力を醸成することは地域社会での多文化共生社会実現のための必須要素であると考える．そのため，本研究チームは外国人の地域共通語理解のための聴解教材の開発に着手した．

図２　中級者向け教材「調べてみらんね　なんさん！熊本弁」

3. 方言聴取における理解困難点について

聴解教材は，外国人にとって聞き取りが困難であると考えられる音声，待遇表現，文法，語彙をとりあげた．

音声面では，前述のとおり，「する」が「スッ」，「これが」が「コッガ」となる等，促音が多く表れる傾向にあり，もとの表現であれば理解できたはずの発話が促音化することによって，内容の理解に支障をきたしてしまうことが考えられる．

待遇表現としては，主に敬語の発達が挙げられる．尊敬語には，（先生が）「おっしやった→イイナハッタ」「めしあがった→タベナハッタ」のような方言形式がある．動詞語幹に「-a す/らす」がついた「言う→言ワス」「食べる→食ベラス」は第三者の動作を描写する際に用いられ，敬意はあまり含まれていない．このように非常に複雑な構造をもつため，聞き取って，誰について話しているのかを理解することはかなり困難であると考えられる．しかし

1 http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~iimulab/dialect/sasiyori/
2 http://cl.naist.jp/~hiromi-o/cgi-bin/tag_extract_cgi_text3.py

ながら，日本人配偶者とその家族，あるいは，職場の人間が地域共通語話者である場合，このスキルがなければ日常生活や社会活動において，必要な情報が得られない事態に陥る可能性がある．

文法面では，特に終助詞やモダリティを中心とした文末に方言形式が多用される．終助詞には，ト，ド，タイ，ケン，バイ，ネ等，様々なものがあるが，それらが音調的特徴を伴ってどのように使用され，どのような発話意図を伝えているのかについて理解を確認する必要がある．

語彙面では，名詞の語彙はごく少数であるが，「とても→タイギャ」「全然→イッチョン」等，程度や評価を表す副詞は頻繁に使用されるため，理解できるようになることが重要である．

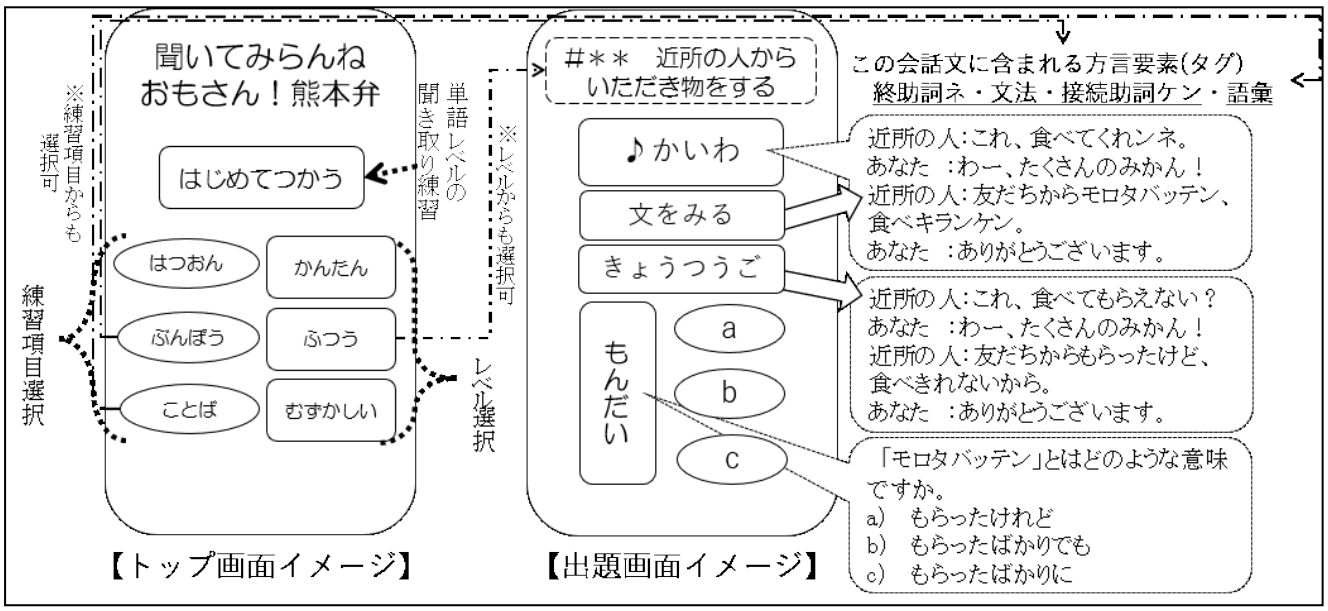


図３　聴解教材アプリイメージ図

4. 聴解教材作成における注意点

聴解問題の作成にあたり，まず，日本人配偶者として生活している外国人女性が母，妻，嫁として，家族以外の人間から地域共通語で話しかけられたという場面を想定した．外国人女性が応答を必要とする場合は，方言や地域共通語ではなく標準語を使用し，地域共通語での発話を強要しないよう注意を払った．そのため，録音の音声も中心人物となる外国人女性は標準語話者，話しかける人物は熊本県熊本市の地域共通語話者がそれぞれ担当している．

5. 聴解教材の全体像

聴解問題全体は，単語や短文の聞き取りのみの問題で音声的特徴についての知識を得てから，文法や語彙，待遇表現を織り交ぜながら，難易度を上げていく構造となっている．将来的には，聴解問題の会話場面を増やすと同時に，学習者が主体的に練習したい要素や表現，場面を選択するモジュール型の聴解問題アプリケーションとして提供することを目指している．

本研究は以下の成果の一部である．
平成 27 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(一般)）研究課題　平成 27 年度―平成 30 年度「地域語によるコミュニケーションを支援する聞き取り学習システムの開発と方法論の構築」課題番号：15H03218〔研究代表者：馬場良二〕

参考文献

秋山正次（1983）．熊本県の方言　講座方言学 9 ―九州地方の方言― 国書刊行会 pp. 207-223
大場理恵子（2016）．現代熊本市方言の発音について　第 264 回筑紫日本語研究会
吉里さち子他（2016）．熊本市における在住外国人の方言使用の実態―方言聞き取り教材作成に向けて―2016 日本語教育学会第 1 回地区研究集会予稿集 pp. 34-35

「文系学部廃止論争」とはなんだったのか？

—批判的談話研究を用いた分析—

青山俊之（筑波大学大学院生）

1. はじめに

本研究は，空間・時間の隔たりがある中で紡がれ，論争を生み出したテクスト／ディスコースとしての「文系学部廃止論争」で何が語られ，何が語られなかったのかを明らかにするため，批判的談話研究(Critical Discourse Studies：以下，CDS)の手法を用いた分析を行う．「文系学部廃止論争」とは，2015 年 6 月 8 日に国立大学法人に対する『国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（通知)』(以下,『通知』)に記載された以下の文言をきっかけに起こった論争である．

> *特に教員養成系学部・大学院，人文社会科学系学部・大学院については，１８歳人口の減少や人材需要，教育研究水準の確保，国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し，組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めることとする．*
>
> *『通知』（１）「ミッションの再定義を踏まえた組織の見直し」』P3*

本研究の対象としては,「文系学部廃止」が問われた,以下の 3 つのコミュニケーション的出来事[Fairclough, 1995]を取り上げる．一つ目は上記の『通知』であり，二つ目は日本学術会議による 2015 年 7 月 23 日の『これからの大学のあり方—特に教員養成・人文社会科学系のあり方—に関する議論に寄せて』(以下,『声明』)，三つ目は，文部科学省高等教育局による 2015 年 9 月 18 日の『新時代を見据えた国立大学改革』(以下,『応答』)である．本研究における「文系学部廃止論争」とは，文部科学省による『通知』から『応答』に至るまでの一連の論争を指すこととする．

本研究では，文部科学省と日本学術会議のコミュニケーション的出来事を取り上げ，時空間の異なる中でのコミュニケーションの差異や対話性を浮き彫りにする．それにより，大学改革が進む背景にある，マクロな概念として語られる新自由主義ディスコースがミクロに紡がれているテクストを媒介して構築されていることを明らかにする．大学改革における新自由主義ディスコースを批判的に分析することで，今後のより良い大学改革論議に寄与することを目指す．

2. 批判的談話研究

2.1 批判的談話研究とはなにか

CDS は「言語の中に現れた支配，差別，権力，そして目に見えるだけでなく，不透明な構造上の関係性を分析することに大きく関わる研究」と定義されている[ウォダック＆マイヤー，2010]．CDS は批判理論を基礎におきつつ，テクストに見え隠れしている権力や価値観を浮き彫りにし，テクストだけに拘泥した分析を行うのではなく，社会文化的背景を含めたテクストの生産と消費のプロセスを読み解き，社会変革を志向する．本研究では，CDS の主要な論者の一人である Norman Fairclough の弁証法的アプローチを用いた分析を行う．

2.2　メディアディスコースの分析法―ディスコースの秩序とコミュニケーション的出来事／連鎖

Norman Fairclough は，社会的出来事，社会的実践，社会構造ならびに，ジャンル，ディスコース群，スタイルの弁証法的関係によって構成されるディスコースの秩序の分析を中心に行う[1]．Fairclough(1995)は，メディアディスコースを分析するに当たって，ディスコースの秩序とコミュニケーション的出来事の二つの相補的な観点を取っている[柳田：2014].

フェアクラフ(2012)によると，テクストによって表象され，活性化した要素として節合される契機は，ディスコースの秩序を成す，ジャンル(行為)，ディスコース群(表象)，スタイル(存在：アイデンティフィケーション)という 3 つの仕方で現れる．フェアクラフ(2012)の弁証法的アプローチは，言語(社会構造)と社会的出来事(テクスト)とそれらを媒介する中間的な実体として存在する社会的実践(ジャンル，ディスコース群，スタイル)を構築するディスコースの秩序の弁証法的な関係を分析することを可能にする．

一方，コミュニケーション的出来事とは，テクスト，ディスコース実践，社会文化的実践の 3 つの位相からなる枠組みのことである[2][Fairclough，1995]．テクスト(音声・書記言語，ビジュアル)は，社会文化的コンテクストを参照しなければ，単なる記号的要素でしかない．コンテクストに影響を受ける発信者(テクストを生産する主体)によってメッセージは送られ，受信者(テクストを解釈する主体)が重層的に存在し，テクストの意味は捉えることができ，同時にまたコンテクストが再生成される．

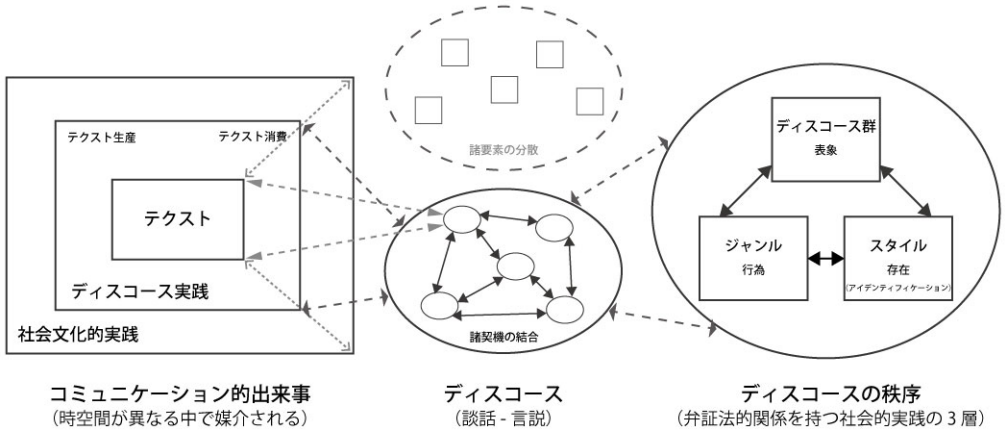


図 1　Norman Fairclough における CDS の弁証法的アプローチ

（Fairclough(1995)，フェアクラフ(2012)，中西(2008)，ラクラウ＆ムフ(2000)を参考に筆者作成）

3. 分析

本稿では，『通知』『声明』『応答』の 3 つのコミュニケーション的出来事連鎖[Fairclough，1995]がなされる中で，文部科学省が新自由主義的なディスコースの秩序を形成し，日本学術会議がどのように対抗したのかに着目した分析を行う[3]．表 1 は分析結果をまとめたものである．詳細な分析内容を以降に示す．

---

[1] フェアクラフ(2012)は，社会構造(例：言語)は非常に抽象的な実態であり，一方，社会的出来事(例：テクスト)は社会構造に影響を受けながらも実際に起きることとしているが，「構造と出来事のあいだに，中間的な組織的実体がある」とし，それを社会的実践と呼んでいる．いかなる社会的実践も，社会的要素の「節合」として捉える Fairclough の理論は，ラクラウ＆ムフ(2000：169-170)の”moment(節合)”と”articulation(契機)”に寄っている．要素がただ単に分散した状態ではディスコースの空間が構築されていないが，要素が契機として活性的に結びついていることを節合的実践と呼び，これを言説(ディスコース)と呼ぶことで Fairclough が示す”discourse as social practice”の意味が理解される[中西，2008：36].

[2] 社会文化的実践とは，テクストを生産したり消費したりするために必要な社会的な条件のことを指す．

[3] 時空間の異なる中で紡がれるコミュニケーション的出来事連鎖は，ディスコース実践を媒介に，コミュニケーション的出来事としてそれぞれ表象される際の再コンテクスト化と間テクスト性に注目した分析をすることができる．フェアクラフ（2012：49）は再コンテクスト

		文部科学省		日本学術会議
ディスコース	ジャンル	『通知』	『応答』	声明ジャンル
		行政文書ジャンル	応答ジャンル	
	スタイル	管理者スタイル		代表者スタイル
ディスコース		新自由主義ディスコース		対抗／対話ディスコース
ストラテジー		正当化ストラテジー		交渉ストラテジー

表１　文部科学省と日本学術会議におけるディスコースの秩序の比較分析結果

3.1 文部科学省による『通知』

『通知』では行政府として政策を遂行する＜管理者スタイル＞を表象し，種々の要請を初めとした義務モダリティが強調されていた．国立大学に対し，「各大学の強み・特色・社会的役割を踏まえた速やかな組織改革に努める」(以下，下線部(__)は各資料からの文言の引用)ことを要請し，通知における前提には差異を縮小する定言的な言明が見られ，対話性が低く，引用といった間テクスト性も見られないことが読み取れた[4]．

3.2 日本学術会議による『声明』

一方，『声明』では，日本学術会議の構成員が日本の研究者を代表とする社会的立ち位置にいることから「管理者」との対話を構築しようとする＜声明ジャンル＞を用いて，＜代表者スタイル＞を表象していた．声明では，2015 年 2 月に出された「第５期科学技術基本計画のあり方に関する提言」を引用し，自然科学と人文社会科学との関係性を再コンテクスト化させ，対話性を強調している[フェアクラフ，2012：66]．また文部科学省が前景化させている「社会的要請」に対し，その重要性を「強く認識すべき」と述べながらも，「しかし，「社会的要請」とは何であり，それにいかに応えるべきかについては，人文・社会科学と自然科学とを問わず，一義的な答えを性急に求めることは適切ではない」とし，通知で述べられた「社会的要請」を見直す問題提起がなされていた．「(自然) 科学者」「文系／理系の学生」「大学教員」といった，多様な主体者を取り上げ，人文社会科学と自然科学との対比を用いつつ，引用等でテクスト間の差異を縮小すること，熟議の必要性と改善の姿勢を表象するという意味では対抗／対話ディスコースを構築していたと分析できる．

3.3 文部科学省高等教育局による『応答』

＜声明＞を受けての文部科学省高等教育局による『応答』では，「すぐに役立つ実学のみを重視していたりはしない」と述べながらも，「国立大学には社会の変化に柔軟に対応する自己変革が必要」と「課題-解決」を強調していた．文部科学省は実質的に各国立大学法人の財源を管理する主体であり，人文社会科学系の役割を部分的にせよ重要としつつも，権力を用いた立場から改廃を迫っているのである．国立大学の課題を強調する一方，学術研究の推進という大学の社会的役割を捨象し，「ステークホルダーは国民全体」とすることで，文部科学省の主張を正当化するためのストラテジーとして「国民」「社会」という曖昧模糊な表象を利用していた．

化を「一つの社会的実践の要素を、別の社会的実践のなかにおくこと」であるとし，媒介される中でテクストの変容を伴い，それらの再生産には個々のテクストを形作る主体者の政治的利害／関心が関係している．柳田（2014）は，CDS 論者の van Leeuowen（2009）が援用した Bernstein の教育知識を伝達するにあたっての再コンテクスト化概念と Hodge が注目した他者のことばを伝達する際の利害関係に着目していたことを取り上げ，前者の再コンテクスト化の定義を援用しつつ，後者のディスコース実践における間テクスト性への知見も参照した分析を行っている．これは，CDS が権力への分析に拘泥し，オーディエンスの受容と生産への分析に焦点をおいてこなかったことに対する批判的意識から行われた．本稿でも，部分的にではあるものの，日本学術会議を一つのオーディエンス主体として取り上げ，コミュニケーション的出来事連鎖の変遷の中で取捨選択された差異に焦点を当てている．

[4] フェアクラフ(2012：71)は＜行政文書ジャンル＞の特徴として，「さまざまな声の間テクスト化が見られないテクストへと至る過程」が表象されると指摘する．

4. 結論—文系学部廃止論争とはなんだったのか

文部科学省は『通知』と『応答』に表象される＜管理者スタイル＞および＜行政文書ジャンル＞から，新自由主義ディスコースによる正当化ストラテジーを行使していた．一方，日本学術会議は『声明』に表象される＜代表者スタイル＞および＜声明ジャンル＞から，さまざまな主体者を取り上げることで間テクスト性を浮き上がらせ，文部科学省に対する対抗／対話ディスコースによって交渉ストラテジーを用いているのである．

本研究では，3 つのコミュニケーション的出来事連鎖を通じて，文部科学省と日本学術会議がコミュニケーションを行う上での対話性の違いが浮き彫りになった．文部科学省も日本学術会議も，社会的変化を捉え，大学改革の必要性を認識しつつも，大学改革において何を「価値」とするかが異なっていたのである．価値の差異が，それぞれのディスコース群の表象における前提として見え隠れする．つまり，「文系学部廃止論争」が巻き起こったのは，利害／関心に基づいたコミュニケーションにおける対話性の高低が要因であった．

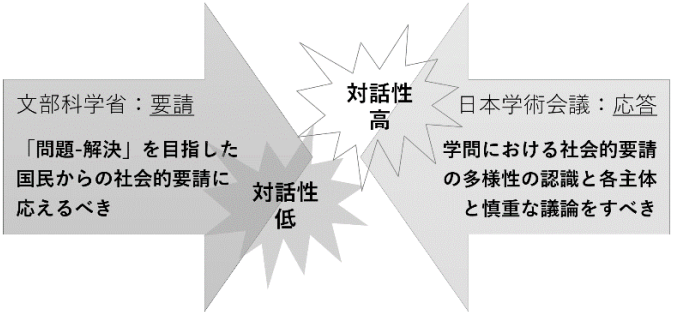


図 2　文部科学省と日本学術会議における「価値」の前提と対話性の対比

ソーシャルメディアが登場し，コミュニケーション的出来事をめぐり，時空間が異なる多様で重層的な発-受信の中で，さまざまなレベルでの利害／関心を基点に対話／対立が起こっている．今後，より理論・方法論を精緻化し，ミクロな相互行為からマクロなディスコースをめぐるコミュニケーションを分析する可能性を追求する必要があるだろう．

参考文献

Fairclough, N. (1995). *Media discourse.* London, New York: Edward Arnold.

フェアクラフ，ノーマン (2012)．ディスコースを分析する 社会研究のためのテクスト分析．日本メディア英語学会メディア英語談話分析研究分科会，くろしお出版社.

中西満貴典 (2008). ディスコース概念の再考 ：Van Dijk 及び Fairclough の言説概念の検討. 岐阜市立女子短期大学研究紀要 57, 29-39, 2007

ラクラウ＆ムフ (2000). ポスト・マルクス主義と政治：根源的民主主義のために 山崎カヲル，石澤武訳，復刻新板，大村書店

ウォダック，ルート＆マイヤー，ミヒャエル (2010) 批判的談話分析入門．三元社
Wodak, R. & Meyer, M. (eds.)(2001) *Methods of Critical Discourse Analysis*. London: SAGE Publication

van Leeuwen, T. (2009). *Discourse as Recontextualization of Social Practice.*
Wodak, R. and Meyer, M. (eds.)(2009) *Methods of Critical Discourse Analysis. (2nd edition)* London: SAGE Publication.

柳田亮吾(2014). ポライトネスの政治／政治のポライトネス—談話的アプローチからみた利害／関心の批判的分析—. 博士論文，大阪大学

吉見俊哉(2016).「文系学部廃止」の衝撃．集英社.

「収録するという活動」と「収録対象活動」の関係
ー収録終了の際に打たれるカチンコに注目してー

居關友里子（国立国語研究所）

1. はじめに

私たちが日常生活の中で行っている言語使用や身体的振る舞いなどを明らかにするために用いるデータの一つに，その音声や映像を収録したデータが挙げられる．このデータを得る方法には，協力者に特定の振る舞いを指示し収録する方法や，協力者の普段の生活の一部分に収録機材を入れさせてもらいそれを収録する方法があり得る．前者においては，そこで何らかの振る舞いを行うこととそれを収録することが実験という一つの活動に組み込まれている．では後者の場合はどうだろうか．本研究ではここに「収録対象となっている活動（以下「収録対象活動」）」とその「データを収録する活動（以下「収録活動」）」という二つの活動が生じていると捉え，二つの活動の性質および互いにどのような関係を成しているのかについて考察を試みる．注目するのは収録終了の合図「カチンコ（後述）」周辺における参与者の振る舞いである．

2. 研究の背景

収録されたデータで行われていることを収録対象活動のみではなく収録活動の側面からも捉えるという観点が取り上げられる一例として，データ内における参与者の振る舞いの自然さについて考慮する場合が挙げられる．収録が収録される者たちにどのように意識されるのかは，分析でのデータの扱い方を検討するに際し重要な要因である．また別の関心として，同時に生じている二つ以上の活動をやりくりする相互行為的振る舞いそれ自体に関心を寄せた研究も近年盛んになされている（Mondada, 2011 ほか）．ここではそれらの活動に向けられる注意を都度適切に配分し活動を進行させていくやり方について明らかにされてきている．収録対象活動と収録活動という二つの活動が同時並行的に行われているという点からは，収録されたデータに納められているのもこのようなマルチアクティビティ状況の一つに位置づけることができると考えられる．以下では扱うデータについて簡単に説明し（3 節），収録対象活動と収録活動の進行がどのようにやりくりされているのか事例を用いて示し（4 節），その他データ全般の観察から得られた情報を加えながら考察を行う（5 節）．

3. データ

扱ったデータは国立国語研究所で現在構築中である『日本語日常会話コーパス』のデータ収録に際し得られたものである[1]．協力者が日常で行っている会話場面に録音機材を持ち込み，設置や操作，参与者への説明など一連の手続きを会話に参与する一人である協力者[2]が自ら行う．以下で取り上げるのは協力者 8 名（30, 40, 50, 60 代男女各 1 名）によって収録された計 77 回分の収録データの，収録終了前後のやり取りから抜き出したものである．収録終了を見出すに際し参考にしたのが，協力者が収録の開始と終了の際にカメラに映るよう手を叩く動作である．以下「カチンコ」と呼ぶ．この際に生じる音と映像は，収録された複数メディアの時間情報を揃えるために用いられる．カチンコを会話の開始と終了で行うことはコーパス制作者側が要請し，その具体的なタイミングは協力者が決定している[3]．

4. 観察

4.1. 収録対象活動の進行に対する干渉を避けたカチンコ

まず一例を取り上げ，収録活動に関わる振る舞いであるカチンコがどのようになされているのか見てみたい．抜粋 1 は協力者 I が診療を受けるために N のもとを訪れ診療後に雑談している場面の収録終盤である．

【抜粋 1】T004_006　協力者:I
01　I:　　ぶちぶちぶちぶち°〈こぼす〉わけ:.°=
02　N:　　=ん:h hh
03　　(0.4)

---

1 分析対象の一部にはコーパス格納対象外のものも含む．

2 以下ではコーパス製作者から依頼を受け収録を任されている者を「協力者」，それ以外のデータに映っている者たちを収録への「参与者」と区別しておく．

3 一回の収録時間の上限は一時間程度とされており協力者はこれを一つの目安として参照することもできるが，より短い・長い収録も存在している．

04 N: 難しいね.=ちょうどいいっ[つうのがなかなか:諦] めがなかなか[>つかないく<hh]
05 I: [° 難 し :. °] [つ か な: い]=
06 I: =タ:イプ[::+ほんっと]にね[: 嫌 ん]なっちゃう.
07 N: [hh .hh .hh] [¥う:ん.¥]
I +掛け時計に視線──────────>
08 (0.4)*(1.2)*(0.6)
N *時計に視線*
09 I: [° あ も* う °]
10 N: [う : : ん.]
I >──────*中空(カメラ?)に視線──>
11 (0.6)
12 I: 大丈夫です三十分.
13 N: は:い.
14 I:▶ ((カチンコ))
15 I: あ*りがとうございま↑す[した.]
I >─*
16 N: [い い]え.
17 ((承諾書等の記入に関するやり取り))

Ｉは抜粋以前から自身の親族に関する困り事について語っていた．Ｉが発話のテンポを落としながら顛末を語り終えた(L01)のを聞いたＮは，Ｉが語った問題について「難しい」と評価し語りから得られた（Ｉの親族の）心情を「諦めがつかない」ものとして理解したことを示す（L04)．この評価と理解の表示は，Ｉによるキーワードとなる言葉の繰り返しやユニゾン（L05）によって強く同意されている．Ｉはユニゾンの部分を連体節として取り込む形で順番を継続し，問題に対する心情「嫌になる」によって語りの性格を念押ししまとめている（L06）Ｉこのまとめを発話する最中，Ｉは背後の壁に掛けられた時計に視線を移動させそれをしばらく見つめ，それを追ってＮも時計に視線をやる．長めの沈黙の後，Ｉは発話を開始しながら視線を時計から離し（L09)，必要に足る収録が行われたことを宣言しカチンコを打つ．

ここでは収録対象活動で行われていた語りが十分理解し合われたことを示しながらまとめ，その終局に重ね合わせながら時計に視線を向けることで収録対象活動と収録活動の両者に対する志向を分散させ(Depperman et al, 2010)，収録活動へ志向を移行させている.Ｎは新しい発話を開始するのではなく受け入れの反応によってＩの出方を待つことで(L10)，Ｉの先導に沿って収録の終了を受け入れている．

抜粋１ではこのように収録対象活動から収録活動に注意を移行させることによって生み出された空間で，余裕を持ってカチンコが打たれている．時計を見ることのほかにしばしば観察されたのは，収録機材（カメラ）の覗き込みである．いずれもモノそれ自体だけではなくそれが関わる活動への注意が喚起され，活動移行の機会を生んでいる(Sutinen, 2014)．

カチンコを打つタイミングとして選ばれている箇所として，抜粋１のほかには次のようなものが観察された．一つは収録対象活動の終了と同じ箇所（事例２）である．事例２は組み立て式の棚の完成に合わせて，カチンコが打たれている。

【事例２】T001_002　協力者:A
01 Y: [まあいいんじゃない?((棚を叩いて安定を確かめる))
02 A: [はい.
03 A: はい.[h::::::じゃあお疲れさまで[した.
04 Y: [うん. [はい.
05 A:▶ ((カチンコ))

【事例３】T002_020　協力者:N
01 M: ((自身が点てたお茶をＮに渡しＮが撮影する))((Ｎから返却された茶碗をＧの前にある布の上に丁寧に置く))
M,G >茶碗に視線─>>
02 G: は::ありがとうございま:す.いただきま:す.わ:い.や(.)もう別にねえh[h [h]h
03 N:▶ [*((カチンコ))*]
N *M,Gに視線──────* 機材の操作─>>
04 M: [↑h h h]h h h h
05 G: まほんとはこうなんか(.)やるらしいんですけど[:.((布を茶碗にあてたまま持ち上げるながら))
06 M: [あそうなんですか.

抜粋 3 は三名で茶会を楽しんでいる場面である。抜粋 1，2 は進行中の収録対象活動の切れ目でカチンコが打たれているのに対し，ここでのカチンコは参与者の笑いと重なって行われている。ここでは M の点てたお茶が G に供されており，二人の注意は G の目の前に置かれた茶碗に継続して向けられている。G が M に向けて挨拶し解説を始めたところで，協力者 N は M の反応をうかがうように視線を向けながらカチンコを打つ． G と M は視線をお茶に向けたまま，お茶に関するやり取りを継続している。ここでのカチンコは収録対象活動で進行中の行為を遮るタイミングでなされてはいるものの，その妨げにはなっていない．お茶を点てた者，それを供される者との間に相互行為の焦点が生じ始めたときに，そこから抜け出ることができることを利用してカチンコが打たれているといえる．

抜粋 1-3 はそれぞれ異なる位置ではあるが，いずれも収録対象活動の進行に干渉しないようカチンコがなされているという点で共通しており今回観察したデータの多くにこのような志向が見出される．

4.2.　収録対象活動を差し止めてなされるカチンコ

一方で，収録活動が優先され収録対象活動がこれに行為の進行を譲る例も観察された．これは収録対象活動に対して収録活動をやりくりすることが困難な状況に生じている．

【抜粋 4】T001_019　協力者:A

```
01  M:    だか-今治タオルみたいに，そうやって.hh あ h これは価値があるってあたしは(.)思うのやっぱり.=
02  A:    =なんで思うんですか?
03  M:    や(h)っぱりタ[オ- (0.4)ぜんぜん違]う.触[り心地が.]
04  C:                 [    ((アラーム))    ]
05  A:                                        [あ:あ:終]わっちゃった.
06        (0.2)
07  M:    [うん.
08  C:    [((アラーム))
09  A:▶   ((カチンコ))
10  A:    °は::°
11  M:    ↑は::い.
12  A:    はい.
13  M:    *うん.
    M     *Aに視線—>
14        (2.8)
15  A:    さわり心地が違*[う.
16  M:                   [う:ん.で[.hh>例えば<その土もいい物(.)いい-土壌がいいんだろうけれ[ど，((以降継続))
17  A:                          [うん.                                                  [°う:ん.°
    M     >——————————*
```

抜粋 4 は収録機材（ビデオカメラ）の充電切れを示すアラームに先導されてカチンコがなされている例である．協力者 A と妻（抜粋中に発話なし），妻の母 M が三名で飲食しながら団欒する様子を収めたデータである．抜粋以前では A と M の二人が「本当に質の良いものの価値が消費者にどの程度理解されるのか」について意見を交わしており，01 行目で M は価値を理解できるものの例(今治タオル)を提示し始める．A はその理由について説明を追求し(L02)，M がこれに答えようとしたとき唐突にアラームが鳴る（L03）．M はアラームが聞こえた直後に一旦発話を止め，要点を切り詰めた形に発話の軌道を変えて順番を完結させる．A が仕掛けた追求に M が答えたとき適切になるのは A がそれに対する反応を示すことであるが，しかしここで A はアラームに対する反応を示し（L05）M への反応は一切示さない．議論を差し止めることで生じたこのスペースでなされたカチンコひいては収録活動に生じた区切りは，11 行目の高いピッチ，平板調で産出された「↑は::い」という発話によって M に承認されている(青柳，2001)．

この状況では収録活動が収録対象活動に優先して対処されているが，カチンコ以降で収録対象活動を引き戻す振る舞いが見られる．M による低いピッチでなされた「うん．(L13)」は 11 行目の明るい調子とは対比的であり，7 行目でなされた順番終了をマークする発話を繰り返すものとして聞かれ，また A の反応を待つように視線を向けている．そして A による 03 行目の発話の要点の繰り返し（「触り心地が違う．(L15)」）は 03 行目の発話への反応として聞かれ，03 行目以降で M が行おうとしていた発言を 15 行目の次の位置で行うことを適切にする．実際に M は 16 行目以降で自身の主張を述べる発話を再開する．ここでは一旦収録対象活動の流れが差し止められ収録活動が優先的に対処されるものの，収録対象活動の続きを促す，それに応じて再開するという振る舞いによって，収録活動は収録対象活動の間に挟まれたものとして扱わ

れている.

5. 考察

4.2節で見たのは 4.1節で見た例と異なり，協力者・参与者たちの関係性のもとに普段から行われていた収録対象活動の構造を損ねる形でカチンコがなされた例である.その一方で収録活動が挟まれたものとして扱われるやり取りが生じている抜粋4は収録対象活動の日常性を捉えたデータのようにも見える．4.1節で取り上げたような収録対象活動に干渉しないようカチンコがなされる事例ではカチンコの直前に「一回止めます」「一旦切るね」など，収録活動が挟まれたものでありその後収録対象活動（であったもの）が継続することを示す表現が異なる協力者から頻繁に観察される．収録活動を収録対象活動に挟まれたものとし，収録終了後再び収録対象活動に回帰することは，この場の基盤を成しているのが収録対象活動であり，またこれが収録活動とは独立の動機に基づいて行われていたことを遡及的に示すことになり得るだろう．これは4.1節で見た収録対象活動の進行を極力損ねないようにカチンコを打つ振る舞いと整合的であると考えられる。

収録活動は一度開始してしまえばそれ以降は特別な注意を割かずとも進行させることが可能であり，収録中は副次的関与（Goffman,1963）で十分である．もっといえば特別な注意を割かないことが求められているということができるかもしれない（収録の際依頼者がよく行う教示に「普段どおり話してほしい」というものがある）．今回扱ったデータのカチンコ以降には「自身の振る舞いについて振り返り，問題がなかったことを確認する」ことであったり「収録中に話すことができなかった話題について言及する」などといった行為が観察された.これらは収録活動に主要関与を向けることを控え，収録終了まで前景化させるのを待っていたことを示す振る舞いであると考えられ，ここには収録活動に副次的関与をあてがおうとする協力者・参与者の志向が伺われる．そして収録対象活動に主要関与を配分することは，収録活動を副次的関与として維持する一般的なやり方であると考えられ，収録活動は収録対象活動に寄生することによって適切に社会的に求められる関与を成り立たせていると位置づけることができるのではないだろうか．収録活動は「支配的関与」と「副次的関与」という関与の配分の特徴を持つ活動であると考えられる.

6. おわりに

本研究では収録データで行われていることを収録対象活動と収録活動の二つに分けて捉え，両活動の性質と関係性について考察を行った．最後に，はじめに見た抜粋１を振り返ってみたい．ここでは時計に対し注意が向けられることで，収録対象活動を妨げずにカチンコを打つことが可能となる機会が余裕を持たされてつくられていた.この時計を見るという行為を一定時間続けることで収録活動への主要関与が強く示され続けることは，本来主要関与を向けられるべきである収録対象活動の性質を変更させてしまい得る．その結果収録活動の要請に沿って収録対象活動が行われている，会話が引き伸ばされているといった理解が生じ得，抜粋１はそのような可能性と隣り合っているようにも観察される．今回見てきたカチンコは収録対象活動を損ねないように，しかし収録活動に注意を向け過ぎずに行われることが求められる，単純なようで実は難しい注意の配分を求められる行為であると考えられる.

謝辞　本研究は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」の研究成果を報告したものである.

参考文献

青柳にし紀（2001）．「はい」と「ええ」の意味・機能―音声、イントネーションの視点から―．信州大学留学生センター紀要(2)，信州大学留学生センター．pp. 23-34.

Deppermann, A. , Schmitt, R.& Mondada, L. (2010). Agenda and emergence: Contingent and planned activities in a meeting. *Journal of Pragmatics.* (42)6, pp. 1700-1718.

Goffman, E. (1963). *Behavior in public places*. New York: Free Press of Glencoe.(丸木恵祐・本名信行訳（1980）．集まりの構造：新しい日常行動論を求めて．誠信書房.)

Mondada, L. (2011). The organization of concurrent courses of action in surgical demonstrations. In Streeck, J., Goodwin, C. & LeBaron, C.(Eds.). *Embodied interaction language and body in the material world.* Cambridge: Cambridge University Press, pp.207-226.

Sutinen, M.(2014). Negotiating favourable conditions for resuming suspended activities. In Haddington, P., Keisanen, T., Mondada, L. & Nevile, M. (Eds.). *Multiactivity in social interaction: Beyond multitasking.* Amsterdam/Philadelphia: John Benjamin, pp.137-165.

会話データ分析の教育者・研究者による語りから広げる研究と実践の視野
ーグループ・ディスカッションを通してー

企画責任者：中井陽子(東京外国語大学)
話題提供者：寅丸真澄(早稲田大学)　大場美和子(昭和女子大学)

1. ワークショップ趣旨説明（中井）

我々が自身の研究をどのように発展させ，研究成果を社会に貢献させていくかといった「研究と実践の連携」のあり方を考えていくことが今後の社会に求められる（中井 2012）．「研究と実践の連携」のあり方を考える際，これまで研究に多大な功績を残しつつ，実際に「研究と実践の連携」を行い，社会的貢献をしてきた先達の軌跡を知ることで自身が今後進むべきヒントが得られることがある．

そこで，本ワークショップでは，まず，会話データ分析の研究成果を社会的貢献につなげてきた教育者・研究者の功績を例として取り上げ，その「研究と実践の連携」の語りを紹介する．それを踏まえ，フロア参加者がグループになり，今後の自身の研究や実践で参考にしたい点などについてディスカッションを行い，フロア参加者の視野の広がりを試みる．

さらに，同語りをまとめた教材を学部生が読み，どのようなことを学び，視野を広げていたか報告し，フロア参加者のさらなる視野の広がりをねらう．また，学部の授業でこうした語りを扱う効果についても議論する．

最後に，同語りから得られた会話データ分析の活用例について，「会話データ分析とその研究成果の活用」モデル（中井他 2017）に沿って紹介する．これをもとに，再度，グループ・ディスカッションを行い，フロア参加者自身の研究と実践の位置づけを問い直し，さらなる視野の広がりを目指す．

本ワークショップの構成と内容は，以下の通りである．

1. ワークショップ趣旨説明	5 分	中井
2. 会話データ分析の「研究と実践の連携」に関する語りの収集方法	5 分	寅丸
3. 会話データ分析の「研究と実践の連携」に関する語りの紹介		
3.1 日本人女性 JF 氏の語りの報告	10 分	寅丸
3.2 韓国人女性 KF 氏の語りの報告	10 分	大場
3.3 日本人男性 JM 氏の語りの報告	10 分	中井
3.4 フロア参加者のグループ・ディスカッション&全体討論	60 分	
4. 学部生の学びの分析	10 分	中井
5.「会話データ分析とその研究成果の活用」モデル	5 分	大場
概要説明&フロア参加者のグループ・ディスカッション	20 分	
6. 全体討論・まとめ	15 分	中井

以上により，本ワークショップでは，フロア参加者がこれまでの先達の研究とその成果の活用の功績を知り，さらに学部生といった若手の視点にも触れ，それらと自身の研究と実践を照らし合わせる．そして，理論研究や実践研究などを行う様々な分野のフロア参加者がグループ・ディスカッションを通して，互いの共通点・相違点を議論することで，個人レベルでは気付きにくい，俯瞰的な観点から自身の研究と実践の立ち位置を考える場を提供する．こうした参加型のワークショップにより，今後の研究と実践のつながりについて，世代間，分野間といった縦と横へ視野が広がり，今後の活動の可能性を広げられることを目指す．

2. 会話データ分析の「研究と実践の連携」に関する語りの収集方法（寅丸）

会話データ分析の「研究と実践の連携」に関する語りは，2012 年から 2015 年にかけて，日本，米国，豪州，韓国などの国内外で長年会話データ分析を行ってきた教育者・研究者 12 名を対象にインタビューの形式によって収集した．語りの収集目的は，会話データ分析とその研究成果の活用方法の具体例を得て，その「研究と実践の連携」について，様々な

分野の教育者・研究者と共有・議論することであった.

インタビューは，それぞれ 2 時間程度行った．また，インタビューでは，対象者の研究と実践のこれまでの軌跡，および，どのような研究を行い，それらをどのように実践に役立ててきたのかという「研究と実践の連携」の具体的なありようを語ってもらった．そして，インタビューでの語りはすべて録音・文字化し，語りの流れや内容を整えた後，インタビューでの対話の形式で中井他（2017）にまとめた．本ワークショップでは，このようにして収集された語りの中から，以下，日本，韓国，米国で研究と実践を行ってきた 3 名の語りを取り上げ，「研究と実践の連携」に関する語りの要点を簡潔にまとめる．

3. 会話データ分析の「研究と実践の連携」に関する語りの紹介

日本，韓国，米国で教育を行いつつ，各分野で会話データ分析に関連する研究を行ってきた，以下 3 名の語りを報告する．

3.1 日本人女性 JF 氏の語りの報告（寅丸）

JF 氏は，1950 年代，国内大学の英米文学科在学中に日本語学校の夏期日本語講師養成講座を受講したのをきっかけに日本語教育の世界に入った．大学院では英米文学を専攻したが，大学院在学中に他大学の日本語講座の助手となり，初級から上級の日本語教育を経験する．そこでは，日本語教科書の作成に参加したことにより，教育実践を行いつつ，その現場で必要とされる教材を作っていくという「研究と実践の連携」に対する姿勢が確立されていった．以後，JF 氏は，実践を主軸に据えながらも，実践に役立つ研究を旺盛に行い，その研究成果を数々の発表や論文，あるいは教科書や文法説明書として発信していく．また，実践の場を国内のみならず海外にも拡大し，フランスやアメリカの高等教育機関における日本語教育の普及に貢献している．さらに，このような日本語教育の研究者，および実践者（教育者）としての知見を活かし，日本語教師養成の分野において，後進の指導にあたっている．JF 氏は，日本語教育の先駆者として日本語教育の発展を支え伴走してきた研究者であり実践者であると言える．そのような JF 氏の語りで特徴的なのは，学習者の学習を知的，心理的な両面において支援しようとする日本語教師観や，「研究と実践の連携」の深さ，研究者や実践者として知りえた知見を社会全体で共有しようとする視野の広さの 3 点であると考えられる．

まず，1 つ目の特徴である日本語教師観について，JF 氏は教育者としての専門性と知識の必要性のみならず，学習者の能力を引き出すことや，そのために学習者を否定しないことの重要性，すなわち学習者の精神面にも配慮すること，および学習者の視点に立って実践を行うことの大切さを指摘している．育成すべき日本語教師の人物像について，日本語教育に関わる知識とそれらを説明できる力，教材作成能力の必要性を挙げているが，「学習者の身になって考えられる」ことも重要であり，日本語教師は学習者を励まし支えるべき立場にあることを指摘している．研究者である以前に教育者であり，教育者として学習者が学習しやすい最善の環境を提供しようという姿勢が見られる．

次に，JF 氏の語りの 2 つ目の特徴は，「研究と実践の連携」の深さである．JF 氏は，自らの研究の源泉は学習者の質問であったと語っている．学習者の質問に対して適切に答えられない諸問題が研究課題になり，ひいては教材開発につながっていったと言う．例えば，JF 氏は，文法研究なども十分になされていない時代環境の中，手探りで授業準備を行って実践に臨んでいたが，必ずしも期待通りに学習者の習得が進まないことがあった．そのような時，教師は学習者の習得を阻む原因を解明し，それを解決するための教材や教授法を作成しなければならない．例えば，初級後半の学習項目である「ト，バ，タラ，ナラ」の条件節もその一つであった．学習者が条件節などの複文の習得に困難を抱えているのではないかという問題意識を持った JF 氏は，複文の文法研究の観点から，条件節の研究を始めた．以後，条件節の研究は JF 氏の主要な研究の一つとなり，その研究成果は再び実践に還元されていった．そして，研究成果の還元にあたっては，学習者にとって習得が困難な条件節をどのような順番で教えていけばよりよい効果が期待できるのかという，実践に直結した文法の提示順序についても研究を重ねている．さらに，実践への応用可能性を追究していく過程で，談話レベルの文法研究の重要性を認識することにもなった．このように，実践から生まれた問題を解決するために研究を行い，その研究成果を自身や他者の実践，教材開発などに活かすという姿勢は，JF 氏の「研究と実践の連携」の深さを物語っている．JF 氏にとって，研究と実践は分かちがたい一体のものであると言える．

さらに，3 つ目の特徴として挙げられるのは，研究者や実践者として知りえた知見を社会全体で共有しようとする視野の広さである．JF 氏は，実践の知見や研究成果を他の研究者や実践者と広く共有することによって，社会に貢献すべきであると語っている．JF 氏は，発表や論文，教科書や文法説明書などを通して，自身の実践や研究を日本国内のみならず，世界の研究者や実践者に広め，日本語教育全体の反映と学習者の育成に寄与していたと言える．

以上, JF 氏は日本語教育の実践者として現場で研鑽を積むうち, 実践から生まれた問題を解決すべく研究の世界に入り, そこでの知見や成果を自身の実践や研究, ひいては他の研究者や実践者と共有することを通して,「社会は世界」という語りから推測できるように, 国内外において社会貢献していたと考えられる. さらに,「研究したら即実践」という語りが物語るように,「研究と実践の連携」を日本語教育初期の時代から体現し, その成果を世界に発信し, 次世代に活躍する実践者や研究者の一つの貴重なモデルとなった影響力と功績もまたきわめて大きいと考えられる.

3.2 韓国人女性 KF 氏の語りの報告（大場）

KF 氏は, 1970 年代に韓国の大学の日語学科を卒業し, 文部省招聘国費留学生として日本の大学院に進学し, 日韓の敬語の歴史的な研究を行う. 当時は博士号の取得が非常に難しかった時代であり, 一度帰国して韓国の大学で日本語を教えながら研究を継続する. そして, 17 世紀に朝鮮で編纂された日本語の教科書中の敬語の研究で博士論文を執筆し, 日本の大学院で博士号を取得する. この日韓の敬語の研究を行う過程において, 現代の日本語と韓国語を談話レベルで見直すことへと関心が広がっていく. そして, それらの研究成果を, 日韓のコミュニケーションに関する書籍, 日本語の教科書, 研究叢書の出版やテレビの語学講座の担当などの形によって, 日韓両国の研究者から広く一般市民にも分かりやすく発信してきた点が大きな特徴として指摘できる. 以下, この研究成果の発信に特に着目して述べる.

KF 氏の博士論文は日韓の敬語の歴史的な研究であるが, 現代の敬語にも関心が向いていくこととなる. 特に, 日本に留学した際, 実際の場面で日本語のやりとりを体験することによって, 主に人間関係と言語形式を中心に分析するだけでなく, 談話レベルで多様な要因を考慮しながらやりとりの実態を見ることへ関心が出てくる. 例えば, 韓国語では年上の人に必ず敬語を用いるため, 日本の市場でも年上の店員に対して「〜ていただけませんか」と話しかけたところ, 市場ではそのような言い方はしないと知人に指摘されて衝撃を受ける. つまり, 日韓で場面の捉え方が異なるため, やりとりのしかたも異なるということに気付き, 韓国語の発想で日本語を使用するのではなく, 日韓の「文化の違い」を意識する重要性を認識するようになる. この日韓の文化の違いについては, 他の既存の日本語の教科書に紹介もあるものの, どちらかと言えば「日本の三大祭り, 七五三」といった文化の知識の紹介となってしまう傾向にある点を問題視している. このような文化の知識もふまえつつ, 学習者がある場面で適切にやりとりを行えるようにするという意味での文化の違いを理解することが重要であると考えている. また, テレビの日本語講座を担当して教えるということを経験したことも, 後に言語行動や文化について教育に取り入れたり, 談話研究を行う必要性を感じたりするきっかけにもなった.

こういった経験をふまえ, 現代語の敬語をはじめとする現代の日韓の言語行動の研究では, 当時, データとしてよく使用されていたドラマの分析を行った. また, 日韓でリメイクされた映画をデータとすることで, 同じ場面で使用される表現の違いについても分析を行った. これらの成果を, ドラマから日韓の言語行動を学べる書籍としてまとめ, 韓国で出版する. この出版に, KF 氏の大学時からの恩師である韓国語の日本人研究者が関心を持ち, 日本での出版にもつながる. 他にも, 韓国語の敬語や日韓のコミュニケーションに関する書籍を数多く出版するなど, 日韓の両国において異文化理解につながる研究成果の発信を行ってきている. こうした研究を行う過程で, 指導した学生の中には, ドラマの会話データを活用して研究を行った者もいた.

また, 日本留学中に, 場面の捉え方の違いを文化の違いの１つとして意識した経験は, 教科書の執筆にも活かされている. 韓国の高校の日本語の教科書の執筆では, 言葉が使われている場面を高校生にも理解してもらえるように, 4 コマか 8 コマの漫画を使って場面の状況を視覚的に分かりやすく説明するような試みを行っている. また, コラムで, あいづち, 断り, ほめなど, 日本語のコミュニケーションの特徴について読者の理解に役立つ内容を書いたとのことである.

こうした日韓の文化の違いの重要性を意識した研究成果をまとめ, 広く一般の多くの人にもやさしく日本の文化を理解してもらえるような本を出版することを考えていた. しかし, なかなか一人ではできることではなく, 若手の研究者と話すのも好きだったので, 周囲の人と編集や出版の計画について相談を行った. この結果, 若手の研究者と日本文化, 日本語学や日本語教育に関するアイディアを出し合って叢書の出版を企画し, 200 人以上の研究者がそれぞれの専門を活かして執筆するということを成し遂げた. この叢書に取り組んでいる際, 韓国における日本関連の学会の会長も務めることとなった. 当時, 女性が研究を行うこと自体もなかなか困難で, 研究者が男性 10 人の中に女性は 1 人だけというような状況であった. 役職に就くことが非常に珍しく, 学会長というのは女性はやらないという時代であったため, 常に緊張していた. このような役職に就きながら上記の叢書出版ができたのは多くの若い研究者のおかげであったと認識している.

そして, 若い世代の研究者には, 韓国語や日本語のそれぞれの言語の個別性と普遍性について考えていくことを期待している. 両言語には共通点も多く理解しやすい部分もあるものの, もう少し視野を広げて, 世界の言語の中で, その個別性と普遍性がどのような意味を持つのか考えていくことが課題であると考えている.

以上の点から, KF 氏は, 日韓の敬語の研究から日韓の文化の違いを強く意識して談話レベルの研究を行うようになり,

また，その研究成果を一般書，日本語の教科書，研究の叢書に至るまで多様な書籍の出版という形で「研究と実践の連携」を実践してきた点に特徴がある．また，日本留学の際の経験を通して認識した文化の違いについて，知識の紹介で終わらせるのではなく，学習者が実際の場面で適切なやりとりができることを目的として，日韓の場面の捉え方の違いを分かりやすく提示するなど，研究成果の発信の姿勢に活かされていると言える．さらに，叢書に関しては，若手の研究者と相談しながらアイディアを出し合って企画し，出版につなげることとなった点においても大きな意味のある研究成果の発信であると考えられる．そして，若い研究者がKF氏に協力できたのは，研究成果を発信するKF氏の姿勢に共感する研究者が数多くいたためであるものと考えられる．つまり，KF氏の「研究と実践の連携」のプロセス自体が，後に続く研究者・教育者に大きな影響を与えたものと考えられる．

3.3 日本人男性JM氏の語りの報告（中井）

JM氏は，日本の大学の英文科を卒業し，英語教師になるために，1980年代～90年代にアメリカに留学した．まず，アメリカの大学の学部では，言語学と英語教育のクラスを履修した．従来の言語学の初歩段階では，言語をある枠組みにそってパズルのように当てはめて考えていくため，言語学に興味を覚え，それから長年，この分野の研究を行うこととなった．修士課程では，教員の大半が言語学者であり，生き残っていくためにも言語学を追求していくこととした．博士課程では，まだ学位が取れていない段階で，指導教員に別のアメリカの大学の日本語教員になることを勧められ，仕事を始めた．現在は，カナダの大学で学部生・大学院生対象に，日本語，および，言語学の教育を行っている．以下，JM氏の研究内容と研究理念，および，教育内容と教育理念について述べ，さらに，会話データ分析の研究成果を日本語教育へ活かす方法に対する考えについて述べる．最後に，若手研究者育成の取り組みと理念について述べる．

研究は，文法を中心に行っている．大学院の時は言語学専攻であったため，様々な言語をデータとしていたが，日本語教師の職に就いてからは，日本語を主なデータとして研究するようになった．また，博士課程に進学した大学院には，ディスコースの研究者が集まっており，言語能力を見るためには会話データを見るしかないと教え込まれた．そのため，真に言語研究を行うなら，可能な限り多くの会話のデータを収集し，その書き起こし方法を確立して，最終的にはそれを基盤とした巨大なコーパスを作って研究するべきだという信念を持っている．特に，文法の本質的な性質を見るためには，話し言葉を見るべきだと考えている．

JM氏が担当する学部生対象の言語学の授業では，まずチョムスキーの生成文法などの伝統的な言語学の基礎を紹介し，それをもとに，学部後半から大学院で，会話データに基づく言語学の授業を取らせるようにしている．そうしなければ，会話データの分析を行う際，単なる主観的な印象を述べることに陥りがちになると考えるためである．また，現在行われている研究というものは，これまでの研究者が行ってきた研究に対するリアクションであるため，言語学を研究する際は，先人の研究を踏まえた上で，それに対するリアクションが行えるようになる必要があると考えている．JM氏の場合，チョムスキーらが述べる全ての言語構造に共通する普遍的な原理に対して，批判的に捉え，リアクションしていく姿勢を自身の大学院時代に叩き込まれた．これは，チョムスキーらの原理が自然会話には当てはまらない点を見出し，新たに，言語というものを人間同士の相互作用や機能から説明するべきだと主張する姿勢のことである．そして，自身が担当する言語学の授業でも，まずは伝統的な理論を理解させ，それに対するリアクションが適切にできるようにしている．

なお，会話データの分析結果を日本語教育にすぐに活かせるかという点は，慎重にならなければならないと考えている．それは，データを1回だけ集めてきて分析した結果の信憑性がどの程度あるか分からないからである．言語学では，多くの研究者がデータを見て議論し，概ね同意が得られた際にようやく日本語教育に使えるようになるため，何十年もかかる．研究の積み重ねのもと，慎重に教育につなげていくべきだと考えている．

さらに，若手の研究者の育成のため，ホームページやワークショップによって，会話基盤の文法研究の成果を発信したり，分析手法を紹介したりしている．大学院生のうちに，自身でデータを収集し，書き起こし，皆で共有してコーパス化するという経験を積んで欲しいと考えている．その過程から，データ収集の大変さを知ると同時に，できるだけ多くの用例に向き合うことでデータの見方が身に付いていくという信念を持っている．こうした実際の用例のデータを集めた基礎資料があってはじめて言語学の研究が成り立つと考えている．

以上の点から，JM氏は，自身が大学院時代に培った言語学の研究姿勢・理念のもと，現在の会話データに基づいた文法研究や学部生への授業を行っていると言える．研究成果を日本語教育にすぐに結び付けることは難しいと述べる一方，自身が学生時代に培った研究理念・教育理念を自身の現在の研究や実践に結び付けようとする「研究と実践の連携」の姿勢が見て取れる．つまり，長年かけて熟成されてきた理念を自身の実践に活かそうとする強い信念が現れていると言えよう．また，日本語教育という分野で教育を行うため，研究でも日本語をデータとするようになった点も，「研究と実践の連携」の姿勢だと考えられる．

3.4　フロア参加者のグループ・ディスカッション&全体討論

フロア参加者が3〜4人程度のグループを作り，JF氏，KF氏，JM氏の語りについて，以下の点からディスカッションを行い，全体で共有し，フロア参加者の視野の広がりを試みる．

・語りの内容で共感した点・気づいた点・重要だと思った点
・疑問点・より深く議論したい点
・今後の自分の研究や実践で参考にしたい点

4. 学部生の学びの分析（中井）

JF氏の語りに焦点を当て，学部生が授業でJF氏の語りを読み物教材としてまとめたものを読んで何を学んだかを分析する．分析対象とするのは，2017年10月〜2018年1月（全13回）に実施した学部の授業において受講生がまとめたレポートの記述である．この授業は，会話データ分析の手法を学ぶことを目的とし，受講生は，全38名（学部3，4年生31名，研究生7名），日本人学生29名と外国人留学生9名（中国7名，インドネシア2名）であった．受講生の専門は，日本語教育，日本語学のほか，その他の外国語を対象とした言語文化学などであった．

本授業では，JF氏の語りを含む，指定された数本の読み物を読んできて，以下の設問項目について3〜5人程度のグループで議論し，学んだことを2〜3頁のレポートにまとめる課題を課した．この課題の目的は，日本語教育の分野で研究と実践を行ってきた教育者・研究者の軌跡に触れることで，受講生が自身のキャリア形成を再考する機会とすることであった．

・読み物の内容の概要（語り手の経歴，要点など）
・共感した点・改めて気づいた点・重要だと思った点
・疑問点・分かりにくかった点・より深く議論したい点
・今後の自分のキャリア形成で参考にしたい点

これらのレポートの記述のうち，既に，JF氏以外の5名の語りについての記述を対象として，中井・高田（2017），中井（2017，2018）で分析を行った．本稿では，この分析方法を参考に，JF氏の語りについての記述の分析を以下の通り行った．まず，JF氏の語りからの学びだと思われる記述部分を抽出した．次に，この学びの記述を内容のまとまりごとに区分し，中井・高田（2017），中井（2017，2018）で学びの内容ごとに付けたタイトルに当てはまるものはそのタイトルを付け，当てはまらないものは新たなタイトルを付けて分類した．その結果，タイトルを付けた学びの総数は47であった．さらに，各タイトルの内容が近いものを1つのカテゴリーとしてまとめた．

上記の分析の結果，表1のように，JF氏の語りの読み物を読んだ受講生の学びは，6つのカテゴリー，18のタイトルに分類された．

表1 JF 氏の語りの読み物からの学部生の学び

カテゴリー	タイトル	件数	計
①研究と実践の繋げ方	研究の成果を自らの実践に活かすこと	8	18
	教える実践現場で得た経験を研究に活かすこと	4	
	研究を通して社会貢献することの重要性	2	
	研究成果をもとにした教材開発	1	
	研究と教育は一体	3	
②言語研究の内容	談話レベルの研究の重要性	4	4
③日本語教育の内容	教材の内容	1	1
④研究者の姿勢	研究を追求する姿勢	2	4
	知見の共有の重要性	2	
⑤日本語教師の姿勢・役割	教育者の専門性・知識の必要性	1	19
	学習者の視点に立って考える視点の必要性	5	
	多様なニーズをもとに研究・教育を行う	6	
	日本語母語話者教師の立ち位置	1	
	学習者の精神面のケア	3	
	学習者の能力を引き出す必要性	1	
	学習者を否定しないことの重要性	1	
	教材の整備の重要性	1	
⑥キャリア形成	世界に目を向ける重要性	1	1
		合計	47

以下，タイトル数が多かったもの，および，JF 氏の語りの内容の特徴をよく反映していると思われる学びの記述を選び（表 1 網掛部），学部生の記述例をそれぞれ抜粋して原文通り示す.

①研究と実践の繋げ方

(1)研究の成果を自らの実践に活かすこと

記述例(1)	純粋に凄いと感じるのは「ト，バ，タラ，ナラ」の条件節に関する研究である．参考資料もなく，参考書などもほとんどない時代に，新聞の記事から例文を探してきて，自分でルールを作り，実践の場であるクラスに持って行き，説明する．そして，学生とともに試行錯誤して研究と実践を繰り返すことを毎日やっていたことは，助手としてではなく，日本語教育に大きな関心がないとできないことだと感じる．(学部生A　日本人男性)
記述例(2)	この先生のインタビューで重要であると感じたのは研究を即実践に生かしていくという話である．その例としてフランス語中級用の複文句末表現などの例文を集めて辞書的にしようとしていたが，それをフランス語に訳す人の都合がつかずにデータが古くなってしまったという話があった．このように，たった 10 年手元に置いておいただけでそのデータは古くなり，例文としての役割を果たさなくなってしまうというのは研究のむずかしさや，言語の移り変わりのはやさを感じ，非常に重要な点だと感じた．(学部生B　日本人男性)
記述例(3)	研究から得た成果を実際の教育現場に持ち込んで，研究を自分のためだけにするのではなく，必要とする人のために活かしていくことは，研究をするうえで大事であると感じた．(学部生C　日本人女性)
記述例(4)	研究は即実践，という先生の言葉は心に響いた．思い立ったらすぐに行動するということは難しいことだが，後回しにしたところでなんのメリットも生まれない．すぐ行動することによって自分の理想が思った以上に早く実現するかもしれない．今後のキャリア形成において心に留めておきたい言葉だと思った．(学部生D　日本人女性)
記述例(5)	研究は即実践という点は，言語研究においてだけでなく生活の中でも普遍的に応用できることだと思います．例えば得た学びをすぐに授業や日常で活用してみたり，考えたことをすぐ行動に移したりすることです．こうしたことは人間として大切な考え方だと思うので是非心に留めておこうと思いました．(学部生E　日本人女性)

(2)教える実践現場で得た経験を研究に活かすこと

記述例(6)	会話データ分析の研究において非常に特徴的で重要だと感じた点は，教育現場の実践が先にあって実践からの経験を研究にして伝えるという部分です．一般的な研究体系だと研究が先に来てその実践や活用が後に来ることがほとんどだと思いますが，言語研究だと常に現場での経験が先行するのは言語研究がいかに実践と密接に関係していて，さらにJF先生が研究された当時日本語教育に関する研究が日本全体で不足していたことを表している例だと感じました．また，研究の動機やアイデアは学生の質問からという部分は言語研究（日本語教育）は研究者だけでは成り立たず常に学習者の存在が必要不可欠であることを示しており，それは日本語教育において非常に顕著な特徴であると思います．(学部生E　日本人女性)

(3)研究を通して社会貢献することの重要性

記述例(7)	ご自身の研究の社会貢献に対しては「まあ，活動することがある種の貢献にはなっているんじゃないですかね.」と述べています．自身の研究や作成した教科書が誰かのためになり結果社会に貢献できるというのは非常にやりがいのある研究だと感じました．(学部生E　日本人女性)
記述例(8)	JF先生の，研究したら即実践，という連携は普段の実践の中で学習者の言語使用や質問を注意深く観察しているからこそとれているものであると思う．自分でも卒論などの研究活動を行うにあたって，文献を読んだり，先行の研究からテーマを考えるのではなく，できたら身の回りの言語使用状況を興味を持って観察し，課題を見出し，そこに何らかの貢献ができるような研究を行いたいと考える．(学部生F　日本人女性)

(4)研究と教育は一体

記述例(9)	JF先生の「研究と教育が分かれることは考えられない」という考え方は忘れてはならないと思った．研究の道に行ったとしても教育現場に入ったとしても，研究で分かったことを現場に生かし，現場で起こった新たな問題を研究するという相互の関係を常に持ちたい．(学部生G　日本人女性)

②言語研究の内容

(1)談話レベルの研究の重要性

記述例(10)	談話レベルの研究の必要性もJF先生のインタビューより気付いた点の一つです．JF先生は例えば「は」と「が」の違いなどは結局それが使われる場面，つまり談話の実例を見なければならないとおっしゃっており，さらに「だって，人間は話しているわけだから」という言葉からは，日頃は教科書を相手にしていても最終的には学習者は皆習ったことを実際に使用する場面に回帰するわけであり，その点からも学習者のための談話レベルの研究は不可欠であるということが分かりました．(学部生E　日本人女性)
記述例(11)	JF先生は談話レベルでの研究の必要性をインタビューの中で，また論文の中で論じているが，やはり，日本語は談話の中で様々に形を変える言語だと感じる．それぞれの文法や単語のみの研究では，生のコミュニケーションの中での本当の日本語の機能までを対象としえないのではないかと思った．いざ，自分で日本語を研究するといった場合には，現在とっているこの会話データ分析のように，「流れ」の中での日本語を研究対象としたい．また，自分はSLAゼミに所属しているので，談話形式での言語教育にも関心が湧いた．(学部生A　日本人男性)

③日本語教育の内容

(1)教材の内容

記述例(12)	「どのような目的で」「誰のために」「何の技能に焦点を当てて」作成するかによって教科書の内容が大きく変わってくるということをこのインタビューを通して学び，実際に日本語の教科書をいくつか比較してみたいと思った．(学部生D　日本人女性)

④研究者の姿勢

(1)研究を追求する姿勢

記述例(13)	知りたいと思って始めた研究を一つの結果が得られただけでやめず，それを様々な角度から深く考え，さらに追究していく姿勢に共感した．(学部生C　日本人女性)
記述例(14)	教育現場を持っていない今でも学会や研究会に足を運び，広い視野を持って学びを追求し続ける姿勢は今後の自分のキャリア形成で見習っていきたい点である．(学部生C　日本人女性)

(2)知見の共有の重要性

記述例(15)	「黙っているより何か言った方がいいんじゃない？何か持っていれば，それを他の人にあげた方がいいでしょ？」については，心強く感じられている．確かに，自分のことを他の人に共有し合って分かち合うことの思いやりや気遣いがまさに一種の社会的な貢献だと考えられる．（学部生H　中国人男性）

⑤日本語教師の姿勢・役割

(1)教育者の専門性・知識の必要性

記述例(16)	自分がやりたいことをやる，そしてそのことについて専門性を高めることを先生のインタビューから得ることができた．そして自分の言語感覚をちゃんと持つことも私もこれからそれを意識して頑張っていきたいと思う．（学部生I　インドネシア人女性）

⑥キャリア形成

(1)世界に目を向ける重要性

記述例(17)	先生の「社会は世界」という言葉は様々な研究を通した先生の視野の広さや深さを物語っていると感じた．（学部生A　日本人男性）

以上の学部生のレポート記述から，JF 氏の語りの読み物を読むことで，学部生が様々な学びを得ていたことが分かる．まず，「研究の成果を自らの実践に活かすこと」については，試行錯誤しながらも研究成果を教育現場に活かしていくことの重要性を学んでいた．特に，JF 氏が述べる「研究は即実践」という言葉から，研究や教育という範囲にとどまらず，日常生活でも自身が得た知識をすぐに役立てるべきであるということを学んでいた．また，「教える実践現場で得た経験を研究に活かすこと」，「研究を通して社会貢献することの重要性」「研究と教育は一体」について学び，自身の研究課題の設定の仕方や研究のやりがいというものを考える指標となったと思われる．さらに，言語研究や日本語教育の内容を学ぶだけでなく，「研究の追求」をしつつ得られた「知見の共有」を行う研究者の姿勢，および，「教育者の専門性・知識の必要性」も学んでいた．こうした「研究と実践の連携」の姿勢は，学部生の直近の課題である卒業論文執筆など，狭い意味での研究や，それを活かした日本語教育を行う際の参考になるだけに留まらない．さらに，自身の得た知見を生活で役立て，人と共有していく姿勢，そして世界に目を向け，そうした姿勢を世界的な貢献に活かしていくべきだという人生の教訓を得て，今後，自身がキャリア形成を行っていく上での道しるべとなったとも言えよう．これらの結果をもとに，学部生教育において，先達の教育者・研究者の語りに触れ，自身の今後の研究や実践への取り組み姿勢を考えさせることの可能性が見て取れると考えられる．

5. 「会話データ分析とその研究成果の活用」モデル（大場）

表2「会話データ分析とその研究成果の活用」モデル（中井他 2017）は，12 人の語りにおける会話データ分析の「研究と実践の連携」の具体例から帰納的に抽出したものである．インタビューで全ての研究と実践の事例を聞き出せたわけではないので，網羅的なリストではないが，実際の具体例に基づいて作成された実証的なリストである．

表 2 は，「会話データ分析とその研究成果の活用」として，大きく【会話データ分析】【研究成果の整理】【実践現場での活用】の3つに分類され，それぞれ下位項目がある．以下，KF 氏の事例を例にあげながら各項目について述べる．

表2「会話データ分析とその研究成果の活用」モデル（中井他 2017:252）

【会話データ分析】	①言語の現象を探る ②研究成果をさまざまな人に伝える
【研究成果の整理】	①理論構築・提案・見直し ②多くの研究をまとめる
【実践現場での活用】	①日本語教育 ②教育者・研究者の養成 ③社会・実践現場に成果を公開・還元する ④世界とつながる

まず,【会話データ分析】の「①言語の現象を探る」は,日本語と韓国語の敬語の研究を行うことが該当する.そして,「②研究成果をさまざまな人に伝える」は,日本語と韓国語の敬語の研究成果を論文や書籍で発表することが該当する.

次に,【研究成果の整理】の「①理論構築・提案・見直し」は,日本語の敬語について歴史的観点から博士論文としてまとめ,さらに現代語のデータをもとに研究を行い,日韓の敬語行動の違いを体系的にまとめ直している.そして,「②多くの研究をまとめる」は,膨大な研究成果を多くの人と叢書としてまとめ上げたことが該当する.

最後に,【実践現場での活用】の「①日本語教育」は,日韓の言語行動の研究から明らかになった日韓の文化の違いを漫画やコラムなどで分かりやすく伝えようとした高校の日本語教科書の執筆が該当する.そして,「②教育者・研究者の養成」は,韓国の大学における指導が該当する.KF 氏がドラマの会話データを分析する過程で,韓国の大学の学生もドラマをデータに研究を行っている.さらに,「③社会・実践現場に成果を公開・還元する」は,一般向けの書籍を日本と韓国で出版してきたことが該当する.「④世界とつながる」は,日韓の言語行動に関する研究成果を広く発信し,日韓の架け橋になるような活動が該当する.

本モデルにより,会話データ分析とその研究成果の活用に関して,3 つの段階でどのように研究成果を活用し,社会に貢献させていけるか具体的なイメージを持つことが可能となると考える.また,既に研究成果を社会に還元してきている研究者や教育者も,それが表 2 の「会話データ分析とその研究成果の活用」モデルの中のどこに位置するのか,他にどのような社会貢献の可能性があるのかを検討することによって,「研究と実践の連携」の幅を広げていけるであろう.また,本モデルは実例から抽出したものであるが,これが完成したモデルというわけではなく,今後,多くの研究者や教育者が自身の「研究と実践の連携」の実例を出し合っていくことで,本モデルもさらに改変されていく可能性がある.

6. 全体討論・まとめ(中井)

最後に,本ワークショップの内容についての質疑応答を行い,参加者の世代間,分野間での縦と横の視野の広がりについて感想を共有する.以上,本ワークショップは,グループや全体でのディスカッションの時間を十分取った参加型にすることによって,フロア参加者が会話データ分析とその研究成果の活用について考え,今後の自身の研究内容や実践とのつながりに対する視点を広げる機会となることを目指す.さらに,授業で先達の語りを教材とすることの今後の可能性についても検討したい.

謝辞 本研究は,平成 25～27 年度科学研究費(基盤研究(C))「会話データ分析の活用法の研究―『研究と実践の連携』のための教員養成用の教材開発―」(課題番号:25370581,研究代表者:中井陽子)の研究成果の一部である.さらに,平成 28～30 年度科学研究費(基盤研究(C))「会話データ分析の手法を用いたインターアクション能力育成のための教材開発」(課題番号:16K02800,研究代表者:中井陽子)の助成を受けて,引き続き研究を行っている.本研究にご協力くださった皆さまに厚くお礼を申し上げます.

参考文献

中井陽子(2012).インターアクション能力を育てる日本語の会話教育 ひつじ書房

中井陽子(2017).6. 発表⑤:教員養成コースの授業報告 中井陽子・大場美和子・宮﨑七湖・尹智鉉「日米豪韓における「会話データ分析」の研究成果と教育現場への活かし方を探るー文献調査とインタビュー調査をもとにー日本語教育学会秋季大会予稿集,70-71.

中井陽子(2018).会話データ分析を行う韓国の教育者・研究者の語りからの学びー日本の学部・大学院生のレポートの分析からー 韓国日語教育学会 2018 年度第 33 回国際学術大会,86-90.

中井陽子(編著)・大場美和子・寅丸真澄・増田将伸・宮﨑七湖・尹智鉉(著) (2017).文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析ハンドブックー研究から実践までー ナカニシヤ出版

中井陽子・高田光嗣(2017).大学院の授業における「研究と実践の連携」を考える機会の試みーピアリーディング活動を通した学びー 日本語教育研究,**40**,63-81.

http://www.kaje.or.kr/html/sub04_01.asp

http://210.101.116.36/JournalSearch/ISS_Detail.asp?key=3543771&tname=kiss2002

省略現象から見えてくること

―「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語―

企画責任者・発表者：生越直樹(東京大学)
発表者：尹盛熙(関西学院大学)
金智賢(宮崎大学)
新井保裕(東洋大学)

1. はじめに

本企画は，「省略」という現象が日本語と韓国語においてそれぞれどのような形で実現するのかを記述・分析することで，省略傾向の違いが両言語の構造的類似点及び相違点とはどのように結びつくのかを考察するためのものである．さらに，様々な省略データの観察を踏まえ，名詞述語構造における日韓の違いに焦点を当てることにより，言語の個別性と普遍性，言語要素と言語外要素の関連性といったより広い範囲の議論に発展させることを模索したい．

母語話者にとって「何かが省かれている」という直感をもたらす言語表現は語・句・文・談話と，あらゆるレベルで観察される上に，様々な言語外要素の影響を受けることから，学際的なアプローチが求められるものである．省かれる要素は文脈などの他の情報から補えるものであるという普遍的な方向性はあるものの，個別言語の省略形式を詳細に観察すると，具体的に「何が省かれて何が残るか」は一様ではなく，構造的に多くの共通点を有する日韓両言語の間でも違いが見られる．

例えば，日本語では「いい気持ち！」というように名詞止めの文の形を取る場面で，韓国語では「kipwun-i cohta（気持ちがいい）」[1] と形容詞述語文の方が好まれる現象が指摘されてきた．また日本語の場合，韓国語に比べて述語を省略しやすいという傾向があり，「これからどちらへ？」のように文が述語ではなく名詞（句）で締めくくられている例がしばしば観察される．さらに，前提を省略する「僕はウナギだ」タイプの文は韓国語より日本語の方が生産的であることを指摘されており，SNS など新メディアにおける日韓の言語表現でも日本語の方が省略を好み，韓国語は文の完全性を求める傾向が観察される．以上のような多角的な観察は，日本語の言語単位が高い独立性及び結合性を持つこと，韓国語はそれと同程度の言語単位では独立性を持たず，ある程度の言語単位の融合性が成立するとなかなか崩れにくいこと，言い換えると，日本語の「磁石」的な構造，韓国語の「チェーン」的な構造とも言うべき特徴を示すものと言えるだろう．

以上の趣旨のもと，本企画では，日韓の省略傾向と名詞述語構造の違いに焦点を合わせ，名詞止め文（本発表ではコピュラなしで名詞で終わる文を「名詞止め文」と呼ぶ），名詞述語と機能語の省略，二項名詞文，SNS における省略という観点から，両言語の持つ特徴を明らかにしようとする．これらのアプローチは，これ以外の日本語と韓国語の省略現象と，両言語の構造的な違い及び言語外要素の関連性などを分析していく上での礎となるであろう．

2. 名詞止め文の日韓対照（生越直樹）

「きれいな花！」「これから学校？」「起立！」などの名詞止め文は，日本語ではしばしば用いられ，その構文的構造も様々である．文法構造が似ていると言われる韓国語においても，名詞止め文は使用される．しかし，両言語では使われる文の構造や使用条件において差が見られる．本発表では両言語に見られる違いを指摘しつつ，その違いをもたらす背景について考えてみたい．

なお，日韓両語とも聞き返し（「ボルダリング知ってます？」「ボルダリング？」）や表現の言い直し（遅刻よ，遅刻！）で名詞止め文がよく使われる．聞き返しや表現の言い直しで名詞表現だけを使うことは，多くの言語で見られる現象である．本発表では，この種の名詞止め文は一旦除外して分析を進める．日本語と韓国語で書かれたドラマのシナリオから用例を収集したところ，日本語と韓国語で使われている名詞止め文は，大きく分けると次の４つの構文パターンで使われていることがわかった．本発表では，この４つのパターンごとに日韓両語の異同について見ていく．

[1] 韓国語のローマ字表記は The Yale Romanization System による。

A．名詞(句)(ハ/nun)　名詞(句)　「これ，プレゼント.」「kuke-n way?（それは何故)」
B．形容詞(動詞)＋名詞　「きれいな花！」「hansimha-n nom（あきれた奴)」
C．連用修飾語＋名詞　「そろそろ帰国？」「今どこ？」「「～ssi-lul wihaye kenpay.(～さんのために乾杯）」
D．名詞(疑問詞/数詞)一語のみ　「地震！」「cikap!（財布）」

まずAのタイプを見てみる．Aのタイプは，基本的に主題部分と述部部分があり，述部部分が名詞で終わっている．たとえば，次のような例である．

(1)a．あなたはお孫さん？＜拝啓＞　b．ここは，神様のいるかまぼこ工場！＜泣くな＞
c．これ，先週までのレポート＜眠れる＞　d．これホンノ，あの時のお礼の気持ち＜拝啓＞
e．今日はね，学校のクリスマスのお稽古＜拝啓＞　f．名前はね時夫君．＜拝啓＞
g．（かまぼこを見ながら）かまぼこの新作？
(2)a．kuke-n way?（それは何故）＜冬＞　b．kuke-n pimil!（それは秘密）＜冬＞
c.ne-n onul-to pamsaym cakep?（あんた今日も徹夜仕事）＜キル＞

このタイプは，(1a)(1b)のように，助詞ハが使われている例のほか，(1c)(1d)のようにハが省略されている例，(1e)(1f)のようにハにネが付く場合もある．さらに，(1g)のように場面上何を指しているかが明確なため主題が省略されている場合もCタイプに含まれるだろう．韓国語でも(2a)～(2c)のように，主題を表す助詞 nun/un（あるいは縮約形 -n）を含み題述文の構造を持つ名詞止め文が見られる．現時点ではそれほど多くの用例を収集していないので明確なことは言えないが，日本語に比べて韓国語の用例は少ない．また，日本語の例は述部の名詞に「先週までの」「あのときのお礼の」「学校のクリスマスの」などの修飾語，それも複数の修飾語が付いている場合が見られるのに対し，韓国語の例は修飾語の付かない単純な構造が多い．また，way(何故)，pimil(秘密)という語は，一語だけでもよく使われる語であり，コピュラなしで使いやすい語だと考えられる．このように，日本語と韓国語では，Aタイプの文の使い方にかなり差があるようである．
さらに，質問に応答する(3)(4)のような例もAタイプと類似する用例とみることができるだろう．

(3)a．「どこ」「テーブルの上」＜眠れる＞　b．「動きって？」「“新・坂下”への人員確保」＜拝啓＞
(4)“kukey nwuku-nya?”“lasupaykasu hothayl saepka.”（「それ誰？」「ラスベガスのホテル事業家」）＜オール＞

これらの名詞止め文は，「それは」「動きは」「kuke-n(それは)」という主題部が省略されていると見なせる．この種の例は，日本語でも韓国語でも使われており，韓国語では(2)のような主題部が明示される文に比べて，より複雑な述部の構造も見られる．(2)では新たな文を示しているのに対し，(4)は質問文で不明になっている部分を埋めるだけでよい．その違いが表現される構造にも影響しているかもしれない．また，日本語では(1g)のように，主題を省略した名詞止め文をいきなり使うことがあるが，韓国語ではそういう例があまり見られない．つまり，韓国語で(4)のような名詞止め文を使うには，明確な前提が必要なのかもしれない．この点については，後ほどもう一度触れる．
次に，Bタイプを見ていく．このタイプは，気づきや感嘆の意味を伴うことが多い．「形容詞＋名詞」にコピュラがついた構文については，生越(2002)で取り上げたことがある．生越(2002)では，「きれいな花だ」のような主語なし名詞文をA＋N構文と呼び，日韓両語の違いについて分析した．その結果，韓国語でA＋N構文が使えるのは，話し手が示す新しい情報が第１要素(A)か第２要素(N)のどちらか一方のみの場合に限られ，日本語では２つの要素がともに新しい情報であってもA＋N構文が使用可能だと指摘した．つまり，新たな情報が多い場合，韓国語でA＋N構文を使うことができないのである．生越(2002)では，今回取り上げる名詞止め文について詳しい分析を行っていない．生越(2002)で扱った例文を名詞止め文にすると，日本語はすべて使えるのに対し，韓国語はほとんどすべて使えない．

(5)（友だちABが道を歩いているとき，Aが何気なく道ばたを見ると，何かの花が一つ咲いている．見つけてすぐに花を指さしながら）
a．あっ，きれいな花！　b.？a，cham yeyppu-n kkoch！（あっ，本当にきれいな花）
(6)（窓の外を見ると，木の枝にめずらしい赤い鳥が止まっているのに気づいて）
a．あっ，赤い鳥！　b．(?)a，ppalka-n say！（あっ，赤い鳥）

(7) (幼稚園で，子供が「先生」と言いながら花を持って来た．幼稚園の先生がその花を受け取りながら)

a. きれいな花！　　b. ？cham yeyppu-n kkoch！(本当にきれいな花)

シナリオの文を調べたところでも日本語ではこのタイプの文が使われているのに対し，韓国語ではほとんど出てこない．唯一使われているのは，(9)のように，人についての表現である．

(8)a.下手な漫画　＜泣くな＞　　b.うまそうな匂い！　＜眠れる＞

c.疲れた顔　＜拝啓＞　　d.ちゃんとした御挨拶　＜拝啓＞

(9)a. ile-n hansimha-n nom.(このあきれた奴)　＜オール＞

b. nappu-n saykki.　(ひでえ野郎)　＜オール＞

日本語ではこのタイプの文が具体的な事物の他に感覚や行為に対して使われており，その使用範囲は広い．一方，韓国語の(9)は，人を罵ったりあきれたりする時に使われる表現であり，かなり定型化された表現と見られる．これまでの調査結果から見て，韓国語では，目の前の状況を形容詞＋名詞の形で表現するのは，かなり難しいようである．

次に，Cのタイプを見てみることにする．(10)(11)のような例が見られる．

(10)a.クラブで接待＜眠れる＞　　b.そろそろ帰国？＜眠れる＞　　c.玉子ちゃんお茶お願い！＜拝啓＞

(11)a. chenpayksipsa-pen kiminha isong!!(1114 号　キムイナ移送)　＜オール＞

b. minswuyen-ssi-lul wihaye kenpay.(ミンスヨンさんのために乾杯)　＜オール＞

Cタイプの文は，文末の名詞が動作性名詞である点が特徴的である．この点は日韓両語に共通している．ただし，日本語に比べて韓国語は用例が少ない．(11a)は相手への指示文であり，単語を列挙するだけで指示を表わせる．この種の文は構造を持つ文ではなく単なる語の列挙と見なすこともできよう．(11b)も指示的な意味である上に，表現自体が固定的な表現である．日本語のように，様々なパターンでは使われていない．

最後のDタイプ，名詞一語で使う場合については，日本語も韓国語も様々な表現が使われている．両言語の使われ方には微妙な違いが見られるようであるが，現時点では明確な説明は難しい．今後の課題である．

以上，日韓両語の名詞止め文の使われ方について，文の構造に注目して分析してみた．日本語では，どの構造についてもかなり自由に使われている．一方，韓国語では，題述構造を持つ「名詞-nun(は)　名詞」の形では使用例が少ない上にその構造も単純であった．また，感嘆などを表す「形容詞＋名詞」の形でも用例が少なく，固定的な表現がほとんどであった．これに対し，質問文に対する応答文では比較的名詞止め文が使え，複雑な構造の例も見られた．このことから，韓国語の名詞止め文は主題文や感嘆文という，いわば一人前の文としては使いにくく，すでにある文の不明点などを埋めたり補充したりする文の断片，語句として機能している可能性が高いと見られる．完成した文の一部を補ったり追加したりする場合なら，文の形を取る必要はなく，名詞止めでも使いやすくなる．本発表で扱った例の多くは，名詞止め文ではなく名詞句と呼ぶべきかもしれない．逆に言えば，韓国語で文として機能するには明確な述部要素が必要であると言えよう．一方，日本語では，述部要素がなくても文として機能する．日本語が名詞止めでも文として機能する背景には，場面や文脈の支えが関係していると考えられるが，ここではその可能性を指摘するにとどめる．

3. 述語における省略－日韓で構成素の結合様式はどう違うか（尹盛熙）

3.1 本節の概要

本発表では，日本語と韓国語の様々なテキストから，省略形式における日韓の特徴とそれを支える両言語の構造的な違いについて考察する．日本語では，名詞述語文におけるコピュラ（「～だ」）や動詞性名詞述語文の形式動詞（「～する」）などの機能語が韓国語の場合より省かれやすく，その結果，形態・統語的に不完全な述語が用いられる傾向がある．また動詞述語文における省略現象からは，実質語の述語でも同様の不完全性が見られることが確認できる．省略形式に見られるこのような違いから，語・句・文といった言語単位における構成素の結合のあり方が日本語は「磁石」のような様相を，韓国語は「チェーン」のような様相を呈することを主張する．

3.2 様々なテキストと省略の傾向

言語コミュニケーションでメッセージの送信者（話し手・書き手）は受信者（聞き手・読み手）に対し，限られた時間

と労力をできるだけ節約して多くの情報を効率よく伝えようとするため，文及び発話ではしばしば省略が起きる．無論，むやみに省いて短くするのではメッセージの伝達性が保たれないので，文脈から復元しやすい情報が優先的に省かれるなど，情報の損失が少ない方向で行われることになる．そのことから，具体的な指示対象を持たない「機能語」の方が「実質語」に比べて省略されやすいのは普遍的な傾向であると予測できる．構造的に類似点が多いとされる日韓の場合も，格助詞や形式動詞「する」「hata」，コピュラ「だ」「ta/ita」などの機能語は，具体的な意味内容をもつ実質語に比べて省略されやすい．

一方で，両言語の様々なテキストを観察し，それぞれが示す形式的特徴を比較すると，日韓では省略の傾向が異なることがわかる．例えば日本語の場合，新聞記事や TV ニュース，討論番組などの情報提供コンテンツ，そして漫画やアニメーション，ドラマなどのサブカルチャーコンテンツと幅広いテキストで，述語における省略が観察される．

(1) a. 一郎，これは八軒君の仕事．（アニメ）
b. 護身に銃所持が必要だと主張．（新聞記事）
c. 米空母，しばらく日本海に（新聞見出し）
d. 話があるんだ．ドーソン教授を？（翻訳字幕）
e. 外に行ってくれてありがたいという言葉はひとつあったと．（討論番組）
f. 我慢したからこそ最後にチャンスがきたと錦織．（ニュース）

上記(1)の各例は，下線部の後ろで何らかの形式が省略されている．(1a)では名詞述語文「～八軒君の仕事だ」よりコピュラ「～だ」が，(1b)では「～主張した」という動詞性名詞文から形式動詞「する」が省かれており，それぞれ名詞が文を締めくくる「名詞止め文」になっている．(1c)から(1f)では実質語の動詞が省かれ（それぞれ「留まる」「知っているか」「いうわけだ」「語る」），(1f)以外は助詞で文が終わる「助詞止め文」になっている．このように述語の一部または全部を省くと，それに付帯するはずのテンス・アスペクト・モダリティなどの文法形式も使用が制限されることから字数を制限しやすくなるため，省略戦略としては効果的であると言える．このように形態・統語的に不完全な述語を用いる形式は，新聞見出しや翻訳字幕のように時間的・空間的制約が強いテキストでより際立つ（尹，2015；2016）．

一方で韓国語の場合，(1)のような述語における省略は新聞見出しなど一部のテキストでは見られるものの，日本語ほど頻繁に用いられず，新聞見出しでは述語より助詞の省略が起きやすい傾向がある（尹，2015）．言い換えれば日本語では，一部または全部が省かれた不完全な述語を用いることが有効な省略戦略になっている反面，韓国語では助詞が省略されて名詞（句）が連なった，複合語に近い形式を取ることが有効な戦略になっているとされる（尹，2015；2017b）．

日韓の省略戦略が異なることは，同一の事柄を報道した日韓の見出しを比較するとより明確になる（尹，2017a）．

(2) a. 対北朝鮮で新組織　米CIA（朝日新聞 20170512）
b. CIA に対北専門組織　核・ミサイルの脅威分析（読売新聞 20170512）
(3) a. mi CIA, pwukhaykcentam ‘kholia immwuseynthe’ sinsel（東亜日報 20170512）
米CIA 北核全担 コリアミッションセンター 新設
b. CIA, pwukhayk-man kwanli-hal thukpyelcocik mantul-ess-ta（朝鮮日報 20170512）
CIA 北核のみ 管理する 特別組織 作った

(2)と(3)は同一の事柄を報道しているが，日本語例(2)では，下線部の名詞句と関わる内容上の述語が明示されていない．例えば(2b)の場合，記事本文には「「朝鮮ミッションセンター」を新設したと発表した」と述語が用いられているが，見出しだけでは「対北専門組織」が他の成分とどのように関連付けられるかは明確ではなく，読み手の推測に委ねられることになる．一方で韓国語例(3)では，(2)の下線部に相当する「kholia immwuseynthe（コリアミッションセンター）」「thukpyelcocik（特別組織）」などに対して，「sinsel（新設）」「mantul-ess-ta（作った）」という意味上の述語がそれぞれ明示されている．

(4) a. 外に行ってくれてありがたいという言葉はひとつあったと（「朝まで生テレビ」20171124）
b. 我慢したからこそ最後にチャンスがきたと錦織．（「NHK ニュース 7」 20171031）
(5) kwukmin-tul-i ihayha-ki himtu-n thayto-ka ani-nka sayngkak-ul ha-pnita.
国民が 理解しがたい 態度ではないか 思います（「pamsaymtholon(徹夜討論)」20170224）

上記(4)では下線部の最後に引用助詞「と」が位置しているが，その助詞を要求する動詞が続かない．例えば(4b)はあるテニスプレイヤーが「我慢したからこそ最後にチャンスがきた」と述べたことを取り上げているが，「と」の後には「いう」「語る」などが省かれたと考えられるだろう．一方で韓国語の場合は，日本語のように動詞を省いて「と」に相当する「ko/lako」で文や発話を止めるのはかなりぎこちない．実際，自然発話に近い生放送の討論番組で観察されるのは，引用助詞と動詞の両方を省いて補文の中身だけを発話するか，または(5)のように動詞は残して引用助詞だけを省く，どちらかのパターンがほとんどである．

3.3 日韓の構造的特徴の違いに向けて－「磁石」と「チェーン」？

以上，日韓の省略傾向における違いを述語の省略に焦点を当てて観察した．本節のまとめとして，これらの省略傾向が日韓の言語的特性の違いとはどのように関連付けられるのかについて現時点での方向性を述べ，今後の課題としていくつかの関連現象にふれておきたい．

幅広いテキストにおける観察から，日本語では，述語における機能語及び実質語の省略が韓国語に比べて頻繁に表れ，形態・統語的に不完全な形の述語の発話が比較的容認されやすいことを見た．それに比べて韓国語では，日本語のような名詞止め・助詞止めの形式は制限されることから，述語を含む言語単位に形態・統語的完全性が要求される傾向が強いと言える．即ち日本語の場合，文や発話が文章の体裁を取りながらも述語が不完全で，文の末尾が途切れたような印象を与えることになる[2]が，その点，韓国語の場合，文のレベルでは述語を中心とした「文」としての形を，語のレベルでは形態的に「語」と言える形を保つことをよしとする傾向が存在するのである．このことから，日韓では言語単位を構成する方式が異なると考えることができる．

音や語・句などの単位が結合してより大きな構造を構成するのは言語の普遍的な特性であるが，その結合の仕方には個別言語的な違いがあるものと考えられる．その違いをイメージしやすく例えるなら，日本語は，結合する要素同士が磁力のみでつながり，結合部で比較的簡単に離したりくっつけたりできる「磁石」，韓国語は結合する要素同士で決められた型があり，それが合えばしっかりかみ合って切り離しにくい「チェーン」のような様相を呈していると言える．

さらに，従来の研究で指摘されてきた両言語の違いも，この傾向と同一の脈絡で理解することができる．例えば日本語の場合，話しことばでは「あつ（い）」「うま（い）」など，イ形容詞の語幹のみが独立した発話となることがあるが，これも述語の完全性にこだわらない日本語の特徴的な部分と言えるだろう．また，「40℃もの熱（＝40℃もある熱）」など，連体修飾句において述語の代わりに「の」が用いられるという例も，前後の成分から意味関係を想定しやすい述語を省略し，残りの成分を助詞でくっつけているものとして理解できる[3]．他にも「～系」「～的」などは，形態素や語に相当するものを要求する接尾辞として用いられる一方で（「日系」「亭主関白的」など），句や文といった統語的単位とも結合する例[4]があることが知られている．併せて，「[先月使った電気]代」や「[やっと間に合った]状態」（新屋，2012）で見られるように，統語レベルの単位が複合語の一部として現れることも指摘されているが，いずれの場合も，該当する韓国語の形式は容認度が下がる．

本発表で取り上げた省略現象の違いや結合様式の違いは，上記の関連現象に加え，従来より指摘されてきた日本語の「名詞志向」と韓国語の「動詞志向」（金恩愛，2003；堀江・パルデシ，2009），日韓の文法化の程度の違い（塚本，2012）などとも関連する可能性がある．これらの問題に対する詳細な検討は今後の課題としたい．

4. 二項名詞文の日韓対照（金智賢）

「AはB」及び「AはBだ」型文を二項名詞文と呼ぶことにする．二項名詞文は，AとBが一般的な意味関係にある普通の名詞文とそうでないものがあるとされ，後者は「ウナギ文」と呼ばれてきた．両者は本質的に違わないという見解も窺えるが（尾上，1982；柏谷，1998；西山，2003a；丹羽，2005等），日本語の外からの観点を含めて，より精密な記述が必要と思われる．本節は，ウナギ文と「だ」の意味について対照言語学的な観点から有意義な記述を与えることを目指す．

4.1 問題提起

韓国語にも「は」「が」「だ」に対応する「nun」「ka」「ita」が存在するだけに，(1)や(2)のような普通の名詞文（いわゆる措定文や指定文）では広い範囲で対応が見られる[5]．また，(3)や(4)のような一部のウナギ文でも対応が見られる[6]．

---

[2] 「ここ，めっちゃ寒いんだけど」のように「～けど」「～し」などの接続形式で締めくくられる文も関連現象として理解できるが，このような文を称する「中断節」（Ohori，1995）や「言いさし文」（白川，2009）などの用語にも，「文が途中で切れたかのように見える」という認識が反映されている．

[3] 他にも「母へのプレゼント（＝母へ贈るプレゼント）」，「東京までの列車（＝東京まで行く列車）」などがある（日本語記述文法研究会,2009）．

[4] 「私さ，[[人のオーラ]的なものが見える]系女子なんだけど」（アニメ「斉木楠男のψ難」）

[5] 「は」，「が」，「だ」に対応する韓国語形式はそれぞれ「nun/un」，「ka/i」，「(i)ta」である．本文では，代表形式として「nun」「ka」「ita」と表す．

[6] 「は」と「が」が「nun」と「ka」にそのまま対応するわけではない．これら助詞のズレの一部については金智賢(2016)で論じている．

(1) a. kay-nun tongmwul-ita.
b. 犬は動物だ.

(2) a. cey-ka kansa-ipnita.
b. 私が幹事です.

(3) a. na-nun nayngmyen.〔場面Ⅰ, Ⅱ〕
b. ぼくは冷麺.〔場面Ⅰ, Ⅱ〕

(4) a. na-nun nayngmyen-ita.〔場面Ⅱ〕
b. ぼくは冷麺だ.〔場面Ⅱ〕

ところが, 日本語では自然な文が韓国語では言えない場合も多々ある.

(5) a.*na-nun nayngmyen-ita.〔場面Ⅰ〕
b. ぼくは冷麺だ.〔場面Ⅰ〕

(6) a.*sinmwun-un kothassu wi-ta.
b. 新聞はこたつの上だ.

(7) a.*ne-nun yeyppun nwun-ikwuna.
b. 君は可愛い目だなあ.

(8) a.*talo-nun naccam-ita.
b. 太郎は昼寝だ.

(6)～(8)のような文もウナギ文と見るなら, 韓国語は言えるウナギ文と言えないウナギ文があるということになる. 韓国語にもウナギ文があるということはすでに言われているが, どこまで言えて, 日本語のウナギ文とはどう違うかに関する詳しい分析はなかった. 本稿では, 上記の〔場面Ⅰ〕と〔場面Ⅱ〕を分析することで, その条件を考える.

4.2 前提と「だ」「ita」の働き

奥津(1978; 1981)等では「ぼくはウナギだ」も「ぼくはウナギ」も同じウナギ文とされる. ここでは,「AはBだ」型の文と「AはB」型の文を区別し, レストランでの場面を〔場面Ⅰ〕と〔場面Ⅱ〕に分けて観察する. これらの規定と, 各場面で想定されるウナギ文に先立つ発話—これを「前提」と呼んでみよう—は次のようである.

(9)〔場面Ⅰ〕複数人でレストランに入り, メニューを見ながら注文料理を決めるといった場面.
〔前提〕君は何にする？(「AはBにする」)／君は何を食べる？(「AはBを食べる」)
〔可能文型〕日本語:「AはB」「AはBだ」　韓国語:「A-nun B」

(10)〔場面Ⅱ〕すでに決まった注文料理を確認する場面, または, 店員が料理を持ってきて注文を確認する場面.
〔前提〕君は, 注文料理は何か？(「Aは, RがBだ」)
〔可能文型〕日本語:「AはB」「Aは(Rが)Bだ」　韓国語:「A-nun B」「A-nun (R-ka) B-ita」

〔場面Ⅰ〕と〔場面Ⅱ〕の違いは, 前提の中に「Rが」が明示的にあるかどうかという点である. 韓国語は主語としての「Rが」が前提されなければ「B-ita」は使われにくいのである. 一方, 日本語は「Rが」が前提されない〔場面Ⅰ〕でも「Bだ」と言えることから, 次の二つの可能性が考えられる. (ⅰ)日本語話者は前提されない「Rが」を想定して「Bだ」と言う, (ⅱ)「Bだ」は対応する「～が」がなくても用いられる. もし, 前者なら「だ」は「B」を述語化していることになり, 後者なら「だ」はそのような機能はなく, 別の意味を表すために用いられていることになる.

4.3 「は」と「nun」の働き

「AはB」型の文は, 韓国語も場面と関係なく使われる. これは,「は」や「nun」がともに, 話し手の判断によって, 二つの概念を結合し一つの事態として表現する機能を有するためである.〔場面Ⅰ〕と〔場面Ⅱ〕における「AはB」型の文は, どちらもこのような働きによるもので,「ぼく」と「注文料理」を単に結ぶことで,「ぼくはその料理を注文する」「ぼくが注文したのはその料理だ」などの意味を間接的に伝えており, 前提の「Rが」と関係なく用いられていると考えられるのである. ところが, 以下のように,「は」と「nun」のこのような機能にも差が見られる.

(11) a. konyak-un sal an ccye.
b. コンニャクは太らないよ.

(12) a. *i naymsay-nun kasu-ka say-ko iss-ta.
b. この匂いは, ガスが漏れている.

「は」は, 統語的にかなり離れた要素も結合するが,「nun」は, 先行名詞句とそのあとにくる事態が統語的に緊密な関係にある場合に限って用いられる傾向がある.「だ」に関して前述の(ⅱ)をとるなら,〔場面Ⅰ〕の日本語の「AはBだ」は, このような「AはB」に何らかの意味を表すために「だ」がついたものであると考えることができる.〔場面Ⅰ〕の「AはBだ」の「だ」は統語的な述語を表すのではなく, 聞き手に発話内容を強調して提示するという話し手の態度を表す終助詞のような働きをしているものではなかろうか. 即ち, 次の「だ」と同類のものと見ることができるのである[7].

(13) 水だ！(水をくれ！)
(14) 深呼吸しよう. 瞳, できるね？ 深呼吸だよ.
(15) よろしくだぞ.
(16) その船がだ. 嵐の中であったという.

4.4 〔場面Ⅰ〕の「Rが」をめぐって

[7] 尾上(1982)も, ウナギ文の「だ」はこれらの文の「だ」と同じであるとしている. なお, ウナギ文の「Bだ」を述語と見るか否かで先行研究の立場は分かれるが, 尾上(1981; 1982)及び「だ」を述語代用と見る奥津(1978; 1981)や久野(1978)等以外は, 大体「Bだ」を述語と見ているようである. メトニミー説の瀬戸(1984)や坂原(1990)も,「A」が「AのR」を表していると見ているので,「Bだ」は述語扱いされていると見ることが可能である. 池上(1981)は,「A」と「B」が「だ」の存在概念によって結ばれるとしてはいるが,「A」と「B」の結合に注目した点では尾上氏の議論と相通ずるものがある. 次の脚注も参照.

ウナギ文を「Aは（Rが）Bだ」と分析する見解は多くの先行研究に見られる[8]．本稿では，〔場面Ⅱ〕のウナギ文のみがこの構造をしていると見たが，〔場面Ⅰ〕の「AはBだ」が「Aは（Rが）Bだ」で，日本語話者は前提されない「Rが」（注文料理が）を想定していると仮定してみよう．その場合，「だ」は「Rが」の統語的な述語となり，様々な統語的作用を受けることになる．ところが，実際は「だ」はそれが難しいと考えられる．例えば，〔場面Ⅰ〕で注文を変更する場合，(17a)のように，否定の後の「だ」は不自然か，少なくとも〔場面Ⅲ〕の注文を再確認する(17b)より制約がある．

(17) a. 〔場面Ⅰ〕ぼくは（注文料理が）冷麺だ．いや，冷麺じゃなくて｛お寿司にする／お寿司がいい／?お寿司だ｝．
b. 〔場面Ⅱ〕ぼくは（注文料理が）冷麺じゃなくてお寿司だけど．

韓国語は〔場面Ⅰ〕で「ita」が使えないので，当然注文を変更する文にも「ita」は現れないが，韓国語の場合〔場面Ⅰ〕と〔場面Ⅲ〕とでは別の否定形をとることで，これらの文が統語的に異なることがはっきり示される．〔場面Ⅰ〕の「malko」は「選択」の取り消し，〔場面Ⅲ〕の「i anila」は「ita」の否定をそれぞれ表す．

(18) a. 〔場面Ⅰ〕na-nun nayngmyen. ani, nayngmyen malko {chopap halkey/*chopap-iya}.
（ぼくは冷麺．いや，冷麺じゃなくて{お寿司にする／*お寿司だ}）
b. 〔場面Ⅱ〕na-nun nayngmyen-i anila chopap-intey.
（ぼくは冷麺じゃなくてお寿司だけど）

〔場面Ⅰ〕の「AはBだ」の「だ」は，少なくとも「Rが」の統語的な述語ではないと言えよう．

4.5 「Rが」の性質と二項名詞文の連続性

これまでの議論によると，日本語でウナギ文とされてきたものは「AはB」，「AはBだ」，「Aは（Rが）Bだ」の3種類に分かれる．韓国語は「AはBだ」型の文を有しないが，「AはB」及び「Aは（Rが）Bだ」型の文は多くある．ここでは，「Aは（Rが）Bだ」を中心に観察し，この種の文にも日韓で違いが見られることを示す．(6)～(8)の韓国語表現が不自然なのは，一次的には「Rが」が明示的ではないことによる．ところが，韓国語でも類似した以下のような文は可能である．

(19) na cikum cip aph-iya.
（私今家（の）前だよ）
(20) cip-i sewul-ipnita.
（家がソウルです）
(21) ku-nun pemcoyhyeng elkwul-ita.
（彼は犯罪型（の）顔だ）
(22) kwukcang-i kyelkun-ita.
（局長が欠勤だ）

(19)と(20)は「R」が「在り処」を表す場合であるが，韓国語は人やそれ自体が場所になるもの（家，トイレ，山など）の在り処を表す「ita」文なら自然であるが，(6)のような物の在り処は「ita」で表せない．(7)と(21)の「R」は，それぞれ「（君の）目」「（彼の）顔」と類似しているが，韓国語では「顔」は人間を描写する際に明示的な前提と見なされ「目」「手」等はそうでないようである．(8)や(22)も似たような対立を見せる．韓国語では「当該場所で一般的に行われる行為」は「R」として前提されるが，「誰かが特定の時間に行う具体的な行為」は「R」になり得ないのだと考えられる．(6)～(8)も，適切な前提があれば言えるようになるが，それは普通ではないかなり特殊な状況になるだろう．以上の議論は，「Rが」の明示性というものが単に文脈に委ねられるというものではなく，ある程度定型化できることを示す[9]．

4.6 本節の結論

日本語も韓国語も，表現において「主題―解説」型が重要な構文の一つになっており，語順や省略が比較的自由という特徴から，他の言語に比べウナギ文が成立しやすい構造であると言える．ところが，ウナギ文を(Ⅰ)「AはB」，(Ⅱ)「AはBだ」，(Ⅲ)「Aは（Rが）Bだ」に分けた場合，韓国語はタイプ(Ⅱ)はなく，タイプ(Ⅲ)も「R」の制約により日本語ほど生産性が高くなかった．これまで英語など日本語以外の言語にもウナギ文があるという指摘がしばしばあったが，その言語がウナギ文の一部のタイプだけを有するといった可能性も十分にある[10]．なお，「だ」や「ita」の働きの違いにも注目すべきである．「ita」は明示的な主語が前提されなければ用いられにくいことから統語的述語を形成する働きが中心であると言うことができるが，「だ」はそうではない場合もあることを観察した．どちらかというと，先行研究ではウナギ文の「だ」を述語化詞と処理しようとする傾向があった．しかし，本節で論じてきた通り，タイプ(Ⅱ)の「だ」までそのように扱うのは妥当ではないと考えられる．これは，「繁辞（コピュラ）論」とも関わる問題であり，「は」との関係をも考慮した上での，より精緻な議論が必要になるだろう．

---

[8] 川本(1976)，堀川(1983)は「Rが／は」の省略を主張し，西山(2003a; 2003b)もウナギ文の論理形式を「Aは，［RはBだ］」と見ることによって結果的に同じ主張になっている．北原(1984)や仁田(1980)は「ぼくが注文するのはウナギだ」のような分裂文構造を想定しており，やはり前提されない部分を「Bだ」の主語として復元していることが分かる．

[9] 小屋(2003)や丹羽(2005)は「R」の分類を試み，普通の名詞文とウナギ文は連続しているとしているが，丹羽(2005)で言うように，同じ名詞文でも自立性・文脈独立性に違いがあることやそれに伴う「R」の多様性を考えると，このようなアプローチ自体は間違いではないと言えよう．

[10] Bolinger(1968)が一般的ではない文の“I am the soup”が言える場面として紹介しているのは，本稿の〔場面Ⅱ〕に当たる．

5. 日韓 SNS における省略現象とその背景（新井保裕）

インターネットが発達して数多くのメディアが誕生した昨今，メディアによってその特徴は様々であり，個別言語だけでなくメディアによっても省略現象が多様化していると考えられる．前節まで話しことば・書きことばテキストに現れる省略を現象別に扱ってきたが，本節ではメディアに焦点を当て，日韓で多く使用される SNS(Social Networking Service)における省略現象の日韓対照を行い，その背景を探る．

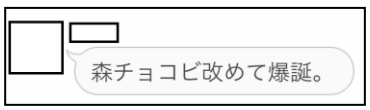
5.1 SNS と調査方法

SNS とは，人と人の繋がりである「社会的ネットワーク」を維持し，また拡大することを目的としたインターネット上のサービスを指す(渡辺他(編)，2011)．最近は Social Media と称されることも多く，メディア研究では多くの関心を集めている(藤代(編)，2015 など)．言語研究の分野でも近年注目され，研究成果が発表されつつある[11]．本節ではこうした SNS のうち，主要なものである Twitter[12]と LINE，KakaoTalk[13]を扱い，省略現象を日韓対照するが，必要に応じて先行研究や他 SNS のデータも使用する[14]．

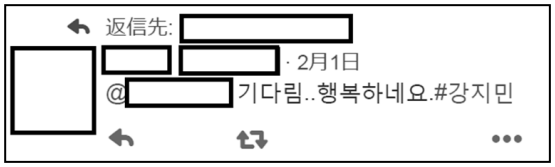
5.2 SNS における名詞止め文とその諸相

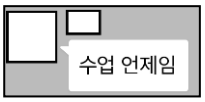
日本語と韓国語の SNS を比較すると，名詞止め文，特に名詞述語文のうちコピュラ「～だ」「～ita」が現れないもの，漢語（漢字語）動詞述語文のうち形式動詞「～する」「～hata」が現れないものが，韓国語より日本語で多く見られることがわかる[15]．

SNS に限らず，日本語の書きことばや話しことばでは名詞志向性が観察されることが金恩愛(2003)や新屋(2014)で指摘される[16]．特に金恩愛(2003)では日韓対照を行い，日本語の名詞止め文が韓国語ではコピュラを伴って動詞構造化した類型を指摘している(日本語：あおいって誰？／韓国語：aoi，nwukwuya?)．また井上・金河守(1998)は日本語と韓国語の名詞述語を対照し，日本語では名詞が持つ潜在的な動詞性が名詞述語文全体に比較的容易に受け継がれる一方で，韓国語ではそうしたことが困難だという原則を引き出している(日本語：まもなく東京駅に到着です．／韓国語：kot tongkyengyek-ey tochak-ha-keyss-supnita. ??kot tongkyengyek-ey tochak-i-pnita.)．こうした名詞述語の動詞性も日本語の名詞志向性に含めることができるだろう．SNS で韓国語よりも日本語の方が名詞述語文が多く見られるのは，こうした日本語の名詞志向性が反映されているためと考えられる．



一方，韓国語では，コピュラや形式動詞を残し，用言語幹に名詞化辞「～m/um」が接続している例が名詞述語文，動詞述語文共に多く見られる(例：kitali-m(待つ)，例：swuep ency-i-m(授業いつだ))[17]．しかしこれらは形式として名詞化語尾が接続しているだけで，意味上は名詞的な意味は含まれていない．特に下例は日本語では「授業いつ∅」と名詞止め文と表現されることが多いと思われるが，韓国語ではコピュラを省かず動詞構造化し，さらに名詞化辞をつけて表現しているのが非常に対照的である．相対的なものではあるが，日本語の名詞志向性と対照的に韓国語の動詞志向性が反映されていると言える．またこうした名詞志向性，動詞志向性と関連するが，日本語は名詞という言語単位だけでも文を表現する一方で，韓国語は動詞という言語単位に名詞化辞という節成分をつけることでより「文らしい」形で文を終結させる傾向があると考えられ，文に求める完全性が日韓両語で異なるという言語構造の差異から捉え直すことができる．





5.3 SNS における「ツイタ構造」とその諸相

日本語の Twitter を観察すると，『「写真または位置情報」＋「ツイタ系表現」(着いた，来た，到着など，目的地に到達したことを表す動詞過去形や名詞)』という「ツイタ構造」が見られることがわかる．この構造は，日本語の話しことばや書きことばはもちろん，Twitter 以外の SNS にはあまり見られず，Twitter に特徴的である．

韓国語でもこのような表現構造が見えるが，その数はかなり少ない．その数少ない例も，「ツイタ系表現」だけ表すの

---

[11] 先行研究は紙幅の都合上，割愛する．

[12] Twitter は 140～280 字以下の短文(Tweet)を投稿及び共有するウェブ情報サービスである．

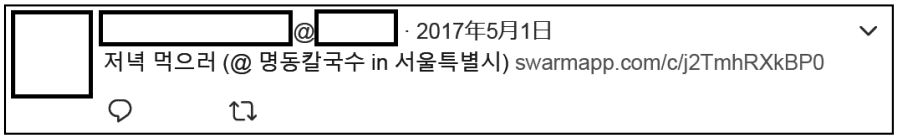
[13] LINE，KakaoTalk はメール(1:1 トークやグループトーク)やビデオ通話，音声通話を無料で使用できるコミュニケーションアプリである．

[14] 本発表では日韓の違いに注目するため，メディアにおける異なりは考察の対象外とする．新井(2018)は Twitter とその他 SNS における日韓省略現象を比較し，言語だけでなくメディアによる違いを指摘し，言語とメディアの関係を探っている．

[15] 日本語ではコピュラが省かれているのか，形式動詞が省かれているのか曖昧な例が多い理由は後述する．

[16] 金恩愛(2003)では「名詞志向構造」，新屋(2014)では「名詞指向性」という術語が用いられているが，本稿では「名詞志向性」で統一する．

ではなく，時間副詞や目的表現が共に現れ，到着した事実や，写真または位置情報が表す到達点だけを強調するわけではない．また近年は「ツイタ系表現」が省かれ，目的を表す表現，つまり「動詞語幹＋le/ule」だけを残す構造が顕在化している[18]．つまり例のように，『「写真または位置情報」＋「動詞語幹＋le/ule」』という表現構造が現れている(例：cenyek mek-ule(夕食食べに))．本研究で収集した日本語Twitterデータではこうした目的表現のみが現れる例は見られず，韓国語Twitterに特徴的な省略現象である．日本語では到着した事実や到達点を強調して表す一方で，韓国語ではそれらだけを強調するのではなく，目的や様相も伴って表現する．一部の言語単位だけに焦点を当てるのではなく，複数の言語単位を組み合わせており，やはり「文らしい」完全性が高いと考えられる[19]．



5.4 SNSにおける文末詞用法とその諸相

ここまでTwitterやLINE, KakaoTalkのデータを通じて省略現象を観察し日韓の違いを言語構造面より明らかにしてきたが，既存研究で指摘される省略現象もそうした捉え方が可能であることを示していく．堀江・金廷珉(2011)では文中形式が文末詞として機能する日韓語例として「～し」「～myense」や「～みたいな」，「～tanun」を挙げ，両言語における「文中形式」から「文末形式」への変換というプロセスの生産性は，SOV言語における語用論的意味変化の開始地点の「文末」の重要性を示していると述べた．韓国語の「～tanun」は次のように，インターネットの普及とともにウェブのブログ，掲示板などを中心に多く使用されている．

(1) 《ビールの写真つきのブログで》saylo nao-n maykcwu nemnem masiss-tanun…
新しく出たビール．とてもおいしいという…（＝堀江・金廷珉(2011) (19)）

(2) … cey-ka cohaha-nun kes-tul-lo-man sikhy-ess-tanun ㅋㅋ
… 私が好きなものばかり頼んだという（笑いの絵文字）（＝堀江・金廷珉(2011) (23)）

堀江・金廷珉(2011)では，これらの例では「～tanun」という形式の次に本来来るべき名詞が後接せず，「～tanun」が単独で文を終えていることが述べられている．しかし日本語の「～みたいな」と対照すると，韓国語の「～tanun」は写真や記号などの視覚情報を伴い共起することが多いのは注目に値する．文中形式から文末詞へと機能変化が起こっている一方では，やはりまだ独立した文末詞としては用いられづらく，文中形式の従属性が「～tanun」には残存していると考えることができるかもしれない．ここでも一部の言語単位が日本語は独立性が高く使用される一方で，韓国語は従属性が高く，より「文らしい」形で実現している傾向が見て取れる．

5.5 小結

本節では日韓SNSにおける省略現象を一部ではあるが取り上げ，その背景を探った．メディアによって省略表現が多様化している一方で，その背景にはやはり日本語の「「磁石」的な構造と韓国語の「チェーン」的な構造という日韓両語の構造的な差異が潜んでいることが確認された．

付記　本発表は科学研究費補助金(16H03413及び17K02734)による研究成果の一部である．

参考文献

新井保裕 (2018)．Twitterを中心としたSNSにおける省略現象の日韓対照研究―言語とメディアの関係を探る―，韓国日本語学会2018年第37回国際学術大会発表論文集 韓国日本語学会 pp. 23-31.

아라이 야스히로 (2018)．생략현상 배후에 있는 한일 언어 구조 차이에 관한 일고찰 - Twitter 의 한 생략현상에 주목하여-，中国韓国(朝鮮)語教育研究学会 2018 年度国際学術大会発表論文集 中国韓国(朝鮮)語教育研究学会 本稿脱稿時掲載頁未定.

---

[17] 母音語幹，l語幹には「～m」，子音語幹には「～um」が接続する．

[18] 母音語幹，l語幹には「～le」，子音語幹には「～ule」が接続する．

[19] 日本語の「ツイタ構造」とそれに対応する韓国語表現については아라이(2018)で詳細な分析を行い，①品詞的観点，②意味的観点，③視点的観点，④描写的観点，⑤表記的観点という日韓言語構造の差が，その背後に潜んでいることを示唆している．

Bolinger, D. (1968). Judgements of grammaticality. *Lingua* 21, 34-40.
藤代裕之(編) (2015). ソーシャルメディア論：つながりを再設計する 青弓社
堀江薫・金廷珉 (2011). 日韓語の文末表現に見る語用論的意味変化―機能主義的類型論の観点から― 高田博行・椎名美智・小野寺典子(編)歴史語用論入門：過去のコミュニケーションを復元する 大修館書店 pp. 193-207
堀江薫・プラシャント・パルデシ (2009). 認知言語学のフロンティア５　言語のタイポロジー―認知類型論のアプローチ―, 研究社.
堀川昇 (1983).「僕はうなぎだ」型の文について―言葉の省略― 實踐國文學, **24**, 57-71.
池上嘉彦 (1981).「する」と「なる」の言語学 大修館書店
井上優・金河守 (1998). 名詞述語の動詞性・形容詞性に関する覚え書―日本語と韓国語の場合 筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書 平成10年度PartⅡ pp. 455-470
柏谷直樹 (1998).「うなぎ文」について 東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集編集委員会(編) 東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集 汲古書院 pp. 1022-1039.
川本茂雄 (1976). 日本語の文法の特色 金田一春彦(編) 日本語講座第1巻日本語の姿 大修館 pp. 55-89.
金智賢 (2016). 日韓対照研究によるハとガと無助詞 ひつじ書房
金恩愛 (2003). 日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbal-oriented structure) 朝鮮学報, **188**, (1)-(83).
北原保雄 (1984). 日本語文法の焦点 教育出版
小屋逸樹 (2003). もう一つのコピュラ文―状態措定文とウナギ文の分析― 慶應義塾大学言語文化研究所紀要, **35**, 43-67
久野暲 (1978). 談話の文法 大修館
西山佑司 (2003a). 日本語名詞句の意味論と語用論―指示的名詞句と非指示的名詞句― ひつじ書房
西山佑司 (2003b). 措定文読みとウナギ文読みの曖昧性をめぐって 慶應義塾大学言語文化研究所紀要, **35**, 195-214.
仁田義雄 (1980). 語彙論的統語論 明治書院
丹羽哲也 (2005). 名詞述語文, 形容動詞述語文, ウナギ文 日本語科学, **18**, 5-24.
生越直樹 (2002). 日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方　―「きれいな花！」タイプの文を中心に―　シリーズ言語科学４　対照言語学　東京大学出版会
Ohori, T. (1995). Remarks on suspended clauses: a contribution to Japanese phraseology, In Shibatani, Masayoshi and Thompson, Sandra A. (eds.) *Essays in Semantics and Pragmatics*. Amsterdam: John Benjamins. 208-218.
奥津敬一郎 (1978).「ボクハウナギダ」の文法―ダとノ― くろしお出版
奥津敬一郎 (1981). ウナギ文はどこから来たか 国語と国文学, **58-53**, 76-88. (奥津(1978)の増補版に所収)
尾上圭介 (1981).「象は鼻が長い」と「ぼくはウナギだ」 言語 **10**(2), 10-15.
尾上圭介 (1982).「ぼくはうなぎだ」の文はなぜ成り立つのか 國語學：解釈と教材の研究, **27-16**, 108-113
新屋映子 (2014). 日本語の名詞指向性の研究 ひつじ書房
坂原茂 (1990). 役割, ガ・ハ, ウナギ文 日本認知科学会(編) 認知科学の発展 Vol. 3 講談社 pp. 26-66.
瀬戸賢一 (1984).「僕はウナギだ」のレトリック―ウナギ文はどこへ行くのか― 大阪経大論集, **159-161**, 1029-1063.
白川博之 (2009).「言いさし文」の研究　くろしお出版.
塚本秀樹 (2012).　形態論と統語論の相互作用　ひつじ書房.
尹盛熙 (2015). 新聞見出しにおける日韓の省略と縮約―形式的違いを中心に―　日本學報, **104**, 33-50.
尹盛熙 (2016). 日本語の翻訳字幕における省略・縮約の実現 - 韓国語との対照分析　社会言語科学, **18**(2), 19-36.
尹盛熙 (2017a). 日本語の述語における機能語の省略について　社会言語科学会第39回大会予稿集, 社会言語科学会.
尹盛熙 (2017b). 일본어와 한국어의 명사연결구성 - 헤드라인에 나타난 '주체'와 '사건'에 대하여- (日本語と韓国語の名詞連結構成 - 見出しにおける「主体」と「事件」について-) 日本學報, **112**, 45-67.
渡辺武達・山口功二・野原仁(編) (2011). メディア用語基本事典 世界思想社

資料

＜泣くな＞　泣くな, はらちゃん　岡田惠和　2013　日本テレビ放送網株式会社　　＜眠れる＞　眠れる森　野沢尚　1999　幻冬舎　　＜拝啓＞　拝啓, 父上　倉本聰　2006　理論社　　＜冬＞　『冬のソナタ』で始める韓国語　～シナリオ対訳集～　安岡明子　2003　キネマ旬報社　　＜オール＞　『オールイン　運命の愛』で始める韓国語　～シナリオ対訳集～　安岡明子　2004　キネマ旬報社　　＜キル＞　킬미 힐미 1　진수완　2016　MBC 씨앤아니

相互行為における指さしの多様性

–会話分析の視点から–

企画責任者：安井永子(名古屋大学)
話題提供者：高梨克也(京都大学)，遠藤智子(成蹊大学)，高田明(京都大学)，杉浦秀行(摂南大学)，安井永子(名古屋大学)

1. はじめに

本ワークショップは，人間が日常においてもっとも頻繁に用いるジェスチャーの一つである指さしに焦点を当てるものである．指さしは，特定の方向や物体を指示し，それに受け手の注意を向けさせる方法の一つであり，人間のコミュニケーションにおける基本的な資源の一つであると考えられている（Kita, 2003）．そのため，指さしはこれまで様々な分野において注目されてきた．本ワークショップは，その中でも特に，会話分析を用いて相互行為における指さしについて検討した研究を取り扱う．

これまで，会話分析の視点では，指さしによる指示の達成が，話し手と受け手の調整を通した複雑な過程を要するものであることを示してきた．まず，指示の達成には受け手の注意を指示対象へと正確に導き，それを指示することによって話し手が何をしようとしているのかを受け手に正確に理解させる必要がある．そのため，話し手は受け手に合わせて発話と指さしの産出タイミングを微細に調整している(Goodwin, 2000, 2003ab, 2007; Hindmarsh & Heath, 2000; Mondada, 2014ab)．また，指さしが何を指示するのかはその手の形だけで明らかになるものではなく，それに伴う発話，近接して産出される他の身体動作，それが向けられた周囲の環境，進行中の活動，行為の連鎖構造，受け手の振る舞い等の中で捉えられることで初めて理解可能となるものである（Goodwin, 2000, 2003ab, 2007; Mondada, 2014ab)．

その他にも，会話分析を用いた研究は，指さしが指示以外の行為を達成することがあることも示しており，例えば特定の活動と環境において，指さしがターンの取得を前もって示す手段として用いることができることなどが論じられている(Mondada, 2007)．指さしの相互行為上の働きは，指さしそのものに内在するのではなく，参与者がいる環境，従事する活動，会話における行為の連鎖などを通じ，相互行為の中で形成されるのである．

上記の通り，多くの研究が相互行為における指さしについて記述してきたものの，指さしそのものに焦点を当てた研究はまだ少ない．そのため，指さしの産出が，特定の活動の中でどのように指示行為を達成するか，また，指さしが指示のみを主な行為として産出されないケースにおいて，それが進行中の相互行為において何を達成することができるかについては，まだ十分に解明されたとは言えない（Mondada, 2014b)．そこで，本ワークショップは，会話分析の手法を用いて，指さしが話し手と受け手の注意や振る舞いの調整にどう寄与し，その場の相互行為をどう形成するかについて，更に理解を深めることを目的とする．

以下，4 つの話題提供を通し，日常会話だけでなく，特殊な活動や子どもを含む会話のビデオデータを用い，周囲の環境や，参与者が従事している活動，参与の枠組み等によって，指さしの達成における話し手と受け手の注意の調整の仕方がどのように異なり，指さしが相互行為上で達成する行為がどのように異なってくるかについて議論する．

2. ワークショップでの発言に伴うポインティングに見られる複合的参与枠組み（高梨克也）

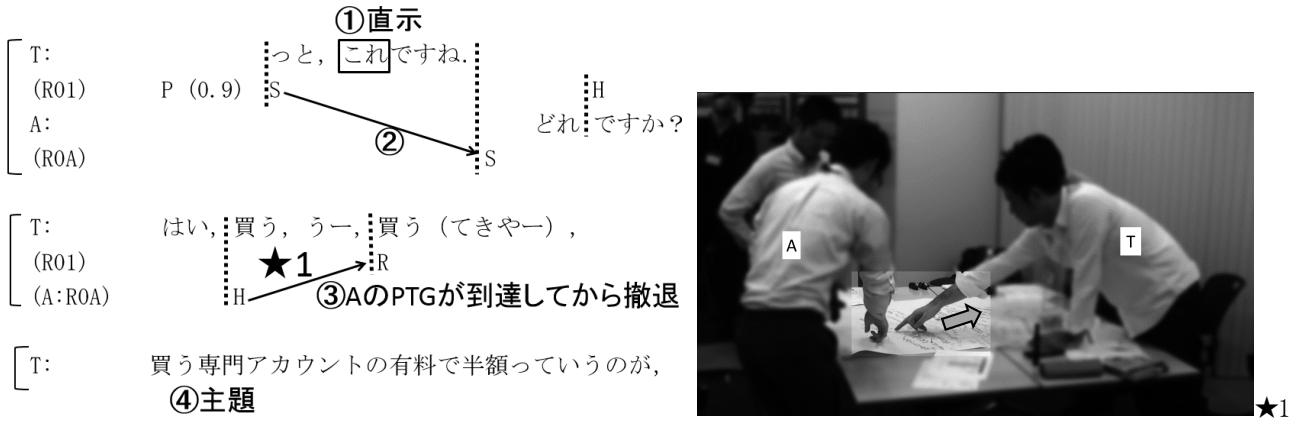
この話題提供では，模造紙を使った発散型ワークショップにおける発言に伴うポインティング（以下 PTG）を分析することによって，PTG が対象位置へと聞き手の視覚的注意を向けさせるだけでなく，記録係となっている他の参与者に対して発言内容を記録することを「指令」するものとなっていること，こうした PTG を含む発言の全体が記録係への「指令」と検討中のビジネスプランの応募者に対する「評価」という複合的な参与枠組みに居した多重の行為を遂行するものとなっていることを論じる．

分析対象は，スカイライトコンサルティング株式会社主催の起業コンテスト「起業チャレンジ」の一環として応募チームのメンバーで行われた「アイディア・ワークショップ」である．グループが取り組んでいるのは「6 つの帽子」という創造的思考法を元にしたワークであり，参与者は応募者 T，他の応募チームのメンバーC と D，スカイライト社社員 A の 4

名である．各参与者はグループ内の 1 人の「応募者」が作成中のビジネスプランについての意見や評価を述べていくが，発言は，赤：主観的感覚，黒：否定的評価（リスク）などの 6 つの異なる観点（＝帽子）から，観点ごとに時間を区切って行われる．卓上には A0 サイズの模造紙とカラーマーカーが用意されており，ほぼすべての発言が模造紙上にマーカーで色分けして記録されていく．ただし，ワークの開始時にすべての発言を記入するよう明示的に教示されていたわけではなく，「記録係」も各参与者が自発的に担うことにより，かなり頻繁に交替している．なお，以下の事例では，P（準備），S（ストローク），H（保持），R（撤退）は各ジェスチャー・フェーズ（McNeill, 1992）の開始点，/（議論に必要な箇所のみ明記）は当該フェーズの完了点，mk はマーカーの動きをそれぞれ表す．

このワークにおいては，各発言者の発言は，既に模造紙に書かれているコメントを主題として取り上げ，この主題について，各帽子の色の観点に沿った評価やアイディアなどを題述部として付加していくという情報構造（Lambrecht, 1994）を持った発話となるのが典型的である．その際，それぞれの主題は既に模造紙上に書かれていることから，これが言語的な指示表現と同時に PTG されることが非常に多くなる．次の事例 1 では，T が直示表現「これ」（①）を発しながら，やや遠方に書かれていたコメントを右手で PTG（R01）すると，赤ペンを持って「記録役」となっていた A が「どれですか」という確認発話をしながら右手を伸ばし始める（②）．この間も T の PTG は撤退せずに保持されており（R01_H），これが撤退（R01_R）を始めるのは，T が PTG していた箇所を A が自分でも右手で PTG（R0A_H）した直後である（③，★1）．T は「買う専門の」の冒頭を言いよどみながら撤退を開始し，A は当該箇所の横にマーカーで記入を開始する．

［事例 1］

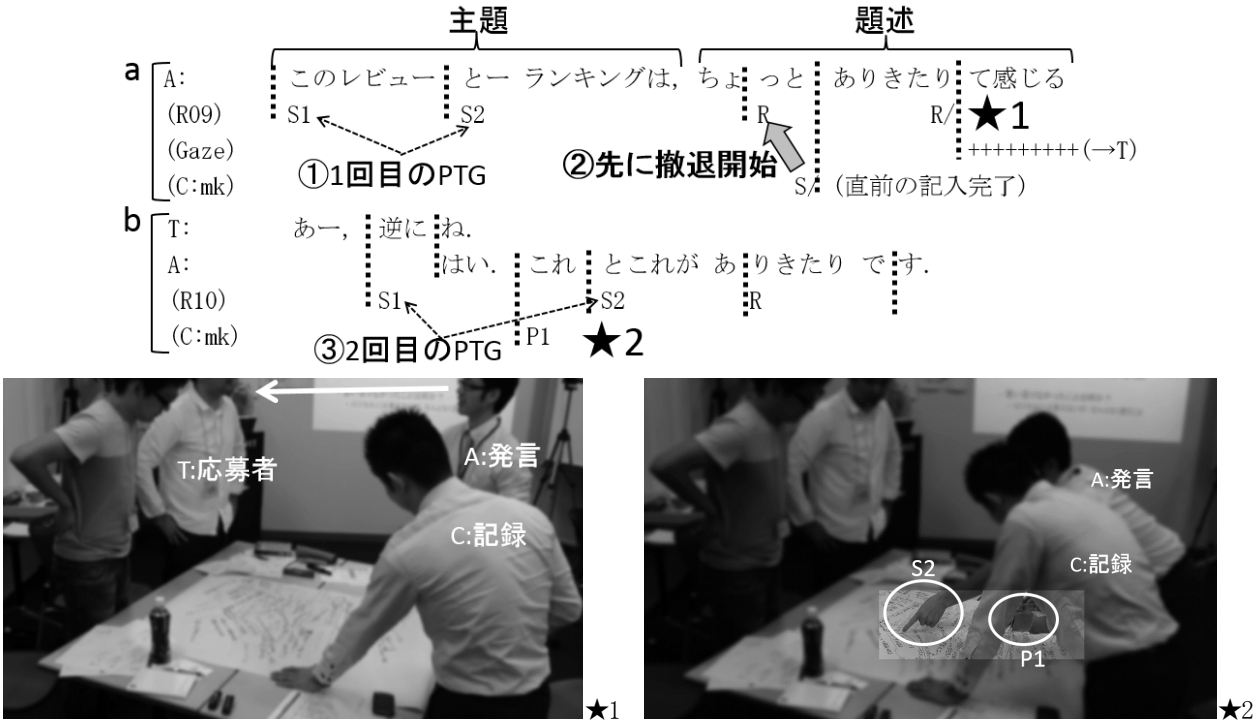


このように，話し手による PTG は単に他の参与者の視覚的注意を模造紙上の PTG された箇所に向ける directing（Clark, 2005）だけのものではない．この発言に含まれるコメント内容もまた，すぐさま模造紙上の PTG された箇所の付近に記録されることが志向されているためである．そのため，主題＋PTG は，記録係に対し，題述部で表現されるコメント内容を当該位置に記録するよう「指令 directive」（Streeck, 2017）するものともなる．このように，PTG の開始は参与者（記録係も含む）に対して，当該発話が「指令」であることも投射 project する．

しかし，他方では，題述部の内容は検討されているビジネスプランの「応募者」に対してプランに関する意見を表明するものとなる．そのため，上記の指令とは異なり，この評価の受け手となるべきなのは「記録係」ではなく「応募者」である．次の事例 2a では，A が「このレビューとランキングは」と言いながら，それぞれの記録箇所を左手で順に PTG していくが（R09, ①），この時点では記録係の C はまだ直前のコメントの記入を続けている．しかし，題述「ありきたりって感じる」の時点では A の PTG は既にほぼ撤退を完了しており（②），A の視線はこの発話の末尾の部分で応募者 T に向けられる（gaze, ★1）．つまり，上記の 2 種類の受け手のうち，この事例では応募者への評価が先に行われたといえる．

応募者に向けた評価の方が「先」であると記述できるのは，後続部分が b のように展開しているためである．ここで A は先ほど「レビューとランキング」という名詞句を用いて表現していた内容を今度は「これとこれ」という直示表現を用いた言い方に変更しており，それぞれの「これ」に共起するように PTG を行っている（R10_S1 と S2, ★2）．同時に，当初「は」であった主題のマーカーが「が」に変更されていることから，今度は「ありきたり」の方が旧情報，「これとこれ」の方が焦点というように情報構造が反転していることが分かる．さらに，WS の発言に特徴的な「感じる」という非丁寧体での言い切りも「ありきたりです」という丁寧体に変更されており，受け手やこの受け手に向けられた言語行為の種類が変更されていることも分かる．つまり，この言い直し部分は，記入が追いついていなかった記録係 C に向けられた記入の指令になっているのである．

［事例2］



このように，このタスクでの各発言には，行為a：記録係に対する記入の「指令 directive」（主題表現＋PTG による）と行為b：応募者に対するビジネスプランへの「評価 assessment」（題述の中で表現），というように，参与役割の異なる少なくとも2種類の受け手に向けられた行為が多重的に遂行されているという特徴がある．

3. 子ども養育者相互行為における活動の中の指さし (遠藤智子・高田明)

子どもは言葉でコミュニケーションが取れるようになるよりも前に指さしを行うことがよく知られており，指さし行動は言語能力の先駆的現れであるという議論も多くなされている（Vygotsky, 1978; Bates et al., 1979）．近年の発達心理学では，子どもの指さし行動には他者の存在やその心的状況に対する配慮が見られることや（Lizkowski et al. 2007），乳児による指さしが様々な文化で普遍的に見られることが示されている（Lizkowski et al. 2012）．ただしこの種の子どもの指さしに関する研究の多くは実験という形でなされており，子どもが実際の生活の中でどのように指さしをするのかについてはまだ明らかではない．一方，発達研究には古くから研究者によるエピソードの形での指さし行動の記録があり，大変示唆に富むものである（麻生 1987; やまだ 1987）が，これらの研究は研究者自身の記憶やメモに頼る部分がほとんどであり，実際にどのようなタイミングで指さしがなされたのか，検証可能な形のデータを提供するには至っておらず，やりとりの詳細を知ることはできない．

一般的に指さしは共同注意の達成を志向するものとして考えられるが，実は，指さし行動を始めたばかりの子どもは，周囲の人間の状態に配慮せず，指さしが共同注意を達成しない場合も少なくない．本発表は，家庭内の相互行為において，子どもによる指さしが活動の中でどのように産出され，周囲の養育者が指差しに対しどのように反応しているのかを分析することにより，指差しによる共同注意の達成がどのようにして可能になるのかを論じる．データは関西地方の家庭に調査者が定期的に赴きビデオ撮影したのち書き起こしをしたものである（詳細は高田他 2016 参照）．

次の例は，年長の子どもS（4歳2ヶ月）と年少の子どもB（14ヶ月），母親Mが食卓でおやつを食べている場面である．それまで食卓に突っ伏していたSに対してMが働きかけると，Sは起き上がり，お茶を飲んでおせんべいを食べる．おせんべいを食べる音に気を引かれたのか，BはSに向けて指さしをし，「う」と発声する．

例（1）

08 M: *もらうよ
M 身体 *S の前のコップを手に取る
09 S: ↑え%えっ*
S 身体 %起き上がる
M 身体 *コップを元の位置に戻す
10 (4.0)
S 身体 コップを取りお茶を飲む
11 (2.0)
S 身体 コップを置き大きな音をたてながらおせんべいを食べる
12 +(1.0)
B 身体 +S に向けて ptg $ #図１
M 視線 $B に視線-->
13 B: う.‡
B 視線 ‡M に視線-->
14 *(1.0)
M 身体 *二度うなずく
15 M: 食べてはるなあ.

図１

B が S に向けて指さしをすると M は B を向く（l.12）．その直後に B は「う」と発声し，M に視線を向ける（l.13）．M は二度うなずき，B に向いたまま「食べてはるなあ」と言う（l.14, l.15）．この M のうなずきと発話は，産出のタイミングと M の視線の向きを考慮すると，先行する B の非言語的・言語的行動に対する反応として理解するのが自然であろう．うなずきは承認，「食べてはるなあ」という発話は S の状況に関する記述と同意である．このような第二成分が M から産出されることで，遡及的に B の指さしと発声は眼前の S に関する M との注意共有を志向するものとして特徴づけられる．指さしと発声が第一成分として働くためには，第二成分を産出して反応する他者の存在が不可欠なのである．

子どもによる指さしは常に養育者によって反応されるわけではない．養育者が子どもをよく見ている場合でも，その場で行われている活動に合わず，連鎖において適切な位置でない場合には，指さしが共同注意の達成を志向するものとしての反応を得られないことがある．次の例は，食事中の子どもがおかずのかぼちゃを床に捨てたことを母親が咎めている場面である．母親 M は子どもに床のかぼちゃを見るよう声をかけるが子ども B（18 ヶ月）は従わない．そこで M はまず B の腕をつかみ，顔を触り，首の向きを変えようとするがそれでも B は床を見ようとしないため，最終的に M は B の座っているチェアを動かし，強制的に体の向きを変え，床に落ちたかぼちゃへと B の視線を向けさせる．

例（2）

38 M *食べ物は $大切にして?
M 身体 *かぼちゃを指さす
M 視線 $B に視線-->
39 ‡(1.0)
B 視線 ‡かぼちゃを見る-->
40 M: $これほら． $食べ物こんなふうにしたらだめよ::?
M 視線 $かぼちゃ-- $B に視線---------->
41 (0.5)
42 B: ん．+ (0.5)
B 身体 +かぼちゃに ptg
B 視線 かぼちゃ
43 M: $食べ物は大切にするん+でしょう？
M 視線 $B に視線---------->
B 身体 +指さしがゆるむ
44 (0.5)
45 B: + ん． #図２ ‡ (0.2)
B 身体 +かぼちゃに ptg ------>
B 視線 ‡かぼちゃ ---- ‡ M に視線
46 M: *ねえ． + (1.0) *わかる？
M 身体 *うなずく
B 身体 + 前を向く----->
47 +(1.0)
B 身体 +手を舐める
48 M: しょうた，わかる？

図２

M がかぼちゃに指さしをし，「食べ物は大切にして？」「これほら．食べ物こんなふうにしたらだめよ？」と言うと，0.5 秒の間の後，B は「ん」と言いかぼちゃに指さしをする（l.42）．その後 M が「食べ物は大切にするんでしょう？」と言う間に B の人差し指はぴんと伸びた指さしの状態から一度力が抜けるのだが（l.43），B は再度「ん」という発声とともにかぼちゃに向けて指さしをする．上で見た例と異なり，この例で M は B の指さしに対して承認や同意のような反応を返していない．M は B に対して食べ物を粗末にしてはいけないという規範を教えようとしており，幾度も表現を変えながら B からの反応を追求している（l.38, 40, 43, 46, 48）．この規範教授の活動において，床に投げ落とされたかぼちゃに対する B との注意の共有は M 自身が志向しているものである一方，注意を共有することそれ自体が活動の目的ではない．さらに，B が指さしを行ったのはどれも M による B への問いかけという第一成分の後であり，問いかけ・叱責に対して理解を示すような第二成分が期待される位置である．この位置で B が行った指さしに対して上の例（1）の場合のように M が承認や同意を返すことは，進行中の活動を中止させてしまう．活動の進行の妨げになる場合，養育者は子どもの指さしに対して大きく反応しない．指さしは，参与者たちが従事する活動の中で意味づけされるものである．

4.　協働的記憶探索活動における指さし－指さしの非指示的特性（杉浦秀行）

相互行為において，参与者が過去の体験・経験について語りを展開する中で，特定の対象を想起できないというトラブルが生じ，複数の参与者が協働で記憶探索活動に従事することがある．記憶探索活動の結果，想起した対象を提示する際に一方の参与者がもう一方の参与者に向けて投じる指さしに焦点を当てる．この種の指さしについて，問題となっている対象の具体的「なまえ・候補」を正しく想起したことを身体的に公然化・主張するための資源になっていることを論証していく．

事例（1）では，タカが昔家族とエジプト旅行したときのことを語っている．01－03 行目でイスラム教の礼拝堂の名称が思い出せないことを示す．05 行目で「メー メー メッカ」と 1 つ目の候補を出し，カズに確認するが，06 行目でカズはそれを否定したうえで，「ええと：：」と言いながら，タカの記憶探索活動に協働参加する．その後，11-12 行目でタカは礼拝堂の内部の構造について両手を使いながら「上に全部（0.5）ステンドグランスがあって，上の模様全部バガって」と描写している最中に，13 行目で認識変化詞「あ」（Endo 2018）を発し，手を 1 度叩いた（図 1）直後，想起した名称「モスク」の語頭を発するタイミングで，タカに向けて素早く指さしを投じている（図 2）．

(1)モスク
((A が昔家族とエジプトに行ったときに見たモスクについて語っているところ))
01 タカ: °うわ：：：°　なんだっけ?=
02 タカ: イスラム::- (0.6) イスラムのその:(.) 教会の名前. (0.4)教会って言わ
03 タカ: ない [よね.
04 カズ:　　[ええ- んん?
05 タカ: (メ-メ-)(.)メッカ.= ちがう?
06 カズ: メッカはちがう.=メッカ[じゃない.= ええと::　]
07 タカ:　　[メッカちがう.= >あなん]だっけ?= 名前忘れちった.<
08 タカ: [>まとりあえずこ:(h)<hhhh
09 カズ: [(なんだっけ)
10 カズ: うんそうだね? =なんか.
11 タカ: 上に全部(0.5) ステンドガラスがあって,=上の(.)%+ 模　様　(.)　+
12 タカ: +全部バ$[ガ　:# $* : っ * [て#-
13→カズ:　　$[あ　#　　* [モ#スクモスク. +
タカ G: +両手を挙げて動かす----------+
カズ G　　*手を叩く-*指さし --->16
カズ視線　　$右前方を見る$タカに視線--->15
Fig　　#図 1　　#図 2
14 タカ: +モスクモスク[モス $ク.>そうそうそうそうそう+そう%そうそう<$=
15 カズ:　　[モスク$だね?
タカ G +指さし----------+
タカ視線　　--->%下を見る--->17
カズ視線　　--->$下を見る----------$
16 カズ: $あ#ぶね *:::社会科として:.[hh%hh$hhhhhhh%h$hhhh
17 タカ:　　[hh%hh$hhhhhhh%h$hhhh
カズ G　--->*
カズ視線 $右前方を見る----------$タカに視線-$下を見る--->>
タカ視線　　--->%カズに視線--%左前方を見る--->>
Fig　#図 3

トランスクリプト内の人名の横にある上付き文字 G はジェスチャー，+ +はタカのジェスチャーの区切り，* *はカズのジェスチャーの区切り，% %はタカの視線の区切り，$ $はカズの視線の区切りを表している．

タカ　　カズ

図 1

図 2

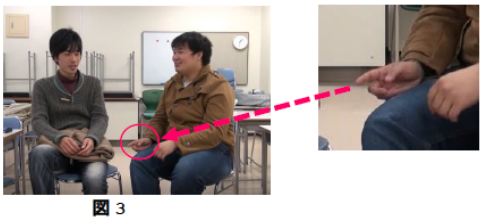


図 3

カズの指さしで注目されたいのは，典型的な直示的ジェスチャーの指さしと異なり，指さしの指示対象(タカ)と 発語内容(「モスクモスク」)との間に齟齬がある点である．この齟齬は，カズの指さしが指示以外の何らかの特性を持っていることを意味する．本研究では，この種の指さしは，併用される他の相互行為的資源と呼応することで，問題となっている対象を正しく想起したことを身体的に公然化・主張するための資源として利用されていると主張したい．

13 行目で指さしを産出した時のカズのターンの構造を見てみると，まず，認識変化詞「あ」を発し，さらに手を一度叩くことで記憶探索状態からの変化をマークしている．また，より重要な点として，想起した語である「モスク」が 2 回繰り返されていること，そして，最初の「モスク」の部分では強いピッチで発語されている．これらによって想起した対象を提示している以上のことをしている．カズが投じた指差しは，これらのターン構成要素と呼応することで，「モスク」という名称が正しい想起であることを身体的に公然化・主張するために利用されているのである．

事例(2)では，最近ディズニーランドに行ったハナとミサが，どういう順序で園内を回ったかについて，マキに報告している．03-04 行目で，タワテラのファストパスを取りに行ったところまで報告をした後，06－07 行目でハナとミサは互いに顔を見合わせながら次の項目が思い出せないことを表明する．続く 10 行目でミサが，そして 11 行目でハナが想起した次の項目を提示しようとするが，2 人ともターンの途中で構築中の TCU を放棄している．その後，事例(1)と同様に，13 行目でハナは，問題となっていた次の項目として「ダッフィーのウエイティング」を提示するのに合わせて指さしを展開している．

(2)ダッフィー
((ハナとミサがディズニーランドに行ったときのことについて，その活動を時系列に振り返りながらマキに語っている))

01 ハナ： そんな並んでらんないとか[言って::,
02 ミサ： [うん.
03 ハナ： タワテラのファストパスを[取りに行っ[て::,
04 ミサ： [取りに行っ[て::,
05 マキ: [うん
06 ハナ： [何してた(ん)？
07 ミサ： [何してた(んだっけ)？
08 マキ： hhh [h h h h h
09 ハナ： [h h h h h
10 ミサ： あ! ポップコーン食べ-
11 ハナ： あ! ポップコーンを-
12 ミサ： 買って%:+ : ,
ハナ視線 %ミサに視線--->14
13→ハナ： +あ!+#(.) +ダ#ッフィ [— : % の ¥:(ウ エイ ティ *ン グした*んだ).
14 ミサ: [>ダッフィ%ー<¥の:ウエイティング *したの<.
ハナG +手を叩く+指さし--->19
ハナ視線 --->%マキに視線--->15
ミサ視線 --->¥マキに視線--->15
マキG *口を開ける *4度頷く->15
Fig #図 4 #図 5
15 %¥(0.8) *
ハナ視線 %ミサに視線--->19
ミサ視線 ¥ハナに視線--->>
マキG --->*
16 マキ： 写真見たわ.
17→ハナ： そう.
18 ミサ： なんだっけ?何味食べたんだっけ?
19→ハナ： ミルク%#ティー.(0.6) +ダ#ッフィーのさ::,
ハナG --->+ 両手で輪を作る --->>
ハナ視線 --->%マキに視線--->>
Fig #図 6 #図 7

+ +はハナのジェスチャーの区切り，* *はマキのジェスチャーの区切り，% %はハナの視線の区切り，¥ ¥はミサの視線の区切りを表している．

ハナ　マキ　ミサ

図 4

図 5

図 6

図 7

この事例でも指さしの指示対象(ミサ)と発語内容(ダッフィーのウェイティング)との間に齟齬が生じており，指さしは指示以外の相互行為的タスクのために利用されていると言える．

事例(1)と同様に，指さしが展開されているときのターンの構造に着目すると，指さしの展開に先駆けて，認識変化詞「あ」を発し，手を一度叩くことで，記憶探索状態からの変化を示している．また，想起した対象の「ダッフィー」の部

分が強いピッチで発語されている．事例(1)のカズの指さしがそうであったように，ハナの指さしもこれらのターン構成要素と呼応することで，提示している項目が正しい想起であることを身体的に公然化・主張していると言える．

ここで今一つ注目されたいのは，指さしを向けられる相手である．事例(2)で，ハナが指さしを向けたのは，まさに協働で記憶探索活動に従事しているミサであり，語りの受け手であるマキではない．なぜ，マキではなく，ミサだったのか．それは言うまでもなく，ハナにとって，ミサはディズニーランドで経験を共有している相手であり，かつ自分が提示した項目が正しいものであるかを評価できる相手だからである．

5. からかいの対象に向けられる指さし（安井永子）

本発表で扱うのは，上記の杉浦発表同様，日常会話において，同じ会話の参与者の一人に向けられる指さしである．特に，先行話者の発話や振る舞いが，それが産出されたすぐ後にからかいの対象となるときに先行話者に向けられる指さしを分析する．先行話者に向けられるそのような指さしは，何を指示し，相互行為上で何を達成しているのだろうか．

まず以下の事例を見てみよう．A へのからかいを産出する C が，A に向けて指さしを産出する．

(1)　[Sakura01 大府弁]((A が 10 行目で言及する「喋り方」というのは，データ収録に関することだと思われる．))

```
1   A: この人らみんな三河のほう= ((C と D を指さして))
2   B: =ね:
3     (0.3)
4   B: °じゃ[ん-%°
5   D:      [し %つれいな=
    A 視          %D に視線-->
6   B: =°へ↑え°@
    D 視    --->@
7     (.)
8   D:  @((鼻をすする))@
    D 視 @~~~~~~~~~~~~~~~@
9   D: @hh
    D 視 @ C に視線 ->
10  A: 喋り方@なんだか@らどんどん方言出したら=
    D 視  --->@~~~~~~~~@ A に視線--->
11  B: =ん@
    D 視-->@~~->
12    (.)@(0.9)
    D 視-->@下に視線->
13  D: ほうげ[んならんのよ
14  A:       [だら:って言ったらいいやん
15  D: hhh
16  C:→い%*+いや%*んっ+#て(h)言(h)った*(h)°い*(h)+[ま(h)?°#+* %
17  D:                                          [@heh @hehe
    C 視    *~~~~~~* A に視線 ----------*~~~~~~~*D に視線 ----------*
    C 身    +..........+ A に指さし------------------+,,,,,,,,,,+
     D 視                                                -->@ ~~~~@ A に視線->
    A 視  ->%~~~~~~% C に視線 ----------------------------------------%
    図                  #図 1                                  #図 12
18  D: h[ehe
19  A:  [ちゃ-俺いいやんってさ元々さ: (.) 使って>なかったのにさ<
20      タツキが使う@じゃ:ん (.) うつったんだって.
    D 視          --->@
21  C: たっちゃん言うっけ=
22  A: =[い- い- あいつめ]っちゃ言うって.
23  D:  [ほんと::       ]
24  C: eh heh
```

図 1

図 2

ここでは，A が D に向けて，「喋り方なんだからどんどん方言出したら」(10 行目)，「だら：って言ったらいいやん」(14 行目) と，愛知県の三河地方出身者である D に，「だら:」と，三河の方言を使って話すよう提案した後，そのA の発話の受け手ではない C が「いいやって(h)言(h)った(h)い(h)ま(h)」(16 行目) と発話し，笑いながら A を指さす(図 1)．発話開始と共に C はまず A に視線を移動させるが，「いま」と発話するときに視線を A から D に移す (図 2)．それに対し，D は顔を上げ，指さしの対象である A を見て笑う (17 行目)．C の指さしは，C の発話の完結と共に消滅する．

C から A に向けられたこの指さしの指示対象は何だろうか．A への指さしは，A が「いいやん」と言った直後において，「いいやんって言ったいま」と，A がたった今「いいやん」と言ったということを C が報告する間に産出されている．よ

って，この指さしは，A 自身を現場指示するだけでなく，その時間的近接性と共起する発話により，A が「いいやん」とたった今言ったこと，つまり「A による直前の行為」を照応的に指示するためにも用いられていると考えられる．

それでは，A と A の直前の行為を指示することによって，何が達成されているのだろうか．C は，指さしを A に向けて発話しながら，発話の途中で A から D へと視線を移動させる．そのため，発話の完結間際では，指さしと視線が，それぞれ A と D の別々の聞き手に向けられている（図 2）．これにより，次の三つのことが達成されている．1 つ目は，A が直前に「いいやんって言った」ことを笑うべきものだったとして D に提示することである．A について，A の目の前で笑うことは，A への「からかい」として認識できる行為であろう．C は，D を見ながら A を指さすことで，からかいの対象としての A の直前の行為を焦点化し，D に対して提示していると考えられる．2 つ目は，参与枠組みの組織化である．A を笑いながら指さし，D に視線を向けることで，「からかい手（=C)」，「からかわれ手（=A)」，「発話の受け手（=D)」というそれぞれの参与役割が可視化されている．3 つ目は，指さしと視線とで，A と D とにそれぞれ異なる志向を同時に向けることである．C は，笑いながら A を指さし，D に視線を向けることで，A の直前の行為を笑うべきものとして D に提示しつつ，D から笑いを引き出そうとしている（Jefferson, 1979）．それにより，指さしの対象 A を笑う（laughing at）ことと，発話の受け手 D と一緒に笑うこと（laughing with）（Jefferson, 1972）との二つの活動の「参加フレーム」（西阪 1992, 2008）を同時に組織していると考えられる．実際，「言った」と C が発した直後，D は顔を上げ，A に視線を向けて笑う．これは，D が C のからかいを理解し，C のスタンスに同調していることも示している（Jefferson, 1979）．

次に，指さしが受け手からの注意を得られないケースを見てみよう．からかいの対象を指さし，それとは別の参与者に視線を向けたとき，その参与者の注意を得られない場合は，指さしやその後の連鎖はどうなるだろうか．次の事例では，指さしの産出者が視線を向ける参与者は，終始下を向いたままで，指さしに注意を向けていない．

(2)　[takoyaki: いかなご]

1　小岸：　続いては
2　坂井：　¥なになに¥ .hhe .hhe [hh
3　林原：　　[小岸くんの故郷.
4　坂井：　[.hh ((椅子に座る))
5　小岸：　[故郷.
6　林原：　[°兵庫県.°
7　　(.)
8　小岸：　ひょうご↓けん
9　林原：　ええ.
10　小岸：　兵庫県といえば:何だろう.
11　　(0.8)
12　林原：　いかなごの:
13　　(1.0)
14　林原：　釘煮でございますね:
15　小岸：　まっ@たく: も- なんか: (0.2)
　坂 視　　@小岸に視線 -->
16　　記憶にも°何にもない[よ.°
17　坂井：→　　[ehehehe な(h)んで(h)
18　小岸：　[思い出にも:
19　坂井: →[@*い(h)ま(h)@*ぜ(h)#ん(h)@ぜ(h)ん(h)@*.hh*　@
　坂 視　@~~~~~~~~~~~~@ 林原に視線　@~~~~~~~~~~@小岸に視線 @
　坂 身　*,,,,,,,,,,,*　小岸にptg ----------*....*
　林 視　--> 下に視線-->
　図　　#図 3
20　坂井：→@+食(h)い+(h)@#つ(h)き(h)@が(h)
　坂 視　@小岸から林原に　@林原から小岸に@小岸に視線->
　小 視　->+~~~~~~~+坂井に視線 --->
　林 視　--> 下に視線-->
　図　　#図 4
21　坂井: →[な(h)かっ(h)た(h)で(h)す(h)よ(h)@ね(h)
22　小岸：　[お+もいで:+にもなんにも+ない +
　坂 視　　--> 小岸に視線-@~~~->
　小 視　--->+~~~~~~~+ 林原に視線　+,,,,,+
　林 視　--> 下に視線-->>

図 3

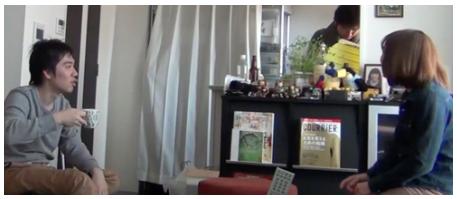


図 4

ここでは初め，林原が台所で食品を皿に盛りながら，その食品が，「小岸くんの故郷」（3 行目），「兵庫県」（6 行目）と，小岸に関係のある，もしくは馴染みのあるものであることを示した上で，その食品名を「いかなごの:釘煮でございますね:」（12，14 行目）と「発表」している．しかしながら，それに対する小岸の反応は，「まったくも-なんか:」「記憶に

も何にもないよ」(15, 16 行目) と，自分に馴染みのあるものでないとするものである．それに対し，それまでの小岸と林原とのやり取りの外にいた坂井が笑い出し，そのまま笑いながら，「なんで」(17 行目) と発し，「いま」と言いながら右手を上げ，「ぜんぜん」(19 行目) で小岸を指さし (図 3)，その直後に指さしを下げる．ここで坂井は最初，台所にいる林原に視線を向けて小岸を指さすものの，林原が下を見て作業しており，自分に注意を向けていないことを確認すると，林原から視線を外し，素早く指さしを引っ込めている．そして，「食い」(25 行目) と言いながら再び林原へと視線を動かすが (図 4)，林原は下を向いたままであるため，すぐに小岸に視線を戻し，小岸に向かって「なかったですよね」(21 行目) と笑いながら確認を求める．つまり，もともと林原を受け手として発話を開始したものの，林原からの視線が得られていないことを確認したことで，坂井はターンの途中で指さしを引っ込めた後，視線を小岸に向け，「ですよね」と，小岸を受け手とした形に発話を途中でデザインし直していると考えられる．言い換えると，坂井は，小岸の発話の直後に小岸を笑いながら指さすことで，小岸の直前の発話を照応的に指示し，それに笑いのきっかけがあったことを示しつつ，指さしの対象以外の参与者 (林原) に視線を向けることで，林原からの笑いを引き出すことに志向していたと考えられる．このことは，指さしの産出者が受け手の注意を確認しながら，指さしの産出と行為とを調整していることのほか，直前の話し手 (小岸) の振る舞いについて笑うという活動に，他者 (林原) の参与を促すことに，指さしの産出者 (坂井) が志向していたことも示している．

以上で見た指さしは，その対象となる参与者の直前の振る舞いを指し示しつつ，発話や視線と組み合わせられることにより，異なる聞き手に異なる志向を示し，異なる参与役割を付与するリソースとして用いられている．直前の発話の後に笑いながら直前の話し手に向けられる指さしは，笑いの対象を示しつつ，それを焦点化することができる．その上で，指さしへの注意を，その受け手から適切に得られることによって，からかいの対象を笑うことと，からかいに他者を誘い込むこととの二つが同時に達成される．

指さしの相互行為上の働きは，指さし単独で達成されるものではない．先行研究でも示されている通り，指さしの指示対象と指さしによって達成されるプラクティスは，共起・近接する発話や身体動作，周囲の環境，他の参与者の振る舞い，進行中の活動との関連の中で捉えられる必要がある (Goodwin, 2000, 2003ab, 2007; Mondada, 2014ab)．それらに加え，本発表では，指さしの，連鎖とターンにおける産出タイミング (時間的近接性) も，指さしの指示対象を理解する上で重要であることも示している．

注

会話データの発話の書き起こしは Jefferson (2004)による表記法，身体動作の書き起こしは Mondada (2007)による表記法を用いている．

参考文献

麻生 武 (1987)．身ぶりからことばへ: 赤ちゃんにみる私たちの起源 新曜社

Bates, E., Benigni, L., Bretherton, I., Camaioni, L., & Volterra, V. (Eds.) (1979). *The emergence of symbols: Cognition and communication in infancy*. New York: Wiley.

Clark, H. H. (2005). Coordinating with each other in a material world. *Discourse Studies*, 7(4-5): 507-525.

Endo, T. (2018). The Japanese change-of-state tokens *a* and *aa* in responsive units. *Journal of Pragmatics*, 123, 151-166.

Goodwin, C. (2000). Action and embodiment within situated human interaction. *Journal of Pragmatics, 32*(10), 1489-1522.

Goodwin, C. (2003a). The body in action. In R. G. Justine Coupland (Ed.), *Discourse, the body and identity* (pp. 19-42). Palgrave Macmillan.

Goodwin, C. (2003b). Pointing as situated practice. In K. Sotaro (Ed.), *Pointing: Where language, culture and cognition meet* (pp. 217-241). MahWah, New Jersey: Lawrence Erlbaum.

Goodwin, C. (2007). Environmentally coupled gestures. In S. D. Duncan, J. Cassel, & E. T. Levy (Eds.), *Gesture and the dynamic dimension of language* (pp. 195-212). Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

Hindmarsh, J. & Heath, C. (2000). Embodied reference: A study of deixis in workplace interaction. *Journal of Pragmatics, 32*(12), 1855-1878.

Jefferson, G. (1972). Side sequences. In D. Sudnow (ed.), *Studies in social interaction*, pp. 294—338. New York: Free Press.

Jefferson, G. (1979). A technique for inviting laughter and its subsequent acceptance/declination. In George

Psathas (Ed.), *Everyday language: Studies in ethnomethodology*, pp. 79--96. New York: Irvington.
Jefferson, G. (2004). Glossary of transcript smbols with an introduction. In Gene H. Lerner (ed.) *Conversation analysis: Studies from the first generation*, pp. 13--31. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
Kita, S. (ed.) (2003). *Pointing: Where language, culture, and cognition meet*. Mahwah: Lawrence Erlbaum.
Lambrecht, K. (1994). *Information structure and sentence form: Topic, focus, and the mental representations of discourse referents*. Cambridge University Press.
Liszkowski, U., Carpenter, M., & Tomasello, M. (2007). Pointing out new news, old news, and absent referents at 12 months of age. *Developmental Science*, **10**(2), F1-F7. doi:0.1111 / j.1467-7687.2006.00552.x.
Liszkowski, U., Brown, P., Callaghan, T., Takada, A., & de Vos, C. (2012). A prelinguistic gestural universal of human communication. *Cognitive Science*, **36**, 698-713.
McNeill, D. (1992). *Hand and Mind: What Gestures Reveal about Thought*. University of Chicago Press.
Mondada, L. (2007). Multimodal resources for turn-taking: Pointing and the emergence of possible next speakers. *Discourse Studies, 9*(2), 194-225.
Mondada, L. (2014a). The local constitution of multimodal resources for social interaction. *Journal of Pragmatics, 65*, 137-156.
Mondada, L. (2014b). Pointing, talk, and the bodies: Reference and joint attention as embodied interactional achievements. In M. Seyfeddinipur & M. Gullberg (Ed.), *From Gesture in conversation to visible action as utterance: Essays in honor of Adam Kendon* (pp. 95-124). John Benjamins.
西阪仰 (1992). 参与フレームの身体的組織化.社会学評論 43(1) : pp. 58--73.
西阪仰 (2008). 分散する身体 : エスノメソドロジー的相互行為分析の展開. 勁草書店.
Streeck, J. (2017). *Self-making Man: A day of action, life, and language*. Cambridge: Cambridge University Press.
高田明・川島理恵・嶋田容子 (編) (2016).子育ての会話分析 : おとなと子どもの「責任」はどう育つか. 昭和堂.
Vygotsky, L. S. (1978). *Mind in society: The development of higher mental processes*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
やまだようこ (1987). ことばの前のことば: ことばが生まれるすじみち１ 新曜社

会話分析をどう学ぶか

企画責任者：平本 毅(京都大学)
話題提供者：高木 智世(筑波大学)　細田 由利(神奈川大学)　森田 笑（シンガポール国立大学)
林 誠（名古屋大学）　増田 将伸（京都産業大学）　城 綾実（滋賀県立大学)
指定討論者：西阪 仰(千葉大学)

1. ワークショップの趣旨と進行

本ワークショップでは，会話分析（Conversation Analysis）の基礎的な考え方や諸概念，実際の分析の仕方をどう学んでいくかを，近年刊行された（もしくは刊行予定の）三冊の本（『会話分析の基礎』『会話分析入門』『会話分析の広がり』）の著者が合同で議論する．当日の進行は以下を予定している．

1)　企画趣旨説明　5 分
2)　『会話分析の基礎』『会話分析入門』『会話分析の広がり』著者から，それぞれの本を使った会話分析の学び方について報告　15×3 分
3)　指定討論者コメント　15 分
4)　コメントカード記入（周囲とのディスカッションあり）　5 分
5)　休憩　10 分（企画者によるコメントの整理)
6)　パネルディスカッション　20 分
7)　参加者（聴衆）を含めた全体討論　50 分

2. 背景

会話分析は社会学，言語学，言語教育などの分野でますます広く使われるようになっているが，その技法の学習に焦点を当てると，独学では習得が難しい一方で，日本国内の教育機関では十分な学習機会が与えられてこなかった．学習の基礎的資源となるテキストについても，欧米で書かれたものを原語で読むのが一般的であった．国内の研究者は小規模なコミュニティを作り，助け合いながら会話分析を学んできた．だが近年，初学者向けの教科書が国内で二冊（『会話分析の基礎』（高木・細田・森田, 2016),『会話分析入門』（串田・平本・林, 2017)）刊行され，また基礎論文の邦訳も進み（『会話分析基本論集』（西阪, 2010)），状況は変わりつつある．さらに，本学会のものも含めた各種セミナーも定期的に開催されるようになった．加えて，近年の論点を含みつつ基礎から応用へ橋渡しを行う論集（『会話分析の広がり』（平本ほか, 近刊)）の刊行が間近であり，基礎から応用まで体系的に学ぶための資源が揃いつつあるといえる．その背景には研究コミュニティの拡大，欧米で学び活躍した会話分析者の帰国，研究成果の蓄積，学習ニーズの増大などがあるだろう．しかしこれらの資源をどう活用していくか，国内の事情に鑑みた会話分析の学習をどう進めていくかは今後の課題である．他方で教育者側の人々も，身近に手本のない中で，これまで互助的に学んできた事柄を人に教えることに困難さと戸惑いを覚えることがある．学習者からのニーズと教育者の経験の双方を踏まえ，整理を行っていく必要があると思われる．

3. ワークショップのねらい

本ワークショップでは以上の点を鑑みて，まずは『会話分析の基礎』『会話分析入門』『会話分析の広がり』の著者を話題提供者とし，会話分析学習ないし教育上の困難および，各々の本を使ったその解消に向けての試みを報告する．これは上記の進行のうち 2）の箇所である．この報告には①会話分析を学ぶ上で（教える上でもよい）困難に感じている（た）こと②それを本でどのように解消しようとしたか③本の内容及び特徴のごく簡単な紹介④会話分析を学ぶ（教える）上でのチップス，要点などの要素が含まれる．この話題提供の後に，指定討論者（西阪）が，海外での自分の経験もふまえてコメントを行う（3)）．なおここから休憩（5)）に入るまでの間に，登壇者以外の参加者の方々に話題提供および指定討論を聞いてのコメントないし質問をコメントカードに記入していただく（4)）．こうしてフロア全体を議論に巻き込む手

を講じた上で，パネルディスカッション（6)）と全体討論（7)）を行う．

以上を通じて，教育者の経験と学習者のニーズの双方を引き出し，そのマッチングを図る．ワークショップの議論を通じて次の諸効果を得ることが期待される．ア）国内事情に鑑みた学習ニーズの掘り起こし，イ）ア）で掘り起こされたニーズに鑑みた効果的な教育（学習）方法の整理，ウ）イ）で導き出された新たな教材の構想，エ）会話分析教育（学習）上のチップスや工夫の共有，オ）『会話分析の基礎』『会話分析入門』『会話分析の広がり』の活用方法の発見．

4. 話題提供

『会話分析の基礎』(4.1)『会話分析入門』(4.2)『会話分析の広がり』(4.3) の著者から，本のねらいと工夫を紹介する．なお『会話分析の基礎』『会話分析入門』は教科書，『会話分析の広がり』は応用的な内容を含んだ概説書である．

4.1 『会話分析の基礎』のねらい　　細田由利・森田笑・高木智世

「会話分析をどう学ぶか」と言っても筆者らもまだまだ勉強が足りないことを痛感し，未だ学び続けているところである．『会話分析の基礎』では筆者３人がそれぞれ言語，あるいは言語教育の研究をする中で会話分析に出会い，訓練を受け，挫折感を味わいながら会話分析を学んだ経験から，重要だと思うこと，最初に知っておきたかったこと，これから会話分析を始めようという方達が同じ轍を踏まないように気をつけてほしいこと，を伝えようとしたつもりだ．本著の特徴とそのねらいを以下にまとめた．

4.1.1.　学生が必要としていること，よくある質問を考慮

とりわけ日本の大学で会話分析の授業を担当している高木・細田は，授業を担当し始めた頃は自身が留学先で受講した会話分析の授業のテキストやノート等をもとに授業資料を作成していたが，分かりやすい日本語による説明と日本語日常会話のデータを提示する重要性を痛感していた．何度も授業ノートを書き換え，自身で収集した日本語データの中からわかりやすい事例を選び出すという作業を延々と続ける中で，日本語で書かれた会話分析のテキストの不在は自ら解決するより他にないという結論に至った．これが，本書が生まれたいきさつである．日本語のテキストがない中で，受講生に会話分析の視点や姿勢を伝えることがいかに難しいかも痛感してきた．たとえば，なぜそれほど細かくデータを書き起こす必要があるのか，どのくらいの事例数が必要なのか，データを収集する時に参加者の男女比や年齢差，親疎関係は考慮しなくてよいのか，会話分析ではどういう「現象」を扱うのか，何を目的としているのか，なぜ仮説をたてないのか，など，しばしば学生に質問される．会話分析の出発点と目指すところがよくわからないまま会話分析の方法で会話を分析しようとすれば，このような疑問が生じるのももっともである．まずは，会話分析がどういう学問で何を明らかにしようとする方法なのかを理解することは，自分の研究の問いに対する答えが会話分析によって導きだせるのか，会話分析の方法論がその問いを問うのに適しているのかを見極める上で非常に大切だ．このことを踏まえ，第１・２章で，会話分析がそもそも社会学から出発しているということ，相互行為の秩序こそ社会制度の基礎となるものであると提唱すること，なにげない会話の中に見いだされる秩序を解明することにより，人間が相互行為を通してどのように自ら社会を秩序立てているかを研究する学問であることを説明した．抽象的な言い回しも含まれ，発話は行為を生み出す資源の一つであり，行為は根源的・本質的に社会的なものであるという見方に馴染みがない（特に）言語学を学ぶ／学んだ読者には，わかりにくい部分かもしれないが，あとに続く部分で実際の事例の記述や分析を読みながら／読んだあとで折に触れて読み返していただければ理解が深まるかと思う．（そうしたことを読者に期待して，一読して理解していただける解説が書けなかったのは一重に筆者らの力不足ゆえである．）

4.1.2.　言語学・言語教育研究と会話分析

言語学あるいは言語教育研究を専門とする読者を主なターゲットとしているのは，筆者ら３人のバックグラウンドがそうであるのと，指導する学生たちもこれらの分野であることからその需要に合わせたということが大きい．また，日本における会話分析研究者や会話分析を学び初めた方達においても，そもそも言語（学）に関心のあった方が会話分析に興味を持つようになったというケースも多いため，そのような方々に役立ててもらうことも意識した．

会話分析という方法は，自然発生的な相互行為場面の録音や録画を用いて研究することにより，人間が言語を用いる現場のリアリティを明るみに出し，「言語」のありのままの姿を浮き彫りにした．実際に録画・録音された自然会話は，言い淀みや，想像したこともないような語順や，「外国語としての日本語」の教科書には触れられていない些細なトークン，発話の独特の産出の仕方など，これまで文法学者や言語教育研究者に無視されてきた興味深い現象にあふれている．文法書ではとうてい説明しきれない様々な言語資源の研究に会話分析の方法は有効である．会話分析の緻密なデータの見方は，言語学の中でも特に「機能言語学」や「語用論」などに大きな影響を与えており，自然会話のデータの豊かさがこれらの領域の研究者たちを会話分析に引きつける．しかし自然会話のデータを使い，会話分析の分析概念を「あてはめている」

だけで，主張そのものはデータによって裏付けされていないという研究もまたよく見られる．それを否定するわけではない．しかし，それだけでは「会話分析」をしていることにはならないし，データを分析するときの会話分析の基本的な構えを身につけなければ，会話分析の分析概念を学ぶ意味もない．このことは筆者たち自身が会話分析を学ぶ過程で直面した問題であり，そして学生を指導しながら気がついたことだ．会話分析の出発点，目指していること，方法論の特徴を理解することは，バックグラウンドが何であれ，会話分析に取り組む際には，非常に重要なことだと思う．会話分析の方法を使うことによる利点は何なのか，本著ではそれを始めに踏まえることの重要さを強調した．

特に２章で説明しているが，会話分析の手法を用いた研究では，データにおいて観察可能なことだけが分析の対象となる．つまり，分析は，すべて，データに現れる相互行為の展開だけがその根拠となる．会話の参加者自身が相手の発話をどう理解し，どう受け止め，それに対してどう対処／反応するかを参加者のふるまいの仔細の中に丹念に追う分析は，分析者の直感に頼る分析ではなく，他の誰もが同じデータを見れば確認できる一貫した分析となるはずである．日本人の直観によって書かれた日本語研究の論文では，日本語母語話者ならば「そう言われれば，そう言えるような気がする」と感じたり，「なんとなくわかる」と共感できる主張もあるだろう．しかし日本語を母語としない読者は，自分たちに日本語の直観がなければ，そういうものだと信じるしかない．会話分析の手法により「会話の当事者たち」が何に志向しているのかを観察可能なことに即して記述することにより，日本語を母語としない読者に対しても，参加者のふるまいが合理的（理にかなったもの）であることを示すことができるし，また，たとえ日本語非母語話者が日本語の会話分析に取り組んだとしても，説得的な分析に到達することは可能である．近年留学生を指導することが増えている筆者たちにとって，このことは強調したい点である．

また，会話分析というものは個々の事例を詳細かつ厳密に分析し記述するため，単なる事例研究のように思われがちである．しかしながら主に第２章で論じているように，実は，会話分析の手法には，研究の信頼性，妥当性，客観性を引き上げる仕組みが組み込まれているということを知ることは，会話分析を用いて自分の研究を進める上で精神的な拠り所になるのではないだろうか．会話分析の視点や姿勢を正確に理解した上で会話分析を実践しているのであれば，自らの分析に対して，なぜ統計を使わないのか，なぜ最初に話者の属性を統制しないのか，どこまで一般化できるのか，といったような隣接領域の研究者からの批判や疑問に対しても説得的・建設的に反論できるだろう．

4.1.3. 談話分析とのちがいについて

本著でも述べているが，とりわけ，言語学を学んだ者がそのあとに会話分析を学ぶ場合，談話分析との違いがわからずに悩む場合が多い．言語学徒の中でも実際の言語使用に関心がある者は，語用論や社会言語学という言語学の下位領域の学びを進める中で（言語学的）談話分析に出会うケースが多いだろう．筆者（高木）自身について言えば，「談話」という単位で実際の言語使用の中の規則性やパターンを見出すことの面白さに気づいて当時の談話分析の定番テキスト（ほとんどが英語で書かれたもの）を読みふけったが，一方で，分析の妥当性を判断する基準が不明であることに，常にどこかで疑問を感じていた．結局は（分析者ではなく）発話者自身が状況をどう捉え，何をめざしているのかをどれだけ正確に捉えているかが重要ではないかという考えに至ったとき，最終的に会話分析に行き着くことになることは（今振り返れば）必然だったようにも思う．同様の経緯で会話分析に出会った読者は少なくないであろうし，いずれにしても，様々な文脈で会話分析と併置されることの多い「談話分析」との違いを整理しておくことは有用だと考え，この点の議論にかなりの紙幅を割いた．経験上，単に違いをリストアップして「説明」するだけでは既存の解説本のように「わかるようでわからない」に止まる恐れがあると考え，Schiffrin(1994)から「会話分析の分析サンプル」として提示されていながらやはり談話分析的な分析に陥っている点を取り上げ，分析の仕方がどのように会話分析と異なるのかを具体的に示すことを試みた．会話分析がどういう学問かすらも知らない頃に読んだ Schiffrin(1994)を今読み直して「会話分析ならこのように記述し，このように分析すべき」という批評をすることは，自身がどこで迷い戸惑っていたかを振り返る作業でもあった．この作業を読者と共有することが，これから会話分析を学ぼうとしている読者が無用に迷い戸惑うことから解放されることに少しでも役立つことを願っている．

4.1.4. 言語習得研究と会話分析

近年，言語教育に携わる研究者の間で会話分析が注目され始めた結果，第二言語教室におけるやりとりの分析に会話分析の手法を用いたと唱えている研究をよく見かけるようになった．しかしながら，残念なことに会話分析の用語を用いてはいるものの，前述のように「談話分析」との違いがあいまいな研究も多いのが現実である．本著では，言語教室相互行為の分析に会話分析を用いることの可能性を検討し，それを行う際の留意点についても論じた．分析する際に，たとえそれが「第二言語教室」という限定的な場面であったとしても，他の制度的場面を分析する際と同じように，それが教室場面であるという外的背景を用いて参加者の行為に関して憶測や推測をしないことが最も大切なことである．つまり分析者は，「教師」「学習者」といった外的背景によるアイデンティティにとらわれずに参加者自身がそれぞれの瞬間にどのような規範に志向してやりとりを行っているのかに注目するべきである．また，会話分析は学習という活動として捉えられる場面における学習者の長期間および短期間にわたる熟達の過程を，参加者間で協働的に構築される相互行為の詳細な分析を通して記述し観察可能にすることによって言語習得研究に大きな貢献をできることを強調した．

4.1.5. 「会話分析をする」ということ

本著では会話分析を基礎から学びたい方々を対象に執筆したため，会話分析研究の進め方と基本的な分析概念について詳しく解説し，本著に書かれていることを手掛かりに，独学でも教室でも，「会話分析を始める」ことができるような組み立てにした．第 2 章で述べたように，まずは自分でデータを集めることから始めるのが望ましい．（データ収集の際の注意点について説明したところでは，なぜインタビューデータやロールプレイのデータを避けるべきかについて述べた．）何故ならば，自分で収集したデータならば，丁寧にトランスクライブして丁寧に観察しようというインセンティブが持続するし，会話分析ではともかくその姿勢が最も重要だからである．ただ，自分のデータを実際に分析する前に，比較的わかりやすいデータを用いて分析の練習を行うのは有益だろう．そこで，本著では，各章の最後に筆者 3 名の所有するデータから適切なものを選んで練習問題（課題）を付した．会話分析ではトランスクリプトのみに頼らず，元の（音声・録画）データを観察しながら分析することも重要であることから，音声や録画のデータをウェブページからアクセスできるようにし，解答例も入手できるようにした．授業での利用や独学に役立てて欲しい．

ある程度，基本的分析概念を理解し，練習問題にも取り組んだら，自分のデータを繰り返し隅々まで観察してほしい．この段階以降，複数の会話分析研究とともにデータセッションを行うことのメリットは極めて大きい．データセッションでは，録音・録画データを何度も確認しながら発話（ターン）の一つ一つについて，「今ここ」でこの参加者はこのように発話し，ふるまうことによって，どのような行為を達成しているのか，ということを可能な限り正確に記述することに協同的に取り組む．初学者であれば，会話分析経験者がどのようなことに注目し，どのように記述するのかを目の当たりにすることができるし，どのような記述がより説得的かを判断する力も次第に養われる．データセッションの進め方に慣れてきたら，ぜひ，自分のデータをデータセッションで検討してもらう機会を得て欲しい．独りでデータを見るよりもはるかに多くの，興味深い様々なことが見えるということに驚くことだろう．初学者でなくても，データセッションに参加してそのような驚きを覚えることは多い．すべての会話分析研究者にとって，データセッションは分析力を向上させる場として極めて重要なのである．また，会話分析研究者はバックグラウンドが言語学，社会学，人類学など多様であるため，データセッションの参加者のそれぞれが注目する箇所や興味をひかれる箇所が異なることも多い．しかし，会話分析という手法を用いている限り，分析はすべてデータの具体的な箇所につなぎとめられているはずであり，バックグラウンドに関わらず共に分析を積み上げ，精緻化していくことも可能だ．様々な角度からデータを検討して，データの相互行為の世界の隅々に深く分け入っていく醍醐味も味合うことができる．

以上，データセッションの重要性を強調したが，本著を読んで分析概念を理解し，練習問題もやったら，本を置いて，自分のデータを見てほしい．独りでじっくりと．そして，研究仲間と徹底的に．本著を通して伝えたかったのは，結局，このことかもしれない．

4.2 『会話分析入門』のねらい　平本 毅　林 誠

4.2.1. 問題意識

会話分析学習者は通常，すでに言語学や言語教育，人類学や社会学等々の，何らかの人文・社会科学の専門領域の標準的な考え方と手続きを一定身につけた状態で学び始める．学部教育のプログラムに会話分析が組み込まれることはまずなく，大学院レベルでも会話分析を専門に教える研究室は数えるほどしかない以上，現状ではこれは避けられない事態であるように思われる．

一般に，そうした諸領域はデータを説明（explain）するための専門的な理論，モデル，方法論などを備えている．これらはそれ自体貴重な学問的蓄積であり，その習得はたしかに，会話分析の学習を助けることもある．だが他方で，そうした知識や技能を身につけているがゆえに，逆に会話分析の学習が難しくなることもある．というのも，研究法の学習は少なくとも基本的な考え方および分析手続きの習熟からなるけれども，会話分析のそれは非常に独特なものであり，かつ他の分野のものと両立しにくい場合があるからである．つまり，会話分析学習者の多くは，自分たちがそれまで学んできたものとのギャップに直面することになる．

『会話分析入門』の構想段階にあった大きな問題意識は，これであった．筆者陣の周りには会話分析に興味をもって集まる人もいるが，その多くは自分たちが身につけてきた知識や技能とのギャップに戸惑いを覚え，やがて離れていく．もちろん好みや相性，得手不得手の問題は如何ともしがたいが，会話分析のエッセンスにたどり着く前に見切りをつけるケースが多いことは解決すべき課題であった．

上記のギャップは具体的には，データの見方の問題― 会話分析的なデータの見方ができるかどうか― にあらわれる．会話分析初学者はしばしば，自分たちが学んできた理論，モデル，概念等々にあてはめてデータで生じていることを説明しようとする．とりわけ本書がメインターゲットとしている社会学徒の場合，データの裏あるいは奥底に社会構造― 集団間の権力差や抑圧関係，歴史的な非対称性など― の痕跡を見出すように訓練されてきた人も多く，どうしてもデータの分析

に，本当に当該場面の参与者たちが気にかけているかどうかわからない事柄を持ち込んでしまう．加えて会話分析で使われる概念も，他の分野の前提に引きつけて理解されることが多い．たとえば発話の連鎖組織（sequence organization）が，データの中に事実として現れた発話同士の連なりパターンを意味するのではなく，発話同士がどう連なるべきかという規範的次元に属するものであることは，談話のまとまりであるとかその他の発話の組み合わせを学んできた者には簡単に受け入れにくいだろう．『会話分析入門』でも使用した下の断片においては，01 行目で質問が行われ，これに 04 行目で回答が与えられている．しかしこの間に 02 行目の，01 行目の発話の一面を切り取った感想が挟まれている．

【断片１】
01 ミサト： あれが,あの(0.2)お鍋にゴキブリが
　　入ってた人がハシモトくん?=
02 ユウカ： =え(h)え(h)汚な(h)
03 ミサト： .hh［hh
04 トモカ：　　［え,ちゃ(h)う hu
　　((「違う」という意味の近畿地方の方言))

この 02 行目は 01 行目への反応ではあるものの，質問という行為に対して返されるべきものではない．それゆえ聞き手はこの時点でまだ 01 行目で開始された連鎖が完了していないことをみてとることができ，実際にトモカは 04 行目で，02 行目でなされなかった質問への回答を行なっている．

01 行目と 04 行目が，少なくともトランスクリプト上は隣接していないのに隣接ペアという発話連鎖の一種であり，むしろ 01 行目と 02 行目が，トランスクリプト上で隣接していて，かつ 02 行目は 01 行目への反応であるのに隣接ペアではないというのは，しばしば理解されない．隣接ペアを始め会話分析の諸概念が捉えるのは，相互行為の参与者自身が互いの振る舞いを説明可能（accountable）なものにしていく－ たとえば隣接ペアがあることによって相互行為の参与者自身が，02 行目の時点で回答が返されていないことを理解することができ，その理解が次の行為の資源になる－ 側面だが，多くの学習者は参与者にとっての理解可能性を詳細に記述するという方針に親和的ではなく，何らかの概念や手続きをあてはめることで現象を研究者の立場から説明しようとする．後者の見方の問題点は，なぜ，データの中のやりとりが秩序立ったものとして成立するのか，このことには解答を与えない点にある．ある振る舞いが行なっていることをどう理解するかは，研究者の記述の問題である以前に当該場面の参与者にとっての問題であり，このことを正面から受けとめない限りは，上の断片でミサトが 01 行目の質問で始めたこと（連鎖を開始すること）をひとまず終えるのに 02 行目の反応では足りず，04 行目の回答が産出されるような，データの中でのやりとりが秩序立ったものとして成立するメカニズムに迫ることができないのである．

自分がそれまで身につけた知識や技能を駆使してデータで生じていることを説明するのをいったんやめ，参与者自身が互いの振る舞いを説明可能なものにしていく過程を丹念に記述することを通じて，参与者にとっての行為の理解可能性の問題に正面から取り組む．このことの分析上の利点を理解し，同時にこの方針に沿って具体的なデータを見ることができるようになることが，会話分析の習熟には必要だが，多くの学習者はゼロから学ぶのではなくすでに別の素地を身につけた状態で入門するので，学習に困難が伴うことになる．

4.2.2.　『会話分析入門』の特徴

以上のことを意識して，『会話分析入門』では章構成に工夫を凝らした．第一に，旧来の教科書では取り上げられることの少なかった「行為の構成と理解」を，一章（第２章）を割いて説明することにした ．第二に，この「行為の構成と理解」の後に「分析の手順と方法論」（第３章）を置き，会話分析の主要な目的が行為の構成と理解にあることを明確にした上で，具体的に行為をどう記述するかを説明した．第三に，第４章以降は連鎖組織や修復組織といった「相互行為の一般的秩序現象」の詳述に入るが，なかでも最初に連鎖組織を取り上げ，連鎖構造の同定が行為の記述を大きく助けることを論じた．第１章のイントロダクションから第４章まで，前半の４章を一連のまとまりをもったものとして配置することを通じて，会話分析の考え方から分析の実際までを，丁寧に説明することを心がけた．

あらためて『会話分析入門』の章構成を紹介すると以下の通りである．

第１章　会話分析とは何か
第２章　行為の構成と理解
第３章　分析の手順と方法論

第４章　連鎖組織
第５章　順番交替組織
第６章　発話順番の構築
第７章　物語を語る
第８章　修復
第９章　表現の選択
第 10 章　成員カテゴリーの使用
第 11 章　全域的構造組織
第 12 章　相互行為・制度・社会生活―会話分析の研究対象の広がり

上述のように第４章以降は「相互行為の一般的秩序現象」にあたる各種組織とそれにまつわる事柄の概論が提供されている．第５章から第７章までは，発話順番の構築と交替に関連する諸点が取り上げられる．第８章からはさらに多様な相互行為の諸組織や概念が説明されるが，この流れの中で施されている工夫の一つは，そうした諸概念が行為の記述というメインテーマとどうかかわるかを示していく，というものである．たとえば物語を語ることを通じて不平や愚痴という行為が遂行される（第７章），他者開始修復が相手に対する不同意の前触れとして使われる（第８章），などである．

本書のもう一つの特徴は，日本国内の学習者のニーズをふまえた工夫を行なっていることである．まず，使用する断片を基本的にすべて日本語会話にした．日本国内で出版されたこれまでの入門・概説論文の類では，英語断片の邦訳が使われる傾向にあった．しかし，ただ考え方や知識を伝えるだけでなく，読者が自分で分析を行うことを想定するなら，データが日本語会話であるに越したことはない．また，データが日本語会話であることと関連して，関連先行研究についても邦文献を積極的に紹介している．これらにより，本場で刊行されたすぐれた入門書・教科書の内容をそのまま伝えるのでなく，日本の学習者向けにローカライズされた内容にすることができた．加えて，実際の音声から確認できるように，可能な限り公開コーパスから断片をとることにした．

さらに，表現の選択（第９章）や成員カテゴリーの使用（第 10 章），全域的構造組織（第 11 章）といった，これまでの教科書であまり言及されてこなかった事項を独立した章として取り扱っていることも本書の特徴の一つである．これらは後半部分の一連の流れをなすが，最後の第 12 章における制度的状況の分析とあわせて，社会学徒にアピールする内容となっている．社会学徒でなくとも，会話分析に興味をもつ人には何らかの制度的（あるいはそれに準ずる）場面のデータを収録したはいいが，その分析の仕方を模索している人が含まれる．第９章からの後半の各章は，このニーズに応える役割も担っている．

4.2.3.　おわりに

『会話分析入門』は「行為の構成と理解」をテーマに掲げた上で，様々な概念や既存研究の知見を紹介しつつその具体的な分析の仕方を提示していく構成になっている．その流れに沿って学習を進めれば，すでに他分野の知識を身につけた人をはじめ多様な学習者のニーズを満たすことのできる内容であることが期待される．

4.3 『会話分析の広がり』のねらい　増田 将伸　城 綾実

4.3.1　刊行に至る背景

『会話分析の広がり』は，社会言語科学会のおかげで刊行できた論集といっても過言ではない．本書を編むきっかけとなったのは，2012 年に開催された第 30 回研究大会ワークショップ「会話分析のスペクトラム―その広がりと可能性―」およびその後の報告論文（平本ら，2014）である．本書の特徴や日本で会話分析を学ぶ上での問題意識を述べる前提として，このワークショップを実施した問題意識や経緯を述べておきたい．

上記ワークショップへの応募当時，企画責任者および話題提供者（『会話分析の広がり』編者陣）は，関西で会話分析を学ぶ駆け出しの研究者であった．編者陣はおおよそ同世代と呼べる仲間であり，いくつかの共通点があった．まず，所属先で会話分析について体系的に学ぶ環境が整っていなかったため，学外にデータセッションや議論の場を求める学徒であったこと．また，いわゆる会話分析の本場である米国や英国の大学院で訓練を受けたのではなく，主に日本で会話分析の訓練を受けていたこと．さらに，若手とはいえ，自分たちの下の世代とも呼べるような若手も育ち始めており，教えてもらうだけではもはやいられないという意識があったこと．このような共通点を有したメンバーに向けて，平本毅が，自分たちも会話分析の学術的・教育的発展に寄与するような仕事をするべきではないかと声をかけたことが，ワークショップの企画の端緒である．

ワークショップは，指定討論者を引き受けてくださった西阪仰氏のご協力もあり，盛会のうちに終わった．このワーク

ショップは，社会言語科学会の会員らとともに，会話分析という研究プログラムが領域横断的な分析方法として広がっている事実と，会話分析自体の「わかりやすさ」と「困難さ」とを確認する機会となった（詳細は平本ら（2014）を参照）．「発話の順番交替組織」，「行為連鎖」，「修復」などをはじめとする，人々が繰り返し用いる手続きの実態を，録音・録画データと精緻に書き起こされたトランスクリプトを頼りに明らかにしていくという分析手順としてのわかりやすさとは裏腹に，実際の相互行為を適切に記述することの難しさ，そして4.2節で述べられた「人文・社会科学の専門領域の標準的な考え方と手続き」との乖離の数々を，いくらか示すことができたはずである．加えて，企画責任者および話題提供者にとっても，自らの研究における立ち位置と諸課題を確認する機会となった．

その後，平本ら（2014）の刊行を契機として，ワークショップの成果に基づく書籍の出版企画が立ち上がった．当時，すでに『会話分析の基礎』と『会話分析入門』の執筆が進んでいることを知っていたメンバーらは，「教科書と研究論文集の間に位置することのできるような，初学者にも手に取りやすいような論集」を編むつもりで執筆の構想を進めた．編者陣の未熟さもあり刊行までにはかなり時間がかかってしまったが，本ワークショップ「会話分析をどう学ぶか」の開催時には，刊行されている予定である．

4.3.2　『会話分析の広がり』の特徴

最初から会話分析の教科書として構想されていた『会話分析の基礎』と『会話分析入門』とは異なり，『会話分析の広がり』は，会話分析が「広がる」ことで複数の学問領域とどのような関係を築いているのか，そして，この先どのような展開をしていくのかという現状と展望について紹介することに重心を置いている．そのため，教科書と比べて基本的概念の紹介，実際に分析する際の注意点などは必ずしも網羅的に述べられていない．したがって，教科書の内容をある程度理解した上で本書を手にとっていただくと，本書への理解はもちろんのこと，教科書の内容についても理解を深めることができるはずである．本書は，会話分析で近年扱われるようになったいくつかの論点や複数の学問領域との関係性について，著者自身の研究成果を交えつつ実際のデータからの例示を頼りに理解を深めることのできる一冊になっており，以下の章で構成されている．

第１章　会話分析の広がり（平本 毅）
第２章　連鎖組織をめぐる理論的動向（増田 将伸）
第３章　会話分析から言語研究への広がり
　　―相互行為言語学の展開（横森 大輔）
第４章　相互行為における身体・物質・環境（城 綾実）
第５章　会話分析とフィールドワーク
　　―やりとりのしくみの解明と社会的世界の解明（戸江 哲理）
第６章　発話デザイン選択と行為の構成
　　―精神科診療における処置決定連鎖の開始（串田 秀也）
第７章　認識的テリトリー
　　―知識・経験の区分と会話の組織（早野 薫）
第８章　会話分析と多言語比較（林 誠）
第９章　会話分析はどこへ向かうのか（西阪 仰）

第1章では，会話分析の広がりを全般的に紹介し，各章で行なわれる詳説への導入がなされている．第2章から第8章までは，各章がひとつずつ専門的なトピックを扱う，第9章では，今後会話分析がどの方向に向かっていくのか，その行き先を見通すための手がかりを得ようとする野心的な内容が展開されている．

本書の構想時には，4.3.1節で触れたように，教科書から研究論文集や個別の研究論文などとの間をつなぐ性質の，概説的で平易な論集を編むつもりでいた．実際には，当初の想定よりはいくぶん専門性の高い論集になったかもしれない．というのも，各章で論じられる現状の課題や著者の研究は，会話分析の最先端とも呼べるものばかりであり，会話分析を専門としている研究者にとっても新しい出会いをもたらしうる内容となっているからである．論文集の性質としては，近年注目の論点を1冊で概観できるという意味で，*The Handbook of Conversation Analysis*（Sidnell & Stivers, 2013）に近いと言えるかもしれない．同書は825ページに及ぶ大著で多様な論点を含んでいるので，『会話分析の広がり』が比肩できるわけではないが，似たようなアプローチで日本語で読める本だというのは，本書を学習に活用する際の利点であろう．

本書は，概念を学ぶのに活用することもできるが，ゼミや読書会で批判的に読んでも，理解がより深められるであろう．

また，論点の概説と分析例があわせて提示されているので，若手研究者などが自分のテーマを論文へと発展させる刺激にもなれば幸いである．加えて，本書では各章の相互参照が積極的になされているために，各章で独立した概論および具体的な分析を確認できるだけでなく，複数の章を読むことで理解を深めることもできる．たとえば，話し手が受け手に対して応答を駆動させる（mobilizing response）しくみ（Stivers & Rossano, 2010）や，評価をめぐる連鎖的組織や行為の構成についての議論など，会話分析の研究対象をひとつ取り上げて，それが各章でどのように紹介され，どのような観点から分析されているかを拾い読みするという学び方も可能である．

4.3.3　会話分析の学習において研究コミュニティが果たす役割

4.3.1 節で述べたが，『会話分析の広がり』は，基本的に日本国内のみで会話分析を学んだ編者陣による成果物である．『会話分析の広がり』編者陣が国内で会話分析の訓練を積むうえでは，串田秀也氏（大阪教育大学）が開講してくださった会話分析の授業，串田氏主催で月例開催されている会話分析研究会，本学会等が主催するセミナー等から計り知れない恩恵を得た．これらの機会は，熟練者から初学者への専門的技能の伝承の場であると同時に，「複数人で同じデータを観察し，分析を共有し，議論する」営み（データセッション）を通じて学徒が切磋琢磨する場でもある．

データセッションは，会話分析において不可欠としばしば言われる．分析技法を訓練する機会として重要なのはもちろんだが，会話分析の特質に根ざした本質的な営みであることに注目したい．会話分析では，分析事例のコレクションからすると例外的に思える少数例も切り捨てず，分析対象の特徴が変則的な形で現れた例でありうるという視点で分析の射程に含め（この姿勢の代表例として Schegloff (1968) がよく知られている），それによって分析対象に対する記述をより適切なものにしていく．このような分析姿勢は，少数例も含めた多様なデータの細部にまで愚直に向き合うことを要するので，文献で目にする完成形の分析のみから身につけるには限界があり，実際に雑然としたデータを，自分の手を動かして分析し，その妥当性を他者と議論する経験を積むことが重要となる．

したがって，研究コミュニティで集まってデータセッションで活発に議論することは，各自が身につける分析技法の質を高め，その技法をコミュニティに共有知として蓄積していくことにつながりうる．このようにコミュニティが活性化することは，会話分析の発展にも寄与するであろう．話題提供者の周りでは，研究会で分析したデータについて参加者間で共同研究が始まったり，研究会参加者が読書会や草稿検討会を新たに立ち上げたりしている事例も見られる．会話分析の教育体制はまだ普及の途上にあり，単独の機関のみで会話分析について体系的に学ぶことが難しいという現在の環境では，このようなコミュニティの活性化が持つ意義は大きい．このような会話分析の研究コミュニティをどう発展させられるのかについても議論したい．

謝辞　本稿の構想および執筆にあたって戸江哲理氏と横森大輔氏から有益なコメントを頂いた．ここに感謝する．

参考文献

平本毅・城綾実・戸江哲理・増田将伸・横森大輔・西阪仰 (2014). 第 30 回研究大会ワークショップ：会話分析のスペクトラム―その広がりと可能性― 社会言語科学, **17**(1), 134-141.

西阪仰訳 (2010.)『会話分析基本論集―順番交替と修復の組織』世界思想社.

Schiffrin, D. (1994). Approaches to Discourse: Blackwell textbooks in linguistics. Blackwell Publishers Ltd, Oxford.

Sidnell, J. & Stivers, T. (Eds.) (2013). The Handbook of Conversation Analysis. Wiley-Blackwell.

Stivers , T. & Rossano, F. (2010). Mobilizing Response. *Research on Language and social interaction* 43(1), 3–31.

招 待 講 演

講演者のプロフィール

定延 利之（さだのぶ としゆき）

【略歴】

1962 年大阪府生まれ。京都大学大学院博士課程修了。博士（文学）。
専門は言語学・コミュニケーション論。
神戸大学教養部講師，国際文化学部講師，助教授，教授，国際文化学研究科教授，人文・人間科学系国際文化学域教授を経て，2017 年から京都大学教授（現職）。
神戸大学名誉教授。

【主要業績】

主な単著
『コミュニケーションへの言語的接近』（ひつじ書房，2016）
『日本語社会 のぞきキャラくり』（三省堂，2011）
『煩悩の文法』（筑摩書房，2008／凡人社，2016（増補版））
『ささやく恋人，りきむレポーター』（岩波書店，2005）
『認知言語論』（大修館書店，2000）
2018 年の編著
『限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究』（ひつじ書房，2018）
『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』（三省堂，2018）
2018 年の論文
・The “My Funny Talk” Corpus and Speaking Style Variation in Japanese. In. David G. Hebert (ed.), *International Perspectives on Translation, Education and Innovation in Japanese and Korean Societies*, pp. 133-147, Springer.
・「枝分かれ」に関する覚え書き，日本語音声コミュニケーション，6，62-82.
・オノマトペと感動詞に見られる「馴化」，小林隆（編）『感性の方言学』45-64，ひつじ書房.

言語行為への言語学的接近

― 権利・きもち・非流ちょう性・面白さをめぐって ―

定延　利之（京都大学）

現代の言語学は「基本は音声言語」という理念を掲げながら，実際には文字言語研究に集中しており，（音声それ自体の研究は別として）音声言語の研究は盛んではありません。いや，最近では盛んと言うべきかもしれませんが，それらの研究は会話分析的・エスノメソドロジー的ではあっても，いわゆる「言語学的」なものではあまりないようです。では，語句の形式・構造・意味にこだわる伝統的な言語学の姿勢で音声言語を眺めても，何も見えてこないのでしょうか？　この講演では，私自身の「言語学的」な日本語音声言語研究をもとに，音声言語の中心をなす言語行為を論じるための 4 つの観点として，「権利」「きもち」「非流ちょう性」「面白さ」を提案してみたいと思います。以下，それぞれの観点を現象例とともに挙げておきます。

1.「権利」　乗り込んだレンタカーがなぜか動かない。車中の人間たちが原因を探るうち，1 人が原因（運転座席の者がアクセルペダルと間違えてブレーキペダルを踏んでいる）を探り当てる。その時，「あ，ブレーキ踏んでる！」と言うことは，原因を発見すれば誰でも（たとえば後部座席の子供でも運転手の足もとを指しながら）できる。だが，「あ，ブレーキ踏んでた！」と言うことはそうではない。それは原則として，運転座席に座っている者の特権的行為である。

2.「きもち」　明日は雨かと訊かれれば，「だ。」「です。」と答えるよりも「だな。」「ですね。」などと答える方がより自然である。また，予想が外れて，なおも虚勢を張る者の発話「だろう。わかってたよ」の「だろう」は，下降調より上昇調の方が自然である。たしかに伝統的な文文法の言うとおり，「だ」「です」「な」「ね」「だろう」のような付属的要素（いわゆる「付属語」）だけでは「文」はできない。だが「発話」は，きもちの現れ次第で（そして「応答発話」のような会話内の位置次第で）できる。

3.「非流ちょう性」　名詞「いっぱい」のアクセント型は平板型なので，「人がいっぱいだ」と言う際の「だ」の音調は高い。だが，非流ちょうなコマギレ口調で「人がだな，いっぱいだな，来てだな，…」と言う際の「だ」の音調は決まって低い。

4.「面白さ」　異国の街を走る観光バスの中で，同乗者に「ときどきレストランがあるね」と言うのは自然。だが，自宅付近の様子を他人に「うちの近所はときどきレストランがありまして…」と教えるのは不自然。時間副詞「ときどき」が空間分布（あちこち）を表せるのは，たとえば探索意識がかき立てられる，それなりに面白い経験の表現時のみ。

以上の提案に多少とも意味があるなら，音声言語に対する会話分析的・エスノメソドロジー的な研究と伝統的な言語研究を結ぶ「発話の文法」が構築・追究可能と考えています。

JASS カフェ～ゆったり気分で研究のよもやま話をしませんか～

JASS カフェは，素朴な質問から学術的議論まで，昼食を取りながら堅苦しくない自由な雰囲気で語り合うことを目的としています．普段はゆっくり話せないような専門領域や研究歴の異なる多様な研究者同士が交流できる場です．出入りも自由．昼食持参でぜひお気軽にお立ち寄りください．大会二日目、日曜日の昼休みに開催します．

今大会の JASS カフェでは，「よもやま話」「JASS 初心者交流」「話題の本の編者・著者を囲んで」といったテーマのテーブルを予定しています．詳細は学会当日に配布するチラシをご覧ください．

JASS カフェのテーブルテーマやゲストの希望がありましたら，会員マイページ内の「ご意見の送付」から提案をお送りください．

（企画委員会）

『社会言語科学』特集論文募集のお知らせ

学会誌編集委員会では，以下の要領で特集「新しい学習・教育が変えていく社会―「社会言語科学」からの貢献」の論文を募集いたします．　特集に投稿された論文は，通常の投稿論文と同じく，査読を経て掲載が決定されます．

なお，特集では最終投稿期限が設定されていますのでご注意ください．　投稿論文は基本的に投稿され次第，査読作業に入ります．　したがって，より早く投稿された論文ほど，査読が早く済み，論文を修正する機会が多くなります．　最終投稿期限は特集論文の投稿を受け付ける最終期限という意味ですので，早く投稿できる方は早めに投稿されることをお勧めします．　刊行時期までに採択とならないときは，特集号以外の号に掲載されることもありますのでご了解ください．

特集論文の最終投稿期限：2019 年 9 月 30 日(月)
掲載号の発行：2020 年 9 月（第 23 巻第 1 号に掲載予定）
特集論文の投稿先：電子投稿システムを通じて投稿してください（本学会 HP の「学会誌」ページ参照）

タイトル：新しい学習・教育が変えていく社会―「社会言語科学」からの貢献

担当エディター：　森本　郁代　（関西学院大学）
井出　里咲子（筑波大学）
宇佐美　洋　（東京大学）
武黒　麻紀子（早稲田大学）

本年、社会言語科学会は設立 20 周年の節目を迎えた。これを機に、「何のために社会言語科学があるのか、何のために研究するのか」を考える機会を提供すべく、社会言語科学における学問的知見を、特に「学習・教育」という文脈で積極的に活用することを目指した論文を募集する。本特集の射程には、本学会との関連も深い言語学習・教育や学校教育の分野だけでなく、これまで学習・教育と結び付けて議論されることの少なかった社会的実践も含まれる。

近年、学習と教育をめぐる状況や捉え方は大きく変わりつつある。たとえば大学を含む学校教育の現場において、これまでの知識重視の講義主体の授業形態から、学生主体の学びを促すアクティブラーニング型の授業が推進されるようになっている。こうしたパラダイム

転換の背景には、変化が激しく、複雑化してきている現代社会において、そこに内在する諸問題を解決し、持続可能な社会を作り上げていくための人材や市民の育成が急務であること、またその上で思考力やコミュニケーション力の育成がこれまでになく求められるようになったことが挙げられるだろう。同時に、このパラダイムシフトは、学習が個人の中だけに閉じたものと捉える個体主義的学習観から、社会生活のさまざまな営みの中で、そのつどの文脈によって引き起こされるとする状況論的学習観へと変わりつつある現状と軌を一にしている。

こうした学習観・教育観の変化に伴い、目標が明確でその達成を意図した学習・教育から、日常的な営みの中で意図せず生じている学習・教育のあり方へと関心も広がってきている。また教育や学習の対象としては、知識や技能のほか、協調性や問題解決への意欲といった「態度」の養成も含められるようになっている。教育や学習を状況やそのつどの文脈に埋め込まれたものとして捉えるという教育・学習観のパラダイムシフトは、研究のフィールドを学校という限定的な場から、より広い社会的場面へと押し広げつつある。こうした考え方に基づく研究は、私たちの教育・学習に対する捉え方を豊かにしてくれるとともに、人材や市民の育成のあり方についても多くの示唆を与えてくれることが期待できる。

本学会誌においては、第 12 巻第 1 号の「言語・コミュニケーションの学習・教育と社会言語科学―人間・文化・社会をキーワードとして」で既に学習と教育をテーマに取り上げている。しかしながら、今回の特集では、研究対象を言語やコミュニケーションの学習・教育にとどまらず、一見学習・教育とは無関係に見える社会的実践を、学習・教育と関連づけて論じるような論文を特に歓迎する。取り上げるトピックや対象とする学習・教育の文脈は、スポーツや音楽活動、職場や地域の市民活動、医療や裁判員制度など、私たちの社会のあらゆる場面に見出すことができるだろう。

学習と教育について問い直すことが、本学会の目指すウェルフェア・リングイスティクスの実践につながることは、多くの学会員に賛同していただけると確信している。「新しい学習・教育が変える社会」という観点の下、さまざまな分野からの論文が集まることにより、社会言語科学がこれまで歩んできた道のりと、これからの方向性について議論するための視座を与える特集号となることを期待している。

学会誌 社会言語科学
(The Japanese Journal of Language in Society)

投稿規定(2015 年 7 月 19 日改訂)

1．投稿内容は未公刊のものに限る．ただし学会での口頭発表ないし予稿集に掲載された原稿，科学研究費補助金などの研究報告書に掲載された原稿，公刊されていない修士論文や博士論文の一部は投稿して差し支えない．なお，機関リポジトリなどウェブ上で公開されているだけの博士論文は未公刊のものとして扱う．
2．他の学術誌に投稿中の原稿と同じ内容で投稿すること（二重投稿）は認めない．
3．原稿の投稿者は社会言語科学会の会員でなければならない．共著の場合は，筆頭著者が会員であればよい．なお，編集委員会が原稿を依頼する場合は，この限りでない．
4．投稿は随時受け付ける．ただし特集の原稿に関しては受付の期限を定める．
5．投稿原稿の執筆は「執筆要項」に従うこととする．提出された原稿は，原則として返却しない．
6．投稿原稿は，編集委員会が審査し，掲載の可否を決定する．
7．掲載される原稿の原稿料は支払わない．
8．掲載原稿の執筆者には，1 編につき抜刷 20 部を無料で贈呈する．
9．掲載原稿の印刷に要する費用は，原則として本学会の負担とする．ただし，特殊な活字，図版の作成等により特別な費用がかかるときには，その費用は投稿者の負担とする．
10．図やイラスト，写真などの掲載に際して著作権・肖像権に関する処理が必要な場合は，執筆者自身が行うこととする．
11．掲載された論文等に関する国内外の著作権は，原則として本学会に帰属する．本学会は掲載原稿を電子化または複製の形態などで公開・配布する権利を有するものとする．
12．掲載原稿の執筆者は，掲載された論文等を機関リポジトリや個人のウェブサイトで公開することができる．ただし，学会誌刊行後 2 年間は公開できないものとする．

執筆要項(2016 年 5 月 1 日改訂)

1．投稿原稿の種類
・投稿原稿の種類は研究論文，展望論文，資料，ショートノートとする．
a．研究論文 —— 独創性のある実証的または理論的な論文
b．展望論文 —— 重要な課題に関する内外諸研究を幅広く検討し，独自の観点から総合的に概観する論文
c．資料 —— 言語資料，実験・調査の結果などの報告で，従来の学説の吟味検討や今後の研究展開に資することを目的とする論考
d．ショートノート —— 萌芽的な問題の指摘，新事実の発見や興味深い観察及び少数事例に関する報告，研究装置や研究方法に関する指摘・提案など
・原稿の種類は著者が投稿時に指定する．ただし編集委員会は判定結果に基づき，審査途中で著者に種類の変更を求めることがある．
・編集委員会は，上記の種類の原稿のほかに，巻頭言，特別寄稿，書評，報告などを会員に依頼することがある．
・依頼原稿も含め，投稿原稿はすべて編集委員会が主体となって査読を行う．

2．投稿原稿の書式・分量
・原稿本文は日本語または英語で書くこととする．表題と要旨とキーワードは日本語と英語の両方とする．
・原稿は縦置き横書きとする．句読点は「．，」とする．
・原稿は，原則として「投稿原稿テンプレート」（日本語用 Word ファイル，英語用 Word ファイル，日本語用 LaTex ファイル）を使い，その説明に従って書く．
・投稿原稿の分量は，研究論文は本文のほか表題，著者名・所属，和文要旨・英文要旨，参考文献，注，表，図等を含め，「投稿原稿テンプレート」の書式で 16 ページ以内とする．展望論文は

同じく 16 ページ以内を，ショートノートは 8 ページ以内とする．その他の原稿については簡潔を旨とし，研究論文の基準を上回らないものとする．和文要旨はいずれも 600 字以内，英文要旨はいずれも 200 語以内とする．

・査読結果によって加筆修正が必要になった場合でも，原稿の分量は上記のとおりとする．そのため，投稿時の原稿の分量は規定より少なめにしておくのが望ましい．

・誌面はモノクロ印刷になるので，提出原稿は図表を含め，すべてモノクロにする．グラフなどはモノクロでも見やすいように工夫すること．どうしてもカラー印刷にする必要があるときは，著者の費用負担によりカラー印刷を認めることがある．

・図表は本文中の適当な個所に入れること．図表中の文字は 8 ポイント以上にする．

・本文のなかで章・節等の記号をつける場合には，章は 1.，2.，……，第 1 章第 1 節は 1.1 のようにし，以下これに準ずる．

・本文中の外国人名等の固有名詞は，原綴りあるいは英語綴りを原則とするが，公式の名称等として著名なものはカタカナでもよい．

・注は，必要最小限にとどめる．入れる場合は論文の末尾に入れる「末尾注」とし，脚注は用いない．

３．参考文献の書式

・本文中での参考文献の引用は，原則として以下のようにする．

安田・海野(1977)によれば……，Spitzberg & Cupach(1984)は，……

～である(安田・海野，1977)．，～という(Spitzberg & Cupach,1984)．，～である(柴田，1978；竹内，1982)．

・参考文献の表記は，原則として以下のようにし，一般的な日本語とアルファベットによるものを原則とする．その配列は，和文文献と欧文文献を分けず，原則としてアルファベット順とする．なお，3 名以上の著者による論文を本文中で引用する場合，執筆者は自らの判断で初回から 2 名以降の著者名を省略できる（例えば「［筆頭著者名］ほか」）．また，参考文献には全著者の姓名を省略せずに記載する(ミドルネームはイニシャルのみ，あるいは省略可)こととする．

①和文の単行本（単著、共著、編著）の場合

柴田武（1978）．社会言語学の課題　三省堂

安田三郎・海野道郎（1977）．社会統計学　改訂 2 版　丸善

橋元良明（編）(2005)．講座社会言語科学 2　メディア　ひつじ書房

②和文の編著書中の論文の場合

竹内郁郎（1982）．受容過程の研究　竹内郁郎・児島和人（編）現代マスコミュニケーション論，pp.44-79.　有斐閣

③和文の逐次刊行物の場合

・「巻」で通しページの場合，または「号」「集」等の上に「巻」がない場合：

芳賀純（1963）．日本人学生の学習した英語名詞の意味構造の比較研究　教育心理学研究，11，33-42.

・「巻」の下に「号」等があり，「号」ごとにページが変わる場合：

渋谷勝己（2000）．徳川学の流れ－方言学から社会言語学へ－　社会言語科学，2 (2)，2-10.

④欧文の単行本（単著、共著、編著）の場合

Norrick, Neal R. (2000). *Conversational narrative: Storytelling in everyday talk*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

Spitzberg, Brian H., & Cupach, William R. (1984). *Interpersonal communication competence*. Beverly Hills, CA: Sage.

Dorian, Nancy C. (Ed.) (1989). *Investigating obsolescence*. Cambridge: Cambridge University Press.

⑤欧文の編著書中の論文の場合

Atlas, Jay D. (2004). Presupposition. In Horn Laurence R., & Ward, Gregory (Eds.), *The handbook of pragmatics*, pp.29-52. Malden, MA: Blackwell.

Hymes, Dell (1972). Models of the interaction of language and social life. In Gumperz, John, & Hymes, Dell (Eds.), *Directions in sociolinguistics*, pp.35-71. New York: Holt, Rinehart & Winston.

⑥欧文の逐次刊行物の場合

・「巻」で通しページの場合，または「号」「集」等の上に「巻」がない場合：

Zajonc, Robert B. (1980). Feeling and thinking: Preferences need no inferences.

American Psychologist, 35, 151-175.

・「巻」の下に「号」等があり，「号」ごとにページが変わる場合：

Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel, & Jefferson, Gail (1974). A simplest systematic for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50 (4), 696-735.

⑦翻訳書

Lave, Jean, & Wenger, Etienne (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Cambridge: Cambridge University Press. (佐伯胖訳 (1993). 状況に埋め込まれた学習　産業図書)

⑧学会などでの発表（予稿集などに掲載されたもの）

山田寛 (2007). 顔面表情認知における情報処理過程　社会言語科学会第 19 回大会発表論文集, 346-349.

⑨インターネット上の資料の引用（かっこ内は資料にアクセスした日）

社会言語科学会 (2004). 原稿募集のお知らせ　社会言語科学会　2004年11月8日 <http://www.jass.ne.jp/ed/gakkaisi.html> (2007年6月20日)

⑩博士論文など

Kita, Sotaro (1993). *Language and thought interface: A study of spontaneous gestures and Japanese mimetics.* Doctoral Dissertation, Department of Psychology and Department of Linguistics, University of Chicago, Chicago, Illinois.

4． 投稿方法

・原稿は，本学会の下記「電子投稿システム」内の新規投稿ページより投稿すること．
(https://www.bunken.org/jass/journal/applicant/top.php)

・投稿完了までの流れは以下のとおりである．

電子投稿システム → 論文情報入力 → 著者情報入力 → 原稿アップロード → 入力確認 → 投稿完了

・投稿を受理すると，編集事務局は自動的に原稿受理日，論文番号などを投稿者に電子メールで通知する（返信は不要）．

・不明な点があれば，下記編集事務局に問い合わせること．

〒169-0075　東京都新宿区高田馬場4-4-19
（株）国際文献社内　『社会言語科学』編集事務局
TEL: 03-5389-6492　　FAX: 03-3368-2830　　E-mail: jass-edit@bunken.co.jp

5． 投稿の際に必要となる物

・投稿者は，原則として「投稿原稿テンプレート」（日本語用 Word ファイル，英語用 Word ファイル，日本語用 LaTex ファイル）に従って投稿原稿を作成すること．なお，本文や注，参考文献，謝辞，付記の書き方などで著者が特定できるような場合，その部分を削除するか伏せ字にして匿名性を確保すること．

・投稿原稿は，PDF ファイルにして新規投稿ページより電子的に投稿すること．なお，電子投稿システム内の PDF コンバート機能を用いて，投稿原稿を PDF 化することができる．なお，個人で PDF ファイルを作成する場合は，ファイルの「プロパティ」から作成者に関連する情報を必ず消去すること．

・電子投稿の際には以下の論文情報が必要になる．投稿原稿から転記すること．
(1) 論文表題（和文・英文），(2) 論文ジャンル(研究論文，展望論文など)，(3) 論文種別（一般／特集）(4) 特集名（特集号の場合のみ），(5) 論文要旨（日本語600字以内，英語200語以内）．

・著者情報入力ページには，氏名（漢字，仮名，英字），所属機関（漢字，英字），会員番号（ID）を入力する．

6． 査読及び刊行スケジュール

・原稿の査読は，担当編集委員及び2名の査読者によって行い，担当編集委員が査読者の評価を取りまとめ，編集委員会に判定結果を報告して承認を受ける．判定結果は，A (そのまま掲載可)，B (修正の上，掲載可)，C (修正の上，再審査)，D (掲載不可)のいずれかとし，原稿受理日から原則として3ヶ月以内に投稿者に電子メールで通知する．

・判定結果に基づき，第3査読者を依頼することがある．その際は，編集委員会からの電子メールにて著者に通知する．

・本誌は年度ごとに2回，8月末と2月末に刊行する．投稿は随時受け付けているが，刊行時期の3ヶ月前までに掲載が決定しない場合は，掲載が次号以降(特集のための投稿原稿についても同様)になるので，留意されたい．

7． 掲載決定後の入稿方法

・掲載が決定した場合は，修正後の投稿原稿に，前記(3) 著者名・所属と(7) 著者名ローマ字・英語の所属名を追加し，投稿原稿において削除または伏せ字にした著者関連情報を明示して，完成原稿を作成する．
・完成原稿は，プリントアウト原稿と電子ファイル原稿の両方の形式を用意する．なお，プリントアウト原稿は上記の編集事務局所在地宛に送り，電子ファイル原稿は編集事務局E-mailアドレスに送信する．
・プリントアウト原稿は，完成原稿と同じ体裁・内容とする．但し，図・表は本文(表題，著者名，和文・英文要旨，キーワードを含む)とは別にプリントアウトし，挿入希望個所をプリントアウト原稿の本文部分に指示する．
・図・表は1枚の用紙に一つだけ書く．また，図と表のそれぞれに一連番号をつけ，さらに題(説明，キャプション)をつける．
・図・表は，プリントアウトをそのまま利用して編集することがあるので，鮮明なものを用意する．刷り上がりの大きさは編集委員会の裁量による．
・電子ファイル原稿は，原則として「投稿原稿テンプレート」（日本語用Wordファイル，英語用Wordファイル，日本語用LaTexファイル）に入力したファイルとする．それに加えて，図・表部分はPDFファイルまたはMicrosoft Wordファイルとして別につける．
・著者校正は原則として二校までとする．校正の際の原稿への加除は認めない．

The Japanese Journal of Language in Society

Submission Guidelines (Revised December 20, 2015)

1. Submissions are limited to unpublished manuscripts. Manuscripts deriving from oral presentations at conferences or which have previously appeared in a conference booklet, papers which have been published as research reports for funding, and unpublished Master theses or parts of Doctoral theses may also be submitted. Doctoral papers published on institutional repositories and other such forms on the Internet are considered as unpublished.
2. Manuscripts of the same content of manuscripts that have been submitted to other journals will not be accepted.
3. Submissions are limited to members of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences. When there is more than one author, one author must be a member of the Association. Exceptions may be made if the editorial committee requests a manuscript.
4. Manuscripts may be submitted at any time. However, deadlines may be set for special issues.
5. Manuscripts should be prepared in accordance with the 'Style Guide.' In general, manuscripts will not be returned to the author.
6. Submissions will be reviewed by the editing committee who will decide whether or not the manuscript will be accepted.
7. Authors will receive no payment for accepted manuscripts.
8. 20 offprints of each paper will be supplied to the author for free.
9. The Association is responsible for publication expenses. If special expenses are required for specialized printing, the author will be responsible for these expenses.
10. The author is responsible for obtaining permission to reproduce any diagrams, illustrations, or photographs for which they do not own the copyright.
11. The Association retains the copyright of accepted papers. The Association retains the right to copy and reproduce accepted papers in both electronic or hard copy form.
12. The author of the manuscript may publish the manuscript on an institutional repository or on his/her own website. However, these may not be published within two years of publication in the Journal.

Style Guide (Revised December 20, 2015)

1. Manuscript types

Manuscripts should be one of the following types:

a. Research Paper: Should be original, verifiable/empirical, and theoretical.
b. Research Overview: Should provide an insightful and comprehensive overview of the subject, of which the author has extensively reviewed the related research.
c. Study of Material: Includes reports on linguistic material, and experiment and survey results. Papers should intensively review relevant theory and aim towards development of the topic.
d. Short Notes: Includes notes on new issues, reports on new findings or observations, case studies, and comments or suggestions related to research materials or methods.

The author should designate the manuscript type at the time of submission. However, while the manuscript is under review, the editorial committee may request the author to change the type of his/her manuscript.

The editorial committee may request members of the association to write manuscripts other than the types outlined above, such as introductory notes, solicited papers, book reviews, or reports.

All manuscripts, including requested manuscripts, will be reviewed by the editorial committee.

2. Submission format

Manuscripts may be submitted in either Japanese or English. The title, the abstract and the keywords must be written in both English and Japanese.

Manuscripts written in Japanese must be written horizontally and from left to right. The symbols "." and "," are to be used for punctuation.

Authors should prepare the manuscript in accordance with the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or La Tex file for Japanese).

The maximum length of the final version of a research paper written within the manuscript template, including the main text, title, author(s) and affiliation(s), Japanese abstract, English abstract, references, notes, tables and figures, is 16 pages. The maximum length of a research overview is also16 pages, while the maximum length of a short note is 8 pages. Other types of manuscripts should be concise, and not exceed the length of a research paper. The Japanese abstract should be no more than 600 characters, while the English abstract should be no more than 200 words.

Should corrections need to be made following peer review, these need to be made within the above maximum manuscript lengths. Authors are advised to allow for this when writing the initial manuscript.

As publication is in black and white, manuscripts, including any illustrations or drawings should be monochrome.

Tables and figures should be inserted within the main text. Letters used in tables and figures must be at least 8 point.

If chapters and sections within the text are to be numbered, use 1., 2., etc. for chapters and 1.1, 1.2, etc. for sections.

Non-Japanese proper nouns, including names, cited within the main text are to be written in their original form or in English. If an official name exists in *katakana*, that name may be used.

Notes should appear as endnotes after the end of the main text.

3. References

References in the text should use the author/date system, e.g.: (Spitzberg & Cupach, 1984), (Shibata, 1978; Takeuchi, 1982). When the author's name appears in the text, use: Spitzberg & Cupach (1984).

When citing a reference with three or more authors in the body, authors may omit the names of the second and later authors as in "(First author's name) et al." However, the full names of all authors must be included in the list of references (middle names may be abbreviated or obmited).

Japanese references should be written in Japanese, while references written in other languages should be written in alphabet. Japanese references and non-Japanese references should be listed together, in alphabetic order, and follow the following guidelines:

(1) Books in Japanese (single author, multiple author, edited book):

- Shibata, Takeshi (1978). *Shakai Gengogaku no Kadai.* Tokyo: Sanseido.
- Yasuda, Saburo, & Umino, Michio (1977). *Shakai Tokeigaku*. 2nd edition. Tokyo: Maruzen.
- Hashimoto, Yoshiaki (Ed.) (2005) *Koza Shakai Gengo Kagaku 2 Media*. Tokyo: Hitsuji Shobo.

(2) Chapters cited in edited books in Japanese:

- Takeuchi, Ikuo (1982). Juyo Katei no Kenkyu. In Takeuchi, Ikuo, & Kojima, Kazuto (Eds.) *Gendai Masukomyunikeshonron*, pp. 44-79. Tokyo: Yuhikaku.

(3) Periodicals in Japanese:

When only the volume or the issue number is given:

- Haga, Jun (1963). Nihonjin Gakusei no Gakushushita Eigo Meishi no Imi Kozo no Hikaku Kenkyu. *Kyoiku Shinrigaku Kenkyu*, 11, 33-42.

When both a volume and an issue number are given:

- Shibuya, Katsumi (2000). Tokugawagaku no Nagare - Hogengaku kara Shakai Gengogaku e -. *Shakai Gengo Kagaku*, 2 (2), 2-10.

(4) Books in European languages (single author, multiple author, edited book):

- Norrick, Neal R. (2000). *Conversational narrative: Storytelling in everyday talk*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- Spitzberg, Brian H., & Cupach, William R. (1984). *Interpersonal communication competence*. Beverly Hills, CA: Sage.
- Dorian, Nancy C. (Ed.) (1984). *Investigating obsolescence*. Cambridge: Cambridge

University Press.

(5) Chapters in edited books in European languages:

- Atlas, Jay D. (2004). Presupposition. In Horn, Laurence R., & Ward, Gregory (Eds.), *The handbook of pragmatics*, pp. 29-52. Malden, MA: Blackwell.
- Winton, Ward M. (1990). Language and emotion. In Giles, Howard, & Robinson, W. Peter (Eds.), *Handbook of language and social psychology*, pp. 33-49. New York: John Wiley & Sons.
- Hymes, Dell (1972). Models of the interaction of language and social life. In Gumperz, John, & Hymes, Dell (Eds.), *Directions in sociolinguistics*, pp. 35-71. New York: Holt, Rinehart & Winston.

(6) Periodicals in European languages:

When the volume or the issue number is given:

- Zajonc, Robert B. (1980). Feeling and thinking: Preferences need no inferences. *American Psychologist*, 35, 151-175.

When both a volume and an issue number are given:

- Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel, & Jefferson, Gail (1974). A simplest systematic for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50 (4), 696-735.

(7) Translated books:

- Lave, Jean, & Wenger, Etienne (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation.* Cambridge: Cambridge University Press. (trans. Saeki, Yutaka (1993). *Jokyo ni Umekomareta Gakusyu*. Tokyo: Sangyotosho)

(8) Conference presentations (conference publications):

- Yamada, Hiroshi (2007). Gammen Hyojo Ninshiki ni Okeru Johoshori Katei. *Shakai Gengo Kagakukai 19 Kai Taikai Happyo Ronbunshu*, pp. 346-349.

(9) Online references (The information within brackets indicates the date of access):

- Shakai Gengo Kagakukai (2004). Genkoboshu no oshirase. Shakai Gengo Kagakukai 2004-nen 11-gatsu 8-nichi. <http://www.jass.ne.jp/ed/gakkaishi.html> (June 20, 2007)

(10) Doctoral dissertations:

- Kita, Sotaro (1993). *Language and thought interface: A study of spontaneous gestures and Japanese mimetics*. Doctoral dissertation, Department of Psychology and Department of Linguistics, University of Chicago, Chicago, Illinois.

4. Sending submissions

Manuscripts should be submitted using the journal's electronic submission system. (https://www.bunken.org/jass/journal/applicant/top.php). Follow the step-by-step instructions given by the system.

Upon receipt of a submission, the author will receive an email notification that the manuscript has been successfully submitted. This will include the date of submission and a manuscript submission number.

For any inquiries regarding the submission of manuscripts, please contact the journal's editorial office <jass-edit@bunken.co.jp>.

5. Submission procedure

Authors should prepare the manuscript in accordance with the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or La Tex file for Japanese). Any reference to the author(s) or the author's affiliation(s) in the main text, notes, references, or acknowledgements should be removed from the manuscript or indicated in a manner that maintains anonymity.

Manuscripts should be submitted in PDF format via the submission page of the web site. Manuscripts can be converted into PDF format by using the PDF conversion function provided on the web page. If the author creates the PDF prior to login, ensure that any information about the author is removed from the file properties before the file is uploaded.

The author will be required to input the following information: (1) the title of the paper in English and Japanese, (2) the manuscript type (research paper, research overview, etc.), (3) the submission type (ordinary issue or special issue), (4) the title of special issue (if applicable), and (5) abstract in English (no more than 200 words) and Japanese (no more than 600 characters).

The author will also be required to provide his/her name (in *kanji*, *kana*, and alphabet), affiliation (in *kanji* and alphabet), and membership ID.

6. Peer review and publication schedule

Submitted manuscripts will be reviewed by three reviewers—a member of the editorial committee ("the editor-in-charge") and two referees requested to review the paper by the editor-in-charge.

The editor-in-charge will summarize the reports from the referees, and propose a final decision to the editorial committee. After the committee's confirmation, the author will be notified by email of the decision within three months of receipt of the manuscript. Notification will be in the form of, A (manuscript accepted), B (manuscript accepted after some corrections), C (manuscript to undergo peer review again after corrections), or D (not accepted).

Depending on the decision, the editor-in-charge may ask a third referee for additional judgment. In that case, the author will also be notified of the process.

The Journal is published biannually, in late August and late February. Submissions may be made at any time, however if publication has not been decided within three months of the publication date, publication will be extended to the following edition. The same applies for special editions.

7. Following acceptance:

After a manuscript has been accepted, the author will be requested to prepare the final manuscript. This manuscript should include the name(s) and affiliation(s) of the author(s) in both Japanese and English, and a revision of any places where names were removed to maintain anonymity.

Both a hard copy and an electronic copy of the final manuscript must be prepared. Please send a hard copy to the postal address of the editorial office (indicated below), and an electronic copy to the email address of the editorial office <jass-edit@bunken.co.jp>.

Postal address: The Editorial Office, the Japanese Journal of Language in Society
c/o Kokusai Bunken-sha
4-4-19 Takadanobaba, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0075 Japan
TEL: 03-5389-6492 FAX: 03-3368-2830

The hard copy of the final manuscript should be the same in form and content as the electronic manuscript. However, tables and figures should be printed out separately from the main text (which includes the title, author(s), Japanese and English abstracts, and keywords). Mark the approximate positioning of tables and figures in the text.

Tables and figures should each be on a separate page. They should be numbered consecutively and titled (a brief explanation or caption).

Clear hard copies of tables and figures need to be supplied as they may be reproduced in publication. The final size of tables and figures will be decided by the editorial committee.

The electronic copy of the manuscript should be a file using the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or La Tex file for Japanese). Tables and figures may be in either Microsoft Word format or PDF format.

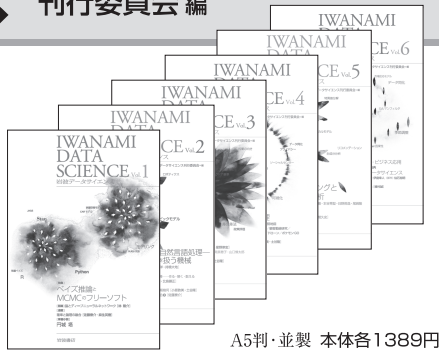
The author may proofread up to the second proof for corrections. No additions or deletions can be made to the manuscript after the final proof stage.

岩波データサイエンス

岩波データサイエンス刊行委員会 編

統計科学・機械学習・データマイニングなど，データ解析の手法がいま大注目．本シリーズは，この分野のプロアマを問わず，読んで必ず役立つ情報を提供．各巻ごとに「特集」を組み，雑誌的な機動力のある編集方針を採用．

- **Vol.1** 特集「ベイズ推論とMCMCのフリーソフト」
- **Vol.2** 特集「統計的自然言語処理—ことばを扱う機械」
- **Vol.3** 特集「因果推論—実世界のデータから因果を読む」
- **Vol.4** 特集「地理空間情報処理」
- **Vol.5** 特集「スパースモデリングと多変量データ解析」
- **Vol.6** 特集「時系列解析—状態空間モデル・因果解析・ビジネス応用」



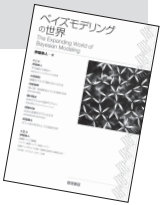
【電子書籍版】価格各1389円（税別）　全6巻セット価格6481円（税別）

A5判・並製　本体各1389円

◆「個体差や不均一性のモデル化」という視点

ベイズモデリングの世界

伊庭幸人 編



［第Ⅰ部］「個体差や不均一性のモデル化」という視点からベイズモデリングの世界を俯瞰する．生態学，医学，地球科学，自然言語処理などを例に各分野の第一人者が平易に解説．

［第Ⅱ部］階層ベイズ講義　［執筆者］伊庭幸人・久保拓弥・丹後俊郎・樋口知之・持橋大地・田邉國士

A5判　本体1600円

調査観察データ解析の実際　全4巻

星野崇宏・岡田謙介 編

1 欠測データの統計科学

—医学と社会科学への応用—

高井啓二・星野崇宏・野間久史

最尤法やベイズ法，EMアルゴリズム，種々の代入法など，欠測データの具体的な処理方法を厳選して紹介．

A5判　本体3200円

［定価は表示価格+税］

岩波書店
〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
http://www.iwanami.co.jp/

博報財団
HAKUHO FOUNDATION

第14回
児童教育実践についての
研究助成

応募受付中

2018年7月2日(月)～10月31日(水)

Webにて応募受付、詳しくは博報財団ホームページをご覧ください

http://www.hakuhofoundation.or.jp

対象となる研究

- 「ことばの教育」に関する研究
- 児童教育実践の質を向上させる研究

応募資格

- 日本の大学・研究機関に所属する研究者
  (教授職は除く)
- 日本の学校・教育委員会に所属する
  教育実践に携わる方

※応募に際しては、所属長あるいは指導教官からの推薦が必要です

助成金額

- 1件につき300万円を限度に助成します

助成期間

- 2019年4月1日～2020年3月31日
  期間終了後、希望する場合は、継続助成の申請をすることができます

【審査委員】(五十音順)

楠見	孝	京都大学大学院　教授
針生	悦子	東京大学大学院　教授
藤森	裕治	信州大学　教授
本郷	一夫	東北大学大学院　教授(審査委員長)
横山	詔一	国立国語研究所　教授

公益財団法人 博報児童教育振興会
〒107-0052 東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館8階 TEL.03-5570-5008 FAX.03-5570-5016

ついに刊行開始！

シリーズ　フィールドインタラクション分析

高梨克也 監修

本シリーズでは、これまで主に会話分析やジェスチャー研究の手法によって言語使用の研究をしてきた第一線の研究者たちがフィールドへと出かけて行き、それぞれのフィールドに特徴的な現象を詳細なビデオ分析を通じて明らかにすると同時に、それぞれのフィールドへの関心やアプローチの経緯なども含めて描くことによって、インタラクション分析をフィールドワークの一環として行うための新たな方法論を確立することを目指す。

第1巻 多職種チームで展示をつくる

日本科学未来館『アナグラのうた』ができるまで

高梨克也編　定価 3,200 円＋税

職能の異なるメンバーからなる多職種チームが「まだ存在していない」展示を制作していく際、メンバーはさまざまな困難に出会い、これをさまざまな工夫によって乗り越えていく。この巻では、多職種チームによるこうした協同問題解決が「懸念」によって駆動されるさまや、提起された問題が「表象」を利用して共有・解決されていくさまを描く。

執筆者：高梨克也、平本毅、小澤淳、島田卓也、田村大

ワークショップをとらえなおす

加藤文俊著　定価 1,800 円＋税

「ワークショップ」は、今や広く知られている考えではあるが、出発点が忘れられがちである。実践事例をふり返りながら、人々のコミュニケーションの過程としてとらえなおす。

コミュニケーションの方言学

小林隆編　定価 5,800 円＋税

方言をことばの違いだけでなく、大きくコミュニケーションのあり方の地域差として、現代語や日本語史の専門家も加わり捉え直していく新しい方言研究を切り拓く書。

感性の方言学

小林隆編　定価 5,200 円＋税

「ジェジェジェ」「ノロラノロラ」など、方言はオノマトペや感動詞など感性のことばの宝庫である。それを生み出す機構や発想の地域差にも着目しながら明らかにしていく論文集。

関西弁事典

真田信治監修　定価 6,200 円＋税

関西弁の全容を示す初の総合的な解説書であり、多彩な項目立てで関西弁の姿を解き明かす本格的な事典。学術的な記述を含みつつ、誰もが手軽に利用できる１冊。

相互行為におけるディスコーダンス

言語人類学からみた不一致・不調和・葛藤

武黒麻紀子編　定価 3,200 円＋税

不一致・不調和・葛藤を意味するメタ概念「ディスコーダンス」を新たな尺度として提案し、言語人類学の視点から協調・調和ではないコミュニケーションのあり方を探る。

メタファー研究　1

鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰編　定価 4,200 円＋税

言語学、心理学、工学など、様々な立場からメタファーを研究するシリーズ創刊。第１巻では、工学、会話分析など各アプローチが概観され、メタファー研究の現在が展望できる。

今どきの日本語

変わることば・変わらないことば

遠藤織枝編　定価 1,600 円＋税

最近問題の「やばい」の実際は？　「すごいおいしい」と「すごくおいしい」はどう違う？　実際に話されたことばから解き明かす、今どきの日本語の事情を楽しく読める１冊。

認知語用論の意味論

真理条件的意味論を越えて

コリン・イテン著　武内道子・黒川尚彦・山田大介訳
定価 3,800 円＋税

認知語用理論としての関連性理論の、真理条件的意味対手続き的意味の区別に基づいた言語的意味論の書。

歴史語用論の方法

高田博行・小野寺典子・青木博史編　定価 3,600 円＋税

近年で大きな広がりを見せている「歴史語用論」の分野において、日本語・英語・ドイツ語・ネワール語の各テーマからその方法論を描き出す。「歴史語用論」の未来を拓く１冊。

日本の外国語教育政策史

江利川春雄著　定価 8,200 円＋税

日本の外国語教育政策を、実践と関連づけながら通史的に考察。政策の策定過程と結果を検証し、改善すべき問題点を提言する。外国語教育政策史年表、主要な政策文書も収録。

■ひつじ書房の刊行案内や特別セールなどのお知らせは「ひつじメール通信」から配信しております。
ご希望の方は toiawase@hituzi.co.jp までメールでご連絡ください。
〒112-0011　東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F　TEL 03-5319-4916　FAX 03-5319-4917
toiawase@hituzi.co.jp　http://www.hituzi.co.jp/

ひつじ書房

社会言語科学会　第 42 回大会発表論文集

2018 年 8 月 24 日発行
編集・発行　社会言語科学会
〒162-0801　東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター
Tel:03-5389-6393 Fax:03-3368-2822
E-mail:jass-post@bunken.co.jp
電子版作製　(株)国際文献社

© 社会言語科学会